山梨県南都留郡忍野村

ささみはら

笹見原遺跡

埋蔵文化財発掘調査報告書

2003

忍野村教育委員会
笹見原遺跡発掘調査団

笹見原遺跡周辺航空写真

＊丸囲み数字は忍野村遺跡登録番号である。

発刊によせて

平成１４年４月笹見原遺跡発掘調査概要が発刊され、報告書の完成が期待されていたところでありますが、この度平成９年度からの調査も本報告書をもって全て終了することになり、長年本事業に関係された各位に対し、心から感謝の意を表するところであります。

今日本は平成不況の中、先が見えない状態が続いているところでありますが、人類が誕生してから多くの歳月を経、幾多の自然界の営みを経験し、今日、この日、この時間、この美しい地球に生きていること、この素晴らしさに感慨無量の面持ちであります。こうした地球の歴史から考えるに、好不況は我々生を頂いた者に課せられた使命的なものであると感じておるところであり、我々の先人の知識・見解・価値など多くを学び、咀嚼することにより、この状況を克服出来るものと確信しておるところであります。

この先人たちが、生活をしていた遺跡発掘調査、今の私達に多くの事を語りかけるところであり、これを後世に継承するのも私達の責務であり、より多くの村民の皆様にこの機会に接して頂きたいと願っているところであります。

最後に、この事業が忍野村の更なる発展の為に活用されることを念じ挨拶と致します。

平成 15 年 4 月

忍野村村長

大　森　一　男

発刊にあたって

笹見原遺跡の集大成となる「調査報告書」が関係者皆様のご尽力によりまして、ここに発刊されますことは、忍野村教育委員会としても大変うれしいことであり、心より謝意を表するところでございます。

私たちの故郷である忍野村が太古の昔「うつ湖」と言われた湖であったことが、考古学上も立証されておりましたが、この度の笹見原遺跡発掘調査により追認されたことは本村の文化財史に新たな１ページを刻んだことになりました。

忍野村の環境は、四方を山々に囲まれた盆地状の地形をしており、その昔は中央が湖であり、湖を囲むように周辺に人里が点在し集落を形成していたことも数多くの遺跡指定地から容易に判断されるところであります。

村の位置は山梨県の東南部で富士北麓地域の東部に在り、北緯35度27分24秒、東経138度51分0秒で標高936m、面積は25.15平方キロメートル、気候は内陸性で寒暖の差が大きく年間平均気温は10度前後であります。

笹見原遺跡は忍野村忍草地区の鳥居地峠南麓に位置し、地形は扇状地の中央部に立地していて、古代人が住む環境としては条件に恵まれていた場所と推定されています。

西暦2003年の今、科学や文明が進歩する速度は目まぐるしく変化していますが、そのことは私たちの日常生活に大きな影響を与えています。言い換えれば、この様な事の礎は先人の築いた歴史的な文化が基本になっているところであり、近い将来に宇宙旅行すら可能なところまで来ており、人類の祖先は偉大な遺産を残してくれたものと思うところです。

文化の歴史は古来からの積み重ねによって成り立っていることを考えれば、笹見原遺跡の調査結果から知り得たことは貴重な財産として、忍野村の文化財史に燦然と輝き村民として郷土の生い立ちを知ることができて幸せに思うところです。

私たちの住む忍野村の古今を比較し、忍野村落を拓き、その時代毎に生活をした祖先を尊び郷土愛を育てて次代に引き継ぐことは、私たち村民に課せられた使命であると強く感じます。

平成９年度から約６年間の歳月をかけて今ここに「笹見原遺跡調査報告書」が発刊されるにあたり、調査に完形した皆様方の努力と汗の結実がここに実を結んだことは、スタッフと各先生方に深く感謝申し上げる次第であります。

末筆となりましたが、本冊子が忍野村の発展のために大いに活用されることを願い、発刊の言葉といたします。

平成15年４月

忍野村教育委員会教育長

小山田　又三

例　　言

１．本書は、平成９年６月19日～平成11年12月15日に実施された山梨県南都留郡忍野村忍草1919番地２に所在する笹見原遺跡の発掘調査報告書である。

２．本調査は県道山中湖・忍野・富士吉田線の建設工事に伴う発掘調査であり、忍野村教育委員会から委託を受けた笹見原遺跡発掘調査団が発掘調査を実施した。なお、県道山中湖・忍野・富士吉田線の建設工事開発に伴う経費は、山梨県で支出した。

３．本書の執筆者は次の通りである。１章：田中悟道、２章-１・２：田中悟道、２章-３：天野智子、３章：馬場伸一郎（株式会社アルカ）、４章-１：西本正憲（株式会社アルカ）、４章-２：角張淳一（株式会社アルカ）、５章：田中悟道、６章-１：西本正憲、６章-２：三田村美彦（山梨県埋蔵文化財センター）、６章-３：角張淳一、６章-４：池谷勝典（株式会社アルカ）。

４．遺物の実測・計測作業は全て株式会社アルカに委託した。

５．遺構図及び遺物の平面・垂直分布図は笹見原遺跡発掘調査団で作成したものである。ただし、６章-１の土器の平面分布図は株式会社アルカの西本正憲が作成した。

６．遺構及び遺物の写真撮影は全て笹見原遺跡発掘調査団によるものである。

７．報告書の編集作業は有限会社アルケーリサーチに委託した。

８．図中で用いた方位記号は全て真北を向いている。

９．調査実施及び本報告書作成にあたり、以下の方々から協力・教示を得ました。記して感謝を申し上げます（50音順）。

阿部芳郎（明治大学）、上杉陽（都留文科大学）、小笠原永隆（財団法人千葉県文化財センター）、岡田憲一（奈良県立橿原考古学研究所）、小野正文（山梨県埋蔵文化財センター）、角張淳一（株式会社アルカ）、坂本美夫（山梨県埋蔵文化財センター）、末木健（山梨県教育委員会学術文化財課）、高野玄明（山梨県埋蔵文化財センター）、田代孝（山梨県埋蔵文化財センター）、田中総（諏訪市教育委員会）、出月洋文（山梨県埋蔵文化財センター）、長沢宏昌（山梨県埋蔵文化財センター）、新津健（山梨県立考古博物館）、原田昌幸（文化庁工芸課）、藤波啓容（有限会社アルケーリサーチ）、保坂康夫（山梨県埋蔵文化財センター）、三田村美彦（山梨県埋蔵文化財センター）、領塚正浩（市川考古学博物館）。

10．本調査で出土した遺物及び調査の記録は忍野村教育委員会が保管・収蔵している（〒401-0592 山梨県南都留郡忍野村忍草1514　TEL 0555-84-2042　FAX 0555-84-7301）。

凡　　例

１．方位は磁北を示す。

２．石器実測図における □・□ は磨面を、■ は研磨面を示す。

３．遺物挿図の縮尺は、石器：2/3・1/3・1/6、土器は縄文時代・平安時代：1/3・1/4、土製品・石製品・古銭：1/1である。

４．遺構挿図の縮尺は、住居跡平面図・セクション図：1/50、土坑・焼土・集石：1/30、である。

５．土器の個体別分布に関する挿図中の実線は接合関係を、破線は推定接合関係を示す。

目　次

発刊によせて
発刊にあたって
例言／凡例
第Ⅰ章　遺跡の位置と環境 …… 1
第１節　笹見原遺跡の位置、歴史的環境 …… 1
第２節　笹見原遺跡の研究史 …… 3
第３節　周辺の遺跡 …… 5
第Ⅱ章　発掘調査の概要 …… 10
第１節　発掘に至る経緯・調査組織 …… 10
第２節　グリッドの設定と基本層序 …… 12
第３節　発掘調査の経緯 …… 13
第Ⅲ章　縄文時代早期検出遺構 …… 21
第１節　９Ⅳ層の遺構 …… 21
第２節　８Ⅳ～９Ⅱ層の遺構 …… 22
第３節　８Ⅱ～８Ⅲ層の遺構 …… 22
第Ⅳ章　縄文時代早期出土遺物 …… 75
第１節　縄文時代の土器 …… 75
第２節　縄文時代の石器 …… 170
第Ⅴ章　平安時代の遺構と遺物 …… 249
第Ⅵ章　考察 …… 262
第１節　笹見原遺跡上層文化層土器群の型式学的検討 …… 262
第２節　笹見原遺跡上層文化層から出土した縄文時代早期土器群について …… 286
第３節　笹見原遺跡の石器について …… 298
第４節　笹見原遺跡出土石器の使用痕分析 …… 303
第Ⅶ章　調査成果のまとめ …… 307
結語 …… 308

付編
１．笹見原遺跡出土石器に用いられた黒曜石の産地 …… 312
２．笹見原遺跡出土黒曜石産地推定結果 …… 315
３．笹見原遺跡の自然科学分析 …… 322
４．笹見原遺跡のテフラ層序 …… 329

笹見原遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書抄録

挿 図 目 次

第１図　笹見原遺跡土層図 …… 3
第２図　笹見原遺跡の位置 …… 6
第３図　笹見原遺跡の位置（拡大図） …… 7
第４図　笹見原遺跡の位置と発掘調査区 (1/500) …… 8
第５図　忍野村村内の遺跡 …… 9
第６図　発掘調査必要範囲 …… 12
第７図　グリッド設定図 …… 17
第８図　笹見原遺跡の基準層位（西壁）(1/50) …… 19
第９図　９Ⅳ層住居跡、土坑分布図 (1/150) …… 23
第10図　１号住居跡平面図 (1/50) …… 24
第11図　１号住居跡、２号住居跡出土接合土器 (1/4) …… 25
第12図　１号住居跡出土土器 (1/3) …… 26
第13図　１号住居跡出土石器 (1/3) …… 27
第14図　２号住居跡平面図 (1/50) …… 28
第15図　２号住居跡出土土器（１）(1/3) …… 29
第16図　２号住居跡出土土器（２）(1/3) …… 30
第17図　２号住居跡出土石器 (1/3) …… 31
第18図　９Ⅳ層土坑 No. ５，６ (1/30) …… 32
第19図　９Ⅳ層土坑 No. ７ (1/30) …… 33
第20図　９Ⅳ層土坑 No. ８ (1/30) …… 34
第21図　８Ⅳ層土坑分布図 (1/150) …… 35
第22図　９Ⅰ層焼土分布図 (1/150) …… 36
第23図　８Ⅳ層土坑 No.11，37（石器・土器出土）(1/30) …… 37
第24図　８Ⅳ層土坑 No.47，51（石器・土器出土）(1/30) …… 38
第25図　８Ⅳ層土坑 No.62（石器・土器出土）(1/30) …… 39
第26図　８Ⅳ層土坑 No. ２，12・13（土器出土）(1/30) …… 40
第27図　８Ⅳ層土坑 No.19・20，24（土器出土）(1/30) …… 41
第28図　８Ⅳ層土坑 No.32，44（土器出土）(1/30) …… 42
第29図　８Ⅳ層土坑 No.57，58（土器出土）(1/30) …… 43
第30図　８Ⅳ層土坑 No.65・66，88（土器出土）(1/30) …… 44
第31図　８Ⅳ層土坑 No. ３，７，23，41（石器出土）(1/30) …… 45
第32図　８Ⅳ層土坑 No.46，53，54（石器出土）(1/30) …… 46
第33図　８Ⅳ層土坑 No.68，111（石器出土）(1/30) …… 47
第34図　８Ⅳ層土坑 No.48，82（焼土有り）(1/30) …… 48
第35図　８Ⅳ層土坑 No. １，４～６ (1/30) …… 49
第36図　８Ⅳ層土坑 No.8 ～ 10，14，15 (1/30) …… 50
第37図　８Ⅳ層土坑 No.16 ～ 18，21 (1/30) …… 51
第38図　８Ⅳ層土坑 No.22，25 ～ 27 (1/30) …… 52
第39図　８Ⅳ層土坑 No.28 ～ 31，33 (1/30) …… 53
第40図　８Ⅳ層土坑 No.34 ～ 36，38 ～ 40 (1/30) …… 54
第41図　８Ⅳ層土坑 No.42，43，45，49 (1/30) …… 55
第42図　８Ⅳ層土坑 No.50，52，55，56 (1/30) …… 56
第43図　８Ⅳ層土坑 No.59 ～ 61，63 (1/30) …… 57
第44図　８Ⅳ層土坑 No.64，67，69，70 (1/30) …… 58
第45図　８Ⅳ層土坑 No.71 ～ 74 (1/30) …… 59
第46図　８Ⅳ層土坑 No.76 ～ 79 (1/30) …… 60
第47図　８Ⅳ層土坑 No.80 ～ 81，83 ～ 86 (1/30) …… 61
第48図　８Ⅳ層土坑 No.87，89 ～ 92 (1/30) …… 62
第49図　８Ⅳ層土坑 No.93 ～ 96 (1/30) …… 63
第50図　８Ⅳ層土坑 No.97 ～ 100 (1/30) …… 64
第51図　８Ⅳ層土坑 No.101 ～ 104 (1/30) …… 65
第52図　８Ⅳ層土坑 No.105 ～ 108 (1/30) …… 66
第53図　８Ⅳ層土坑 No.109，110，112，113 (1/30) …… 67
第54図　８Ⅳ層土坑 No.114 ～ 117 (1/30) …… 68
第55図　９Ⅰ層焼土 No. １～４ (1/30) …… 69
第56図　９Ⅰ層焼土 No. ５～８ (1/30) …… 70
第57図　９Ⅱ～９Ⅳ層集石分布図 (1/150) …… 71
第58図　９Ⅱ～９Ⅳ層集石１～３ (1/30) …… 72
第59図　８Ⅱ層、８Ⅲ層集石分布図 (1/150) …… 73
第60図　８Ⅱ層集石 No. ２、８Ⅲ層集石 No. ７ (1/30) …… 74
第61図　縄文時代早期下層文化層出土土器分布図
（９Ⅳ層遺構面検出住居跡内覆土出土）(1/150) …… 80
第62図　１号住居跡、２号住居跡出土接合土器 (1/４) …… 81
第63図　１号住居跡出土土器 (1/3) …… 82
第64図　２号住居跡出土土器（１）(1/3) …… 83
第65図　２号住居跡出土土器（２）(1/3) …… 84
第66図　下層文化層出土土器分布図　１・74＜個体 12，13＞
(垂直 1/150，平面 1/300) …… 85
第67図　下層文化層出土土器分布図　２・78＜個体 15＞
(垂直 1/150，平面 1/300) …… 86
第68図　下層文化層出土土器分布図　３＜個体 57＞
(垂直 1/150，平面 1/300) …… 87
第69図　下層文化層出土土器分布図　４＜個体 58＞，
６＜個体 62＞(平面 1/400) …… 88
第70図　下層文化層出土土器分布図　34＜個体 75＞，
40＜個体 69＞(垂直 1/150，平面 1/400) …… 89
第71図　下層文化層出土土器分布図　70＜個体 64＞，
35＜個体 70＞(平面 1/400) …… 90
第72図　縄文時代早期中層文化層出土縄文施文土器分布図
（９Ⅳ～８Ⅳ層遺構面中間層出土）(1/150) …… 96
第73図　縄文時代早期中層文化層出土撚糸文土器分布図
（９Ⅳ～８Ⅳ層遺構面中間層出土）(1/150) …… 97
第74図　縄文時代早期中層文化層出土押型文土器分布図
（９Ⅳ～８Ⅳ層遺構面中間層出土）(1/150) …… 98
第75図　縄文時代早期中層文化層出土無文土器分布図
（９Ⅳ～８Ⅳ層遺構面中間層出土）(1/150) …… 99
第76図　中層文化層出土土器分布図　129＜個体 45＞（A）
(垂直 1/150，平面 1/300) …… 100
第77図　中層文化層出土土器分布図　120＜個体 67＞（B），
127＜個体 46＞（C）(平面 1/400) …… 101
第78図　中層文化層出土土器分布図　180＜個体 37＞（D），
219＜個体 68＞（E）(平面 1/400) …… 102
第79図　中層文化層出土土器分布図　182（F），209（I）
(垂直 1/150，平面 1/400) …… 103
第80図　中層文化層出土土器分布図　205（G），224・225（H）
(垂直 1/150，平面 1/400) …… 104
第81図　中層文化層出土土器分布図　188＜個体 38＞（J），
201＜個体 65＞（K）(垂直 1/150，平面 1/400) …… 105
第82図　中層文化層出土土器分布図　198（N），212（M）
(平面 1/400) …… 106
第83図　中層文化層出土土器分布図　229＜個体 66＞（O）
(垂直 1/150，平面 1/300) …… 107
第84図　中層文化層出土土器分布図　77・254・255（P），
239・240・246（Q）(垂直 1/150，平面 1/400) …… 108
第85図　中層文化層出土土器分布図　33・236・237（R），
259・260（S）(平面 1/400) …… 109

第 86 図　中層文化層出土土器分布図　230 ～ 233（T），
272 ＜個体 54・55 ＞（U）(垂直 1/150，平面 1/300) 110
第 87 図　中層文化層出土土器分布図　263 ＜個体 60 ＞（V），
297 ＜個体 39 ＞（W）(平面 1/400) ･････････････ 111
第 88 図　中層文化層出土土器分布図　286 ＜個体 56 ＞（X），
261 ＜個体 63 ＞（Y）(平面 1/400) ･････････････ 112
第 89 図　上層文化層出土土器分布図　173 ＜個体 25，27 ＞，
299 ＜個体 74 ＞（X）(平面 1/400) ･････････････ 114
第 90 図　上層文化層出土土器分布図　318 ＜個体 44 ＞
(垂直 1/150，平面 1/300) ･････････････････････ 115
第 91 図　上層文化層出土土器分布図　333 ＜個体 7 ＞
(垂直 1/150，平面 1/300) ･････････････････････ 116
第 92 図　上層文化層出土土器分布図　312 ＜個体 28 ＞，
317 ＜個体 59 ＞(垂直 1/150，平面 1/400) ････････ 117
第 93 図　上層文化層出土土器分布図　338 ＜個体 30 ＞，
315 ＜個体 29 ＞(垂直 1/150，平面 1/400) ････････ 118
第 94 図　上層文化層出土土器分布図　313 ＜個体 8 ＞，
305 ＜個体 41，42 ＞(平面 1/400) ･････････････ 119
第 95 図　上層文化層出土土器分布図　319 ＜個体 19，26 ＞，
310 ＜個体 18，20 ＞(平面 1/400) ･････････････ 120
第 96 図　上層文化層出土土器分布図　307 ＜個体 47 ＞，
334 ＜個体 36 ＞(平面 1/400) ･････････････････ 121
第 97 図　上層文化層出土土器分布図　330 ＜個体 31，32 ＞，
335 ＜個体 33 ＞(平面 1/400) ･････････････････ 122
第 98 図　上層文化層出土土器分布図　337 ＜個体 14 ＞，
316 ＜個体 72 ＞(平面 1/400) ･････････････････ 123
第 99 図　上層文化層出土土器分布図　369 ＜個体 49 ～ 53 ＞
(垂直 1/150，平面 1/300) ･････････････････････ 124
第 100 図　上層文化層出土土器分布図　372 ＜個体 2 ＞
(垂直 1/150，平面 1/300) ･････････････････････ 125
第 101 図　上層文化層出土土器分布図　371 ＜個体 11 ＞
(垂直 1/150，平面 1/300) ･････････････････････ 126
第 102 図　上層文化層出土土器分布図　400 ＜個体 3 ＞
(垂直 1/150，平面 1/300) ･････････････････････ 127
第 103 図　上層文化層出土土器分布図　399 ＜個体 4 ＞
(垂直 1/150，平面 1/300) ･････････････････････ 128
第 104 図　上層文化層出土土器分布図　408 ＜個体 5 ＞
(垂直 1/150，平面 1/300) ･････････････････････ 129
第 105 図　上層文化層出土土器分布図　428 ＜個体 6 ＞
(垂直 1/150，平面 1/300) ･････････････････････ 130
第 106 図　上層文化層出土土器分布図　430 ＜個体 1 ＞
(垂直 1/150，平面 1/300) ･････････････････････ 131
第 107 図　上層文化層出土土器分布図　409 ＜個体 61 ＞，
410 ＜個体 43 ＞(垂直 1/150，平面 1/400) ････････ 132
第 108 図　上層文化層出土土器分布図　359，401 ＜個体 40 ＞
(垂直 1/150，平面 1/400) ･････････････････････ 133
第 109 図　上層文化層出土土器分布図　375，427・432
(垂直 1/150，平面 1/400) ･････････････････････ 134
第 110 図　上層文化層出土土器分布図　343 ＜個体 9 ＞，
344 ＜個体 10 ＞(平面 1/400) ･････････････････ 135
第 111 図　上層文化層出土土器分布図　379 ＜個体 17 ＞，
370 ＜個体 48 ＞(平面 1/400) ･････････････････ 136
第 112 図　上層文化層出土土器分布図　380，403(平面 1/400) ・137
第 113 図　上層文化層出土土器分布図　402 ＜個体 16 ＞，
398 ＜個体 35 ＞(平面 1/400) ･････････････････ 138
第 114 図　土製品・石製装飾品 (1/1) ･････････････････････ 138
第 115 図　分類別土器実測図（1）(1/3) ･･････････････････ 143
第 116 図　分類別土器実測図（2）(1/3) ･･････････････････ 144
第 117 図　分類別土器実測図（3）(1/3) ･･････････････････ 145
第 118 図　分類別土器実測図（4）(1/3) ･･････････････････ 146
第 119 図　分類別土器実測図（5）(1/3) ･･････････････････ 147
第 120 図　分類別土器実測図（6）(1/3) ･･････････････････ 148
第 121 図　分類別土器実測図（7）(1/3) ･･････････････････ 149
第 122 図　分類別土器実測図（8）(1/3) ･･････････････････ 150
第 123 図　分類別土器実測図（9）(1/3) ･･････････････････ 151
第 124 図　分類別土器実測図（10）(1/3) ･･････････････････ 152
第 125 図　分類別土器実測図（11）(1/3) ･･････････････････ 153
第 126 図　分類別土器実測図（12）(1/3) ･･････････････････ 154
第 127 図　分類別土器実測図（13）(1/3) ･･････････････････ 155
第 128 図　分類別土器実測図（14）(1/3) ･･････････････････ 156
第 129 図　分類別土器実測図（15）(1/3，1/4) ･･････････････ 157
第 130 図　分類別土器実測図（16）(1/3) ･･････････････････ 158
第 131 図　分類別土器実測図（17）(1/3，1/4) ･･････････････ 159
第 132 図　分類別土器実測図（18）(1/3) ･･････････････････ 160
第 133 図　分類別土器実測図（19）(1/3，1/4) ･･････････････ 161
第 134 図　分類別土器実測図（20）(1/3，1/4) ･･････････････ 162
第 135 図　分類別土器実測図（21）(1/3，1/4) ･･････････････ 163
第 136 図　出土石器と出土位置 1 (石器 2/3，分布図 1/400) ････ 170
第 137 図　出土石器と出土位置 2 (石器 2/3，分布図 1/400) ････ 171
第 138 図　出土石器と出土位置 3 (石器 2/3，分布図 1/400) ････ 172
第 139 図　出土石器と出土位置 4 (石器 2/3，分布図 1/400) ････ 173
第 140 図　出土石器と出土位置 5 (石器 2/3，分布図 1/400) ････ 174
第 141 図　出土石器と出土位置 6 (石器 2/3，分布図 1/400) ････ 175
第 142 図　出土石器と出土位置 7 (石器 2/3，分布図 1/400) ････ 176
第 143 図　出土石器と出土位置 8 (石器 2/3，分布図 1/400) ････ 177
第 144 図　出土石器と出土位置 9 (石器 2/3，分布図 1/400) ････ 178
第 145 図　出土石器と出土位置 10 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 179
第 146 図　出土石器と出土位置 11 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 180
第 147 図　出土石器と出土位置 12 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 181
第 148 図　出土石器と出土位置 13 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 182
第 149 図　出土石器と出土位置 14 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 183
第 150 図　出土石器と出土位置 15 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 184
第 151 図　出土石器と出土位置 16
(石器 1/3・2/3，分布図 1/400) ･･･････････････････ 185
第 152 図　出土石器と出土位置 17
(石器 1/3・2/3，分布図 1/400) ･･･････････････････ 186
第 153 図　出土石器と出土位置 18 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 187
第 154 図　出土石器と出土位置 19 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 188
第 155 図　出土石器と出土位置 20 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 189
第 156 図　出土石器と出土位置 21 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 190
第 157 図　出土石器と出土位置 22 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 191
第 158 図　出土石器と出土位置 23 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 192
第 159 図　出土石器と出土位置 24 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 193
第 160 図　出土石器と出土位置 25 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 194
第 161 図　出土石器と出土位置 26 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 195
第 162 図　出土石器と出土位置 27 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 196
第 163 図　出土石器と出土位置 28 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 197
第 164 図　出土石器と出土位置 29 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 198
第 165 図　出土石器と出土位置 30 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 199
第 166 図　出土石器と出土位置 31 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 200
第 167 図　出土石器と出土位置 32 (石器 2/3，分布図 1/400) ･･･ 201
第 168 図　出土石器と出土位置 33 (石器 1/3，分布図 1/400) ･･･ 202

第169図　出土石器と出土位置34 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 203
第170図　出土石器と出土位置35 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 204
第171図　出土石器と出土位置36 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 205
第172図　出土石器と出土位置37 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 206
第173図　出土石器と出土位置38 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 207
第174図　出土石器と出土位置39 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 208
第175図　出土石器と出土位置40 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 209
第176図　出土石器と出土位置41 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 210
第177図　出土石器と出土位置42 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 211
第178図　出土石器と出土位置43 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 212
第179図　出土石器と出土位置44 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 213
第180図　出土石器と出土位置45 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 214
第181図　出土石器と出土位置46 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 215
第182図　出土石器と出土位置47 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 216
第183図　出土石器と出土位置48 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 217
第184図　出土石器と出土位置49 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 218
第185図　出土石器と出土位置50 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 219
第186図　出土石器と出土位置51 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 220
第187図　出土石器と出土位置52 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 221
第188図　出土石器と出土位置53 (石器1/6，分布図1/400) ･･･ 222
第189図　出土石器と出土位置54 (石器2/3，分布図1/400) ･･･ 223
第190図　出土石器と出土位置55 (石器1/3，分布図1/400) ･･･ 224
第191図　８Ⅰ層黒曜石出土分布図 (1/200) ･････････････ 225
第192図　８Ⅱ層黒曜石出土分布図 (1/200) ･････････････ 226
第193図　８Ⅲ層黒曜石出土分布図 (1/200) ･････････････ 227
第194図　８Ⅳ層黒曜石出土分布図 (1/200) ･････････････ 228
第195図　９Ⅰ層黒曜石出土分布図 (1/200) ･････････････ 229
第196図　９Ⅱ層黒曜石出土分布図 (1/200) ･････････････ 230
第197図　９Ⅲ層黒曜石出土分布図 (1/200) ･････････････ 231
第198図　９Ⅳ層黒曜石出土分布図 (1/200) ･････････････ 232
第199図　８Ⅰ層水晶出土分布図 (1/200) ･････････････ 233
第200図　８Ⅱ層水晶出土分布図 (1/200) ･････････････ 234
第201図　８Ⅲ層水晶出土分布図 (1/200) ･････････････ 235
第202図　８Ⅳ層水晶出土分布図 (1/200) ･････････････ 236
第203図　９Ⅰ層水晶出土分布図 (1/200) ･････････････ 237
第204図　９Ⅱ層水晶出土分布図 (1/200) ･････････････ 238
第205図　９Ⅲ層水晶出土分布図 (1/200) ･････････････ 239
第206図　９Ⅳ層水晶出土分布図 (1/200) ･････････････ 240
第207図　石器垂直分布図（東壁）１ (1/150) ･････････････ 241
第208図　石器垂直分布図（東壁）２ (1/150) ･････････････ 242
第209図　平安時代出土全土器分布図・全体図 (1/300) ･････ 251
第210図　１号住居跡平面図 (1/50) ･････････････････････ 252
第211図　２号住居跡平面図 (1/50) ･････････････････････ 253
第212図　３号住居跡平面図 (1/50) ･････････････････････ 254
第213図　４号住居跡平面図 (1/50) ･････････････････････ 255
第214図　平安時代遺物（１）(1/4) ･････････････････････ 256
第215図　平安時代遺物（２）(1/4) ･････････････････････ 257
第216図　平安時代遺物（３）(1/4) ･････････････････････ 258
第217図　平安時代遺物（４）(1/4) ･････････････････････ 259
第218図　平安時代遺物（５）(1/1，1/3，1/4) ･････････････ 260
第219図　縄文時代早期上層文化層出土土器分布図 (1/150) ･ 276
第220図　上層文化層出土の接合土器 ･････････････････････ 277
第221図　上層文化層北東分布圏出土土器 (1/150) ･････････ 278
第222図　上層文化層南西分布圏出土土器 (1/150) ･････････ 279
第223図　上層文化層「古」段階における土器文様の関係 ･･･ 280
第224図　上層文化層出土土器文様要素と段階差の検討（１）・
･･･ 281
第225図　上層文化層出土土器文様要素と段階差の検討（２）
･･･ 282
第226図　上層文化層出土土器文様要素と段階差の検討（３）
･･･ 283
第227図　上層文化層出土土器その他 ･････････････････････ 284
第228図　笹見原遺跡縄文時代早期土器変換試案 ･･････････ 285
第229図　上層文化層出土土器　第１・２類土器
(拓影図1/3，実測図1/8) ･････････････････････ 287
第230図　上層文化層出土土器　第３類土器
(拓影図1/3，実測図1/8) ･････････････････････ 290
第231図　上層文化層出土土器　第４類土器
(拓影図1/3，実測図1/8) ･････････････････････ 292
第232図　上層文化層出土土器　第５・６・７類土器
(拓影図1/3，実測図1/8) ･････････････････････ 293
第233図　参考資料（１） ･････････････････････････････ 294
第234図　参考資料（２） ･････････････････････････････ 295
第235図　上層文化層出土土器分布図 (1/400) ･････････････ 295
第236図　礫斧の使用痕 ･･････････････････････････････ 305
第237図　礫斧と磨石の使用痕 ････････････････････････ 306

表　目　次

第１表　上杉陽氏の層位・土器文化層・遺構確認面の
相互関係 ･･････････････････････････････････ 18
第２表　縄文時代遺物属性表（１）･････････････････････ 164
第３表　縄文時代遺物属性表（２）･････････････････････ 165
第４表　縄文時代遺物属性表（３）･････････････････････ 166
第５表　縄文時代遺物属性表（４）･････････････････････ 167
第６表　縄文時代遺物属性表（５）･････････････････････ 168
第７表　縄文時代遺物属性表（６）･････････････････････ 169
第８表　縄文時代石器属性表（１）･････････････････････ 243
第９表　縄文時代石器属性表（２）･････････････････････ 244
第10表　縄文時代石器属性表（３）･････････････････････ 245
第11表　縄文時代石器属性表（４）･････････････････････ 246
第12表　縄文時代石器属性表（５）･････････････････････ 247
第13表　縄文時代石器属性表（６）･････････････････････ 248
第14表　平安遺物属性表 ･････････････････････････････ 261
第15表　自然層と取り上げ層の確定した石器の層位関係表 ･･･ 298
第16表　自然層と取り上げ層及び土器文化層の関係表 ･････ 298
第17表　遺跡地区別・取り上げ層位別の表 ･････････････ 299
第18表　上層文化層の地区別・器種別組成表 ･･･････････ 300
第19表　文化層別黒曜石推定原産地 ･･････････････････ 301
第20表　上層文化層地区別推定原産地 ･････････････････ 301

図 版 目 次

図版 1　笹見原遺跡
図版 2　笹見原遺跡土層断面
図版 3　笹見原遺跡縄文時代（住居跡・土坑）
図版 4　笹見原遺跡縄文時代（土坑）
図版 5　笹見原遺跡縄文時代（土坑）
図版 6　笹見原遺跡縄文時代（土坑）
図版 7　笹見原遺跡縄文時代（土坑）
図版 8　笹見原遺跡縄文時代（土坑）
図版 9　笹見原遺跡縄文時代（土坑）
図版 10　笹見原遺跡縄文時代（土坑）
図版 11　笹見原遺跡縄文時代（土坑）
図版 12　笹見原遺跡縄文時代（土坑）
図版 13　笹見原遺跡縄文時代（土坑）
図版 14　笹見原遺跡縄文時代（土坑）
図版 15　笹見原遺跡縄文時代（土坑）
図版 16　笹見原遺跡縄文時代（土坑）
図版 17　笹見原遺跡縄文時代（土坑）
図版 18　笹見原遺跡縄文時代（土坑・焼土・集石）
図版 19　笹見原遺跡縄文土器
図版 20　笹見原遺跡縄文土器
図版 21　笹見原遺跡縄文土器
図版 22　笹見原遺跡縄文土器
図版 23　笹見原遺跡縄文土器
図版 24　笹見原遺跡縄文土器
図版 25　笹見原遺跡縄文土器
図版 26　笹見原遺跡縄文土器
図版 27　笹見原遺跡縄文土器
図版 28　笹見原遺跡縄文土器
図版 29　笹見原遺跡縄文土器
図版 30　笹見原遺跡縄文土器
図版 31　笹見原遺跡縄文石器
図版 32　笹見原遺跡縄文石器
図版 33　笹見原遺跡縄文石器
図版 34　笹見原遺跡縄文石器
図版 35　笹見原遺跡縄文石器
図版 36　笹見原遺跡平安時代（住居跡）
図版 37　笹見原遺跡平安時代（住居跡・土師器）
図版 38　笹見原遺跡平安時代（土師器）
図版 39　笹見原遺跡平安時代（土師器）
図版 40　笹見原遺跡調査風景

第Ⅰ章　　遺跡の位置と環境

第１節　笹見原遺跡の位置、歴史的環境

笹見原遺跡は忍野村の中央部に位置し、鳥居地峠南麓にある扇状地扇央部に立地している。現状は落葉松が林立する原野の状態であった。

１９８３年発行「忍野の遺跡」によると、平安時代の遺物が発見されていることが報告されている。昭和３８・４７年度の分布調査による分布台帳にNo.１３笹見原遺跡として登録されている。

こうした数回の事前の報告をうけて、今回の道路建設事業にともない事前調査をするはこびとなった。

歴史的環境として考えられることは律令国家成立にともなう京から甲斐国に通ずる古官道の道筋にあたる可能性を含んでいる遺跡であるということである。笹見原遺跡のある位置は、「忍野の遺跡」の一部を引用すると“東海道本路から、駿河国横走駅（御殿場市）に至り、ここから分かれて加古坂（篭坂）を越えて、甲斐国に入ると、山中湖付近に水市あるいは加古の駅があり、忍野村を通って鳥居地峠を越し、富士吉田市大明見へ通じるのが古官道とみられている。”という一説に依拠するとまさに古官道の通過点の一つに位置していることになる。以上の事前の報告をうけて平成9年度から発掘調査に入った。

発掘調査は、平成9年度・平成１０年度・平成１１年度の3度にわたり実施した。

当初は、平成9年度のみで発掘調査が計画された。事前報告の認識で平安期の遺跡調査として現地調査を開始したためである。平安期以前の遺跡の存在については認識していなかった。

発掘の進行過程のなかで縄文時代の遺物包含層が確認された。

そのため、次年度調査の必要性が生まれ、結果3年間の調査となった。

鳥居内峠は昭和３６，７年ころまで五不動「目青・目赤・目白・目黒・目黄」のうちの目黄不動尊が御本尊として祭られた不動湯があった。峠に鳥居を設置して往来が盛んであった。その忍野村の裾野に笹見原遺跡があり、平安時代の住居跡が今回の発堀調査で5基発見された。そのうち、1基の住居跡内より、（水神＋可）の判読できる墨書土器が出土した。祭礼に使われた住居跡の可能性を感じる。江戸時代中期には江戸往還（谷村街絵図に使用されている。）として駿河＝谷村間を繋ぐ道路の路線に鳥居内峠経由があった。吉田をまわらず、忍野から大明見・小明見を通って十日市場の方にでて、谷村にじかに入るルートである。口留番所も駿河との関係で設置されたものが大半であった。鎌倉往還は山中－黒駒経由がそれである。江戸開城とともに発達した富士信仰のための富士道はときに、流通の江戸道ともいわれた。鎌倉往還は古代から使用されていた古道が鎌倉時代になり鎌倉往還という名称をいただいたものである。

交通制度で、駿河から出入りする鎌倉往還道の頃、忍野村の位置特に笹見原遺跡の位置は、郡内領から甲府にぬける鎌倉往還道と谷村へぬけるための谷村鎌倉往還道の分岐点に位置していることが理解できる。鳥居地峠の存在、富士信仰の信者にとって鳥居をくぐり、忍野（御師野？）の忍野八海で身を浄めて、富士浅間神社をくぐり、登頂したのだとおもわれる。

戦国時代には岩殿山常楽院（大月市）末の光学院が忍野の浅間大菩薩（忍野村内野）にあった。慶応

4年（1868）9月付の天台宗聖護院住心院支配岩殿山大坊および常楽院の明細書からわかる。明細書を見る限りでは、常楽院末が南北都留郡内に17ケ院ある。そのうちの一つが光学院なのである。ちなみに、郡内の霞とよばれる、いわゆる元締めは大月市岩殿にあった大坊及び常楽院がそれに当っていた。

岩殿山は戦国時代においては重要な城であった。特に国中の武田氏、郡内の小山田氏の連合軍と小田原の後北条氏の領土の前線地帯に位置していたためである。天正11年（1583）8月～12月のあいだ服部半蔵正成と伊賀組200名が郡内谷村城を服部中保正が岩殿山を守備する記録と、文禄年中（1592-95）に岩殿山に城番を置いている記録が「甲斐国史」にある。

以上のように、郡内の置かれていた位置が軍事的に重要なものであったことをものがたっている証拠となる。

郡内の烽火台、城山等が活躍した時代は小山田氏、武田氏の存命中、及びそれ以前に求められる。以後1615年ごろまで使用されていた。今川氏、北条氏の権力が関東静岡方面で強力に生きていた時代の所産と考えられる。以後天下平定の時代まで情報収集、伝達の情報網の機関として活躍したものと考えられる。しかも、烽火台、城山等の付近に寺院を設置していることも同じ意味で情報収集、伝達の情報網の機能をはたしていたと考えてよいとおもわれる。

狼煙台が帯のごとく郡内一帯に拡がりをみせているのと並行して、山岳宗教の色濃い天台宗聖護院住心院派下本山羽黒山修験に属する岩殿山円通寺（大坊及び常楽院）の末院が南北都留郡に分布しているのである。天正10年（1582）8月12日黒駒の合戦のおり、北条氏忠1万の兵を郡内口より侵入する手段を郡内各地域の有力者がうけいれている。忍野村においては渡辺氏が先導したむきがある。

忍野村の鐘山遺跡は戦国時代の郡内の烽火台の一つとして、活躍したのである。こうした歴史風土のなかに笹見原遺跡がある。

笹見原遺跡の特徴は、戦国時代以前のしかも、平安時代の遺構、縄文時代早期遺構が同一遺跡から複合的に発見されたことにある。

表面採集などで断片的遺物採集はなされてきたが遺物遺構がセットで発見されたことが重要なのである。しかも、富士火山活動による火山灰堆積土層が数メートルにおよび、その火山灰堆積層下より縄文時代早期の住居跡および土構、集石遺構、縄文土器片が発見された。

鳥居内峠の麓の宇津湖畔にある、笹見原遺跡からは各時代遺物が出土した。

平安時代の遺跡、甲斐型土器編年でいうところのⅧ期、Ⅸ期ころに比定される土器が2号住居跡より出土した。

5基の住居跡は微妙に時期を異にして発見された。

平安時代の遺跡調査につづいて、火山活動の激しい時代の堆積層を除去して、地表下約-5～6mの地層で縄文時代早期の生活層を発見した。このことで縄文時代早期から平安時代までの間に富士火山活動期の堆積土層の資料を入手することができた。

平安時代の遺物包含層はNo.51（S－24－9）No.50（S－24－8／A・B）No.49（S－24－7）の土層に分布していた。

火山活動期の土層は通称湯船第二スコリア層とよばれるNo.42（S－22）から通称新期富士黒層とよばれるNo.26（S－0－1）までの17層から形成されて堆積していた。

縄文時代の遺物包含層はNo.２５（Ｙ－１４１－１～３）No.２４（Ｙ－１４０）No.２３（Ｙ－１３９）の土層に分布していた。

縄文時代の遺物包含層下の自然堆積土層（火山活動の堆積層を含）はNo.２２（Ｙ－１３８）以下No１（Ｙ－１２８）・No.０までの土層が確認できた。

第２節　笹見原遺跡の研究史

昭和　４　年　「史跡名勝天然記念物」４-１０
　　石原初太郎氏の「富士山麓忍野村大臼小臼の土器」
昭和　４　年　柴田常恵　:「富士の遺跡」（富士の研究４）
昭和３１　年　山本寿々雄：山梨県における早期初頭の縄文土器について「石器時代」３
昭和４３　年　山本寿々雄：「山梨県の考古学」
昭和３８　年　山梨県教育委員会：第一次忍野村内全域遺跡分布調査
昭和４７　年　山梨県教育委員会：第二次忍野村内全域遺跡分布調査
昭和５７　年　忍野村村史編纂事業：忍野村内全域遺跡分布調査
昭和５８　年　忍野村教育委員会：「忍野の遺跡」
平成　元　年　忍野村：「忍野村誌」第一巻
平成　２　年　富士吉田市史編纂室：「古屋敷遺跡発掘調査報告書」

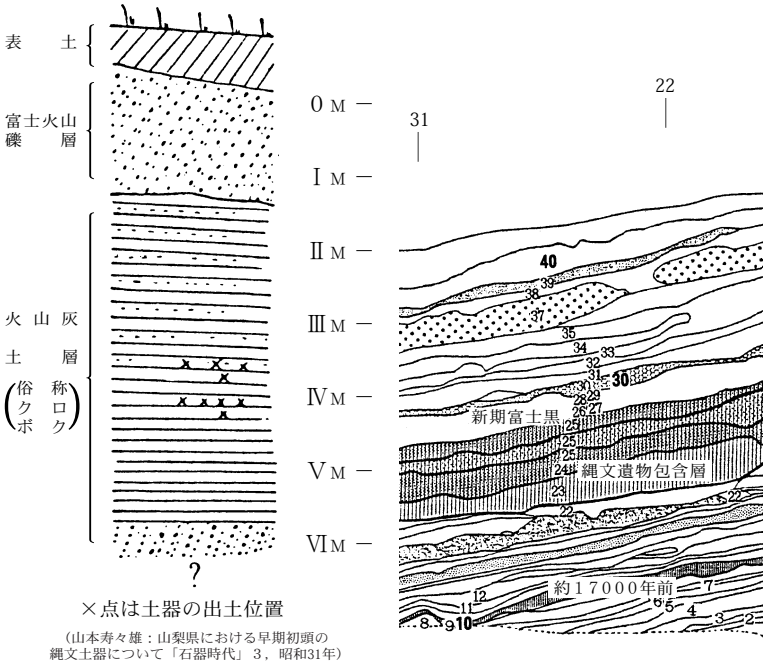
以上のように、忍野村内における考古学関係の遺跡調査研究発表がなされている。

「遺跡台帳２６・２７・２８」大臼（忍草字六本松）・上臼（忍草字上臼）・小臼（忍草字臼久保）遺跡昭和４年、石原初太郎氏の「富士山麓忍野村大臼小臼の土器」により、忍野村臼久保（大臼小臼）「現在の遺跡台帳２６・２７・２８」に相当する遺跡が紹介されている。

「遺跡台帳６」奥山尾田遺跡（忍草字奥山尾田）

昭和３１年、山本寿々雄氏「山梨県における早期初頭の縄文土器について」『石器時代』３、および１９７３年柴田常恵「富士の遺跡」『富士の文学・富士の美術・富士の遺跡』名著出版に奥山尾田遺跡（遺跡No.６）の紹介がある。

昭和５８年忍野村教育委員会:「忍野の遺跡」によると、“以



第１図　笹見原遺跡土層図

前、同地区内（遺跡No.６）で宅地の一部に井戸掘りをするためのボーリング作業が行われ、その際、縄文早期井草式・田戸下層式の土器片が確認されている。”と記載されている。昭和３１年山本寿々雄：山梨県における早期初頭の縄文土器について「石器時代」3の文献を参考にしている。と、山本寿々雄氏はこの文献により、忍草一帯について「富士火山の噴火による火山灰がこの山（鳥居坂峠のある山）に向かって堆積した処で、火山灰層の最も厚いと考えられる地で、しかも地質時代に水の作用を受けたらしく、この地域が一帯の俗に言う黒ボク地帯である」「標高は山中湖面が９４２ｍ、鳥居坂峠が１,００２ｍで、忍野は９４０ｍ前後であろう。宅地の一部（遺跡No.６６）に井戸掘りをするためのボーリング作業で表土下４ｍの深さで土器が発見され、山本氏の調査となる。このとき、表土下４ｍの火山灰土層（黒ボク）は上下2層の土器包含層を確認している。上層は比較的粒子の粗い火山灰、下層は粒子の精細な火山灰からなっていて区別することができた。」と報告している。笹見原遺跡土層比定番号でいうＹ－１４１－１・Ｙ－１４１－２・Ｙ－１４１－3にあたる。（第１図参照）

土器は上層から子母口式、田戸下層式が、それより約３０ｍ深い下層から井草式Ⅱ類が出土したといわれている。

今回の笹見原遺跡は宇津湖畔の隣接する「遺跡台帳６」奥山尾田遺跡を昭和３１年当時調査した、山本氏の調査結果（「遺跡台帳６」奥山尾田遺跡）を細分化しつつ確認し補填する結果を得たことになる。つまり、笹見原遺跡土層比定番号２３～２５層の確認と縄文遺構および縄文遺物を検出することができた。遺構遺物についての報告は別項で細部について報告する。

また「忍野の遺跡」昭和５８年に、昭和５７年3月２０日笹見原遺跡踏査により「土師器・須恵器・灰釉陶器片」を採取したことが記録されている。この報告のように、笹見原遺跡土層番号４８～５１層より検出することができた。

忍野村の考古学的遺跡を包括的に総合調査した報告は昭和５８年発行の「忍野の遺跡」である。この忍野村の全体把握ができたことにより、部分的片鱗から全体把握をする手法から脱却し総括的判断を可能とした。以後の調査における基礎資料として重要な意義がある。また、平成元年に忍野村は「忍野村誌」を発刊している。その第一巻１５２頁に当遺跡の記事がある。立地と現状については「鳥居地峠南麓にある扇状地扇央部に立地する。現状は荒地で一部畑地となっている。」とある。遺構と遺物については「平安時代土師器、須恵器、灰釉陶器（大原Ⅱ・光ケ丘Ⅰ）鉄製品」とある。平安時代の説明がされている。つぎに、縄文時代の笹見原遺跡については当時確認されていない、しかし、第一巻１３７頁に、近隣の富士吉田市池の元遺跡より縄文早創期後半頃の住居跡2軒と集石土構が発見されていることが報告された。全県下においては、早期遺跡数は１００ケ所近く確認されていることもあわせて報告された。本村における縄文遺跡は7ケ所であり、早期遺跡が5ケ所、前期遺跡が1ケ所、後期遺跡が1ケ所であった。

早期遺跡の「遺跡台帳４」奥山尾田南遺跡・「遺跡台帳６」奥山尾田遺跡についての説明を含めた報告がある。

平成元年当時の忍野村の考古学の調査における認識が当遺跡調査により、より正確に精査した結果が資料として入手できた。

なお近隣市町村の富士吉田市で発掘調査した2遺跡「池の元遺跡」「古屋敷遺跡」の報告書の内容は当遺跡の出土遺物におおよその比定該当する結果を得ることができた。

隣市の富士吉田市で調査した明治大学阿部教授による「古屋敷遺跡調査報告書」は富士山麓周辺における考古学調査における基礎資料として重要な報告書であると認識しています。忍野村の地域性を考える上で参考文献として欠かせないものである。

今後も地域の遺跡調査が行われ多くの新しい事実が追加されていくことと思う。

第３節　周辺の遺跡

忍野村では、都留考古学会の分布調査で３６箇所の遺跡が確認されている。遺跡の分布は道志山地南麓・梨ケ原溶岩台地縁辺部・旧湖底沖積地に区分され、道志山地南麓で２１箇所、梨ケ原溶岩台地縁辺部で１４箇所、旧湖底沖積地で１箇所、発見されている。

このなかで、縄文時代の遺跡は道志山地南麓で３箇所、梨ケ原溶岩台地縁辺部で１箇所、旧湖底沖積地で１箇所、発見され、道志山地南麓が縄文時代の生活の中心地であったことがわかる。次に、各時代の周辺の遺跡について概観してみたい。これに当たっては、１９８３年に刊行された『忍野の遺跡－忍野村の遺跡分布調査報告書』（忍野村教育委員会）にほぼ準拠した。

《縄文時代》

忍野村で発見された縄文時代の遺跡は、前山尾田遺跡、奥山尾田遺跡、臼久保遺跡が縄文時代早期、膳棚遺跡が縄文時代前期、平沢海沢遺跡が縄文時代後期に、それぞれ該当する。

縄文早期の遺跡で奥山尾田遺跡からは撚糸文系土器、同じく奥山尾田遺跡と臼久保遺跡からは沈線文系土器が出土している。前山尾田遺跡からは、縄文早期後半の条痕文系土器が出土し、合わせて石皿・磨石などの石器が出土している。

次に、縄文前期の膳棚遺跡では、諸磯Ｃ式土器が出土している。中部高地において、縄文前期から中期にかけて、遺跡が急激に増加している一方で、忍野村村内の遺跡では、逆にこの時期の遺跡がほとんど確認できない。

縄文後期の遺跡では、平沢梅沢遺跡で堀ノ内２式の土器が発見されている。

《弥生時代》

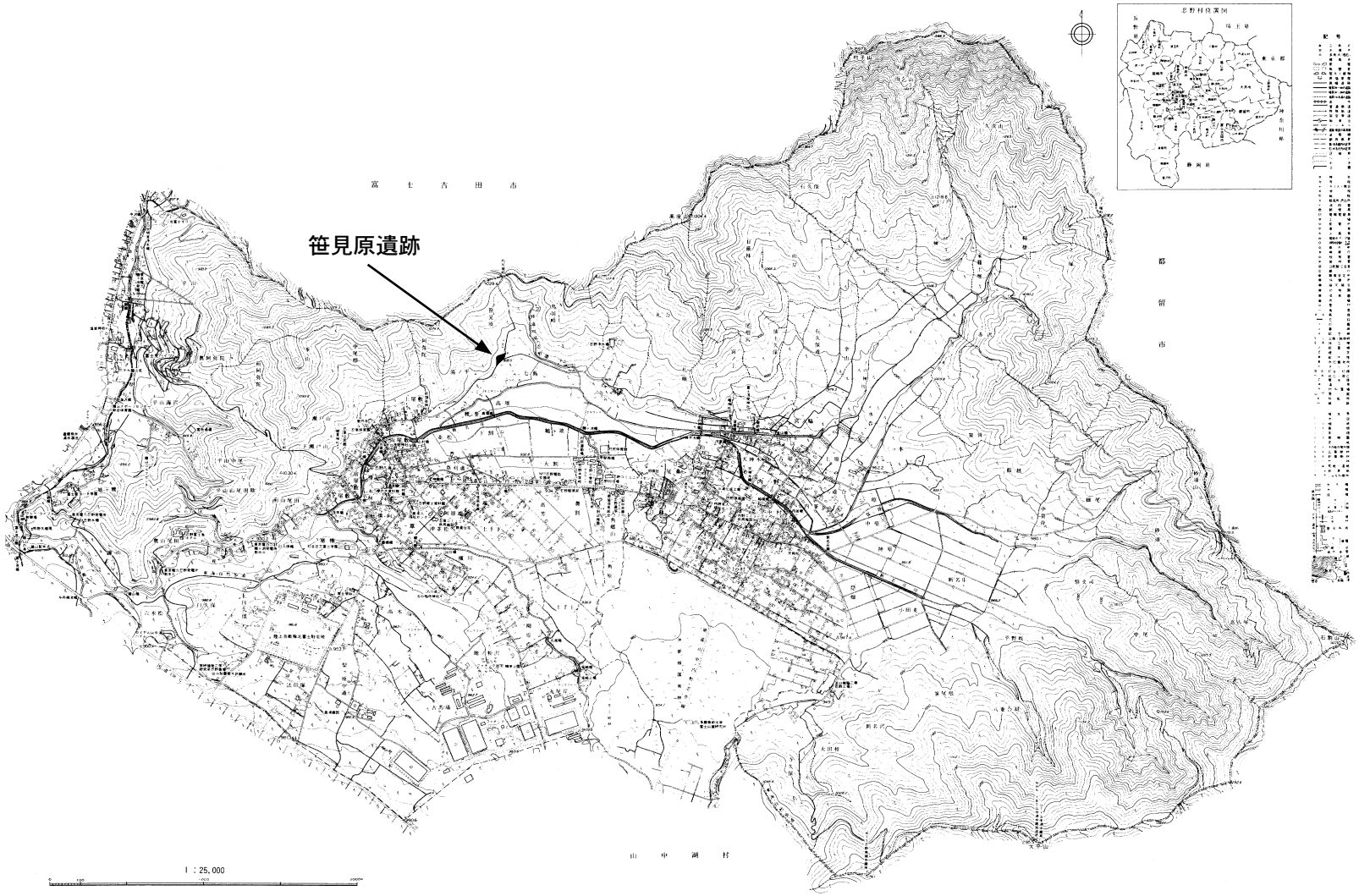
忍野村で、弥生時代の遺跡として膳棚遺跡から弥生前期の条痕文系土器が発見されている。
現在までのところ、膳棚遺跡以外で、弥生時代の遺跡は確認されていない。

《古墳～奈良時代》

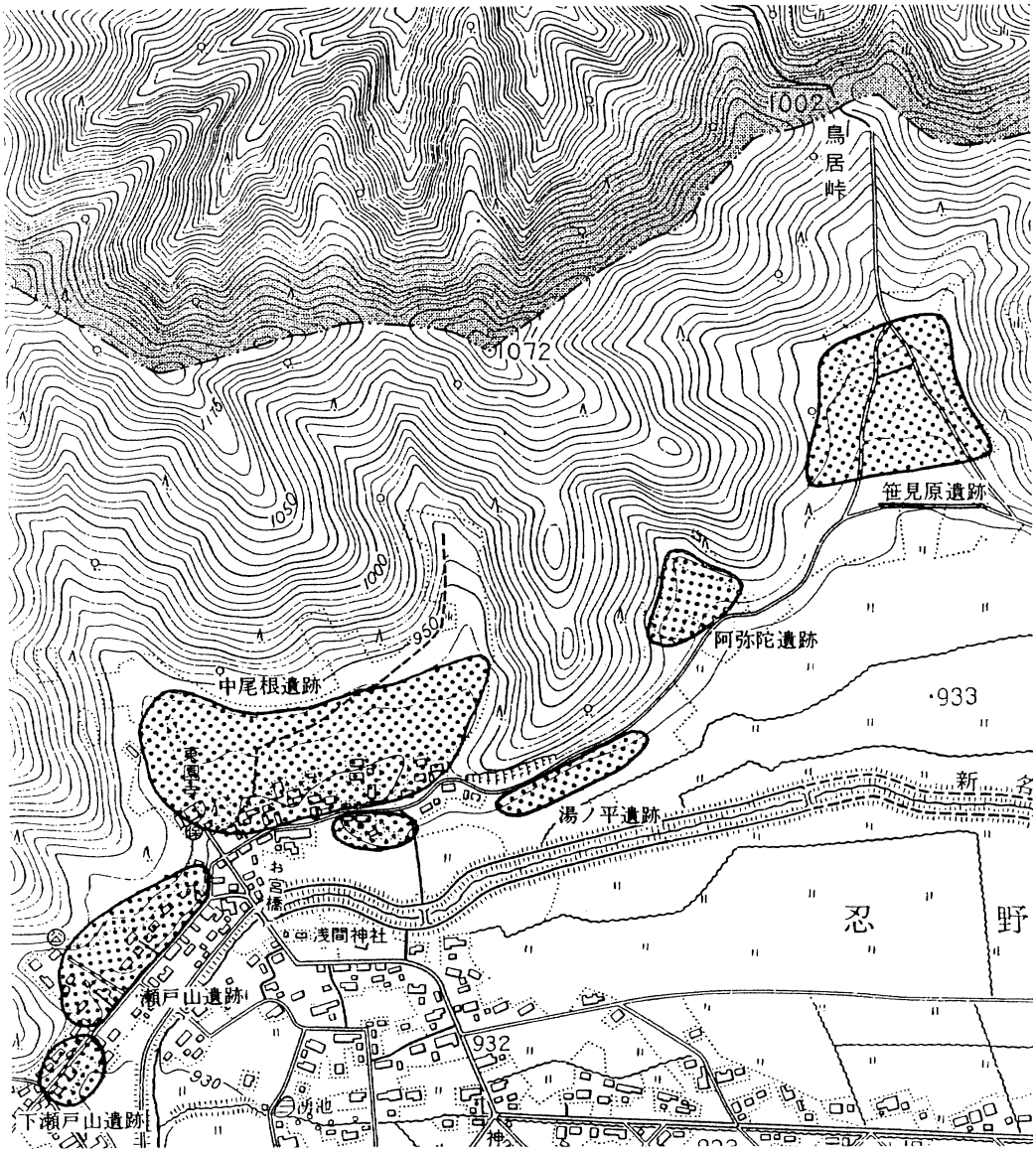
現在までのところ忍野村では確認されていない。

《平安時代》

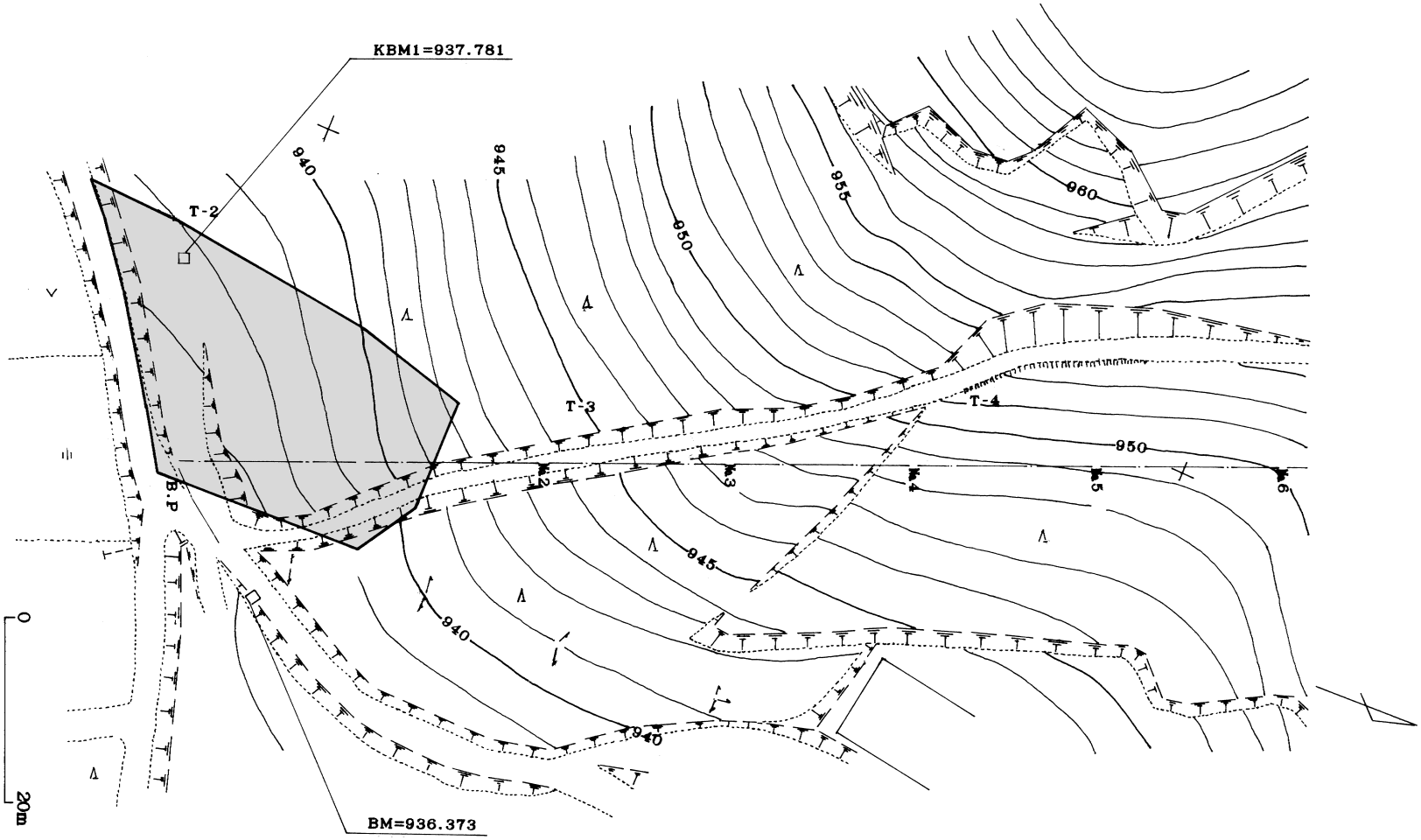
忍野村では２７箇所、遺跡が確認され、そのほとんどは集落遺跡である。平安時代に入ると遺跡数は急激に増加する。該当時期の発掘調査はいままで実施されていなかった。ただ、札合西遺跡で平安時代の住居跡が検出されている。住居跡の断面を観察した結果、竈をもち、主軸長は約３.８m、北壁約２０cmを測る住居跡であった。伴出遺物には、甲斐型土師器坏・甕のほか駿東型土師器坏がある。



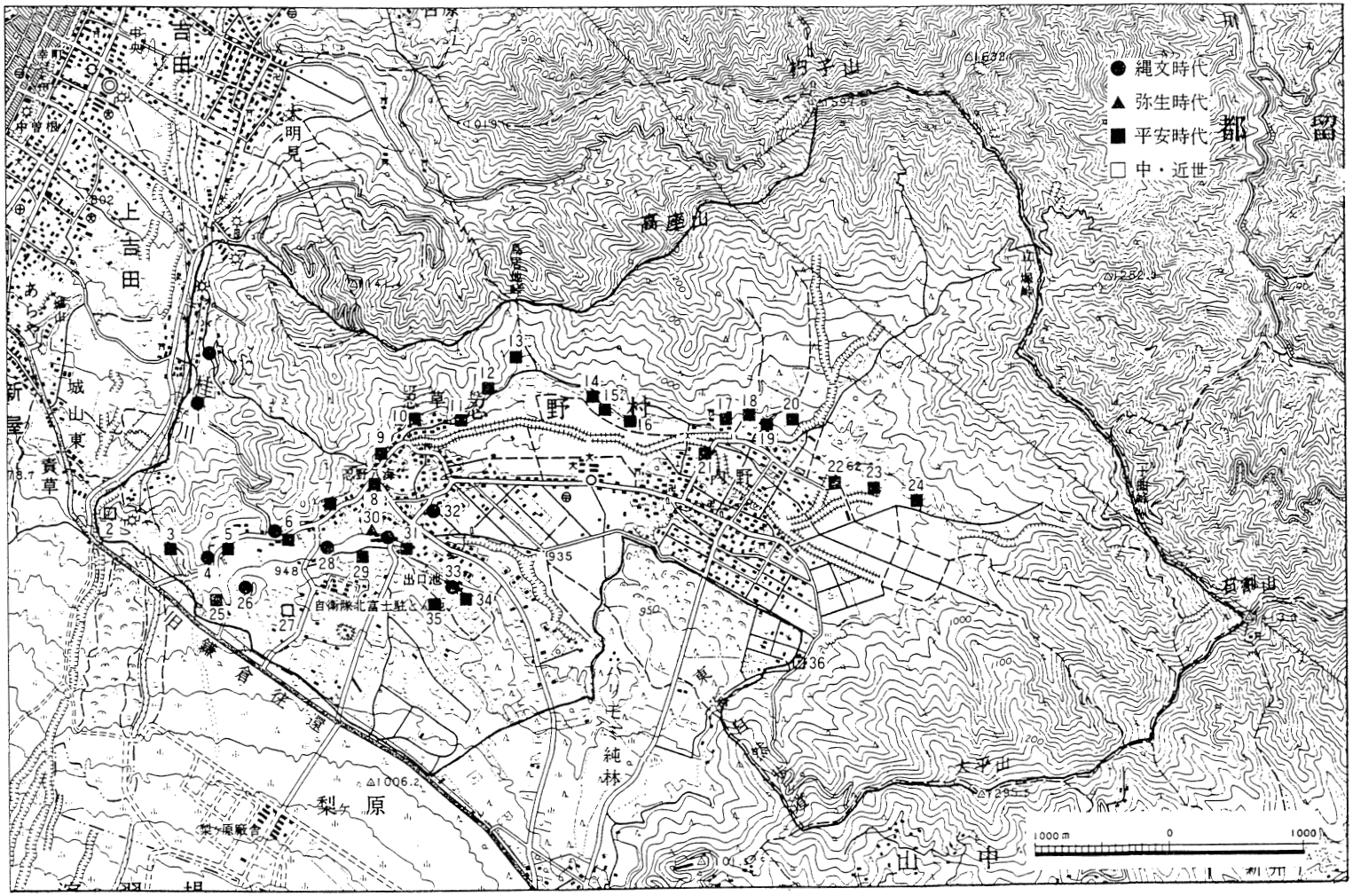
第２図　笹見原遺跡の位置



第３図　笹見原遺跡の位置（拡大図）



第４図　笹見原遺跡の位置と発掘調査区 (1/500)



第５図　忍野村村内の遺跡

第Ⅱ章　　発掘調査の概要

第１節　発掘に至る経緯・調査組織

笹見原遺跡は１９３０年代より地元の人々らの間で、土器や石器などが出土していることがわかっていた。

その後、１９６３年に山梨県教育委員会の遺跡の分布調査で５箇所の遺跡が確認され、次いで１９７２年に同委員会の二回目の分布調査で、前回分と合わせて１８箇所の遺跡が明らかになった。

そして１９８１年、忍野村村誌の編纂事業の一環として、忍野村の埋蔵文化財の基礎資料を作成する必要がでてきた。１９８２年の3月、忍野村教育委員会の委託を受けた都留考古学会が村内の詳細な分布調査に着手することになった。分布調査は3月２０日から3月２８日まで行われた。その結果、以前までに把握されていた遺跡数を合わせ、合計３６箇所の遺跡が確認された。分布調査の報告書のなかでは、笹見原遺跡は「No.１３」として分布登録されており、この段階では平安時代の遺跡と認識されていた（忍野村教育委員会１９８３）。縄文時代の遺跡だとはまだこの時点では判明していなかった。

その後、富士吉田市と忍野村の間にまたがる鳥居地峠に、仮称忍野トンネル（県道山中湖忍野富士吉田線）を建設する工事が計画され、トンネル建設部分で忍野村側の開口部から取り付け道路付近に笹見原遺跡が存在するため、発掘調査をする必要性がでてきた。忍野村教育委員会教育長の故渡辺信喜氏は、秋山村教育委員会の教育長の故原田芳明氏に発掘調査団長の紹介を依頼し、秋山村の真福寺の住職、田中悟道氏を発掘調査団長に迎えることとなった。これにより田中悟道氏を調査団長とする笹見原遺跡発掘調査団が組織され、今回の発掘調査を進行する運びとなった。

発掘調査の結果、平安時代の遺物包含層の下に、良好な縄文時代の早期の包含層が確認され、発掘調査は平成9年（１９９７）の6月より平成１１年（１９９９）の１２月まで3ケ年実施された。

平成9年3月以前、山梨県南都留郡忍野村大字忍草字笹見原１９１９－２番地の土地について「一般道山中湖、忍野、富士吉田線の建設工事」が計画されていた。

笹見原１９１９－２番地の土地周辺が、埋蔵文化財指定地域に該当するために、山梨県文化課の指導により埋蔵文化財の全面発掘調査が必要となった。そこで平成9年3月に都留土木部道路建設課長と忍野村教育委員会教育長の間に「一般道山中湖、忍野、富士吉田線の建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する覚書について」覚書を交換した。文化財保護法５７条の2第1項による発掘の届出が忍野村教育委員会経由で文化庁長官へ提出された。忍野村教育委員会は、平成9年4月より平成１２年3月までの3ケ年にわたる発掘調査を実施した。実質調査面積は、８５６．6㎡である。

なお、「一般道山中湖、忍野、富士吉田線の建設工事」開発に伴う経費は南都留土木事務所「現富士北麓・東部地域振興局都留建設部」で支出した。

調査体制（平成１４年度現在）

笹見原遺跡発掘調査関係組織

調査主体者　　忍野村（村　長　大森一男）
　　忍野村教育委員会（教育長　小山田又三）
総括　　忍野村教育委員会教育課長（教育課長　天野文人）

調査担当　　田中悟道（学芸員）

事務局　　忍野村教育委員会社会教育係長（教育係長　天野勇人）

笹見原遺跡埋蔵文化財発掘調査団

調査団長　　田中悟道

調査主任（兼任）　田中悟道

調査副主任　　湯山伊津恵

笹見原遺跡発掘調査関係組織および発掘調査団に平成９年度から平成１４年度まで関わった人たち

笹見原遺跡発掘調査関係組織

村長	大森一男	H11.8.30～
前村長	三浦玄吾	H9.4.1～H11.8.29
教育長	小山田又三	H13.3.13～
前教育長	天野一正	H11.10.1～H13.3.12
元教育長	渡辺輝喜	H11.1.1～H11.9.30
元教育長	後藤正美	H9.4.1～H10.12.24
教育課長	後藤敏雄	H12.4.1～
前教育課長	渡辺武久	H11.4.1～H12.3.31
元教育課長	渡辺寿久	H9.4.1～H11.3.31
調査団長	田中悟道	H9.5.1～
社会教育係長	長田広斉	H13.4.1～
前社会教育係長	天野　満	H9.4.1～H13.3.31
前社会教育主査	長田歳徳	H9.4.1～H11.3.31
忍野村文化財審議委員	桜井彦寿	H9.4.1
忍野村文化財審議委員	大森欣也	H9.4.1
忍野村文化財審議委員	後藤正美	H11.11.20
忍野村文化財審議委員	湯山二郎	H11.11.20
忍野村文化財審議委員	長田　徹	H11.11.20
忍野村文化財審議委員	天野昇次	H13.3.1
前忍野村文化財審議委員	天野孝治	H11.11.20～H12.11.8
前忍野村文化財審議委員	天野　圭	H9.4.1～H10.3.31
前忍野村文化財審議委員	櫻井敏一	H9.4.1～H11.11.20
前忍野村文化財審議委員	天野正雄	H9.4.1～H11.11.20
前忍野村文化財審議委員	天野守久	H9.4.1～H11.11.20
前忍野村文化財審議委員	渡辺伊佐雄	H9.4.1～H11.11.20

笹見原遺跡埋蔵文化財発掘調査団

調査団長　田中悟道

調査主任（兼任）　田中悟道

調査副主任　湯山伊津恵　天野智子

発掘作業

湯山伊津恵　H9.5～

天野　智子　H9.5～

後藤百合子　H10.5～

後藤　明美　H10.5～

本多　幸子　H10.6～

中村　明美　H10.7～

大迫　陽子　H10.7～

太田　富子　H10.7～

渡辺　礼子　H9.5～H11.7

日向　治子　H9.5～H10.8

今井真保子　H9.5～H10.3

宮田　和子　H9.5～H9.12

鈴木　竜太　H9.5～H9.10

後藤　晴美　H9.5～H9.8

山田　文子　H9.5～H9.7

整理作業

湯山伊津恵　H12.4～

天野　智子　H12.4～

後藤百合子　H12.4～

後藤　清美　H12.4～

本多　幸子　H12.4～

中村　明美　H12.4～

大迫　陽子　H12.4～

太田　富子　H12.4～

第２節　グリッドの設定と基本層序

笹見原遺跡発掘調査範囲内の西側の位置に座標の標高９３７，７８１ｍを起点とするに基準杭を設定した。開発にともなう遺跡崩壊地内に起点から南北の縦線と東西の横線を４m間隔で座標を設置した。そして、４ｍ×４ｍの発掘区に順に発掘区の番号を振った。遺物の注記の五桁の数字の、最初の二桁は発掘区の数字を記入してある。調査の基準区画として調査の円滑な利便性をはかった。（第６図参照）

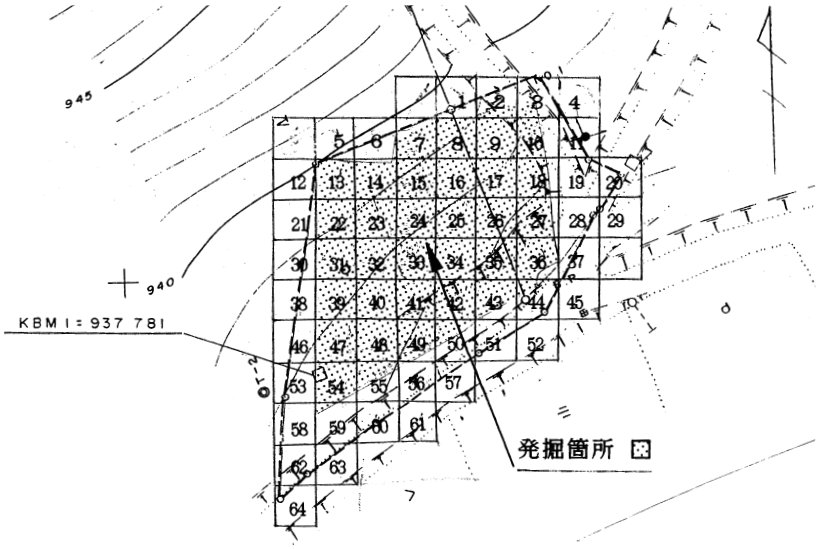
基本土層は上杉層位を基準に第１表のように6層に分類した。表土下の最上層からは平安時代の住居跡を検出した。

さらにその下層のＹ１４１層－3から縄文時代早期の土器片が出土し始め、Ｙ１４１層－２上面では、集石2基を検出した。遺構確認面では8Ⅱ～8Ⅲとされる面である。土器では清水柳Ｅ類、判ノ木山式、田戸上層新段階等が出土している。土器のこの一群のまとまりをもって「上層文化層」と呼ぶことにしている。

次に、Ｙ１４１－1層上面から土坑１１７基、焼土跡8基、集石2基を検出した。遺構確認面では8Ⅳ～9Ⅱとされる面である。土器では縄文・撚糸文・押型文が出土し、より下層からは東山ｂ式が出土している。土器のこの一群のまとまりをもって「中層文化層」と呼ぶことにしている。

そしてＹ１３９～Ｙ１３８層上面から住居跡2基、土坑4基、集石2基を検出した。遺構確認面では9Ⅳとされる面である。住居跡からは無文土器・異方向縄文土器・暗文状沈線文土器が出土している。この住居跡から出土した土器のまとまりをもって、「下層文化層」と呼ぶことにしている。

なお、上杉教授が設定した各層位の詳細については、7章-4の「忍野笹見原遺跡のテフラ層序」を参照していただきたい。



第６図　発掘調査必要範囲

第３節　発掘調査の経過

平成9年6月～１２月

6月 １9日　作業開始後間もなく、土師器出土

7月 １4日　教育委員見学

１6日　底部に木葉痕のツボ出土

１8日　忍野小学生が見学

8月 １2日　住居跡出現　2軒

２1日　県より担当官出月氏来訪　住居跡発掘の指導を受ける

・西側３9区画より南へ土層を見るために、あと2～3層掘り下げるよう指示

２6日　1号住居跡　発掘作業開始　村長、助役、教育長来訪

２7日　西側試掘坑掘り下げ開始

9月　2日　2号住居跡　発掘作業開始

4日　県より田代氏、長沢氏来訪　発掘作業についての助言あり

１1日　1号住居跡の北側を整地中、3号住居跡出現　試掘坑より石皿（？）出土

１8日　南都留地区市町村社会教育担当者会見学

２0日　忍野小学生見学

２5日　県より長沢氏、都留文科大学地質学教授上杉陽氏を伴い来訪

地層調査、サンプル採取

・発掘作業についての助言あり

３0日　県より出月氏、都留土木担当者を伴い来訪　発掘作業終了の打ち合わせ

・西試掘坑より『石器』出土　※このまま終わるわけにはいかない、との話

文化財審議委員来訪

１0月　1日　１3、１4区画から南へ掘り下げ

2日　３4、４2区画掘り下げ中、4号住居跡出現

県より保坂氏来訪、　来年度は縄文草創期か旧石器まで発掘するとのこと

9日　県より長沢、新津両氏来訪　両氏の指導で土層を剥ぎ取り、

土層標本を作る（委員会、天野．後藤）

１0日　１3、１4区画から南へ、1層づつ掘り下げ　石器破片出土（黒曜石、凝灰岩）

１5日　4号住居跡　発掘作業開始

１7日　忍野山中教育協議会社会科部会の先生方見学

１8日　3号住居跡　発掘作業開始

３1日　教育長より、今年度分工期終了の挨拶

・１1月に残務整理をし、あとは来年との話

１1月　4日　縄文層の測量

5日　縄文層の発掘開始

12日　県より出月氏来訪

・冬期は凍るので土を20cmほどかぶせて遺跡を保護するよう指示

・11月末から12月上旬に、まとめの学習会をする

25日　1号住居跡埋め戻し

12月　1日　遺跡埋め戻し終了

2日　出月氏来訪　学習会　（・遺物の整理について　・甲斐型土器について）

平成10年 5月～12月

5月 11日　住居跡保護用土砂除去　～12日

12日　県より末木氏、高野氏来訪

22日　西階段土砂除去　～25日

27日　縄文層保護用土砂除去　～31日

6月　1日　縄文層より水晶の石鏃出土（14区画）

2日　南都留各市町村文化財審議委員見学

4日　平安土層より縄文層まで掘り下げ　～15日

29日　17区画階段脇より土器多数出土

7月 15日　現場昇降用階段作り直し　（9～17区画 → 3～1区画）

20日　東壁の土層測量と土層図作成　35区画より大型土器まとまって出土

23日　末木氏来訪　9区画に集石

・東側に発掘範囲拡張（3,10,18,27,36,44区画）

27日　末木氏、小野氏来訪　17区画、35区画の土器を見てもらう

・拡張部分27区画に現代のゴミ穴（薬莢、プラスティック、菓子袋等出土）

28日　17区画の土器の模様について、県の小野氏よりファックス”絡条体圧痕文”である、とのこと　富士吉田市古屋敷他の拓本や写真が添えられている

8月　4日　末木氏来訪　完形石器出土

7日　集石図面作成　～11日

9月　5日　17区画よりペンダント（？）出土

9日　16区画より土偶（？）土製品出土

17日　23区画より石器出土

22日　南都留市町村社会教育担当者諸氏来訪

24日　末木氏、高野氏来訪

25日　村の教育委員諸氏来訪

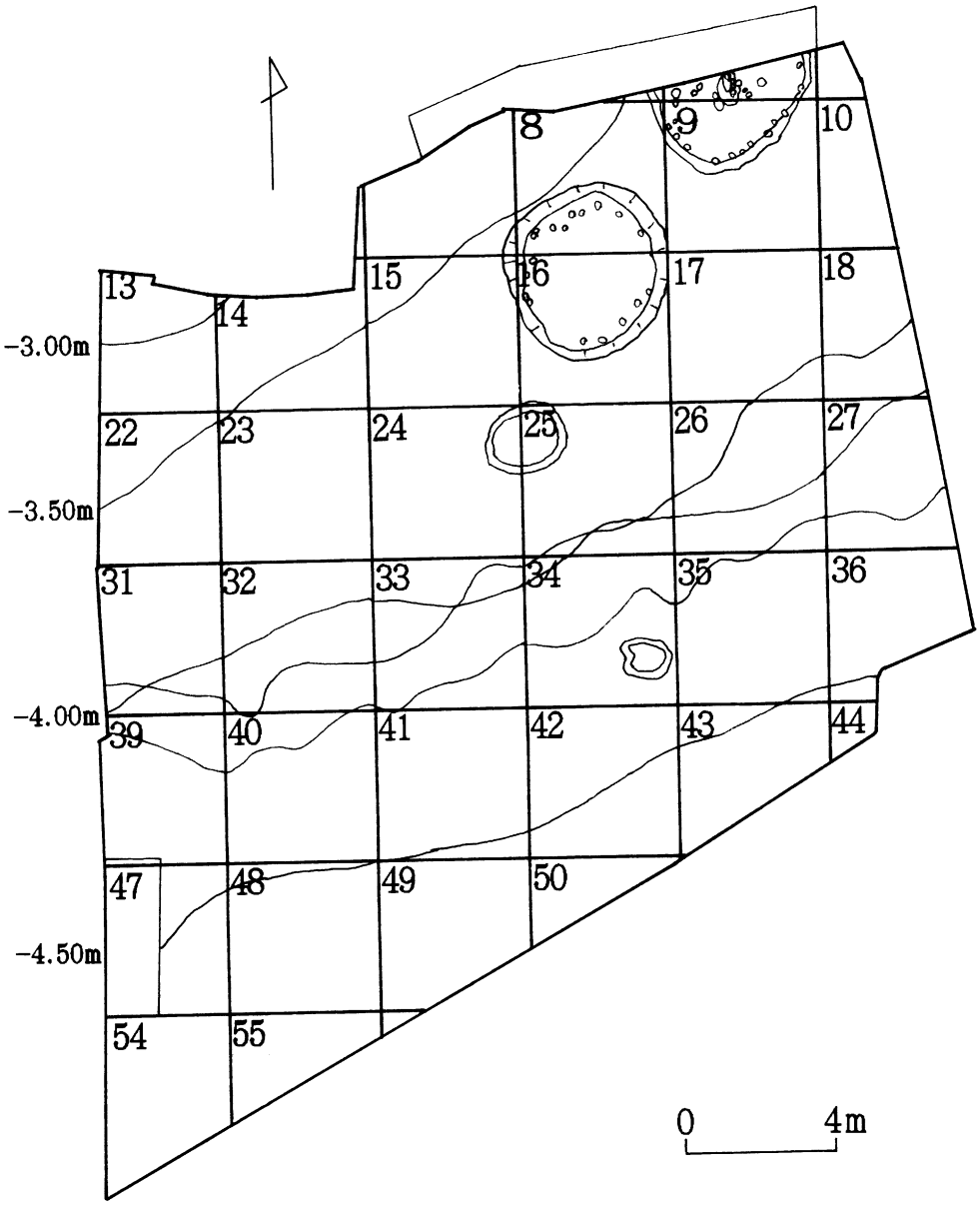
10月　8日　23区画より「木の葉型」の石器出土

20日　末木氏、明治大学学長戸沢充則氏、阿部氏、富士吉田市の布施氏を伴い来訪

戸沢学長より　・石器数点が、限りなく旧石器時代に近いものである
・遺物の取扱いが丁寧で好ましいと言われる
阿部氏より　・土器数点が他に類のない、よいものであると言われる
２９日　土層調査、テーピング　～３０日
県、都留土木各担当官、村長来訪（１２年度も引続き発掘する旨連絡）
１１月　４日　明治大学阿部先生、大学院生５名と富士吉田市の布施氏を伴い来訪
・焼土、土坑の掘り下げ方、図面の書き方等指導を受ける
５日　大学院生と土坑の掘り下げと図面作成
６日　大学院生にトレンチの位置と意義の指導を受ける
７日　県より田代氏来訪
９日　土坑の掘り下げ、図面作成　～１２月 ２日
１１日　末木氏、小野氏、高野氏来訪　教育長、教育課長来訪
１６日　上杉教授来訪　土層調査
１２月　９日　土層断面図作成　～１４日
１４日　主な焼土、土坑に土砂をかぶせて保護

平成１１年５月～１２月
５月　６日　冬の間に積もった土砂、保護用土砂の除去　～１３日
１４日　区画鋲打ち直し
１７日　土置場掘り下げ
１８日　西トレンチの拡張（トレンチ1）　～２０日
２０日　等高線測量　１５区画より南へトレンチ　２掘り下げ
２１日　トレンチの図面、焼土の図面作成　石器出土（１７区画）
２５日　昨年の土層図面修正
３１日　トレンチ３掘り下げ
６月 １４日　トレンチ４掘り下げ
２１日　忍野山中教育協議会社会科部会の先生方見学
２３日　焼土及び２５～３６区画の遺物群の図面作成
７月　７日　末木氏、小野・高野両氏を伴い来訪
９日　トレンチ３より石器、土器等多数出土
１５日　東京都杉並区の小学生が見学
２１日　トレンチ３の平面図（遺物出土状況）作成
８月　５日　４２区画より磨製石器出土
１３日　杉並区の小学生が見学
１７日　３５区画より磨製の石英出土

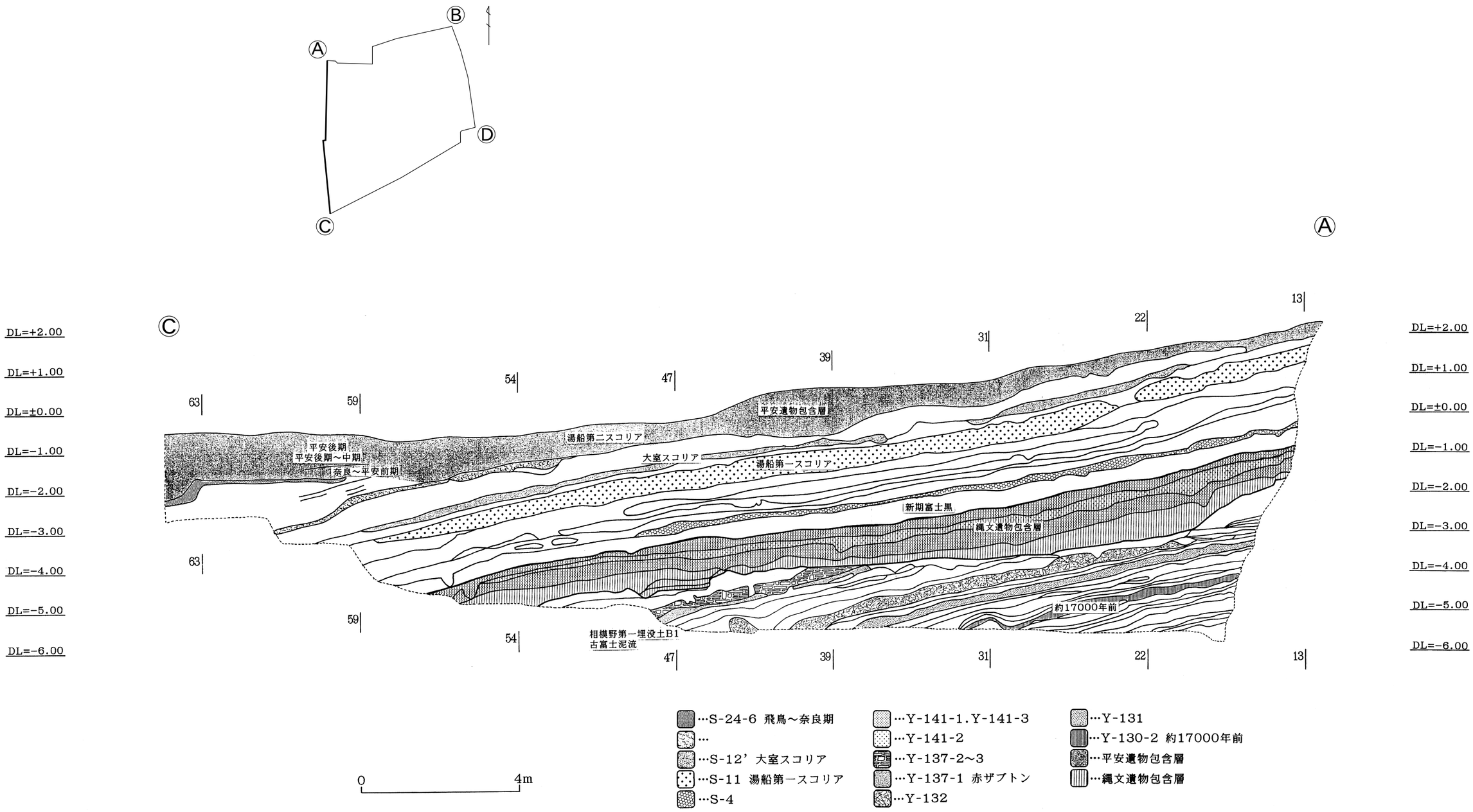
１８日　末木氏来訪　遺物を見ていただく　勝俣先生他河口湖町の先生方見学
上杉教授より土層の報告書届く
２５日　出月氏他1名来訪
２６日　9区画より年輪のはっきりした炭出土
9月　3日　１６区画に住居跡出現（1号住居跡）
4日　２６区画大土坑より磨製石器出土
8日　9区画に住居跡出現（2号住居跡）
１０月　4日　２４区画に石皿と石器群　３４区画に土器群出土
6日　1号住居跡及び2号住居跡、発掘開始
１６日　1号住居跡西壁際より磨石数個出土
１８日　スコリア帯（２７～３９区画）図面作成
（スコリアはＹ－１３７.上杉教授１０／１５診断）
２２日　1号住居跡図面作成
２７日　末木氏、高野氏来訪　遺物と住居跡を見てもらう
３０日　遺跡の航空写真撮影
１１月　4日　村長以下三役来訪
5日　今年度発掘分の土層図加筆
9日　村議会議員諸氏来訪
１２日　上杉教授来訪、土層調査　県より長沢氏、保坂氏来訪
１７日　忍野小学校6年生見学
１１月１９日　忍野中学生３０数名見学
１２月　6日　東側トレンチ、2号住居跡の下掘り下げ
7日　東トレンチ土層図面作成
１５日　終了宣言　遺物かたづけ


8
9
10
13
14
15
16
17
18
-3.00m
22
23
24
25
26
27
-3.50m
31
32
33
34
35
36
-4.00m
39
40
41
42
43
44
47
48
49
50
-4.50m
54
55
0
4m

第７図　グリッド設定図

上杉氏による層位	特記事項	土器文化層	土器群の内容		遺構の内容	遺構確認面	備考
	平安時代の面				住居跡４基		
141層－３	縄文遺物出始め						
141層－２	風化帯	上層文化層（141層－２上面）	北東 清水柳Ｅ類 中部高地系土器群	南西 判ノ木山 西式 田戸上層 新段階	土坑多数 焼土多数 集石２基（８Ⅱと８Ⅲ）	８Ⅱ～８Ⅲ	
141層－１ 140層（よごれローム）	風化帯	中層文化層（141層－１上面）	縄文 撚糸文 押型文 無文１ （下方より東山ｂ式）		土坑117基（８Ⅳ） 焼土８基（９Ⅰ） 集石２基（９Ⅱ）	８Ⅳ～９Ⅱ	
139層						９Ⅲ	
138層 地山		下層文化層（138層上面）	無文 異方向縄文 暗文状沈線文		住居跡２基（９Ⅳ） 土坑４基（９Ⅳ） 集石２基（９Ⅳ）	９Ⅳ	土器は住居跡２基出土以外は中層文化層とした。

第１表　上杉陽氏の層位・土器文化層・遺構確認面の相互関係



第８図　笹見原遺跡の基準層位（西壁）(1/100)

第Ⅲ章　　縄文時代早期検出遺構

第１節　９ Ⅳ層の遺構

上杉層位の１３８層上面に相当する。住居跡２基、土坑４基、集石２基を検出した。それぞれの遺構は上杉層位１３８層の地山を掘り込んでいる。住居跡からは無文土器・異方向縄文土器・暗文状沈線文土器が出土している。石器は磨石類が住居跡から出土している。土坑からは土器片の他に削器、石皿が出土した。なお、土坑６より黒曜石破片が７０点ほど出土した。

縄文時代早期住居跡　１号住居跡について

この住居跡は、平面図グリッドNo.１６の土層No.２３（Ｙ－１３９）から発見された。

地形が北から南に傾斜し、宇津湖畔に面する、住居跡壁面南西の部分に柱穴がなく入り口と考えられる。湖畔に向いて入り口があり、竪穴住居跡壁面にそって住居跡内を柱穴が１８個内周するかたちで発見した。北西部壁面には柱穴が２重に掘られていた。住居跡内のテラス状の施設を設置する柱跡かもしれない。炉跡らしきものは発見されなかった。

焼土らしきものも発見できなかった。

床面が土層No.２０（Ｙ－１３７－１）通称「赤ザブトン」といわれる火山性スコリアのために柱穴をしっかり掘り込むことができず浅い柱穴であった。住居跡内の出土遺物の縄文土器片は押型文系土器（３３）ほか土器片５８個で少なかった。住居跡の形態は楕円形の長軸４ｍ深さ３０ｍ程度の竪穴住居跡である。

縄文時代早期住居跡　２号住居跡について

この住居跡は、平面図グリッドNo.９の土層No.２３（Ｙ－１３９）から発見された。

地形は北から南に傾斜する宇津湖畔に面する場所である。１号住居跡の北東部山側に発見された。住居跡の半分は地中に残る状態で発掘された。表土より－５，６ｍ下の地層から発見された住居跡なために除去作業が不可能だからである。１号住居跡と形状は同じであった。壁面にそって柱穴が「大きい柱穴・小さい柱穴・小さい柱穴」というパターンで内周するかたちで発見した。住居跡中央部分に炉跡があり、焼土の中に尖底土器の乳頭状底部の大きさ位の小穴を１３個確認した。炉跡のそばに５個の大小の柱穴を確認した。

土層No.１５（Ｙ－１３２）からNo.１４（Ｙ－１３１）が床面となる、楕円形の長軸約４ｍ、深さ２～３０ｍの竪穴住居跡である。火山性スコリアにより柱穴の掘削が難しく柱穴は浅かった。炉跡の部分は数回にわたり使用されたようで焼土が堆積層をなしていた。住居跡内出土土器片６８個、黒曜石片１２個が出土した。１，２号住居跡の差違は炉跡の有無、土器片違いがある。しかし、発見土層面はほぼ同一で、住居跡間隔は約２ｍ程度の距離で遺構が出土した。出土炭化物はリンゴ属～ナシ属、キハダ、ミズキ、オニグルミ、などが出土している。２号住居跡内出土炭化物試料「リンゴ

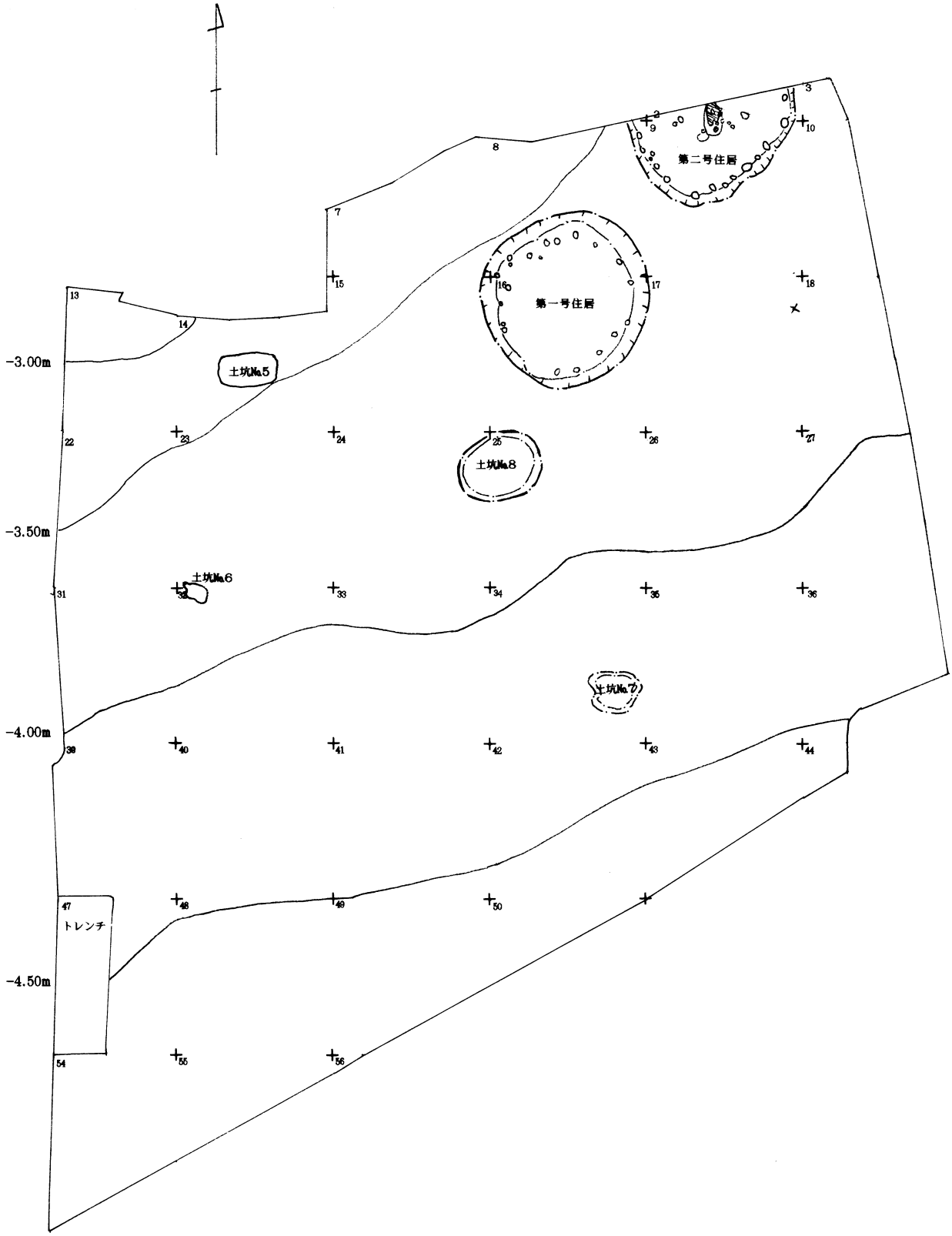
属～ナシ属」の放射性炭素年代測定結果は９２４０±３０ BP であった。

第２節　８Ⅳ～９Ⅱ層の遺構

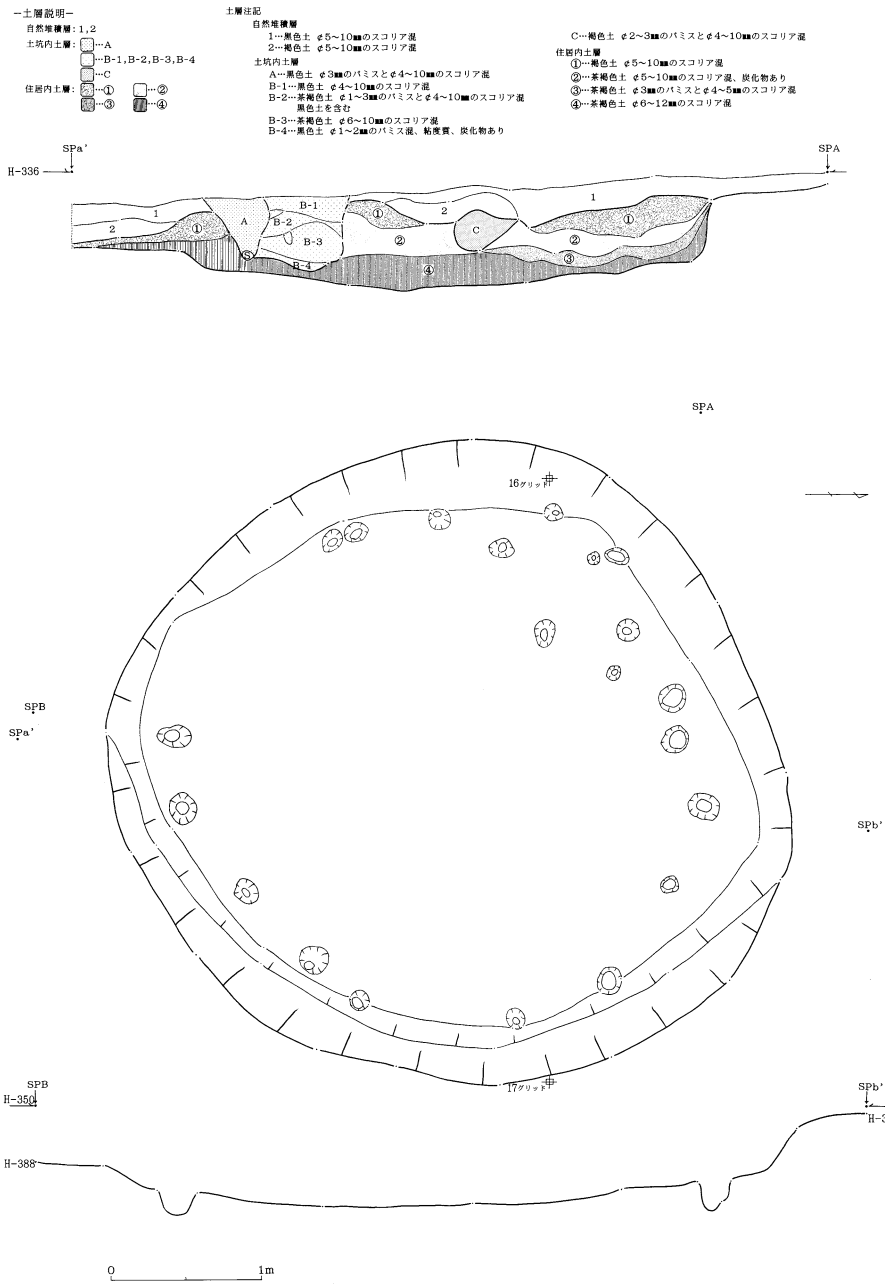
上杉層位の１４１－１層に相当する。土坑１１７基、焼土跡８基、集石２基を検出した。土坑は、①石器と土器の出土した土坑、②土器のみ出土した土坑、③石器のみ出土した土坑、④焼土をともなった土坑、⑤何も出土しなかった土坑、に分類し図示してある。土坑からは凹基鏃が１点出土したのみである。

第３節　８Ⅱ～８Ⅲ層の遺構

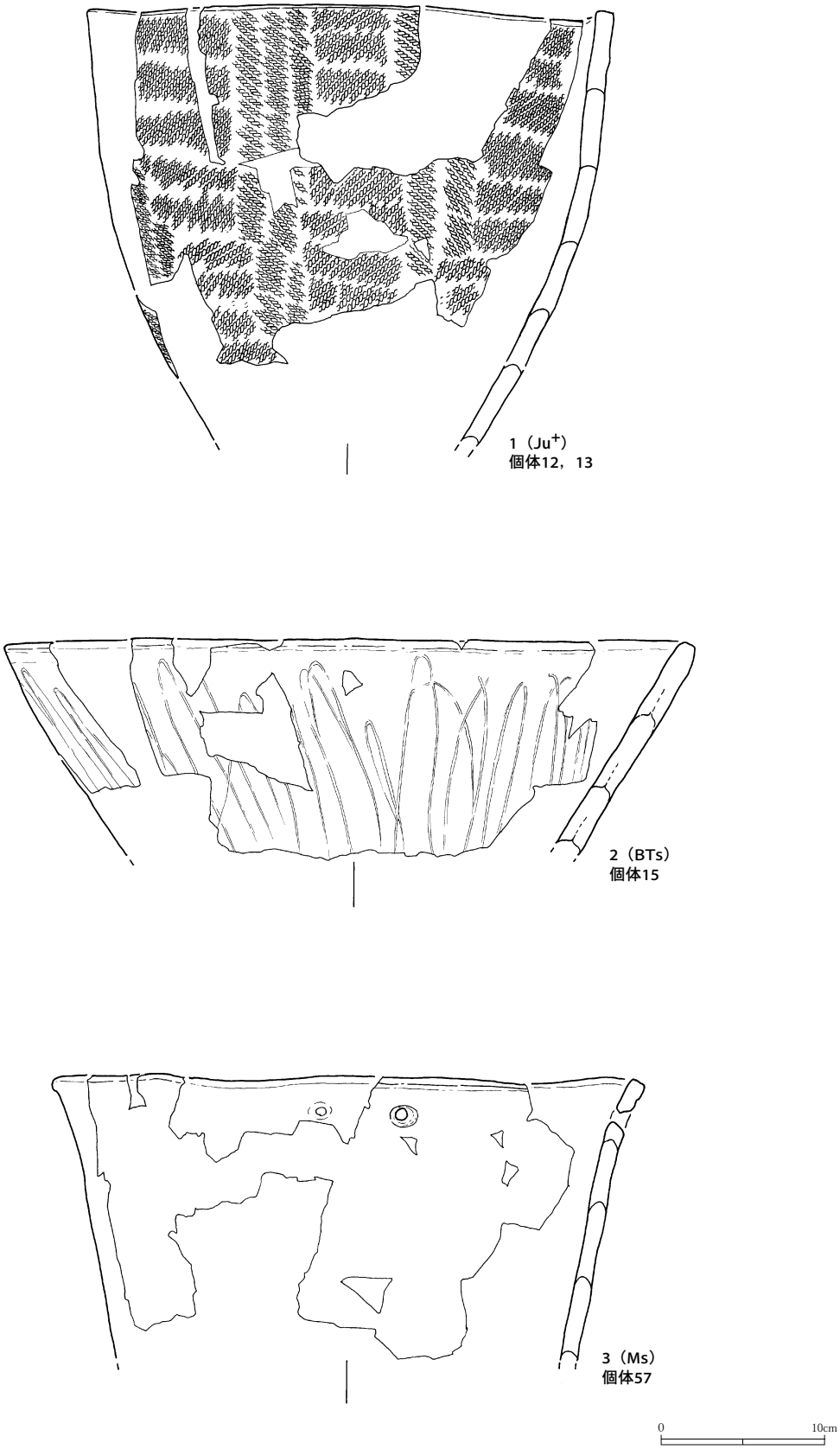
集石２基を検出した。他に土坑と思われる遺構を数基検出したが、遺構の性格を明確にすることができなかった。



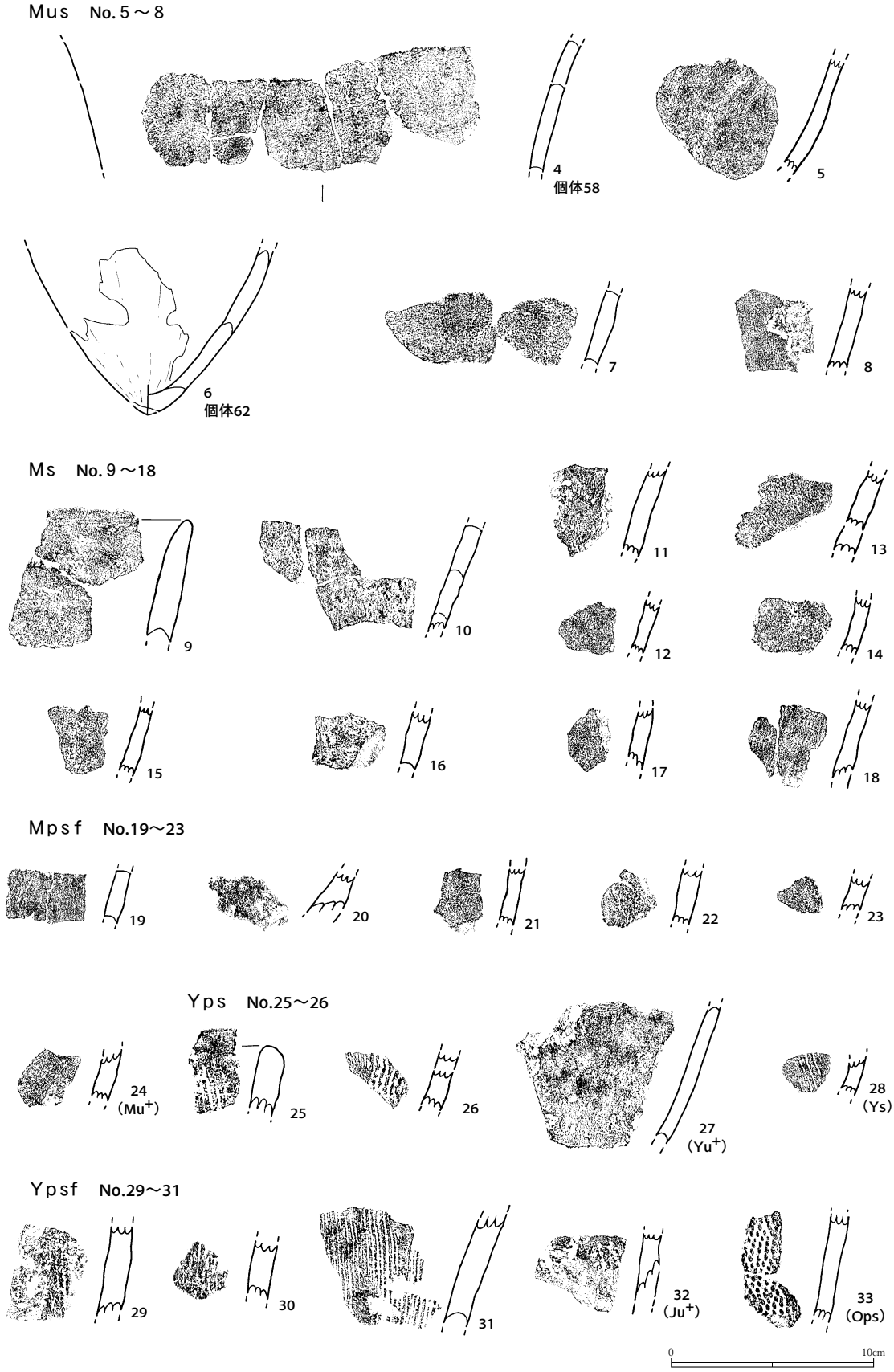
第９図　９Ⅳ層住居跡、土坑分布図 (1/150)



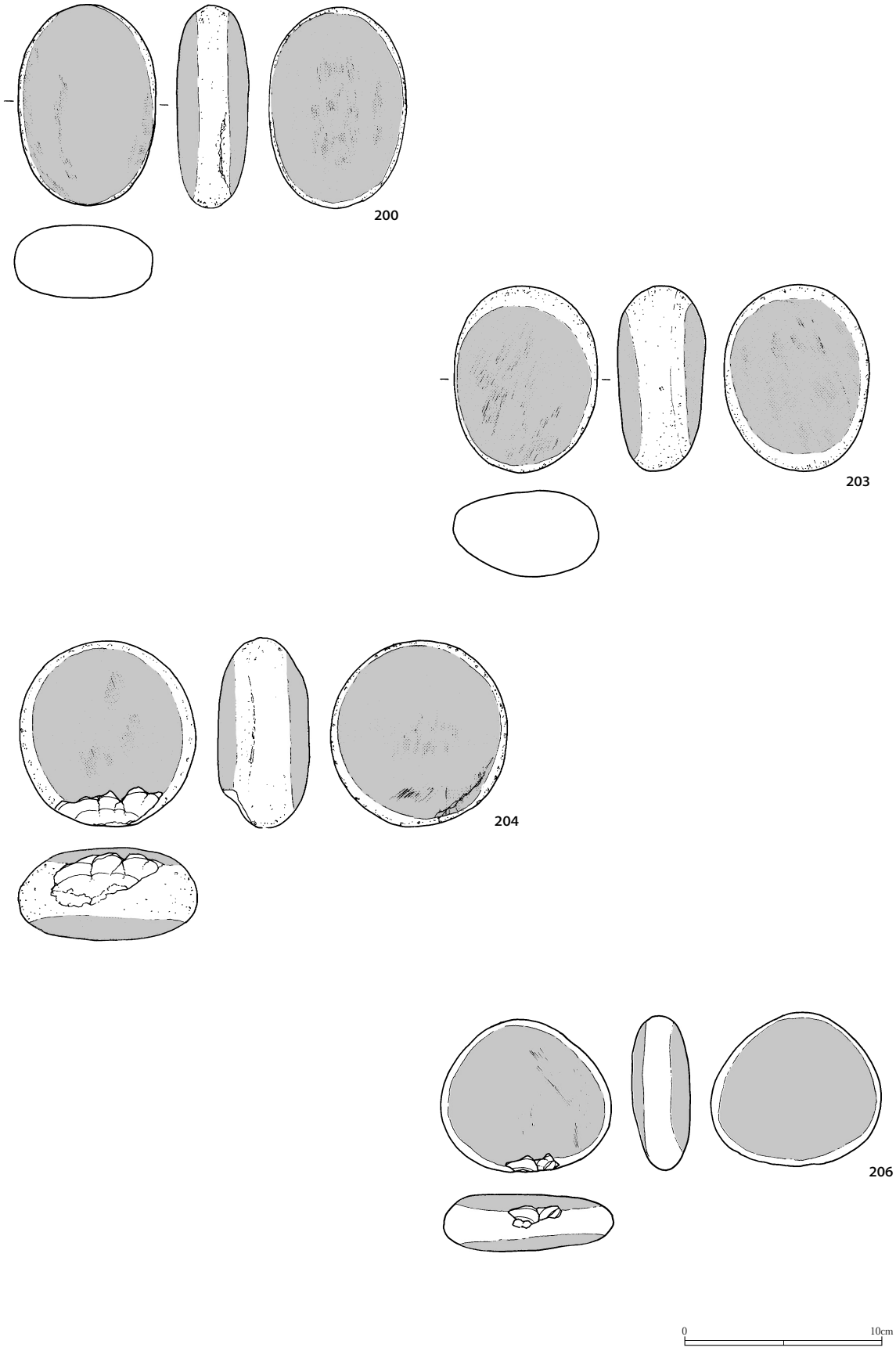
第10図　1号住居跡平面図 (1/50)



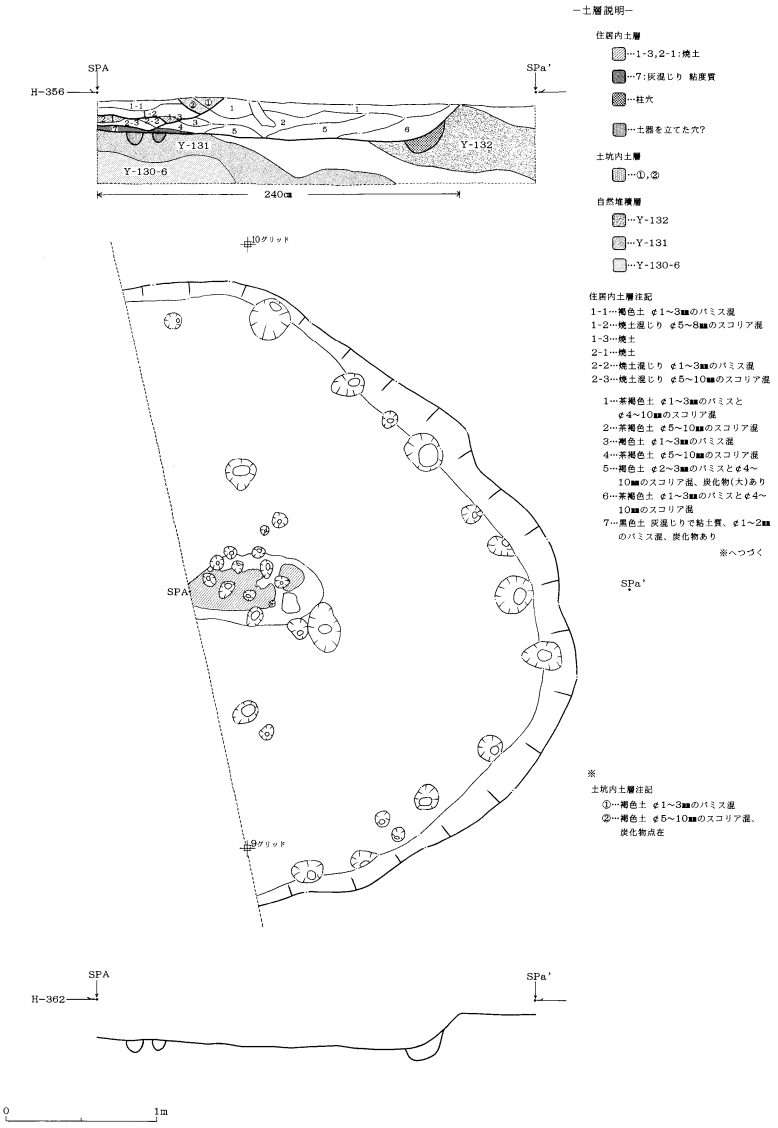
第 11 図　1 号住居跡、2 号住居跡出土接合土器 (1/4)



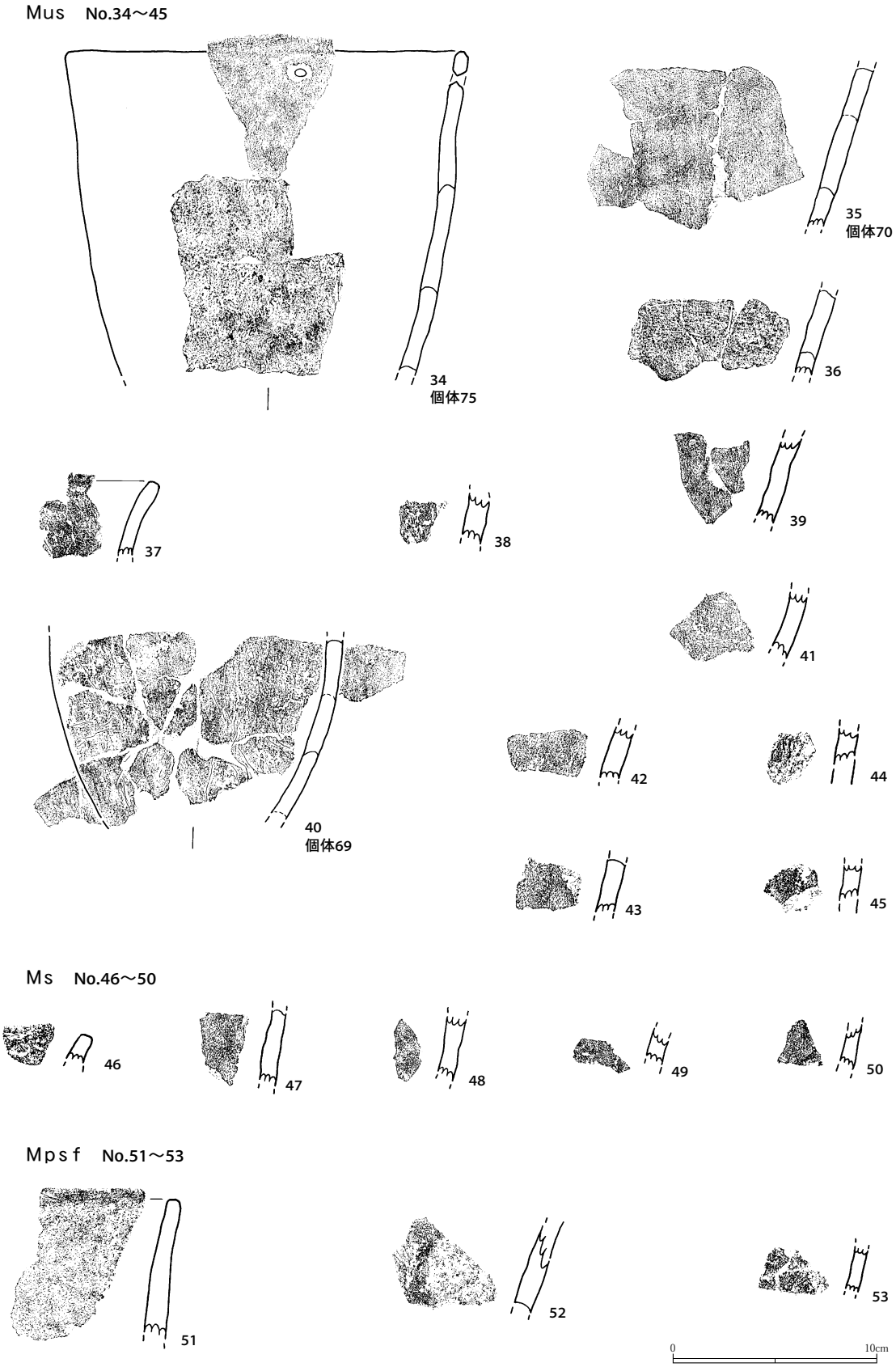
第12図　1号住居跡出土土器 (1/3)



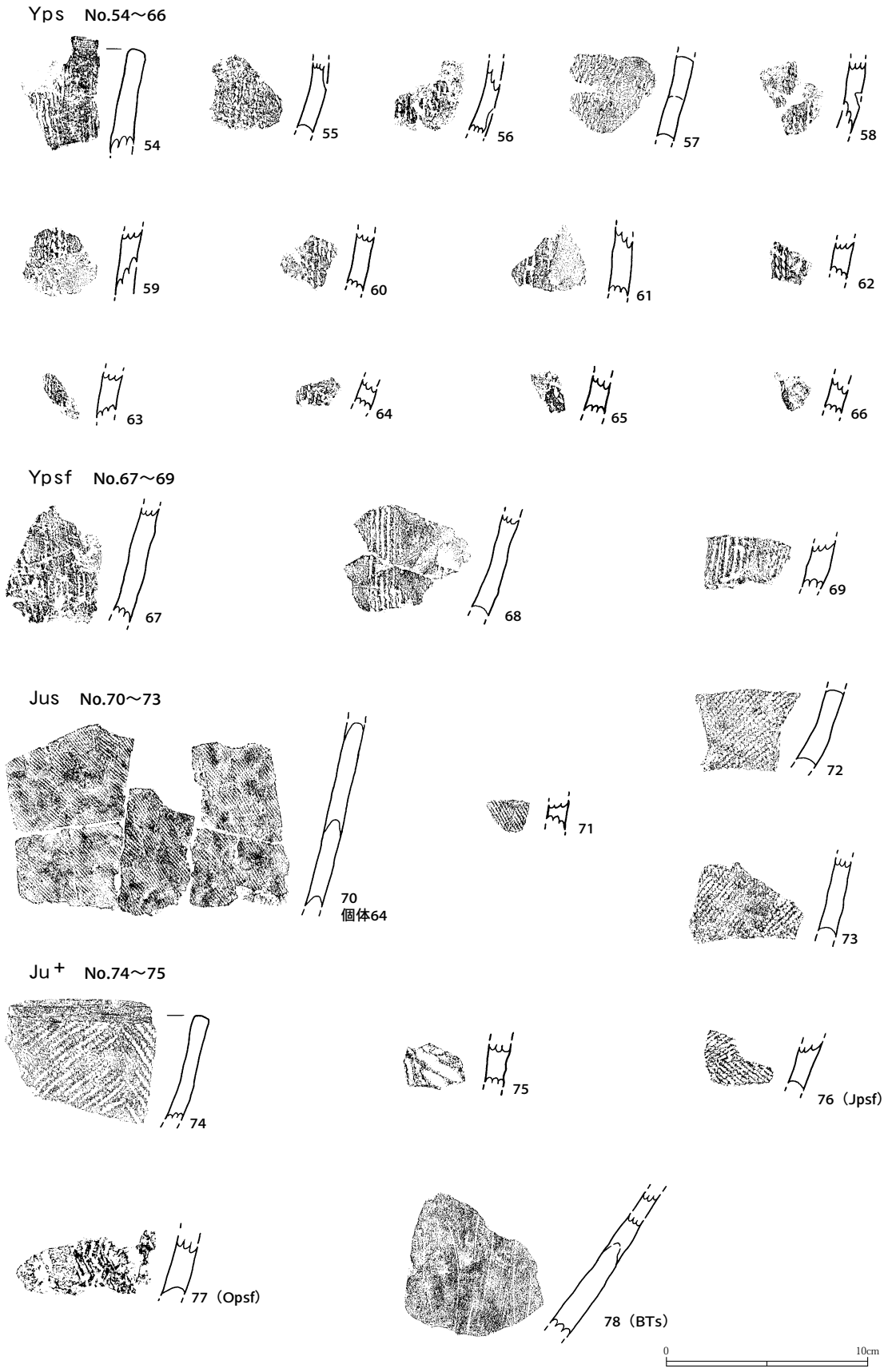
第 13 図　1 号住居跡出土石器 (1/3)



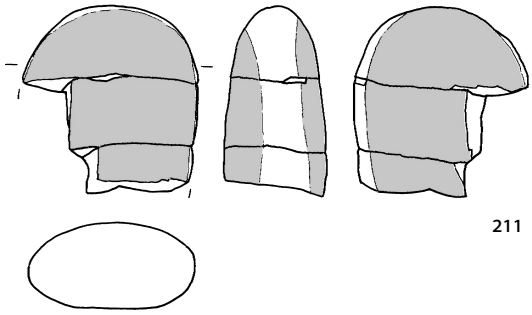
第14図　2号住居跡平面図 (1/50)

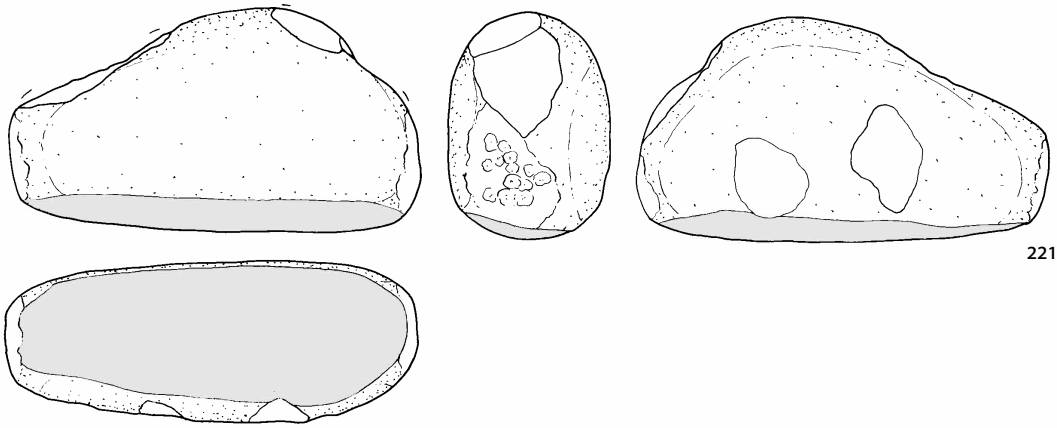


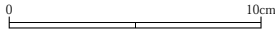
第 15 図　２号住居跡出土土器（１）(1/3)



第16図　２号住居跡出土土器（２）(1/3)

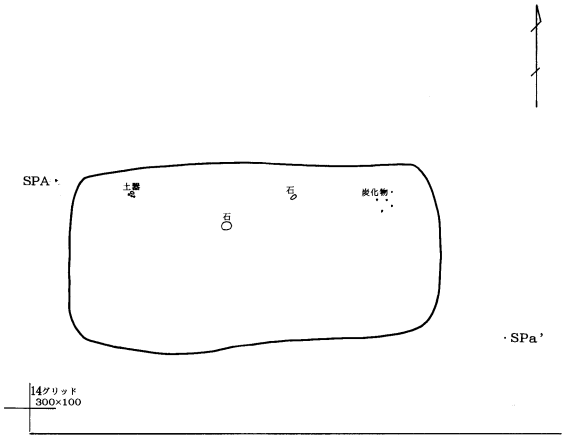




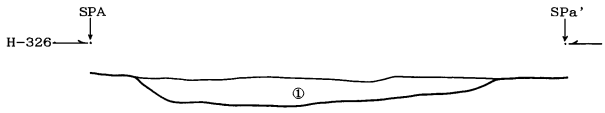


第 17 図　2 号住居跡出土石器 (1/3)

平面図　9Ⅳ－No. 5



断面図



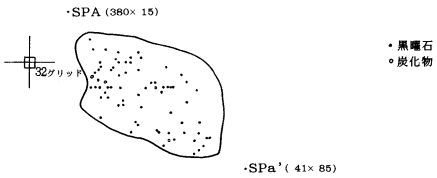
－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ8～15㎜のスコリア混)

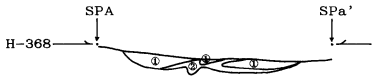
0　50cm

平面図　9Ⅳ－No. 6

黒曜石が70点出土している



断面図



－ 土層注記 －

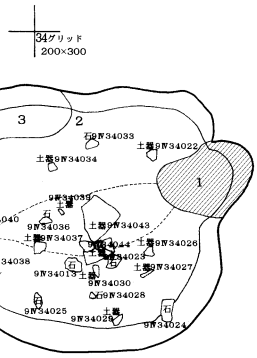
① 1層 黒色土 (φ1～2㎜のパミス混)
② 2層 茶褐色土 (φ3㎜のパミスとφ4～5㎜のスコリア混)

※ 黒曜石70点、炭化物4点出土

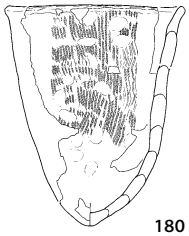
0　50cm

第18図　9Ⅳ層土坑No. 5， 6 (1/30)

平面図　9Ⅳ－No. 7



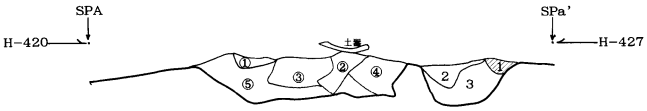
－平面図注記－
1. 焼土
2. 茶褐色土(φ2～3㎜のパミス混、φ5～7㎜のスコリア混、炭混)
3. 黒色土(φ2～3㎜のパミス混、φ5～7㎜のスコリア混少量)
4. 茶褐色土(φ3～4㎜のパミス混)



180
個体37（D）

0　10cm

断面図



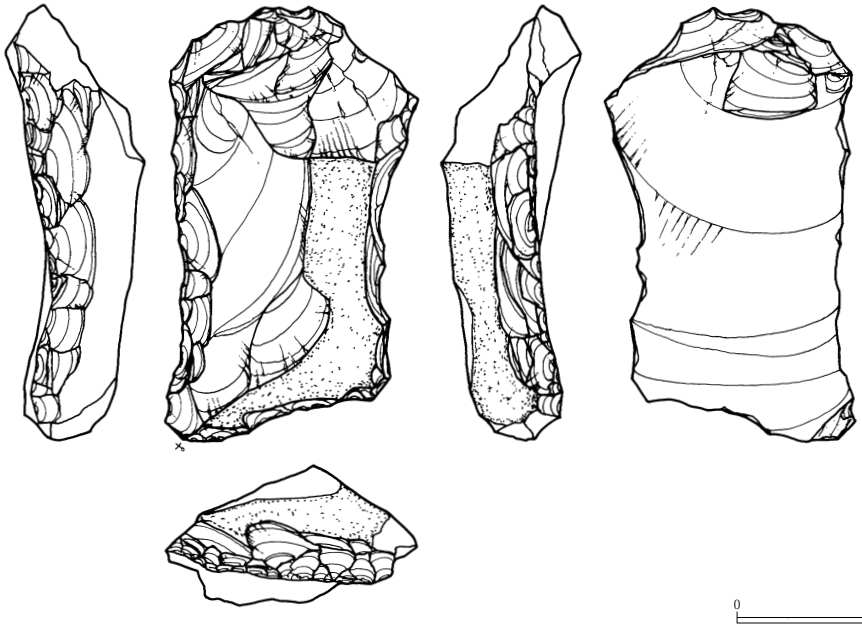
9Ⅳ34029

0　5cm

－ 土層注記 －
① 1層 黒色土(φ2～3㎜のパミス混)
② 2層 赤褐色土(φ3～4㎜のパミス混)
③ 3層 褐色土(φ2～4㎜のパミス混、φ6～10㎜のスコリア混)
④ 4層 褐色土(φ2～3㎜のパミス混、φ5～7㎜のスコリア混少量)
⑤ 5層 茶褐色土(φ3～5㎜のパミス混、φ6～10㎜のスコリア混極少量)

－焼土土層注記－
1. 1層 焼土
2. 2層 茶褐色土(φ2～3㎜のパミス混、φ5～7㎜のスコリア混少量)
3. 3層 褐色土(φ2～3㎜のパミス混、φ6～10㎜のスコリア混少量)

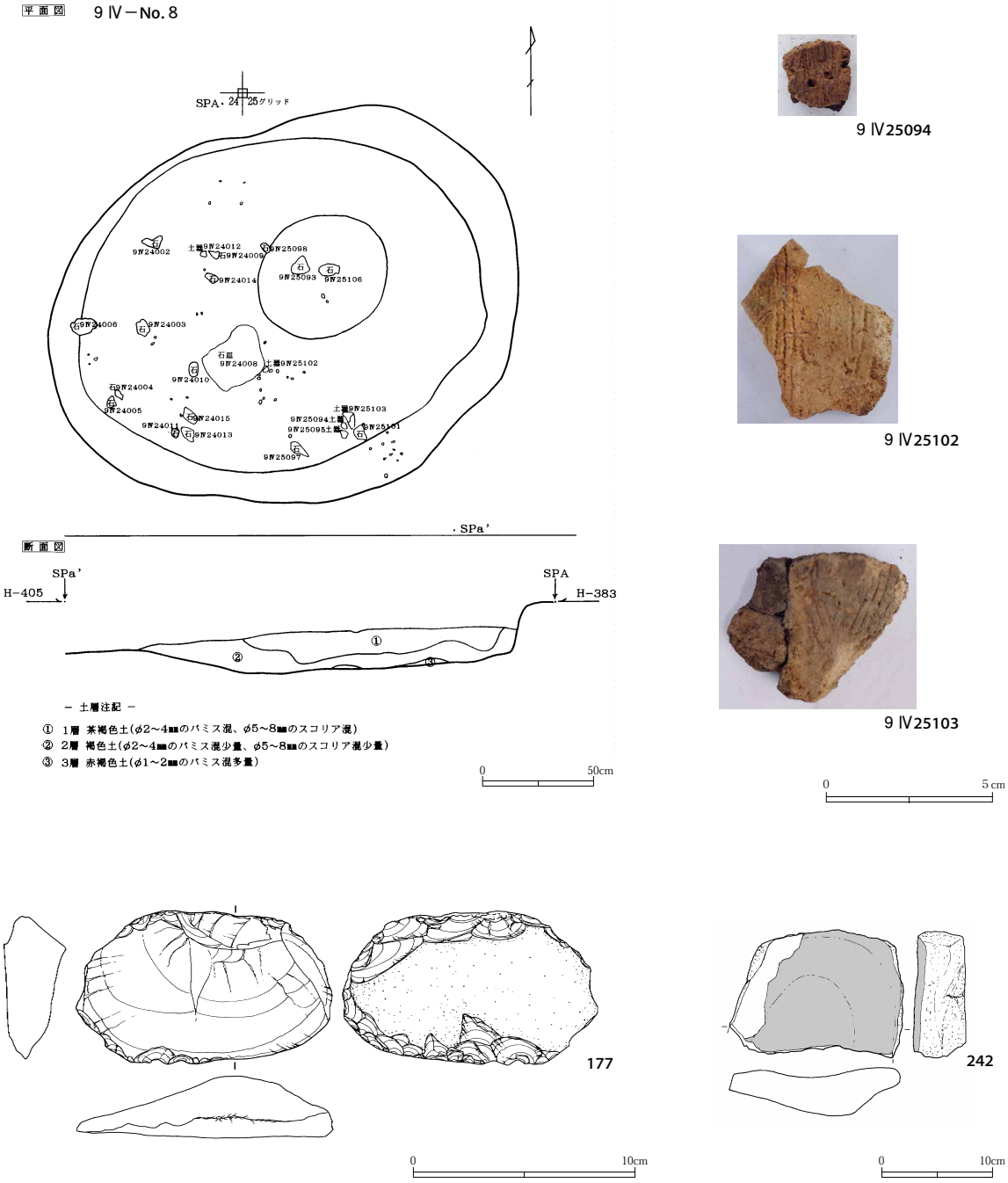
0　50cm



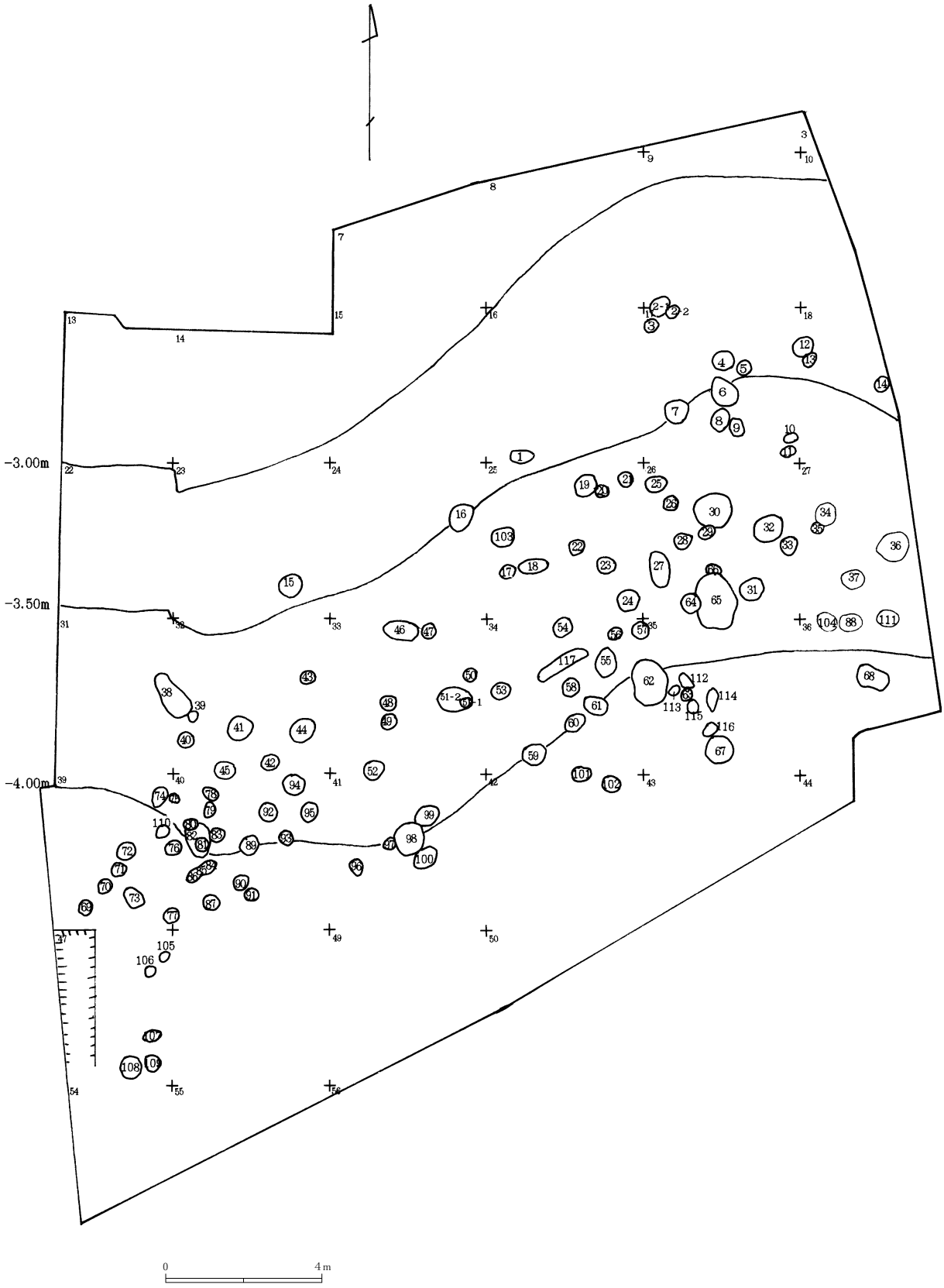
160

0　5cm

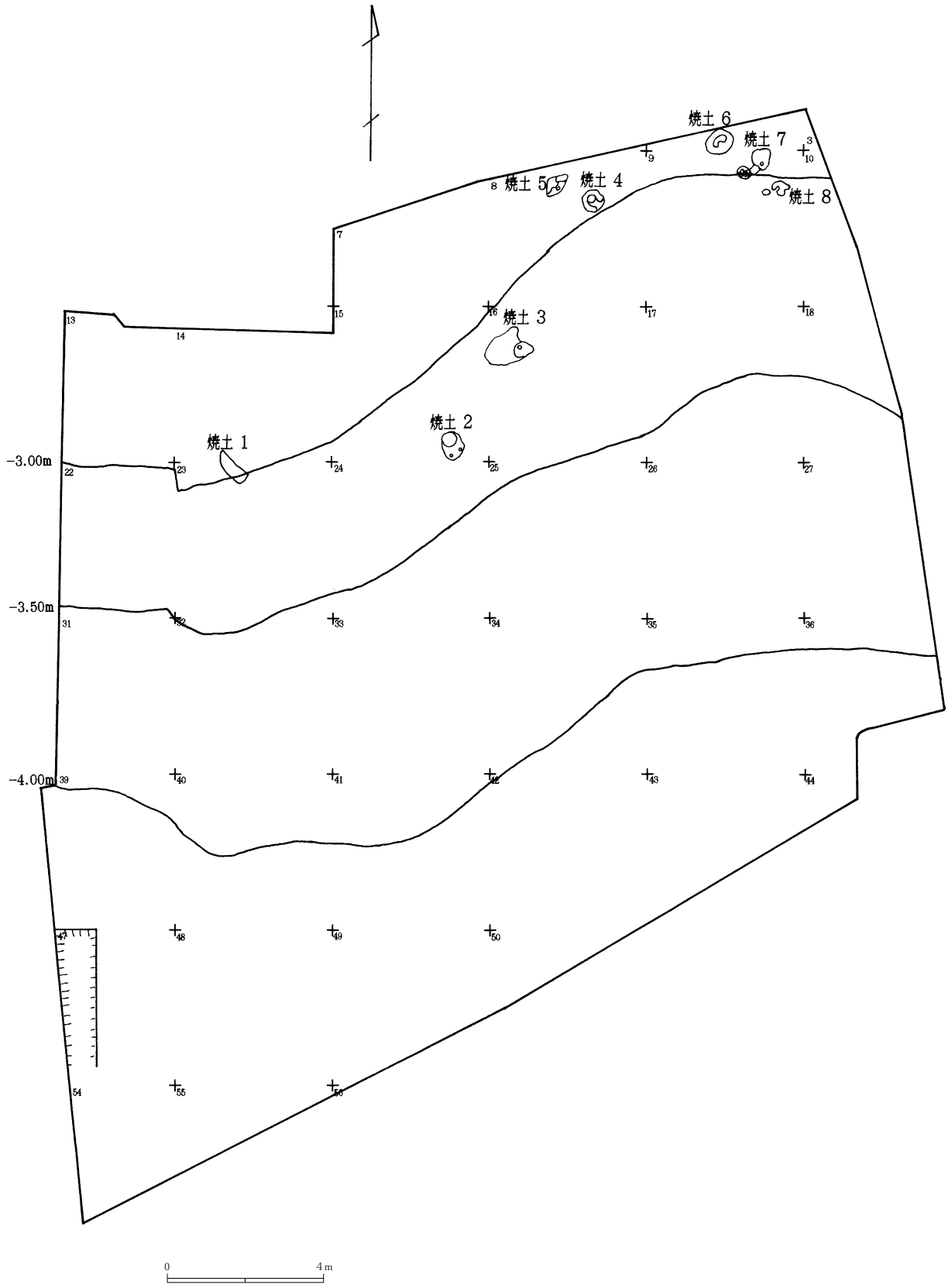
第19図　9Ⅳ層土坑No. 7（1/30）



第 20 図　9Ⅳ層土坑 No. 8 (1/30)



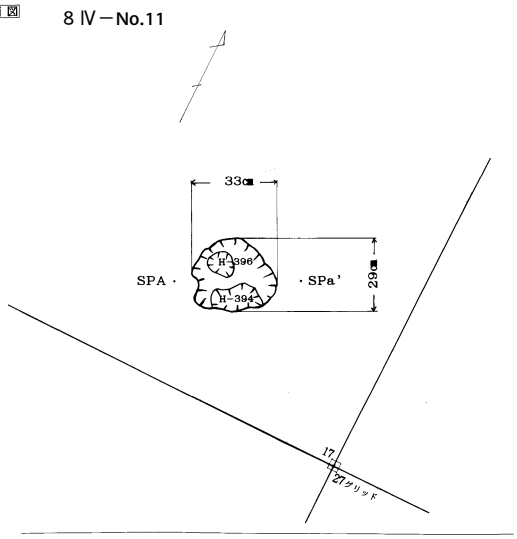
第 21 図　8 Ⅳ層土坑分布図 (1/150)



第 22 図　9 Ｉ層焼土分布図 (1/150)

石器と土器の出土した土坑

平面図　8Ⅳ－No.11

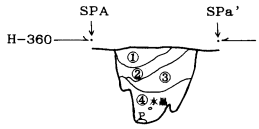


水晶の小剥片が出土

8Ⅳ17009

0　5cm

断面図

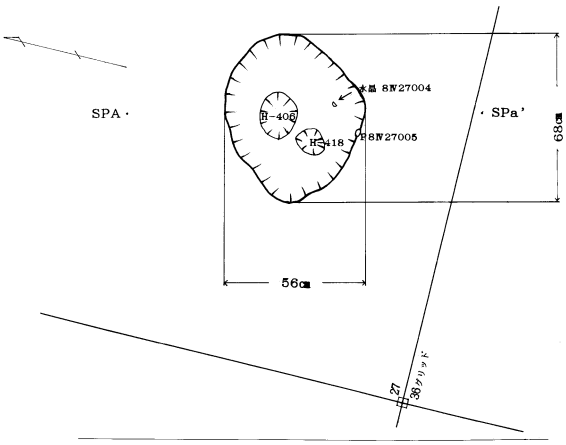


－ 土層注記 －

① 1層 黒色土
② 2層 黒色土(φ2～3mmのパミス混、茶色がかっている)
③ 3層 黒色土(φ5～7mmのスコリア混、②より明るめ)
④ 4層 黒色土(φ5～10mmのスコリア混、多量)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.37

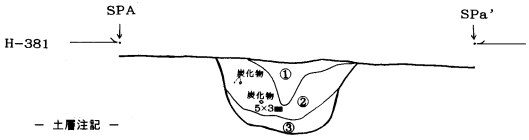


水晶の破片が出土

8Ⅳ27005

0　5cm

断面図



－ 土層注記 －

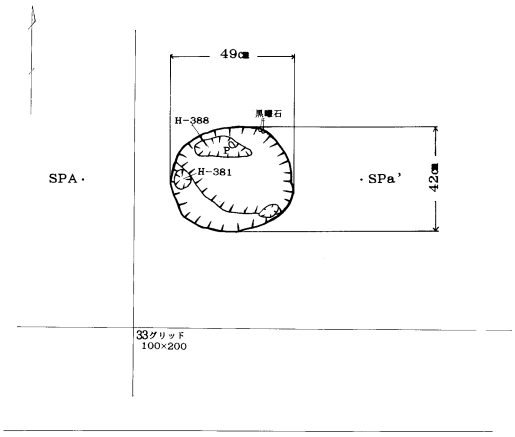
① 1層 黒色土(φ5～8mmのスコリア少量)
② 2層 黒色土(φ5～8mmのスコリア少量、1層より茶色く炭化物が認められる)
③ 3層 茶褐色土(パミス少量)
※ 土こうの表面に水晶と土器が認められる

0　50cm

第23図　8Ⅳ層土坑No.11，37（石器・土器出土）(1/30)

平面図　8Ⅳ－No.47

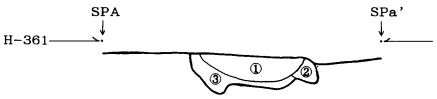
黒曜石の剥片が２点出土



8Ⅳ33012

0　5cm

断面図

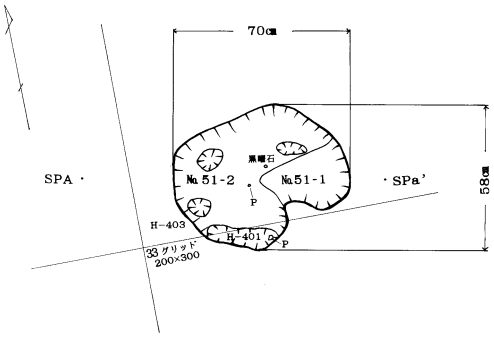


－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ1～2mmのパミスとφ5～10mmのスコリア少量、やや茶色)
② 2層 黒色土(φ1～2mmのパミス少量、1層よりやや茶色)
③ 3層 茶褐色土(φ2～3mmのパミス混)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.51

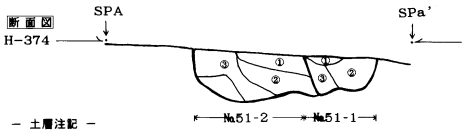


8Ⅳ33009

8Ⅳ33010

0　5cm

断面図

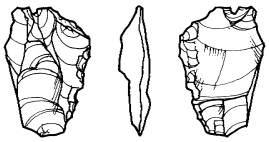


－ 土層注記 －

土こうNo.51-1
① 1層 黒色土
② 2層 黒色土(スコリア混)
③ 3層 黒色土(スコリア大、混)

土こうNo.51-2
① 1層 暗褐色土
② 2層 褐色土(スコリア大、混)
③ 3層 黒色土
④ 4層 茶褐色土(スコリア大、混)

0　50cm

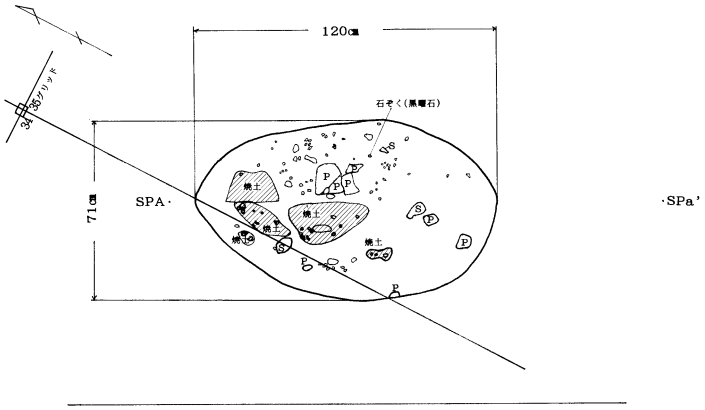


280

0　5cm

第24図　8Ⅳ層土坑No.47，51（石器・土器出土）(1/30)

平面図　8Ⅳ－No.62



319
個体19，26

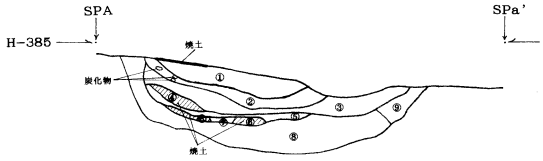
0　10cm

8Ⅳ35022

8Ⅳ35024

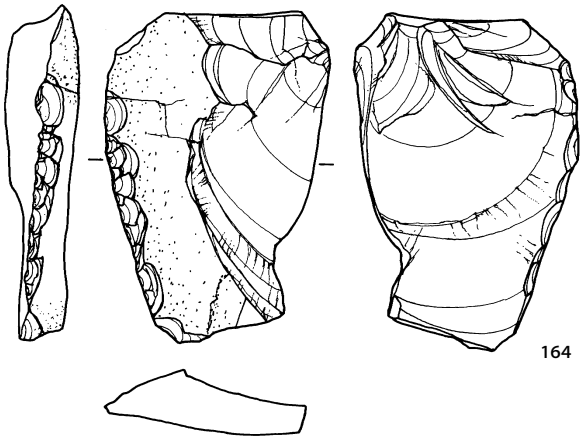
0　5cm

断面図



－ 土層注記 －
① 1層 黒色土(φ1～2mmのパミス少量混入)
② 2層 黒色土(φ2～3mmのパミス少量混入、炭化物が数ヵ所見られる)
③ 3層 褐色土(φ1～2mmのパミス混入)
④ 4層 焼土層(炭化物を多量に含む)
⑤ 5層 黒色土(炭化物を多量に含む)
⑥ 6層 焼土層
⑦ 7層 黒色土(焼土混じり)
⑧ 8層 茶褐色土(φ6～10mmのスコリア多量混入)
⑨ 9層 黒色土(φ3mmのパミス混入)
※ 多数の炭化物が点在し、それを囲む様に幾つかの焼土層が確認される

0　50cm



164

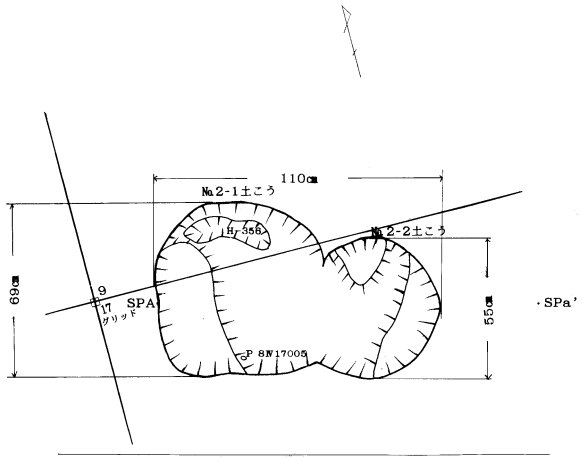
272

0　5cm

第25図　8Ⅳ層土坑No.62（石器・土器出土）(1/30)

土器のみ出土した土坑

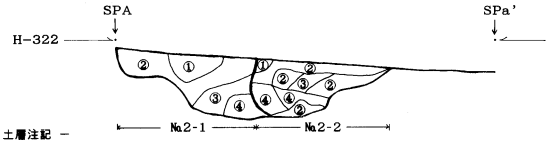
平面図　8Ⅳ－No. 2



437

0　5 cm

断面図



－ 土層注記 －

土こうNo.2-1

① 1層 黒色土(φ1～2mmのパミス混少量)

② 2層 黒色土(φ4～5mmのスコリア混)

③ 3層 黒色土(φ1～2mmのパミス混　1層より多く茶色で堅い)

④ 4層 黒色土 (φ8～10mmのスコリア混)

土こうNo.2-2

① 1層 黒色土(φ1～2mmのパミス混少量)

② 2層 茶褐色土(φ4～5mmのスコリア混　1層より多く、堅い)

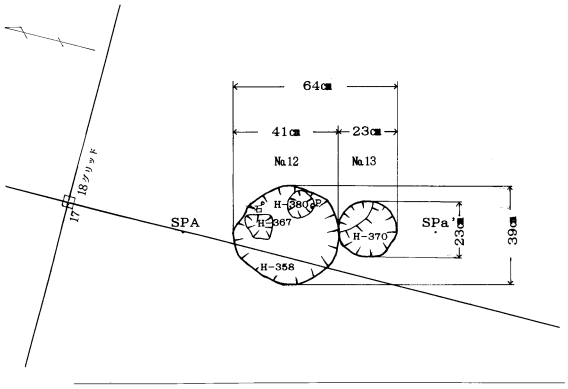
③ 3層 茶褐色土(2層より黒め。スコリア、パミス混入)

④ 4層 黒色土(φ2～3mmのパミス混、1層に酷似)

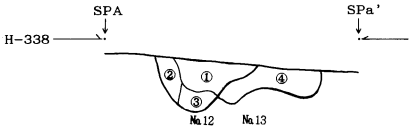
※ 2-1土こうが埋まった後2-2土こうが掘られた形跡がある)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.12・13



断面図



－ 土層注記 －

土こうNo.12

① 1層 黒色土(φ1～3mmのパミス少量)

② 2層 黒色土(φ1～3mmのパミス混、φ4～5mmのスコリア少量、やや茶色)

③ 3層 黒色土(φ1～3mmのパミス少量)

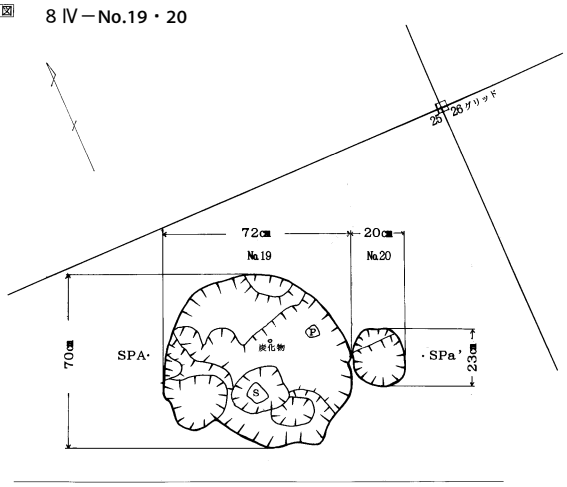
土こうNo.13

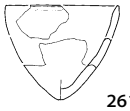
④ 4層 黒色土(φ5～6mmのスコリア少量)

0　50cm

第26図　8Ⅳ層土坑No. 2，12・13（土器出土）(1/30)

平面図　8Ⅳ－No.19・20

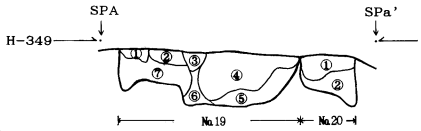




261
個体63（Y）

0　10cm

断面図

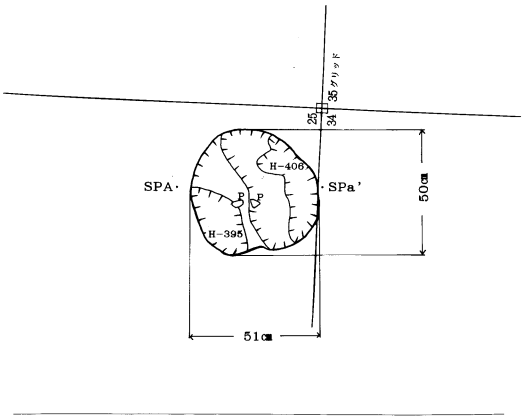


－ 土層注記 －

土こうNo.19
① 1層 黒色土
② 2層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア混、茶色がかった土)
③ 3層 黒色土(φ2mmのパミス混)
④ 4層 黒色土(φ5～7mmのスコリア混)
⑤ 5層 黒色土(φ2～3mmのパミス混、3層と同じ)
⑥ 6層 黒色土(2層より明るめ)
⑦ 7層 基盤と同じ
土こうNo.20
① 1層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア少量)
② 2層 黒色土(φ6～7mmのスコリア)

0　50cm

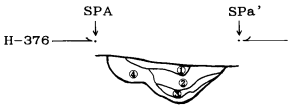
平面図　8Ⅳ－No.24



8Ⅳ25005

0　5cm

断面図



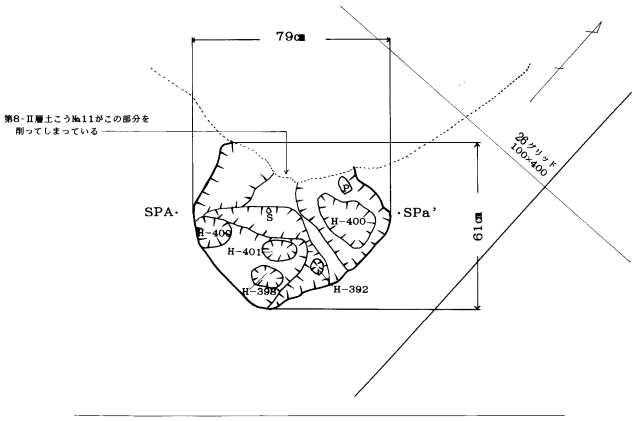
－ 土層注記 －

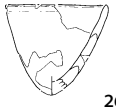
① 1層 黒色土(明るめ)
② 2層 黒色土(φ2～3mmのパミス混、茶色土と帯状になっている)
③ 3層 茶色土(φ3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア少量、2層より明るい)
④ 4層 茶色土(φ6～10mmのスコリア混、2層,3層より明るめ)

0　50cm

第27図　8Ⅳ層土坑No.19・20，24（土器出土）(1/30)

平面図　8Ⅳ－No.32

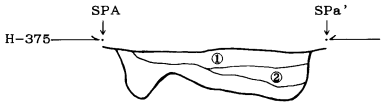




263
個体60（Ⅴ）

0　10cm

断面図

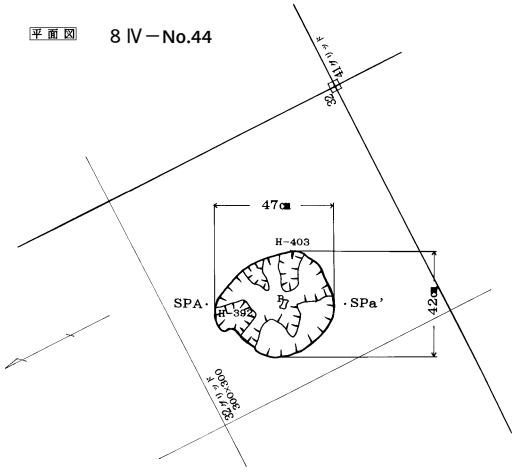


－ 土層注記 －

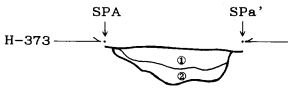
① 1層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4mmのスコリア少量)
② 2層 黒色土(φ2～3mmのパミスとφ4mmのスコリア混、1層より多い)
③ 3層 茶褐色土(φ6～7mmのスコリア少量)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.44



断面図



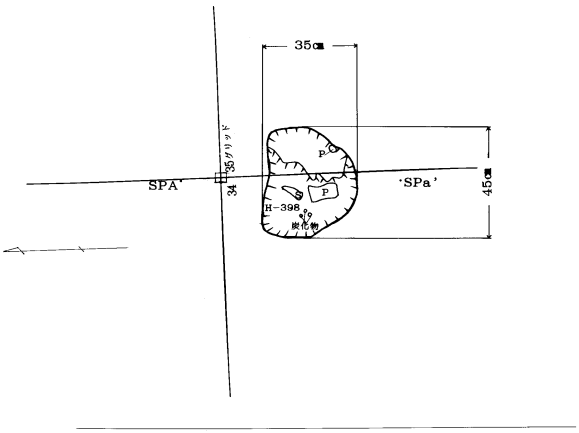
－ 土層注記 －

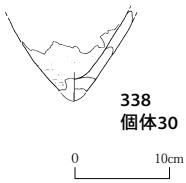
① 1層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア少量)
② 2層 黒色土(φ6～7mmのスコリア混、1層より茶色)

0　50cm

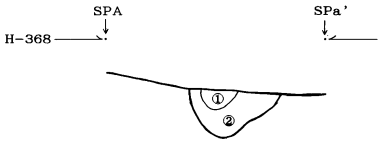
第28図　8Ⅳ層土坑No.32，44（土器出土）(1/30)

平面図　8Ⅳ－No.57





断面図



－ 土層注記 －

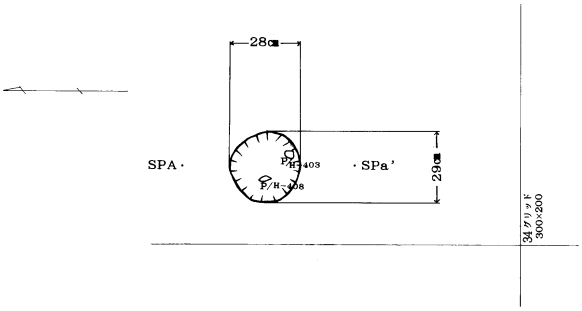
① 1層 黒色土(φ2～3mmのパミス少量)

② 2層 茶褐色土(φ5～7mmのスコリア混、基盤と同じ)

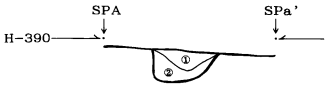
0　50cm

0　5cm

平面図　8Ⅳ－No.58



断面図



－ 土層注記 －

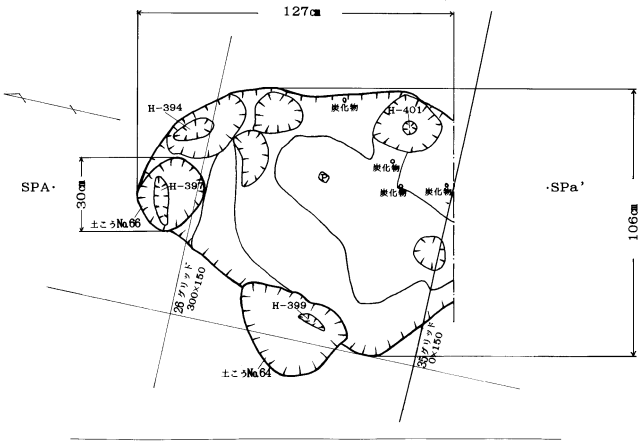
① 1層 黒色土(φ2～3mmのパミス少量)

② 2層 黒色土(φ2～3mmのパミス少量、1層より茶色がかっている)

0　50cm

第29図　8Ⅳ層土坑No.57，58（土器出土）(1/30)

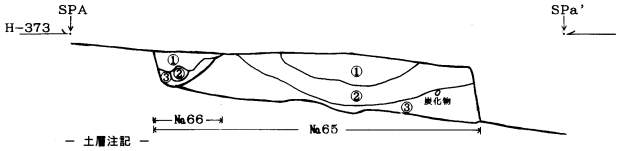
平面図　8Ⅳ－No.65・66



438

0　5cm

断面図



－ 土層注記 －

土こうNo.65

① 1層 黒色土(φ4～7mmのスコリア少量)
② 2層 黒色土(φ2～3mmのパミス少量)
③ 3層 茶褐色土(φ4～5mmのスコリア混、炭化物あり)

土こうNo.66

① 1層 黒色土(φ4～7mmのスコリア少量)
② 2層 黒色土(φ2～3mmのパミス少量、1層より黒い)
③ 3層 茶褐色土(φ4～5mmのスコリア混、炭化物あり)

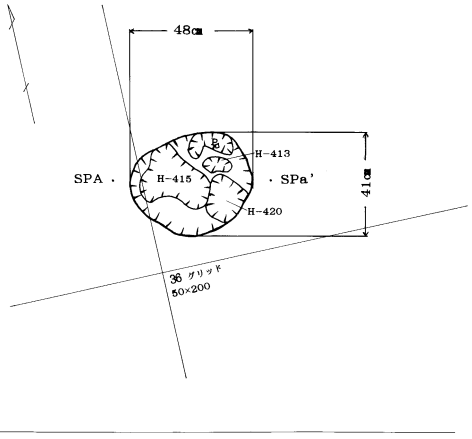
※ 土こうNo.65の上部に土こうNo.66が重なっている

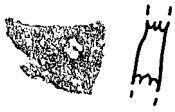
※ 土こうNo.64の平面図,断面図は別記済み

※ 土こうNo.65の南側は先に試掘されている

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.88

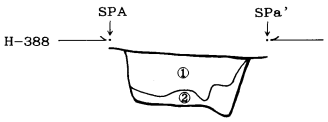




440

0　5cm

断面図



－ 土層注記 －

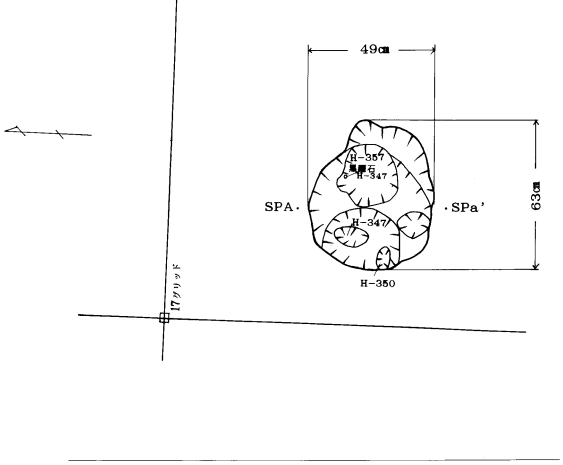
① 1層 黒色土(φ2～3mmのパミス極少量、やや茶色)
② 2層 茶褐色土(φ3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア少量)

0　50cm

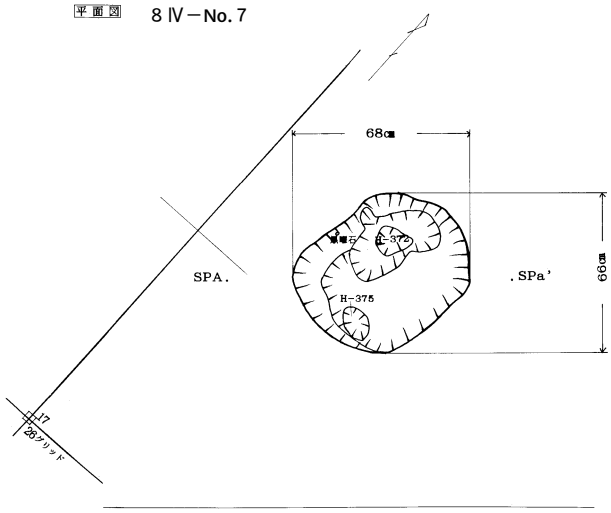
第30図　8Ⅳ層土坑No.65・66，88（土器出土）(1/30)

石器のみ出土した土坑（極少剥片も含む）

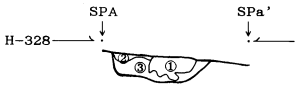
平面図　8Ⅳ－No.3



平面図　8Ⅳ－No.7



断面図

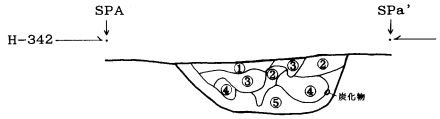


－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ2～3mmのパミス混少量、土は軟らかい)
② 2層 黒色土(φ1～2mmのパミス混、1層より茶色)
③ 3層 茶褐色土(φ2～3mmのパミス混、1層2層より硬い)

0　50cm

断面図

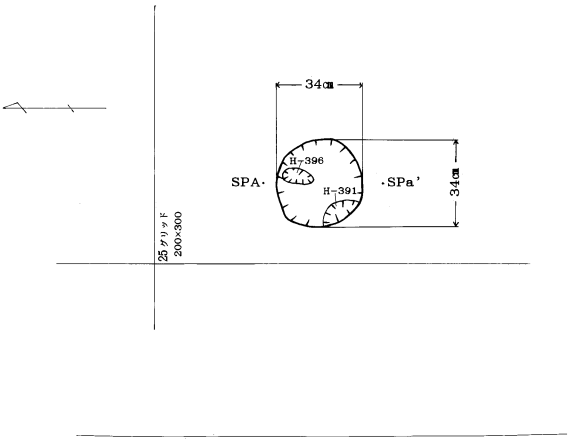


－ 土層注記 －

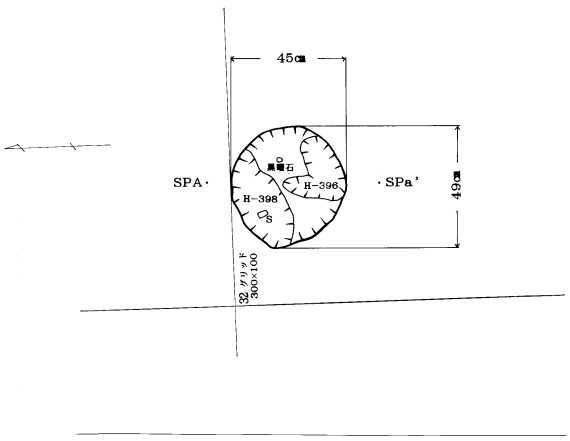
① 1層 黒色土(φ1～2mmのパミス混少量)
② 2層 黒色土(φ7～8mmのスコリア混、色は1層に似ている)
③ 3層 黒色土(φ1～2mmのパミス極少量、土は軟らかい)
④ 4層 黒色土(φ2～3mmのパミス少量、1層より茶色)
⑤ 5層 茶褐色土(φ4～5mmのスコリア多量、φ10mm程の炭化物が確認される)

0　50cm

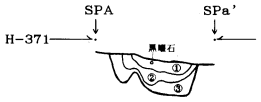
平面図　8Ⅳ－No.23



平面図　8Ⅳ－No.41



断面図

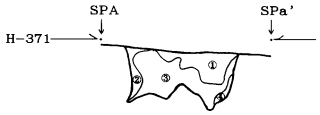


－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ2mmのパミス少量)
② 2層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア混、1層より茶色っぽい)
③ 3層 褐色土(スコリアが多い)

0　50cm

断面図



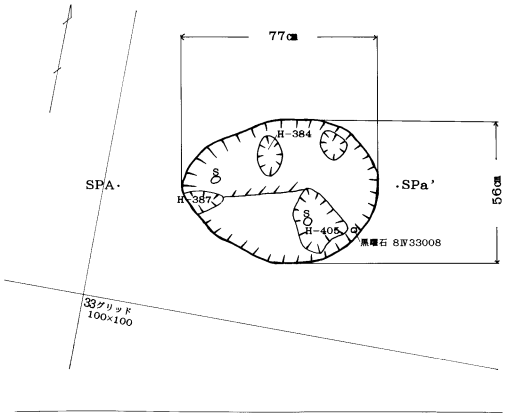
－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ2mmのパミス少量)
② 2層 黒色土(φ4～5mmのスコリア混、1層より茶色)
③ 3層 茶褐色土(φ2～3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア混)
④ 4層 褐色土(φ2mmのパミス混)

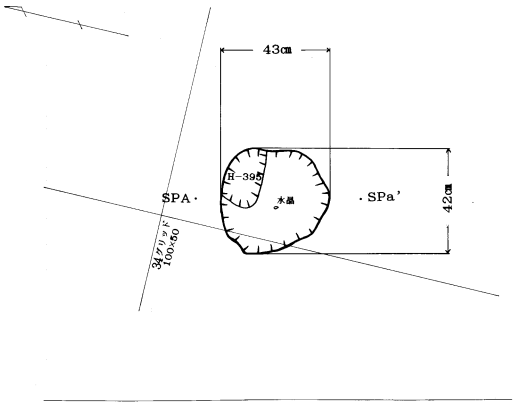
0　50cm

第31図　8Ⅳ層土坑No. 3，7，23，41（石器出土）(1/30)

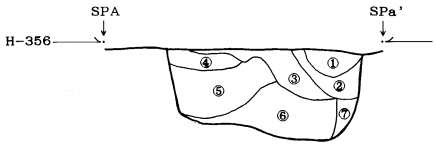
平面図　8Ⅳ－No.46



平面図　8Ⅳ－No.53



断面図

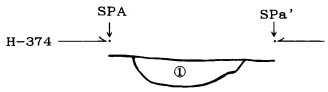


－ 土層注記 －

① 1層 茶褐色土(φ1～2mmのパミス少量)
② 2層 黒色土(φ6～10mmのスコリア少量)
③ 3層 茶褐色土(φ1～3mmのパミス混、φ1～10mmの炭化物少量含む)
④ 4層 茶褐色土(φ1～3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア混)
⑤ 5層 黒色土(φ1～3mmのパミスとφ4～10mmのスコリア混、φ1～3mmの炭化物あり)
⑥ 6層 黒色土(φ1～3mmのパミスとφ4～10mmのスコリア混、φ1mmの炭化物あり、5層より茶色)
⑦ 7層 黒色土(φ1～3mmのパミス混)

0　50cm

断面図

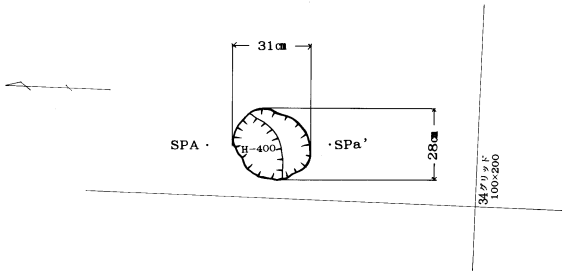


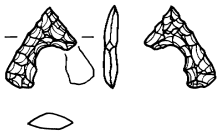
－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア混、やや茶色)

0　50cm

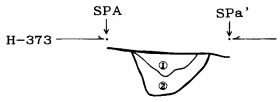
平面図　8Ⅳ－No.54





0　5cm

断面図

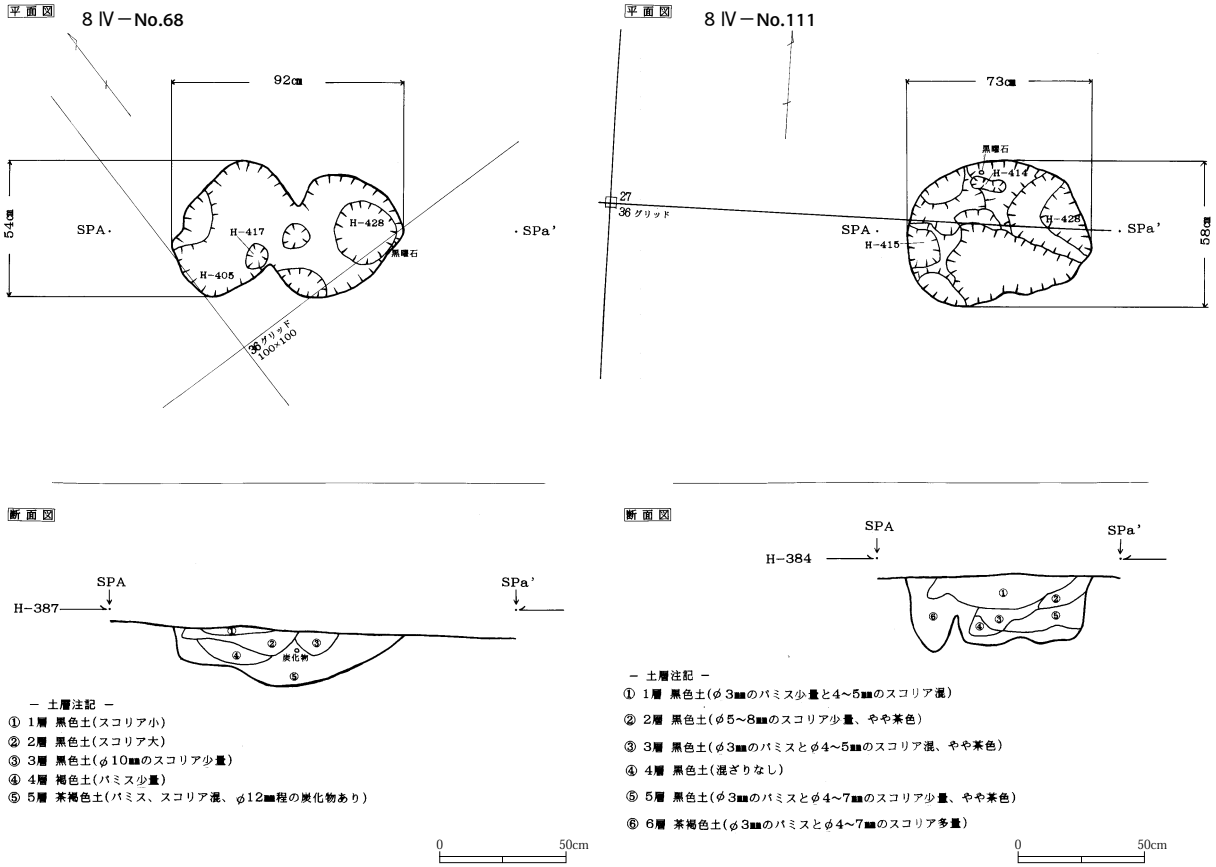


－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ2～3mmのパミスとφ4mmのスコリア混)
② 2層 黒色土(φ6～10mmのスコリア混)

0　50cm

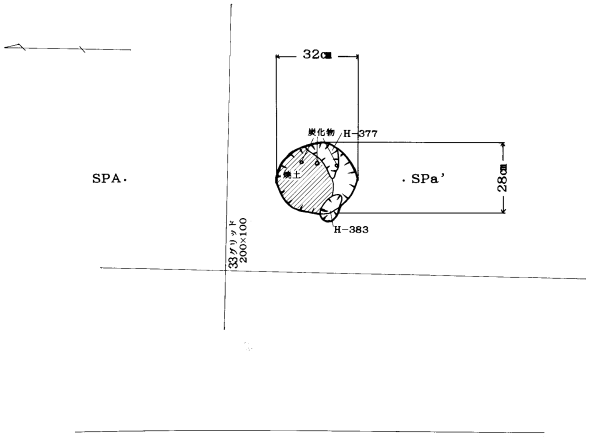
第32図　8Ⅳ層土坑No.46，53，54（石器出土）(1/30)



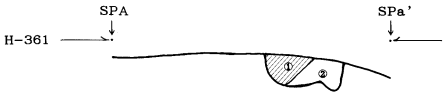
第33図　8Ⅳ層土坑No.68，111（石器出土）(1/30)

焼土のある土坑

平面図　8Ⅳ－No.48



断面図

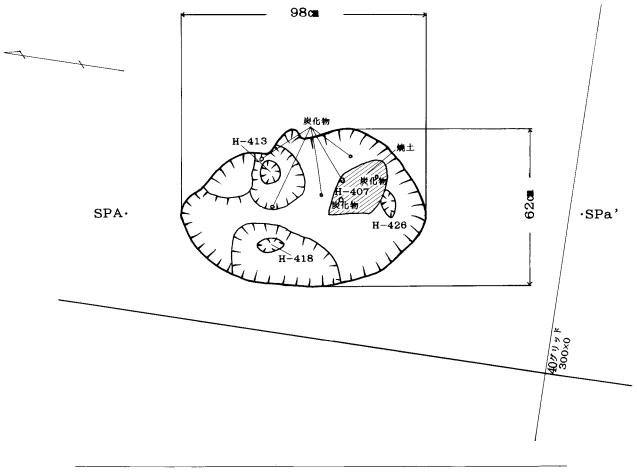


－ 土層注記 －

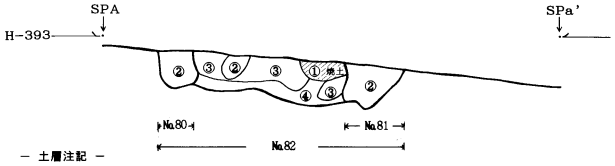
① 1層 焼土層(炭化物あり)
② 2層 茶褐色土(炭化物あり)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.82



断面図



－ 土層注記 －

① 1層 焼土層(φ1mm以下のパミス多量)
② 2層 黒色土(φ6mmのスコリア混、土は軟らかい)
③ 3層 黒色土(φ2～3mmのパミスとφ4mmのスコリア混)
④ 4層 茶褐色土(φ8～10mmのスコリア混)

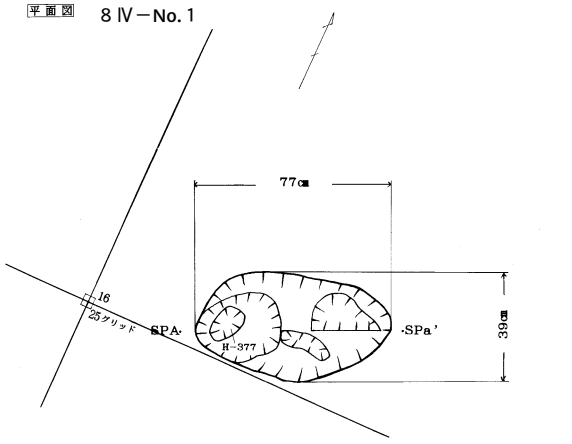
※ 土こうNo.82内に土こうNo.80と土こうNo.81が含まれている。

0　50cm

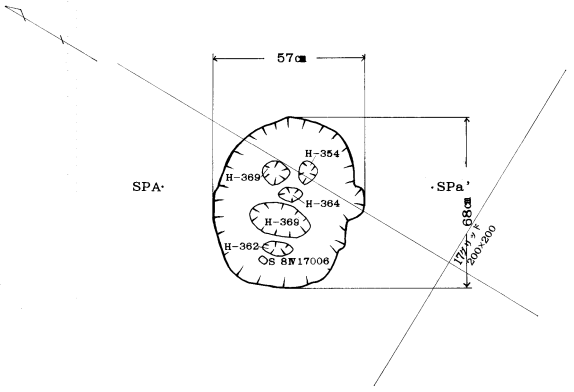
第34図　8Ⅳ層土坑No.48，82（焼土有り）(1/30)

何も出土しなかった土坑

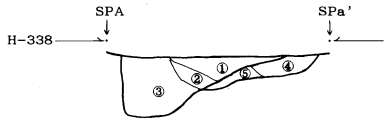
平面図　8Ⅳ－No. 1



平面図　8Ⅳ－No. 4



断面図

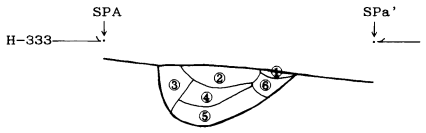


－ 土層注記 －

① 1層　黒色土(硬い、スコリア混じり少量)
② 2層　黒色土(軟らかい)
③ 3層　黒色土(硬い、スコリア混じり、大小)
④ 4層　茶褐色土(スコリア混じり、大)
⑤ 5層　茶褐色土(スコリア混じり、大、ローム層、ソフト表層)

0　50cm

断面図

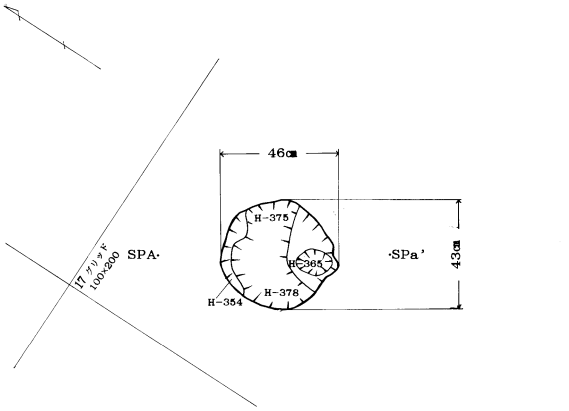


－ 土層注記 －

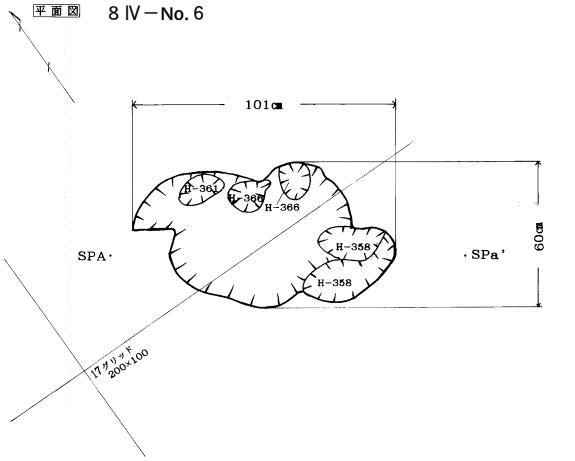
① 1層　黒色土（φ1～3mmのパミス少量）
② 2層　黒色土（φ1～3mmのパミス少量、やや茶色）
③ 3層　黒色土（φ1～3mmのパミスとφ6mmのスコリア混、やや茶色）
④ 4層　黒色土（φ1～3mmのパミス、やや多い）
⑤ 5層　褐色土（φ1～3mmのパミスとφ5mmのスコリア混）
⑥ 6層　茶褐色土(φ1～3mmのパミスとφ5mmのスコリア少量)

0　50cm

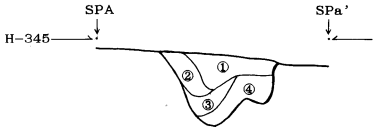
平面図　8Ⅳ－No. 5



平面図　8Ⅳ－No. 6



断面図

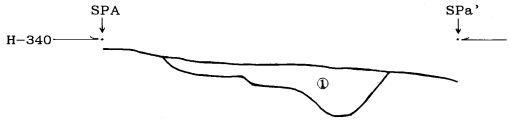


－ 土層注記 －

① 1層　黒色土(φ1～3mmのパミス混)
② 2層　茶褐色土(φ1～3mmのパミス、φ5mm大のスコリア混)
③ 3層　黒色土(φ1～3mmのパミス少量)
④ 4層　黒色土(φ1～3mmのパミス混、やや茶色)

0　50cm

断面図



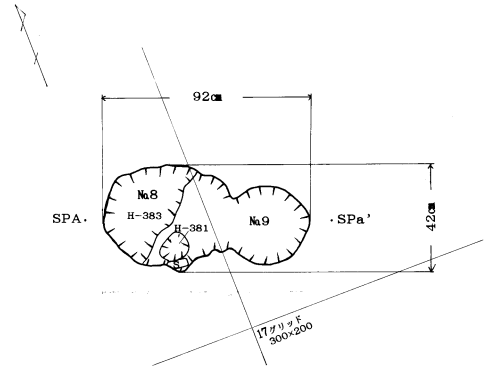
－ 土層注記 －

① 1層　茶褐色土(φ1～3mmのパミスとφ5～10mmのスコリア少量、φ1mm程の炭化物あり)

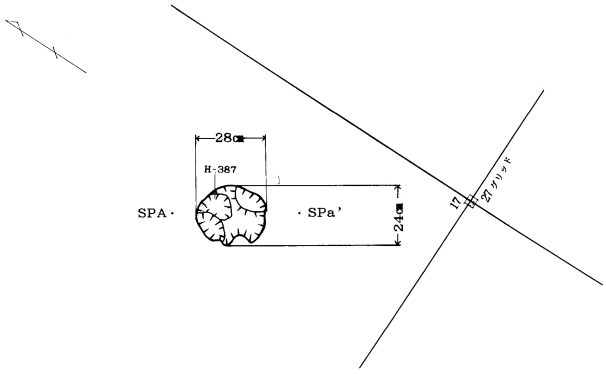
0　50cm

第35図　8Ⅳ層土坑No. 1，4～6 (1/30)

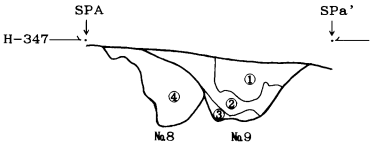
平面図　8Ⅳ－No.8，9



平面図　8Ⅳ－No.10



断面図



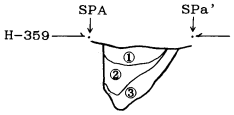
－ 土層注記 －

土こうNo.8
① 1層 黒色土(土こうNo.9と続いている)
② 2層 黒色土(φ4～10mmのスコリア混、1層より明るい)
③ 3層 茶褐色土(φ5～7mmのスコリア混)

土こうNo.9
④ 4層 黒色土

0　50cm

断面図

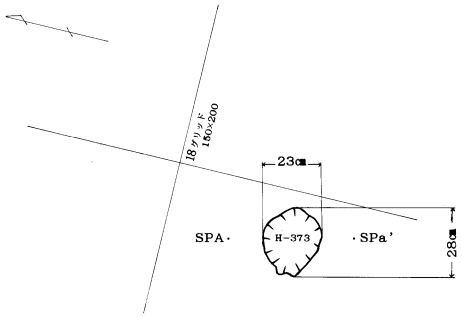


－ 土層注記 －

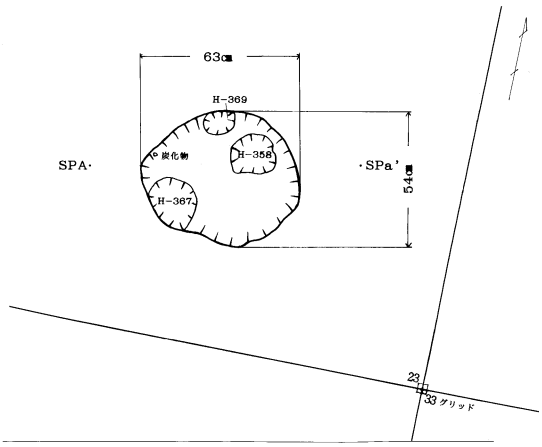
① 1層 黒色土(φ2～3mmのパミスとφ4mmのスコリア混、茶色がかっている)
② 2層 黒色土(φ2mmのパミス少量、茶色がかっている)
③ 3層 黒色土(φ5～7mmのスコリア混)

0　50cm

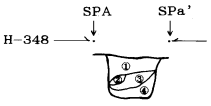
平面図　8Ⅳ－No.14



平面図　8Ⅳ－No.15



断面図

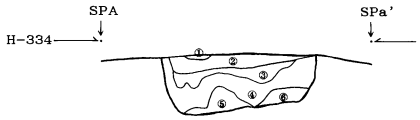


－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ2～3mmのパミス混)
② 2層 黒色土(φ2～3mmのパミス極少量、茶色っぽい)
③ 3層 黒色土(φ2～3mmのパミス少量、2層より明るい)
④ 4層 黒色土(φ5～8mmのスコリア少量)

0　50cm

断面図



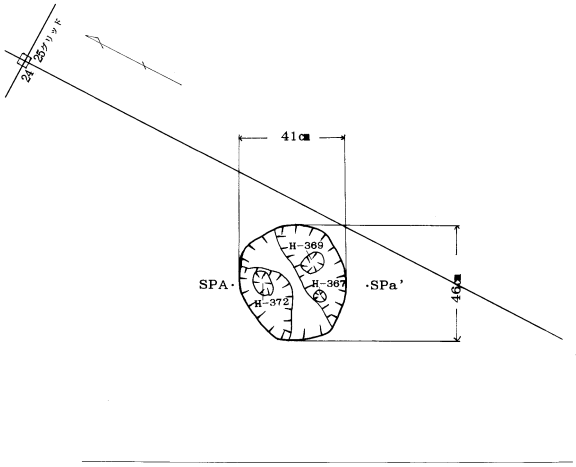
－ 土層注記 －

① 1層 茶褐色土(パミスと火山灰が混じる)
② 2層 茶褐色土(スコリア少量混)
③ 3層 茶褐色土(パミスの中に炭化物及び火山灰が混じる)
④ 4層 黒色土(パミスとφ5mm大のスコリア混、やや茶色)
⑤ 5層 黒色土(φ5～10mmのスコリア混)
⑥ 6層 茶褐色土(φ1～3mmのパミスとφ5～10mmのスコリア混)

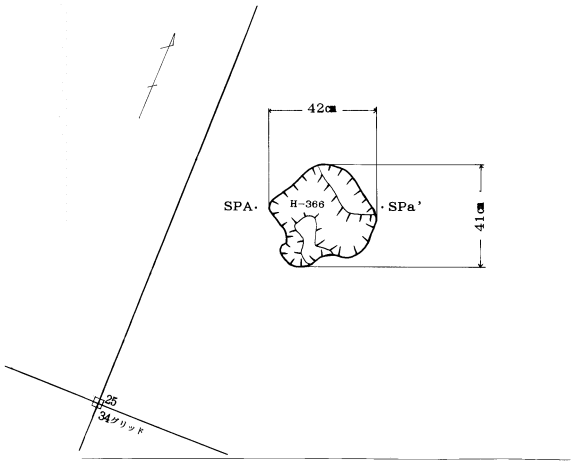
0　50cm

第36図　8Ⅳ層土坑No.8～10，14，15 (1/30)

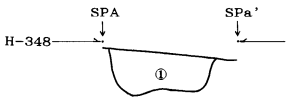
平面図　8Ⅳ－No.16



平面図　8Ⅳ－No.17



断面図

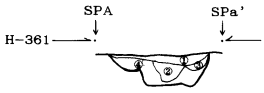


－ 土層注記 －

① 1層 茶褐色土(φ2～3㎜のパミスとφ4㎜のスコリア混、非常に多く土は硬い)

0　50cm

断面図

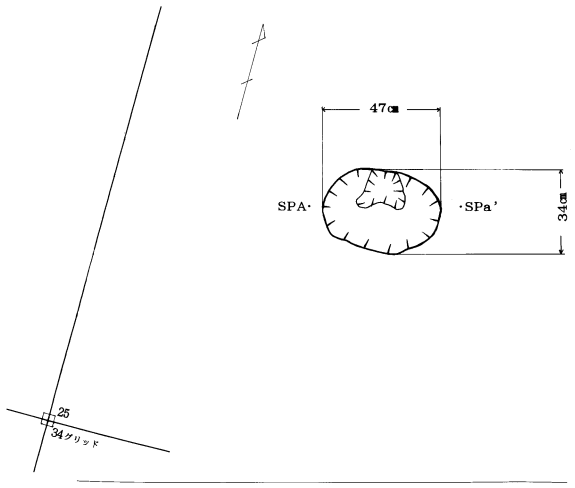


－ 土層注記 －

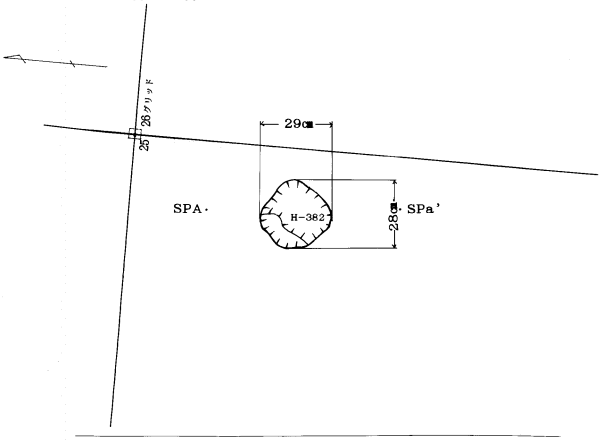
① 1層 黒色土(茶が混じる)
② 2層 黒色土(φ5～10㎜のスコリア混)
③ 3層 黒色土(φ2～3㎜のパミスとφ4～5㎜のスコリア混)
④ 4層 茶褐色土(φ5～8㎜のスコリア多量)

0　50cm

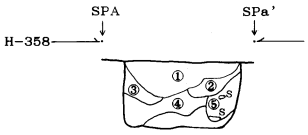
平面図　8Ⅳ－No.18



平面図　8Ⅳ－No.21



断面図

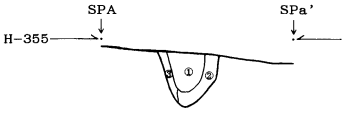


－ 土層注記 －

① 1層 黒色土
② 2層 黒色土(φ2㎜のパミス混、茶色がかった土)
③ 3層 黒色土(φ7㎜のスコリア混)
④ 4層 黒色土(φ3㎜のパミスとφ4～10㎜のスコリア混)
⑤ 5層 黒色土(φ6～8㎜のスコリア多量、茶色がかった土)

0　50cm

断面図



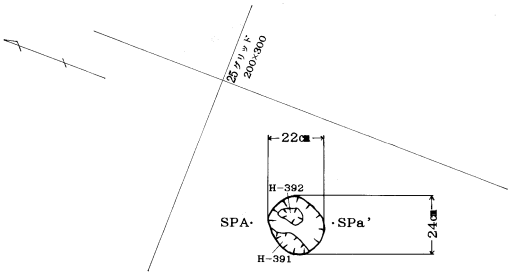
－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ1～2㎜のパミス少量)
② 2層 黒色土(φ1～3㎜のパミス混、1層より多い)
③ 3層 茶褐色土(φ3㎜のパミスとφ4～5㎜のスコリア混)

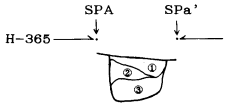
0　50cm

第37図　8Ⅳ層土坑No.16～18，21 (1/30)

平面図　8Ⅳ－No.22



断面図

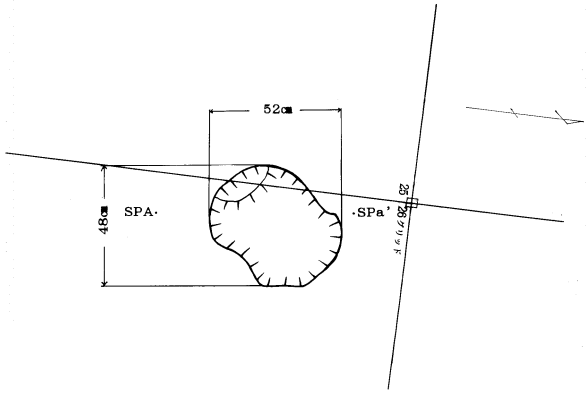


－ 土層注記 －

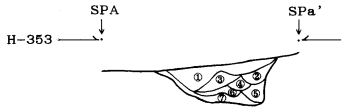
① 1層 黒色土
② 2層 黒色土(φ2mmのパミス混、1層より茶っぽい)
③ 3層 黒色土(φ7～10mmのスコリア混、2層より明るい)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.25



断面図

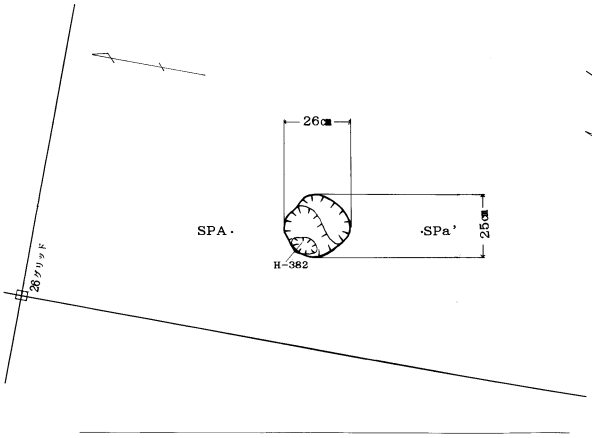


－ 土層注記 －

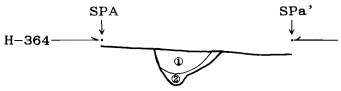
① 1層 黒色土(φ2mm程度のパミス少量、茶色がかっている)
② 2層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア少量、1層より暗い)
③ 3層 黒色土(2層より少し明るい)
④ 4層 茶褐色土
⑤ 5層 黒色土(φ6～10mmのスコリア混)
⑥ 6層 黒色土(スコリア混)
⑦ 7層 茶褐色土(φ6～8mmスコリア多量)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.26



断面図

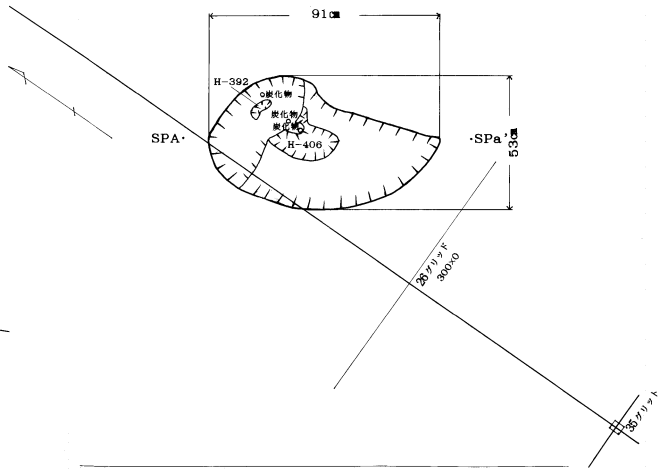


－ 土層注記 －

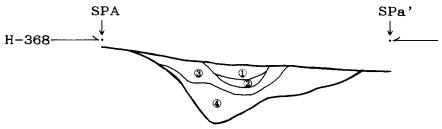
① 1層 黒色土(φ1～2mmのパミス混)
② 2層 黒色土(φ5～10mmのスコリア混、1層より茶色)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.27



断面図



－ 土層注記 －

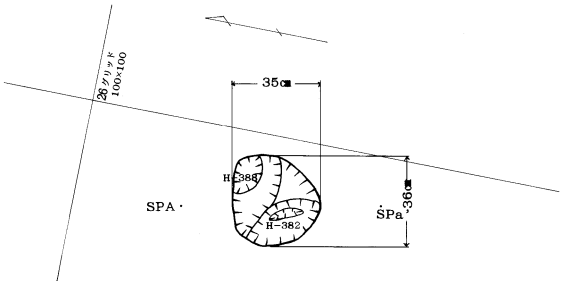
① 1層 茶褐色土(φ1～2mmのパミス混)
② 2層 黒色土(φ5～10mmのスコリア少量、3層より茶色)
③ 3層 黒色土(φ1～2mmのパミスとφ7～8mmのスコリア混)
④ 4層 茶褐色土(φ10mmのスコリア混)

※ H-387近くに炭化物が数ヵ所見られる。

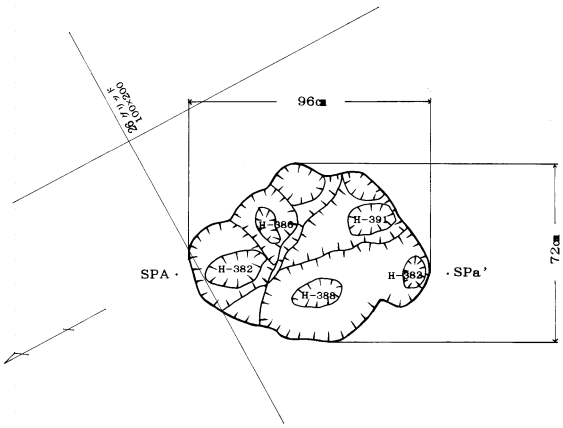
0　50cm

第38図　8Ⅳ層土坑No.22，25～27 (1/30)

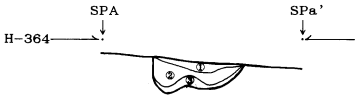
平面図　8Ⅳ－No.28



平面図　8Ⅳ－No.29,30



断面図

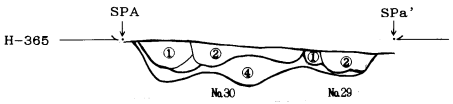


－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ1～2㎜のパミス少量)
② 2層 黒色土(φ2～3㎜のパミス混)
③ 3層 茶褐色土(φ10㎜のスコリア混、多め)

0　50cm

断面図

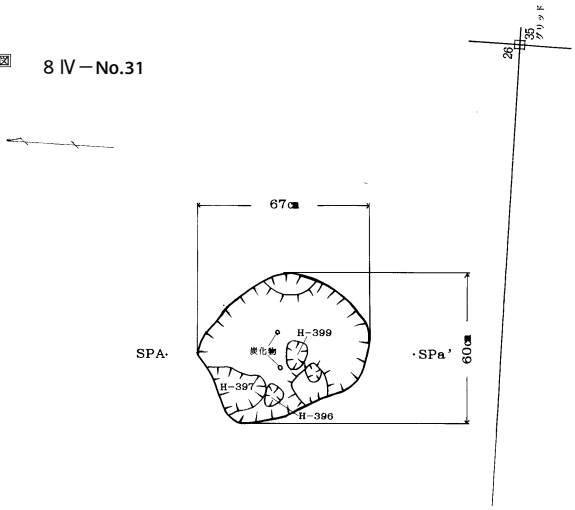


－ 土層注記 －

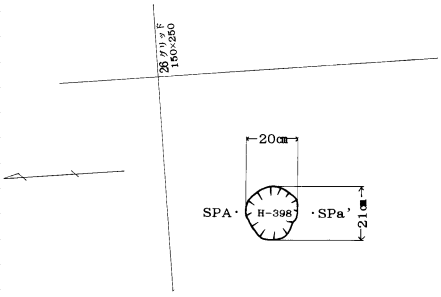
土こうNo.29
① 1層 黒色土(φ2～3㎜のパミス混)
② 2層 黒色土(φ8～10㎜のスコリア混)
③ 3層 黒色土(φ1～2㎜のパミス混、1,2層より茶色っぽい)
④ 4層 茶褐色土(φ10㎜程のスコリア多量)
土こうNo.30
※1層,2層,4層,共土こうNo.29のものと同じ

0　50cm

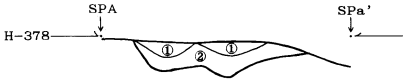
平面図　8Ⅳ－No.31



平面図　8Ⅳ－No.33



断面図



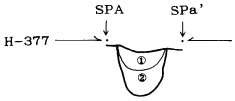
－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ3㎜のパミスとφ4㎜のスコリア少量)
② 2層 黒色土(φ2～3㎜のパミス少量、1層より茶色)

※ 炭化物が混じる

0　50cm

断面図



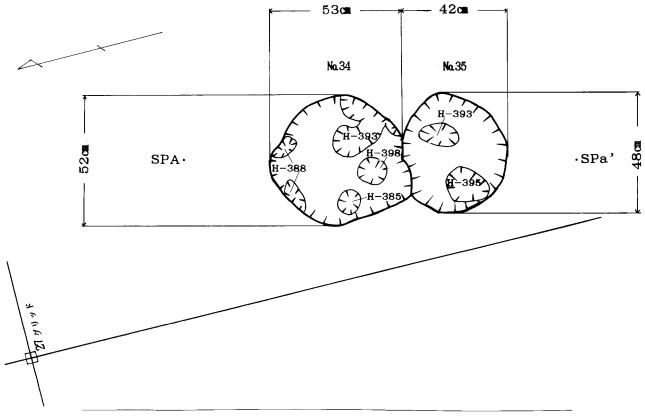
－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ2～3㎜のパミスとφ4㎜のスコリア少量)
② 2層 茶褐色土(φ3㎜のパミスとφ4～10㎜のスコリア混)

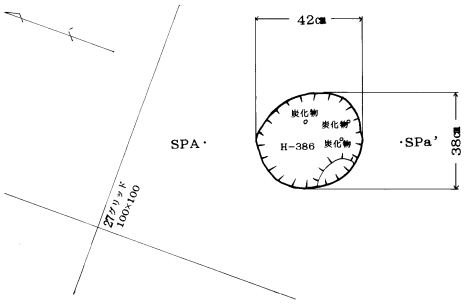
0　50cm

第39図　8Ⅳ層土坑No.28～31，33 (1/30)

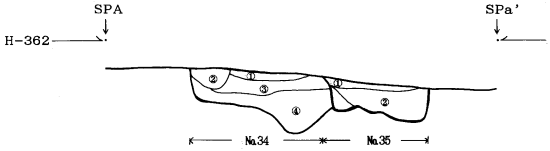
平面図　8Ⅳ－No.34,35



平面図　8Ⅳ－No.36



断面図



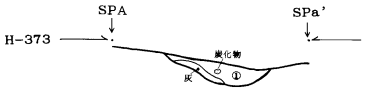
－ 土層注記 －

土こうNo.34
① 1層 黒色土(バミスを少量含む)
② 2層 黒色土(スコリアを少量含む)
③ 3層 黒色土(φ6～10mmスコリア混、やや茶色)
④ 4層 褐色土(バミスと少量のスコリアを含む)

土こうNo.35
① 1層 黒色土(スコリアを含む)
② 2層 茶褐色土(バミス、スコリア少量)
③ 3層 茶褐色土(バミスを含む)

0　50cm

断面図

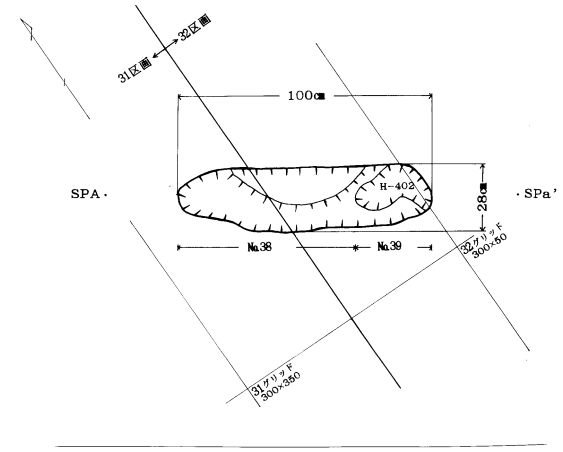


－ 土層注記 －

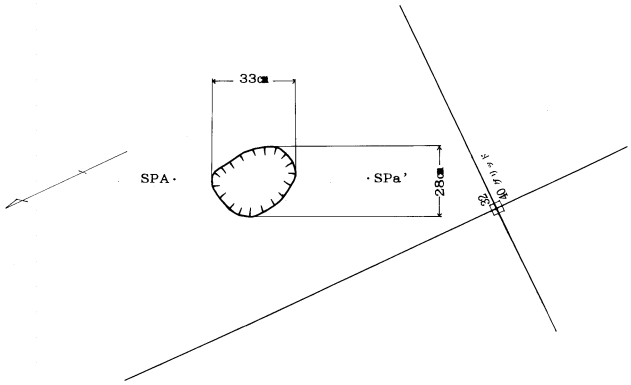
① 1層 黒色土(やや茶色がかっている、2×3mmの炭化物あり)
② 2層 茶褐色土(バミスが混じる、灰が確認できる)
※ 土こうの表面にφ1～3cmの炭化物が3点みられる

0　50cm

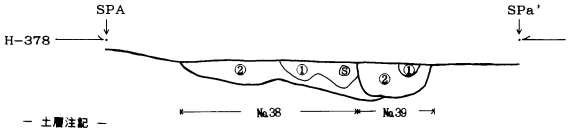
平面図　8Ⅳ－No.38,39



平面図　8Ⅳ－No.40



断面図



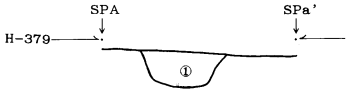
－ 土層注記 －

土こうNo.38
① 1層 黒色土(φ1～3mmのバミスとφ6～10mmのスコリア混、やや茶色)
② 2層 茶褐色土(φ1～3mmのバミスとφ4～7mmのスコリア混、多め)

土こうNo.39
① 1層 黒色土(φ1～2mmのバミス数個とφ6～7mmのスコリア少量)
② 2層 黒色土(φ6～7mmのスコリア少量、No.38の1層と同じような色)

0　50cm

断面図



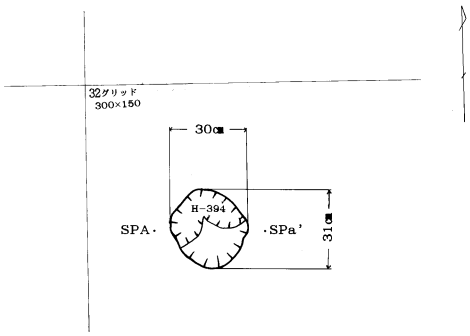
－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ1～3mmのバミスとφ4～7mmのスコリア少量、やや茶色)

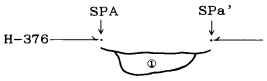
0　50cm

第40図　8Ⅳ層土坑No.34～36，38～40 (1/30)

平面図　8 Ⅳ－No.42



断面図

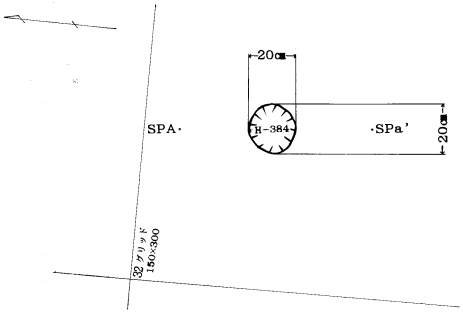


－ 土層注記 －

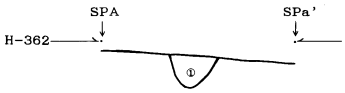
① 1層 茶褐色土(φ7～11mmのスコリア混)

0　50cm

平面図　8 Ⅳ－No.43



断面図

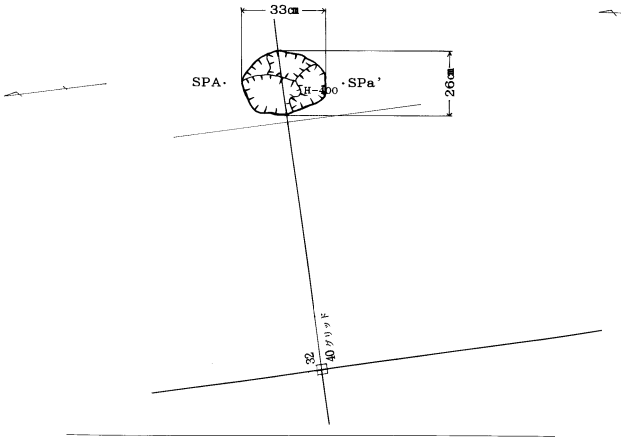


－ 土層注記 －

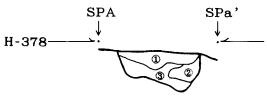
① 1層 黒色土(φ1～3mmのパミスとφ4～10mmのスコリア少量)

0　50cm

平面図　8 Ⅳ－No.45



断面図

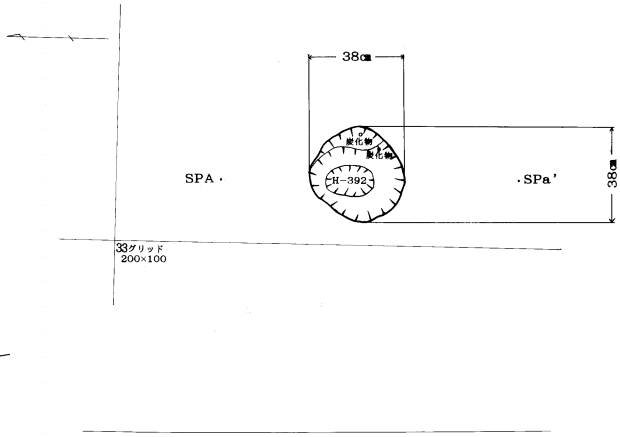


－ 土層注記 －

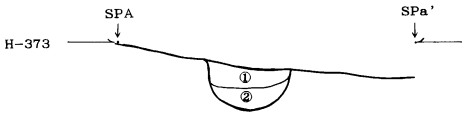
① 1層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア混)
② 2層 黒色土(φ2mmのパミス混、1層より茶色)
③ 3層 茶色土(φ6～7mmのスコリア混)

0　50cm

平面図　8 Ⅳ－No.49



断面図



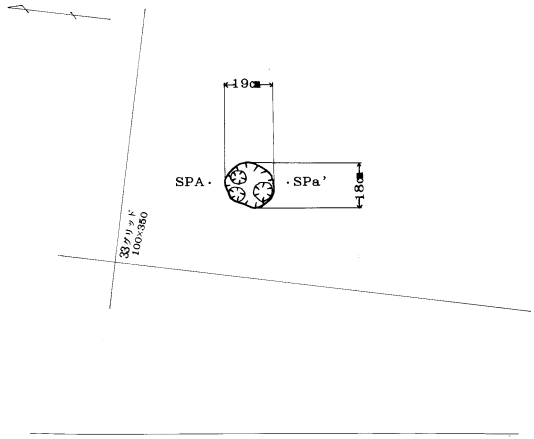
－ 土層注記 －

① 1層 茶褐色土(スコリア混)
② 2層 茶褐色土(パミス、スコリア混)

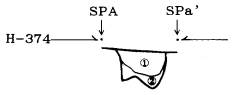
0　50cm

第41図　8 Ⅳ層土坑 No.42，43，45，49 (1/30)

平面図　8Ⅳ－No.50



断面図

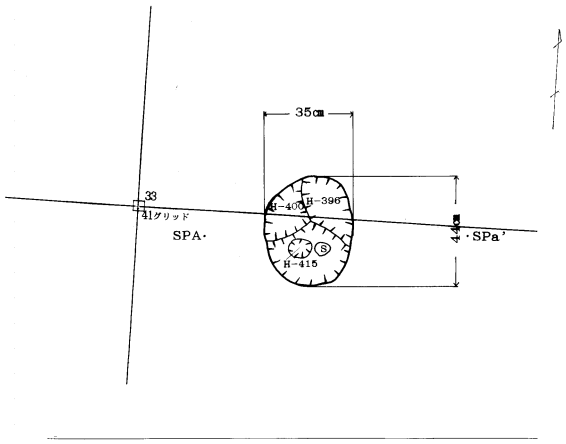


－ 土層注記 －

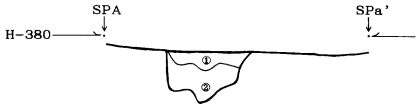
① 1層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4mmのスコリア混)
② 2層 茶褐色土

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.52



断面図

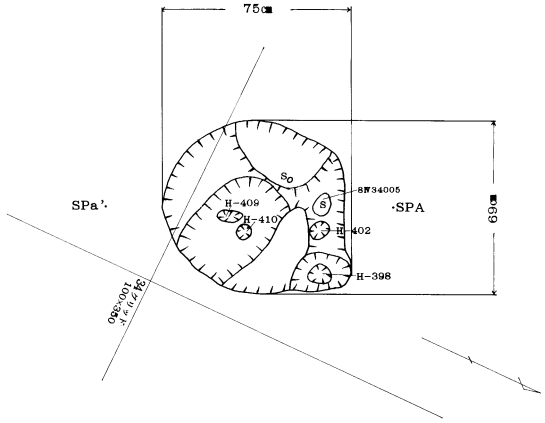


－ 土層注記 －

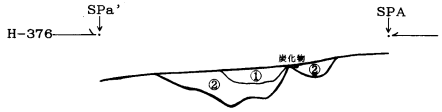
① 1層 黒色土(φ2～3mmのパミス混)
② 2層 黒色土(φ6～10mmのスコリア混)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.55



断面図

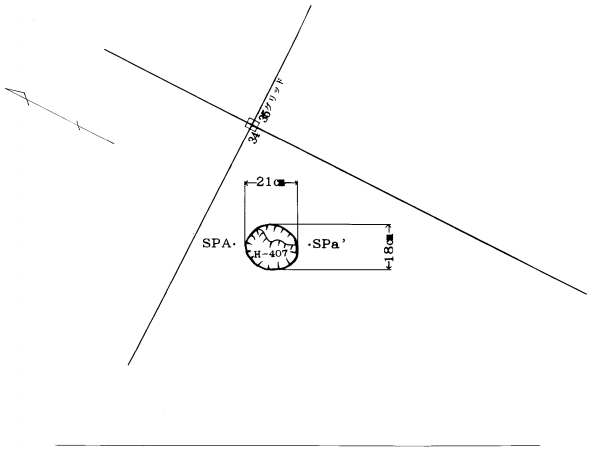


－ 土層注記 －

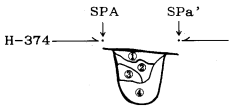
① 1層 茶褐色土(φ2～3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア混)
② 2層 黒色土(φ2～3mmのパミス少量)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.56



断面図



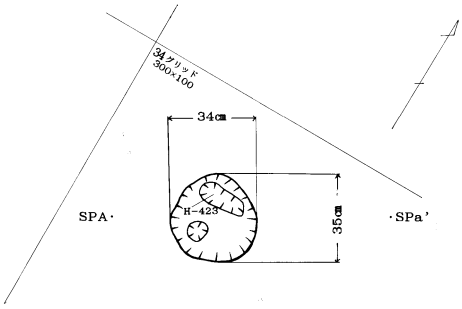
－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ2mmのパミス少量、茶色がかった土)
② 2層 茶褐色土(φ3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア少量)
③ 3層 茶褐色土(φ7～10mmのスコリア混、2層より明るい)
④ 4層 基盤と同じ

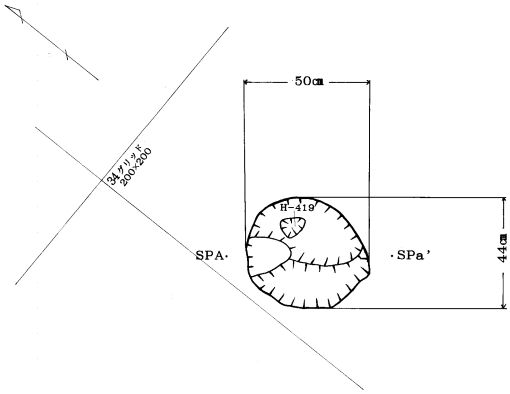
0　50cm

第42図　8Ⅳ層土坑 No.50，52，55，56 (1/30)

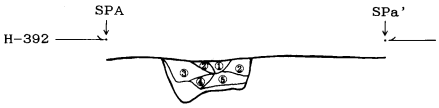
平面図　8Ⅳ－No.59



平面図　8Ⅳ－No.60



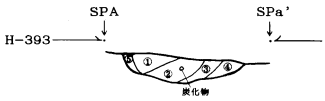
断面図



－ 土層注記 －
① 1層 黒色土(パミス少量)
② 2層 褐色土(φ1～3㎜パミス混)
③ 3層 茶褐色土(パミスとスコリアを含む)
④ 4層 茶褐色土(φ10㎜のスコリア混)
⑤ 5層 茶褐色土(パミスとφ6㎜のスコリア混)
⑥ 6層 茶褐色土(パミス混)

0　50cm

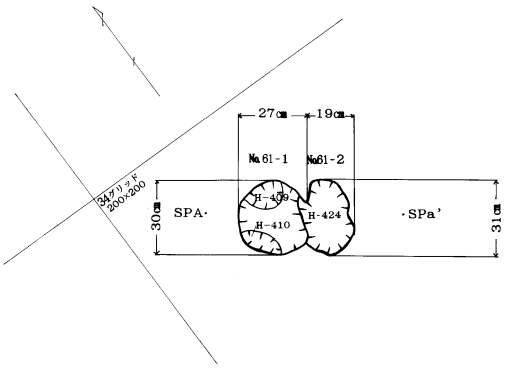
断面図



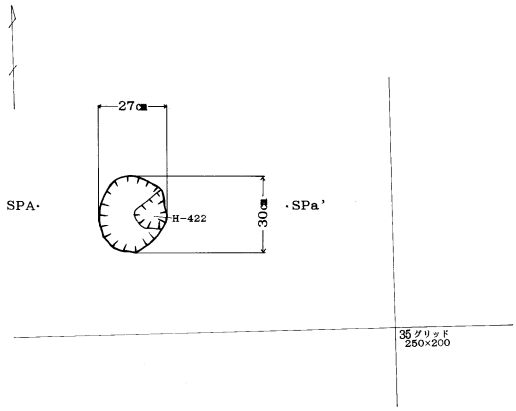
－ 土層注記 －
① 1層 黒色土(φ4～6㎜のスコリア混)
② 2層 黒色土(φ1～2㎜のパミスとφ5～7㎜のスコリア混、φ1～2㎜の炭化物が確認される)
③ 3層 黒色土(φ2～3㎜のパミス少量)
④ 4層 茶褐色土(φ2～3㎜のパミス少量)
⑤ 5層 黒色土(φ1～2㎜のパミス少量、黒色が濃い)

0　50cm

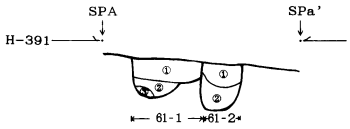
平面図　8Ⅳ－No.61



平面図　8Ⅳ－No.63



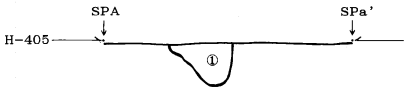
断面図



－ 土層注記 －
土こう№61-1
① 1層 茶褐色土(φ1～3㎜のパミス少量)
② 2層 茶褐色土(φ1～3㎜のパミスとφ5～10㎜のスコリア少量)
③ 3層 褐色土(φ1～3㎜のパミス少量)
土こう№61-2
① 1層 茶色土(φ1～3㎜のパミス混)
② 2層 黒色土(φ1～3㎜のパミス混)

0　50cm

断面図

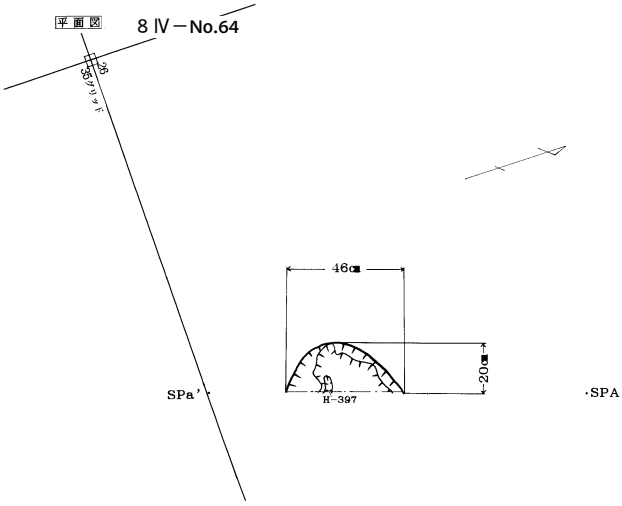


－ 土層注記 －
① 1層 黒色土(φ1～3㎜のパミス混、φ4～5㎜のスコリア少量、やや茶色い土)

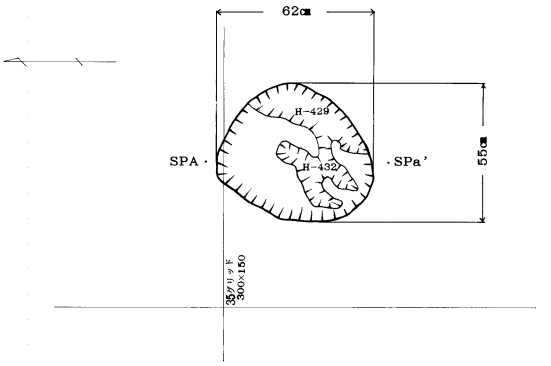
0　50cm

第43図　8Ⅳ層土坑 No.59 ～ 61，63 (1/30)

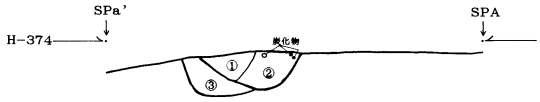
平面図　8Ⅳ－No.64



平面図　8Ⅳ－No.67



断面図



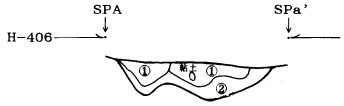
－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ2～3mmのパミス少量、土はやや軟らかく2層より茶色)
② 2層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4mmのスコリア混、土は軟らかい)
③ 3層 褐色土(φ0.2～2mmのパミスが多量に含まれ、φ4～5mmのスコリアも少量混じる)

※ 東側の部分は土こうNo.65に入り込んでいる)

0　50cm

断面図

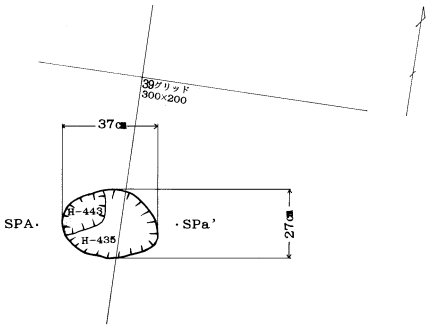


－ 土層注記 －

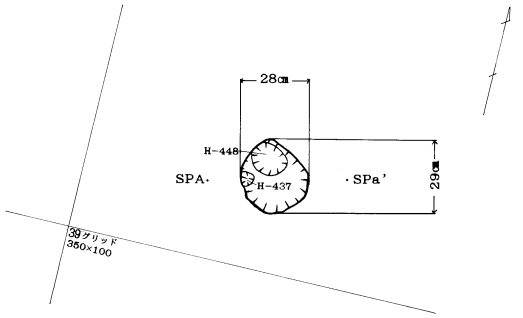
① 1層 黒色土(φ2～3mmのパミス混、粘土も少量あり)
② 2層 茶褐色土(φ6～10mmのスコリア混)

0　50cm

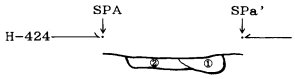
平面図　8Ⅳ－No.69



平面図　8Ⅳ－No.70



断面図

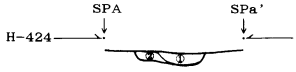


－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ1～3mmのパミスとφ5mmのスコリア混)
② 2層 黒色土(φ1～3mmのパミスとφ5mmのスコリア混、1層より茶色)

0　50cm

断面図



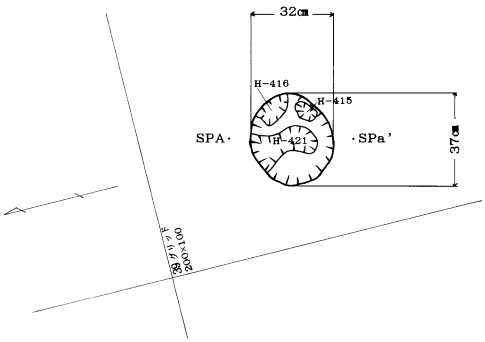
－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ1～3mmのパミスとφ6mmのスコリア混)
② 2層 茶褐色土(φ1～3mmのパミスとφ6mmのスコリア混)

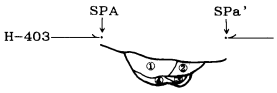
0　50cm

第44図　8Ⅳ層土坑No.64，67，69，70 (1/30)

平面図　8Ⅳ－No.71



断面図

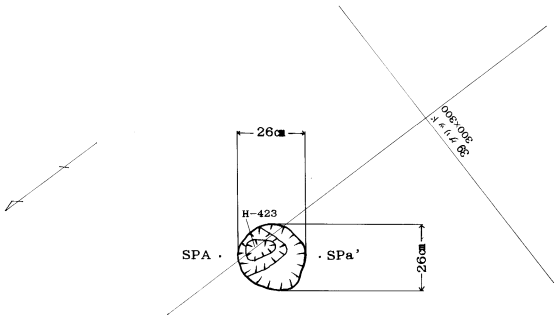


－ 土層注記 －

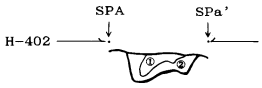
① 1層 黒色土(φ2～3mmのパミス少量、やや茶色)
② 2層 茶褐色土(φ4～5mmのスコリア混)
③ 3層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア混)
④ 4層 茶褐色土(φ6mmのスコリア多量、2層より明るい)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.72



断面図

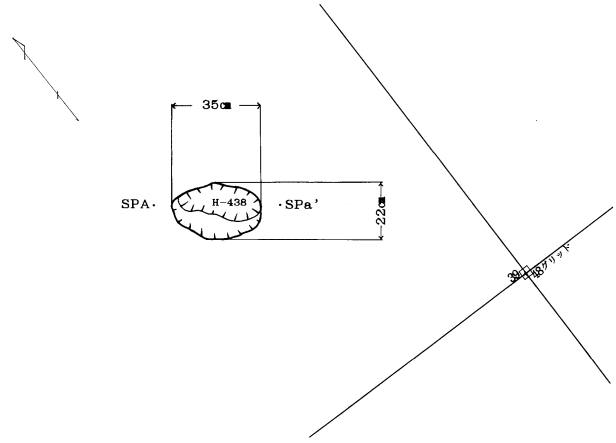


－ 土層注記 －

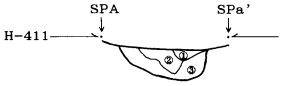
① 1層 黒色土(φ2～3mmのパミス少量)
② 2層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4～7mmのスコリア混、1層より茶色)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.73



断面図

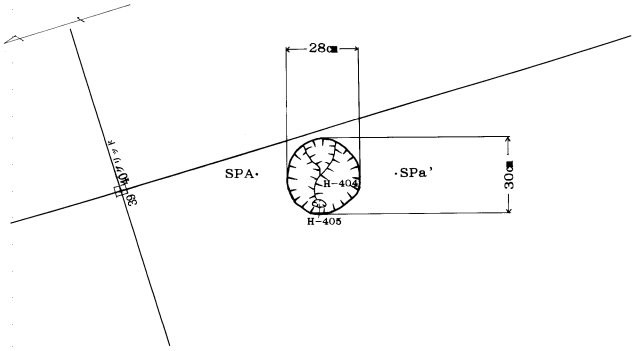


－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4～7mmのスコリア少量、やや茶色)
② 2層 茶褐色土(φ2～3mmのパミス少量)
③ 3層 褐色土(φ7～10mmのスコリア混)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.74



断面図

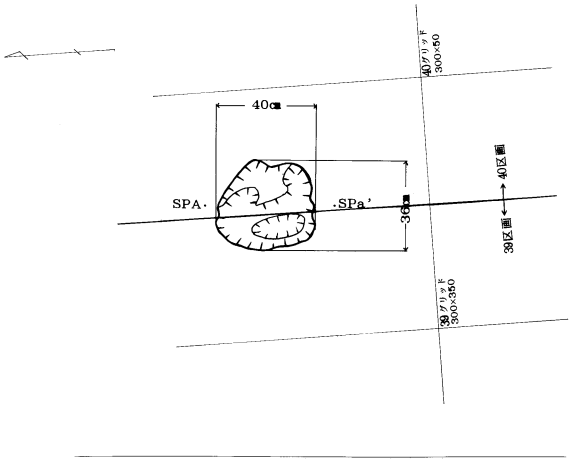
－ 土層注記 －

① 1層 茶色土(φ1～3mmのパミス少量)
② 2層 茶褐色土(φ1～3mmのパミス混)
③ 3層 黄褐色土(φ1～3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア混)

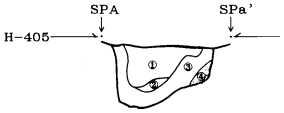
0　50cm

第45図　8Ⅳ層土坑 No.71 ～ 74 (1/30)

平面図　8Ⅳ－No.76



断面図

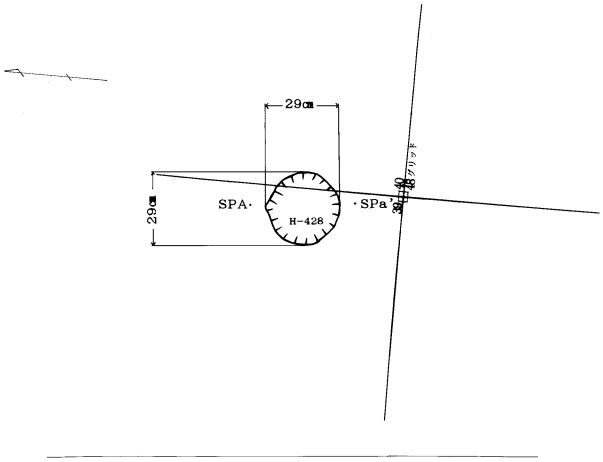


－ 土層注記 －

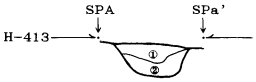
① 1層 黒色土(やや茶色が入っている)
② 2層 黒色土(φ2～3㎜のパミス少量、1層より明るい)
③ 3層 褐色土(φ7～10㎜のスコリア混)
④ 4層 茶褐色土(φ4～5㎜のスコリア混)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.77



断面図

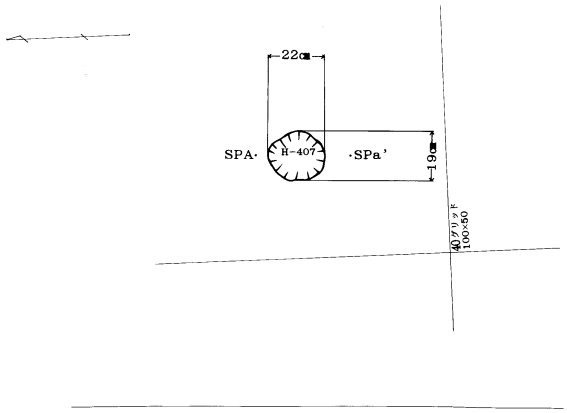


－ 土層注記 －

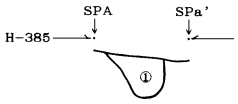
① 1層 黒色土(φ2～3㎜のパミス少量)
② 2層 茶褐色土(φ5～8㎜のスコリア少量、基盤と同じ)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.78



断面図

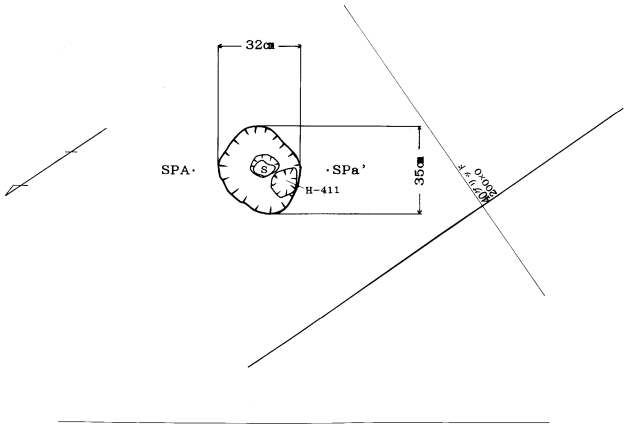


－ 土層注記 －

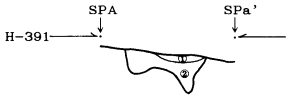
① 1層 茶褐色土(φ2～3㎜のパミスとφ4～5㎜のスコリア少量)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.79



断面図



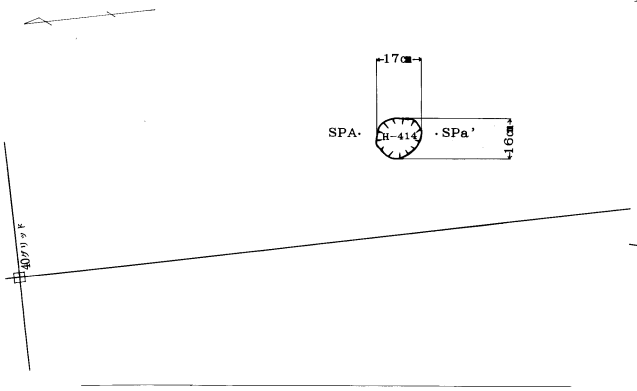
－ 土層注記 －

① 1層 褐色土(φ1～3㎜のパミス少量とφ5～10㎜のスコリア混)
② 2層 茶褐色土(φ1～3㎜のパミスとφ5～10㎜のスコリア混)

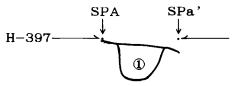
0　50cm

第46図　8Ⅳ層土坑 No.76 ～ 79 (1/30)

平面図　8Ⅳ－No.80



断面図

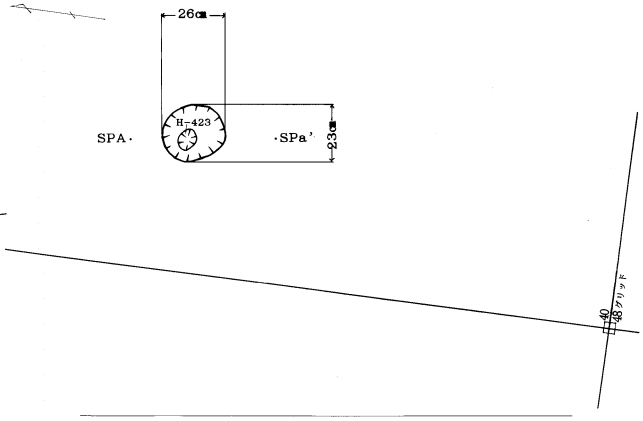


－ 土層注記 －

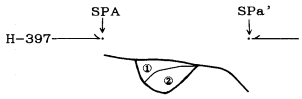
① 1層 黒色土(φ2～3mmのパミス少量、やや茶色)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.81



断面図

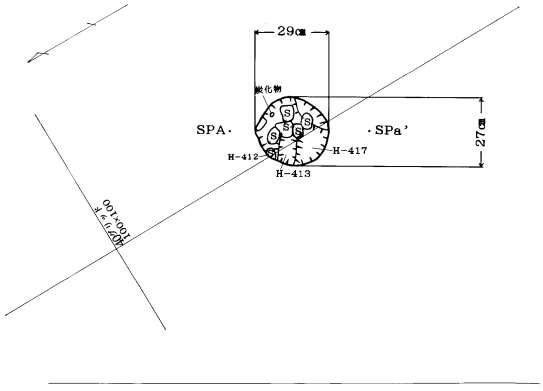


－ 土層注記 －

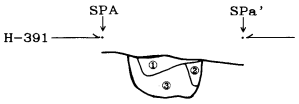
① 1層 茶褐色土(パミス少量、2層より明るい)
② 2層 茶褐色土(パミスやや多い)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.83



断面図

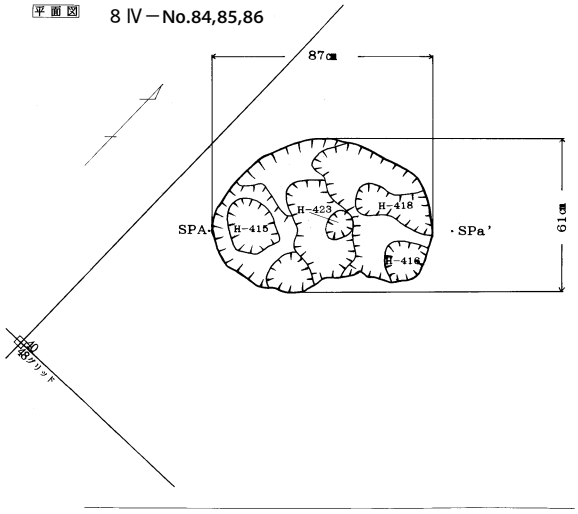


－ 土層注記 －

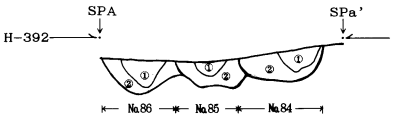
① 1層 黒色土(パミス、スコリア混)
② 2層 黒色土(φ1～3mmのパミス少量)
③ 3層 茶褐色土(φ1～3mmのパミスとスコリア少量)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.84,85,86



断面図



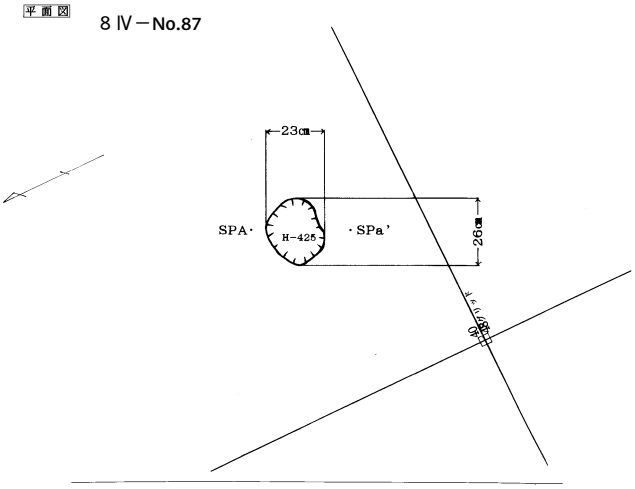
－ 土層注記 －

土こうNo.84,85,86(各部共通)
① 1層 黒色土(φ2～3mmのパミス少量)
② 2層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4～7mmのスコリア混、1層より茶色)

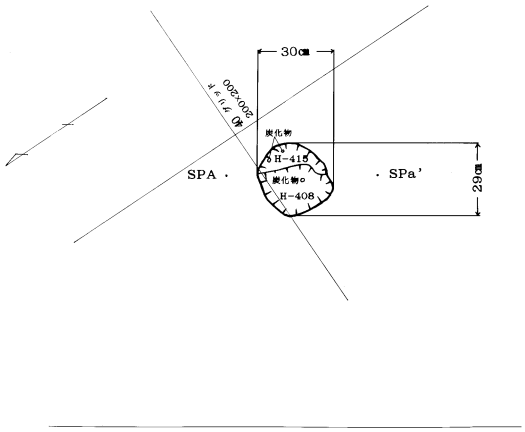
0　50cm

第47図　8Ⅳ層土坑No.80～81，83～86 (1/30)

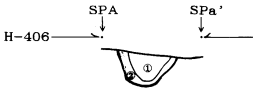
平面図　8Ⅳ－No.87



平面図　8Ⅳ－No.89



断面図

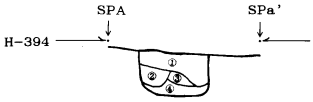


－ 土層注記 －

① 1層 茶褐色土(φ2～3mmのパミス極少量)
② 2層 茶褐色土(φ2～3mmのパミスとスコリア混、黄色が混じる)

0　50cm

断面図

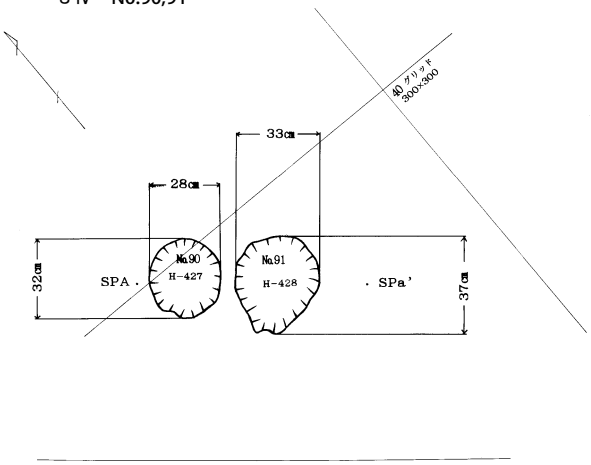


－ 土層注記 －

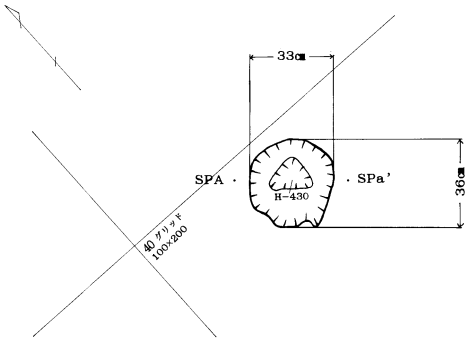
① 1層 黒色土(φ1～3mmのパミス少量)
② 2層 黒色土(φ1～3mmのパミスとスコリア混)
③ 3層 茶褐色土(φ1～3mmのパミスとスコリア混)
④ 4層 茶褐色土(φ2～3mmのパミス少量)

0　50cm

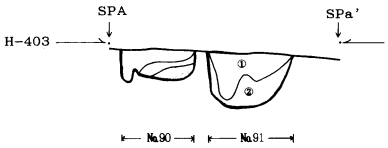
平面図　8Ⅳ－No.90,91



平面図　8Ⅳ－No.92



断面図



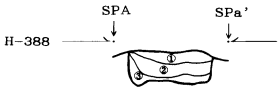
－ 土層注記 －

土こうNo.90
① 1層 黒色土(φ3mmのパミス少量)
② 2層 黒色土(1層より茶色)
③ 3層 黒色土(φ6～7mmのスコリア混)

土こうNo.91
① 1層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア少量)
② 2層 基盤と同じ

0　50cm

断面図

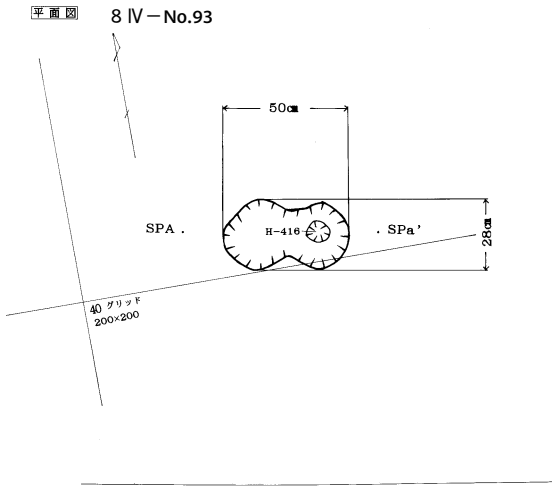


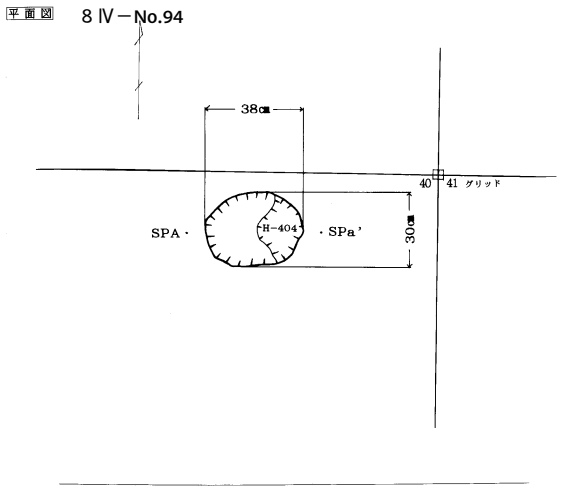
－ 土層注記 －

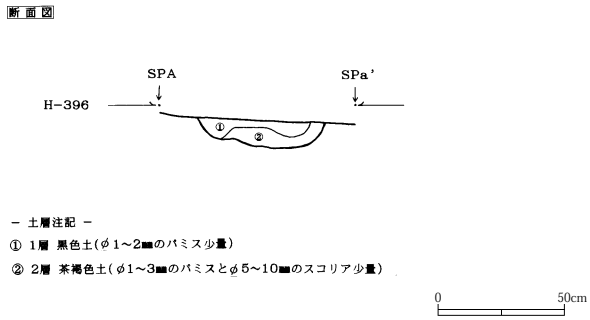
① 1層 黒色土(φ2mmのパミス混)
② 2層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア混)
③ 3層 基盤と同じ

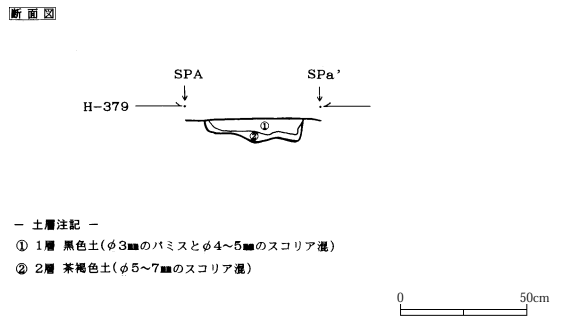
0　50cm

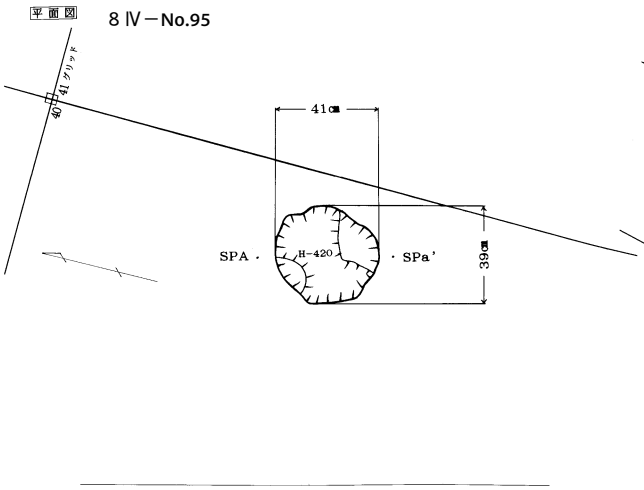
第48図　8Ⅳ層土坑No.87，89～92 (1/30)

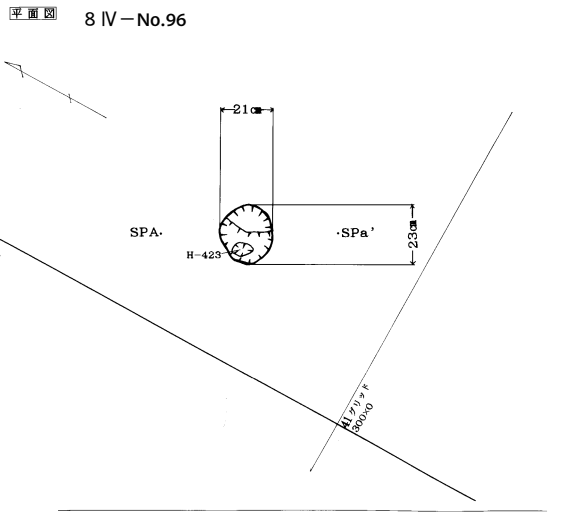


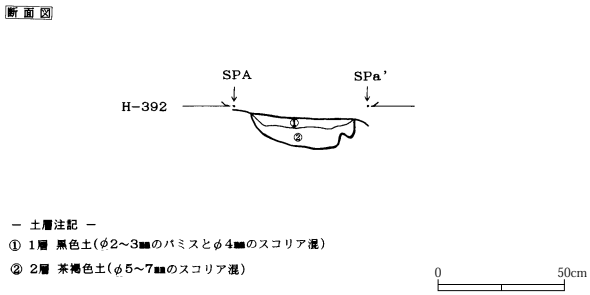


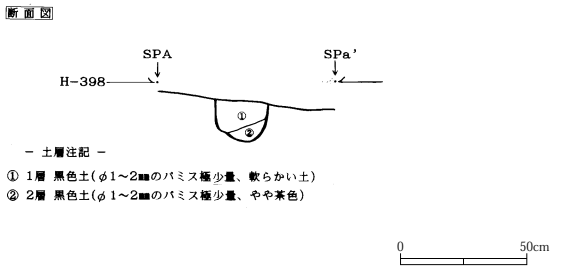






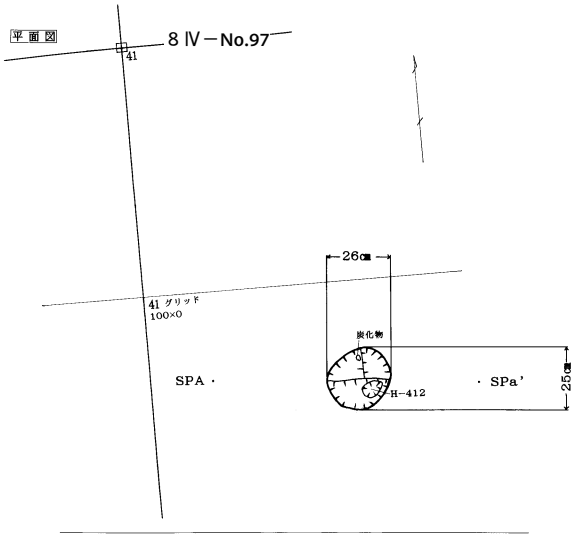




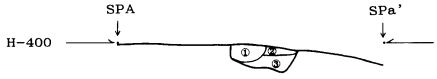


第49図　8 Ⅳ層土坑 No.93 ～ 96 (1/30)

平面図　8 Ⅳ－No.97



断面図



－ 土層注記 －

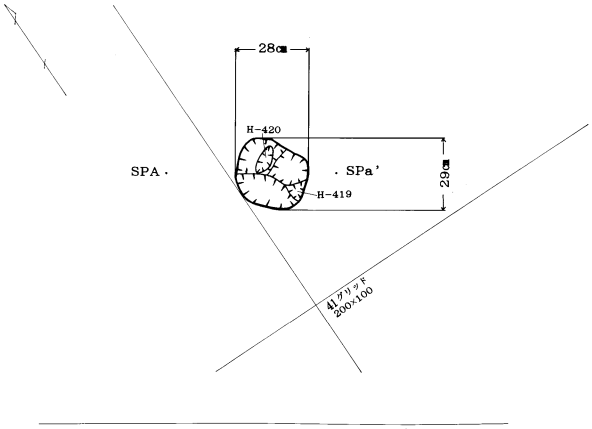
① 1層 黒色土(φ3㎜のパミス混)

② 2層 黒色土(φ1㎜のパミス混、1層より黒い)

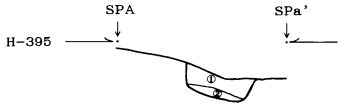
③ 3層 茶褐色土(φ6～8㎜のスコリア混)

0　50cm

平面図　8 Ⅳ－No.98



断面図



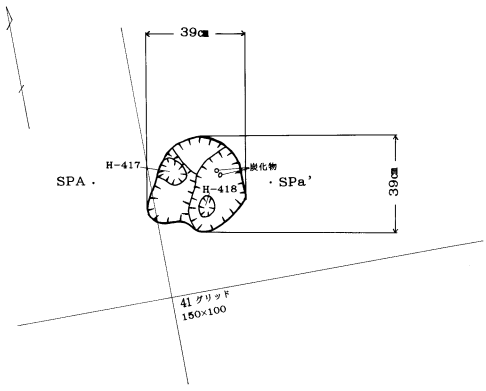
－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ2～3㎜のパミス混)

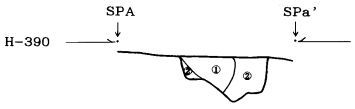
② 2層 茶褐色土(φ5～10㎜のスコリア混)

0　50cm

平面図　8 Ⅳ－No.99



断面図



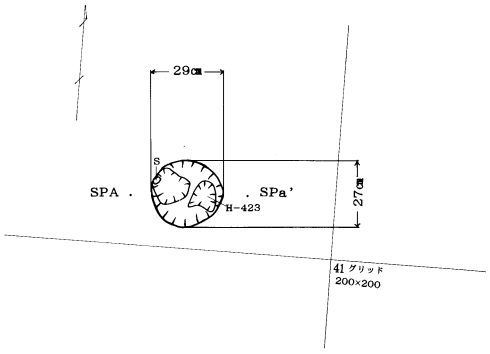
－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(φ3㎜のパミス混とφ4,10㎜のスコリア少量、やや茶色)

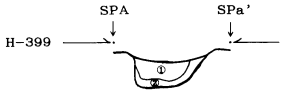
② 2層 黒色土(φ3㎜のパミスとφ4～5㎜のスコリア混)

0　50cm

平面図　8 Ⅳ－No.100



断面図



－ 土層注記 －

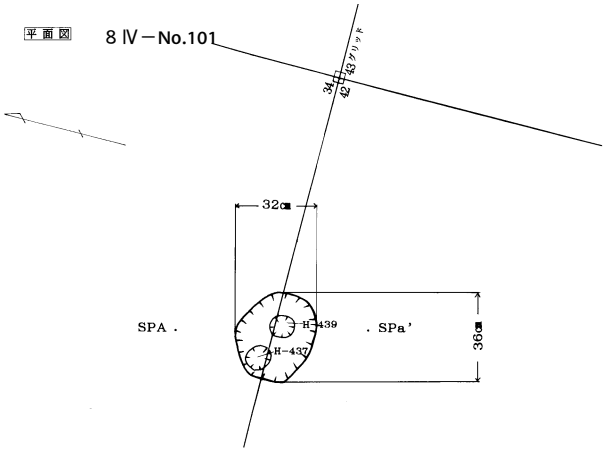
① 1層 黒色土(φ2～3㎜のパミスとφ4㎜のスコリア少量)

② 2層 茶褐色土(φ5～7㎜のスコリア混)

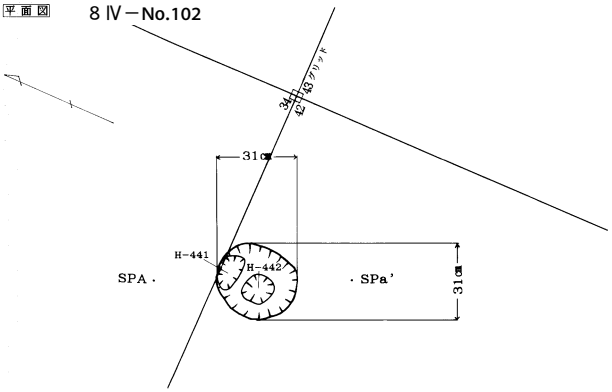
0　50cm

第 50 図　8 Ⅳ層土坑 No.97 ～ 100 (1/30)

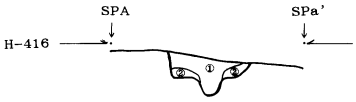
平面図　8Ⅳ－No.101



平面図　8Ⅳ－No.102



断面図



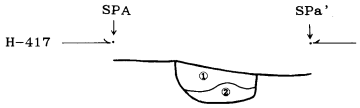
－ 土層注記 －

① 1層 褐色土(φ1～3mmのパミス少量)

② 2層 茶褐色土(φ1～3mmのパミス少量)

0　50cm

断面図



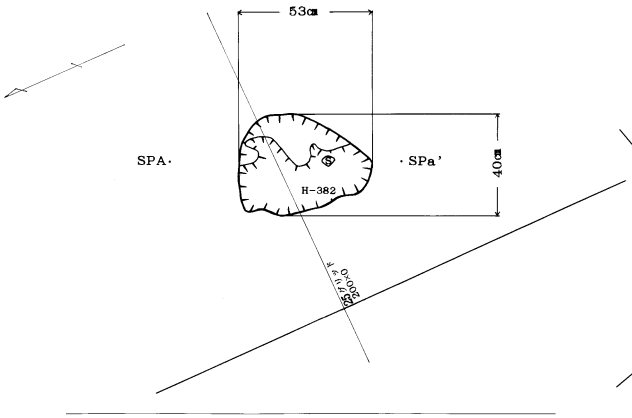
－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(パミス及びスコリア少量)

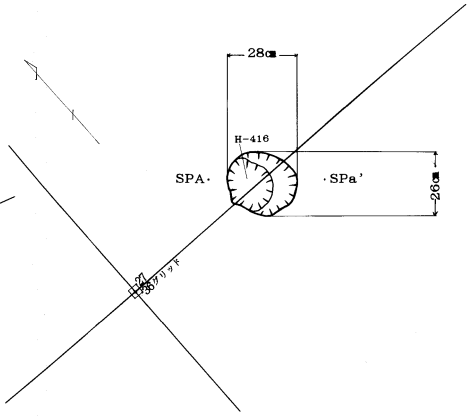
② 2層 茶褐色土(φ6～15mmのスコリア少量)

0　50cm

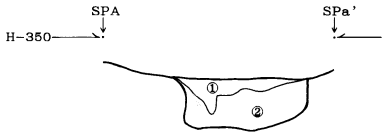
平面図　8Ⅳ－No.103



平面図　8Ⅳ－No.104



断面図



－ 土層注記 －

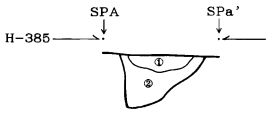
① 1層 黒色土(φ3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア少量)

② 2層 茶褐色土(φ7～10mmのスコリア混)

※ 本土こうは第Ⅲ層焼土No.4の下に位置する土こうである。

0　50cm

断面図



－ 土層注記 －

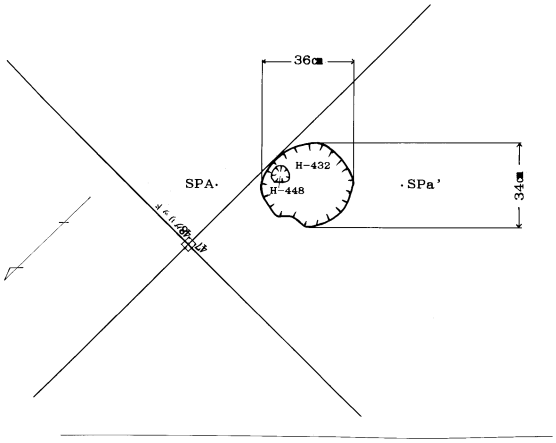
① 1層 黒色土(φ2mmのパミス少量)

② 2層 黒色土(φ2mmのパミス少量、1層より茶色)

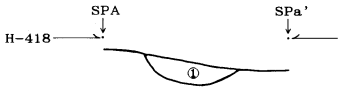
0　50cm

第51図　8Ⅳ層土坑No.101～104 (1/30)

平面図　8Ⅳ－No.105



断面図

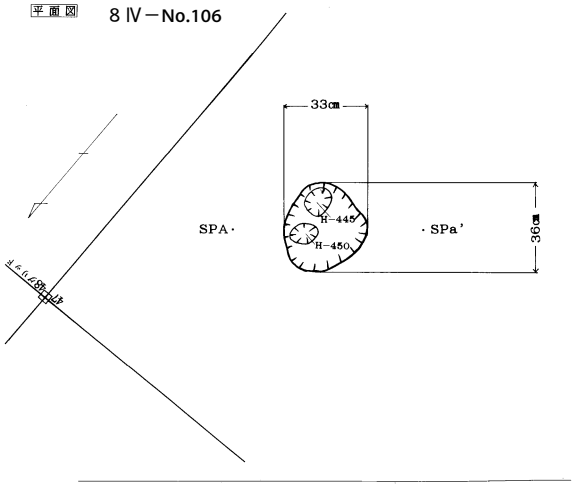


－ 土層注記 －

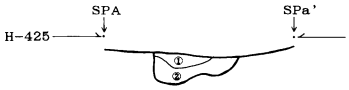
① 1層 茶褐色土(φ1～3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア少量)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.106



断面図



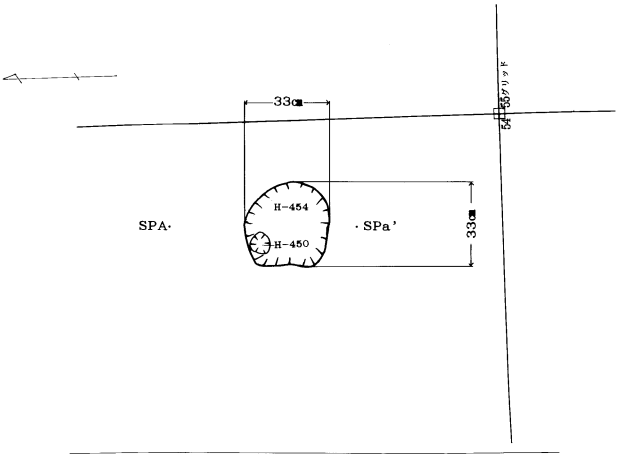
－ 土層注記 －

① 1層 茶褐色土

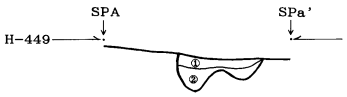
② 2層 茶色土(スコリア少量)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.107



断面図



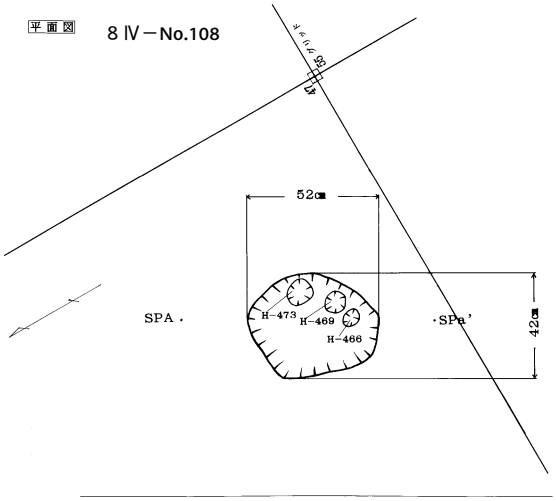
－ 土層注記 －

① 1層 黒色土

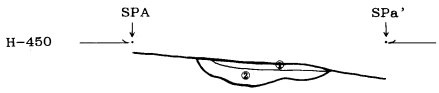
② 2層 茶色土(φ1～3mmのパミス少量)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.108



断面図



－ 土層注記 －

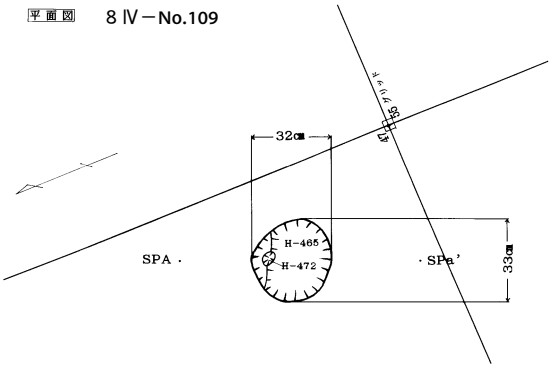
① 1層 黒色土

② 2層 茶褐色土(φ1～3mmのパミス混)

0　50cm

第52図　8Ⅳ層土坑 No.105 ～ 108 (1/30)

平面図　8Ⅳ－No.109



断面図

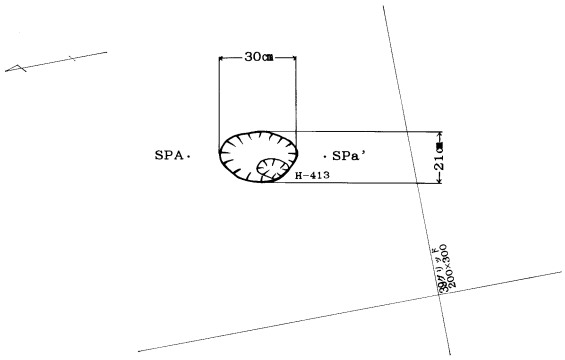
－ 土層注記 －

① 1層 黒色土(スコリア少量)

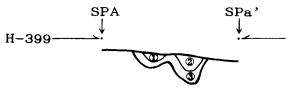
② 2層 茶褐色土(パミス、スコリア混)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.110



断面図



－ 土層注記 －

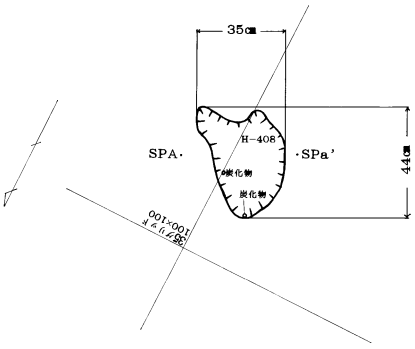
① 1層 黒色土(φ1～3mmのパミス混、2層より茶色)

② 2層 黒色土(φ1～3mmのパミス少量)

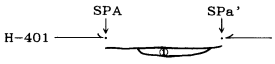
③ 3層 茶褐色土(φ1～3mmのパミス混、スコリアも少量)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.112



断面図

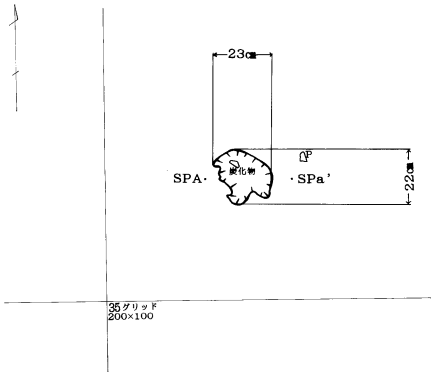


－ 土層注記 －

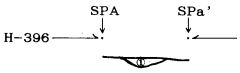
① 1層 黒色土(φ1～3mmのパミスとスコリア少量)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.113



断面図



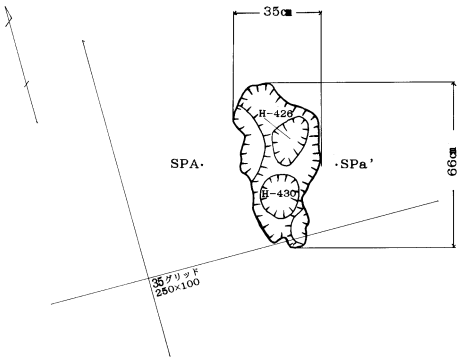
－ 土層注記 －

① 1層 茶褐色土(φ3mmのパミス少量とφ4～5mmのスコリア混、炭化物あり)

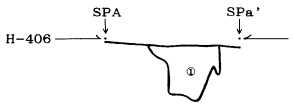
0　50cm

第53図　8Ⅳ層土坑No.109，110，112，113 (1/30)

平面図　8Ⅳ－No.114



断面図

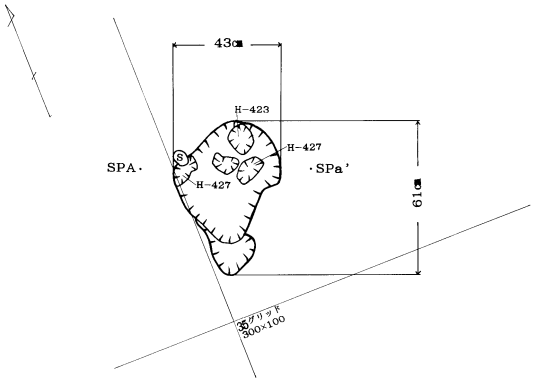


－ 土層注記 －

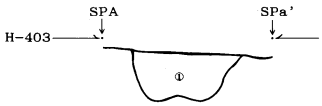
① 1層 茶褐色土(φ3mmのパミスとφ4～5mmのスコリア混)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.115



断面図

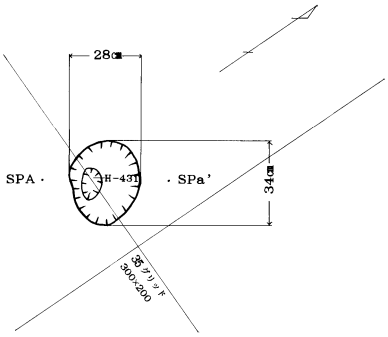


－ 土層注記 －

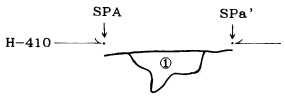
① 1層 黒色土

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.116



断面図

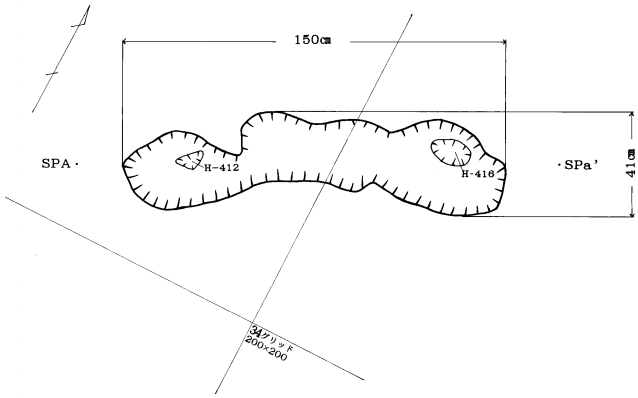


－ 土層注記 －

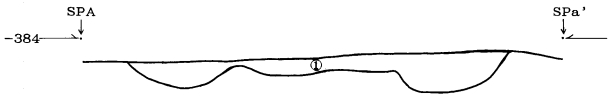
① 1層 茶褐色土(φ3mmのパミス少量とφ4～5mmのスコリア混)

0　50cm

平面図　8Ⅳ－No.117



断面図



－ 土層注記 －

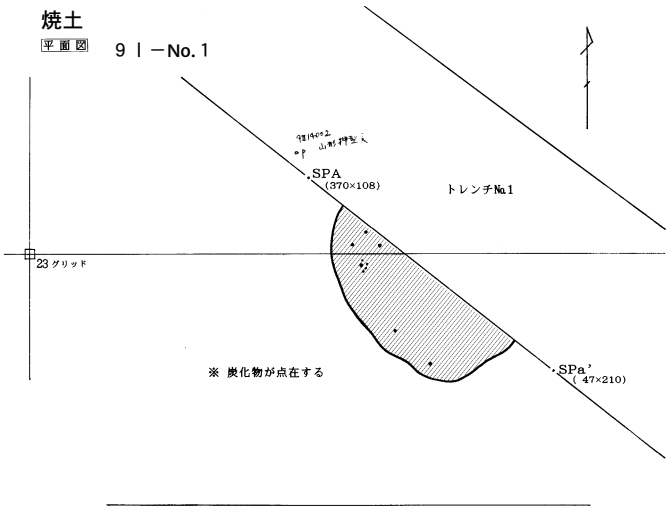
① 1層 茶褐色土(φ8～10mmのスコリア混)

0　50cm

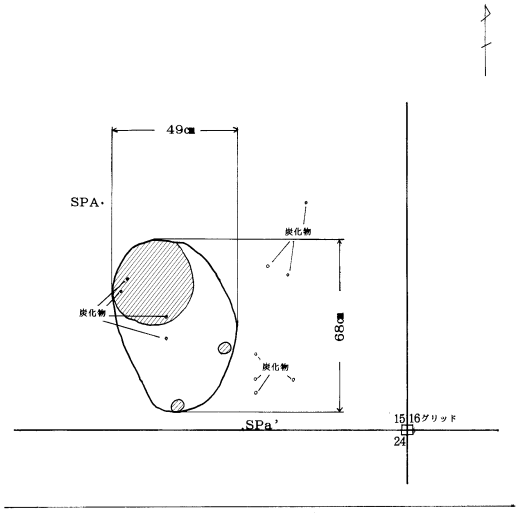
第54図　8Ⅳ層土坑 No.114 ～ 117 (1/30)

焼土

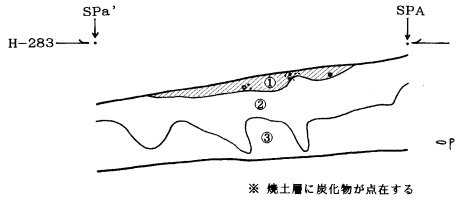
平面図　9Ⅰ－No. 1



平面図　9Ⅰ－No. 2



断面図

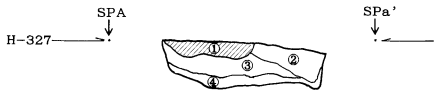


－ 土層注記 －

① 1層 焼土（炭化物多数混入）
② 2層 茶褐色土（φ5mmのスコリア混）
③ 3層 茶褐色土（φ10mmのスコリア多量に混入）

0　50cm

断面図



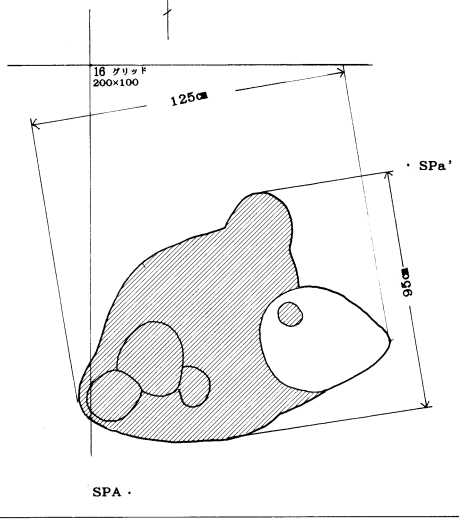
－ 土層注記 －

① 1層 焼土
② 2層 黒色土(炭と焼土の塊が点在)
③ 3層 黒色土(スコリア少量混入)
④ 4層 茶褐色土(スコリア多量混入)

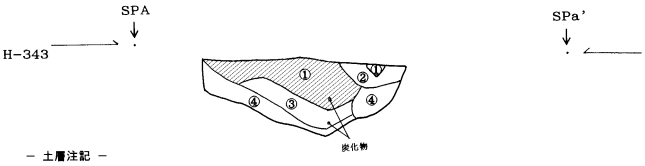
0　50cm

9Ⅰ－No. 3

平面図



断面図



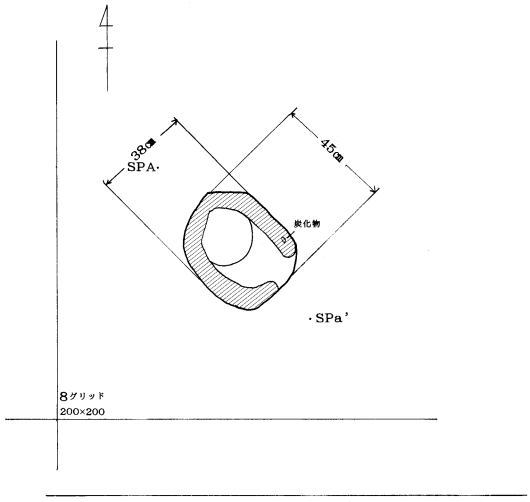
－ 土層注記 －

① 1層 焼土
② 2層 黒色土(焼土混)
③ 3層 黒色土(炭混)
④ 4層 茶褐色土(φ5mmのパミス混)

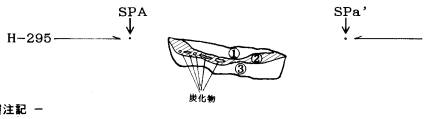
0　50cm

9Ⅰ－No. 4

平面図



断面図



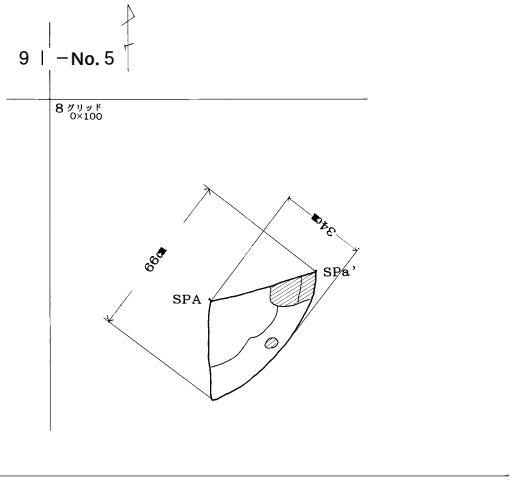
－ 土層注記 －

① 1層 黒色土
② 2層 焼土(炭が点在)
③ 3層 茶褐色土

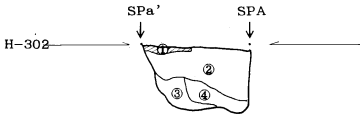
0　50cm

第55図　9Ⅰ層焼土 No. 1～4 (1/30)

平面図　9Ⅰ－No. 5



断面図

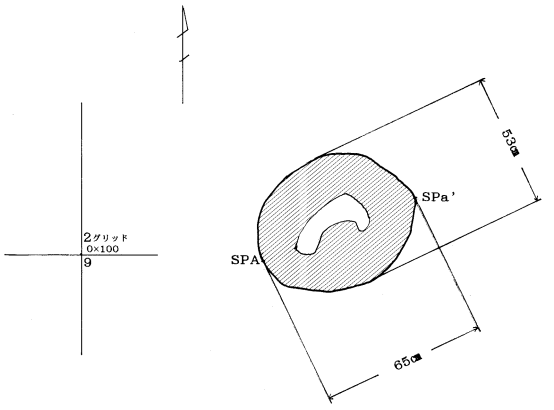


－ 土層注記 －

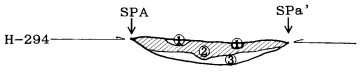
① 1層 焼土
② 2層 黒色土(焼土を含む)
③ 3層 黒色土(φ5～8mmのスコリア混少量)
④ 4層 茶褐色土(スコリア混多量)

0　50cm

平面図　9Ⅰ－No. 6



断面図

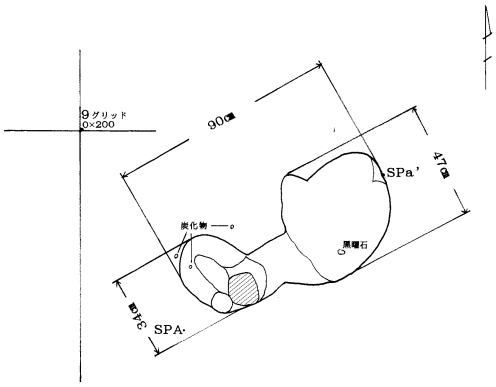


－ 土層注記 －

① 1層 茶褐色土(φ2～3mmのパミス混少量)
② 2層 焼土
③ 3層 濃茶褐色土(φ2～3mmのパミス混)

0　50cm

平面図　9Ⅰ－No. 7



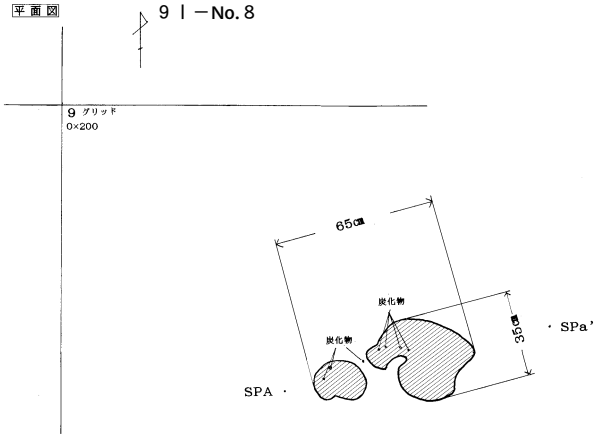
断面図

－ 土層注記 －

① 1層 焼土
② 2層 黒色土(焼土混)
③ 3層 黒色土
④ 4層 茶褐色土

0　50cm

平面図　9Ⅰ－No. 8



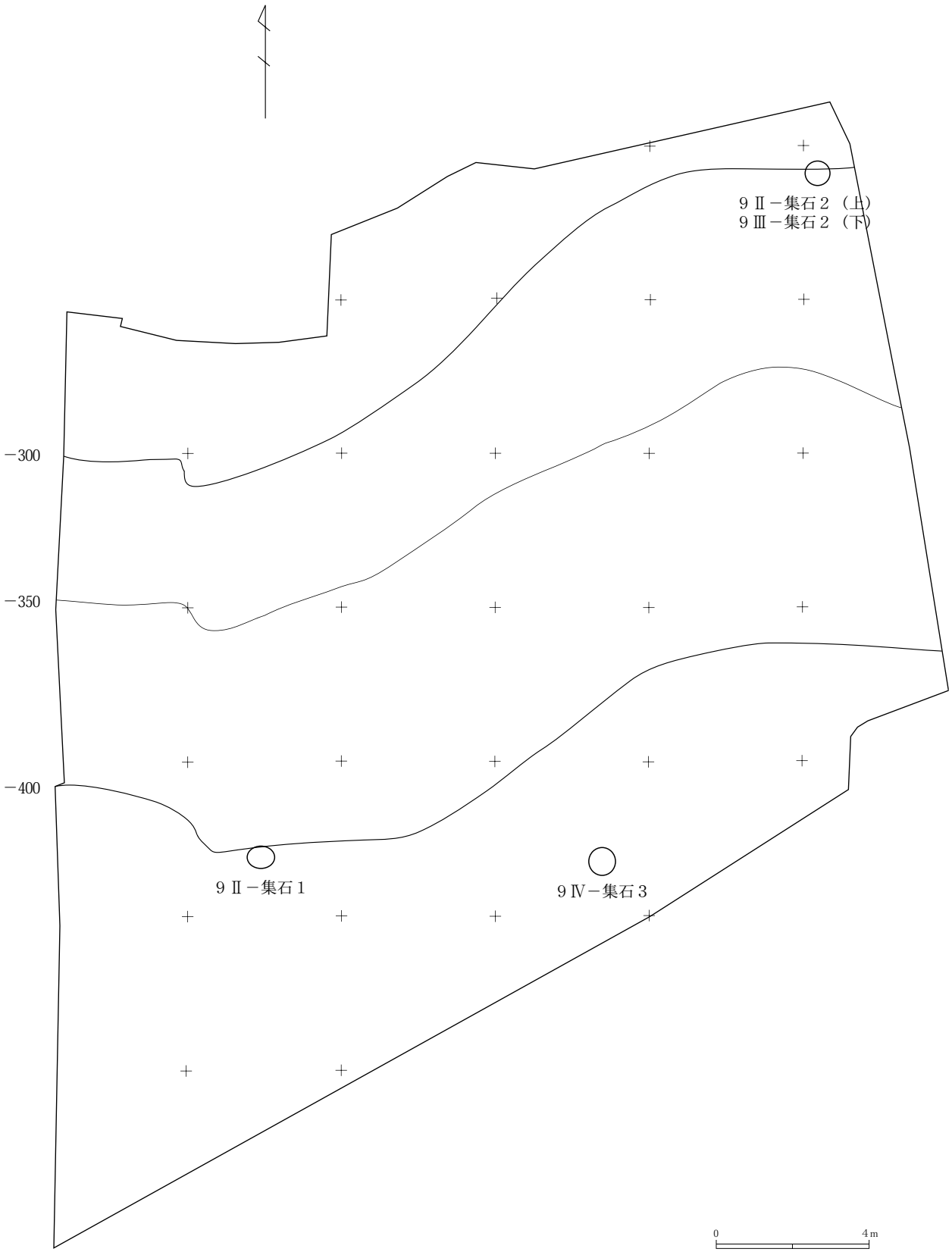
断面図

－ 土層注記 －

① 1層 焼土(炭が点在)

0　50cm

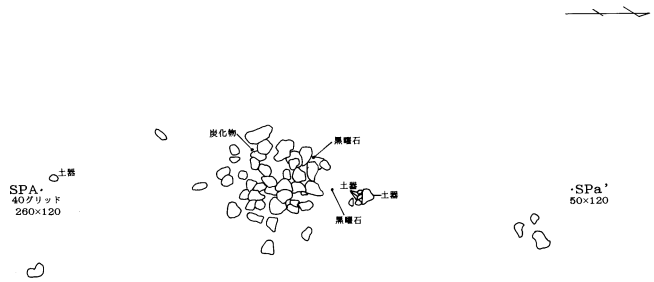
第56図　9Ⅰ層焼土 No. 5～8 (1/30)



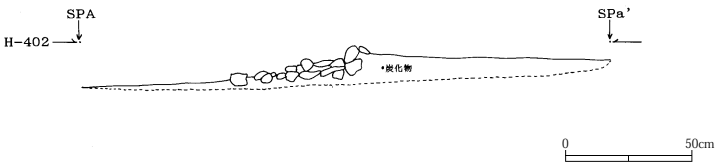
第 57 図　9Ⅱ～9Ⅳ層集石分布図 (1/150)

集石

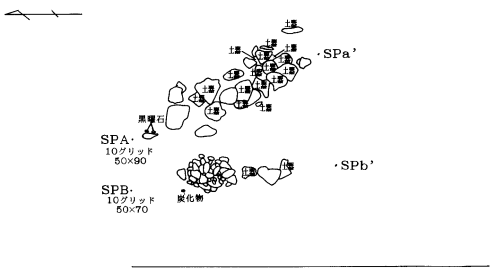
平面図　9Ⅱ－集石1



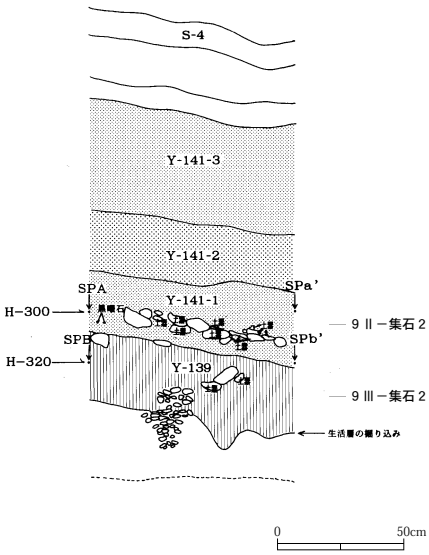
断面図



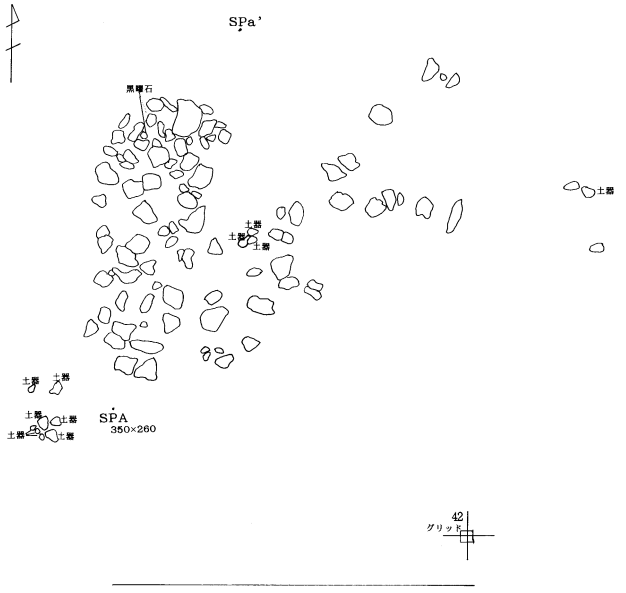
平面図　9Ⅱ－集石2（上）
9Ⅲ－集石2（下）



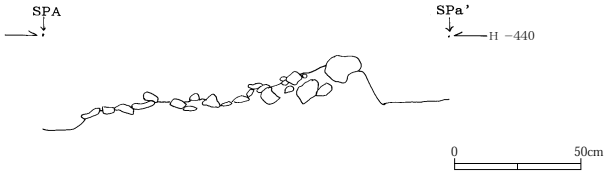
断面図



平面図　9Ⅳ－集石3

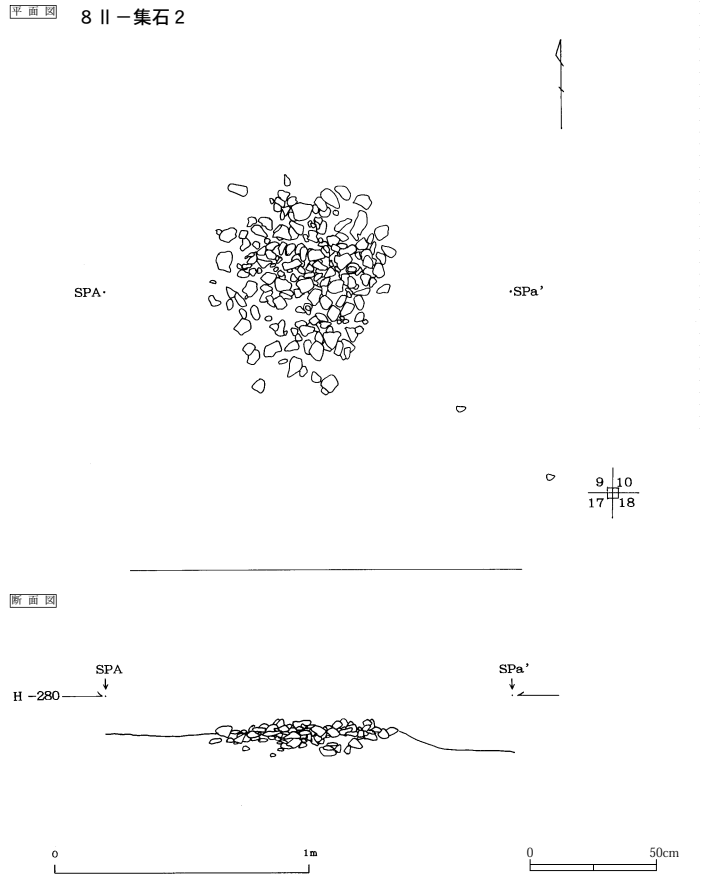


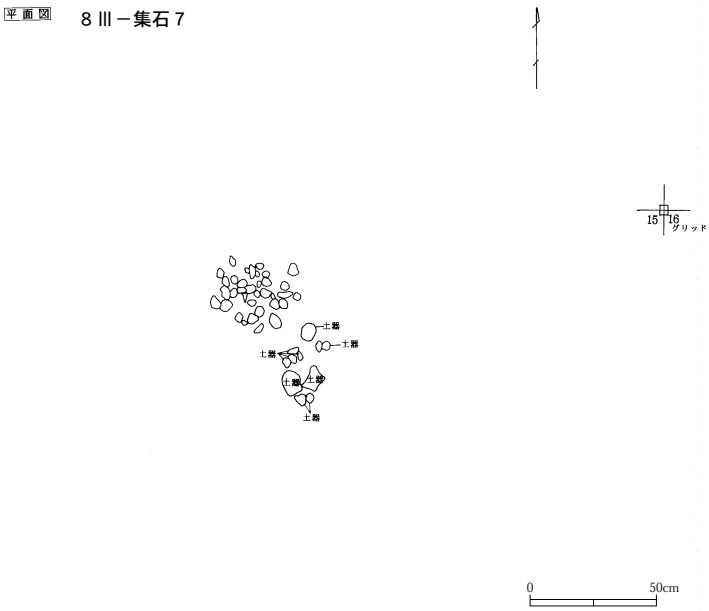
断面図



第58図　9Ⅱ～9Ⅳ層集石1～3（1/30）

第 59 図　８Ⅱ層、８Ⅲ層集石分布図 (1/150)





第60図　8Ⅱ層集石No. 2、8Ⅲ層集石No. 7 (1/30)

第Ⅳ章　　縄文時代早期出土遺物

第１節　縄文時代の土器

第１項　概要

笹見原遺跡９７年度、９８年度、９９年度の発掘により、縄文早期前半の撚糸文土器様式終末期から、縄文早期後半の沈線文系-条痕文系土器様式までを主体とした土器が検出された。検出された土器が有する主な文様属性の種類は、縄文、撚糸文、押型文、無文、沈線文、角押文、刺突文、条痕文、細隆起線文である。

８Ⅱ遺構検出面と８Ⅳ遺構検出面では多数の土抗、焼土が検出されている。８Ⅳ遺構検出面より上層から、貝殻沈線文土器群終末期から条痕文系土器群前半を主体とした、残存状態の良好な土器資料が多数出土した。又、９Ⅳ遺構検出面には、住居跡２棟と土坑２基が検出された。

この発掘状況から、遺構検出面が文化層に対応することが推定され、文化層は３枚あるとの認識で分析を進めた。

文化層の設定の分析は、次のように行った。

１：遺構検出面がどの自然層に対応するのかという、遺構検出面と地層の整合性の分析。

２：土器の出土分布・接合分布・出土レベルの事実確認から、土器の帰属する自然層と遺構検出面の把握の分析。

以上によって、検出された遺構検出面と土器が整合する自然層を明らかにすることで、文化層の分離・設定を行った。

文化層分離の結果：

分析の結果、笹見原遺跡の文化層は下層文化層・中層文化層・上層文化層の３枚に分離された。しかし当初の推定の遺構検出面＝文化層という結論にはならなかった。そこで、文化層分離の経緯を述べながら、３枚の文化層について以下に概観する。

下層文化層

まず９Ⅳ遺構検出面の住居跡出土の土器が下層文化層として認識された。住居跡出土土器で残存状態の良いものは、出土分布・接合分布・出土レベルが安定しており、一括遺物として把握できた。この住居跡と出土土器を下層文化層とする。

下層文化層の遺構検出面からは、住居跡が２棟、土抗２基が検出された。この住居跡からは無文土器を主体として、残存の良好な異方向縄文土器、暗文状沈線文土器などが、また細片資料として撚糸文、押型文土器も断片的に出土している。

なお９Ⅳ遺構検出面上面出土の住居跡出土以外の土器については、下層文化層には帰属させなかった。その理由は中層文化層の設定で以下に述べる。

中層文化層

次に、８Ⅳ遺構検出面下部から９Ⅳ遺構検出面上部にかけての地層からは、多数の縄文、撚糸文、

無文、押型文土器が出土している。これらの中には、下層文化層の土器とは全く異なる技法と平面分布をもつものがあるので、これらを中層文化層とした。

一方、9Ⅳ遺構検出面上面の土器には、出土地点レベルは計測されているものの、自然層を投影する有効なセクション図がなく、その出土資料の大部分は帰属する明確な自然層位が不明である。

つまり、9Ⅳ遺構検出面上面出土の土器は、下層文化層（9Ⅳ遺構検出面の住居跡とその出土土器）に帰属するのか、上記の中層文化層に帰属するのか、判別できない資料群である。そこで、判別不能の土器群は、便宜的に中層文化層として記述することにした。

さて、8Ⅳ遺構検出面下部から9Ⅳ遺構検出面上部にかけての地層には部分的に汚れローム層の流入が確認されており、一部の発掘区域は攪乱層の堆積の可能性が高いことが示された。中層文化層の項目で詳細は述べるが、中層文化層とは、自然の攪乱層を含む文化層で、幾つかの段階差をもつ土器群を便宜的にまとめて記述した文化層である。なお、中層文化層で、おおよその時期を把握できる資料として、撚糸文土器第5様式の東山ｂ式が出土している。

そして中層文化層は以上のように幾つかの時期を含む便宜的な文化層なので、その土器分布図は、出土レベルが確認されている接合資料のみを扱うことにする。

また出土レベル未確認土器については、土器分類の表に掲載し、分布図には掲載しない。

上層文化層

次に8Ⅱ遺構検出面と8Ⅳ遺構検出面から出土した土器群を、中層文化層と同様、出土分布・出土レベルを検討した結果、遺構検出面が2枚あるにも関わらず、出土土器をそれぞれの遺構検出面に帰属させる分類ができなかった。そこで、8Ⅱ遺構検出面と8Ⅳ遺構検出面を一枚の文化層として把握し、それを上層文化層とした。

なお上層文化層の土器群は、技法の型式学的分析を行った結果、段階差をもつと推定される2群の土器に分類された。この型式学的分析については第4章で詳しく述べることにする。

第２項　笹見原遺跡下層文化層：９Ⅳ層検出住居跡遺構内覆土出土の土器（第６１図）

（１）　概要

遺跡北東部から検出された二棟の住居跡遺構内覆土から、無文、縄文、暗文状沈線文、撚糸文の文様を有する土器が出土した。また比較的残存状態の良好な縄文土器、暗文状沈線文土器、無文土器が、破片が両方の住居跡にまたがる形で出土している。住居跡ごとに該当土器資料図版番号とその概要を掲載する。

（２）　１号住居跡、２号住居跡内覆土から出土した土器（第６２図）

比較的残存状態の良好な三点の接合土器資料が、1号住居跡、2号住居跡にまたがる形で出土した。

1は胎土中に大量の雲母が混入され（「u+」と記号化）、口唇直下から下方までLR異方向縄文が施文される土器である。器形は口唇に向かい直立気味となり、底部は欠損しているが、尖底と推測される。口縁は平口縁で、口唇形状は角が面取り状に調整される平縁である。色調は黒に近い暗褐

色で、器面の厚さは均一、質は硬質である。1号住居跡の出土は接合完形にある内の3片で、大部分は2号住居跡覆土中の出土である。

2は全面に暗文状の沈線が施文される土器で、胎土は砂粒（「ｓ」と記号化）を含む。沈線文は工具で表面を撫でただけのような浅い施文で、下方から上方に向かい施文され、口縁直下で半転する形状が連続する。器形は直線状に急角度で開く形状で、器面は厚く、輪積み部において、下方は中心に線状の隙間があき、上方が丸頭状の輪積み形状を示すことから、挟み込み気味の積み上げ成形であると推測される。接合破片は住居跡遺構外の２７区から集中的に出土している。

3は無文土器で、口唇平頭、口縁弱外反の形状を示す。胎土はｓである。口縁部に両側穿孔の補修孔が開けられ、表面はナデ調整だが、部分的に極細の線状痕が付く。平坂ｂと推定される。

以上3点の接合破片を、住居跡内出土レベルから分布を確認すると、1号住からはいずれも住居跡壁近くの底面付近から、2号住からは住居跡底面より2～３０㎝上方の住居跡内または住居跡上覆土から出土していることが確認される。

（３）　１号住居跡内覆土出土の土器（第６３図）

４～２４は無文土器もしくは無文土器片である。内4～8は雲母微量で砂粒を含む胎土（「s(u-)」と記号化）で、9～１８は雲母含有が確認出来ない砂粒を含む胎土ｓ、１９～２３はパミス状の砂粒、繊維を含んだ胎土（「psf」と記号化）である。２４は雲母多量u+胎土で、細片である。比較的残存の良好な4、6は、4は約1/6、6は約3/4が住居跡内覆土出土で、記録されている出土レベルによると、住居跡側辺部底面付近からの出土が主である。平坂式の古段階に該当するものか。

無文土器片に関しては、細片が多いことにもよるが、胎土特徴の差違が認められるのみであった。

２５～３１は撚糸文土器である。２５、２６はパミス状で砂粒含のps胎土、２９、３０、３１はパミス状＋砂粒＋繊維含のpsf胎土である。いずれもＲ絡条体1類で縦位施文される。２７はu+胎土で、残存範囲の殆どが無文だが、残存部上部に条幅0.5㎜のＲ絡条体1類が横斜位に残る。２８は砂粒含ｓ胎土で、Ｒ絡条体1類が縦位施文される。

３２は多量雲母胎土の縄文施文土器で、表面が剥落し僅かに施文が残るのみであるが、１と同一個体資料と推定される。

３３は楕円押型文土器で、若干パミス状の様相を持つが硬質で、砂粒含のs(p-)胎土である。遺構外から同類数片が出土している。

（４）　２号住居跡内覆土出土の土器　（第６４、６５図）

３４～４５はs(u-)胎土の無文土器または無文土器片である。３４は口縁部～胴部の接合破片で、口縁部に両側穿孔の補修孔を有する。表面、内面共にタテナデ調整、口唇形状は丸頭で、直立気味ながら緩やかに広がる器形を持つ。出土レベルによれば、住居跡底面より約１０㎝上から検出されている。

４０は底部付近の比較的残存状態の良好な資料で、表面縦磨き、内面縦削りで調整される。質は硬質で、輪積み痕が顕著に残る。接合破片の大半は住居跡内出土で、出土分布、レベルによれば住

居跡中央部の底面付近で検出されている。３５は４０と共通の属性を示し、同一個体の可能性があるが、非接合である。接合破片の主な2片は住居跡内覆土出土だが、一片は底面付近、もう一片はやや上方からの出土である。

４６～５０は胎土中に雲母が認められないｓ胎土の破片で、いずれも細片のみである。

５１～５３は粗悪な胎土で、５１は胎土中に若干発泡状の空洞を残し、僅かに繊維を含むsf(p-)胎土の無文土器で、口唇は丸頭で頂部のみ横方向に磨きが入る。５２、５３は同様の胎土の胴部破片で、施文がされていた可能性もあるが、表面摩耗が激しく判別不可能である。

５４～６９は撚糸文土器で、パミス状＋砂粒ps胎土が５４～６６、それに繊維混入が認められるspf胎土が６７～６９である。５４は口縁部破片で、丸頭口唇部に磨きが入る。５７は施文で一部復節化する箇所があるが、それ以外はＲなので、撚りムラにより一部復節化したものと推定される。６１は節が確認出来ず、繊維痕のみ残り、その傾きから0段条１と見られる。他の撚糸文土器は、全てＲ絡条体が施文される。

７０～７６は縄文土器である。７０、７１は砂粒＋雲母微量s(u-)胎土で、全面に細かい単位で、条幅１㎜程度のLRが縦位施文される。隣同士の条幅がやや異なるものの、施文深さは均一なことから、異条の1段縄を撚り合わせ2段縄を製作しているものと推定される。出土レベルによれば、住居跡内覆土出土の破片は、住居跡底面から１０～１５㎝ほど上方から出土している。

７２、７３は砂粒＋雲母微量s(u-)胎土で、一部節が復節化するなど、不安定な異条LRで施文される。底部に近い部位の破片と推定される。

７４、７５はu+胎土で、７４はLR異方向縄文を示す口縁部破片である。1の資料と同一破片と推定される。７５は表面の多くが欠損しているが、残存している施文から同様と思われる。７６はＲによる異方向縄文で、胎土はspfである。遺構外出土で同類または同一資料と推定される破片が出土している。

７７は山形押型文土器で、パミス状＋砂粒＋繊維のpsf胎土である。表面欠損部が大きいが、胎土と山形文の大きさから、遺構外出土の玉抱山形文資料と同一資料と推定される。

７８は暗文状沈線文が施文される土器で、2と同一資料と推定される。復元資料よりやや下部に位置すると思われるが、非接合である。

（5） まとめ

1号住居跡からは、無文、縄文、撚糸文、暗文状沈線文、押型文施文の土器が検出された。

内、残存が比較的良好な3点、異方向縄文u+胎土の土器（1）、暗文状沈線文ｓ胎土の土器（2）、無文ｓ胎土土器（３）の各一部が、住居跡側辺部底面近くで検出されている。

量的には無文土器破片が多く、尖底など器形の判断可能な資料が住居跡底面付近で出土している。その点数は大小あわせ２１点で、胎土特徴により3類に分類される。

撚糸文土器片は7点の出土だが、胎土性質で見て同類のものはそれぞれ1～3片に留まり、細片が主である。押型文土器は楕円文破片1点（2片接合）に留まった。

2号住居跡からは、底面付近からs(u+)胎土無文土器片のまとまった接合資料が出土しており、さら

に底面より２０～３０㎝㎝上方の覆土から、1号住出土破片と接合する1、2、3の土器が出土している。

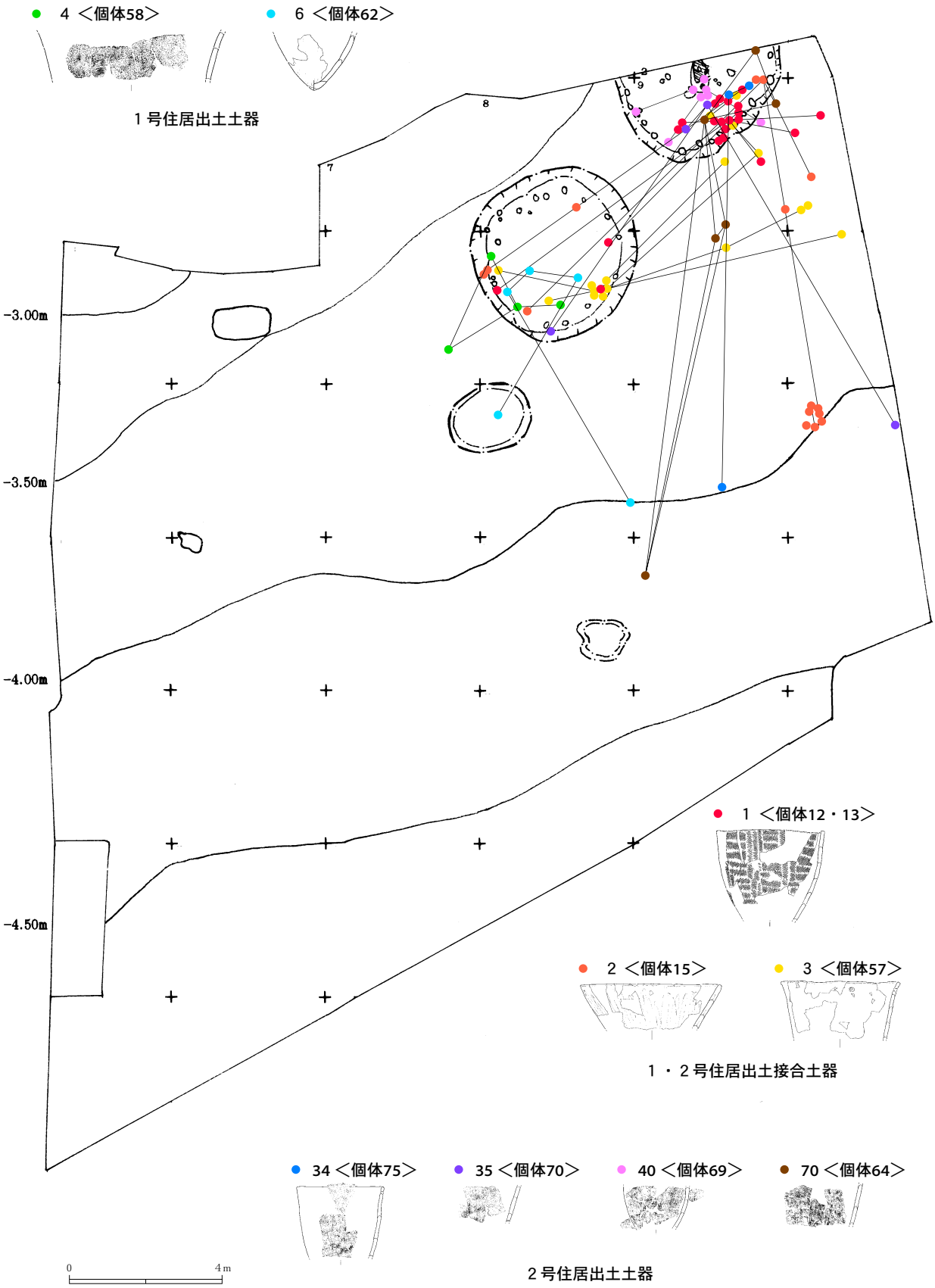
撚糸文土器はパミス状無繊維、有繊維破片が十数点出土しているが、小破片が主である。

縄文施文土器は７０がまとまった資料だが、接合関係にある破片が遺構外にやや広く分布している。住居跡内出土レベル的には底面から１０～１５㎝程度と、無文土器の出土レベルに近い。

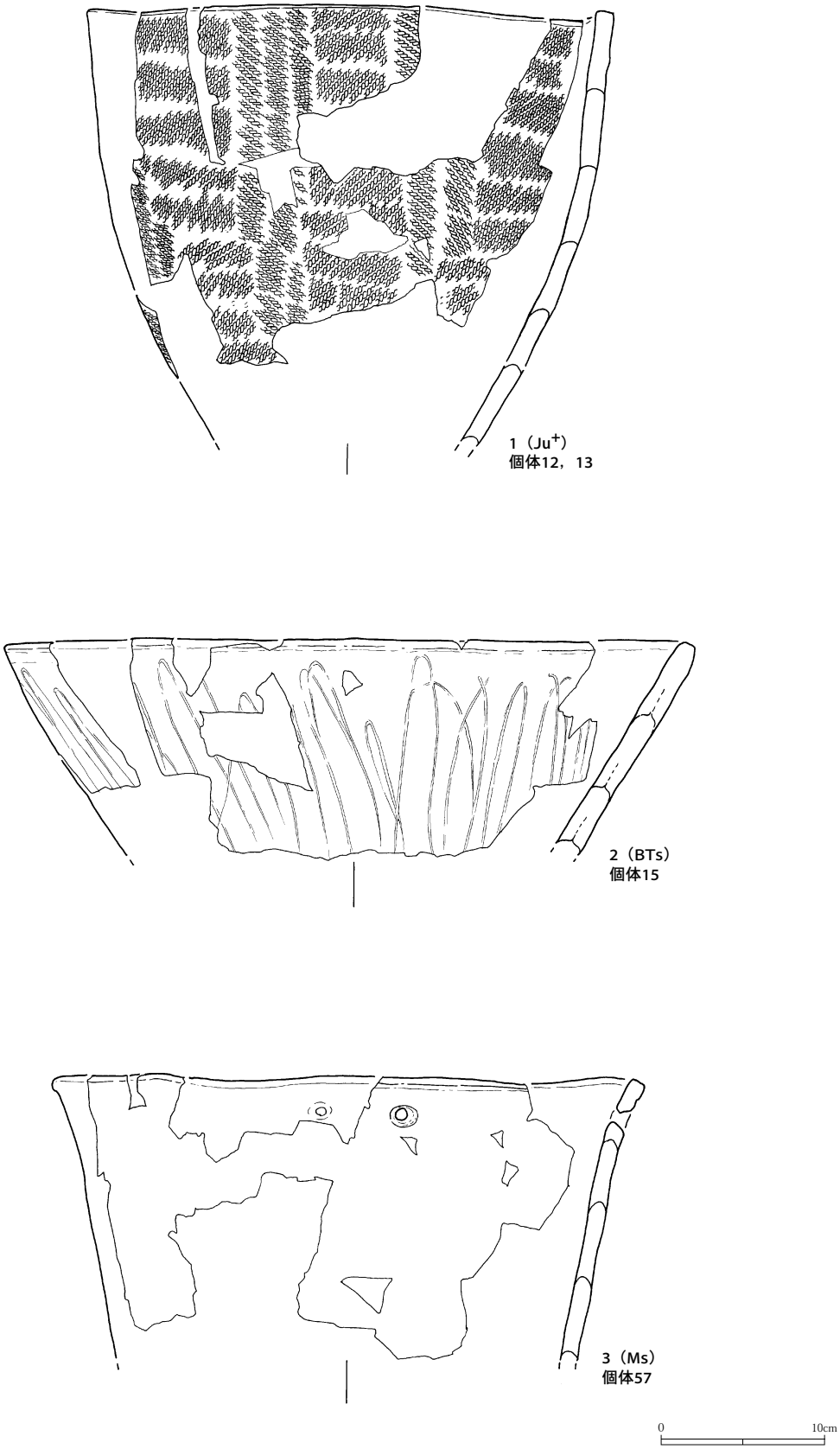
押型文土器は山形psf胎土資料1点のみの出土である。

以上の状況から、2号住居跡に伴う土器は、底面付近で出土しているs(u-)胎土の無文土器である可能性がもっとも高く、2号住居跡埋没後に、1号住底面付近出土の接合関係をもつ1、2、3の土器が覆土中に混入したと推定され、時期的に2号住居跡の成立は1号住居跡に先行することが予想される。

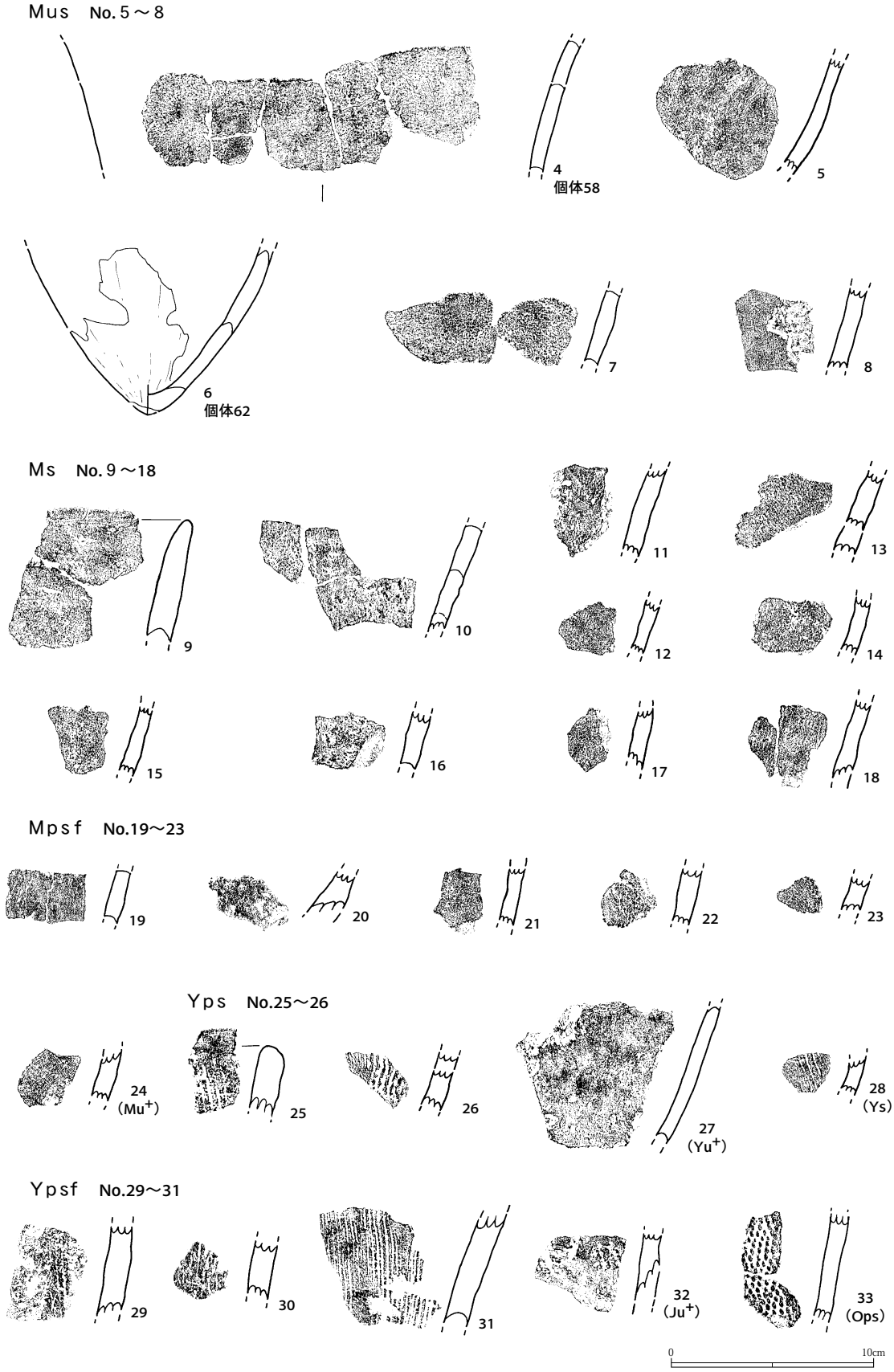
また撚糸文土器と押型文土器は、両方の住居跡内覆土から、パミス状胎土が特徴の土器片が一定数確認されるが、資料状態と出土数量から見て、住居跡との明確な関連は不明である。



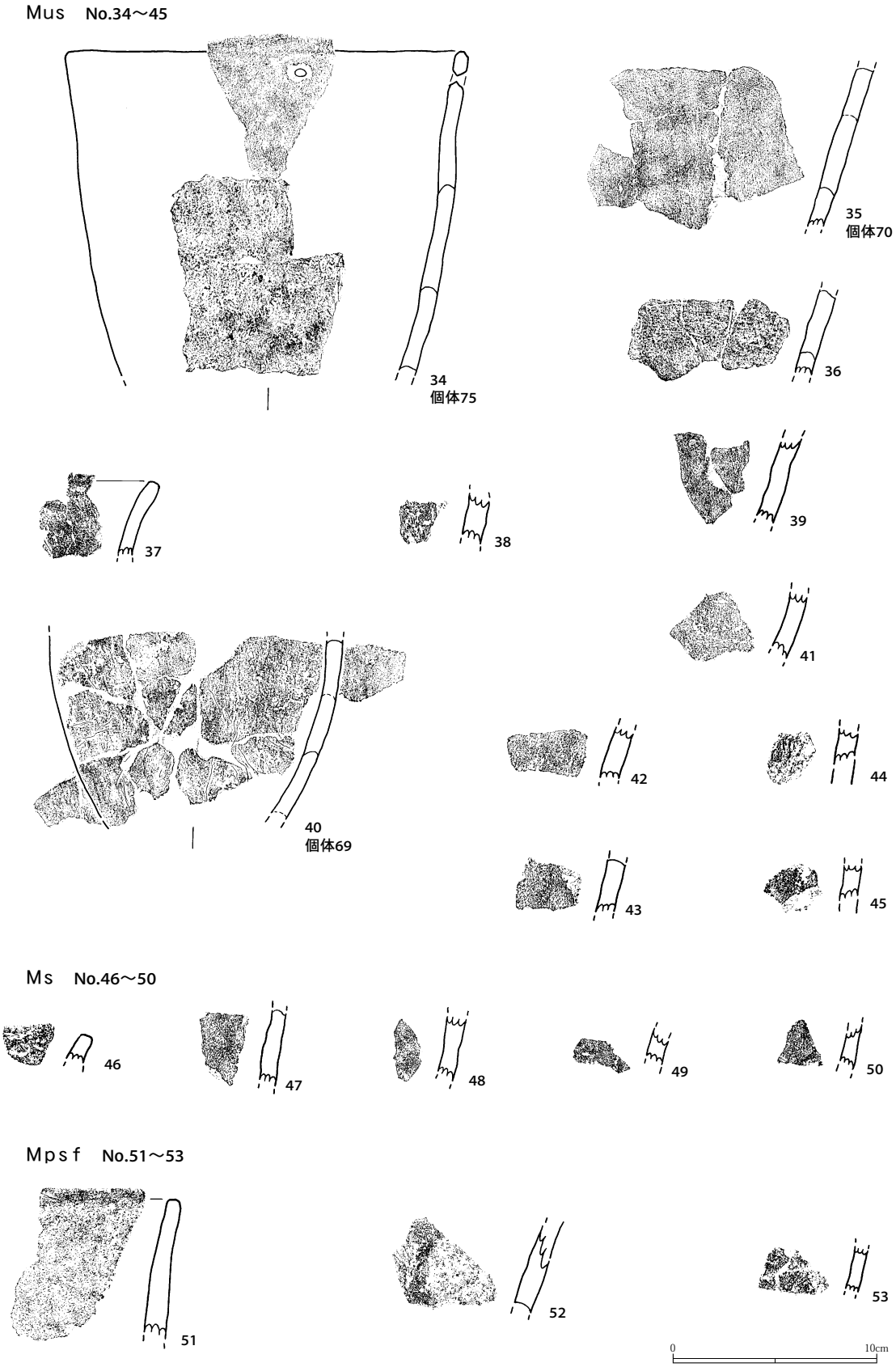
第 61 図　縄文時代早期下層文化層出土土器分布図（９Ⅳ層遺構面検出住居跡内覆土出土）(1/150)



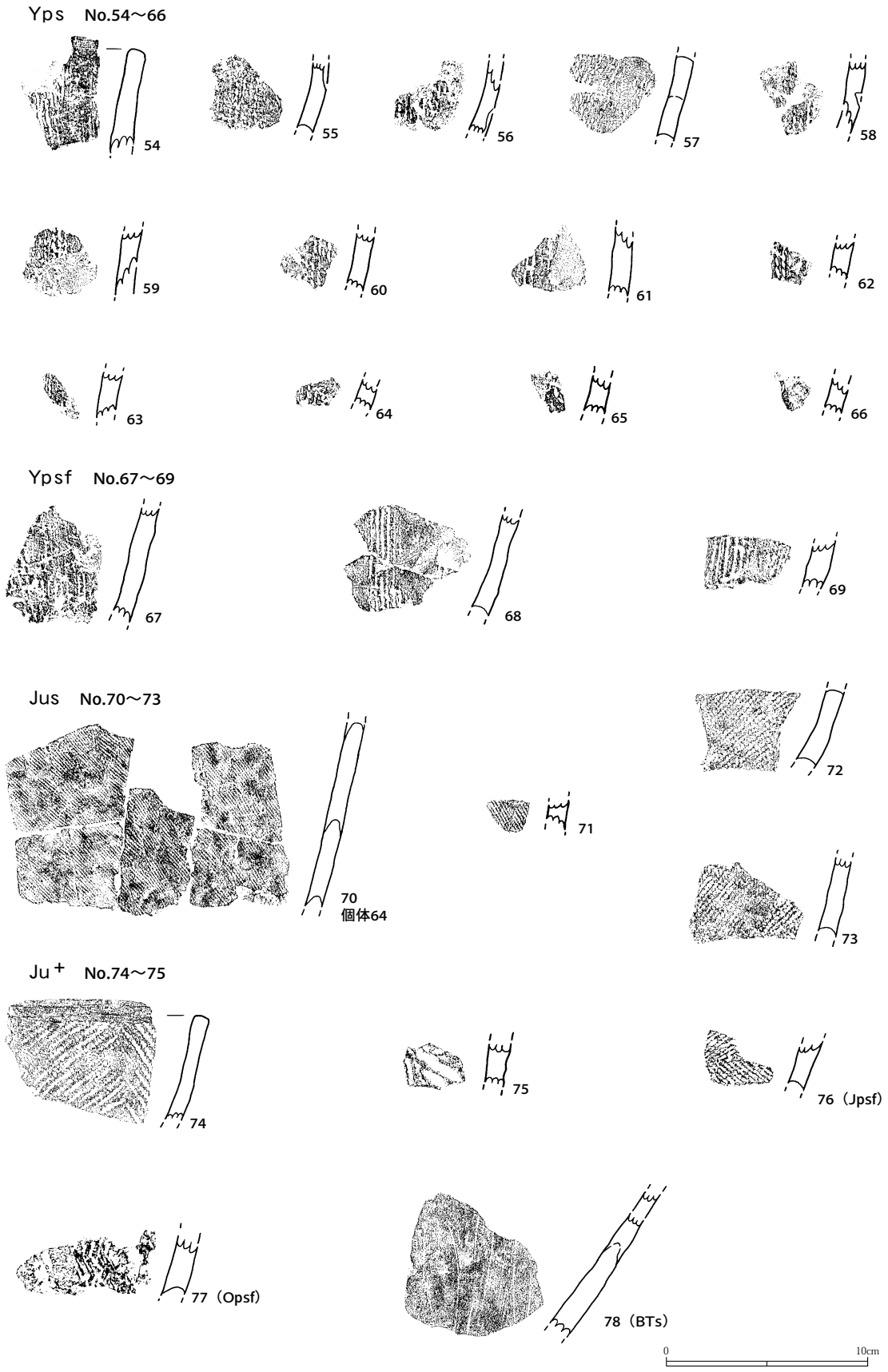
第 62 図　1 号住居跡、2 号住居跡出土接合土器 (1/4)



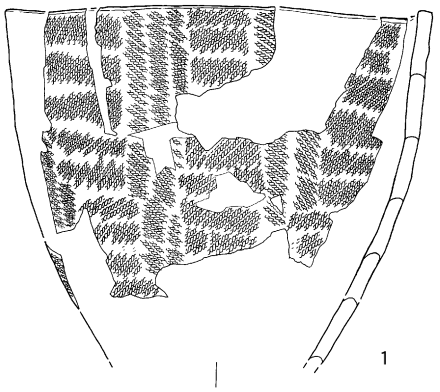
第63図　1号住居跡出土土器 (1/3)

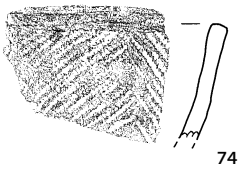


第64図　２号住居跡出土土器（１）(1/3)



第65図　２号住居跡出土土器（２）(1/3)



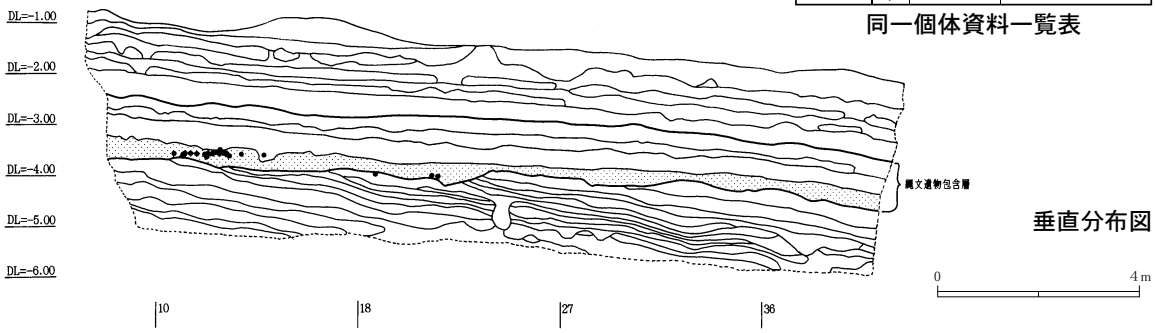


個体12,13

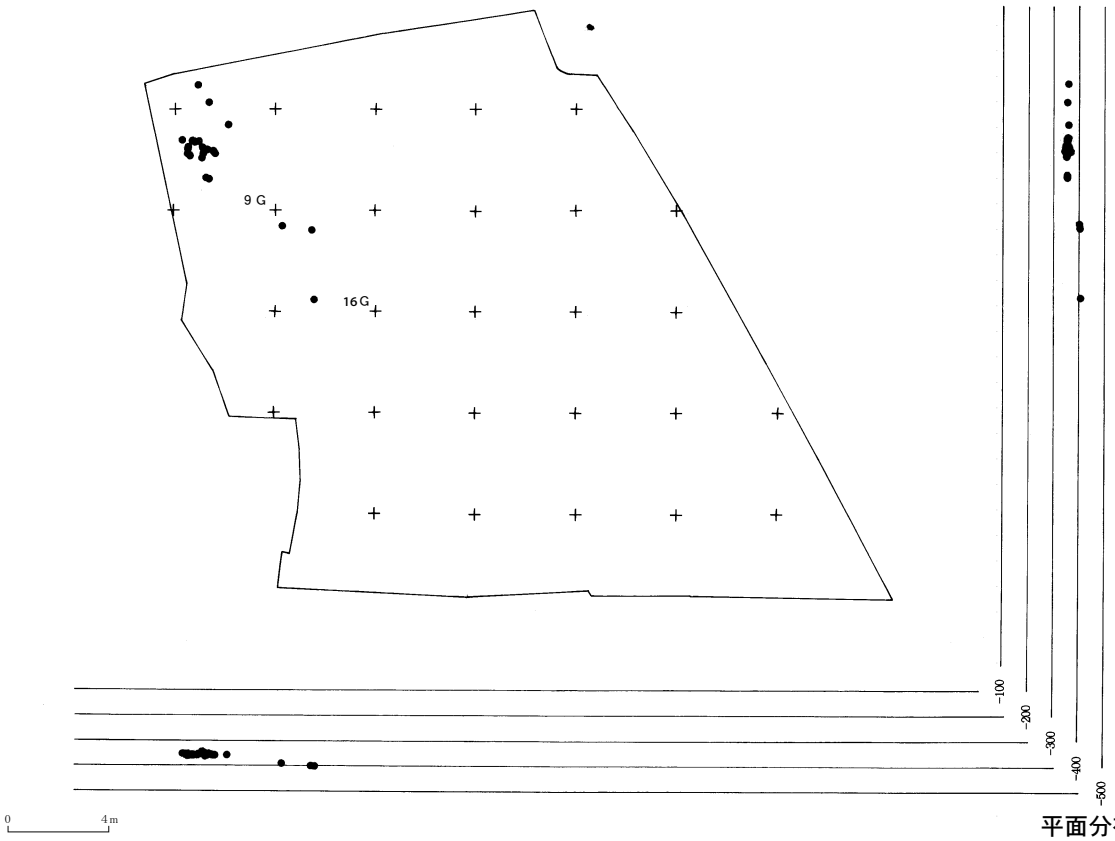
縄文　J　u+

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	9028	115×230×-353
2	9	9040	128×131×-357
3	9	9049	135×127×-358
4	9	9057	165×218×-359
5	9	9058	143×230×-360
6	9	9064	117×250×-354
7	9	9068	98×275×-356
8	9	9070	31×280×-357
9	9	9072	67×273×-357
10	9	9073	75×273×-357
11	9	9077	55×241×-358
12	9	9082	125×233×-359
13	9	9084	210×339×-359
14	9	9107	56×218×-359
15	9	9108	51×226×-360
16	9	10001	124× 26×-350
17	9	10021	95× 99×-358
18	J住	1020(16)	30×340×-399
19	J住	1027(16)	148×322×-401
20	J住	1059(16)	160× 50×-402
21	J住	2010(9)	103×212×-363
22	J住	2091	230×110×-364

同一個体資料一覧表

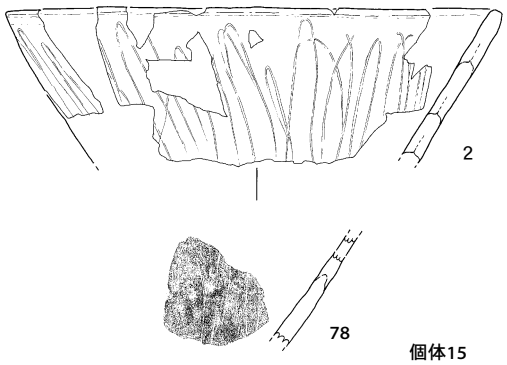


垂直分布図



平面分布図

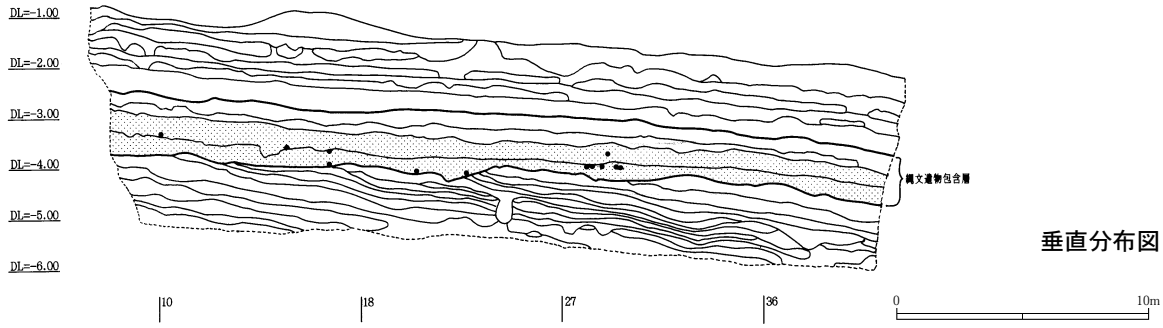
第 66 図　下層文化層出土土器分布図　1・74＜個体 12，13＞(垂直 1/150，平面 1/300)



沈線文　ＢＴｓ

No.	年度	物 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	27003-2	87×113×-373
2	9	9015	1×335×-329
3	9	10006	337× 14×-363
4	9	10007	251× 75×-353
5	9	27001	109× 91×-390
6	9	27017	76× 88×-390
7	9	27019	60× 90×-391
8	9	27022	49× 79×-392
9	9	27033	112× 68×-394
10	J住	1003(8G)	330×257×-390
11	J住	1061(16G)	112× 34×-404
12	J住	1065-2(16G)	213×125×-406
13	J住	2078	367×156×-363
14	9	27016	62×64×-388
15	9	27014	60×71×-390

同一個体資料一覧表



垂直分布図

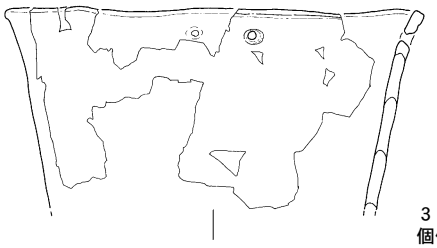
平面分布図

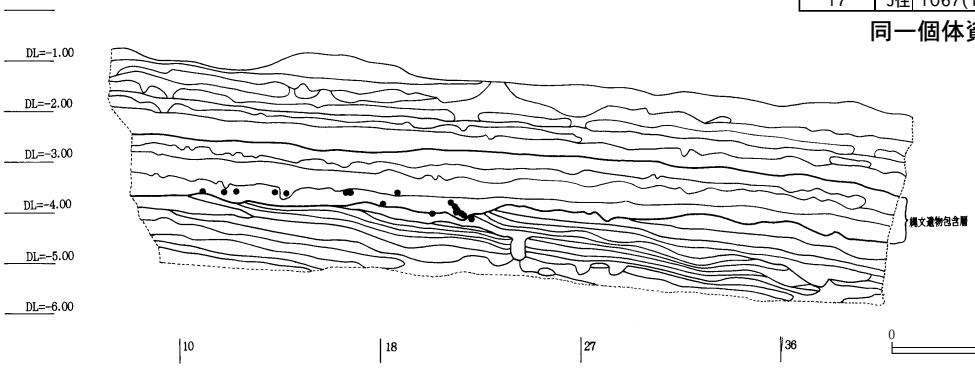
第 67 図　下層文化層出土土器分布図　2 ・78 ＜個体 15 ＞(垂直 1/150，平面 1/300)

無文　　M　s

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	10001	339× 52×-352
2	9	10002	333× 60×-352
3	9	17013	42×247×-360
4	9	9007	197×332×-352
5	9	9030	95×200×-354
6	9	9053	124×248×-353
7	9	9067	52×250×-356
8	9	9074	222×240×-357
9	9	16042	146×330×-383
10	9	16043	151×336×-384
11	9	18022	5×153×-379
12	J住	1022(16)	157×325×-399
13	J住	1024(16)	158×310×-400
14	J住	1025(16)	158×323×-400
15	J住	1031(16)	167×306×-403
16	J住	1041(16)	181×182×-409
17	J住	1067(16)	109× 58×-406

同一個体資料一覧表

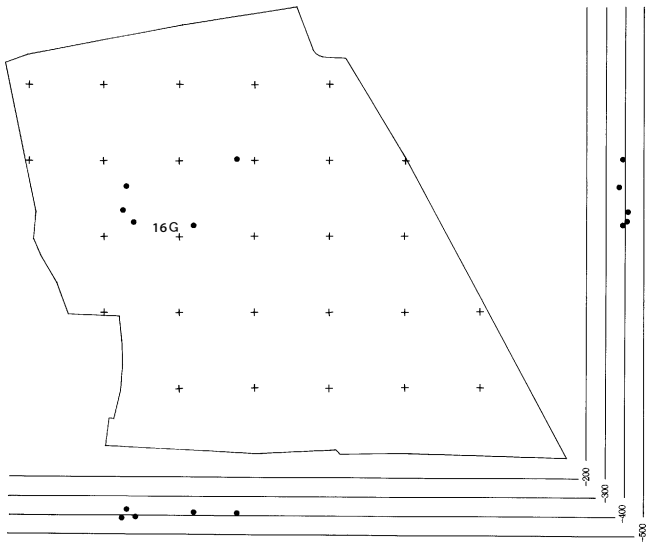




垂直分布図

平面分布図

第 68 図　下層文化層出土土器分布図　3＜個体 57＞(垂直 1/150，平面 1/300)



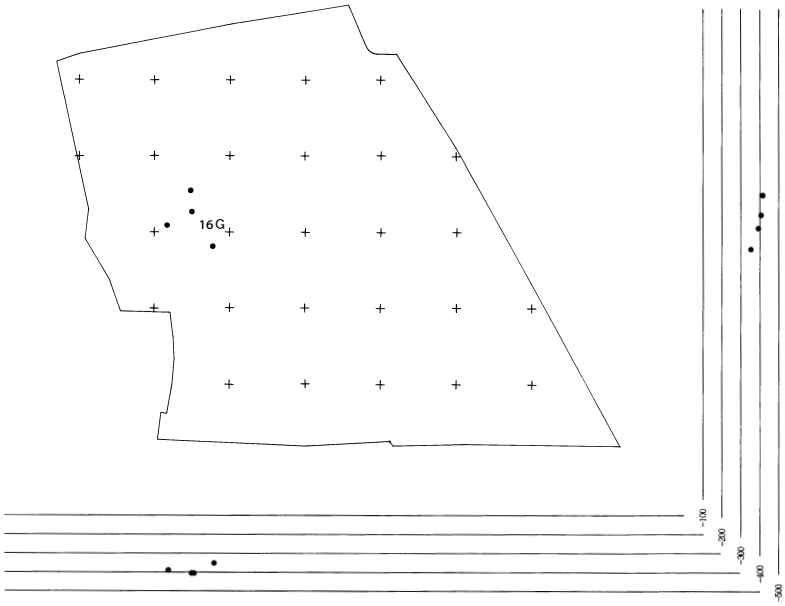
平面分布図

4
個体58

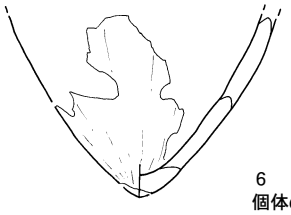
無文　　M　us

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	26029	314×12×-389
2	9	16016	122×265×-369
3	9	25031	83×57×-385
4	J住	1048(16)	100×135×-414
5	J住	1062(16)	162×82×-405

同一個体資料一覧表



平面分布図



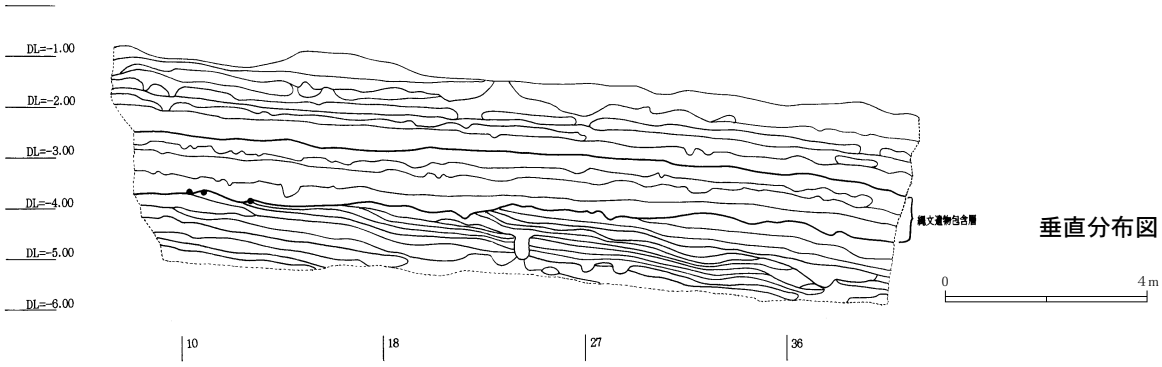
6
個体62

無文　　M　us

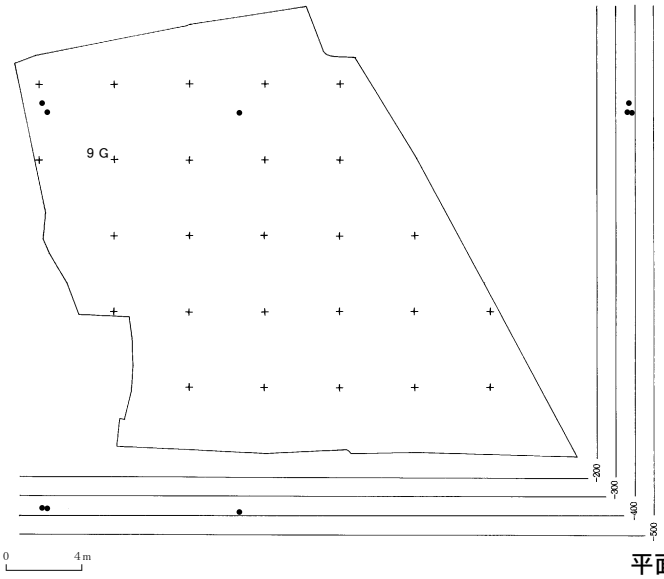
No.	年度	遺物 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	15011	310×326×-356
2	J住	1039(16)	189×218×-408
3	J住	1053(16)	66×40×-390
4	J住	1063(16)	197×113×-405

同一個体資料一覧表

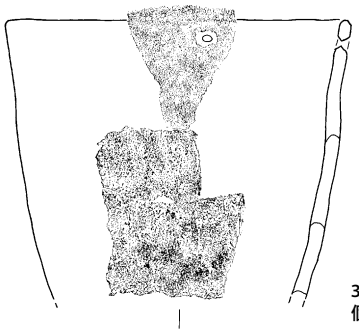
第 69 図　下層文化層出土土器分布図　4＜個体 58＞，6＜個体 62＞(平面 1/400)



垂直分布図



平面分布図



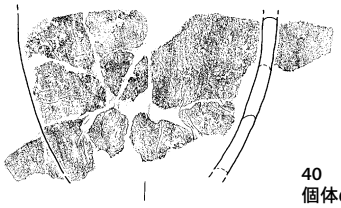
34
個体75

無文　　M　us

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	J住	2094	190×270×-370
2	J住	2096	450×230×-371
3	9	26032	283×245×-392

同一個体資料一覧表

平面分布図



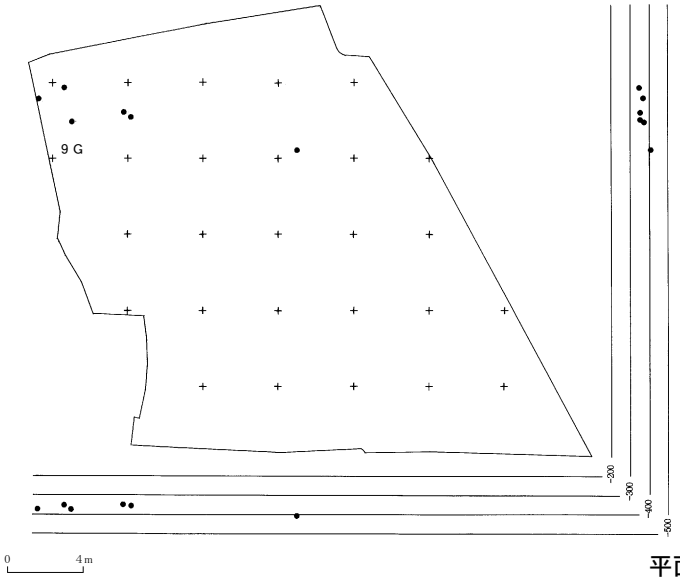
40
個体69

無文　　M　us

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	17010	163× 75×-354
2	9	9046	164×100×-359
3	9	9117	113×346×-362
4	J住	2049(9)	85× 20×-378
5	J住	2086(9)	25×162×-375
6	J住	2092(9)	323×318×-368
7	J住	2100(9)	52×198×-378
8	J住	2101(9)	1×190×-380
9	J住	2105(9)	33×200×-383
10	J住	2106(9)	34×180×-383
11	J住	2110-2(9)	56×198×-384

同一個体資料一覧表

第 70 図　下層文化層出土土器分布図　34＜個体 75＞，40＜個体 69＞(垂直 1/150，平面 1/400)



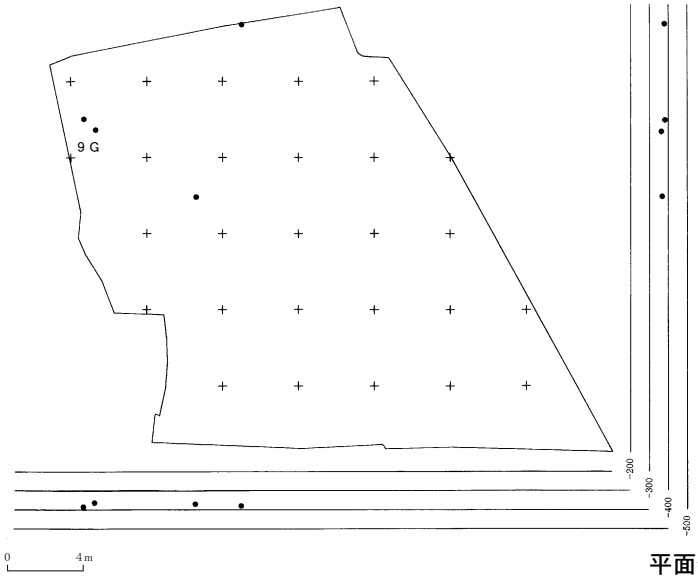
平面分布図

70
個体64

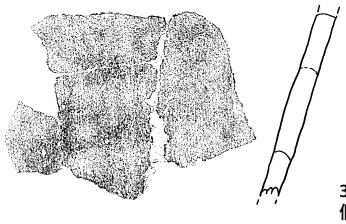
縄文　J　us

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	9004	380×238×-353
2	9	17011	20×210×-356
3	9	35011	100×40×-407
4	9	9060	64×370×-351
5	J住	2066(2)	330×312×-373
6	J住	2097(9)	103×195×-373

同一個体資料一覧表



平面分布図



35
個体70

無文　M　us

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	16020	258×192×-370
2	9	27012	98×294×-377
3	J住	2012(9)	124×142×-364
4	J住	2112(9)	70×197×-386

同一個体資料一覧表

第 71 図　下層文化層出土土器分布図　70＜個体 64＞，35＜個体 70＞(平面 1/400)

第３項　笹見原中層文化層：９Ⅳ～８Ⅳ遺構検出面中間層出土土器

土器の概要

９９年検出９Ⅳ遺構検出面上部から９８年検出８Ⅳ遺構検出面下部の層中からは、縄文、撚糸文、無文、押型文土器が検出されている。出土土器の胎土特徴は、雲母多量、砂粒中心、パミス状の３つに大分され、内、砂粒中心胎土は含雲母と無雲母に、パミス状胎土は含繊維と無繊維に分けられる。

施文原体種類と胎土の結びつきは、縄文施文と砂粒＋微少雲母（「s(u-)」と記号化）が多くパミス状（「ｐ」と記号化）が微少、撚糸文とｐが多くs(u-)は僅かであるなどの有意性が確認できるが、どの原体種類も一通りの胎土が使用されている。どの原体種類も多量雲母（「u+」と記号化）胎土は少数存在し、繊維（「ｆ」と記号化）はｐ胎土の他は混入されないようである。

施文手法と胎土特徴の結びつきも、一通りの組み合わせがあり、特に撚糸文の施文方向種類においては多様である。

１節２項の文化層分離で触れた通り、本項は出土レベルと地点が確認されている接合破片資料の分布を中心に進める。個々の土器資料については、土器分類図版と表で触れることとする。

縄文土器（第７２図）

・A、B、Cの接合個体は共にs(u-)胎土の土器で、A、Cは土器分類別Jus３類（軟弱な器面上に異条撚原体施文）に該当する。

基本的にJus胎土を持ち、表面が軟弱な器面上に、異条撚の原体で回転押捺されたものが本類である。

全体的に器表面が軟弱な状態で施文が行われており、縄文の節の潰れや崩れが随所に見られる。縄文も隣りの節が異なる太さを持つ物が多く、場合により１条が異節化する傾向もある。このことから本類の縄文原体は、１条の撚り糸を半折りして撚りを加えた物ではなく、２条の異なる撚り糸を撚り合わせて縄文原体を製作したものと推定される。また、一部の資料には、２条を撚り合わせる際に結んだと推測される結節部分の施文が残っている資料（第１１７図No.１２８）もある。縄文原体の撚り方向はLR系とRL系が拮抗しているが、逆撚りの縄同士を組み合わせる合撚は行われないようで、いずれも節を有するのが特徴である。施文方向は横が中心だが、斜位、縦位もあり、また多方向に乱雑な施文を見せるもの（第１１７図No.１４３）もある。

口唇形状は丸頭を基本にして、部分的に潰れたような平坦面に付くものが多い。また口縁付近の器形は、微妙に外反気味のものが多く見られる（第１１７図No.１２９、１３８、１４３他）

本類でもっとも残存が良好な資料は第１１７図No.１２７とNo.１２９の土器であり、No.１２７は胴部の接合破片で異条ＬRL横施文、No.１２９は口縁部を有する復元個体で異条RL（一部RLR化）横施文である。

他の破片に付いても本類は９９年度検出が殆どで、前記２個体同様遺跡東部からの出土が中心を占めることから、本類は中層文化層に属すると推定される。

本類で最も残存の良好な資料Ａ、Ｃは、撚り方向は異なるものの、異条縄文施文（部分的に復節化するなど安定しない荒い撚りの様相であり、縄文前期の異条縄文とは異なる。）、器形と施文タイミングなどから、近似した別個体である。この２個体は分布地域と分布状況共に近似しており、両

方の土器とも１７区北方から３４区の間、約１０ｍにかけ斜面を下るような形で、接合する破片が分布している。３４区出土破片でＡは－３９１㎝、Ｃは－３９３㎝で、近似地点でもほぼ同一レベルを示している。

・Ｂは安定したLR横施文の土器で、Jus２類（単節横位施文）第１１６図No.１２０～１２６に該当する。

単節LRで横方向に施文する類である。胎土は砂粒が中心で石英、輝石が多い。雲母は僅かに含まれ、器面の質は硬質である。

同類破片は８～９Ｇを中心に分布しており、同一個体の可能性もある。接合破片は２点に分かれるが、どちらも９区を起点にして、片方は遺跡北西の２２区出土の破片、もう片方は３３区、４２区と遺跡南方に流れる分布である。また８、９区からは、接合はしないものの同類の破片が数片出土しており、この周辺から同個体破片が流出したものと推測される。８区出土の２片は－３０３㎝と－３１６㎝、９区出土の２片は－３４３㎝と－３５９㎝、隣接区でやや高低差がある状態で出土している。

撚糸文土器（第７３図）

・Ｄはu+胎土の残存状態が良好な個体である。Yu+１類に該当する。

条幅１.５ｍｍのＲ絡条体を縦方向に施文し、部分的には原体の引きずりがあり、条線化する箇所もある。胴部下半～底部にかけては、撚糸文は施文されず、無文化する。胎土が柔らかい内に施文が施されたものらしく、全体的に指の痕が残る。

他の同胎土資料にYu+２類（縦斜位施文）第１１９図No.１８２～１８４、Yu+３類（鋸歯状施文）第１１９図No.１８５～１８７がある。

９９年度検出面３４区出土の土抗７の直上に集中する形で出土しており、他の地点に接合する破片は認められない。出土レベルは－４１６㎝から－４２８㎝の間に全点が集中し、分布はまとまっている。

・Ｅはｓ胎土で口縁部と胴部に横位施文、間を波状ないし鋸歯状に施文される資料で、口唇にも撚糸文施文が施される。本類をYs４類（鋸歯状施文）第１２１図No.２１９～２２１とした。接合資料の１片は８Ⅳ遺構検出面の土抗から出土しているが、土坑との関係は不明である。接合破片の殆どが２５区南方で出土しており、出土レベルも－３９０㎝前後で安定している。８Ⅳ遺構検出面の等高線に非常に近接していることから、笹見原上層文化層直前あるいは上層文化層に入る可能性もある。

・１８区と２７区の境界に、接合関係のある土器片Ｆ、Ｇ、Ｈが集中して分布している。Ｆはu+胎土撚糸文土器片Yu+２類（縦斜位施文、１類よりも細めのＲが原体に使用され、部分的に斜位に施文される。）に該当する。

Ｇはpsf胎土撚糸文土器片でYpsf２類（縦斜位施文）である。本類は口縁部の資料は無く、底部周辺または胴部の破片のみである。

Ｈはs(u-)胎土格子目撚糸文土器片で、Y(YK)us１類（格子目撚糸文）第１２１図No.２２４～２２６に該当する。本類の撚糸文原体は単軸絡条体第５類が使用され、巻き付け縄はＲである。２点は東壁付近の出土で、１点は出土地不明である。

Ｆ、Ｇ、Ｈ３点とも胎土特徴が全く異なるが、出土レベルは－３８０㎝から－３９０㎝の間であり、ほぼ同じ層位の出土である。

・Ｉはpsf胎土で、多方向施文の破片である。Ypsf３類（その他）に該当する。

絡条体に極細のＲが使用される。施文方向は、鋸歯状に近い、短単位の多方向施文である。9区で－３４４㎝、２７区で－４１０㎝の出土レベルを示す。

・２５区、２６区から南東方向に向かって、接合破片が流れる状況の資料が3個体確認される。土器はＪ、Ｋ、Ｍである。

・Ｊはps胎土の口縁部資料、Yps１類（縦位施文）第６３図No.２５、２６、第６５図No.５４～６６、第１２０図No.１８８～１９０、１９５に該当する。単軸絡条体１類で丸頭の口縁、縦位施文されるものである。絡条体巻き付け縄は殆どがＲで占められるが、２点のみRLが確認される（第６５図No.５７、第１２０図No.１９１）。また0段条１も１点のみ確認されている（第６５図No.６１）。

・Ｋはpsf胎土の底部資料でYpsf１類（縦位施文）第６３図No.２９～３１、第６５図No.６７～６９、第１２０図No.１９６～２０２。

・Ｍはｓ胎土の胴部破片で、Ys１類（条傾縦位施文）第６３図No.２８、第１２１図No.２１２～２１４）に該当する。条は傾くが、施文方向は縦位方向に施文される。

口縁部を有する物はなく、Ｍが最も大きな接合破片である。住居跡内覆土出土資料を含め、ほかに3片が出土している。Ｍの出土レベルは上方で－３８５～－４０２㎝、下方で－４１０～－４３２㎝を示す。

Ｎはps(f-)胎土の底部付近破片で、Ypsf１類である。遺跡北部の９区から南部の４３区まで、接合破片が大きく移動している状況が伺える。出土レベルは9区で－３４８と－３５８㎝、４３区で－４５８㎝を示す。

押型文土器（第７４図）

押型文施文の土器資料は笹見原遺跡では検出量が少なく、また接合資料も僅かであった。従って本項では土器分類項において同類とした非接合の破片も、同じ分布図に示す。

・Ｏは唯一の接合関係が複数ある押型文土器資料である。O(OY)u+１類とした。Ｏ（第１２２図No.２２９）は笹見原遺跡出土押型文土器群の中で、唯一ある程度の器形を把握できる資料である。全体的に山形押型文が縦位方向に施文される。口唇は平頭で、口縁が外反する器形を有する。

胎土は雲母を大量に含むu+である。本資料破片は、遺跡の中央付近で東西方向に分布するという、他の接合資料とはやや異なる形の分布を見せる。出土レベルもやや安定性がなく、遺跡西部１４区で－３２４㎝、中央部～東部では、２５区で－３２８㎝を示す破片があるが、全体的には－３８０～－３９０㎝を示す。

・Ｐはpsf胎土の山形文資料で、Opsf類（第６５図No.７７、第１２２図No.２５４、２５５）である。口縁部破片のＰ（No.２５４）は玉抱押型文施文で、口唇は内研ぎ平縁を呈す。他2片は残存微少だが、山形の寸法から同類と考えられる。色調は白黄土色で、状態は脆い。1点が2住住居跡内覆土出土である。口縁部破片は玉抱山形文であり、他の2点は小破片で全体の文様を把握出来ないが、山形文の寸法から、同類または同個体と推定される。住居跡内出土片が－３７０㎝、１７区で－３５４㎝、２７区南方で－４１７㎝を示す。近似資料としては、静岡県沼津市の尾上イラウネ遺跡出土資料が挙げられる。

・Qは変形の格子目文と推定されるが、摩耗のため判別困難である。本類をOps３類（格子目文？）第１２２図No.２３９～２５３とした。４２Ｇを中心とする分布で小破片が１０数点出土している。口縁部破片は1点（第１２２図No.２３９）のみで、ほかは全て胴部細片である。器面が薄く、砂粒の特徴として、小礫を含む。色調は白黄土色。胎土は繊維を含まないps胎土で、他の類に比べ薄手である。同類小破片が３４区、４３区周辺に集中分布しており、掲載した3片は３４区で－４２１㎝、３５区で－４２６㎝、４２区で－４７０㎝を示す。９９年度遺物検出面底面に近い位置の出土である。

・Ｒは楕円文が施文されるs(p-)胎土の資料群で、O(OD)ps２類（楕円文）第６３図No.３３、第１２２図No.２３６～２３８とした。口縁部破片が1点（No.２３６）のみ出土しており、平頭を呈する。他は胴部破片である。色調は灰色がかり、硬質である。本類は接合する2片が1号住居跡内覆土から出土している。出土レベルは－４０７㎝と－４１１㎝である。同類破片が２３区レベル－３７８㎝と、２５区レベル－３８０㎝、２６区レベル－４１０㎝から出土している。

・Ｓはs(u-)胎土の楕円押型文で、文様は細かく真円に近い形状である。遺跡南側の３４区でレベル－３９２㎝、４３区でレベル－４５０㎝の深さから出土している。

・Ｔは雲母多量u+胎土で、水平、垂直に楕円が並ぶ直列楕円文の資料群である。本類をO(OTD)u+２類（直列楕円文）第１２２図No.２３０～２３３とした。上下左右に楕円文が直列にならぶ原体を使用している。口縁は直立丸頭（No.２３０）形状である。

遺跡北西部から4点が出土しており、8区出土レベルで－３３９㎝、9区で－３４５㎝、１８区と２６区ではそれぞれ－３８４㎝の深さからの出土である。

無文土器（第７５図）

Ｕは器形、口唇形状、口唇直下の沈線、磨き調整などの特徴から、東山ｂ式（Ms１類）に比定される。同接合資料は遺跡南端の４９区に集中しており、遺物出土は９８年度発掘時だが、出土レベルは－４４５～－４６１㎝に集中しており、9Ⅳ遺構検出面に近接していることが分かる。

Ｖは粗悪なsf(p-)胎土のミニチュア土器で、2号住居跡の南約１ｍからの出土である。ほぼ同地点で－３６９～－３７１㎝の深さから出土している。

Ｗは残存部の胴部から口縁部にかけてほぼ直立した器形を持つ個体で、胎土はs(u-)である。遺跡北側の7区から南側の４２区にかけ、接合破片が線状に分布する。

Ｘはｓ(u-)胎土の底部資料で、表面は粗くナデ調整されている。２５区から破片が集中的に出土しており、－３８０～－４００㎝のレベルで殆どの接合土器片が検出されている。

Ｙは雲母多量u+胎土で、ミニチュア土器である。分布状況はＷと近似しており、遺跡中央北側から南側へ線状に分布する。8区出土破片で－３５４㎝、３３区で－４０４㎝の深さを示す。

まとめ

以上4種類の土器別に、中層文化層（9Ⅳ遺構検出面～8Ⅳ遺構検出面中間層）からの出土資料分布を見てきたが、接合資料分布の状況にいくつかのパターンがあることが明らかとなった。大別すると、

＊ａ　特定の地点かつ深度で集中して分布するパターン

＊ｂ　遺跡北側から南側に線状に分布するパターン

＊ｃ　遺跡東部中央近辺で、北西から南西へ短距離に線状分布するパターン

＊ｄ　遺跡東側と西側に線状に分布するパターン

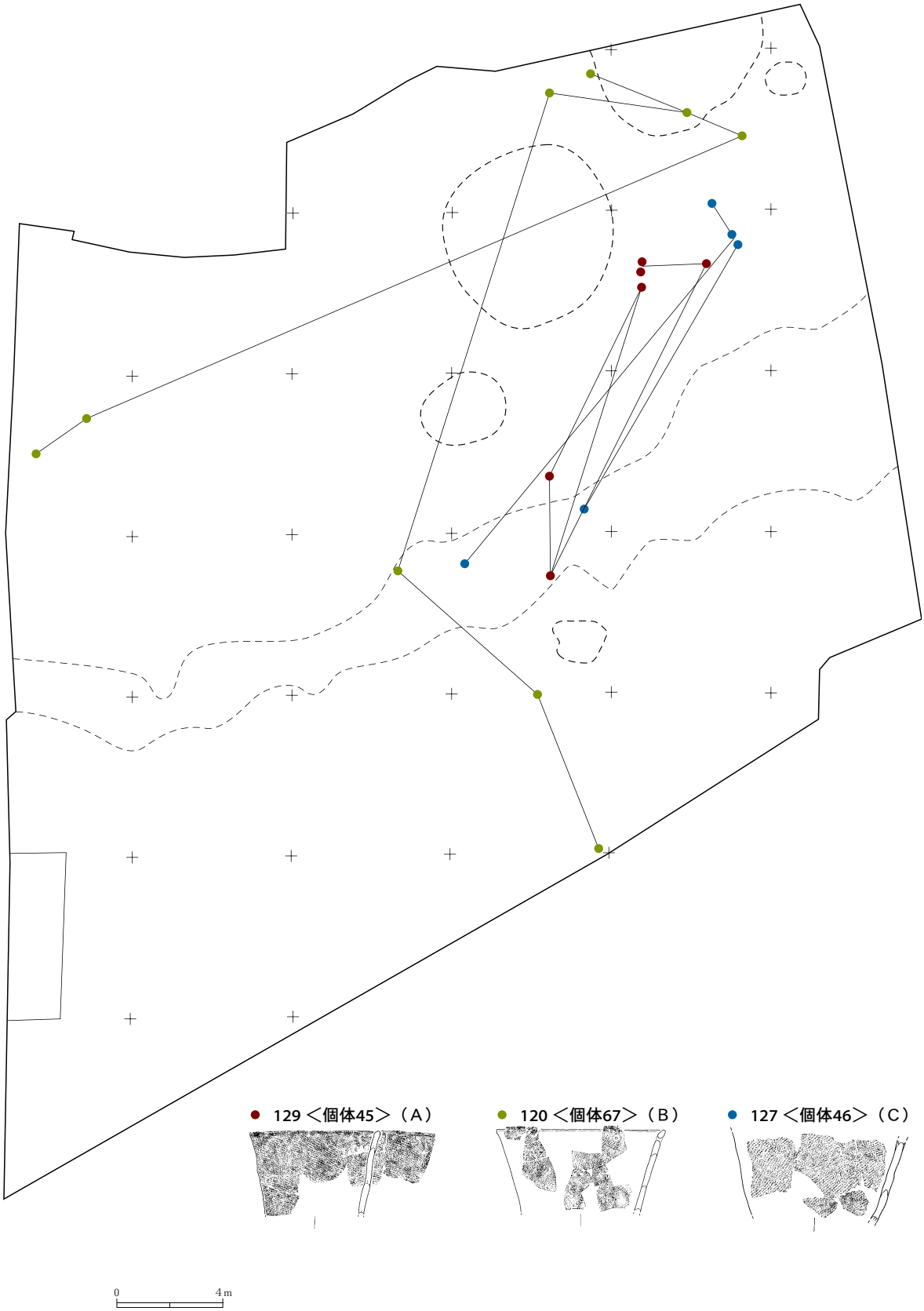
パターンａは、撚糸文土器Ｄ、Ｅ、無文土器Ｕ、Ｖ、Ｘが代表的なものである。土器Ｄ、Ｕ、Ｖ、Ｘは９Ⅳ遺構検出面に近い、より深いレベルから出土していることがわかる。また資料Ｅは８Ⅳ遺構検出面にほど近い深度で出土している。これらの事実からパターンａは、土器Ｄ、Ｕ、Ｖ、Ｘが下層文化層に、土器Ｅが上層文化層に近接する時期の資料と推定される。

パターンｂは、縄文土器Ａ、Ｃ及びＢの一部、撚糸文土器Ｎ、無文土器Ｗ、Ｙが代表的な資料である。いずれも遺跡北側から出土した接合破片の出土レベルは浅く、南側の接合資料出土レベルがより深くなっていることから、汚れローム層の流入などにより、接合破片が斜面に沿って移動したものと思われる。

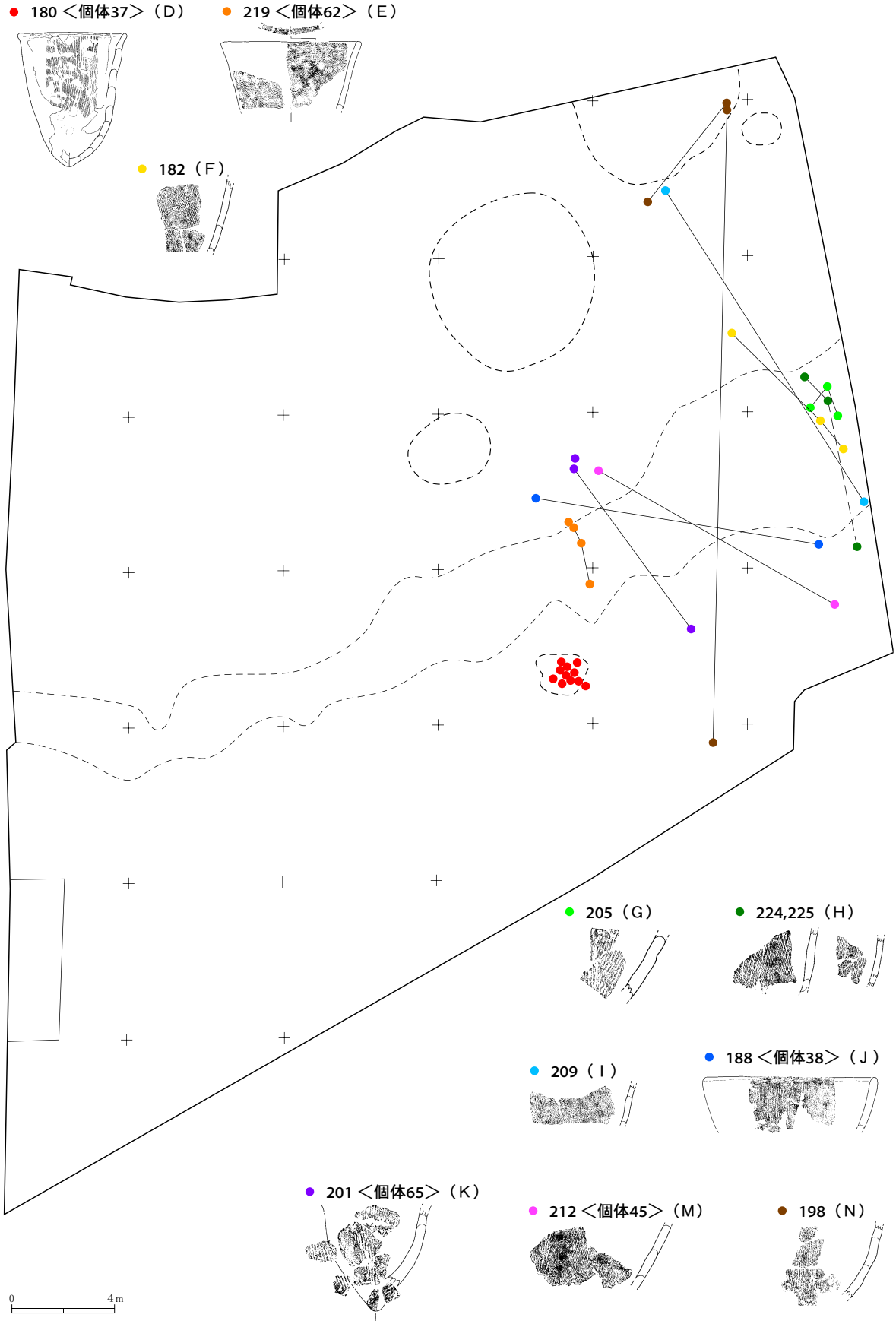
パターンＣは、本図では各種撚糸文破片資料に限られ、９９年度遺構検出面平面図に記載されている、「自然堆積層」の範囲と重なり土器が分布している。

パターンｄは、縄文土器Ｂの一部、押型文土器Ｏがあり、等高線にたいし出土レベルがやや上下している。東西分布の原因などは不明である。

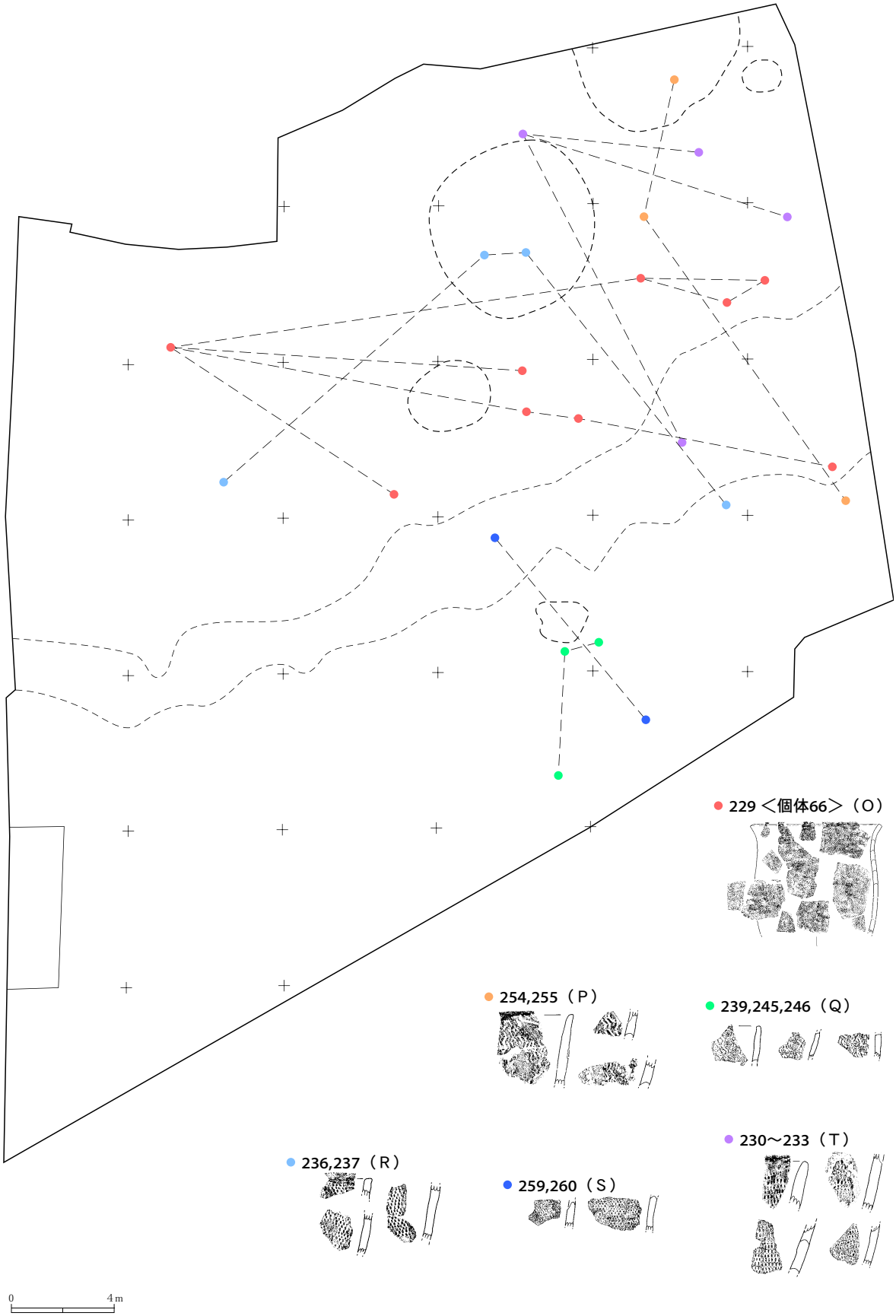
これらの接合資料において複数の分布パターンが存在することから、中層文化層には、幾つかの段階差が存在すると推定される。



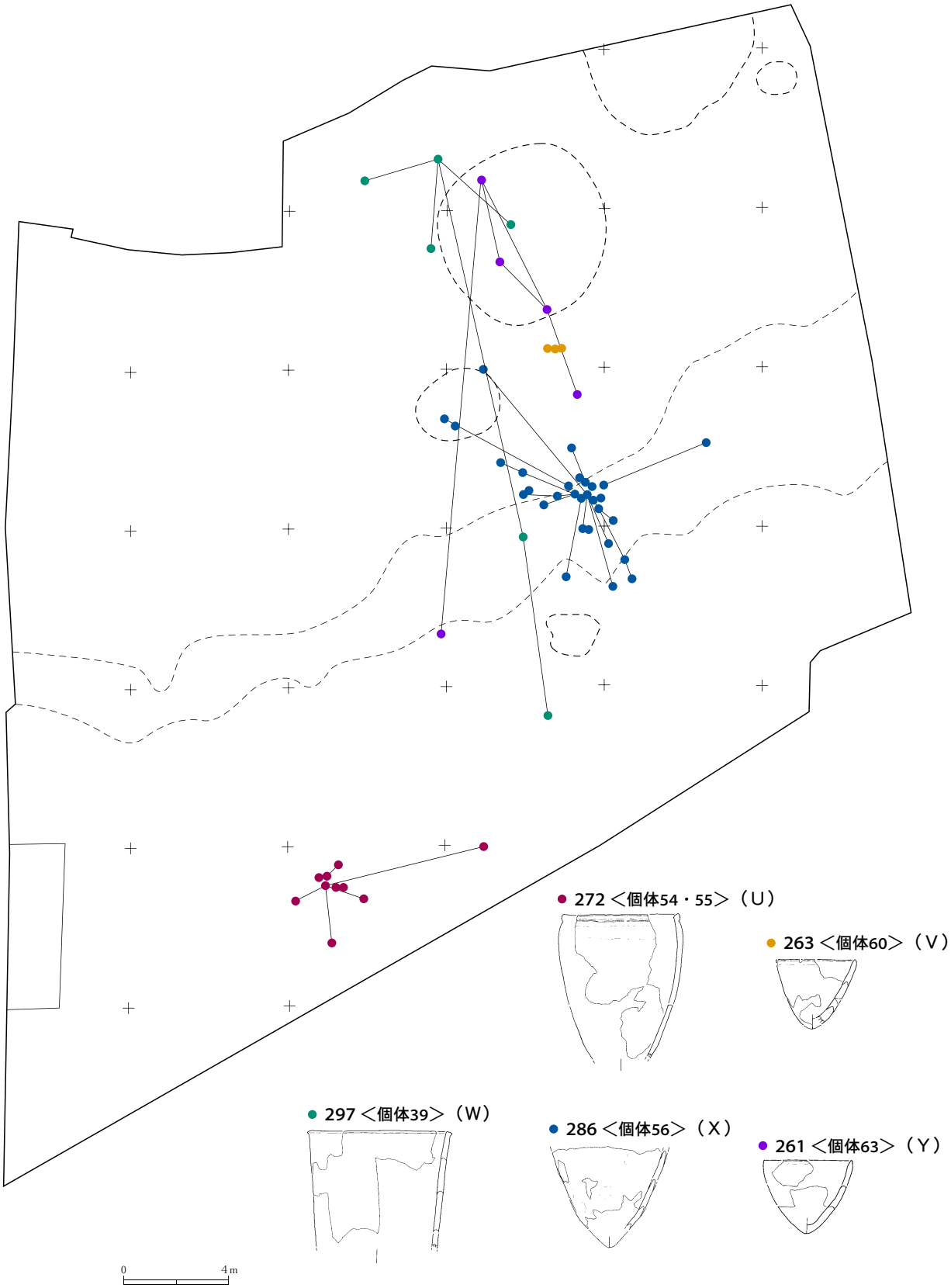
第 72 図　縄文時代早期中層文化層出土縄文施文土器分布図（9Ⅳ～8Ⅳ層遺構面中間層出土）(1/150)



第 73 図　縄文時代早期中層文化層出土撚糸文土器分布図（9Ⅳ～8Ⅳ層遺構面中間層出土）(1/150)



第 74 図　縄文時代早期中層文化層出土押型文土器分布図（9Ⅳ～8Ⅳ層遺構面中間層出土）(1/150)

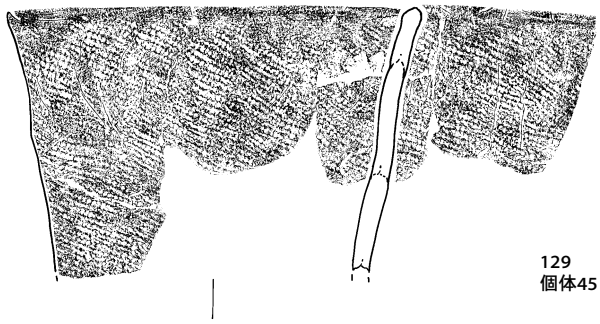


第 75 図　縄文時代早期中層文化層出土無文土器分布図（9 Ⅳ～8 Ⅳ層遺構面中間層出土）(1/150)

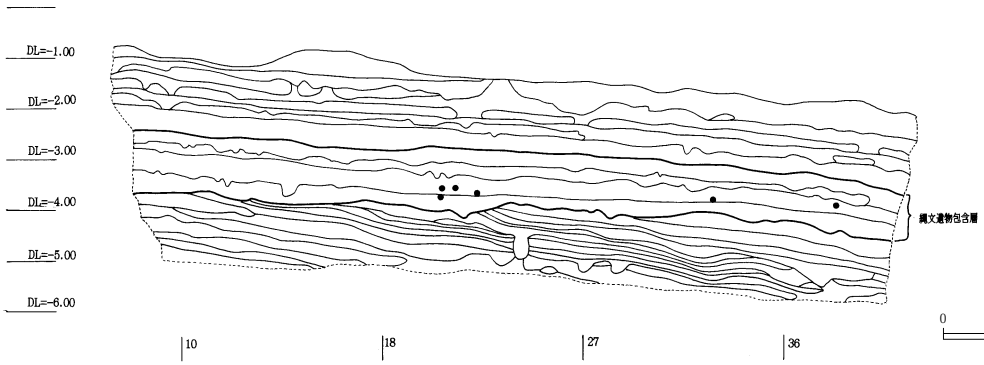
縄文　　J　us

No.	年度	注記 No.	タテ×ヨコ×高さ
1	8	34051	105×250×-391
2	9	17033	112×84×-363
3	9	17036	145×83×-365
4	9	17046	182×82×-370
5	9	17088	117×240×-378
6	9	25046	256×257×-387

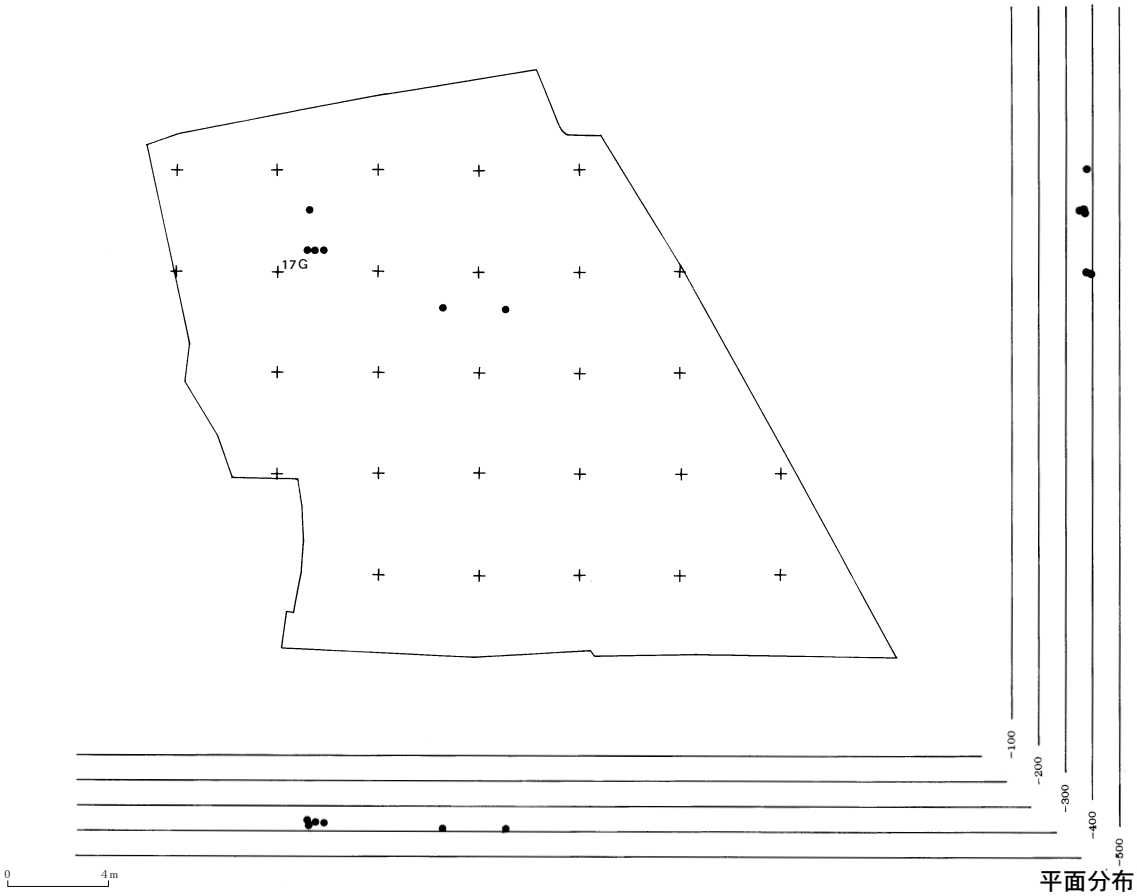
同一個体資料一覧表



129
個体45（A）

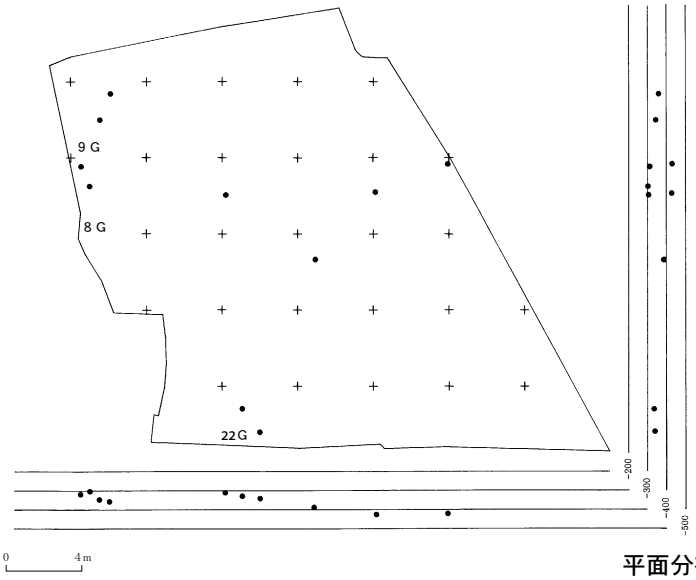


垂直分布図

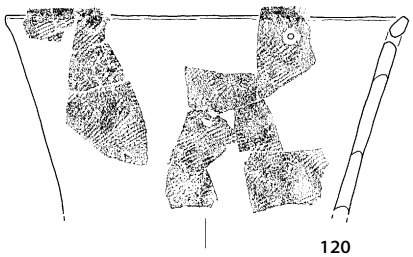


平面分布図

第 76 図　中層文化層出土土器分布図　129＜個体 45＞（A）(垂直 1/150，平面 1/300)



平面分布図



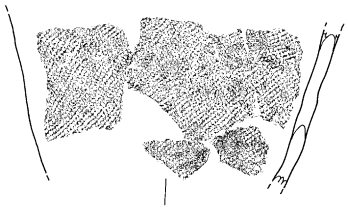
120
個体67（B）

縄文　J　us

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	9028	115×230×-353
2	8	22031	200×160×-339
3	9	8001	100×244×-303
4	9	8010	55×355×-316
5	9	22001	108×283×-338
6	9	33022	92×263×-389
7	9	9012	154×197×-343
8	9	9083	210×337×-359
9	9	42008	15×215×-430
10	9	42020	395×370×-432

同一個体資料一覧表

平面分布図



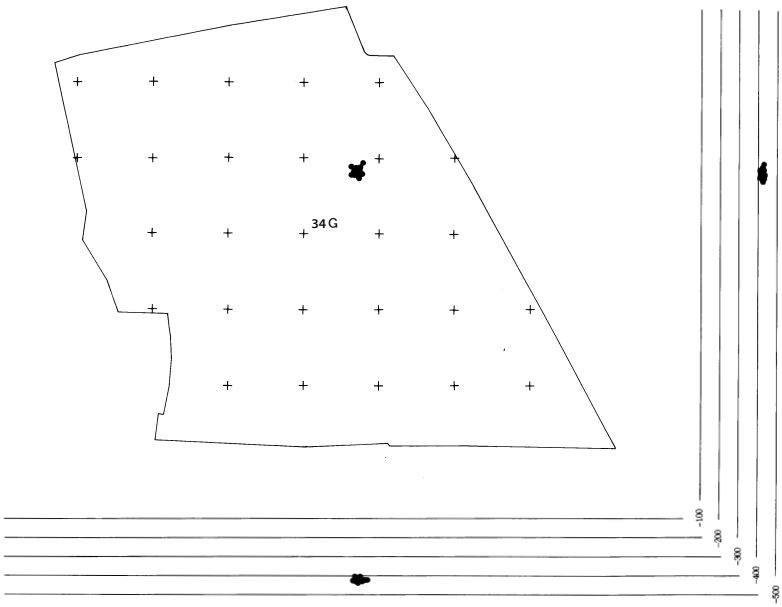
127
個体46（C）

縄文　J　us

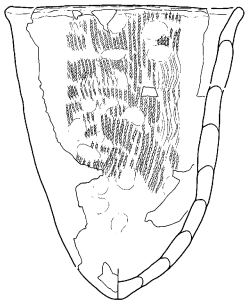
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	9028	115×230×-353
2	9	25007	351×340×-386
3	9	34007	77×39×-393
4	9	9091	369×260×-364
5	9	17050	53×310×-372
6	9	17125	78×316×-376

同一個体資料一覧表

第 77 図　中層文化層出土土器分布図　120＜個体 67＞（B），127＜個体 46＞（C)(平面 1/400)



平面分布図



180
個体37（D）

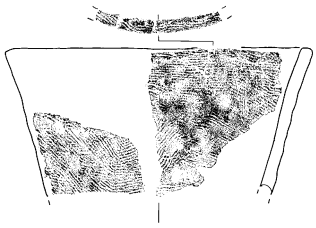
撚糸文　Y　u+

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	34017	282×310×-416
2	9	34018	312×370×-422
3	9	34022	294×345×-421
4	9	34026	286×347×-425
5	9	34027	298×345×-425
6	9	34028	303×320×-425
7	9	34030	295×322×-426
8	9	34031	285×330×-428
9	9	34034	254×306×-419
10	9	34035	250×355×-422
11	9	34037	285×300×-422
12	9	34039	273×308×-424
13	9	34043	271×325×-422

土抗７直上出土

同一個体資料一覧表

平面分布図



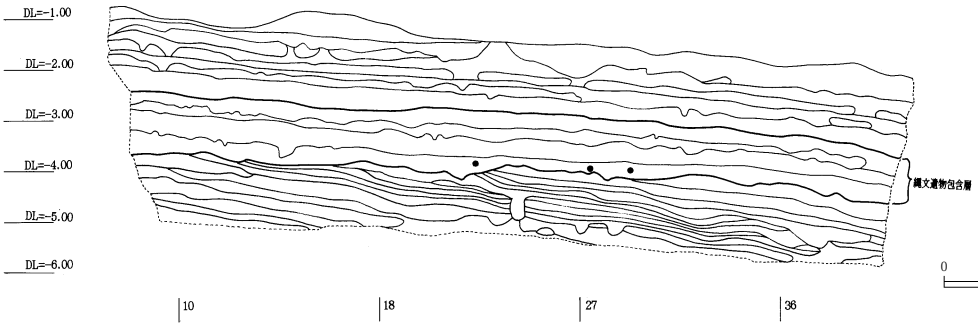
219
個体68（E）

撚糸文　Y　s

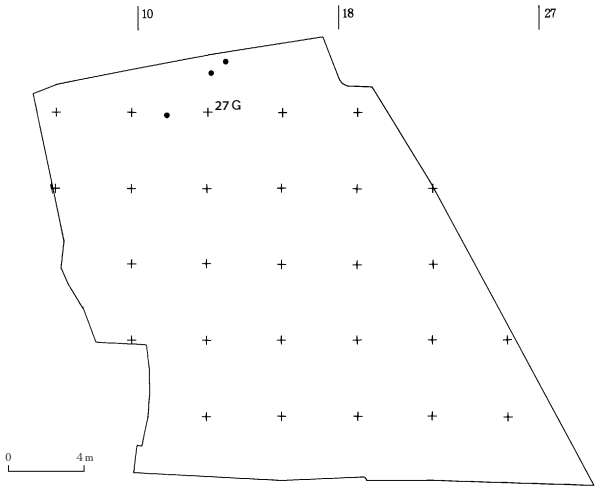
No.	年度	遺物 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	34009	39×395×-387
2	9	18009	307×127×-391
3	9	25063	285×345×-391
4	9	25068	301×355×-391
5	9	25079	337×372×-393

同一個体資料一覧表

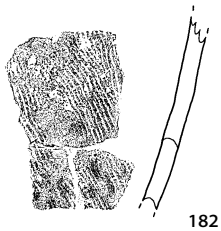
第 78 図　中層文化層出土土器分布図　180＜個体 37＞（D），219＜個体 68＞（E）(平面 1/400)



垂直分布図



平面分布図

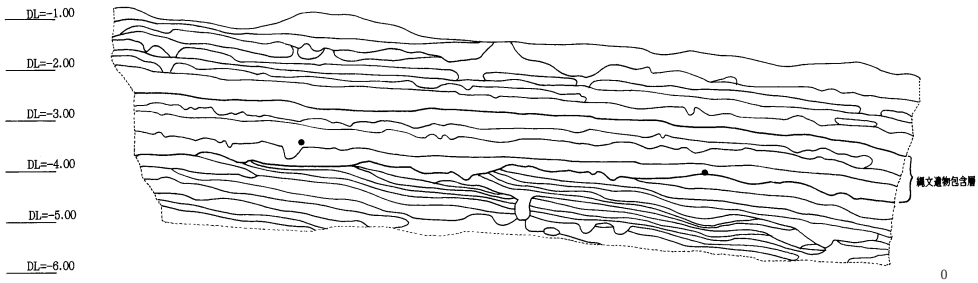


182
（F）

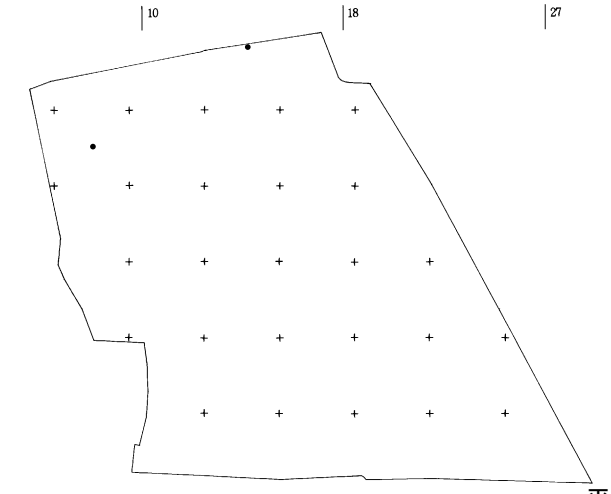
燃糸文　Y　u+

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	27035	100×267×-395
2	9	27013	19×215×-388
3	9	17131	198×392×-382

同一個体資料一覧表



垂直分布図



平面分布図

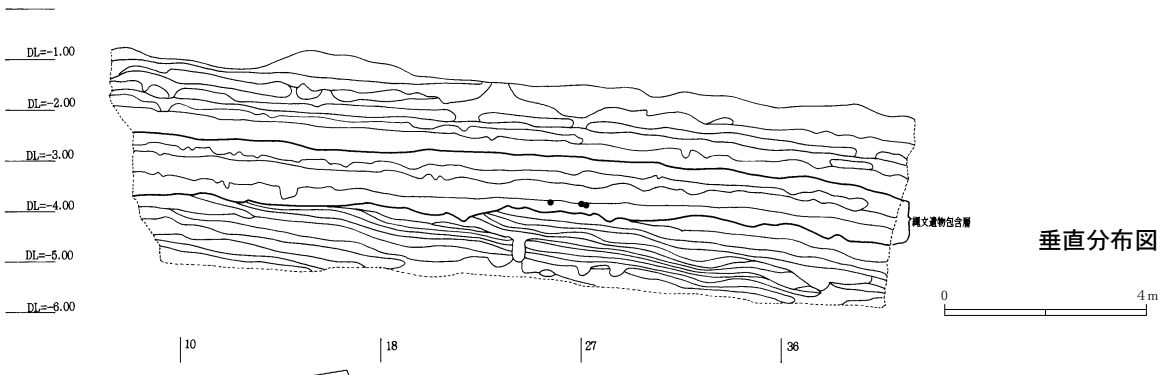
209
（I）

燃糸文　Y　psf

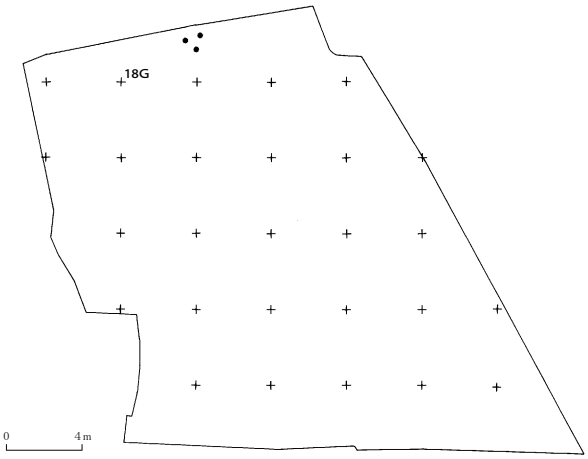
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1		27091	239×195×-410
2	9	9022	236×190×-344

同一個体資料一覧表

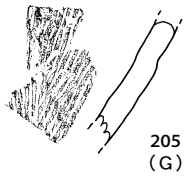
第 79 図　中層文化層出土土器分布図　182（F），209（I）(垂直 1/150，平面 1/400)



垂直分布図



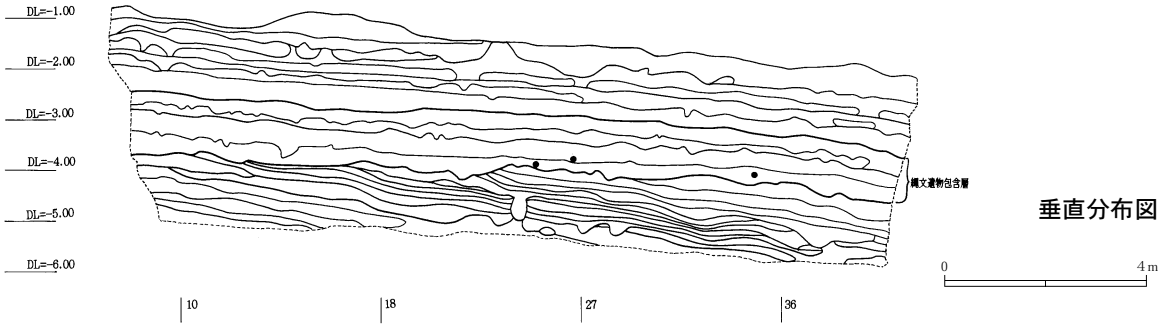
平面分布図



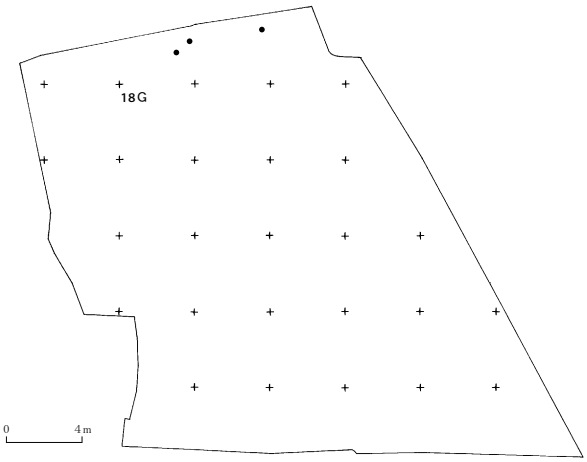
撚糸文　Y　psf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	27009	0×161×-385
2	9	18005	347×208×-382
3	9	27005	10×257×-385

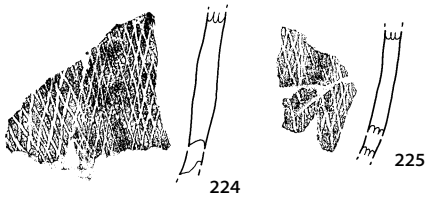
同一個体資料一覧表



垂直分布図



平面分布図



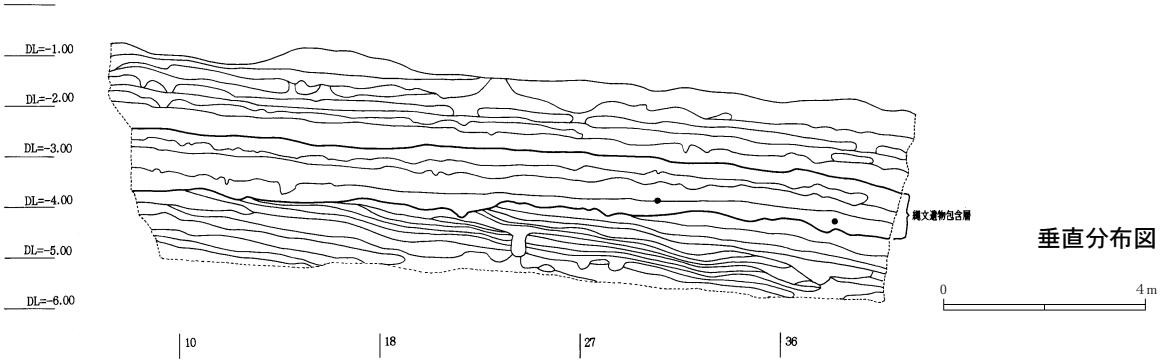
（H）

撚糸文　Y　us

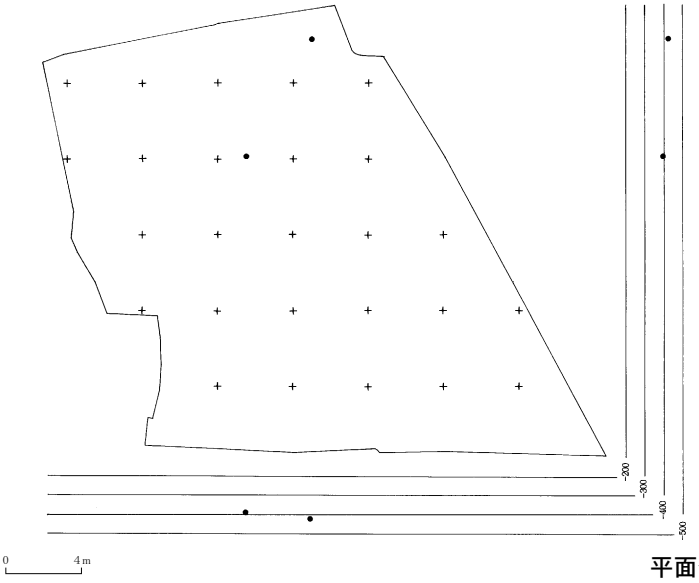
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	27056	345×265×-410
2	9	18004	324×118×-377
3	9	18014	306×165×-385

同一個体資料一覧表

第 80 図　中層文化層出土土器分布図　205（G），224・225（H）(垂直 1/150，平面 1/400)



垂直分布図



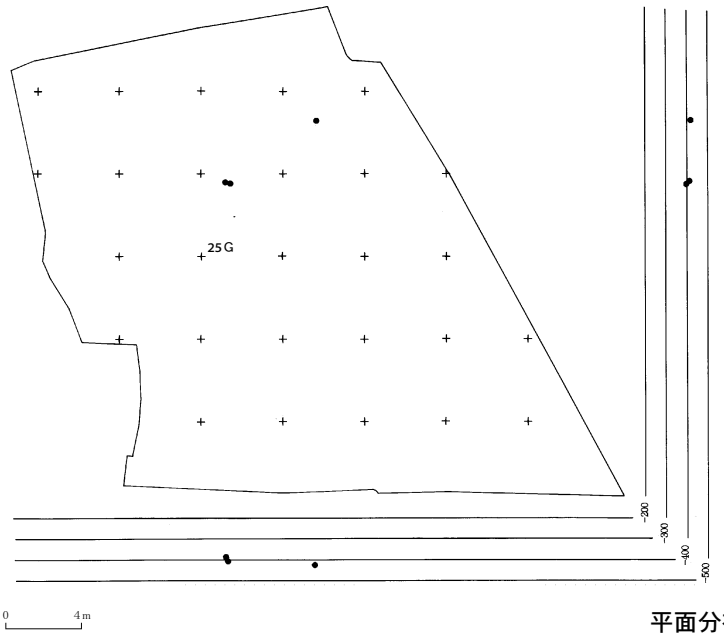
平面分布図

188
個体38（Ｊ）

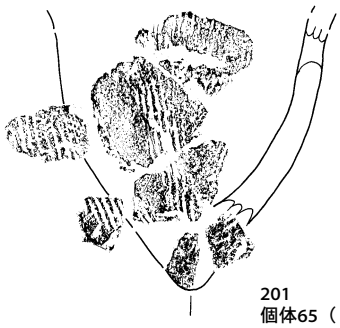
燃糸文　Ｙ　ps

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	26047	149×14×-393
2	9	36017-1	101×223×-431

同一個体資料一覧表



平面分布図



201
個体65（Ｋ）

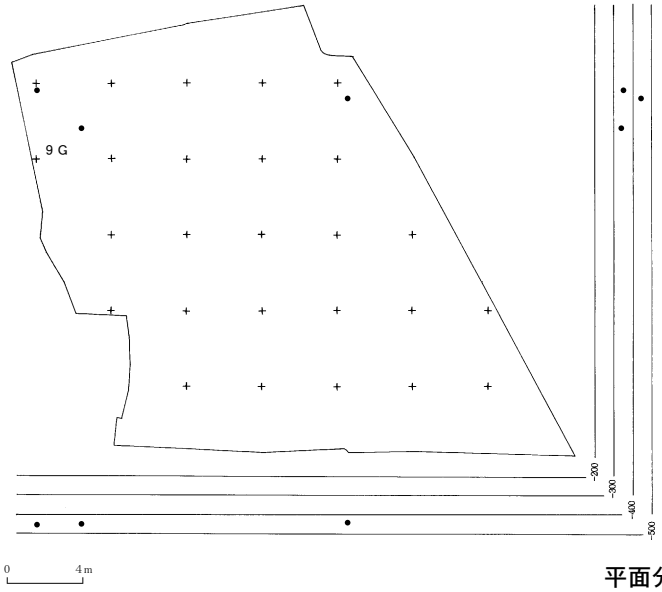
燃糸文　Ｙpsf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	25038	133×355×-399
2	9	25039	133×355×-402
3	9	35004-2	167×256×-432

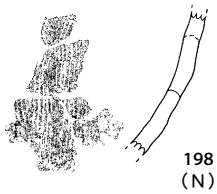
同一個体資料一覧表

平面分布図

第81図　中層文化層出土土器分布図　188＜個体38＞（Ｊ），201＜個体65＞（Ｋ)(垂直1/150，平面1/400)



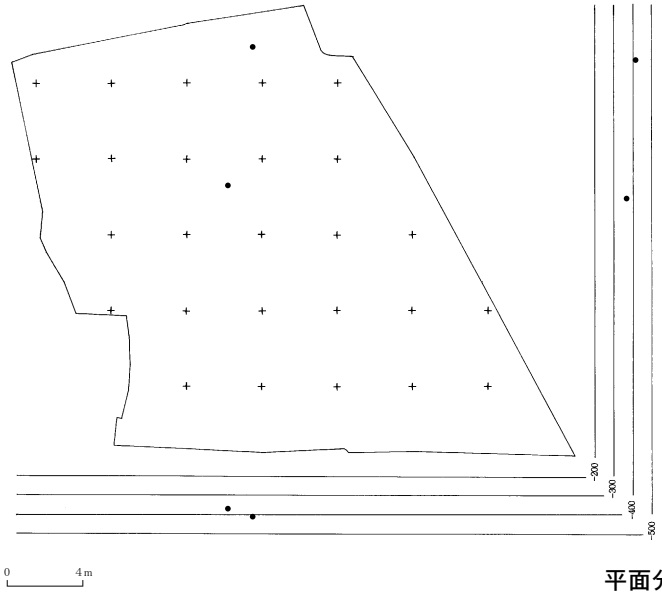
平面分布図



撚糸文　Y　psf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	9023	250×158×-348
2	9	9075	10×361×-358
3	43	43021-3	78×300×-458

同一個体資料一覧表



平面分布図

撚糸文　Y　s

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1		25034	223×258×-385
2	9	27054	322×193×-410

同一個体資料一覧表

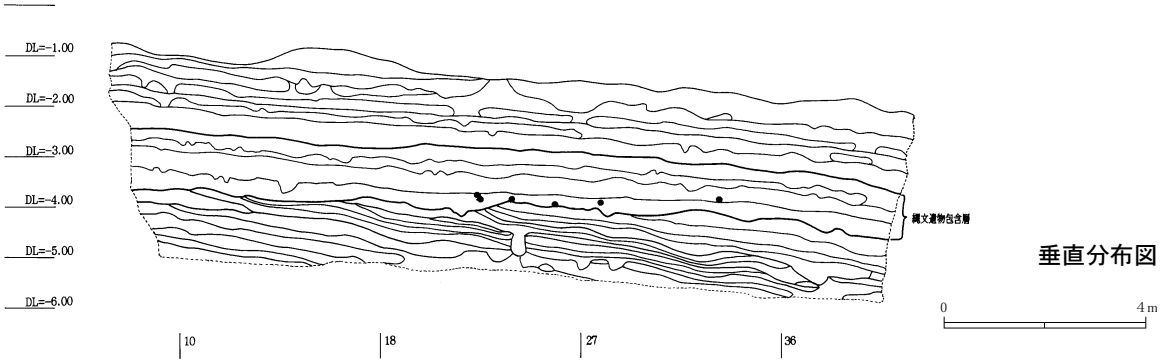
第 82 図　中層文化層出土土器分布図　198（N），212（M）(平面 1/400)

229
個体66（O）

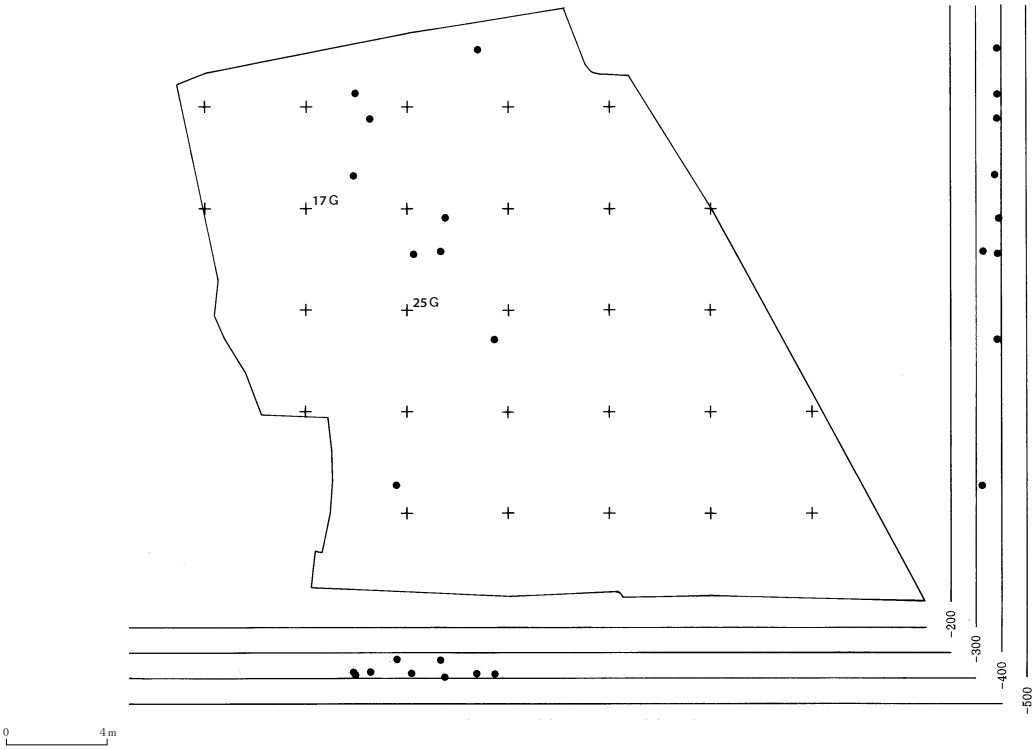
押型文　O　u+

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	25020	136×230×-328
2	8	27006	280×230×-384.5
3	9	14007	360×106×-324
4	9	24033	347×284×-384
5	9	17058	190×130×-374
6	9	17135	261×351×-383
7	9	18019	195×52×-385
8	9	25019	150×365×-394
9	9	25089	28×222×-381

同一個体資料一覧表

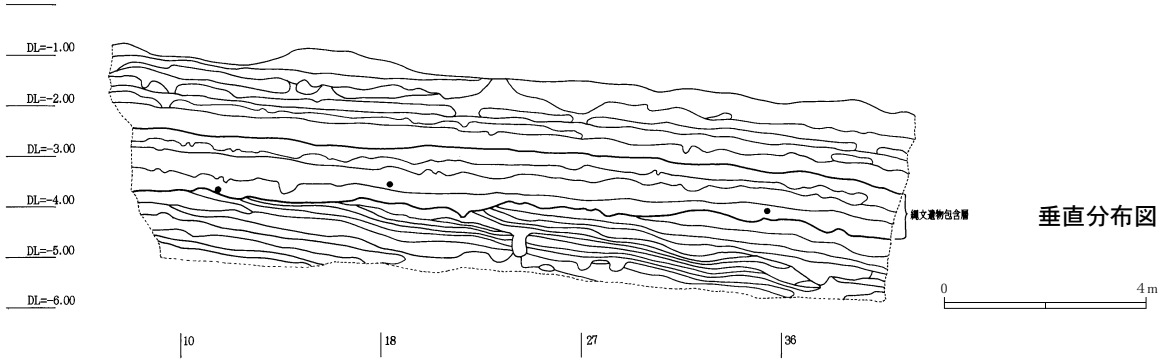


垂直分布図

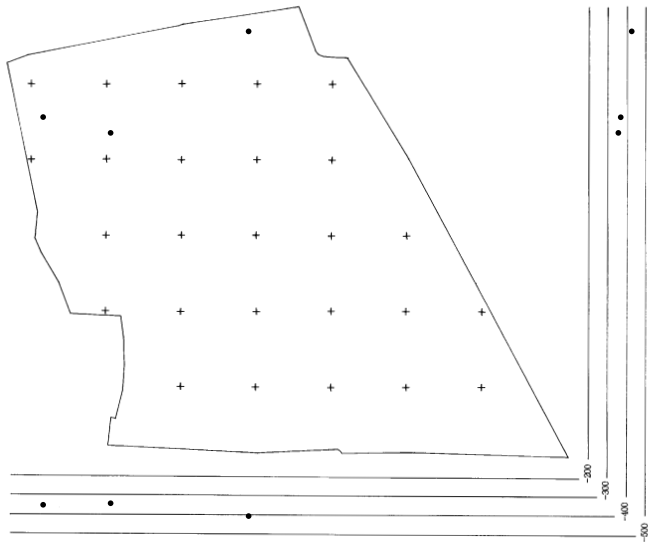


平面分布図

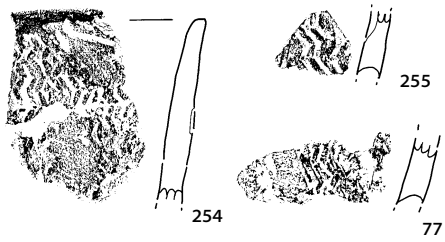
第 83 図　中層文化層出土土器分布図　229＜個体 66＞（O)(垂直 1/150，平面 1/300)



垂直分布図



平面分布図

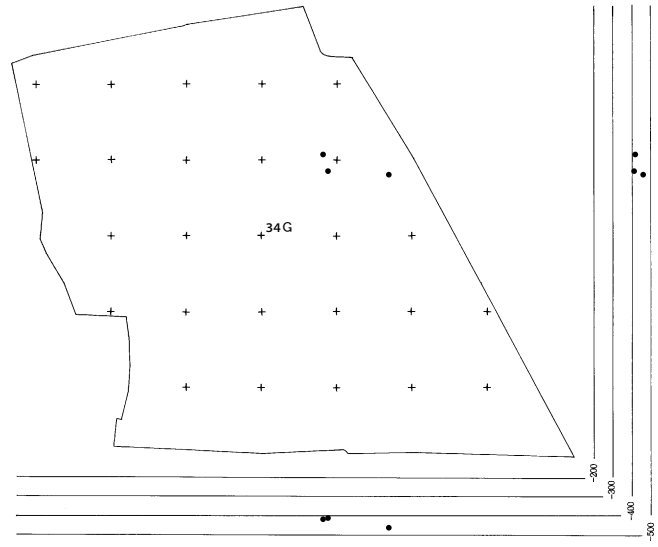


（P）

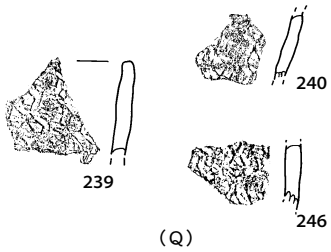
押型文　O　psf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	J住	2081	75×220×-370
2	9	17027	18×138×-354
3	9	27089	369×248×-417

同一個体資料一覧表



平面分布図



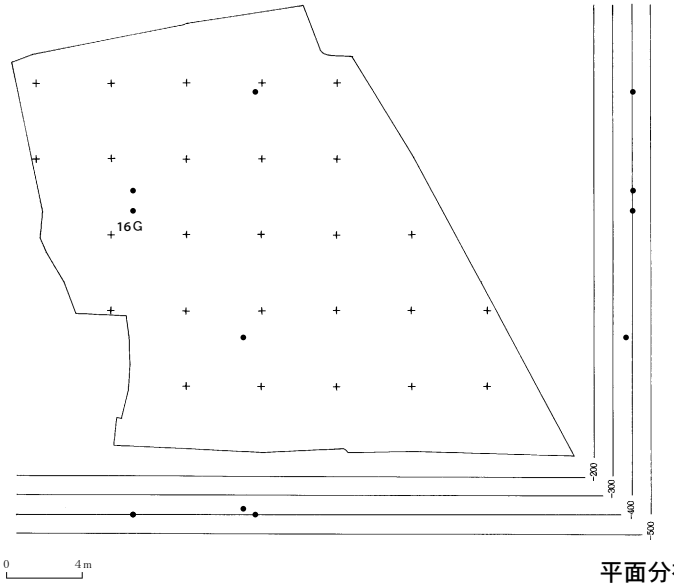
（Q）

押型文　O　ps

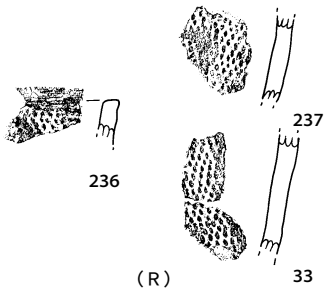
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	34023	358×321×-421
2	9	35025	333×31×-426
3	9	42012-1	283×315×-470

同一個体資料一覧表

第 84 図　中層文化層出土土器分布図　77・254・255（P），239・240・246（Q)(垂直 1/150，平面 1/400)



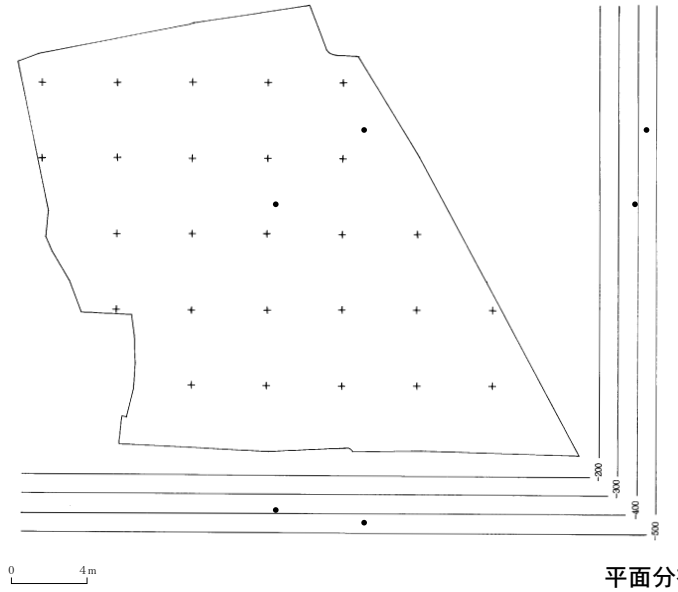
平面分布図



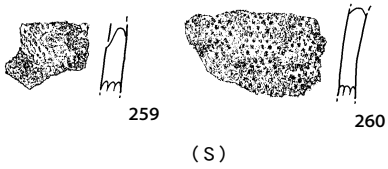
押型文　O　ps

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	J住	1033	108×234×-407
2	J住	1045	105×107×-411
3	9	23007	292×254×-378
4	9	26006	388×323×-410

同一個体資料一覧表



平面分布図

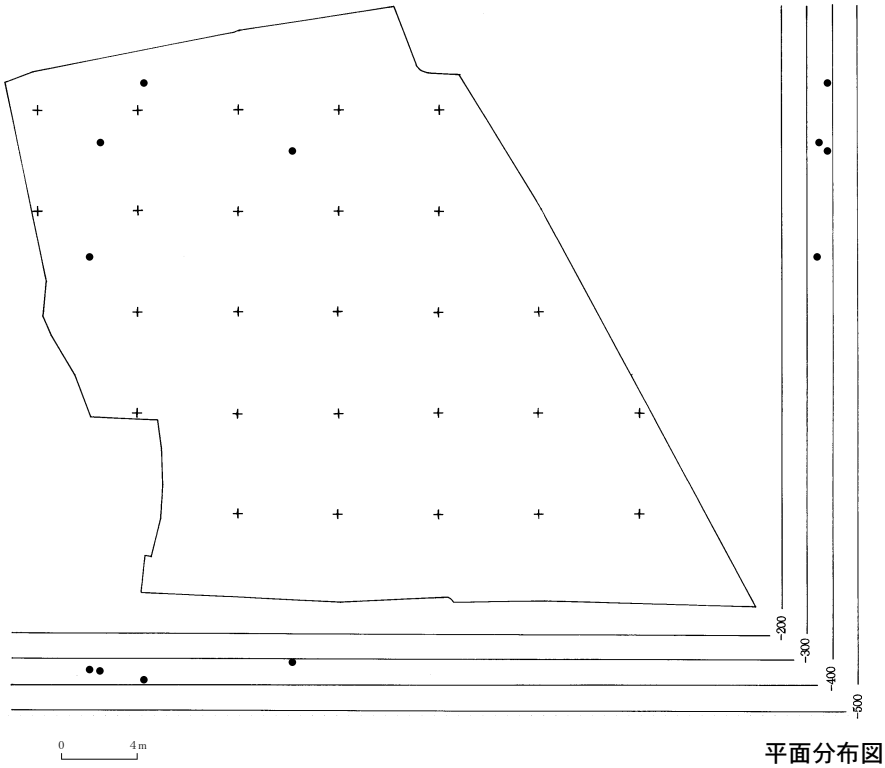


押型文　O　us

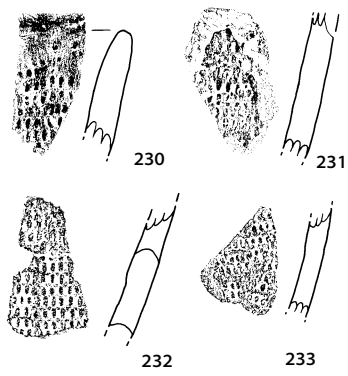
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	34010	58×168×-392
2	9	43013	121×179×-450

同一個体資料一覧表

第 85 図　中層文化層出土土器分布図　33・236・237（R），259・260（S）(平面 1/400)



平面分布図



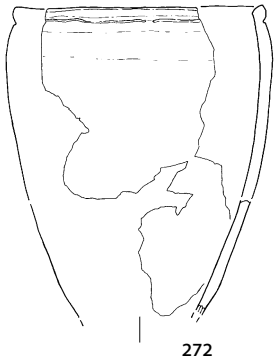
（T）

押型文　O　u+

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	8005	215×210×-339
2	9	9012	240×260×-345
3	9	18002	10×120×-384
4	9	26015	215×235×-384

同一個体資料一覧表

平面分布図



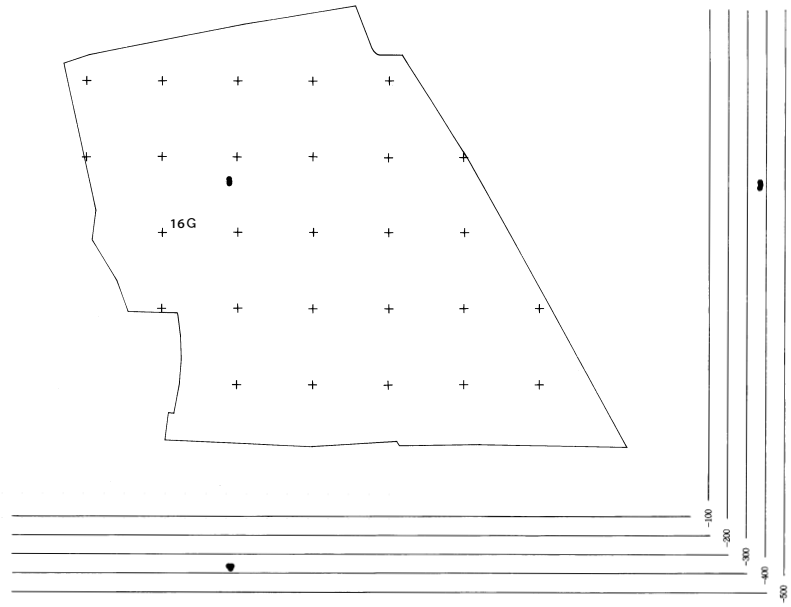
272
個体54,55（U）

無文　M　s

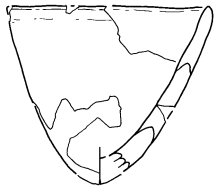
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	49051	156× 10×-434
2	8	49056	68×120×-445
3	8	49060-1	98× 78×-448
4	8	49060-2	98× 78×-448
5	8	49062	106× 78×-449
6	8	49068-1	120×120×-452
7	8	49068-2	120×120×-452
8	8	49073	261×100×-461
9	8	49075	148×185×-459
10	8	50026	26× 96×-446

同一個体資料一覧表

第 86 図　中層文化層出土土器分布図　230～233（T），272＜個体 54・55＞（U)(垂直 1/150，平面 1/300)



平面分布図

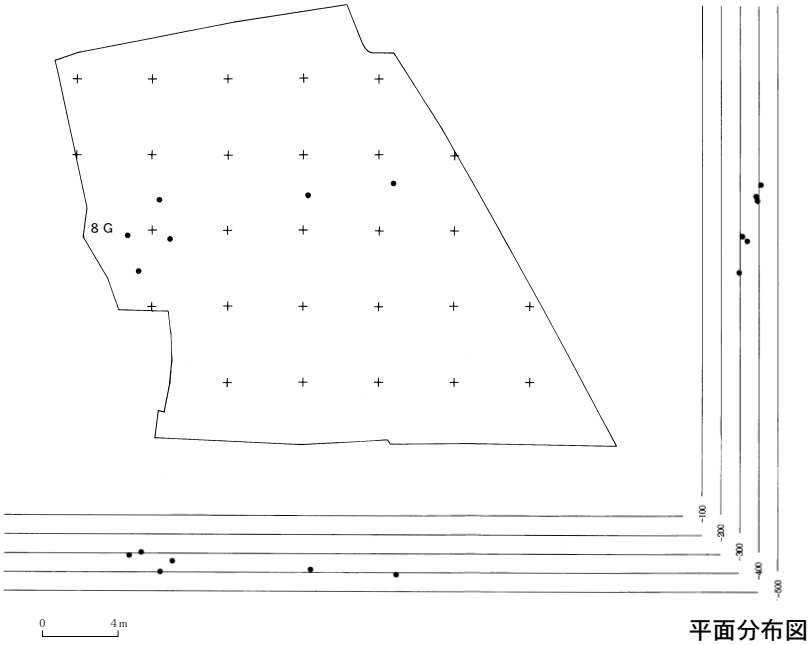


263
個体60（V）

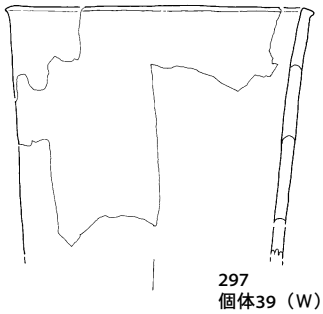
無文　M　psf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	16009	355×278×-371
2	9	16011-1	361×270×-369
3	9	16011-2	361×270×-369

同一個体資料一覧表



平面分布図



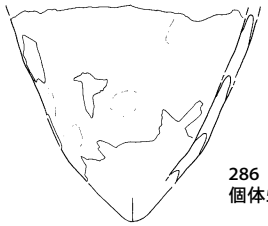
297
個体39（W）

無文　M　us

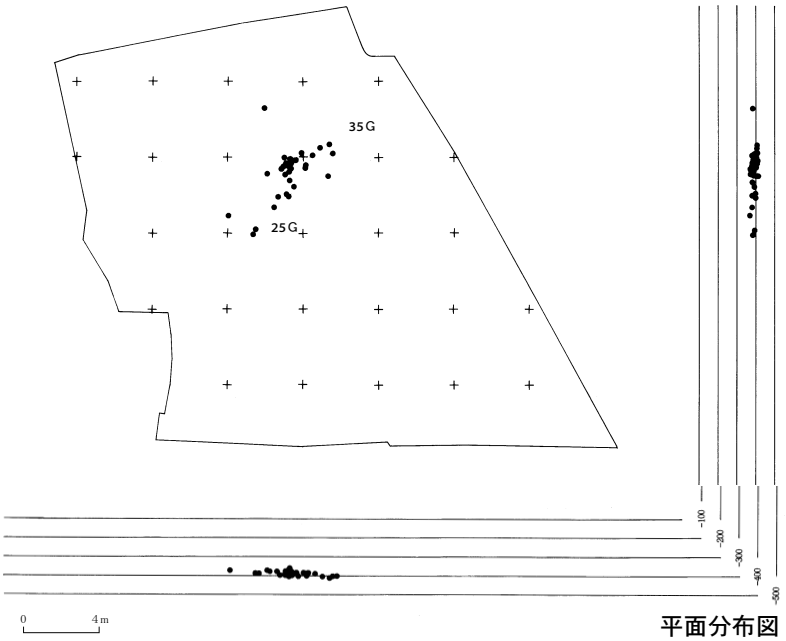
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	7001	325×186×-300
2	9	7005	265×375×-316
3	9	42003	77×245×-416
4	9	34020	22×182×-390
5	9	15004-3	87×355×-345
6	J住	1016(16)	23×161×-396

同一個体資料一覧表

第 87 図　中層文化層出土土器分布図　263＜個体 60＞（V），297＜個体 39＞（W)(平面 1/400)



286
個体56（X）

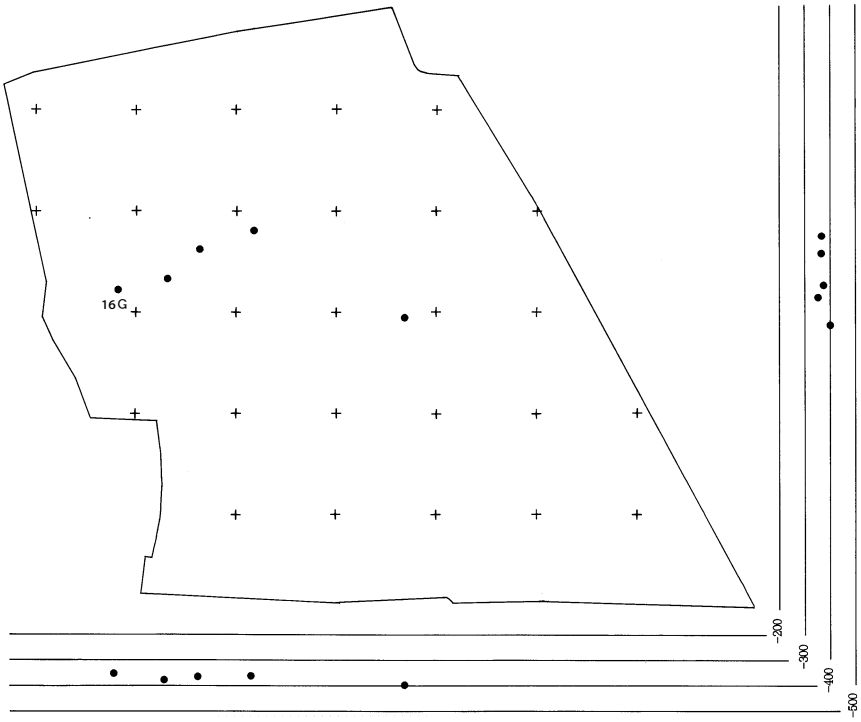


平面分布図

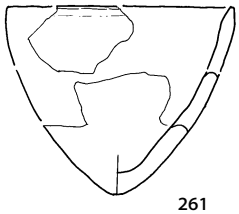
無文　M　s

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	34048	17×354×-386
2	8	35003	162×26×-402
3	8	35021	48×12×-390
4	9	26002	195×255×-378
5	9	34002	15×350×-388
6	9	35016	142× 65×-406
7	9	25004	324×273×-384
8	9	25006	325×327×-385
9	9	25007	291×343×-386
10	9	25009	302×366×-387
11	9	25012	328×357×-388
12	9	35002	93×50×-404
13	9	24010	136×388×-390
14	9	25034	147×18×-389
15	9	26016	307×4×-396
16	9	25001	0×95×-373
17	9	25016	247×135×-378
18	9	25027	212×310×-383
19	9	25047	350×245×-387
20	9	25059	313×365×-390
21	9	25065	296×350×-391
22	9	25071	330×349×-391
23	9	25072	305×310×-392
24	9	25074	334×368×-392
25	9	25075-1	317×203×-392
26	9	25075-2	317×203×-392
27	9	25082	265×190×-397
28	9	25085	330×389×-398
29	9	25086	359×386×-399
30	9	26008	393×17×-402
31	9	34009	130×306×-407

同一個体資料一覧表



平面分布図



261
個体63（Y）

無文　M　u+

No.	年度	遺物 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	25012	57×322×-367
2	9	33035	275×374×-404
3	9	08018-2	320×80×-354
4	9	16017	248×247×-369
5	9	16035	116×127×-375

同一個体資料一覧表

第 88 図　中層文化層出土土器分布図　286＜個体 56＞（X），261＜個体 63＞（Y）(平面 1/400)

第４項　笹見原上層文化層：８Ⅳ遺構検出面より上方出土の土器群

土器の概要

９８年度検出８Ⅳ遺構検出面より上方から、貝殻沈線文土器群の終末段階から条痕文系土器群前半期に比定される、残存状態の良好な資料が多く出土している。

上層文化層土器群の胎土特徴として、含有量の差はあるものの、出土した資料の殆どに繊維状物質を含有し、さらに雲母含有の有無によって胎土タイプが大きく２大別される。

上層文化層土器群の文様施文特徴としては、棒状工具または半裁管工具による沈線文、角押文、刺突文等が施文される土器と、無文土器が出土量の中心を占める。出土数は少数だが、縄文施文土器、絡条体圧痕文土器も検出されている。撚糸文土器、押型文土器は、それぞれ数片検出されているものの、いずれも小破片であり、上層土器群に伴うものかは不明である。

出土土器の遺跡内分布は、遺跡東北部と南西部の２カ所に、集中的に分布している。

土器出土レベルから確認すると、９８年度検出の８Ⅳ遺構検出面から８Ⅱ遺構検出面の周辺まで、ある程度の厚さにわたり堆積して出土していることが確認できるが、３章１節２項の文化層分離項で前述の通り、層位図が存在する、「東壁に近接する資料」以外の明確な帰属層位は不明であるので、同じ型式学的特徴をもつ全ての土器は、この一文化層に帰属させた。

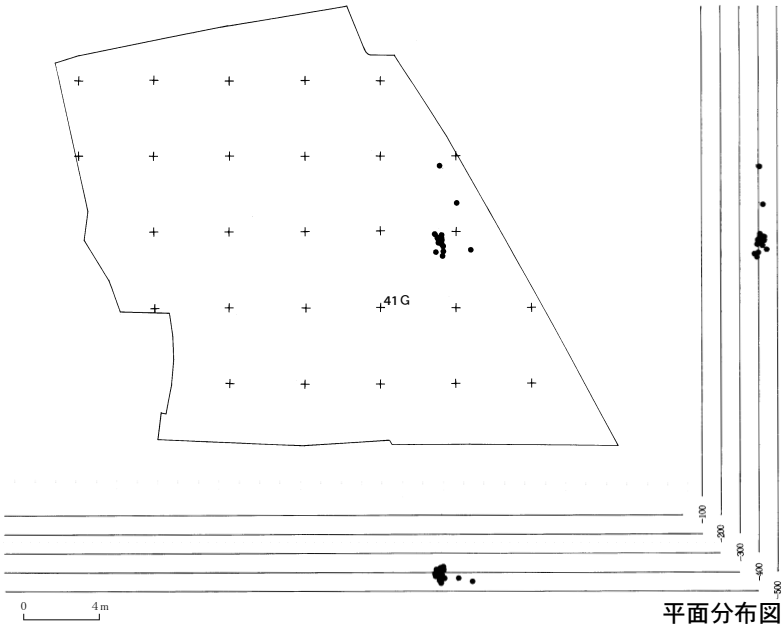
そこで笹見原上層文化層の詳細は、４章考察編において型式学的検討と分布を中心に扱うこととして、本項も笹見原中層文化層出土土器と同様、分布図が記録されており、明確な出土地点、層位が確認されている資料のみを掲載する事にとどめ、土器資料別には分類別土器実測図、属性表で触れることとする。

土製品、石製装飾品

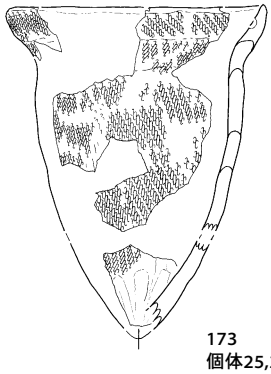
９８年度の発掘時に、洋ナシ形状の土製品と、石製装飾品が１点ずつ検出された。出土地点と出土レベルは土製品が１６Ｇの－３２１．５㎝、石製装飾品が１７Ｇの－３１７㎝である。出土レベルから、上層文化層に伴う遺物と推定される。

土製品は縦幅３０㎜、横幅２７．５㎜、厚さ７㎜で、胎土に雲母と黒色の砂粒を含む。繊維は含まれないようである。扁平面から見て洋ナシ型の形状をしており、表裏とも無文である。土偶の可能性も考えられるが、明確なことは不明である。

石製垂飾品は、縦幅２２．５㎜、横幅１９㎜、厚さ３．５㎜で、穿孔上部が一部欠損している。穿孔は片側から行われ、全体に研磨される。



平面分布図

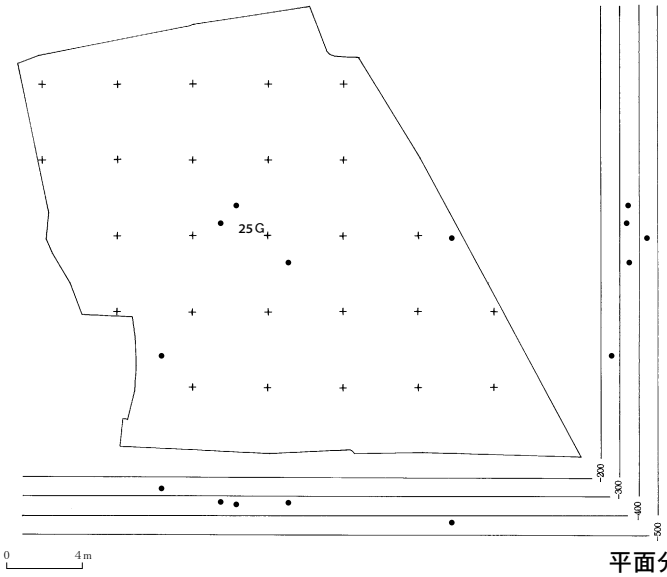


173
個体25,27

縄文施文　J　usf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	41024-1	324×280×-386
2	8	41024-2	324×280×-386
3	8	41026	295×291×-386
4	8	41007	305×340×-440
5	8	41017	283×387×-403
6	8	41033	314×355×-412
7	8	41034	321×352×-412
8	8	41045	333×335×-424
9	8	41048-1	315×365×-430
10	8	41048-3	315×365×-430
11	8	41048-4	315×365×-430
12	8	42035	319×347×-414
13	8	49036	80×307×-444.8
14	8	50007-2	3×140×-430

同一個体資料一覧表



平面分布図

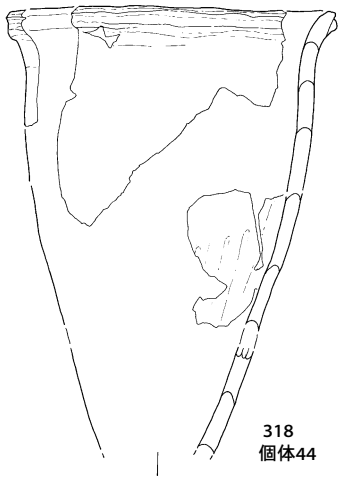
299
個体74

無文　M　sf

No.	年度	遺物 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	25051	249×125×-342
2	8	25012	125×60×-329
3	8	33026	99×260×-333
4	8	14011	255×160×-255
5	9	49001	190×395×-(456)

同一個体資料一覧表

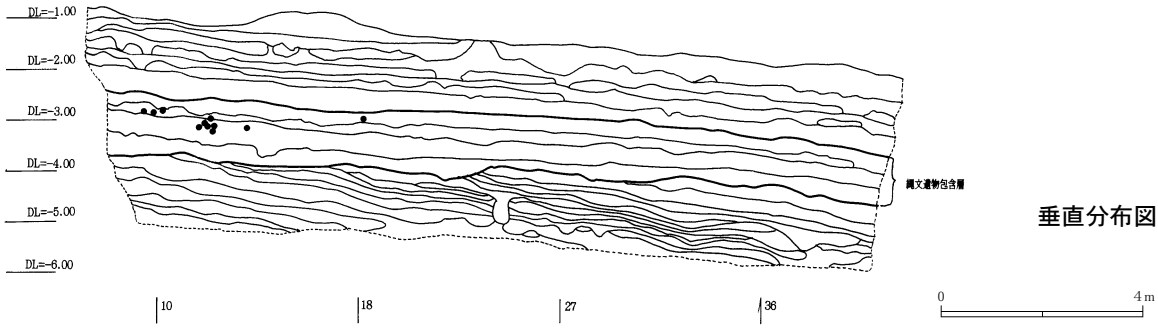
第 89 図　上層文化層出土土器分布図　173＜個体 25，27＞，299＜個体 74＞（平面 1/400)



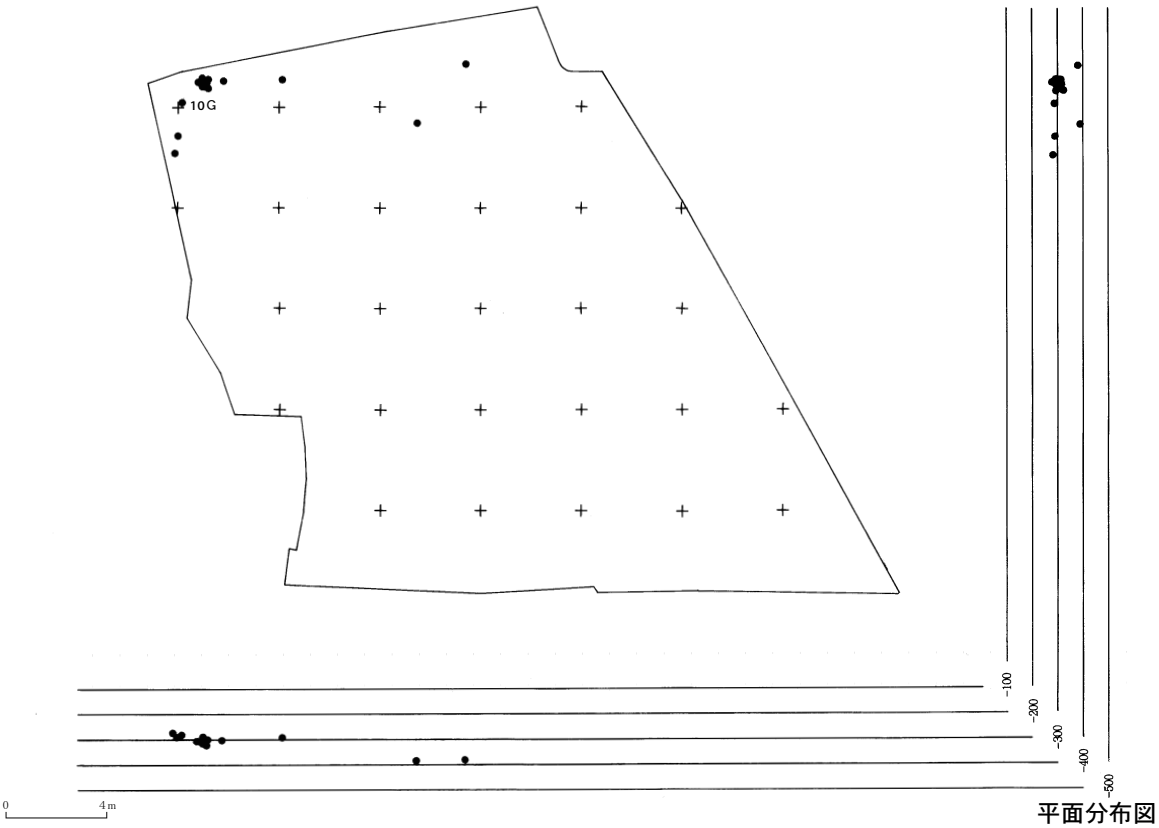
無文　　M　usf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	10025	10×19×-283
2	8	18008	13×105×-293
3	8	2001	380×214×-280
4	8	2002	395×290×-287
5	8	27015	340×165×-380.5
6	8	10008	175×106×-311
7	8	10013	100× 80×-298
8	8	26008	144×340×-387
9	9	10038	112×110×-307
10	9	10088	83×101×-305
11	9	10090	94×108×-304
12	9	10091	95×105×-305
13	9	10104	108× 77×-326

同一個体資料一覧表

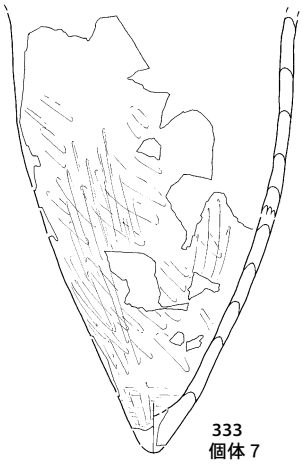


垂直分布図



平面分布図

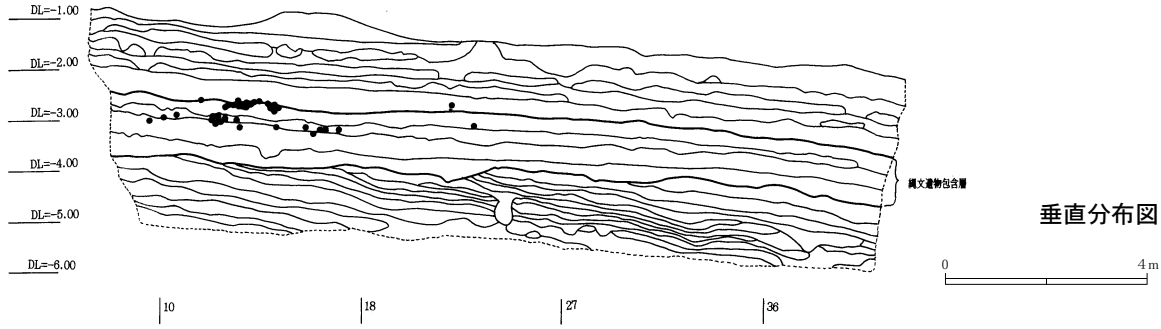
第 90 図　上層文化層出土土器分布図　318 ＜個体 44 ＞(垂直 1/150，平面 1/300)



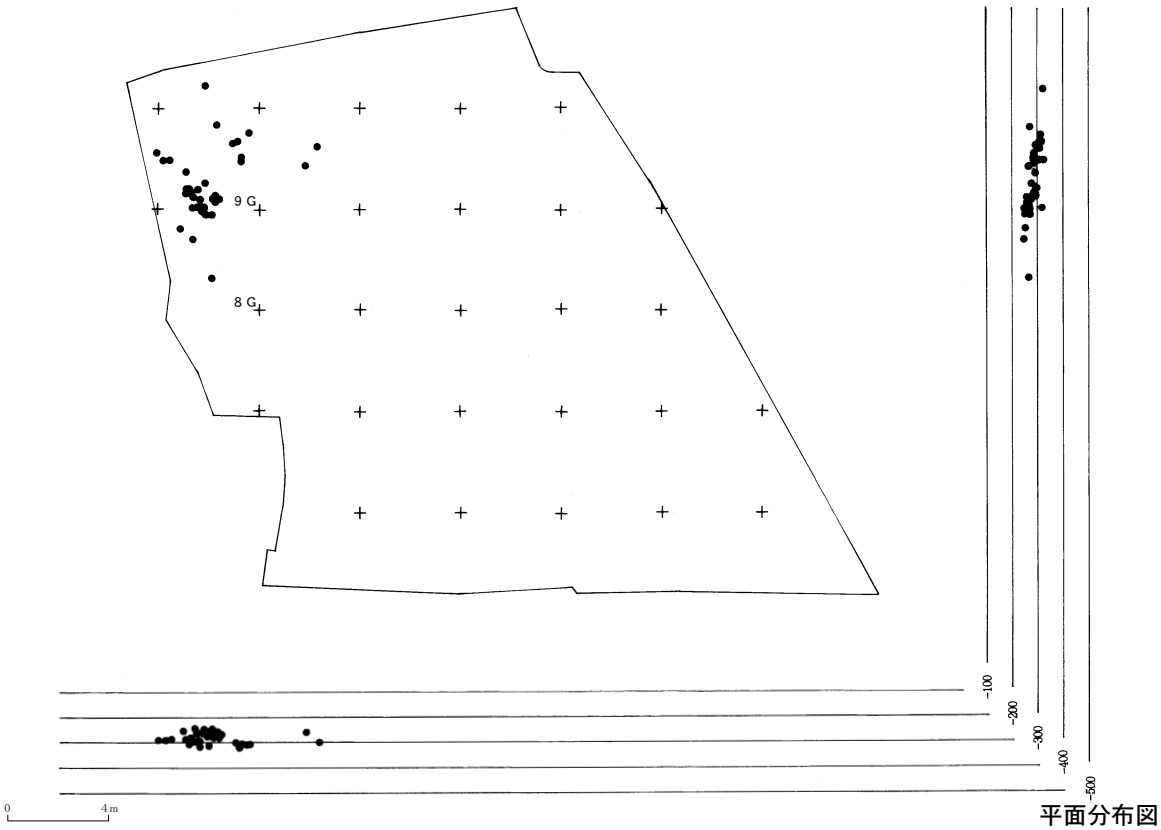
無文　M　usf

No.	年度	注記 No.	タテ×ヨコ×高さ	No.	年度	注記 No.	タテ×ヨコ×高さ
1	8	17008	180×170×-266	21	8	09114-4	225×48×-272
2	8	17021	230×248×-301	22	8	9135	354×300×-310
3	8	8002	200×385×-256	23	8	9024	104×144×-289
4	8	8009	135×280×-248	24	8	9064	298×261×-306
5	8	8012	196×382×-263	25	8	09115-1	123×64×-292
6	8	8017	88×321×-253	26	8	9117	135×51×-295
7	8	8020	212×128×-261	27	8	09118-1	120×76×-296
8	8	09016-1	162×36×-262	28	8	09118-2	120×76×-296
9	8	9021	220×44×-271	29	8	9119	155×74×-296
10	8	09022-1	186×103×-271	30	8	09120-1	120×70×-296
11	8	9034	227×331×-267	31	8	09120-2	120×70×-296
12	8	9111	144×10×-263	32	8	09124-1	324×198×-311
13	8	09112-2	175×0×-266	33	8	09124-2	324×198×-311
14	8	09112-3	175×0×-266	34	8	9127	310×268×-317
15	8	09112-4	175×0×-266	35	8	10032-1	184×92×-314
16	8	09112-5	175×0×-266	36	8	2004	388×221×-291
17	8	09112-6	175×0×-266	37	8	09025-2	40×196×-290
18	8	09114-1	225×48×-272	38	8	9029	16×194×-291
19	8	09114-2	225×48×-272	39	8	9032	157×10×-316.5
20	8	09114-3	225×48×-272				

同一個体資料一覧表

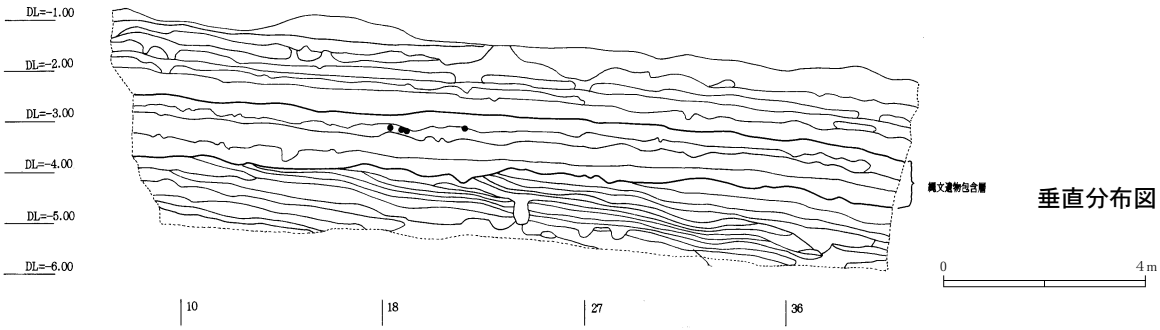


垂直分布図

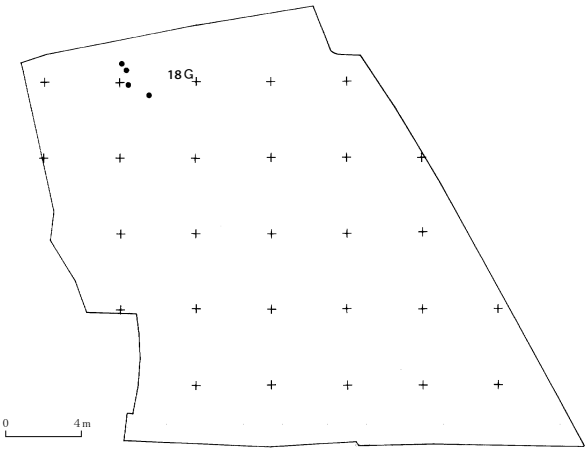


平面分布図

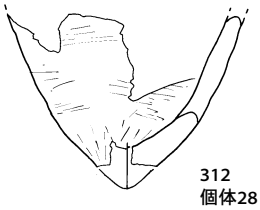
第 91 図　上層文化層出土土器分布図　333 ＜個体 7 ＞(垂直 1/150，平面 1/300)



垂直分布図



平面分布図

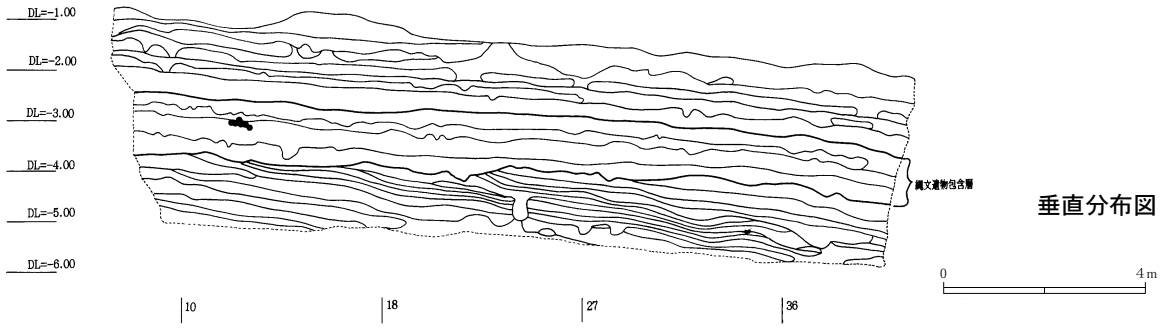


312
個体28

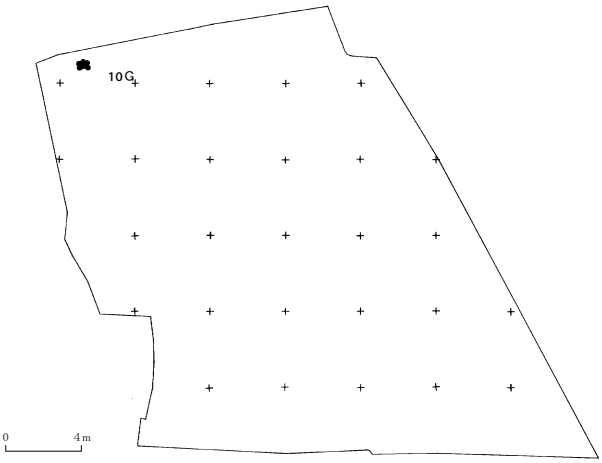
尖底　　sf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	17093	155×332×-323
2	8	17012	47×386×-324
3	8	18032-2	10× 93×-316
4	8	18040	30× 66×-324

同一個体資料一覧表



垂直分布図



平面分布図

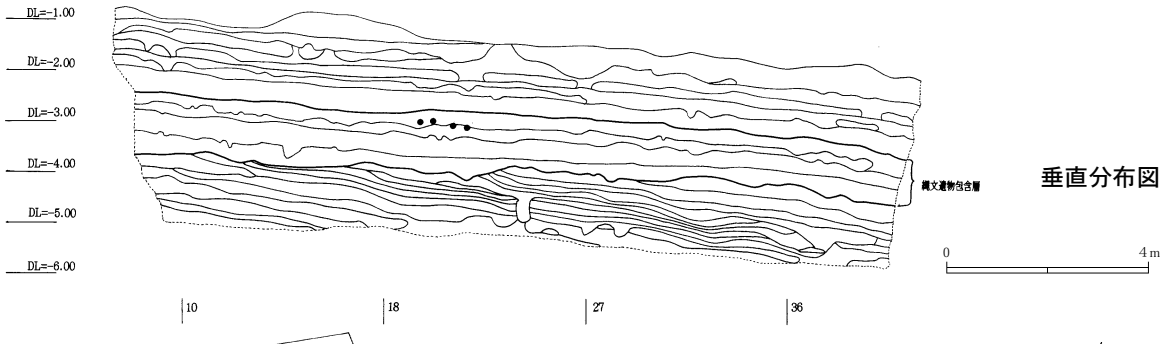
317
個体59

無文　　M　sf

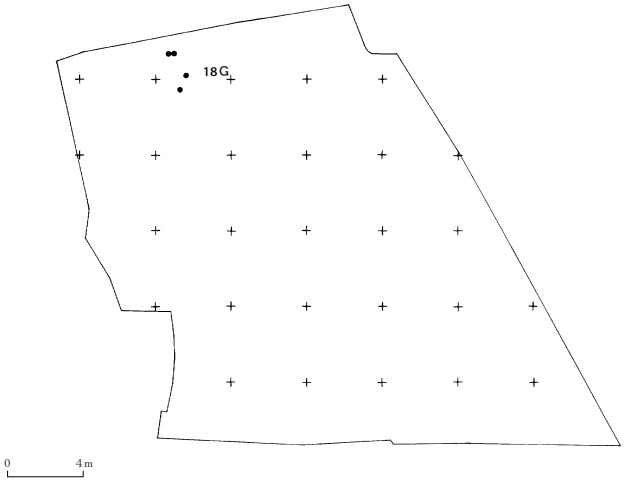
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	10014	120×93×-300
2	9	10033	115×102×-306
3	9	10034	110×93×-306
4	9	10037-2	111×91×-307
5	9	10049	128×99×-310
6	9	10051-2	135×89×-311

同一個体資料一覧表

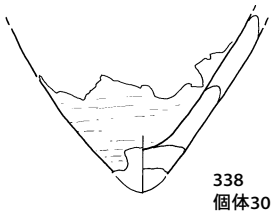
第 92 図　上層文化層出土土器分布図　312＜個体 28＞，317＜個体 59＞(垂直 1/150，平面 1/400)



垂直分布図



平面分布図

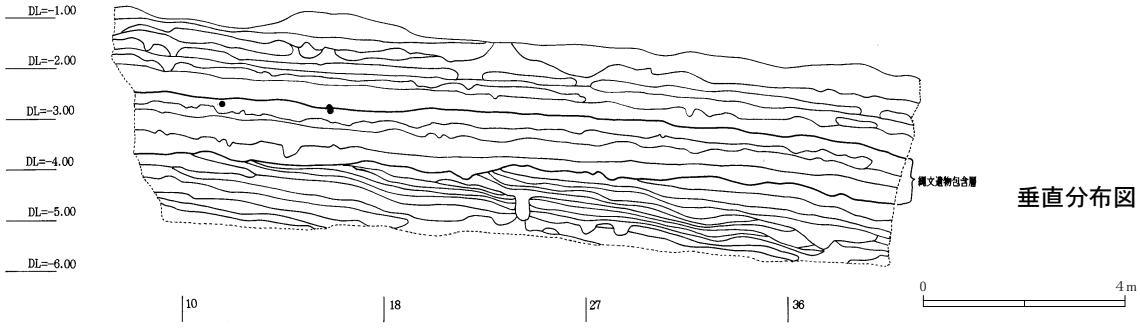


338
個体30

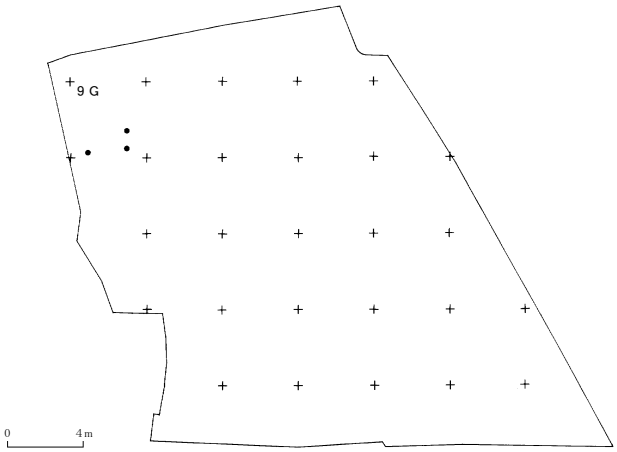
尖底　usf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	17081	130×345×-323
2	8	18040	98×145×-310.5
3	8	18079	70×134×-310
4	8	18101	160×16×-325

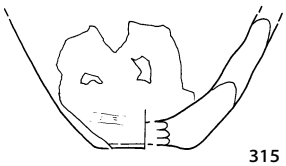
同一個体資料一覧表



垂直分布図



平面分布図



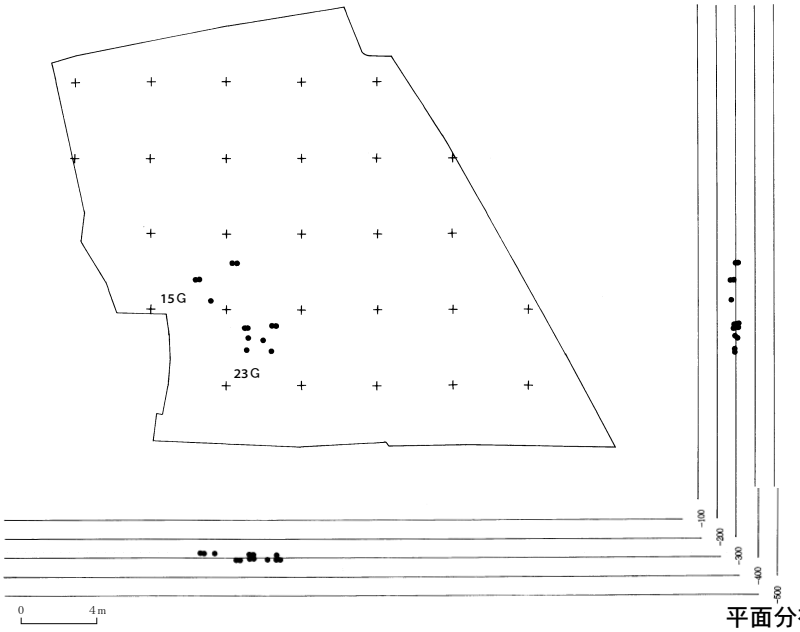
315
個体29

平底　sf

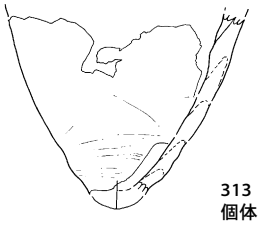
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	9022	293×140×-278
2	8	9070	87× 24×-270
3	8	9090	290× 50×-284

同一個体資料一覧表

第 93 図　上層文化層出土土器分布図　338 ＜個体 30 ＞，315 ＜個体 29 ＞(垂直 1/150，平面 1/400)



平面分布図

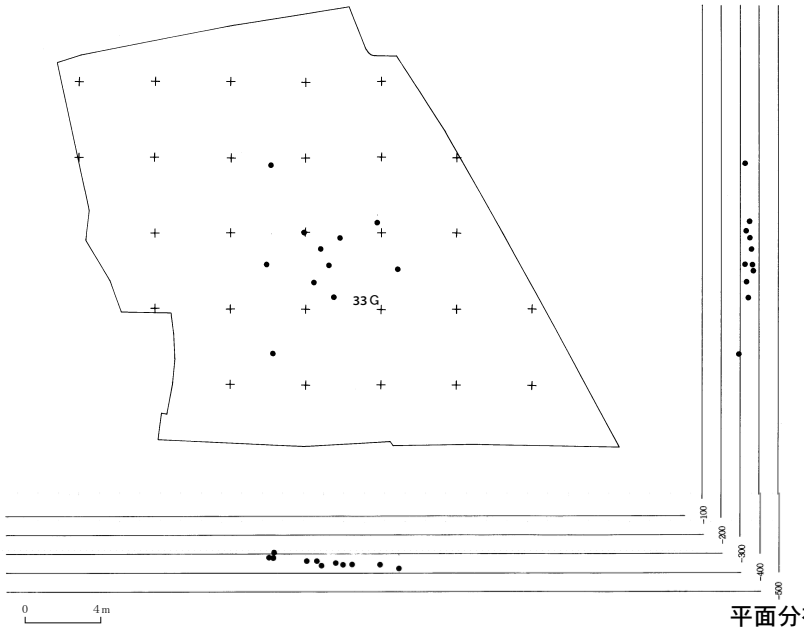


313
個体８

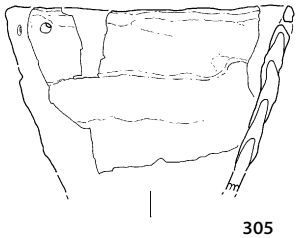
無文　M　sf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	23002	113×250×-300
2	8	23012	238×187×-294
3	8	15007	240×156×-277
4	8	15008	310×49×-279.5
5	8	15020	249×157×-279
6	8	23001	240×312×-311
7	8	23002	258×315×-311
8	8	23027	105×190×-293.5
9	8	23028	190×240×-312
10	8	23039-2	104×303×-297
11	8	23039-3	104×303×-297
12	8	24003	36×247×-312
13	8	24004	44×245×-312

同一個体資料一覧表



平面分布図



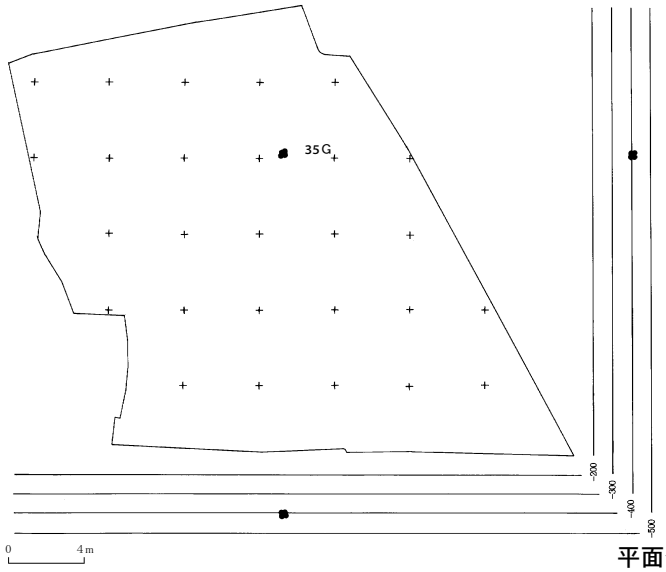
305
個体41,42

無文　M　sf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	25049	218×365×-326.8
2	8	34047	373× 60×-354
3	8	25029	384× 13×-335
4	8	33096	187×373×-355
5	8	33109	147× 65×-345
6	8	33130	43×142×-336
7	8	23009	220×160×-295
8	8	24093	192×235×-324.5
9	8	33130-1	74×315×-366
10	8	33136	122×235×-369
11	8	41002	81×203×-373

同一個体資料一覧表

第 94 図　上層文化層出土土器分布図　313＜個体８＞，305＜個体 41，42＞(平面 1/400)



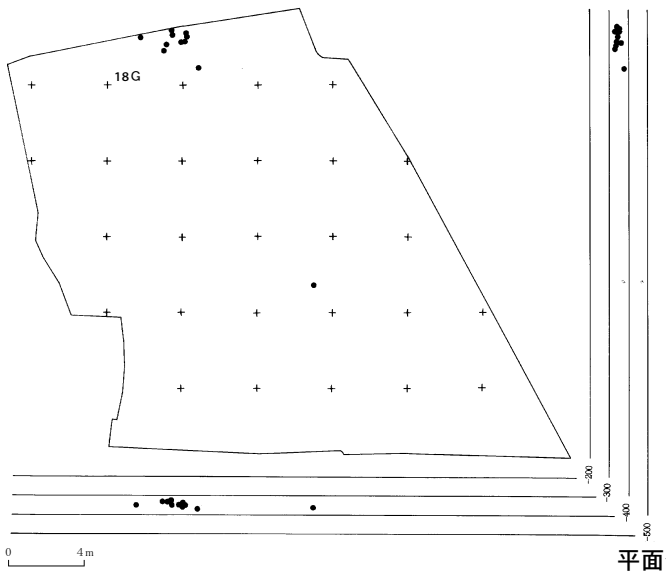
平面分布図

319
個体19,26

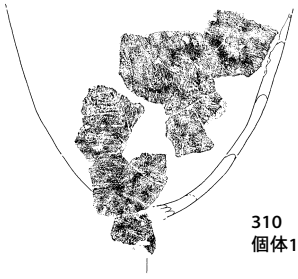
無文　M　usf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	35014	120× 23×-408
2	8	35015	126× 22×-408
3	8	35016	130× 23×-408
4	8	35017	127× 30×-406
			(土抗62出土)

同一個体資料一覧表



平面分布図



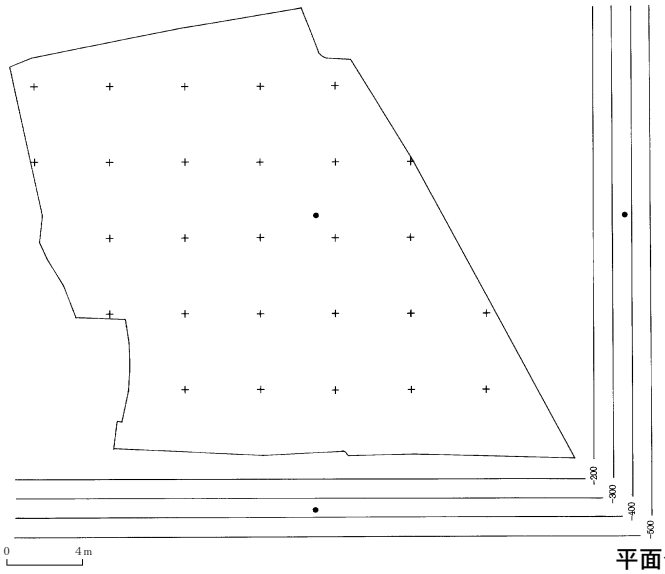
310
個体18,20

無文　M　sf

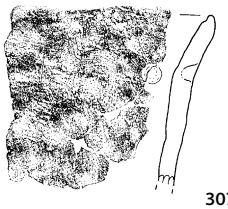
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	18143	300×182×-332
2	8	18050	310×220×-340
3	8	18053	168×280×-344
4	8	18055	390×230×-353
5	8	18056-3	395×230×-359
6	8	18057	335×279×-354
7	8	18077-2	345×258×-348
8	8	27016-2	15×270×-350
9	8	27016-3	15×270×-350
10	8	33159-2	304×147×-370
11	8	27007	85× 94×-373

同一個体資料一覧表

第 95 図　上層文化層出土土器分布図　319＜個体 19，26＞，310＜個体 18，20＞(平面 1/400)



平面分布図

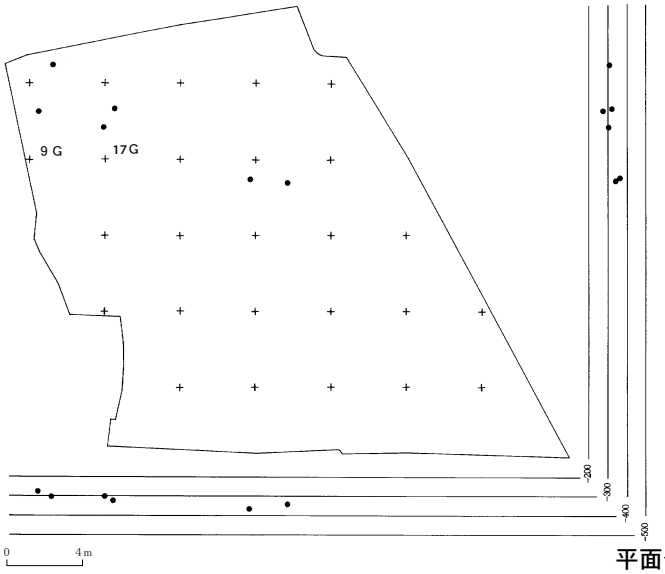


307
個体47

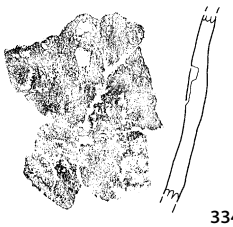
無文　M　usf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	8 34013	300×110×-372.5

同一個体資料一覧表



平面分布図



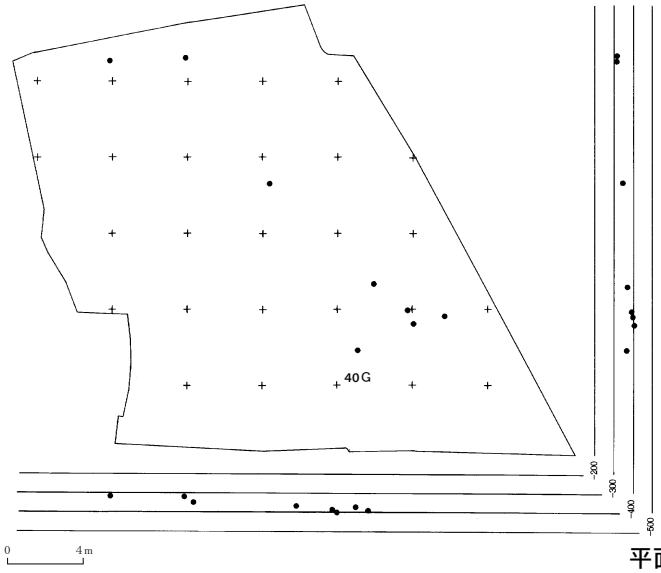
334
個体36

無文　M　usf

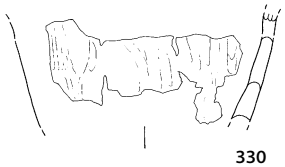
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	34010	171×281×-341
2	8	09083-1	47×255×-278
3	8	9109	393×169×-302
4	8	17011	42×268×-322
5	8	25058-2	364×302×-372
6	9	10041	119× 93×-308

同一個体資料一覧表

第 96 図　上層文化層出土土器分布図　307 ＜個体 47 ＞，334 ＜個体 36 ＞(平面 1/400)



平面分布図

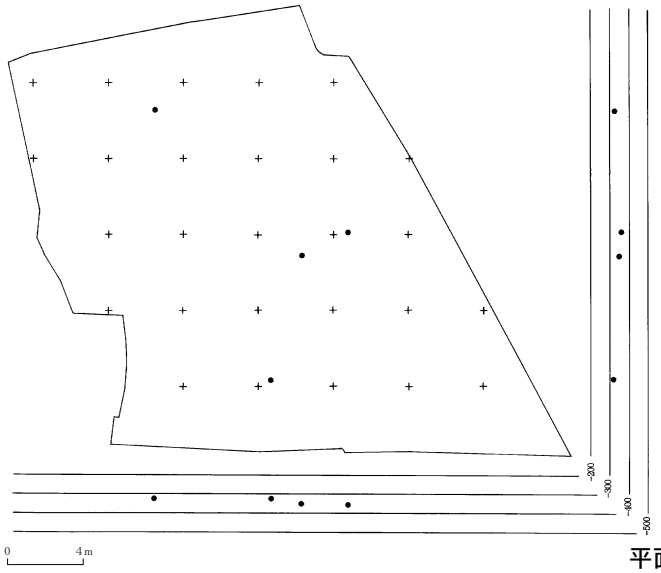


330
個体31,32

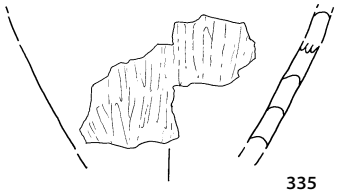
無文　M　usf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	34017	40×265×-353
2	8	41034	186×120×-373
3	8	10011	396×106×-318
4	8	18028	390×126×-312
5	8	40002	110×185×-366
6	8	40006	379×390×-398
7	8	48003	170×360×-400
8	8	48019-2	3×316×-402

同一個体資料一覧表



平面分布図



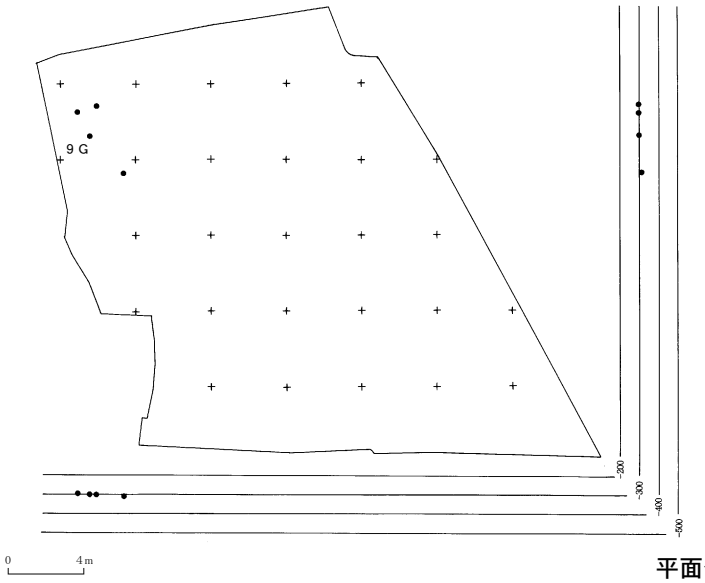
335
個体33

無文　M　usf

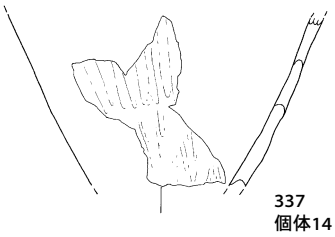
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	17068	235×246×-323
2	8	42025	77×3×-360
3	8	32038	75×35×-318
4	8	33088	233×286×-348

同一個体資料一覧表

第 97 図　上層文化層出土土器分布図　330 ＜個体 31，32 ＞，335 ＜個体 33 ＞(平面 1/400)



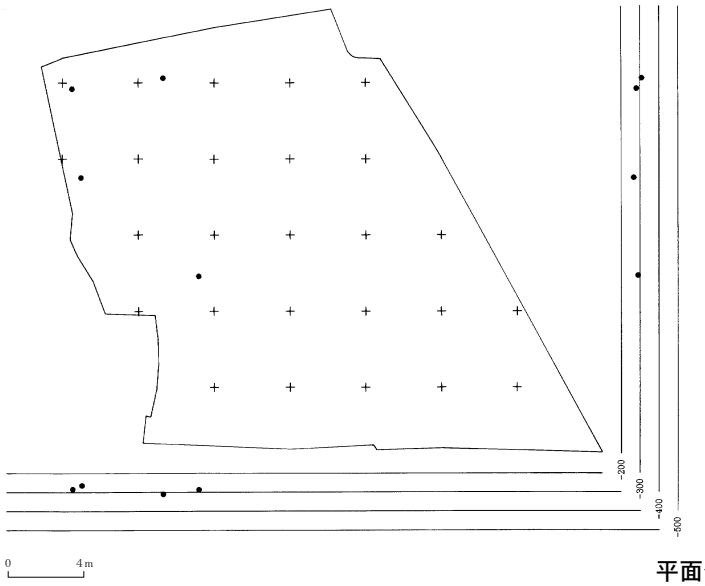
平面分布図



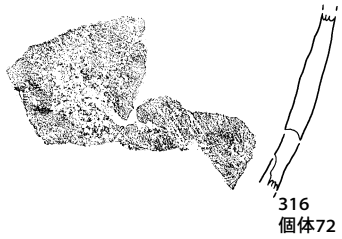
無文　M　usf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	08030-1	330×330×-312
2	8	09043-1	187×280×-296
3	8	9079	90×244×-290
4	8	9098	156×128×-296

同一個体資料一覧表



平面分布図



無文　M　sf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	08080-2	97×298×-269
2	8	9088	48×370×-282
3	8	18032	129×24×-310
4	8	15012-2	318×186×-289

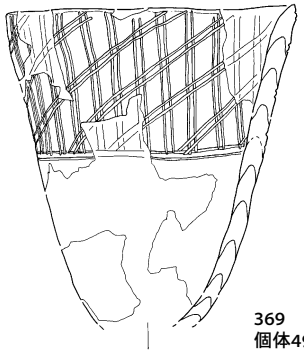
同一個体資料一覧表

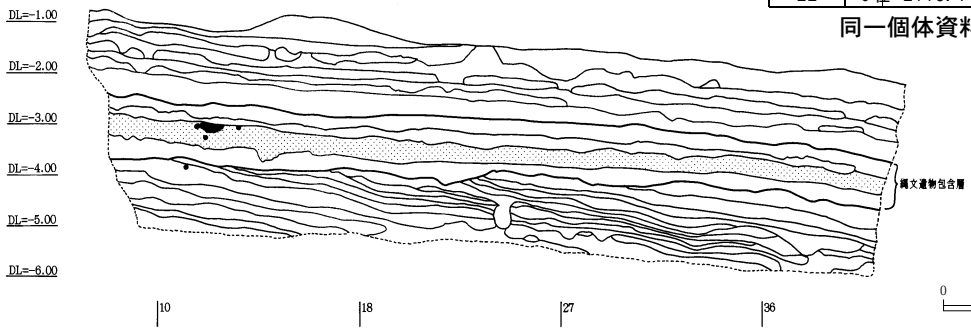
第 98 図　上層文化層出土土器分布図　337＜個体 14＞，316＜個体 72＞(平面 1/400)

沈線文　ＢＴ sf-3

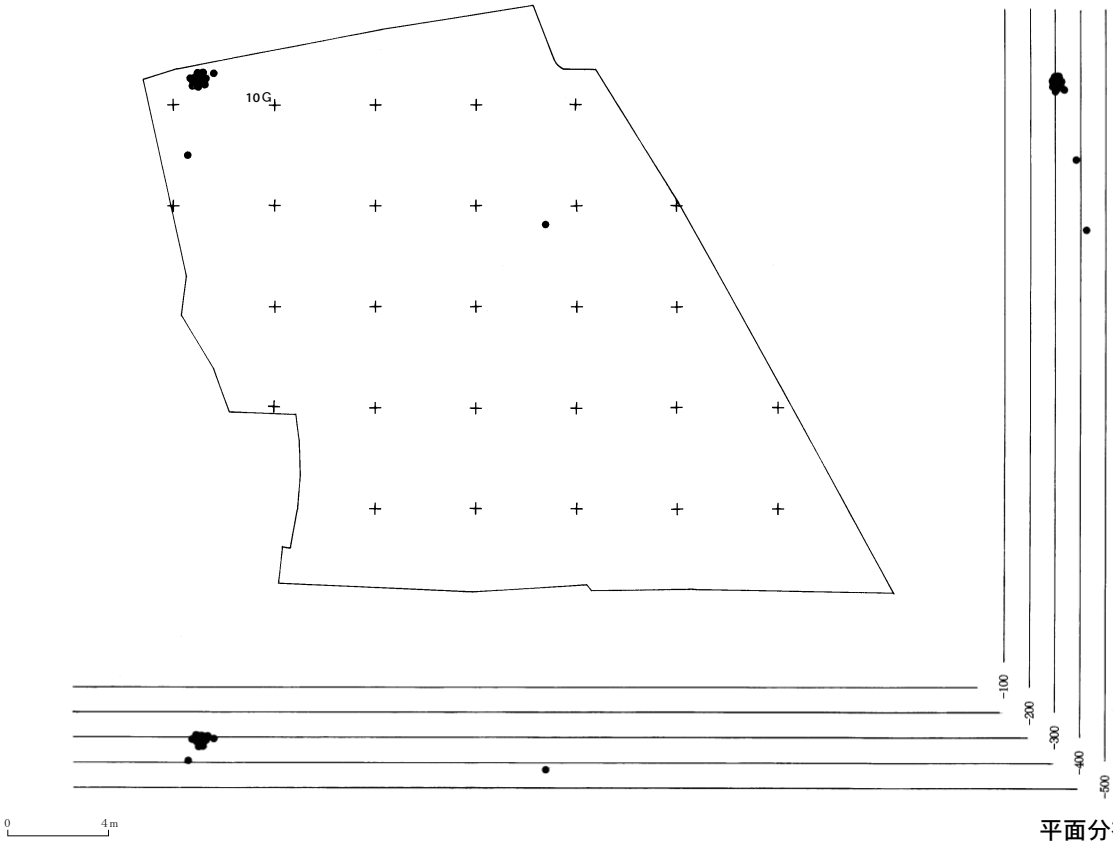
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	10017	94×94×-300
2	9	10019	84×82×-302
3	9	10020	85×86×-302
4	9	10030	119×102×-304
5	9	10031	126×100×-304
6	9	10040	156×118×-307
7	9	10043-1	113×86×-309
8	9	10043-2	113×86×-309
9	9	10044	118×91×-309
10	9	10086	75×106×-302
11	9	10087	80×110×-302
12	9	10089	90×116×-307
13	9	10092	100×112×-307
14	9	10095	106×113×-308
15	9	10097	104×118×-309
16	9	10098	110×117×-309
17	9	10099	100×117×-310
18	9	10100	101×122×-311
19	9	10101	108×122×-311
20	9	10105	95×77×-328
21	9	34044	282×323×-425
22	Ｊ住	2110.-1	56×198×-384

同一個体資料一覧表





垂直分布図



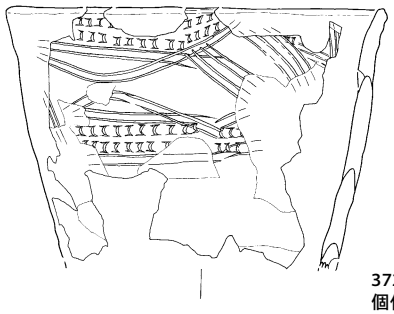
平面分布図

第 99 図　上層文化層出土土器分布図　369 ＜個体 49 ～ 53 ＞(垂直 1/150，平面 1/300)

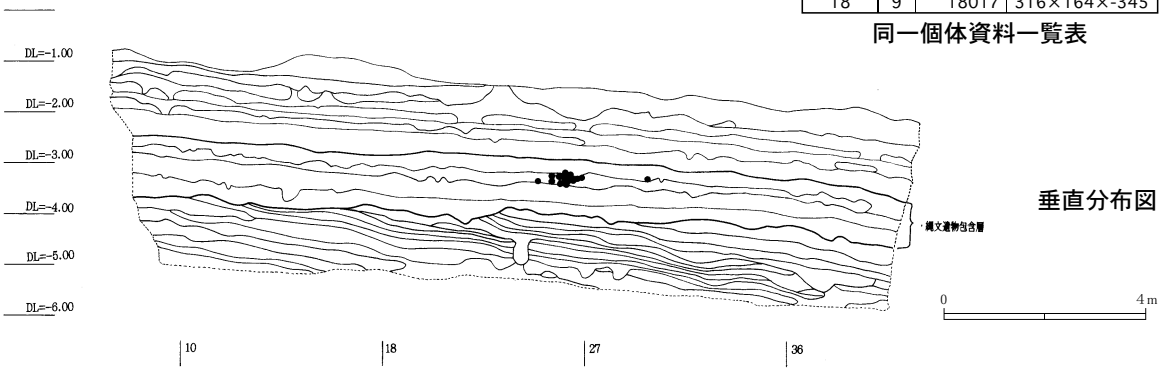
沈線文　ＢＴ usf-4

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	18053	387×119×-329
2	8	18073-2	375×135×-326
3	8	18132-1	377×117×-331
4	8	18132-2	377×117×-331
5	8	18132-3	377×117×-331
6	8	18132-4	377×117×-331
7	8	18132-5	377×117×-331
8	8	18132-6	377×117×-331
9	8	18148-1	369×126×-339
10	8	18148-2	369×126×-339
11	8	18148-3	369×126×-339
12	8	18148-4	369×126×-339
13	8	18149	348×148×-340
14	8	18151-2	368×140×-342
15	8	18151-3	368×140×-342
16	8	18151-5	368×140×-342
17	8	25022	130×395×-335
18	9	18017	316×164×-345

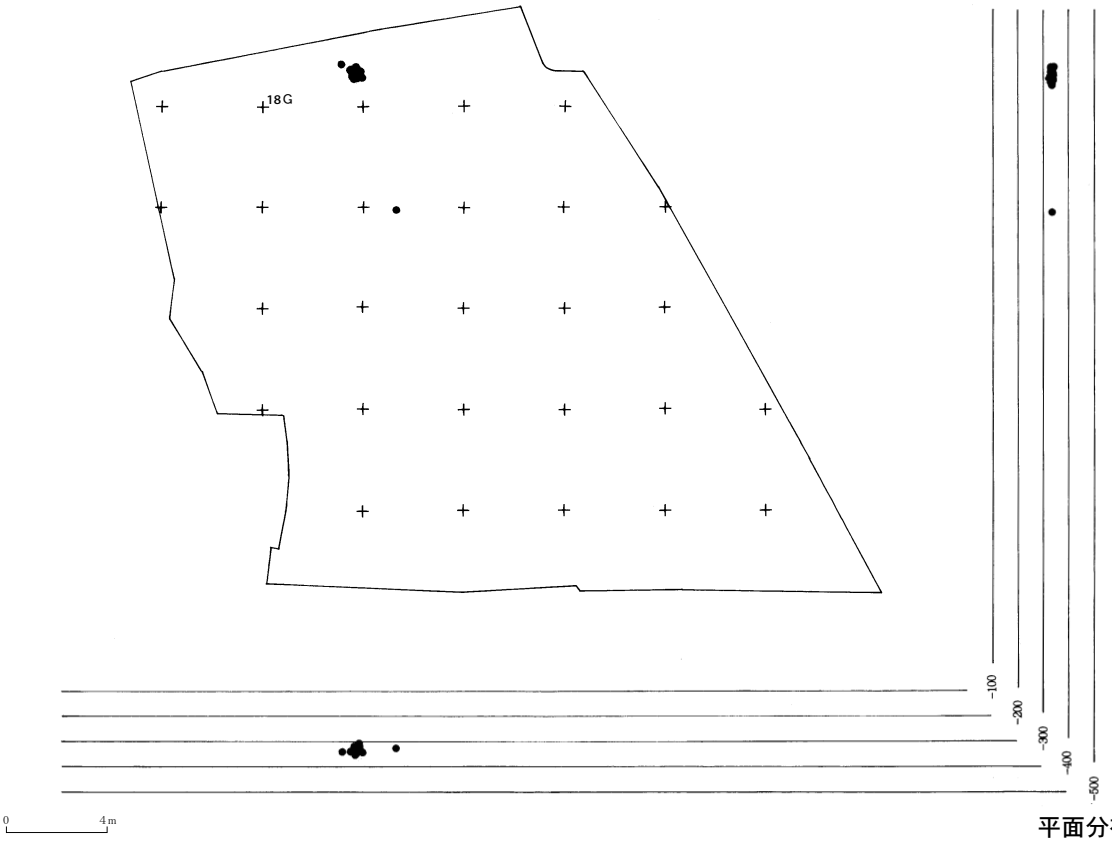
同一個体資料一覧表



372
個体２



垂直分布図



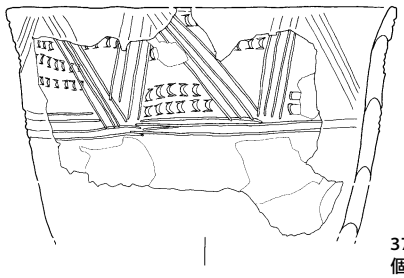
平面分布図

第 100 図　上層文化層出土土器分布図　372＜個体２＞(垂直 1/150，平面 1/300)

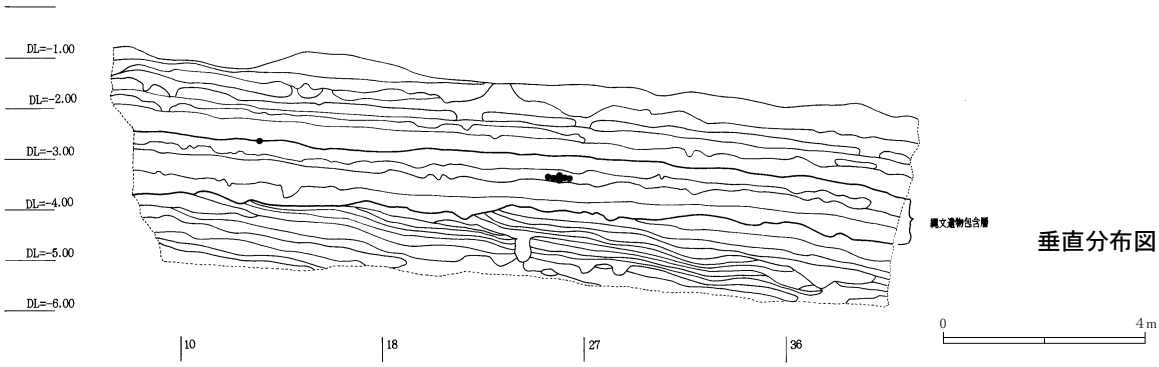
沈線文　BT　usf-4

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	8053	163×168×-263
2	8	18136-1	360×125×-337
3	8	18137-1	376×190×-338
4	8	18147-1	348×108×-339
5	8	18147-2	348×108×-339
6	8	18159-1	370×158×-339
7	8	18159-2	370×158×-339

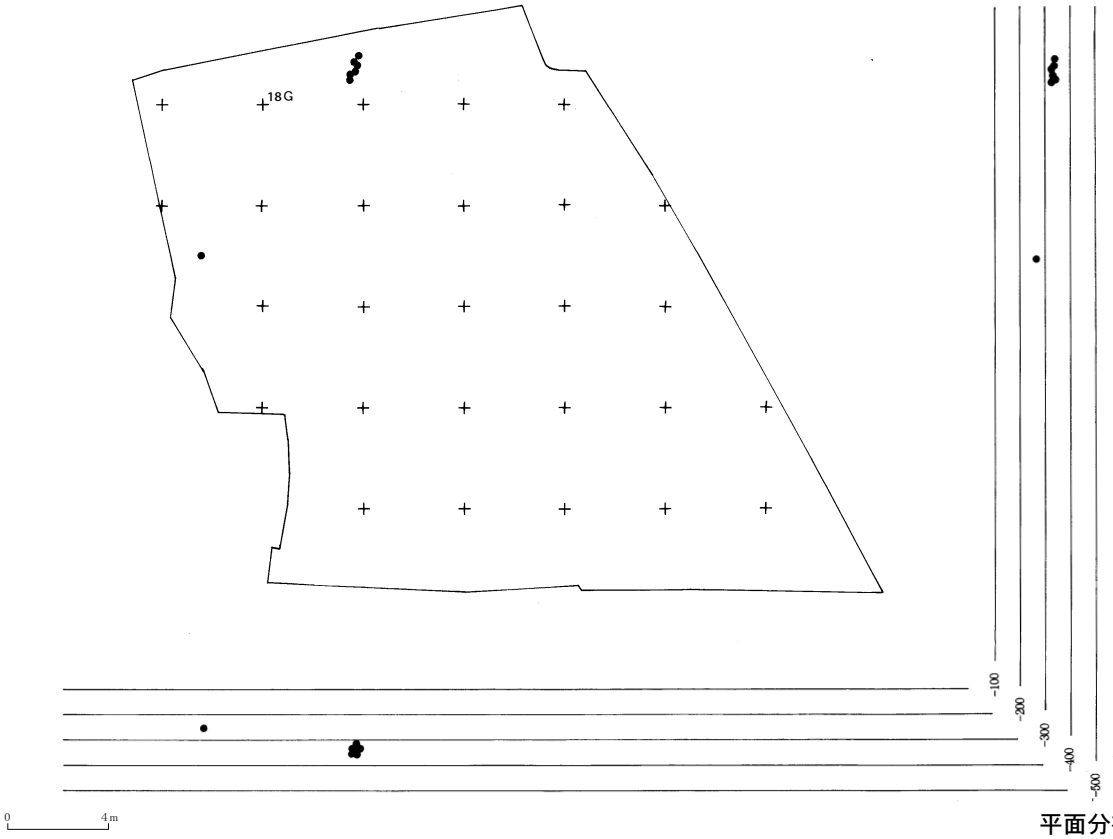
同一個体資料一覧表



371
個体11

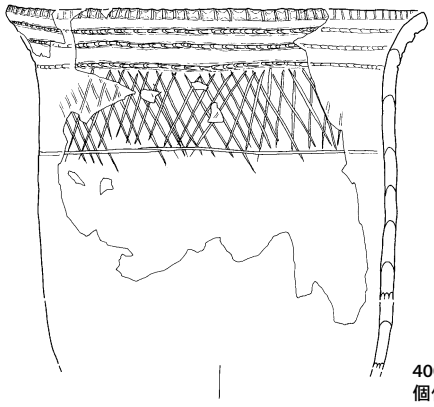


垂直分布図



平面分布図

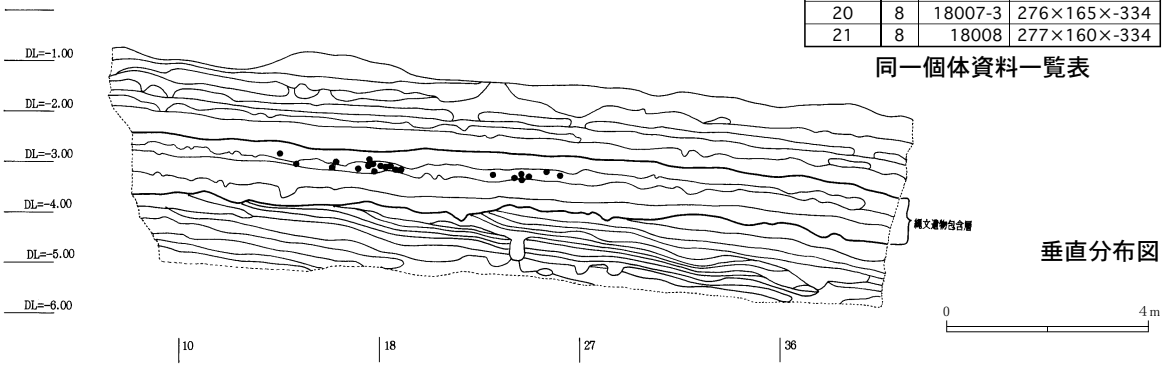
第 101 図　上層文化層出土土器分布図　371 ＜個体 11 ＞(垂直 1/150，平面 1/300)



沈線文　ＢＴ usf-3

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	10021	386× 40×-300
2	8	18056	336×5×-326
3	8	9028	250×116×-290
4	8	09056-2	239×245×-302
5	8	9057	312×155×-302
6	8	9073	363×309×-316
7	8	09111-1	390×245×-320
8	8	09131-1	303×193×-306
9	8	16032	365×398×-332
10	8	16053-1	298×328×-338
11	8	16053-2	298×328×-338
12	8	16053-3	298×328×-338
13	8	16060-1	32×260×-318
14	8	16060-2	32×260×-318
15	8	17026	0×145×-312
16	8	17031-1	0×127×-312
17	8	17031-2	0×127×-312
18	8	17031-3	0×127×-312
19	8	17031-4	0×127×-312
20	8	18007-3	276×165×-334
21	8	18008	277×160×-334

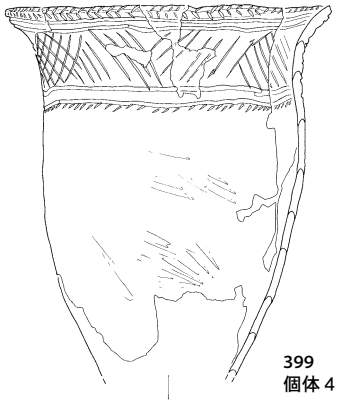
同一個体資料一覧表



垂直分布図

平面分布図

第 102 図　上層文化層出土土器分布図　400＜個体 3＞(垂直 1/150，平面 1/300)

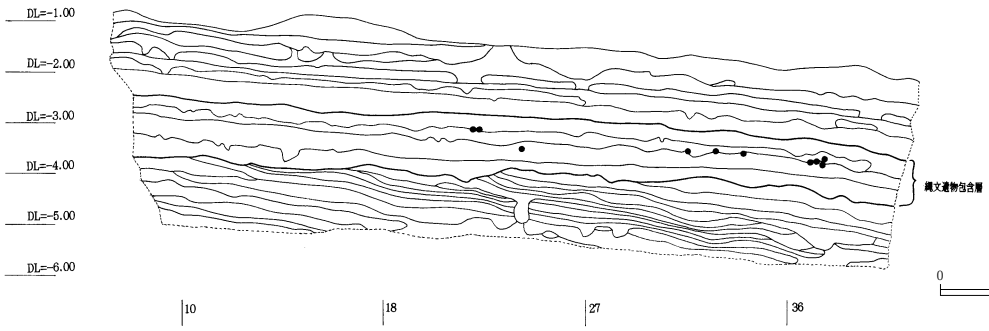


399
個体４

沈線文　ＢＴ usf-3

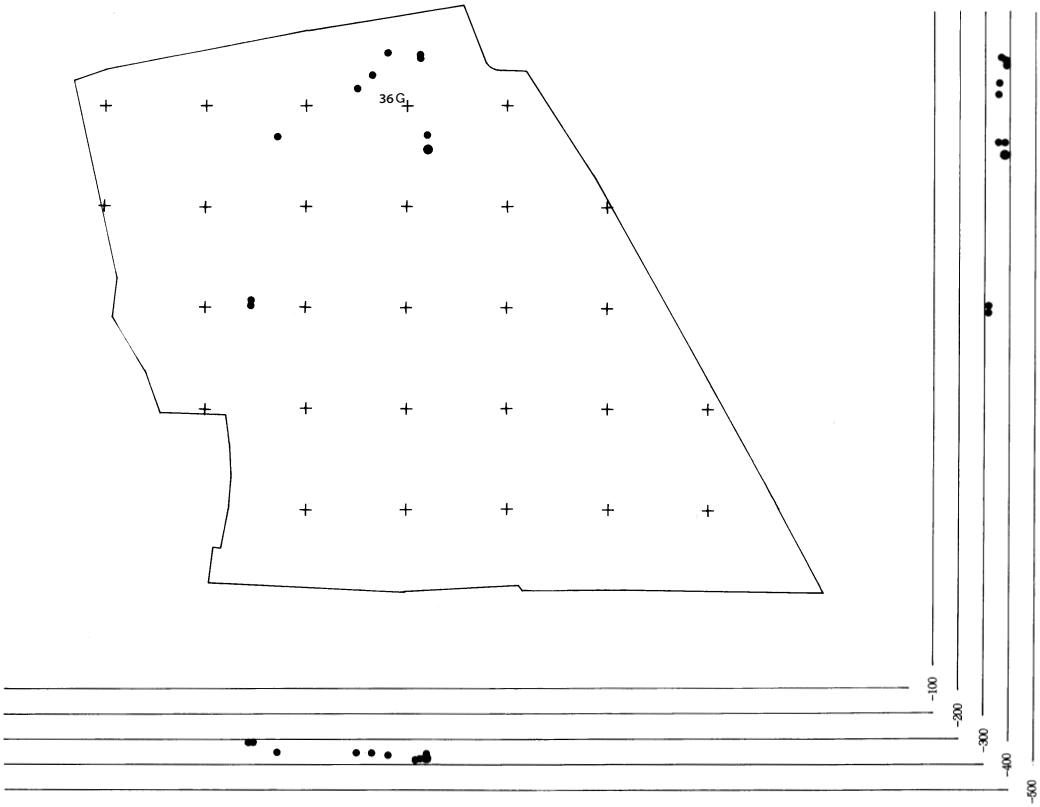
No.	年度	遺物 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	27017	260×118×-357
2	8	27021	327×216×-363
3	8	27058	201× 66×-356
4	8	35078	80×228×-372
5	8	35095	80×280×-376～-397
6	8	16037	184× 30×-314
7	8	16038	180× 10×-314
8	8	17039	284×279×-351
9	8	36040-2	52×195×-381
10	8	36041-3	51×191×-382

同一個体資料一覧表



垂直分布図

0　4m



0　4m

平面分布図

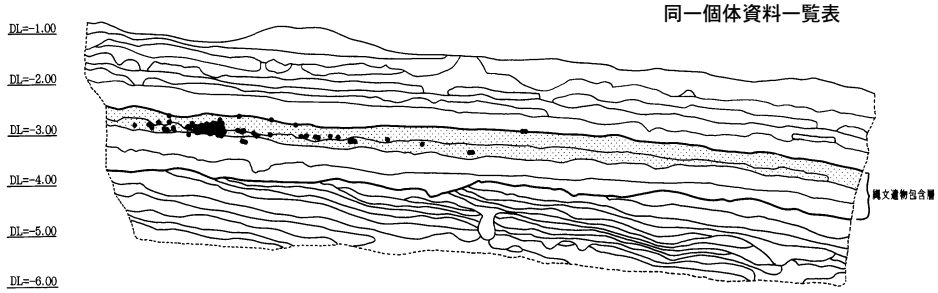
第 103 図　上層文化層出土土器分布図　399＜個体４＞(垂直 1/150，平面 1/300)

408
個体５

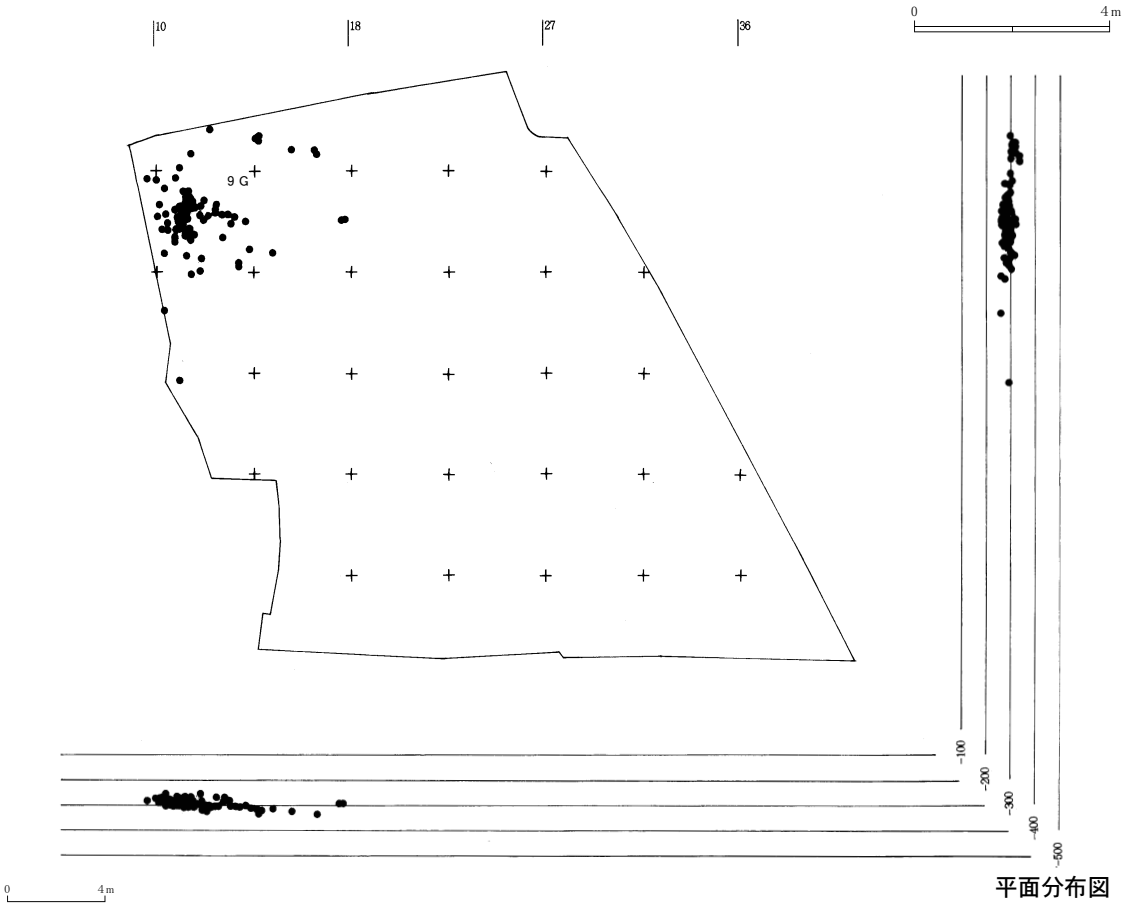
角押文　ＢＫ usf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ	No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ	No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	2004	394×366×-281	28	8	9018	71×246×-288	55	8	9085	41×169×-286
2	8	2005	360×371×-283	29	8	09020-1	90×202×-288	56	8	9093	100×190×-294
3	8	9004	242×261×-275	30	8	9022	183×56×-289	57	8	9096	132×170×-296
4	8	9008	291×231×-283	31	8	09026-1	98×262×-290	58	8	9099	146×142×-297
5	8	9043	133×288×-274	32	8	09026-2	98×262×-290	59	8	09115-2	123× 64×-292
6	8	9086	9×265×-279	33	8	09027-1	115×249×-290	60	8	09131-2	303×193×-306
7	8	9110	112×202×-278	34	8	09027-2	115×249×-290	61	8	09132-1	104×173×-294
8	8	09112-7	175×0×-266	35	8	9029	106×216×-290	62	8	09132-2	104×173×-294
9	8	9118	123×157×-277	36	8	09030-1	118×271×-291	63	8	10002-1	90× 10×-298
10	8	9124	360×203×-302	37	8	09030-2	118×271×-291	64	8	10030	140× 72×-303
11	8	9127	120×150×-283	38	8	9031	108×203×-291	65	8	17024	76× 83×-315
12	8	9133	130×160×-305	39	8	9032	136×131×-292	66	8	18013-1	250× 77×-336
13	8	17002-1	357×207×-296	40	8	9035	115×291×-293	67	8	18013-2	250× 77×-336
14	8	17002-2	357×207×-296	41	8	09039-1	133×264×-294	68	8	18030-1	8×126×-316
15	8	18097	150×90×-322	42	8	09039-2	133×264×-294	69	8	18030-2	8×126×-316
16	8	7005	85×374×-293	43	8	09043-2	187×280×-296	70	8	18030-2	8×126×-316
17	8	8013	140×391×-282	44	8	9044	170×258×-296	71	8	2003	397×218×-289
18	8	08021-1	30×250×-266	45	8	9054	204×225×-299	72	8	9004	20×172×-287
19	8	9001	147×356×-291	46	8	09056-1	239×245×-302	73	8	9006	30×228×-291.5
20	8	9003	32×76×-274	47	8	09059-1	336×36×-303	74	8	9011	26×327×-295
21	8	9005	81×170×-280	48	8	09059-2	336×36×-303	75	8	9016	115×163×-299
22	8	09007-1	74×131×-284	49	8	9063	381×95×-304	76	8	9018	71×368×-300
23	8	9008	109×228×-286	50	8	09077-1	95×180×-289	77	8	09022-2	183×217×-316
24	8	09014-1	123×227×-288	51	8	09077-2	95×180×-289	78	8	9024	189×213.5×-318
25	8	09014-2	123×227×-288	52	8	09078-1	85×204×-290	79	8	09025-1	40×196×-290
26	8	09016-1	104×238×-288	53	8	9080	120×216×-295	80	8	10004	211×156×-302
27	8	09016-2	104×238×-288	54	8	9081	316×216×-307				

同一個体資料一覧表

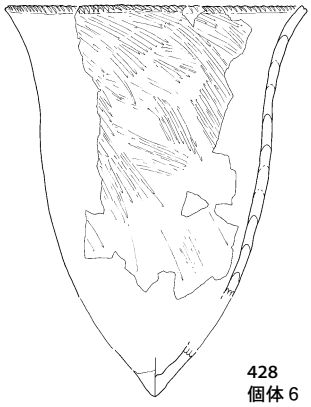


垂直分布図



平面分布図

第 104 図　上層文化層出土土器分布図　408 ＜個体５＞(垂直 1/150，平面 1/300)

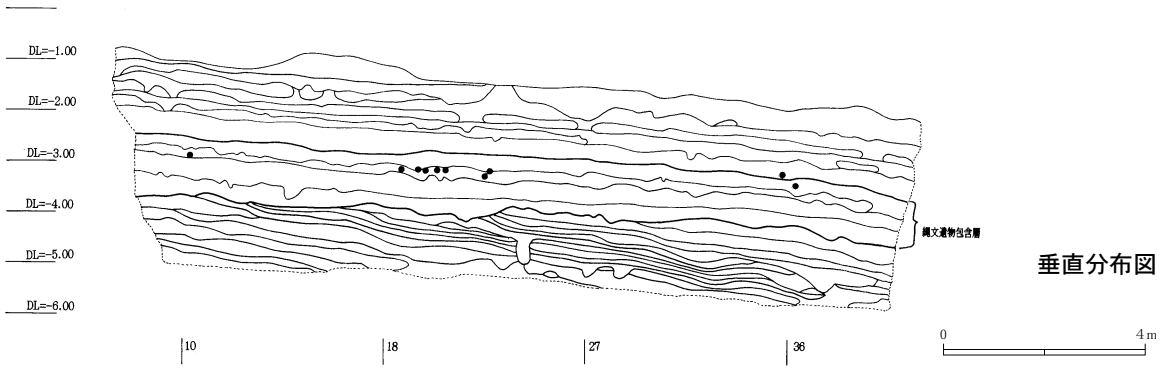


428
個体 6

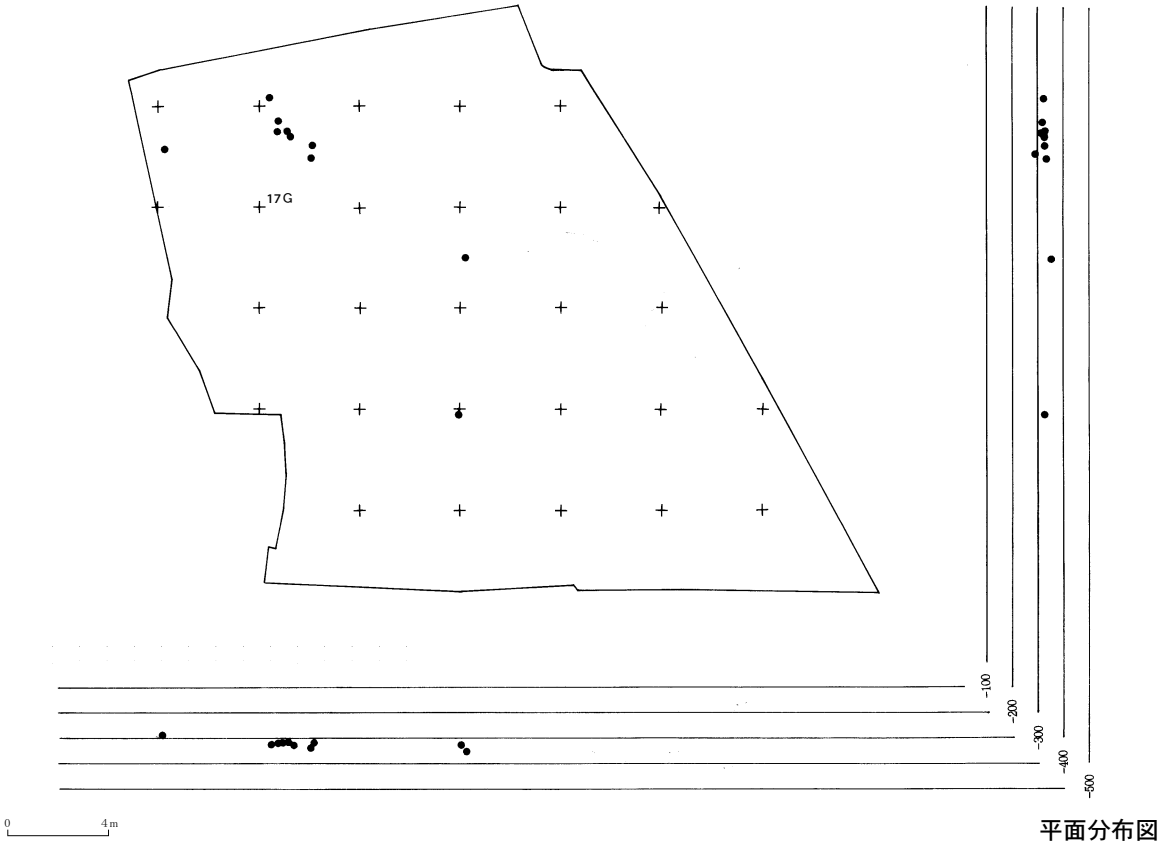
条痕文　ＪＫ usf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	17070	210×248×-324
2	8	17111	77×302×-320
3	8	17118	112×297×-319
4	8	17012	123×280×-323
5	8	17060	73×340×-319.5
6	8	34035	20×201×-351.5
7	8	17009	200×196×-336
8	8	18006	40× 36×-323
9	8	23047	399×380×-328
10	8	9005	18×227×-288

同一個体資料一覧表

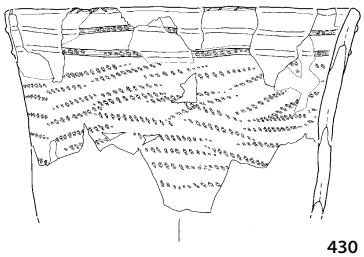


垂直分布図



平面分布図

第 105 図　上層文化層出土土器分布図　428 ＜個体 6 ＞(垂直 1/150，平面 1/300)

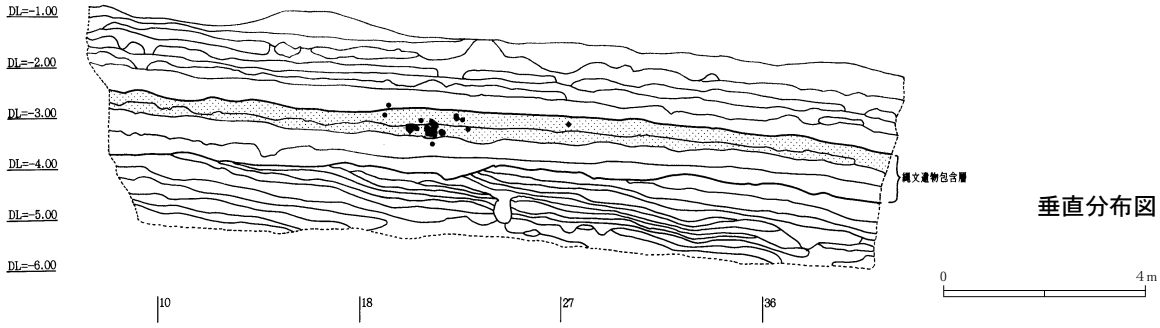


430
個体 1

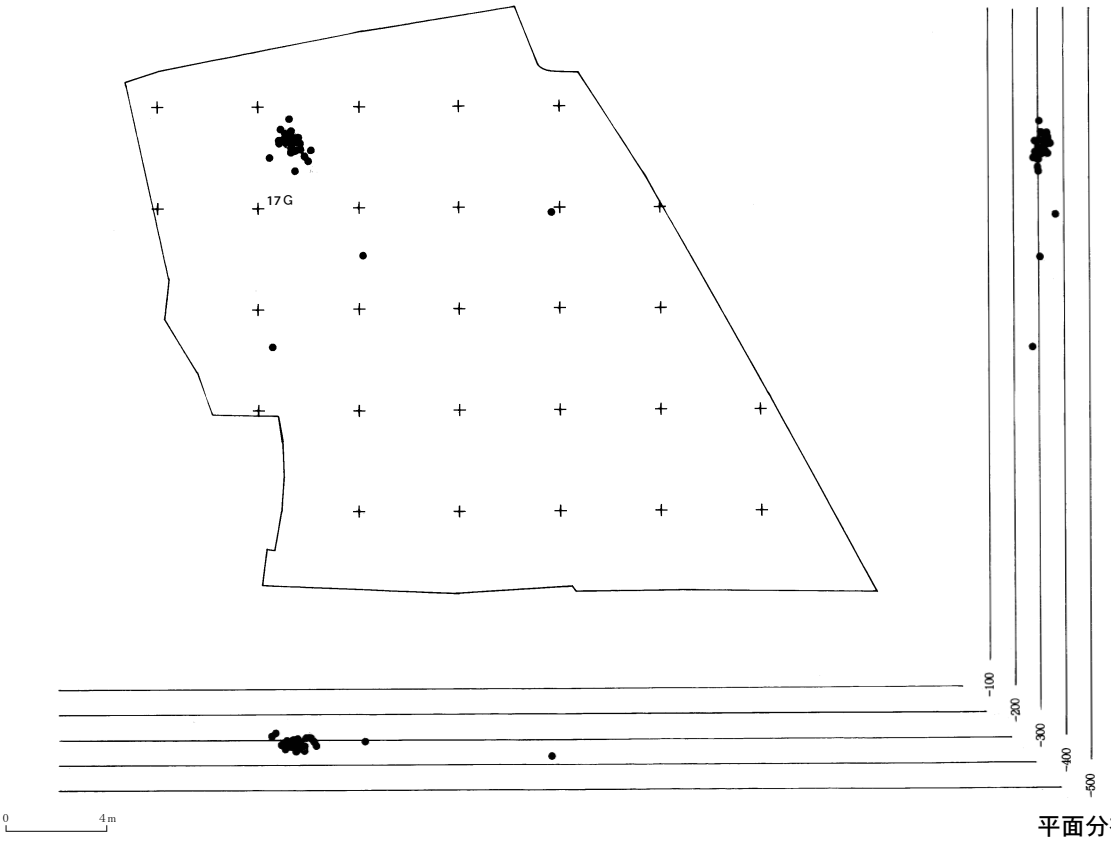
絡条体　R　sf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ	No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	17002	50×200×-285	17	8	17087-1	93×262×-321
2	8	17012	190×195×-297	18	8	17087-2	93×262×-321
3	8	17017	190×200×-297	19	8	17089	106×280×-317
4	8	17020	205×227×-300	20	8	17092	100×305×-323
5	8	17027	124×344×-301	21	8	17105-1	136×227×-329
6	8	17042-1	150×270×-313	22	8	17106-1	145×276×-331
7	8	17042-2	150×270×-313	23	8	17106-2	145×276×-331
8	8	17042-3	150×270×-313	24	8	17117	136×305×-319
9	8	17042-4	150×270×-313	25	8	25079-1	20×205×-309
10	8	17043	148×150×-303.5	26	8	34088	371×375×-372
11	8	17069	220×248×-324	27	8	15059	61×248×-276
12	8	17077	134×224×-317	28	8	17019-2	166×234×-335
13	8	17079-2	149×228×-321	29	8	17019-3	166×234×-335
14	8	17081	115×252×-322	30	8	17032	150×263×-339
15	8	17083	108×292×-318	31	8	17033	165×257×-339
16	8	17085-2	131×229×-320	32	8	17066	143×262×-351

同一個体資料一覧表

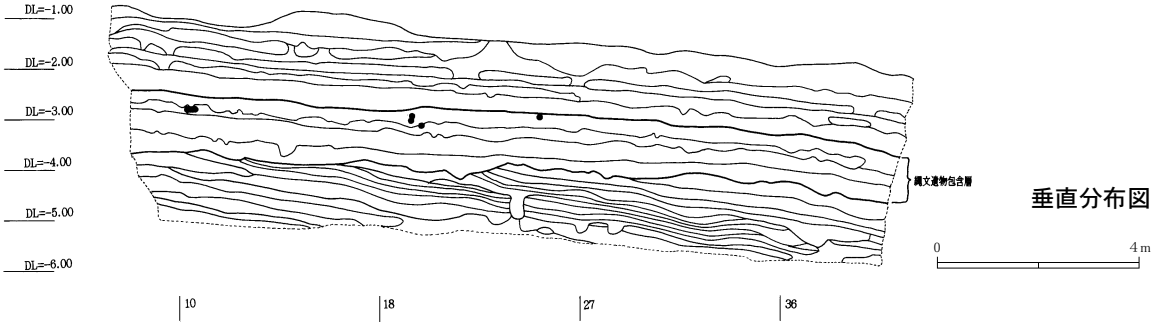


垂直分布図

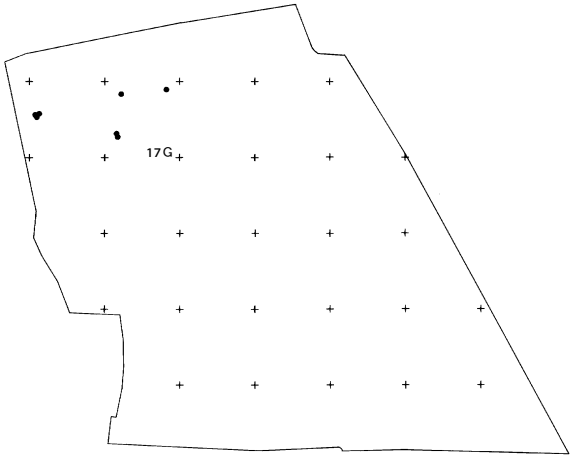


平面分布図

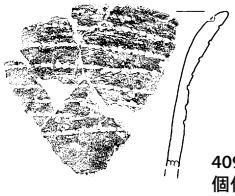
第 106 図　上層文化層出土土器分布図　430＜個体 1＞(垂直 1/150，平面 1/300)



垂直分布図



平面分布図

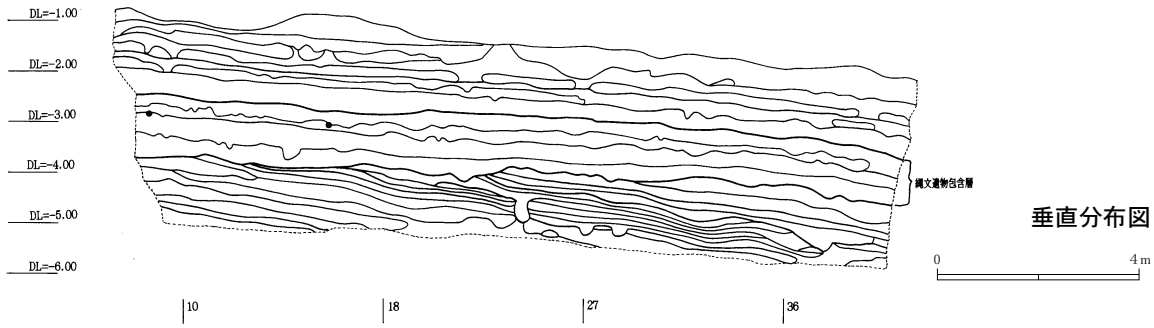


409
個体61

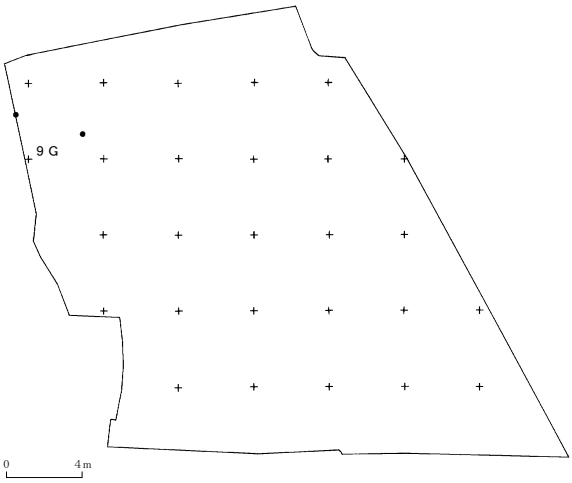
角押文　B K usf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	17023	325×362×-300
2	8	17113	65×117×-301
3	8	17003	66×120×-299
4	8	17065	85×335×-321.5
5	8	09004-1	34×217×-279
6	8	09004-2	34×217×-279
7	8	09004-3	34×217×-279

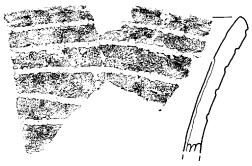
同一個体資料一覧表



垂直分布図



平面分布図



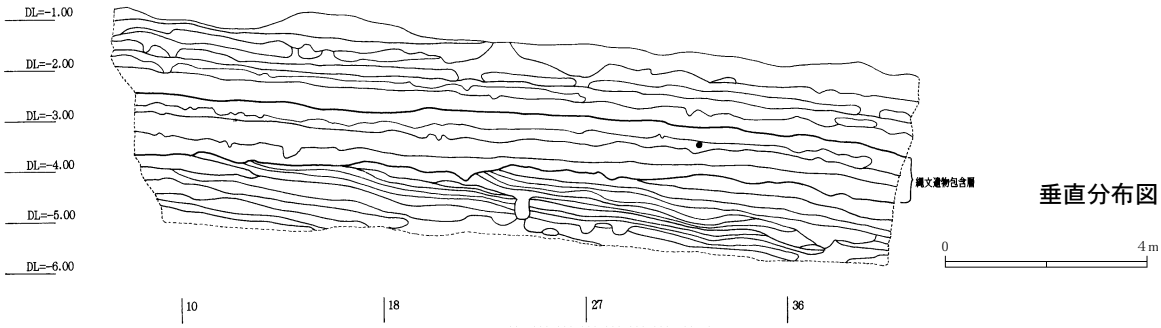
410
個体43

角押文　B K usf

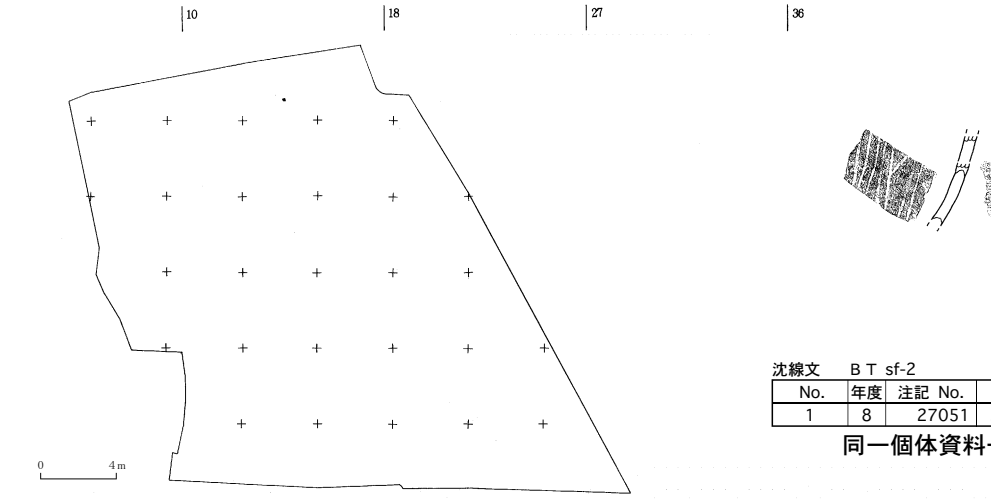
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	9055	298×140×-301
2	9	2006	335×240×-276

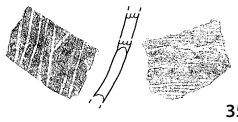
同一個体資料一覧表

第 107 図　上層文化層出土土器分布図　409＜個体 61＞，410＜個体 43＞(垂直 1/150，平面 1/400)



垂直分布図





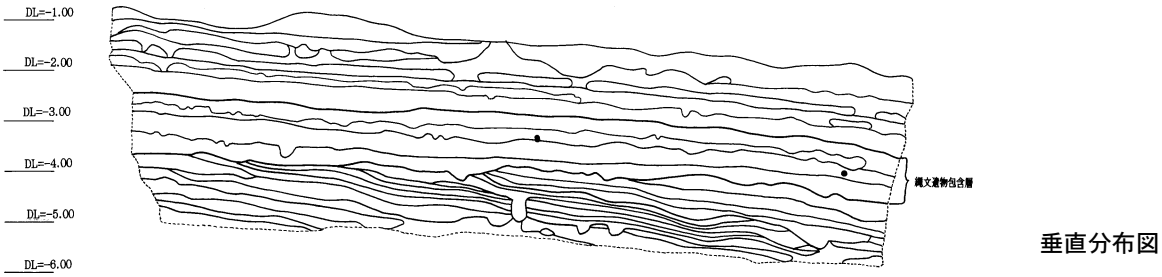
359

沈線文　ＢＴ sf-2

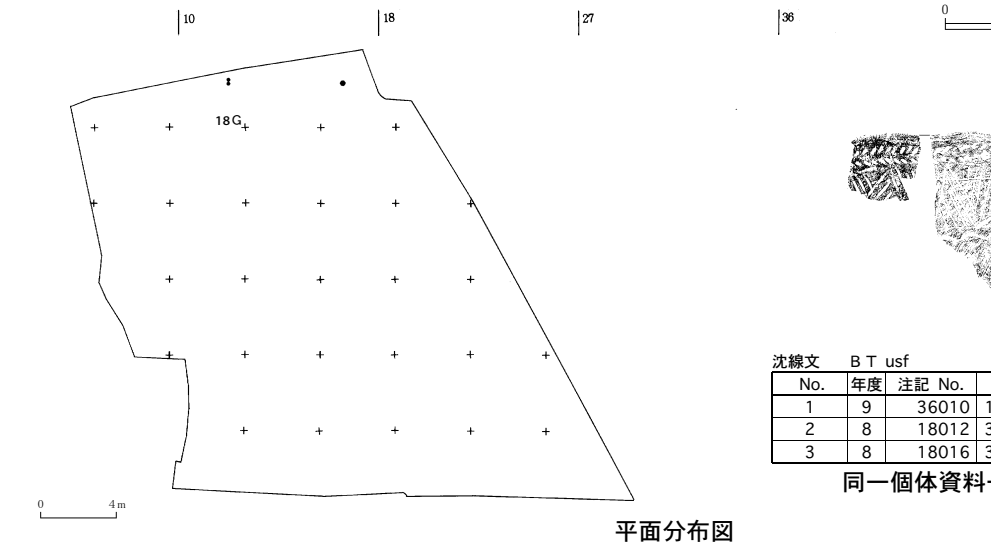
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	27051	225×95×-355

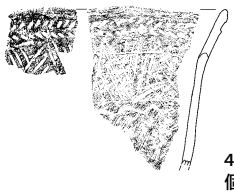
同一個体資料一覧表

平面分布図



垂直分布図





401
個体40

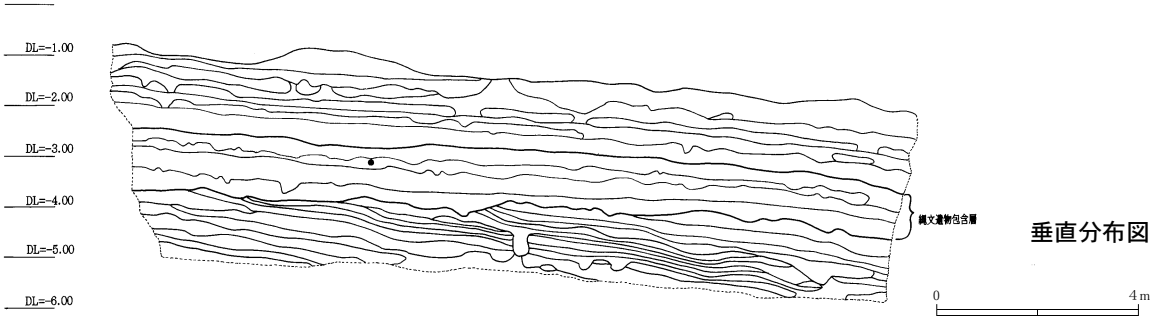
沈線文　ＢＴ usf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	9	36010	120×235×-408
2	8	18012	314×250×-336
3	8	18016	314×230×-339

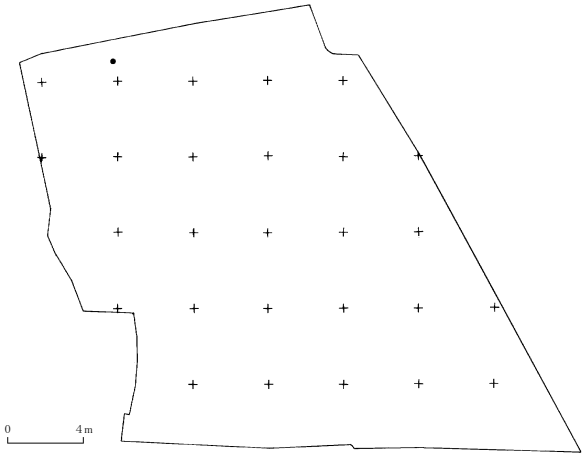
同一個体資料一覧表

平面分布図

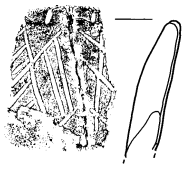
第 108 図　上層文化層出土土器分布図　359，401 ＜個体 40 ＞(垂直 1/150，平面 1/400)



垂直分布図



平面分布図

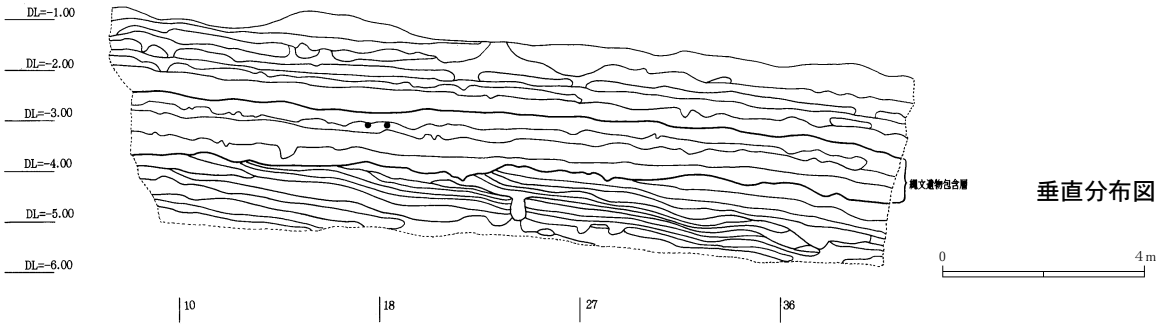


375

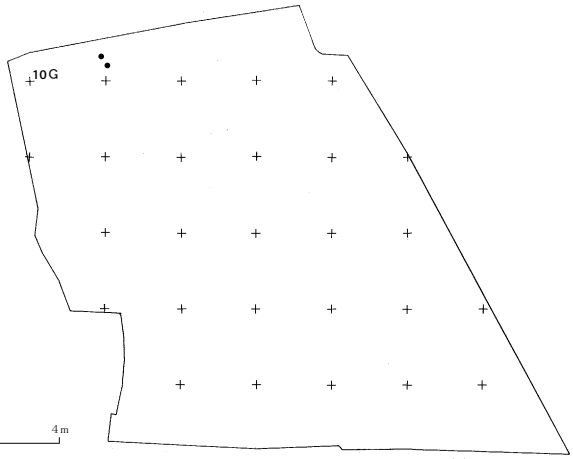
沈線文　ＢＴ sf-5

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	10005	380×105×-313

同一個体資料一覧表



垂直分布図



平面分布図

427

角押文　ＢＴ sf-5

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	10008	375×130×-315

同一個体資料一覧表

432

絡条体　Ｒ　sf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	18032	10×93×-316

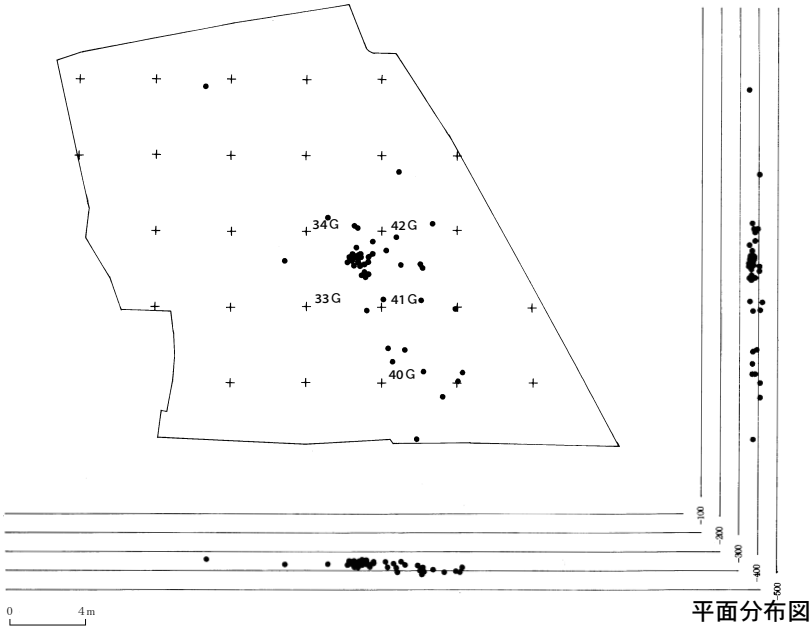
同一個体資料一覧表

第 109 図　上層文化層出土土器分布図　375，427・432(垂直 1/150，平面 1/400)

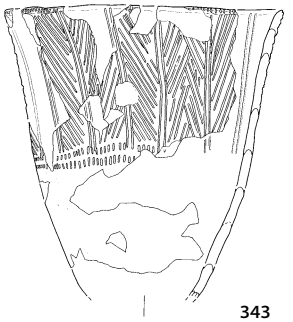
沈線文　ＢＴ usf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ	No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ	No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ	No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	7	33003	265×317×	13	8	41135-1	210× 38×-413	25	8	33083-2	312×169×-361	37	8	34021	104× 67×-369
2	7	40004	220× 60×	14	8	41136	25×300×	26	8	33084	278×219×-362	38	8	34029	257× 23×-379
3	7	41015	100×225×-354	15	8	42039-2	263× 37×-397	27	8	33087-1	310×160×-363	39	8	34030-1	264× 20×-380
4	8	33042	354×346×-351	16	8	48015	25× 60×-384	28	8	33091	311×170×-360	40	8	39026-2	189×106×-376
5	8	33040	311×227×-352	17	8	17030-1	267×362×-345	29	8	33092	240×278×-362	41	8	39031	325×330×-409
6	8	33068	250×219×-352	18	8	24040	285×245×-368	30	8	33095	260×264×-363	42	8	40011	120×175×-371
7	8	33089	331×271×-359	19	8	32067	323×385×-370	31	8	33096	280×279×-364.5	43	8	41068	71×366×-383
8	8	33119-1	241×243×-354	20	8	33072	230×263×-358	32	8	33098	280×276×-365.5	44	8	42041	85×317×-401
9	8	40025	59×112×-364	21	8	33075-1	280×262×-359	33	8	33105-1	273×234×-370	45	8	40002	392×395×-402
10	8	41044-1	17× 44×-357	22	8	33078	310×170×-360	34	8	33110	355×280×-372	46	8	40006	32×181×-385
11	8	41126	213×206×-401	23	8	33082-1	313×165×-361	35	8	33133	219×235×-367	47	8	48001	2× 10×-402
12	8	41129	204×226×-404	24	8	33083-1	312×169×-361	36	8	33155	323×235×-374				

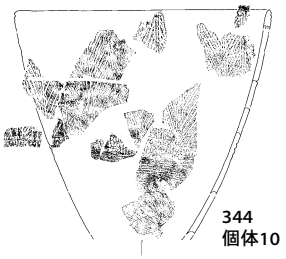
同一個体資料一覧表



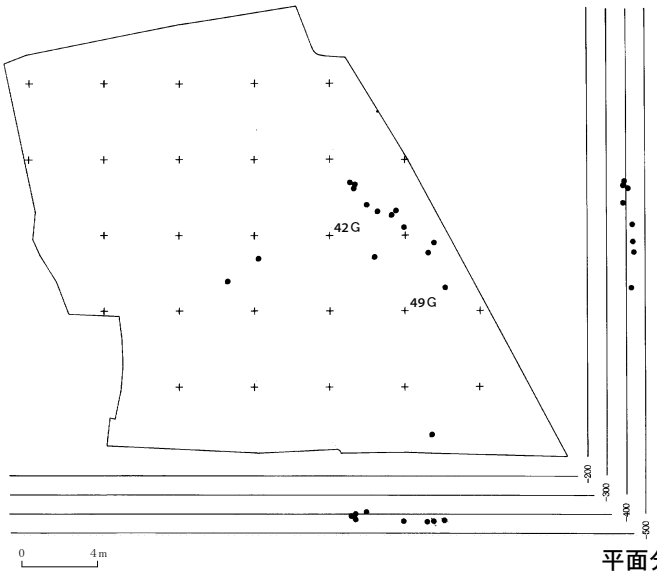
平面分布図



343
個体 9



344
個体10



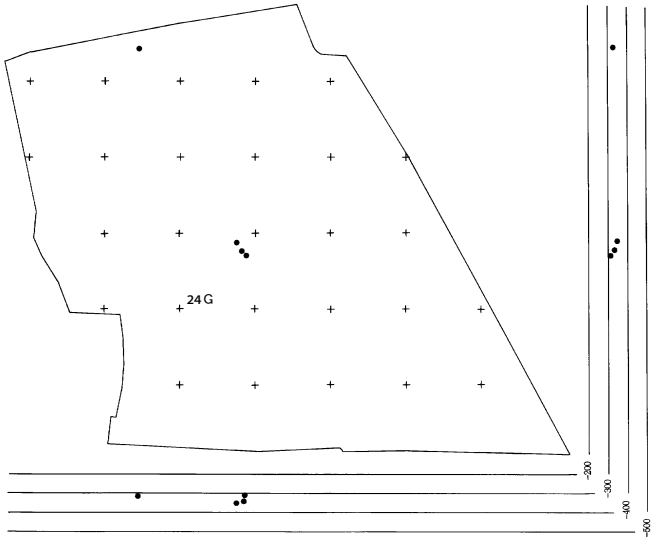
平面分布図

沈線文　ＢＴ sf-1

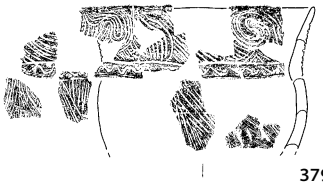
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	42045	253×117×-384
2	8	42002	320×102×-392
3	8	42037	138×270×-395
4	8	47026	141×137×-390.9
5	8	33012	15×270×-339
6	8	41074	233×281×-401
7	8	42016	200×160×-399
8	8	42017	117×280×-399
9	8	42053	137×245×-417
10	8	49027	219×120×-434.5
11	8	49078	162×355×-442
12	8	49080	124×303×-446.5
13	8	50019	2×50×-438
14	9	24018	247×153×-379
15	9	42009-1	352×123×-457
16	9	42009-2	352×123×-457
17	9	43024	266×248×-479

同一個体資料一覧表

第 110 図　上層文化層出土土器分布図　343 ＜個体 9 ＞，344 ＜個体 10 ＞(平面 1/400)



平面分布図

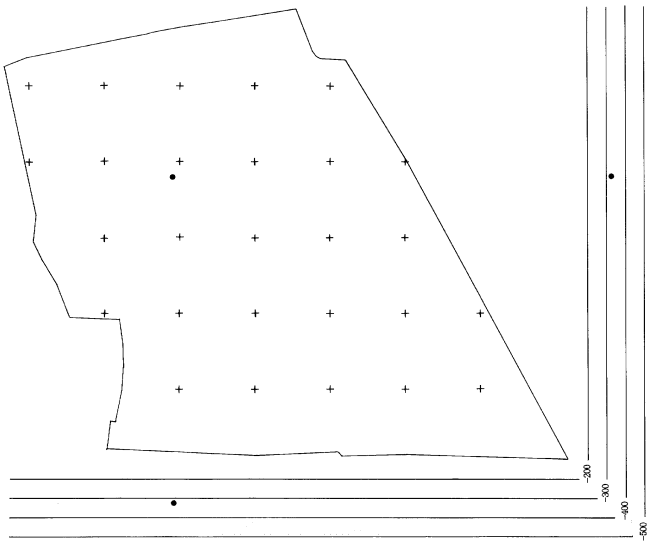


379
個体17

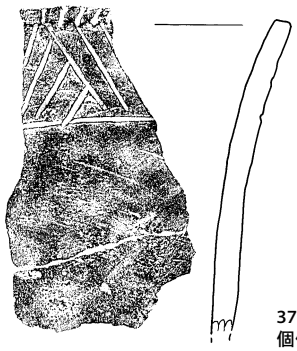
沈線文　B T usf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	24028	350×280×-310
2	8	18059	181×176×-334
3	8	24023	330×305×-343
4	8	24053	306×352×-353

同一個体資料一覧表



平面分布図



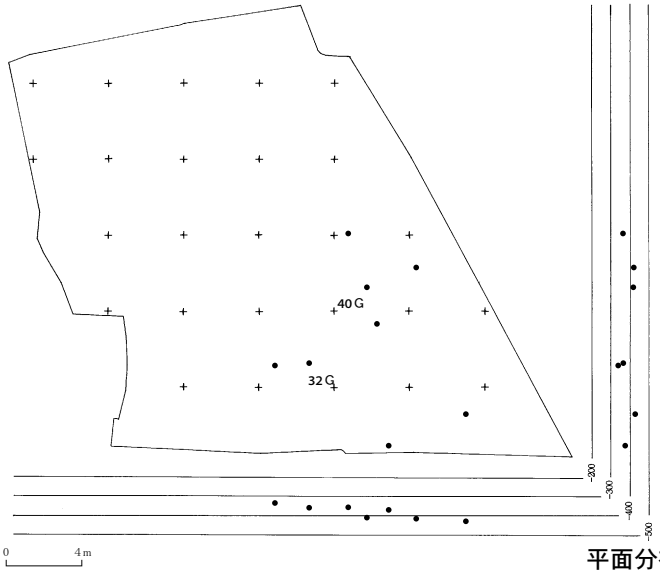
370
個体48

沈線文　B T sf-3

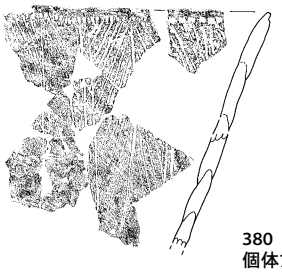
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	16026	355×314×-326

同一個体資料一覧表

第 111 図　上層文化層出土土器分布図　379＜個体 17＞，370＜個体 48＞(平面 1/400)



平面分布図

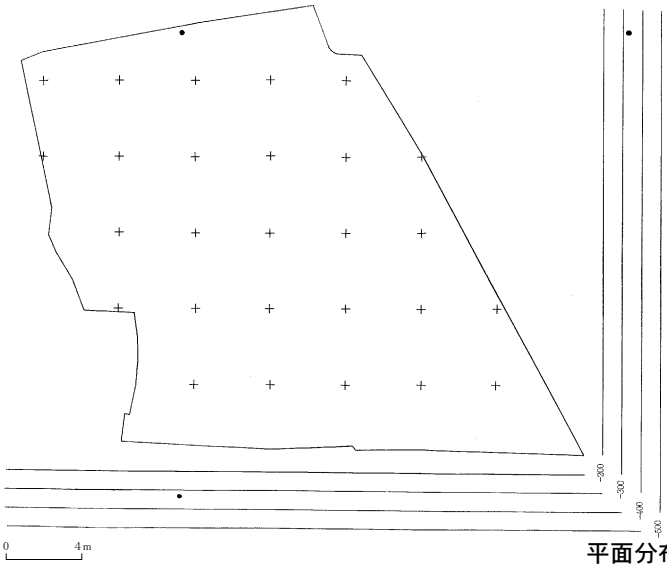


380
個体73

沈線文　ＢＴ usf-2

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	49009	43-228--421
2	8	42032	172-111--392
3	7	4001	25-330--374
4	8	41134	170-135--412
5	8	47061	305-267--425
6	8	39010-3	300-98--375
7	8	32013	110-120--343
8	8	32064	273-120-359

同一個体資料一覧表



平面分布図

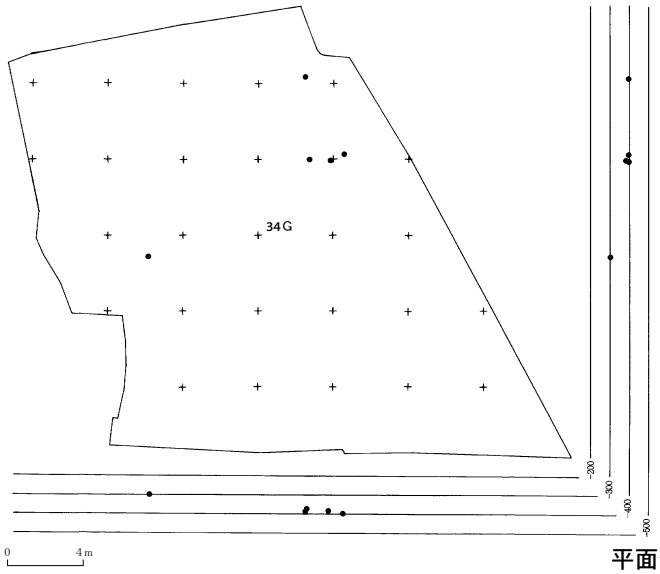
403

沈線文　ＢＴ usf-3

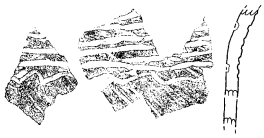
No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	18014	330×250×-357

同一個体資料一覧表

第 112 図　上層文化層出土土器分布図　380，403 (平面 1/400)



平面分布図

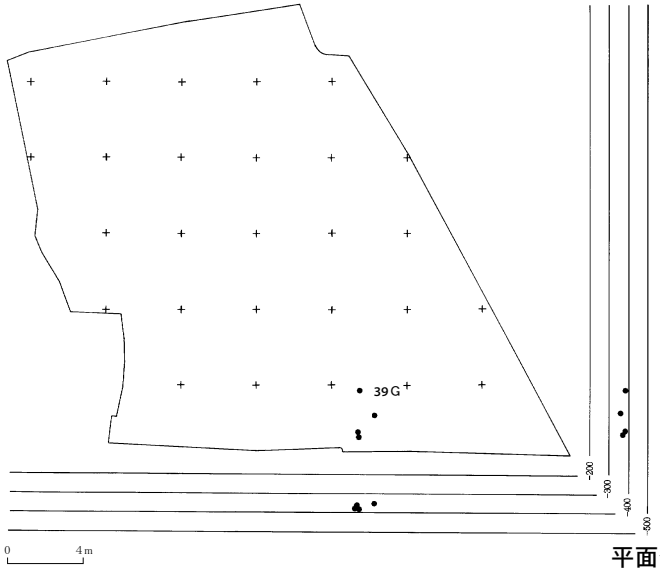


402
個体16

沈線文　ＢＴ usf

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	15023	219×280×-300
2	8	34070	378×389×-383
3	8	34017	276×395×-384
4	8	36026	250× 25×-393
5	8	43003-2	57× 24×-394

同一個体資料一覧表



平面分布図

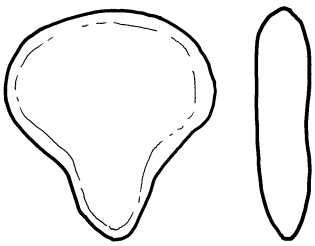
398
個体35

沈線文　ＢＴ usf-2

No.	年度	注記 No.	ﾀﾃ×ﾖｺ×高さ
1	8	39008	238×241×-363
2	8	39019-1	140×130×-374
3	8	39019-2	140×130×-374
4	8	39020	150×370×-381

同一個体資料一覧表

第 113 図　上層文化層出土土器分布図　402＜個体 16＞，398＜個体 35＞(平面 1/400)



8 Ⅱ-17108

8 Ⅲ-16007

0　5cm

第 114 図　土製品・石製装飾品 (1/1)

第５項　笹見原遺跡出土土器　分類別土器実測図（住居跡出土を除く）

（１）資料体の抽出

笹見原遺跡９７年度、９８年度、９９年度発掘で検出された縄文時代土器資料の中から、本報告書に掲載する資料抽出を行った。抽出条件は以下の通りである。

・1号住居跡、2号住居跡の住居跡内覆土から出土した土器資料は、全て図化対象とした。ただし図化が不可能な微細片は、図化対象から除外した。

・土器の口縁部にあたる資料は全て図化対象とした。ただし図化不可能な微細片、注記のない資料は、図化対象から除外した。

・縄文土器、撚糸文土器、押型文土器に関して、部位が確定出来ない資料、かつ表面状態が良好でない資料は図化対象から除外した。ただし状態は同様だが、出土点数が少ない資料、製作技法が認識する事ができる資料は図化対象とした。

・無文土器または土器無文部破片に関して、部位が確定できない破片資料、胴部のみの外形復元不可能な破片資料は図化対象から除外した。ただしある程度接合する資料、製作技法が認識できる資料は図化対象とした。

・沈線-刺突文土器に関して、棒状工具での器面施文が確認できるものは、全て図化対象とした。

・沈線-刺突文土器無文部資料に関して、沈線文であれば文様帯にあたる部位が欠損し、無文土器との判別が不可能な資料に関しては、無文の分類に組み入れた。ただし沈線文である明らかな共通属性を有する資料に関しては、沈線-刺突文の分類に組み入れた。

・絡条体圧痕文土器に関して、検出された資料7点を全て図化対象とした。いずれも口縁部を残存する個体である。

以上の方法により、図化資料４３６点を抽出した。

（２）　分類の方法

笹見原遺跡出土縄文時代土器を分類するにあたり、以下の方法で分類を行った。

１）　アルファベット大文字記号

始めに、その土器ごとに使用される施文工具の種類と施文法によって7分類し、それらの頭文字をアルファベット大文字で表記した。分類項目は、縄文「Ｊ」、撚糸文「Ｙ」、押型文「O」、無文「M」、棒状工具描出文「Ｂ」、条痕文「JK」、絡条体圧痕文「Ｒ」である。なお細隆起線文を有する資料が沈線文土器に3点（確実に有するものは2点）、絡条体圧痕文土器が2点検出されたが、いずれも文様の中心となる要素とは異なるため、その中心となる文様要素の分類に組み入れた。

また、以下の分類項目に関しては、同類内の施文工具、施文法において異なる要素をもつ物として、さらに数種類に分類をした。

＊押型文「O」について、施文工具の種類別に、山形文「OY」、楕円文「OD」、直列楕円文「OTD」、格子目文「OK」、斜葉山形文「OHY」、斜葉楕円文「OHD」
の6種に分け表記した。

＊撚糸文「Y」について、単軸絡条体1類にあたる物を「Y」、単軸絡条体5類（格子目絡条体）にあたる物を「YK」と表記した。

＊棒状工具描出文「B」について、文様帯描出の中心技法となるものにおいて、同工具により沈線を描出する手法を持つ物を「BT」、同工具により角押・刺突描出する物を「BK」と表記した。

＊縄文「J」において、明らかに棒状工具沈線描出を併用する資料が1点だけ確認された。これを「JBT」と表記した。

2）アルファベット小文字記号

次に、土器の胎土中に含まれる特徴的な物質あるいは特徴的様相を持つ物として、4点の要素を選択し、それぞれの頭文字をアルファベット小文字で表記した。

4つの要素の項目は、雲母「u」、パミス状様相「p」、砂粒「s」、繊維（fiber）「f」である。確認方法は肉眼観察によって行った。胎土要素の概要を以下に記す。

＊雲母（u）　肉眼によって観察可能な金色雲母を指す。

＊パミス状（p）　正確な含有物は不明だが、土内発泡、軽量などの、いわゆる軽しょうな胎土の様相を有する胎土を指す。

＊砂粒（s）　粗い非光沢粒子から石英、長石、角閃石等の光沢粒子までを含む。

＊繊維（f）　土器の胎土中に含まれる繊維状物質を指す。表面状に繊維状物質が付着したのみと推定される資料は除外した。その際には属性表備考欄に記載する。

また、それらの含有量または含有度に著しい特徴がある場合、それぞれの量情報として、記号の後に「+」、「-」を表記した。

以上の4つの胎土要素記号を組み合わせることにより、資料の胎土特徴を表記した。

例）雲母、砂粒、繊維を含む胎土→usf

　　パミス状で、砂粒を僅かに含む胎土→p(s-)

注）雲母を大量に混入する胎土特徴を持つ1群が存在するが、厳密には微少の砂粒を含有する。しかしながら雲母と比べると含有量に大差あり、元の素地土に微少に含まれている物なのか、意図的混入か判別が困難であることから、「s-u+」の「s -」を省略して、この胎土群の記号は「u+」のみとした。

3）整数記号

次に、上記の方法によって施文法+胎土特徴の点からある程度分類されたものを、さらに同一原体を同手法で施文するもの、同一文様デザインが施文されるもの、同一表面調整のもの、同一器形特徴をもつもの（器形特徴が判断可能な資料に限る）など、各種属性が共通する資料をまとめ、整数による通番をつけ、細分類を行った。

なお、同手法同胎土特徴土器群のなかで、細分属性で同一の資料がなく、残存も良好でない資料を複数集めて1群としているものもあるが、その際には別途表記する。

（3）　属性表に記載される属性項目の説明

・1列　「遺物番号」

該当資料の土器図版通番を示す。

・2列　「年度」

遺物出土年度を表す。「8」は98年度出土、「9」は99年度出土。諸条件により一概にはいえないものの、大枠8年度がより上層、9年度がより下層の傾向を示す。

・3列　「出土G」

遺物出土グリッドを表す。複数G接合資料は、過半数が同一G内出土の場合「x集中」、前記よりやや分布が広がる場合「x中心」、複数Gに散漫に広がる場合は、中心的破片出土Gをとり、「x他」とする。接合土器分布状況については、別途分布図を掲載する。

・4列　「文様」

「分類の方法」参照

・5列　「胎土特徴」

「分類の方法」参照

・6列　「内面調整」

資料の内面調整状態を示す。特徴的な工具痕を残す場合にはそれも表記する。

・7列-1　「原体の種類」（J、Y、Oに適用）

資料の表面施文原体の種類を示す。縄文は縄文原体記号、撚糸文は巻付縄記号+
絡条体類、押型文は押型文原体種類を表記する。

・7列-2　「外面調整」（Mに適用）

無文土器、無文破片の外面調整の状態を示す。内容は内面調整に準ず。

・7列-3　「主な施文」（B、JK、Rに適用）

主なる施文文様形態、施文要素を表記する。

・8列　「施文方向」

施文原体が動かされる方向、または調整方向を示す。

・9列-1　「施文の状況」（J、Y、Oに適用）

施文において、特筆すべき事項等がある場合に表記する。

・9列-2　「施文の部位」（B、JK、Rに適用）

該当する施文が施される部位を指す。

・10列-1　「条幅/施文幅」（Jに適用）

器面に残る縄文の条幅と、1回で施文される施文幅を示す。

・10列-2　「条幅/間隔/原体幅」（Yに適用）

器面に残る絡条体巻付縄の条幅/巻付縄間の間隔/1回で施文される絡条体施文幅を示す。

・10列-3　「原体の軸円周/原体長/凸縦横幅/割付」（Oに適用）

器面に残る施文痕をもとに、押型文原体の軸円周と原体の長さ、施文凸部（原体ネガ部）の1単位の縦横幅/施文凸部が原体径に対し何単位で割り付けられているか、を表記する。

・10列-4　「資料に関する特徴」（Mに適用）

該当資料に関する各種特徴を表記する。

・１０列 - 5　「施文幅 / 原体形状・施文手法」（Ｂ、JK に適用）

器面に残る施文痕をもとに、1条の施文幅と工具形状、その施文手法を表記する。

・１０列 - 6　「条幅 / 巻付方向 / 巻付間隔 / 原体幅」（Ｒに適用）

器面に残る施文痕をもとに、絡条体巻付縄の条幅 / 巻付の方向 / 巻付幅の間隔 / 施文原体の長さ、を表記する。

・１１列 - 1　「口唇の形状」（Ｊ、Ｙ、O、Ｍに適用）

口唇部の残存する資料に関して、その形状を表記する。

・１１列 - 2　　「口縁唇の施文」（Ｂ、JK、Ｒに適用）

口縁部、口唇部の残存する資料に関して、その手法を表記する。

・１２列　「残存器高」

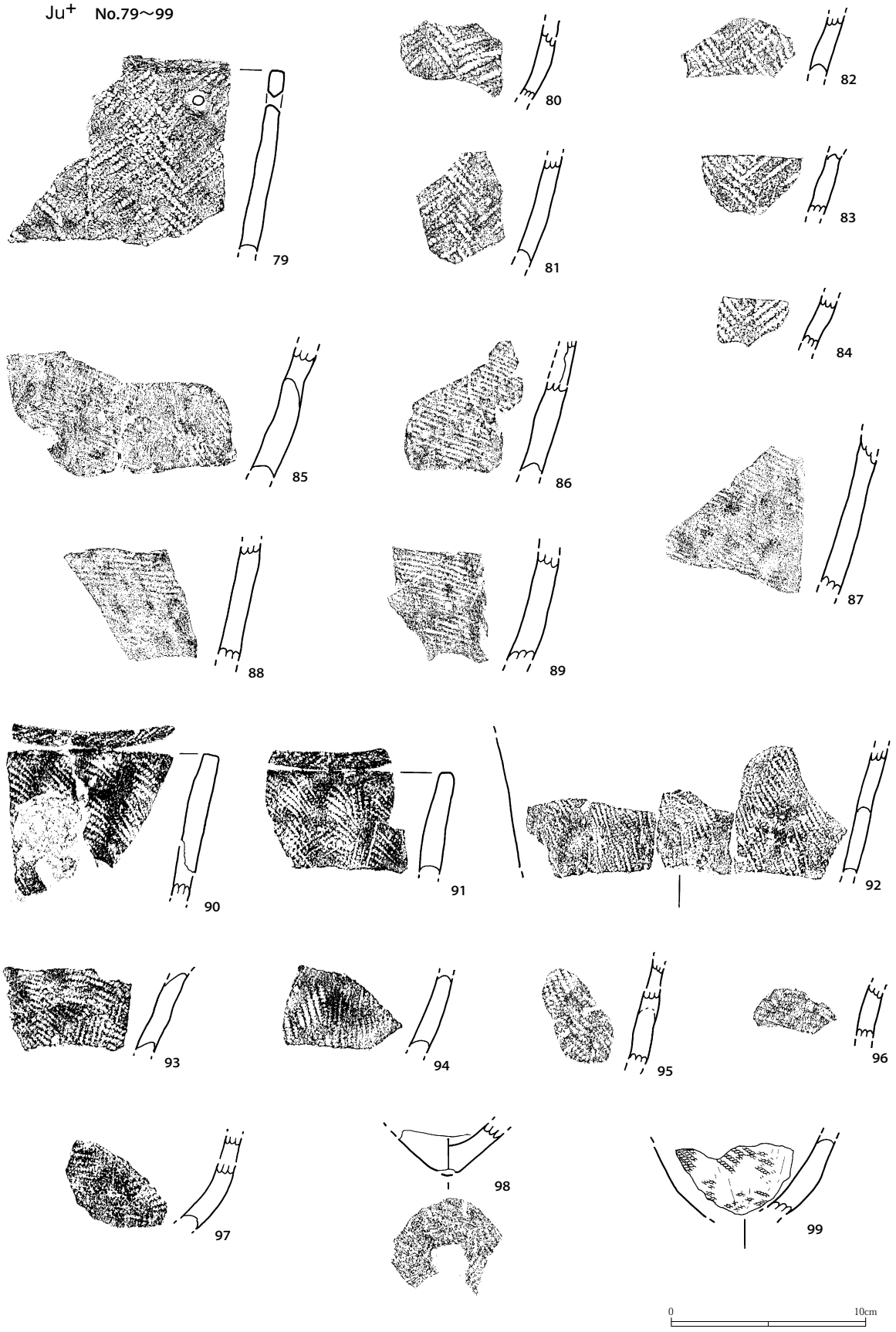
外形復元可能な資料に関して、その残存器高数値と残存範囲を表記する。数値単位は mm とする。

・１３列　「口径」

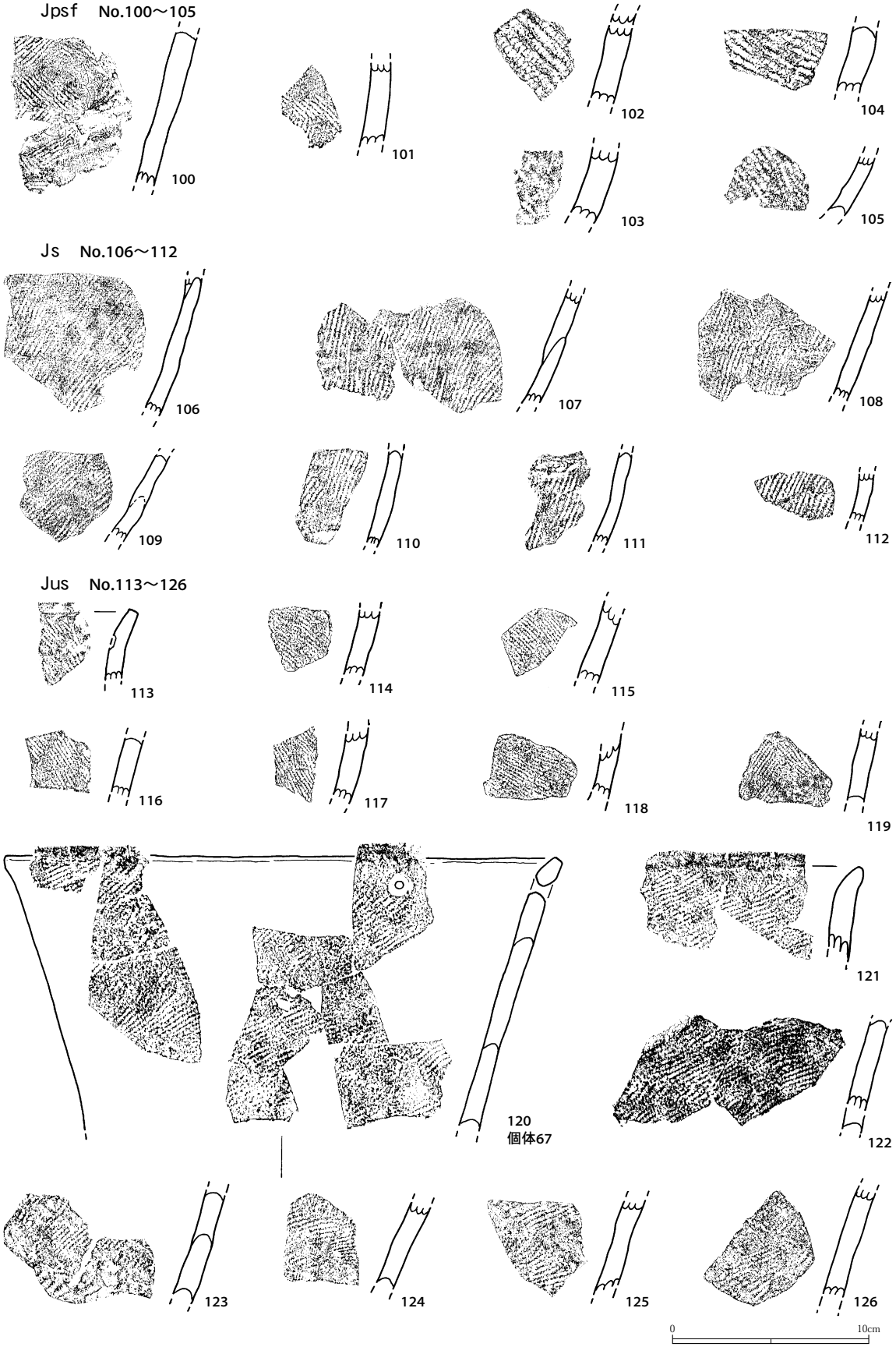
口径が算出できる資料に関して、その口縁部直径を表記する。数値単位は mm とする。

・１４列　「備考」

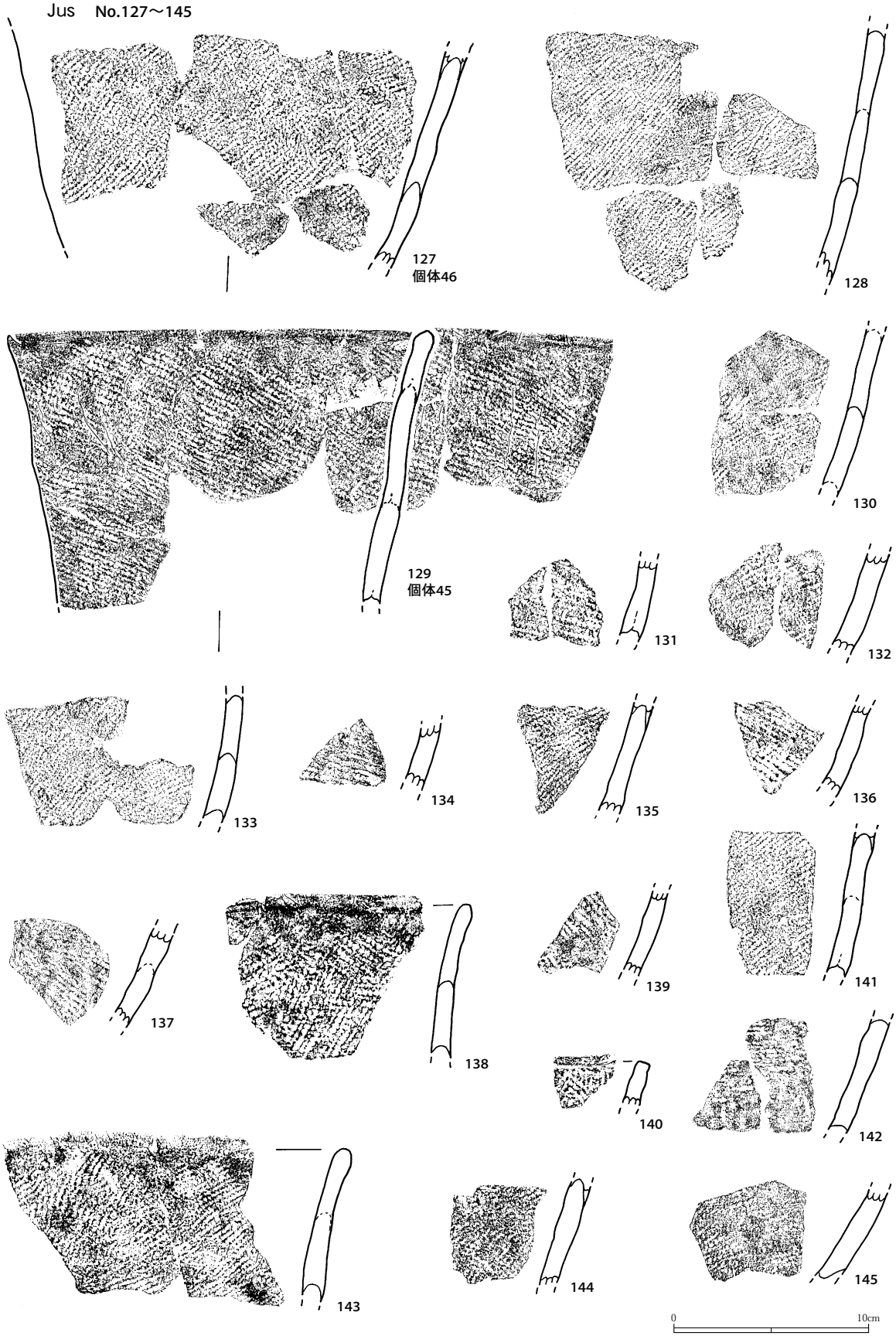
前記した項目以外で、特記すべき事項を表記する。



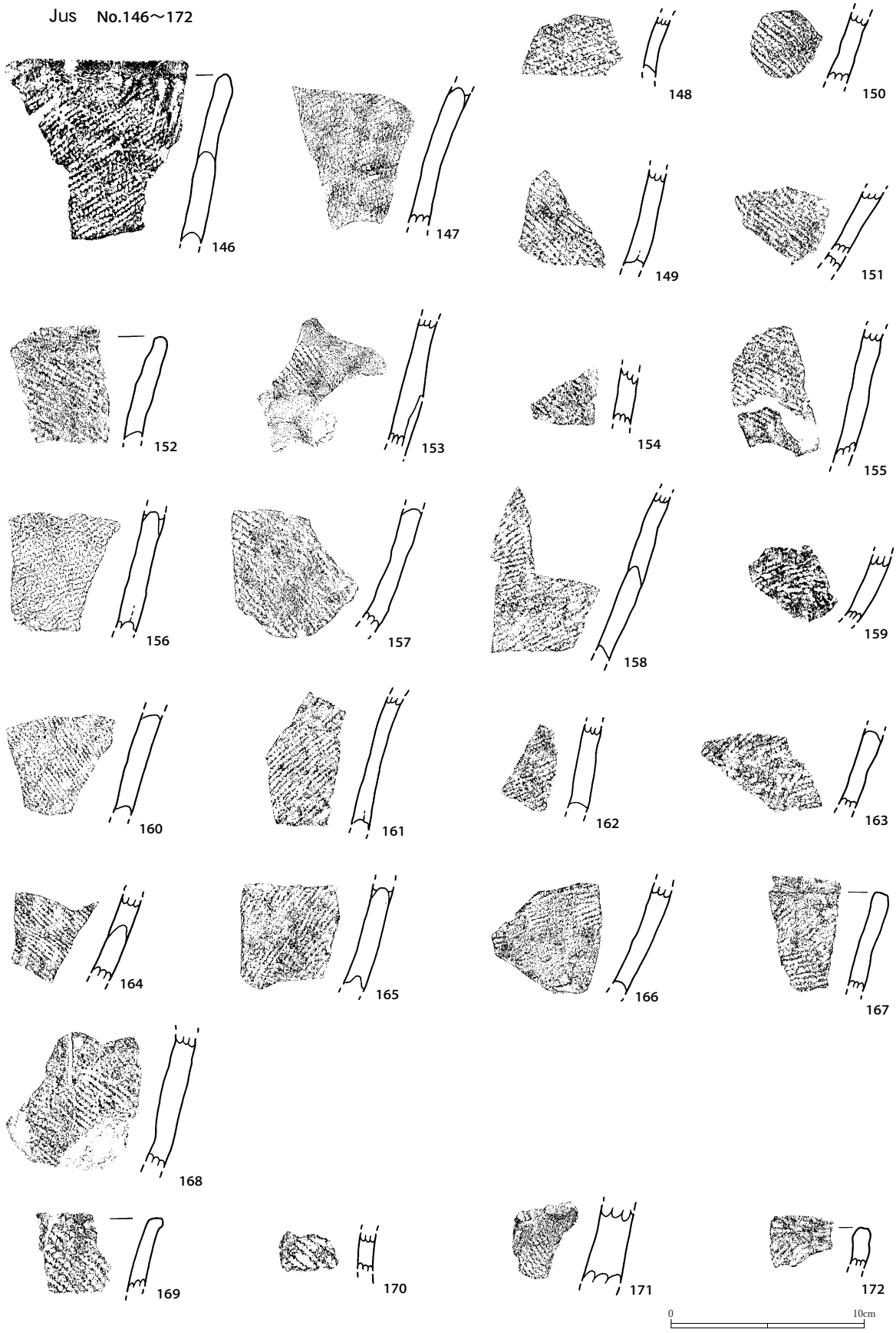
第 115 図　分類別土器実測図（１）(1/3)



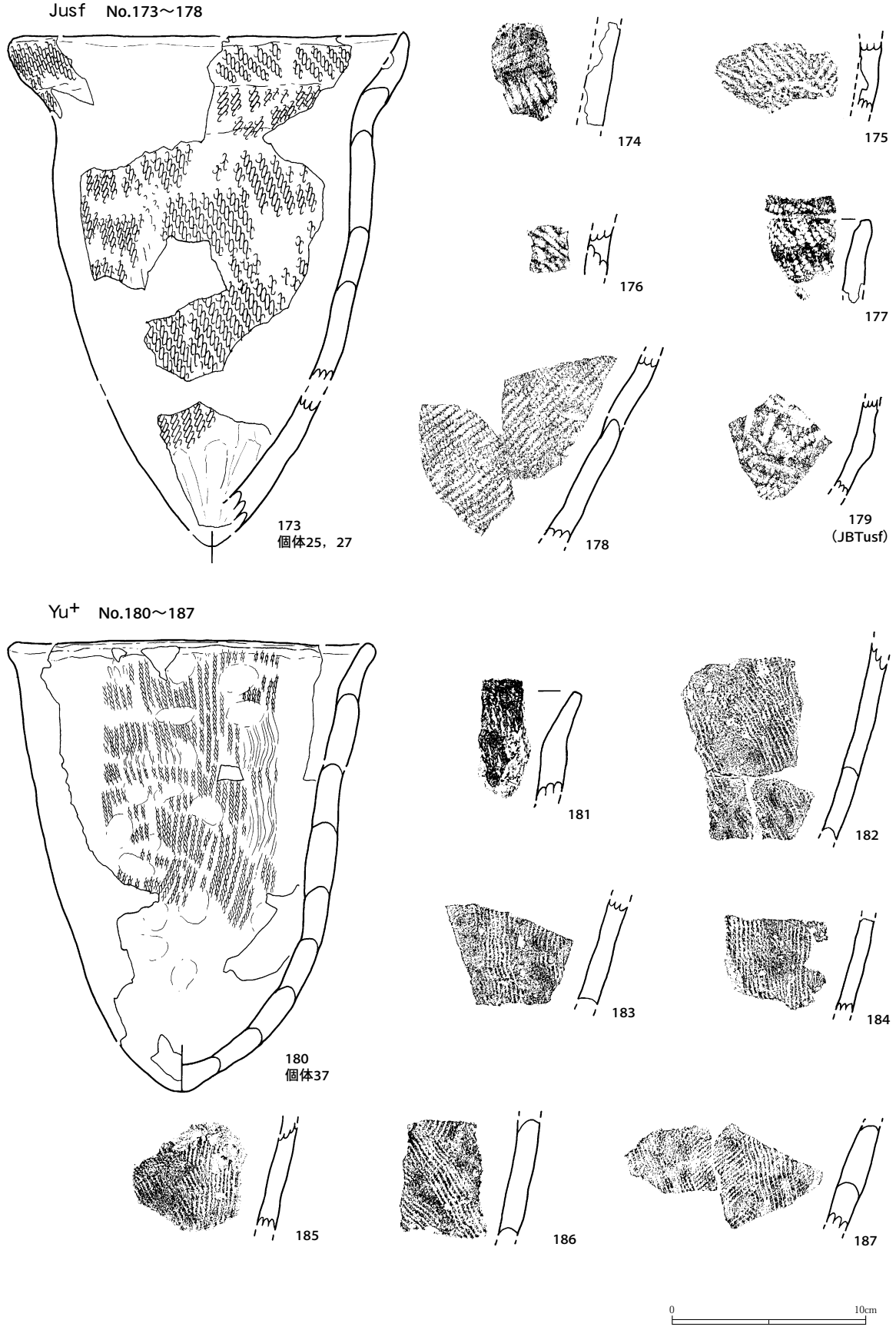
第116図　分類別土器実測図（２）(1/3)



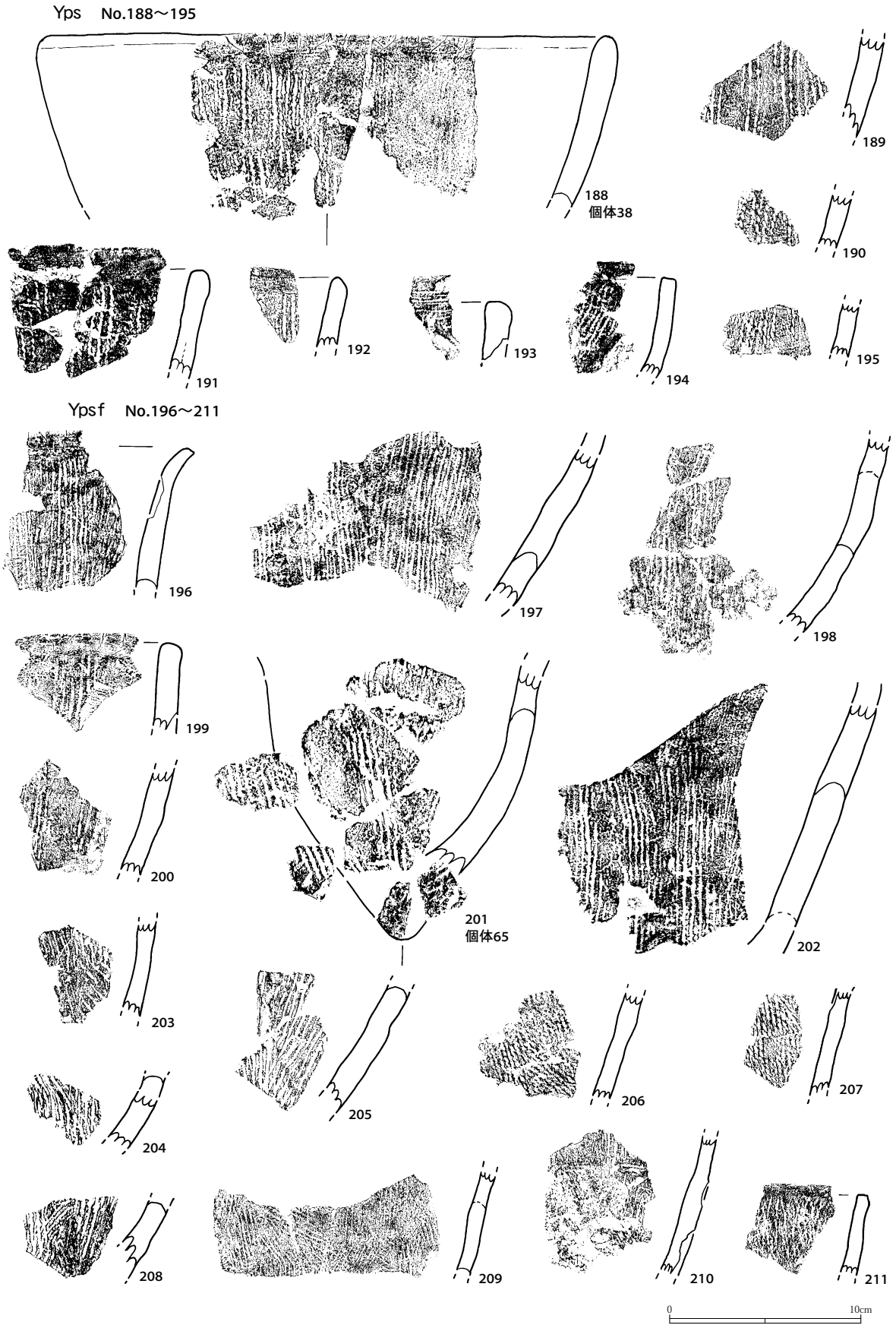
第 117 図　分類別土器実測図（３）(1/3)



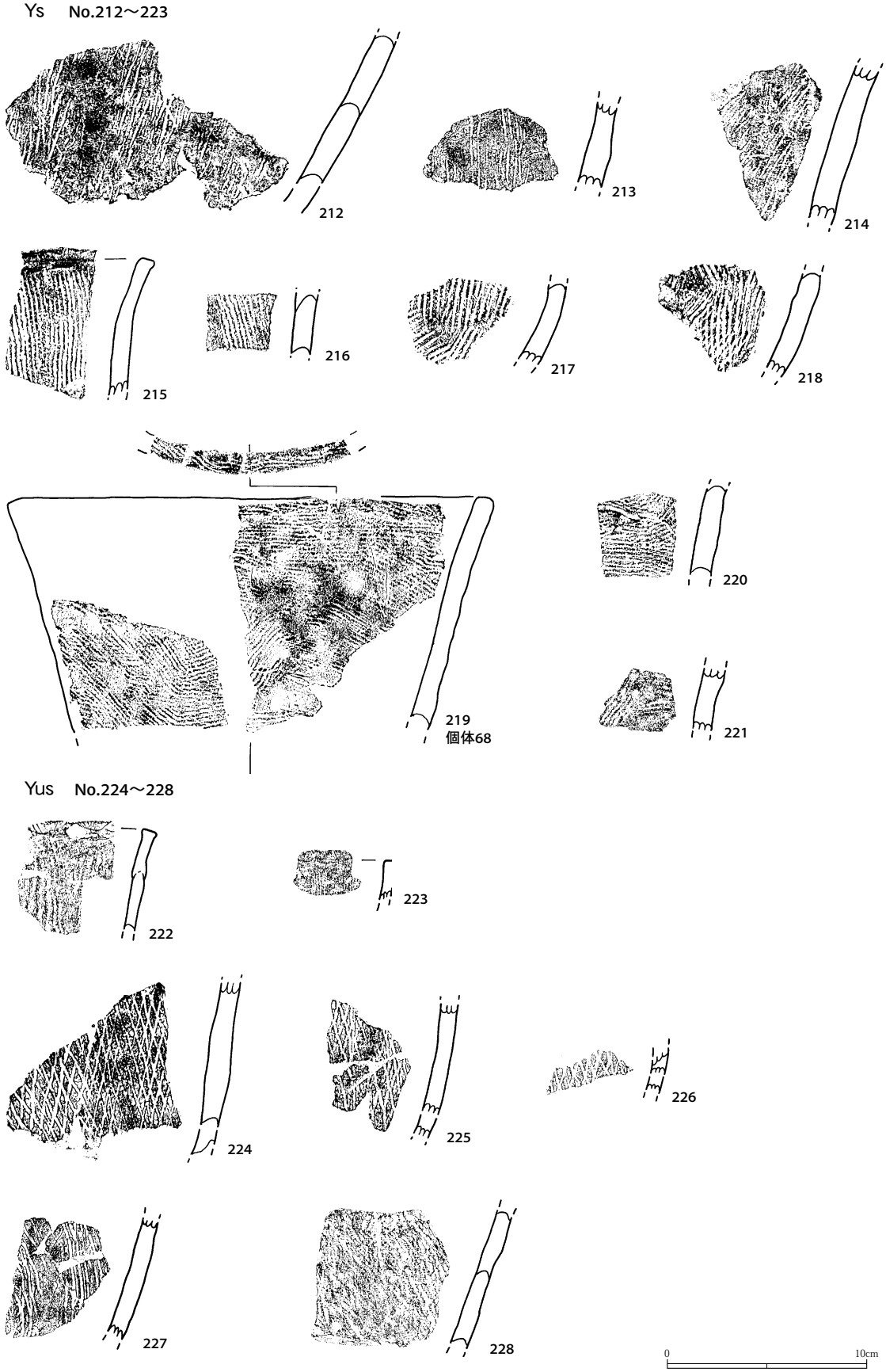
第 118 図　分類別土器実測図（４）(1/3)



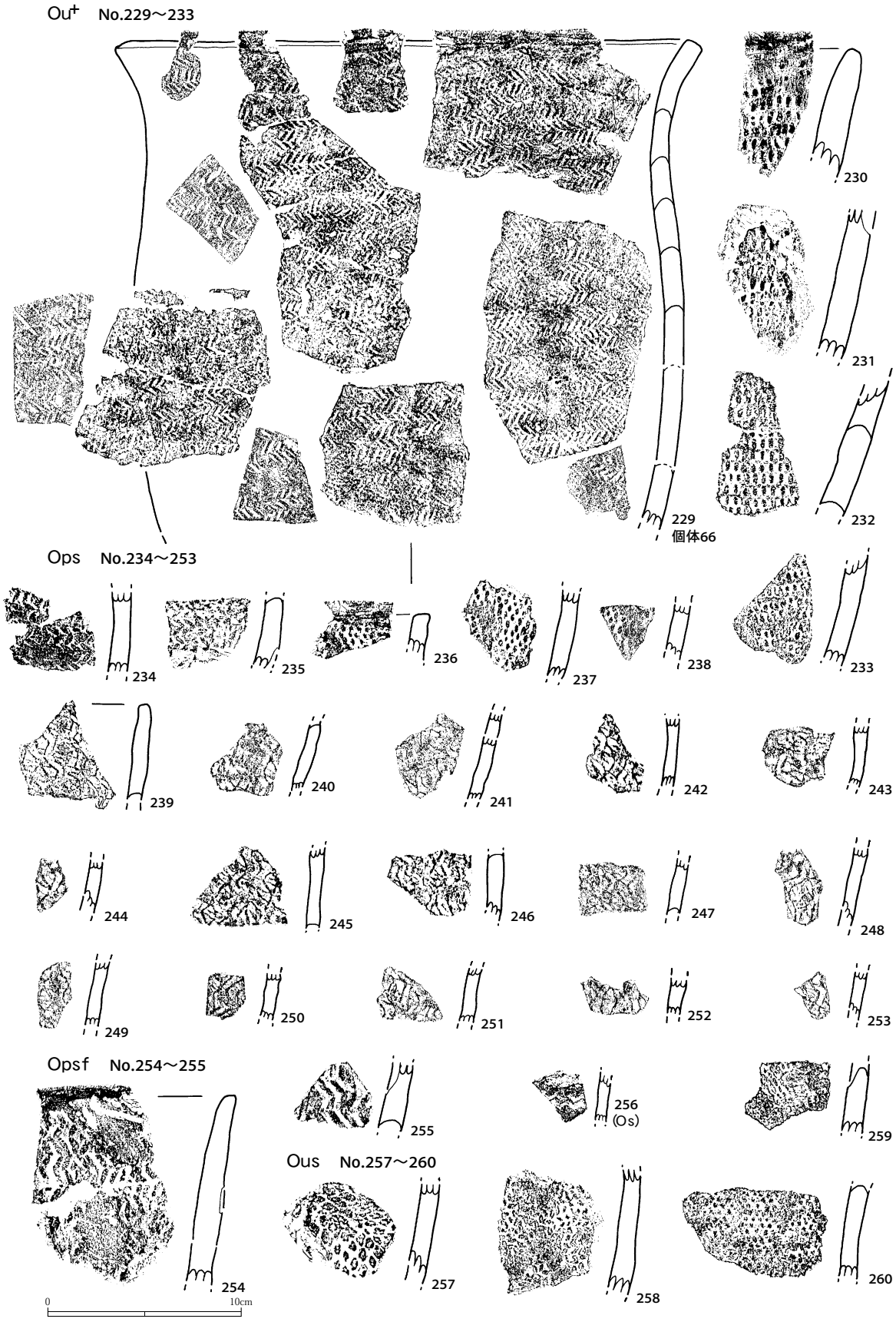
第 119 図　分類別土器実測図（５）(1/3)



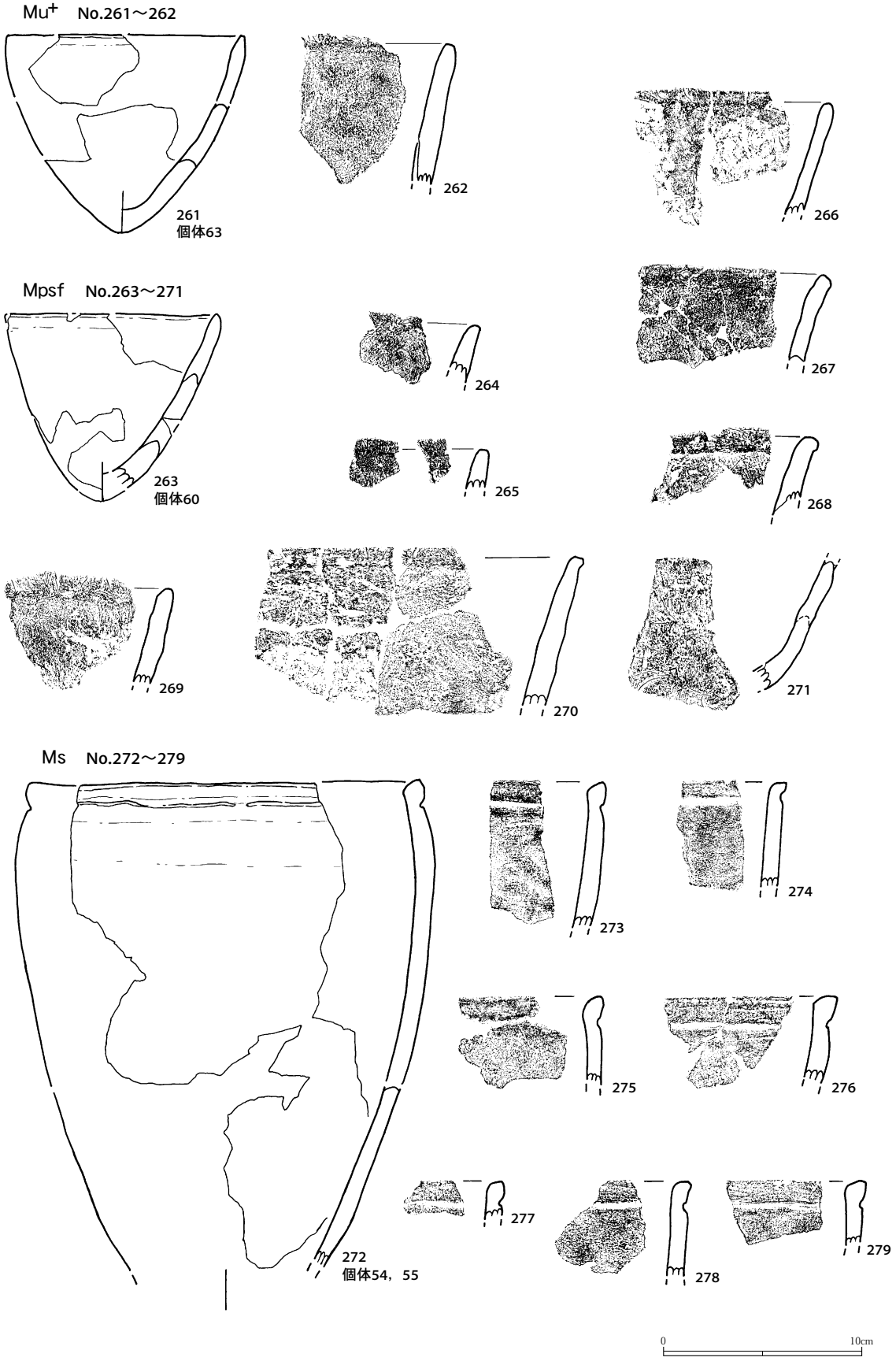
第 120 図　分類別土器実測図（６）(1/3)



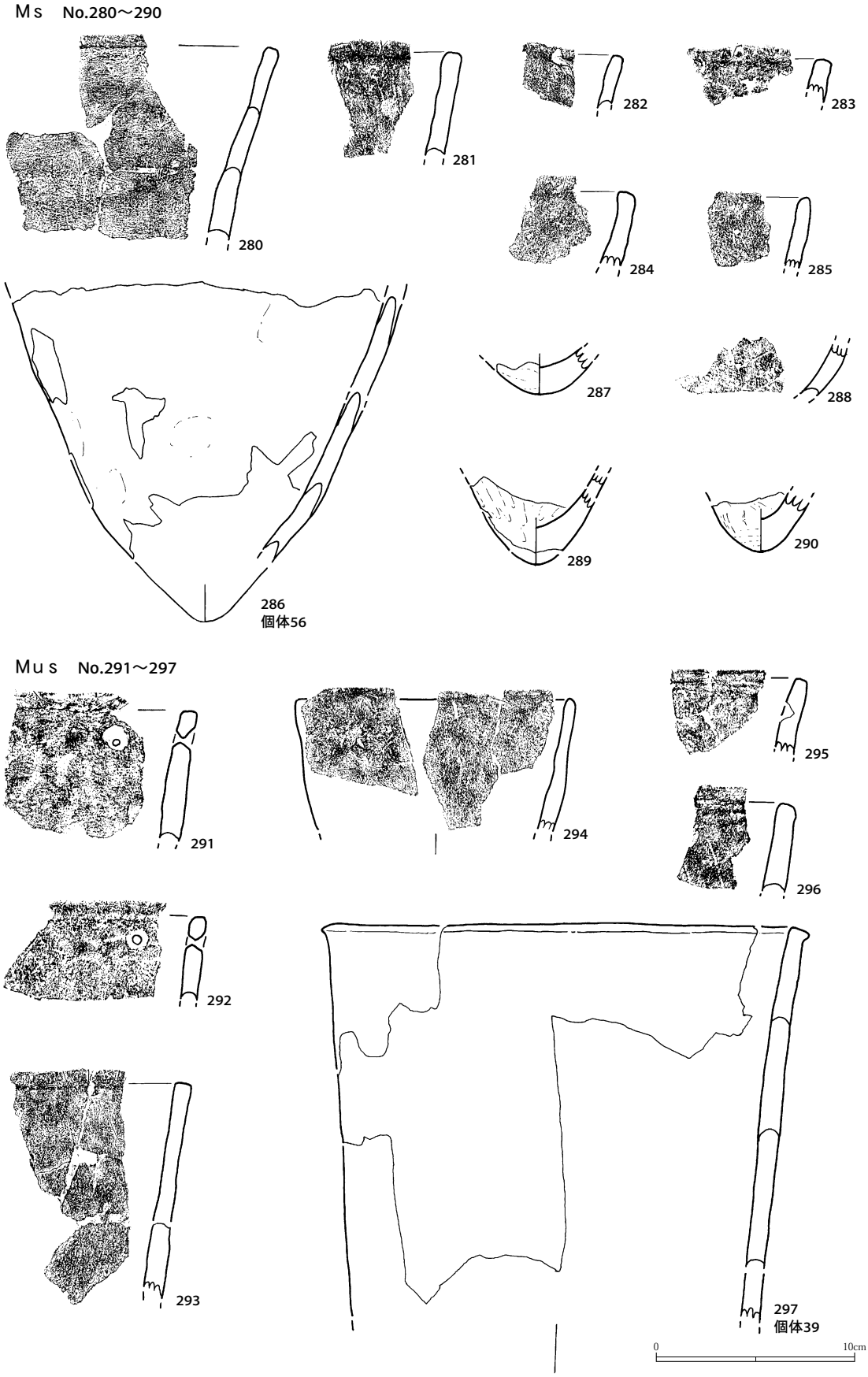
第 121 図　分類別土器実測図（７）(1/3)



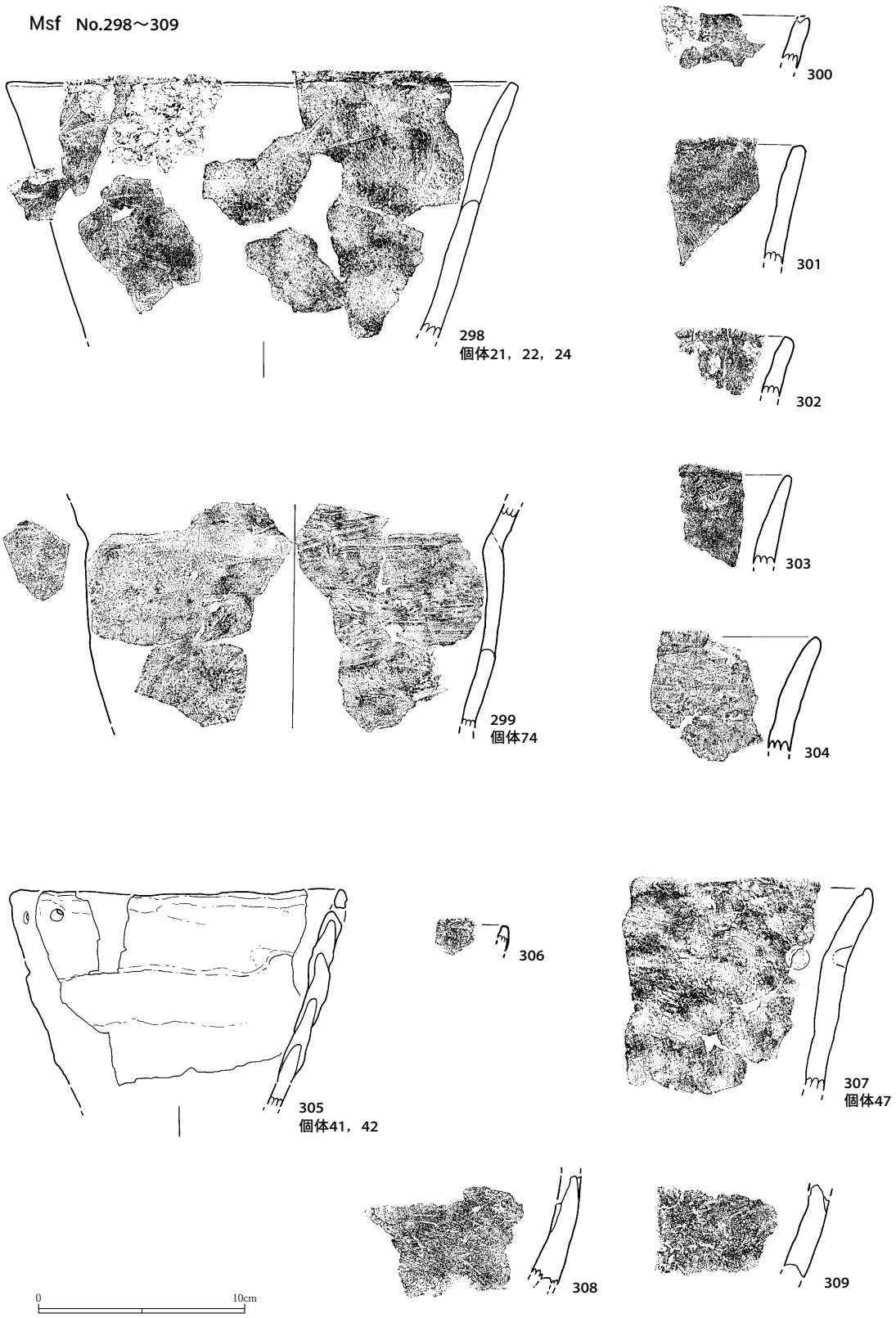
第 122 図　分類別土器実測図（８）(1/3)



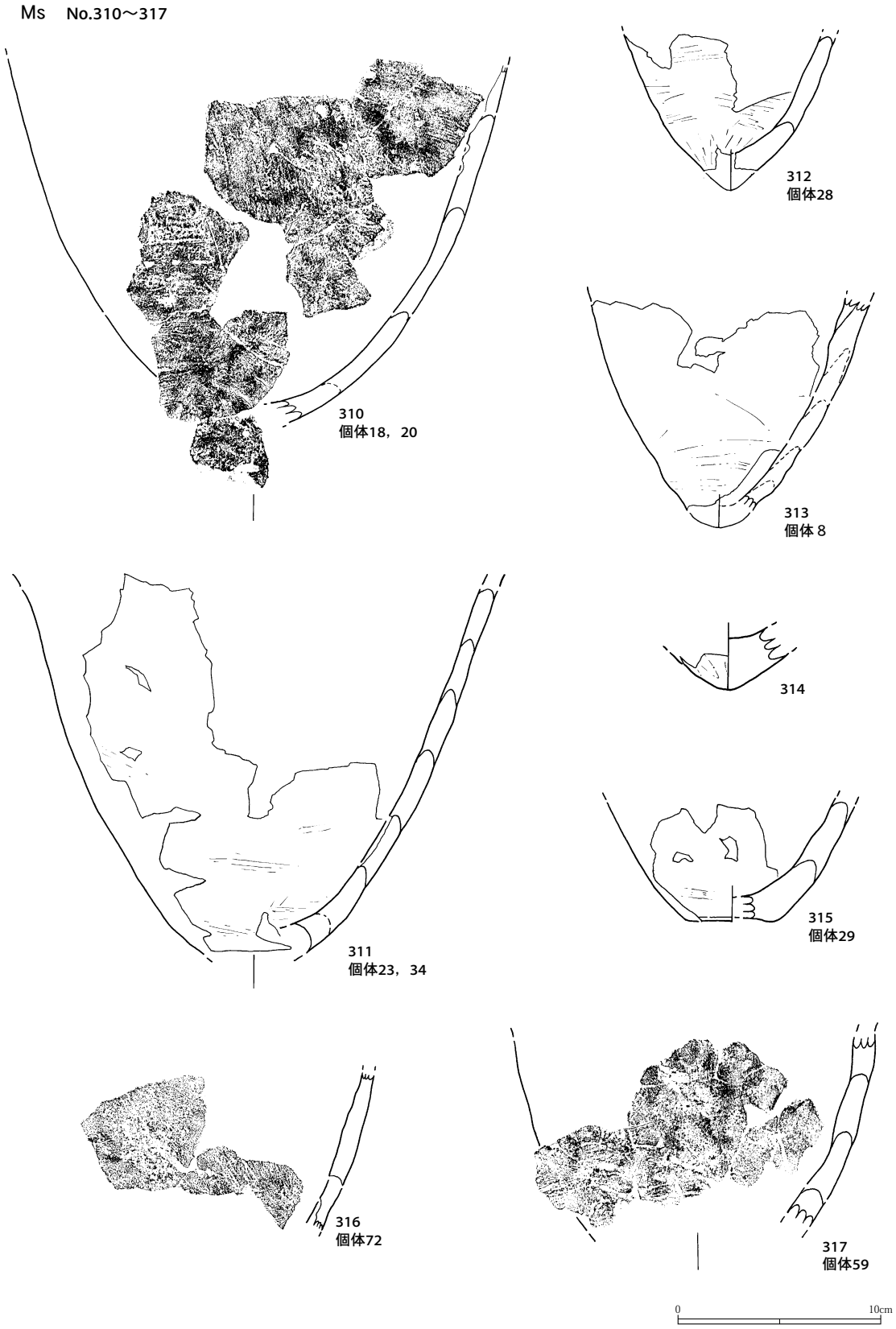
第 123 図　分類別土器実測図（９）(1/3)



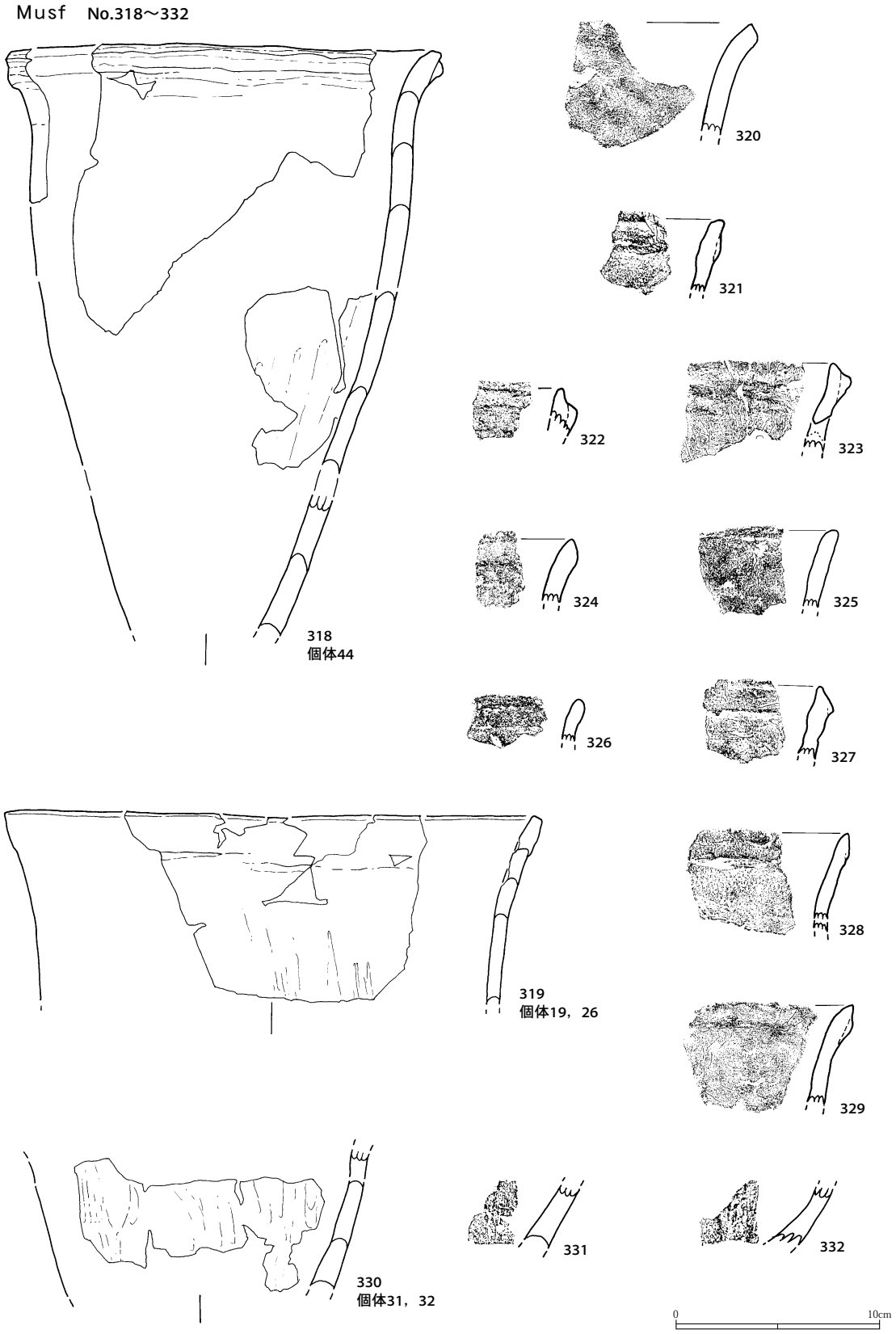
第 124 図　分類別土器実測図（10）(1/3)



第 125 図　分類別土器実測図（11）(1/3)

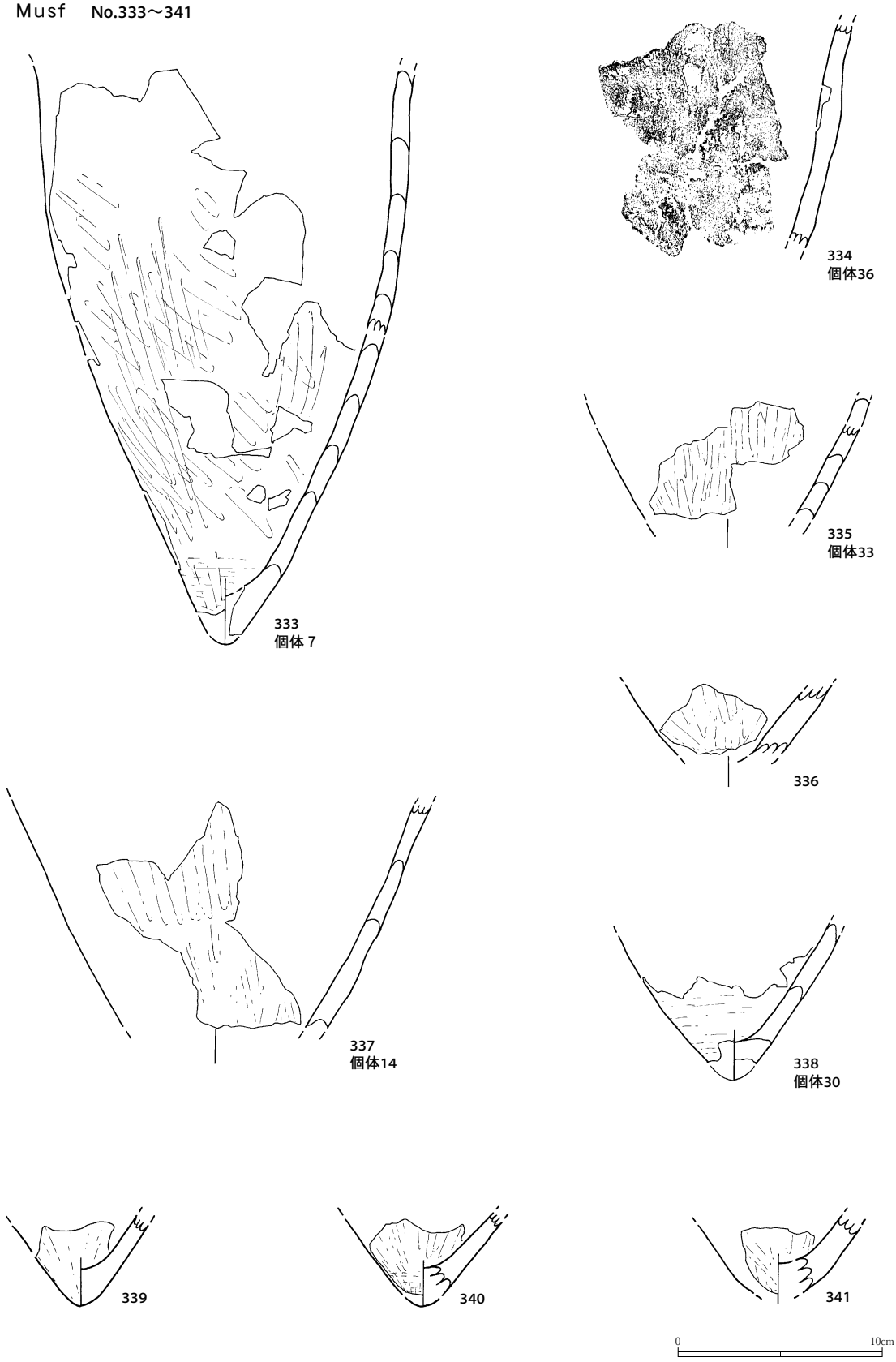


第 126 図　分類別土器実測図（12）(1/3)



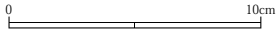
第 127 図　分類別土器実測図（13）(1/3)

Musf　No.333～341

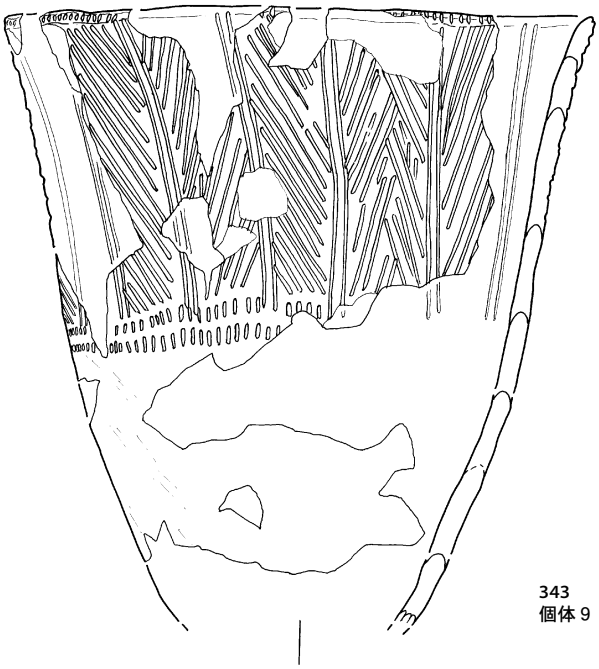


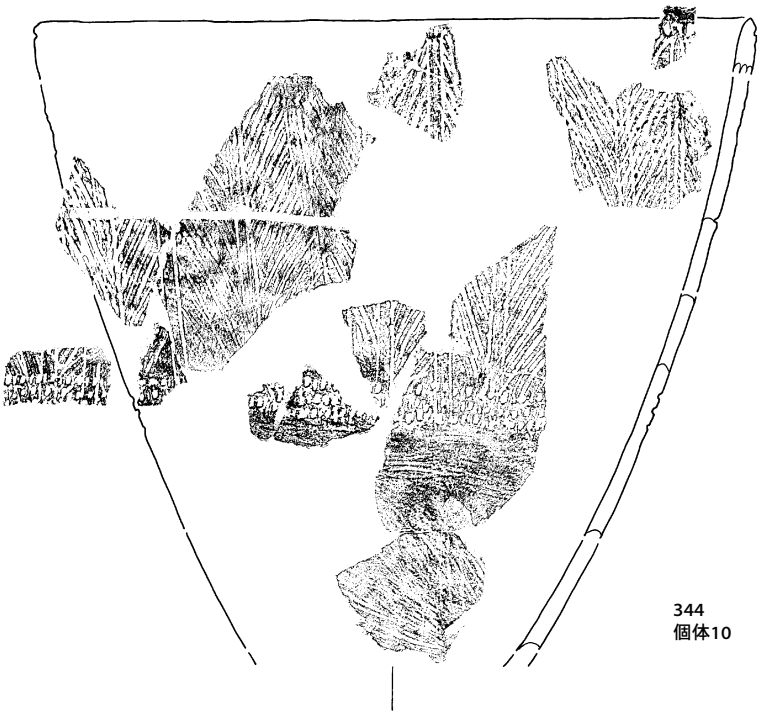
第 128 図　分類別土器実測図（14）(1/3)

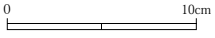
BTs　No.342



BTsf　No.343～344

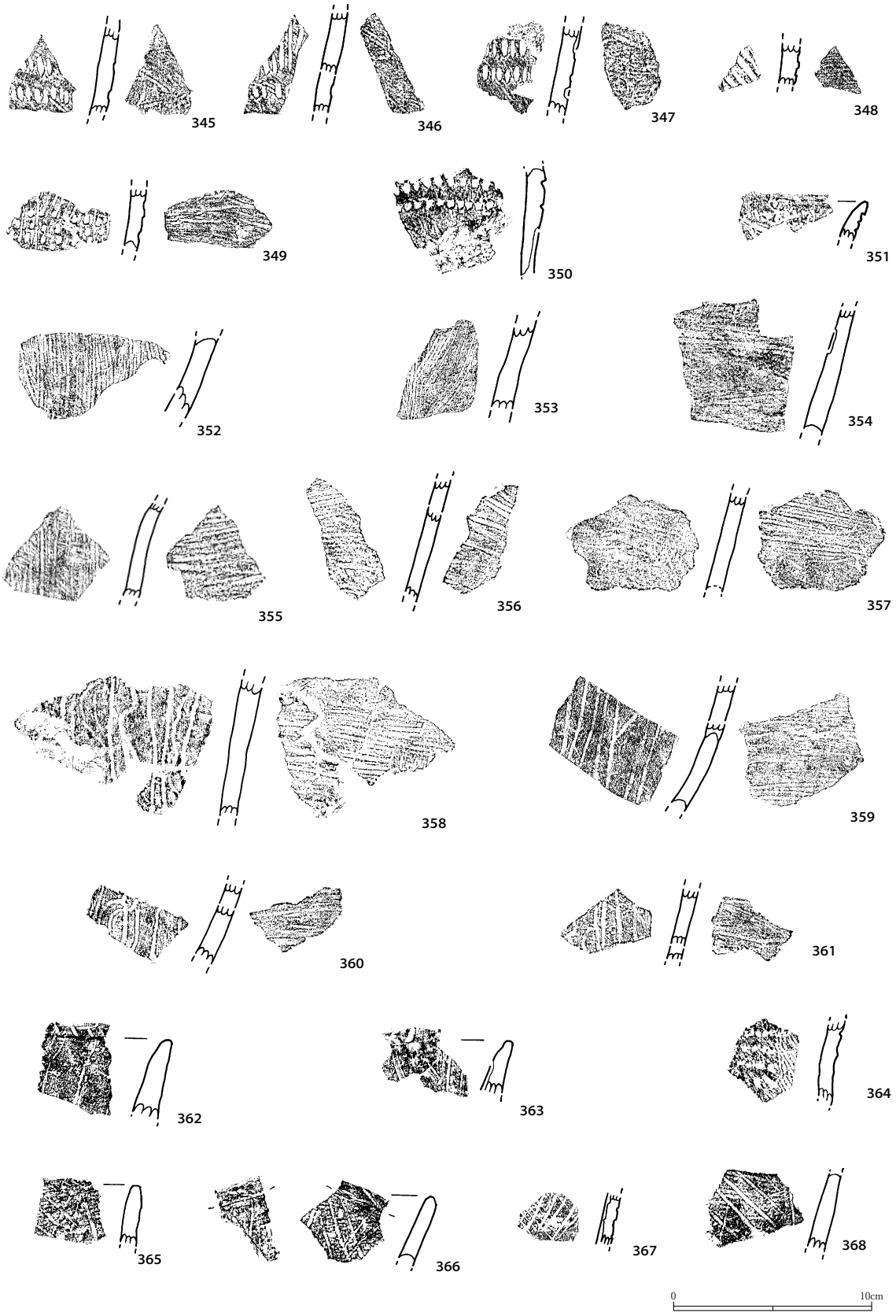






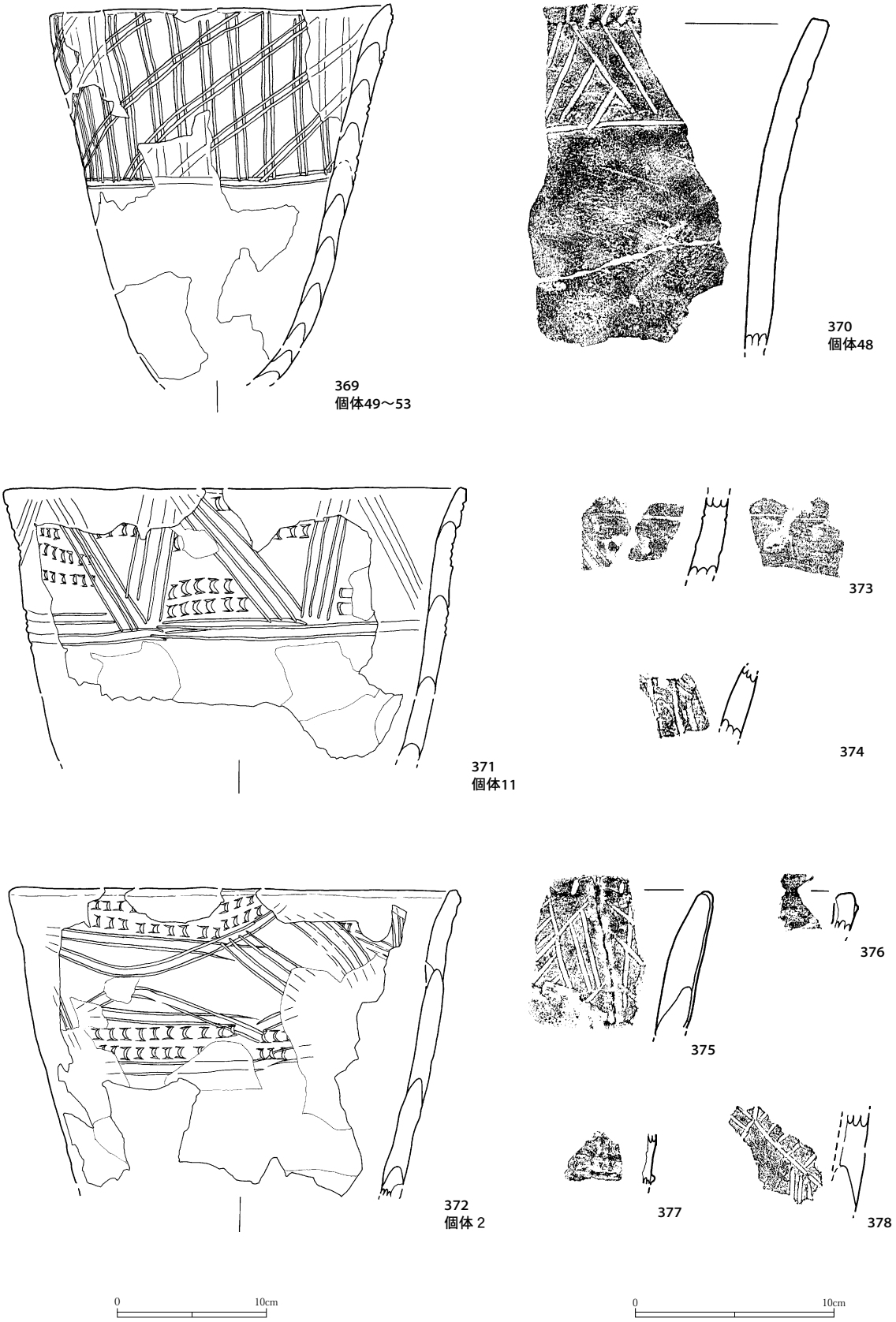
第 129 図　分類別土器実測図（15）(1/3，1/4)

BTsf　No.345～368



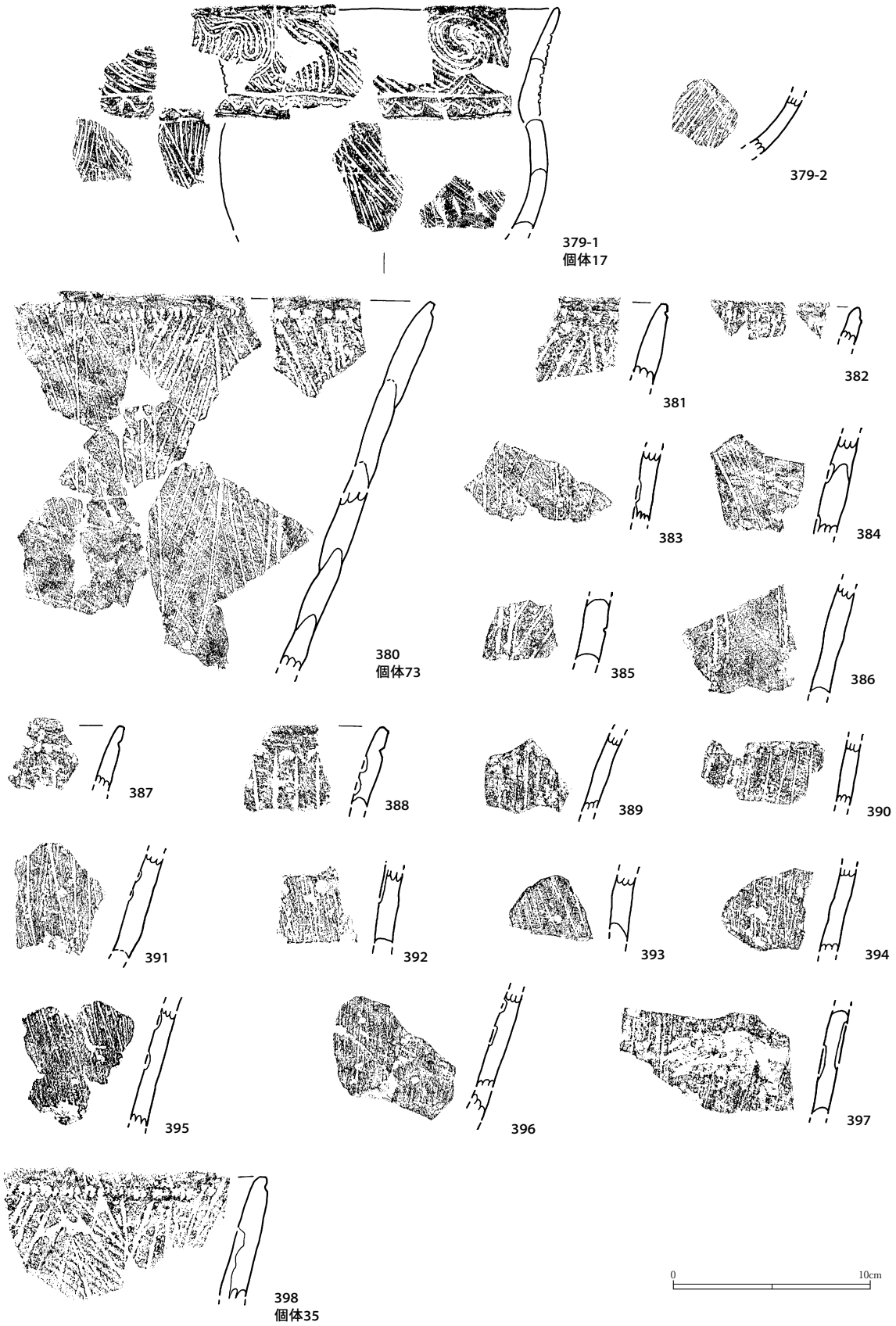
第 130 図　分類別土器実測図（16）(1/3)

BTsf　No.369～378



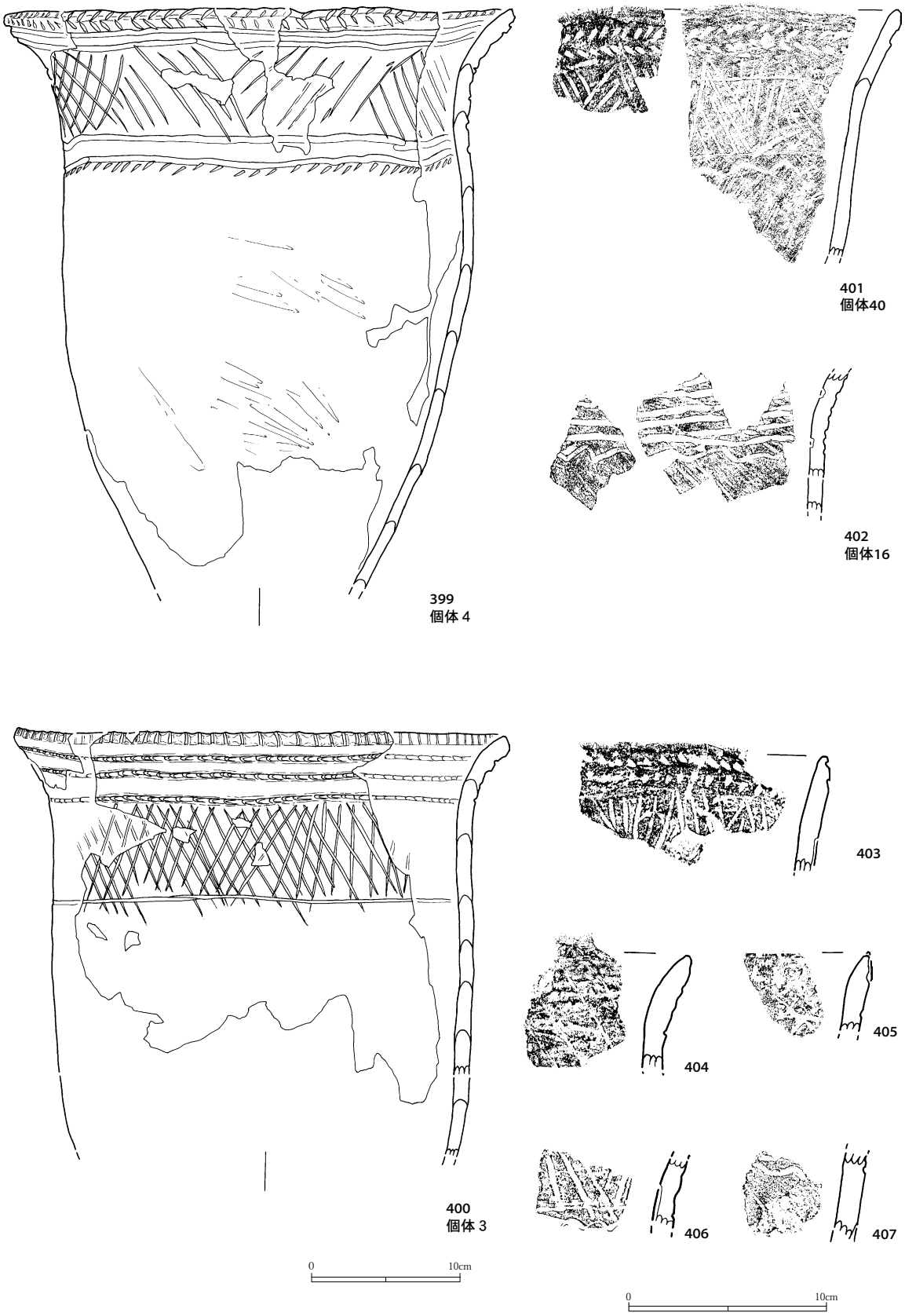
第 131 図　分類別土器実測図（17）(1/3，1/4)

BTusf　No.379～398



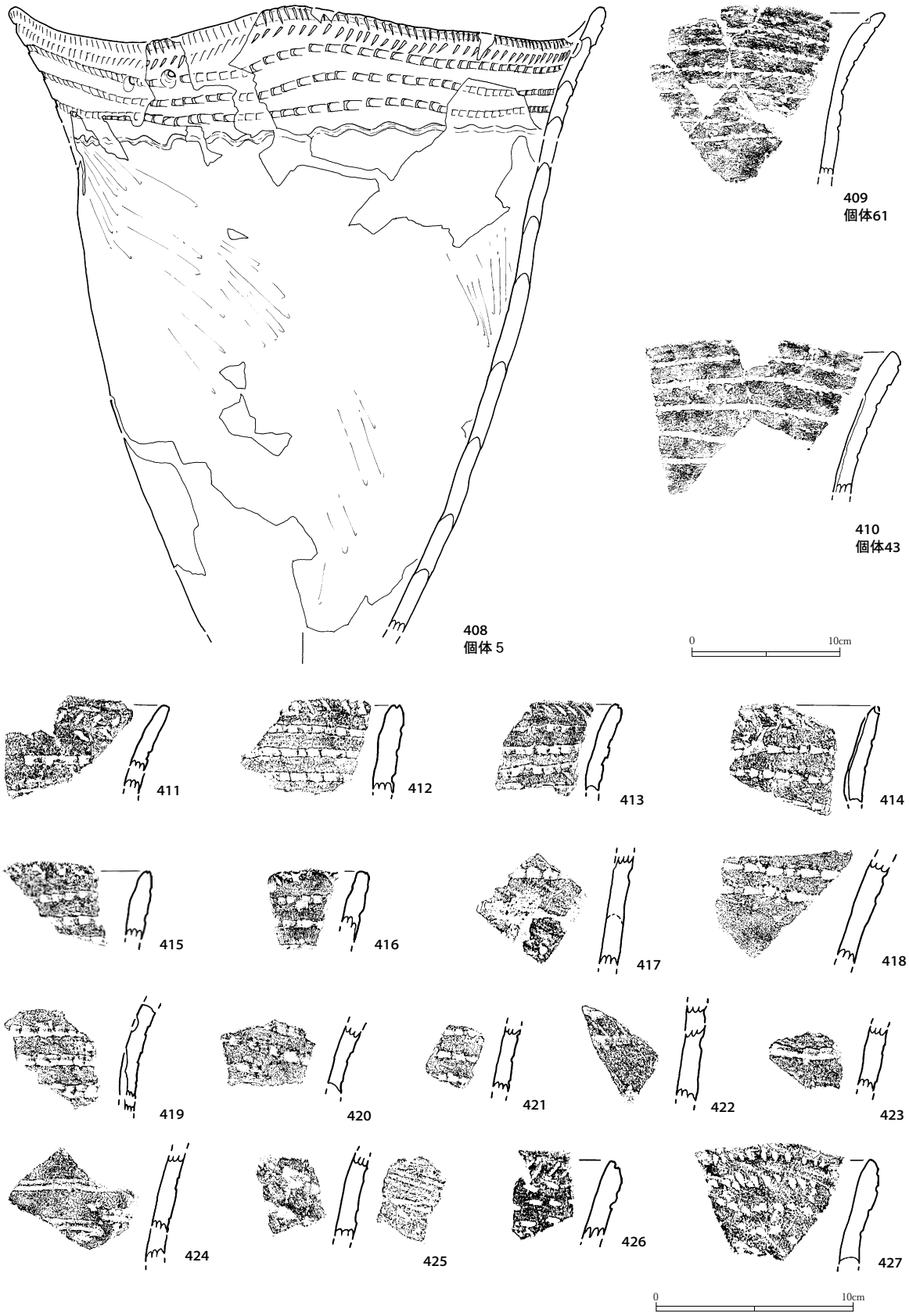
第 132 図　分類別土器実測図（18）(1/3)

BTusf　No.399～407



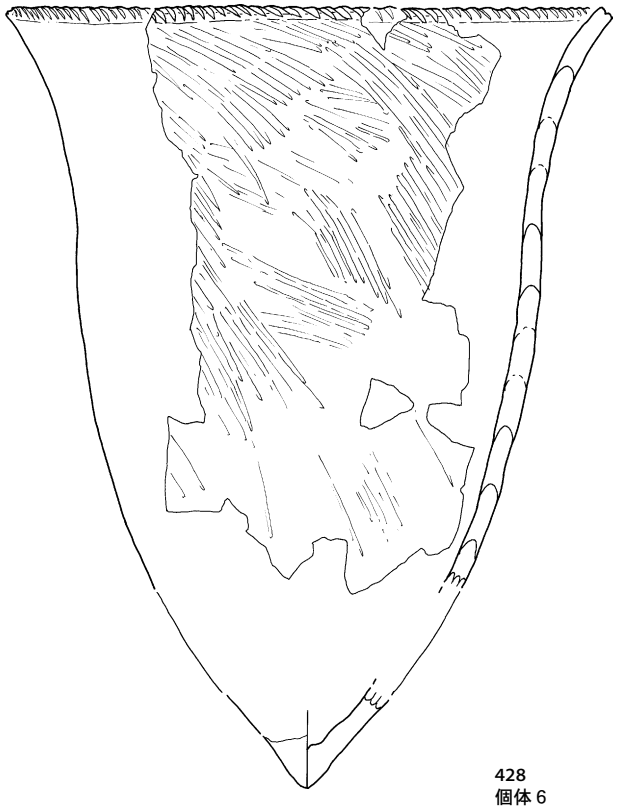
第 133 図　分類別土器実測図（19）(1/3，1/4)

BTusf　No.408～427



第 134 図　分類別土器実測図（20）(1/3，1/4)

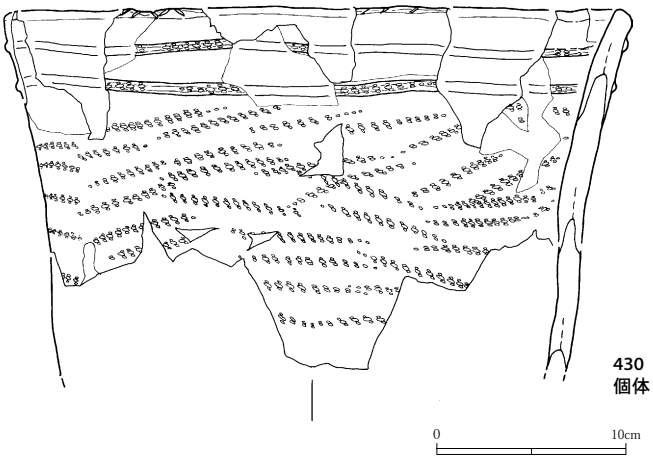
JKusf　No.428～429



428
個体 6

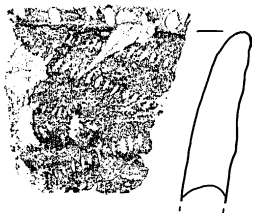
429

Rsf　No.430～436



430
個体 1

0　10cm



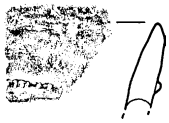
431

432

433

434

435



436

0　10cm

第 135 図　分類別土器実測図（21）(1/3，1/4)

1・縄文土器　J

Ju+-1（縄文が施文される雲母胎土土器　異方向縄文施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/施文幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
1	12･13	9	1,2住	J	u+	横削り	LR	縦･横位 羽状	異方向羽状	3./20	平頭横磨き	250(口-底近)	300	
32		9	1住	J	u+		LR	縦･横位 羽状	表面破損	2.5/不明	欠損			
74	12･13	9	2住	J	u+	横削り	LR	縦･横位 羽状	異方向羽状	2.5./20	平頭横磨き			
75		9	2住	J	u+		LR	縦･横位 羽状	表面破損	2.5/不明	欠損			
79		9	9,25	J	u+	横削り	LR	縦･横位 羽状	異方向羽状	3./15	平頭、摩耗			
80		9	25	J	u+	横削り	LR	縦･横位 羽状	異方向羽状	3./15	欠損			
81		9	17	J	u+	横削り	LR	縦･横位 羽状	異方向羽状	2./15	欠損			
82		9	27	J	u+	横削り	LR	縦･横位 羽状	異方向羽状	2./20	欠損			
83		9	17	J	u+	横削り	LR	縦･横位 羽状	異方向羽状	2.5./20	欠損			
84		9	17	J	u+	横削り	LR	縦･横位 羽状	異方向羽状	2.5/不明	欠損			

Ju+-2（縄文が施文される雲母胎土土器　単方向無節縄文施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/施文幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
85		9	13,08	J	u+	縦削り	Lr	縦位	節未発達	1.5./10	欠損			
86		9	15	J	u+	斜め削り	Lr	斜位？	節未発達	1.5./15	欠損			
89		9	8	J	u+	縦削り	Lr	縦～斜位	節未発達	1.5./20	欠損			
87		9	25	J	u+	縦削り	Lr	縦位	節未発達	1.5./15	欠損			
88		9	35	J	u+	縦削り	Lr	縦位	節未発達	1.5./20	欠損			

Ju+-3（縄文が施文される雲母胎土土器　単方向単節縄文施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/施文幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
90		8,9	32,33	J	u+	横削り	LR	縦位	口唇同施文	2./15	平縁、縄文			口唇にも縄文施文
91		9	33	J	u+	横削り	LR	縦位	口唇同施文	2./15	平縁、縄文			口唇にも縄文施文
92		9	23-32	J	u+	横削り	LR	縦位	施文乱れる	1.5./15	欠損			
93		8	33	J	u+		LR	多方向	方向乱れる	1.5./15	欠損			
94		9	26	J	u+	横削り	LR	縦～斜位	２つの異なる原体か	2./15	欠損			
95		8	34,42	J	u+		LR	縦位		2./15	欠損			
96		9	33	J	u+		LR	斜位	施文浅い	1/不明	欠損			
97		9	32	J	u+		LR	縦位？	施文浅い	1.5/不明	欠損			
98		9	32	J	u+		LR	斜位	施文浅い	1.5/不明	欠損			尖底
99		9	23	J	u+		LR	縦位	施文浅い	1.5./10	欠損			尖底

Jpsf-1（縄文が施文される、パミス状+砂粒+繊維胎土土器異方向縄文施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/施文幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
76		9	2住	J	psf	横潰し	Lr	縦･横位 菱形？	異方向	1.5./不明	欠損			
100		9	9	J	psf	横削り	Lr	縦･横位 菱形	異方向菱形	1.5./25	欠損			表面一部欠損
101		9	41	J	psf	横潰し	Lr	縦･横位 菱形？	異方向	1.5./15	欠損			

Jpsf-2（縄文が施文される、パミス状+砂粒+繊維胎土土器　単方向単節縄文施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/施文幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
102		9	24	J	psf		LR	縦位	密接施文	4/不明	欠損			
103		9	36	J	psf		LR	縦位		4/不明	欠損			
104		9	26	J	psf	潰し	LR	縦位		3./15	欠損			
105		9	17	J	psf	縦潰し	LR	縦位		3./不明	欠損			

Js（縄文が施文される、砂粒胎土土器）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/施文幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
106		9	27	J	s	横潰し	Rl	縦位	ほぼ無節	1.5./15	欠損			
107		9	27	J	s	横潰し	Rl	縦位	ほぼ無節	1.5./20	欠損			
108		9	27	J	s	横潰し	Rl	縦位	ほぼ無節	1.5./15	欠損			
109		9	27	J	s		Rl	縦位	ほぼ無節	1.5./20	欠損			
110		9	27	J	s	横潰し	Rl	縦位	ほぼ無節	1.5./15	欠損			
111		8	18,10	J	s		Rl	縦位	ほぼ無節	1.5./15	欠損			
112		9	9	J	s		Rl	縦位	ほぼ無節	1.5./20	欠損			

Jus-1（縄文が施文される、雲母+砂粒胎土土器　極細原体単節縄文施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/施文幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
70	64	9	2住他	J	s(u-)	横～斜削り	異条LR	縦位	短単位施文	1./15	欠損			
71		9	2住	J	s(u-)	不明	異条LR	縦位		1./不明	欠損			
113		8	35	J	s(u-)	横削り	LR	縦位	短単位施文	1./不明	弱外反平縁			接合破片層上下有り
114		9	18	J	s(u-)	横潰し	LR	縦位		1./15	欠損			
115		9	18	J	s(u-)	横削り	LR	縦位		1./15	欠損			
116		9	27	J	s(u-)	横削り	LR	縦位		1./15	欠損			
117		9	42	J	s(u-)	磨き	LR	縦位	短単位施文	1./不明	欠損			
118		8	49	J	s(u-)	横潰し	LR	縦位	短単位施文	1./10	欠損			接合破片層上下有り
119		9	26	J	s(u-)	磨き	RL	縦･横位 異方向	短単位施文	1./15	欠損			

Jus-2（縄文が施文される、雲母+砂粒胎土土器　単方向単節縄文施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/施文幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
120	67	8,9	9,22他	J	us	横削り	LR	横位	節良好	1.5./20	弱外反丸縁	約150(口-胴)	280	
121		9	9	J	us	横削り	LR	横位	節良好	1.5./20	弱外反丸縁			
122		9	8	J	us	横･斜潰し	LR	横位	節良好	1.5./20	欠損			
123		9	7,9	J	s(u-)	斜め潰し	LR	横位	節良好	1.5./15	欠損			
124		8	41	J	s(u-)	横潰し	LR	横位	節良好	1.5./20	欠損			
125		9	9	J	us	横潰し	LR	横位	節良好	1.5./20	欠損			
126		9	9	J	s(u-)	横潰し	LR	横位	節良好	1.5./15	欠損			

Jus-3（縄文が施文される、雲母+砂粒胎土土器　異条／異条気味縄文施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅(条･条)施文幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
72		9	2住	J	s(u-)	横削り	異条LR(L&l)	横位	節潰れ	2.5･1.5/25	欠損			
73	46	9	2住	J	s(u-)	横削り	異条LR(L&l)	横位	節潰れ	2･1.5/25	欠損			
127	45	9	9-34	J	s(u-)	横篦削り	(異条？)LRL	横位	節潰れ	3.･2./20	欠損	110(胴部)		
128		9	35,43	J	s(u-)	縦潰し	異条LR+結節	横位	結節文一部	2.5･1.5/20	欠損			
129		9	17-34	J	s(u-)	縦削り,ナデ	異条RL(R&R)	横位	節ムラ潰れ	1.5･2.5/20	丸～平頭	145(口-胴)	215	
130		9	8	J	s(u-)	斜め潰し	(異条？)LR	横位	短単位施文	1.5･1.5/20	欠損			
131		9	10,15	J	s(u-)		異条RL？	横位	節ムラ潰れ	1.5･2/不明	欠損			
132		9	15,24	J	s(u-)	横潰し	(異条？)LR	横位	節潰れ	不鮮明/25	欠損			
133		9	16	J	s(u-)		異条LR(L&l)	横位	節潰れ	2.5･1.5/25	欠損			
134		9	17,26	J	s(u-)		異条RL(R&R)	横位	一部復節化	3･2/不明	欠損			
135		9	17	J	s(u-)	縦潰し	異条LR？	横位	重復施文	2.5･1.5/不明	欠損			
136		8	17	J	s(u-)	横削り	異条RL(R&r)	横位	節ムラ潰れ	4･2/不明	欠損			
137		9	17	J	s(u-)	横潰し	異条RL(R&r)	横位	節ムラ潰れ	2･1.5/不明	欠損			
138		9	17	J	s(u-)	横削り	異条RL(R&r)	縦～横位	方向乱れ	3･1.5/20	丸～平頭			
139		9	17	J	s(u-)	斜め潰し	異条RL？	横位	節ムラ潰れ	1･2/不明	欠損			
140		9	18	J	s(u-)		(異条？)LR	斜横位		1.5･1.5/不明	内研ぎ丸縁			
141		9	25,26	J	s(u-)	横削り	異条LR(L&l)	横位		2･1.5/25	欠損			
142		9	25,26	J	s(u-)	横削り	異条RL(R&R)	横位		1.5･1.5/不明	欠損			
143		9	25,43	J	s(u-)	横削り	異条LR(L&L)	横位	施文やや疎	2.5･1.5/20	丸～平頭			
144		9	25	J	s(u-)		異条LR(L&l)	横位	節ほぼ潰	不鮮明/不明	欠損			
145		9	25	J	s(u-)	縦潰し	異条LR(L&l)	斜横位	節ほぼ潰	不鮮明/不明	欠損			
146		9	26	J	s(u-)	横削り	異条LR(L&l)	横位		2.5･1.5/20	丸～平頭			

第２表　縄文時代遺物属性表（１）

Jus-3（縄文が施文される、雲母+砂粒胎土土器　異条／異条気味縄文施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅(条･条)施文幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
147		9	26	J	s(u-)	横潰し	(異条？)LRL	横位		2.5･1.5/30	欠損			
148		9	26	J	s(u-)		異条LR(L&l)	縦～横位	縦位→横位	2.5･1/不明	欠損			
149		9	26	J	s(u-)	横潰し	異条RL(R&r)	横位	一部復節化	3･2/不明	欠損			
150		9	26	J	s(u-)	横潰し	異条RL(R&r)	横位	一部復節化	2･5/1.5/不明	欠損			
151		9	27	J	s(u-)	縦潰し	異条RL(R&R)	横位	節潰れ	2･1.5/不明	欠損			
152		9	27	J	s(u-)	縦削り	異条RL(R&R)	横位		2.5･2/25	丸頭			
153		9	28	J	s(u-)		異条RL(R&R)	横位	施文良好	3･2/不明	欠損			
154		8	27	J	s(u-)		異条RL？	横位	節潰れ	2･1.5/不明	欠損			遺構出土
155		9	32	J	s(u-)	縦潰し	異条RL？	斜横位		2.･2./20	欠損			
156		9	33	J	s(u-)	横削り	異条LR(L&l)	横位		2.5･1/20	欠損			
157		9	33	J	s(u-)	縦削り	異条RL(R&R)	横位	一部復節化	1.5･2.5/不明	欠損			
158		8,9	35,36	J	s(u-)		異条LR一部RL？	横/縦位？		1.5･2/不明	欠損			
159		9	34	J	s(u-)	縦潰し	異条LR(L&l)	横位	節潰れ	2.･1./15	欠損			
160		8	35	J	s(u-)	横削り	異条LR(L&L)	縦位		2.･1./15	欠損			
161		8	35	J	s(u-)	横削り	異条RL(R&R)	縦位	間隔密接	2.･1./15	欠損			
162		8	35	J	s(u-)		異条RL(R&R)	縦位		2.5･1.5/不明	欠損			
163		8	36	J	s(u-)	横削り	異条LR(L&l)	横位		2･1.5/不明	欠損			
164		9	41	J	s(u-)	横削り	異条RL(R&R)	横位		2･1.5/20	欠損			
165		8	35	J	s		異条LR(L&L)	横位		1.5/1/15	欠損			
166		8	35	J	s	横潰し	異条LR(L&L)	横位		1.5/1/20	欠損			
167		9	35	J	s	縦削り	(異条？)LR	斜横位		1.5/1.5/15	内研ぎ丸縁			
168		9	13	J	s	横潰し	(異条？)RL	横位	節潰れ	1.5/不明	欠損			一条の縦沈線？付く

J 4d　Jus-4（縄文が施文される、雲母+砂粒胎土土器（その他）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅(条･条)施文幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
169		8	26	J	s(u-)	横ナデ	LR	縦位	節大	2.5/不明	弱外反丸頭			
170		8	26	J	s(u-)	横ナデ	LR	縦位	節大	2.5/不明	欠損			
171		8	8	J	s(u-)	削り	Lr	縦位		2/不明	欠損			
172		9	35	J	s(u-)	不明	LR	横位	節良好	不明	丸頭			

J 5　Jusf（縄文が施文される、雲母+砂粒+繊維胎土土器群）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/施文幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
173	25･27	8	41集中	J	usf	横削り	RL	横斜位		4.5./30	尖頭	255(口-尖)	200	頸部屈曲外反
174		8	41	J	usf	剥落	R･L	横位羽状		4./15	欠損			
175		8	41	J	usf	剥落	R	横位(羽状か)		4/不明	欠損			
176		8	34	J	usf	剥落	R･L	横位羽状		4/不明	欠損			
177		8	33	J	usf	剥落	RL	横位	口唇にも施文	3./15	平頭			
178		9	26,48	J	s(uf-)	横削り	LR	横位	密接施文	4./20	欠損			

J 6　JBTusf（縄文と沈線が施文される、雲母+砂粒+繊維胎土土器）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/施文幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
179		8	8	JBT	usf		LR	横位	縄文→沈線	3/不明(沈線):2.5mm扁平沈線	欠損	段差あり		

2･撚糸文土器　Y

Y1a　Yu+1（撚糸文が施文される、雲母多胎土土器　土抗７直上出土）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
180	37	9	34	Y	u+	粗い横削り	R絡条体１類	縦位,引きずり	条列やや乱れる	1.5/2/25	外反丸頭	230(口-尖)	190	土抗No.7出土
181		9	34	Y	u+	粗い横削り	R絡条体１類	縦位	浅い施文	1.5/2/不明	欠損			

Yu+2（撚糸文が施文される、雲母多胎土土器　斜縦位施文1）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
182		9	17,27	Y	u+	横削り	R絡条体１類	斜･縦位	施文間隔空く	1/1.5/25	欠損			
183		9	8	Y	u+	潰し	R絡条体１類	斜･縦位	施文間隔空く	1/1.5/20	欠損			
184		9	42	Y	u+	縦削り	R絡条体１類	縦位	施文間隔空く	1/1/不明	欠損			

Yu+3（撚糸文が施文される、雲母多胎土土器　斜縦位施文2）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
185		8	25	Y	u+	横潰し	R絡条体１類	斜･縦位	鋸歯状施文か？	1/1/不明	欠損			
186		9	14	Y	u+	潰し	R絡条体１類	斜･縦位	鋸歯状施文か？	1/1./20	欠損			
187		8,9	35,36	Y	u+	潰し	R絡条体１類	斜･縦位	鋸歯状施文	1/1.5/25	欠損			

Yu+4（撚糸文が施文される、雲母多胎土土器　一部のみ横位極細原体施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
27		9	1住	Y	u+		R絡条体１類	斜横位	施文一部	0.5/1/不明	欠損			

Yps-1（撚糸文が施文される、パミス状+砂粒胎土土器群）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
25		9	1住	Y	ps	横削り	R絡条体１類	縦位		2/1.5/不明	欠損			粗悪な胎土
26		9	1住	Y	ps		R絡条体１類	縦位		1.5/1.5/不明	欠損			
54		9	2住	Y	ps	横削り	R絡条体１類	縦位	引きずり	1.5/2/不明	内研丸縁			粗悪な胎土
55		9	2住	Y	ps		R絡条体１類	縦位		1/2.5/不明	欠損			
56		9	2住	Y	ps		R絡条体１類	縦位		1.5/2./不明	欠損			
57		9	2住	Y	ps		R(RL)絡条体１類	縦位	一部復節化	1.5/2/不明	欠損			
58		9	2住	Y	ps		R絡条体１類	縦位		1.5/3/不明	欠損			
59		9	2住	Y	ps		R絡条体１類	縦位		2/1.5/不明	欠損			
60		9	2住	Y	ps		R絡条体１類	縦位		1/1/不明	欠損			
61		9	2住	Y	ps		l絡条体１類	縦位	０段縄使用	1.5/2/不明	欠損			
62		9	2住	Y	ps		R絡条体１類	縦位		1/1/不明	欠損			
63		9	2住	Y	ps		R絡条体１類	縦位		2/2/不明	欠損			
64		9	2住	Y	ps		R絡条体１類	縦位		1.5/2/不明	欠損			
65		9	2住	Y	ps		R絡条体１類	縦位		1.5/不明/不明	欠損			
66		9	2住	Y	p(s-)		R絡条体１類	縦位		1.5/不明/不明	欠損			
188	38	9	26,36	Y	ps	横削り	R絡条体１類	縦位	間隔空く	2./1./20	欠損	90(口-胴)	300	
189		9	16	Y	ps		R絡条体１類	縦位		1.5/3/不明	欠損			白色化
190		9	9	Y	ps		R絡条体１類	縦位		2/1.5/不明	欠損			
191		9	8	Y	ps	横削り	RL絡条体１類	縦位	間隔空く	1.5/3/25	丸頭磨き			粗悪な胎土
192		9	18	Y	ps	横削り	R絡条体１類	縦位		1.5/2/不明	内研丸頭			
195		9	17	Y	ps		R絡条体１類	縦位		2/1.5/不明	欠損			

Yps-2（撚糸文が施文される、パミス状+砂粒胎土土器群その他）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
193		9	35	Y	p(s-)		R絡条体１類	不明(口縁のみ残)	口唇に施文	1/0.5/不明	内研丸頭			
194		9	16	Y	ps		R絡条体１類	斜縦位	やや斜め	1/1.5/不明	平頭			

Ypsf-1（撚糸文が施文される、パミス状+砂粒+繊維胎土土器　縦位施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
29		9	1住	Y	psf	縦削り	R絡条体１類	縦位	やや摩滅	1.5/2/不明	欠損			
30		9	1住	Y	psf		R絡条体１類	縦位	やや摩滅	1/2/不明	欠損			
31		9	1住	Y	ps(f-)	横削り	R絡条体１類	縦位	深め施文	1./1./20	欠損			
67		9	2住	Y	psf	横削り	R絡条体１類	縦位	やや摩滅	1/2/不明	欠損			
68		9	2住	Y	psf	横削り	R絡条体１類	縦位	間隔空く	1.5/1.5/20	欠損			
69		9	2住	Y	psf	横削り	R絡条体１類	縦位	やや摩滅	1.5/1/不明	欠損			
196		8	13	Y	psf	横削り	R絡条体１類	縦位		1/1.5/20	平頭			

第３表　縄文時代遺物属性表（２）

Ypsf-1（撚糸文が施文される、パミス状+砂粒+繊維胎土土器　縦位施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
197		9	14	Y	pf(s-)	横削り	R絡条体１類	縦位	間隔空く	1/2./30	欠損			
198		9	9 .43	Y	pf(s-)	縦削り	R絡条体１類	縦位		1/1.5/20	欠損			
199		9	17	Y	pf(s-)		R絡条体１類	縦位		1.5/2/不明	丸頭横磨き			
200		9	25	Y	psf		R絡条体１類	縦位	間隔空く	1/2/不明	欠損			
201	65	9	25,35	Y	pf(s-)	縦削り	R絡条体１類	縦位	間隔空く	1.5/1/20	欠損			
202		9	10	Y	psf	縦削り	R絡条体１類	縦位	間隔空く	1.5/2.5/25	欠損			

Ypsf-2（撚糸文が施文される、パミス状+砂粒+繊維胎土土器　斜縦位施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅(mm)	口唇の形状	器高	口径	備考
203		9	36	Y	psf		R絡条体１類	斜･縦位		1/3/不明	欠損			
204		8	25	Y	psf		R絡条体１類	斜･縦位	深めに施文	1.5/2/不明	欠損			
205		9	27,18	Y	pf(s-)	縦削り	R絡条体１類	斜･縦位	深めに施文	1/2/不明	欠損			尖底となる
206		9	25	Y	psf	横潰し	R絡条体１類	斜･縦位	深めに施文	1/1/不明	欠損			
207		9	16	Y	psf		R絡条体１類	斜･縦位	深めに施文	1.5/1/不明	欠損			
208		9	27	Y	psf		R絡条体１類	斜･縦位	深めに施文	1.5/1.5/不明	欠損			尖底近く

Ypsf-3（撚糸文が施文される、パミス状+砂粒+繊維胎土土器　その他）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅（mm）	口唇の形状	器高	口径	備考
209		9	27,09	Y	psf		R絡条体１類	多方向	施文幅短い	0.5/1.5/20	欠損			
210		9	34	Y	psf	縦削り	R-１･結節付R	縦位･横位押圧	解け気味	1/3～4/不明	欠損			
211		9	35	ＹＫ	psf	横削り	R絡条体５類？	縦位	表面摩耗	1/交差/不明	平縁			

Ys-1（撚糸文が施文される、砂粒胎土土器　斜巻原体縦位施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅（mm）	口唇の形状	器高	口径	備考
208		9	1住	Y	s		R絡条体１類	条傾縦位？	縄巻付疎ら	1/2.5/不明	欠損			
212		9	27,25	Y	s	縦横ハケ削	R絡条体１類	条傾縦位	縄巻付疎ら	1/2.5/20？	欠損			
213		9	17	Y	s	縦横ハケ削	R絡条体１類	条傾縦位	縄巻付疎ら	1/2/不明	欠損			
214		9	26	Y	s	縦横ハケ削	R絡条体１類	条傾縦位	縄巻付疎ら	1/2.5/20	欠損			

Ys-2（撚糸文が施文される、砂粒胎土土器　縦位施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅（mm）	口唇の形状	器高	口径	備考
215		8	34	Y	s	横削り	R絡条体１類	縦位	深めに施文	1.5/1不明	外反平頭			
216		9	26	Y	s	横削り	R絡条体１類	縦位	深めに施文	1.5/1/20	欠損			

Ys-3（撚糸文が施文される、砂粒胎土土器　斜縦位施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅（mm）	口唇の形状	器高	口径	備考
217		9	33	Y	s		R絡条体１類	縦～斜位	密接,深め	1/1.5/不明	欠損			
218		9	41	Y	s	横削り	R絡条体１類	縦～斜位	密接,深め	1/1.5/不明	欠損			

Ys-4（撚糸文が施文される、砂粒胎土土器　横、横波状施文）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅（mm）	口唇の形状	器高	口径	備考
219	68	9	25,34	Y	s	縦削り	R絡条体１類	横,横波状施文	横位→波状	0.5/1.5/25	口唇に施文	115（口-胴）	240	
220		9	25	Y	s		R絡条体１類	横,横波状施文		0.5/1.5/不明	欠損			
221		9	25	Y	s	縦削り	R絡条体１類	横,横波状施文		0.5/1.5/不明	欠損			

Ys-5（撚糸文が施文される、砂粒胎土土器群その他）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅（mm）	口唇の形状	器高	口径	備考
222		9	27	Y	s	横削り	L絡条体１類	縦位	浅い施文	1/1.5/不明	ナデ潰平頭			
223		9	18	Y	s		R絡条体１類	縦位	浅い施文	0.5/0.5/不明	平頭			ミニチュア土器か

YKus（格子撚糸文が施文される、雲母+砂粒胎土土器）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅（mm）	口唇の形状	器高	口径	備考
224		9	27	ＹＫ	s(u-)	横削り	R絡条体５類	縦位		1/交差/25	欠損			
225		9	18	ＹＫ	s(u-)	横削り	R絡条体５類	縦位	間隔空く	1/交差/不明	欠損			
226		不明	不明	ＹＫ	s(u-)		R絡条体５類	縦位		1/交差/不明	欠損			

Yus（撚糸文が施文される、雲母+砂粒胎土土器群その他）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	条幅/間隔/原体幅（mm）	口唇の形状	器高	口径	備考
227		9	35,25	Y	s		R絡条体１類	縦位	引きずり	1.5/2/不明	欠損			
228		9	17,26	Y	s	横潰し	R絡条体３類？	縦～斜位	結節付き	1/不明/不明	欠損			

３・押型文土器　O

O1a　OYu+（押型文（山形文）が施文される、雲母胎土土器）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	施文原体	施文方向	施文の状況	原体の軸円周/原体長/凸縦横幅/割付	口唇の形状	残存器高	口径	備考
229	66	9	17,18,24,25他	OY	u+	縦横削り	山形文	縦位	浅,ムラ有	26/28/7-2/4分割	外反平頭		300	口縁～胴下半残存

O1b　OTDu+（押型文（直列楕円文）が施文される、雲母胎土土器）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	施文原体	施文方向	施文の状況	原体の軸円周/原体長/凸縦横幅/割付	口唇の形状	残存器高	口径	備考
230		9	9	OTD	u+	横削り	直列楕円文	縦位		不明/不明/6-2.5/３分割	丸頭			
231		8,9	26,24	OTD	u+	横削り	直列楕円文	縦位	均質に施文	13/23超/5-2.5/3分割	欠損			
232		9	8	OTD	u+	不明	直列楕円文	縦位		不明/不明/6-2.5/３分割	欠損			
233		9	18	OTD	u+	不明	直列楕円文	縦位		不明/不明/4.5-2.5/不明	欠損			

O2a　OYps（押型文（山形文）が施文される、パミス状+砂粒胎土土器）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	施文原体	施文方向	施文の状況	原体の軸円周/原体長/凸縦横幅/割付	口唇の形状	残存器高	口径	備考
234		9	7	OY	s(p-)		山形文	縦位	良好	20/23/8-3/4分割	欠損			硬質
235		9	42	OY	s(p-)		山形文	縦位	良好	23/不明/7-2/4分割	欠損			硬質

O2b　ODps（押型文（楕円文）が施文される、パミス状+砂粒胎土土器）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	施文原体	施文方向	施文の状況	原体の軸円周/原体長/凸縦横幅/割付	口唇の形状	残存器高	口径	備考
33		9	1住	OD	s(p-)		楕円文	縦位	斜整列	20/不明/4-2.5/２分割	欠損			
236		9	23	OD	s(p-)		楕円文	縦位	斜整列	不明/不明/4-2.5/不明	弱外反平頭			
237		8	26	OD	s(p-)		楕円文	縦位	斜整列	20/不明/4-2.5/不明	欠損			
238		9	25	OD	s(p-)		楕円文	縦位	斜整列	不明/不明/4.5-2.5/不明	欠損			

O2c　O(OK?)ps（押型文（格子目文？）が施文される、パミス状+砂粒胎土土器　薄手）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	施文原体	施文方向	施文の状況	原体の軸円周/原体長/凸縦横幅/割付	口唇の形状	残存器高	口径	備考
239		9	42	OK?	ps	不明	格子目文？	不明	器面摩滅	不明	平頭			同種全て同一個体か
240		9	42	OK?	ps	不明	格子目文？	不明	器面摩滅	不明	欠損			
241		9	42	OK?	ps	不明	格子目文？	不明	器面摩滅	不明	欠損			
242		9	42	OK?	p(s-)	不明	格子目文？	不明	器面摩滅	不明	欠損			
243		9	42	OK?	ps	不明	格子目文？	不明	器面摩滅	不明	欠損			
244		8	34	OK?	ps	不明	格子目文？	不明	器面摩滅	不明	欠損			
245		9	35	OK?	ps	不明	格子目文？	不明	器面摩滅	不明	欠損			
246		9	34	OK?	ps	不明	格子目文？	不明	器面摩滅	不明	欠損			
247		9	34	OK?	p(s-)	不明	格子目文？	不明	器面摩滅	不明	欠損			
248		9	42	OK?	p(s-)	不明	格子目文？	不明	器面摩滅	不明	欠損			
249		9	35	OK?	ps	不明	格子目文？	不明	器面摩滅	不明	欠損			
250		8	42	OK?	ps	不明	格子目文？	不明	器面摩滅	不明	欠損			
251		9	25	OK?	ps	不明	格子目文？	不明	器面摩滅	不明	欠損			
252		9	25	OK?	ps	不明	格子目文？	不明	器面摩滅	不明	欠損			
253		8	41	OK?	p(s-)	不明	格子目文？	不明	器面摩滅	不明	欠損			

O3　OYpsf（押型文（山形文）が施文される、パミス状+砂粒+繊維胎土土器）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	原体の軸円周/原体長/凸縦横幅/割付	口唇の形状	残存器高	口径	備考
77		9	2住	OY	psf		玉抱山形文	縦位		不明/不明/12-4/4分割	欠損			
254		9	17	OY	psf	横削り	山形文(玉抱？)	縦位		34/不明/12-4/4分割	弱外反平頭			
255		9	27	OY	psf		山形文(玉抱？)	縦位		不明/不明/12-4/4分割	欠損			

第４表　縄文時代遺物属性表（３）

O4a　OYs（押型文（山形文）が施文される、砂粒胎土土器　薄手）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	原体の軸円周/原体長/凸縁横幅/割付	口唇の形状	残存器高	口径	備考
256		8	31	OY	s	不明	山形文	横？	残存微少	不明/不明/5-1/不明	欠損			

O5a　ODus（押型文（楕円文）が施文される、雲母+砂粒胎土土器）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	原体の軸円周/原体長/凸縁横幅/割付	口唇の形状	残存器高	口径	備考
259		9	34	OD	s(u-)	不明	楕円文	縦位	浅く疎ら	不明/不明/3-2/不明	欠損			
260		9	43	OD	s(u-)	不明	楕円文	縦位	浅く疎ら	13/不明/3-2.5/２分割	欠損			

O5b　OHYus（押型文（木葉山形文）が施文される、雲母+砂粒胎土土器）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	原体の軸円周/原体長/凸縁横幅/割付	口唇の形状	残存器高	口径	備考
258		9	26	OHY	s(u-)	不明	木葉山形文	斜･縦位	疎ら	不明/不明/4-2/４分割	欠損			

O5c　OHDus（押型文（斜葉楕円文）が施文される、雲母+砂粒胎土土器）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	原体の種類	施文方向	施文の状況	原体の軸円周/原体長/凸縁横幅/割付	口唇の形状	残存器高	口径	備考
257		8	41	OHD	us	横潰し	斜葉楕円文	縦･横	粒不均一	不明/不明/(6～8)-(3～5)/不明	欠損			

４・無文土器　M

Mu+（無文の雲母胎土土器）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	外面調整	施文の方向	施文の部位	資料に関する特徴	口唇の形状	残存器高	口径	備考
24		9	１住	M	u+	縦削り	磨き	不明			欠損			
261	63	9	8,16,25,33,42	M	u+	不明	磨き	縦			尖頭	100(推定)	120	ミニチュア土器
262		9	9	M	u+	不明	磨き	縦			半平縁			

Mpsf（無文のパミス状･砂粒･繊維胎土土器）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	外面調整	施文の方向	施文の部位	資料に関する特徴	口唇形状	残存器高	口径	備考
19		9	１住	M	psf	横削り	磨き	縦			欠損			
20		9	１住	M	psf	不明	不明	不明			欠損			表面溶解
21		9	１住	M	psf	不明	不明	不明			欠損			細片
22		9	１住	M	psf	不明	不明	不明			欠損			細片
23		9	１住	M	psf	不明	不明	不明			欠損			細片
51		9	２住	M	sf(p-)	横削り	ナデ	縦			半平頭			
52		9	２住	M	sf(p-)	不明	不明	不明			欠損			
53		9	２住	M	sf(p-)	不明	不明	不明			欠損			細片
263	60	9	16	M	sf(p-)	横削り	削り	縦			尖頭	90(口ー尖近)	120	ミニチュア土器
264		9	25	M	sf(p-)	横削り	ナデ	斜			半平縁			
265		9	26	M	psf	横削り	磨き	横			平縁			破片2点
266		9	25,27	M	psf	横削り	磨き	縦			弱尖頭			
267		9	26	M	sf(p-)	横削り	磨き	縦			弱尖頭			
268		8	15,34	M	psf	ナデ	削り？	横			丸頭外反			
269		9	43	M	sf(p-)	横削り	不明	不明			半平縁			
270		8	40,41,42	M	psf	削り？	削り？	斜			外反			
271		9	42	M	s(pf-)	横ナデ	ナデ	横			欠損			

Ms-1（無文の砂粒胎土土器　東山b式）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	外面調整	施文の方向	施文の部位	資料に関する特徴	口唇形状	残存器高	口径	備考
272	54･55	8	49	M	s	横潰し	磨き	縦		口縁直下に横沈線+磨き	角頭	240(口-底近)	200	非接合破片多数
273		9	9	M	s	潰し	磨き	縦		口縁直下に横沈線+磨き	角頭			
274		8	14	M	s	横潰し	磨き	横		口縁直下に横沈線+磨き	角頭			
275		9	24	M	s	横潰し	磨き	横		口縁直下に横沈線+磨き	角頭			
276		9	24	M	s	横潰し	磨き	横		口縁直下に横沈線+磨き	角頭			
277		9	32	M	s	潰し	磨き	横		口縁直下に横沈線+磨き	角頭			
278		9	33	M	s	潰し	磨き	縦		口縁直下に横沈線+磨き	角頭			
279		9	42	M	s	潰し	磨き	横		口縁直下に横沈線+磨き	角頭			

Ms-2（無文の砂粒胎土土器その2）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	外面調整	施文の方向	施文の部位	資料に関する特徴	口唇形状	残存器高	口径	備考
3	57	9	１,２住	M	s	横削り	ナデ、押さえ	斜		線条痕が部分的につく	半平頭	160(口-胴)	330	1号/2号住内出土
9		9	１住	M	s	横ナデ	ナデ	横			半平頭			器壁厚手
10		9	１住,９	M	s	縦ナデ	ナデ	縦		若干の細条痕	欠損			残存部2/3住内出土
11		9	１住	M	s	縦ナデ	ナデ	縦？		若干の細条痕	欠損			
12		9	１住	M	s	縦磨き	ナデ磨き	縦			欠損			
13		9	１住	M	s	横ナデ	ナデ	横			欠損			
14		9	１住	M	s	縦磨き	ナデ磨き	縦			欠損			
15		9	１住	M	s	縦磨き	ナデ磨き	縦			欠損			
16		9	１住	M	s	縦削り	ナデ	縦		若干の細条痕	欠損			
17		9	１住	M	s	縦磨き	ナデ磨き	縦			欠損			
18		9	１住,9	M	s	縦ナデ	ナデ	縦			欠損			残存部1/2住内出土
46		9	２住	M	s	不明	不明	不明			丸頭			
47		9	２住	M	s	不明	不明	不明			欠損			細片
48		9	２住	M	s	不明	不明	不明			欠損			細片
49		9	２住	M	s	不明	不明	不明			欠損			細片
50		9	２住	M	s	不明	不明	不明			欠損			細片
280		9	25,35,36	M	s	縦削り	縦磨き	縦			平頭			
281		9	24	M	s	縦削り	ナデ	縦			半平頭			
282		9	17	M	s	不明	横ナデ	横			平頭			
283		9	9	M	s	横削り	横ナデ	横			平縁			
284		9	35	M	s	横削り	横ナデ	横			内出平頭			
285		9	43	M	s	縦削り	斜削り	斜			半平頭			ミニチュア土器片
286	56	9	25,24,26,34,35	M	s	横潰し	縦ナデ	縦			縦ナデ	130(胴-底)		
287		9	17	M	s	磨き	ナデ	不明		丸み尖底　繊維痕付着	欠損			
288		9	25	M	s	不明	横削り	横		尖底部、先欠損	欠損			
289		9	33	M	s	磨き	磨き	縦		丸み尖底	欠損			尖底火跳ね剥落か
290		9	23	M	s	磨き	磨き	不明		丸み尖底　繊維痕付着	欠損			

Mus(無文の雲母+砂粒土器群)

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	外面調整	施文の方向	施文の部位	資料に関する特徴	口唇形状	残存器高	口径	備考
4	58	9	１住,26,33	M	s(u-)	縦ナデ	ナデ	縦			欠損	80(胴)		
5	62	9	１住	M	s(u-)	縦磨き	ナデ磨き	縦			欠損			
6		9	１住,15	M	s(u-)	縦磨き	ナデ磨き	縦			欠損	90(底)		残存部4/5住内出土
7		9	１住	M	s(u-)	縦磨き	ナデ磨き	縦			欠損			
8		9	１住	M	s(u-)	縦ナデ	ナデ	縦			欠損			
34	75	9	２住,26	M	s(u-)	縦ナデ	ナデ	縦			丸頭	195(口-胴)	240	残存3/4住内出土
35	70	9	２住,27	M	s(u-)	縦磨き	ナデ磨き	縦			欠損			残存部3/4住内出土
36		9	２住,9	M	s(u-)	横磨き	ナデ磨き	横			欠損			残存部1/3住内出土
37		9	２住	M	s(u-)	ナデ	ナデ	縦			半平頭			
38		9	２住	M	s(u-)	不明	不明	不明			欠損			
39		9	２住	M	s(u-)	縦磨き	ナデ磨き	縦			欠損			
40	69	9	２住,17	M	s(u-)	縦磨き	削り	縦			欠損	110(胴-底)		残存部4/5住内出土
41		9	２住	M	s(u-)	縦磨き	ナデ磨き	縦			欠損			
42		9	２住	M	s(u-)	縦磨き	ナデ磨き	縦			欠損			
43		9	２住	M	s(u-)	縦磨き	縦磨き	縦			欠損			
44		9	２住	M	s(u-)	不明	不明	不明			欠損			細片
45		9	２住	M	s(u-)	不明	不明	不明			欠損			細片

第５表　縄文時代遺物属性表（４）

Mus(無文の雲母+砂粒土器群)

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	外面調整	施文の方向	施文の部位	資料に関する特徴	口唇形状	残存器高	口径	備考
291		9	8	M	s(u-)	横削り	ナデ	縦			平頭			
292		9	17	M	s(u-)	横潰し	ナデ	横			丸頭			
293		9	17,26,27	M	s(u-)	縦削り	縦磨き	縦			平頭			
294		9,8	35,42	M	s(u-)	横削り	縦ナデ	縦			丸頭	65(口-胴)	140	ミニチュア土器
295		9	17	M	s(u-)	横削り	ナデ	横			平頭			
296		9	27	M	s(u-)	横削り	縦磨き	縦			平頭			
297	39	9	7 ,15	M	s(u-)	ナデ	ナデ	縦			ナデ平頭	200(口-胴)	240	残存1/4住内出土

Msf(無文の砂粒+繊維胎土土器群)

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	主な施文	施文の方向	施文の部位	資料に関する特徴	口唇形状	残存器高	口径	備考
298	21･22･24	8	15集中	M	sf	箆斜削り	箆削り･ナデ	横～斜			平頭	153(口-胴)	300	
299	74	8	25,33	M	s(f-)	箆横削り	ヨコナデ	横			欠損	130(頸-胴)		
300		8	24	M	sf	箆横削り	箆削り･ナデ	横～斜			欠損			
301		8	24	M	sf	箆横削り	削り	横			丸頭			
302		8	16,26	M	sf	箆横削り	削り	横			丸頭			
303		8	32	M	sf	箆横削り	箆削り	斜			半平頭			
304		8	18,25	M	sf	横削り	削り･ナデ	横			丸頭			
305	41･42	8	33中心	M	sf	箆横削り	粗い箆削り	横～縦			不定形	129(口-胴)	200	補修孔付く
306		8	42	M	sf	剥落	ヨコナデ	横			半平頭			
307	47	8	34	M	f(s-)	箆斜削り	削り	縦			不定形			未貫通孔あり
308		8	15	M	sf	横削り	斜め削り	斜			欠損			輪積上下良好残存
309		8	41	M	sf	横削り	横削り	横			欠損			内面暗褐色

Msf(無文の砂粒+繊維胎土土器群)

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	主な施文	施文の方向	施文の部位	資料に関する特徴	口唇形状	残存器高	口径	備考
310	18･20	8	18中心	M	sf	横削り	一部横ハケメ	横		鈍角尖底	欠損			
311	23･34	8	15集中	M	sf	ヨコナデ	横ナデ潰し	横		鈍角尖底	欠損	230(底)		内面暗褐色
312	28	8	17,18	M	sf	横削り	横削り	縦		中角尖底	欠損	80(底)		内面暗褐色
313	8	8	23	M	sf	ナデ箆削り	ナデ	縦横		中角尖底	欠損	125(底)		内面暗褐色
314		8	15	M	sf	削り	磨き	縦		鈍角尖底	欠損			
315	29	8	9	M	sf	横箆削り	斜め削り	縦横		平底(底径約5cm)	欠損	65(底)		上げ底気味
316	72	8	15	M	sf	横削り	斜～横削り	横～斜			欠損			
317	59	8	10集中	M	sf	斜め削り	ヨコナデ	横			欠損			318,321,369供出

Musf(無文の雲母+砂粒+繊維胎土土器)

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	主な施文	施文の方向	施文の部位	資料に関する特徴	口唇形状	残存器高	口径	備考
318	44	8,9	10集中	M	usf	横削磨き	削り･ナデ	縦～斜			段付口縁	352(口-底近)	258	口縁最上部２段形状
319	19･26	8,9	35集中	M	usf	横削磨き	削り･ナデ	縦～横			半平頭	113(口-胴)	320	
320		9	10集中	M	us(f-)	ナデ	ナデ	横			斜外削ぎ			318,321,369供出
321		9	10集中	M	usf	剥落	ナデ	横			小段付口縁			318,320,369供出
322		8	8	M	usf	ナデ？	ナデ	横			段付口縁			
323		8	9,40	M	usf	ナデ	ナデ	横			段付口縁			補修孔付く
324		8	9	M	us(f-)	ナデ	ナデ	横			斜外削ぎ			
325		8	9	M	us(f-)	ナデ	ナデ	横～斜			丸頭			
326		8	34	M	usf	ヨコナデ	ナデ	横			弱外削ぎ			
327		8	17	M	usf	剥落	箆ナデ	横			斜外削ぎ			
328		8	24	M	us(f-)	剥落	ナデ	横			段付口縁			
329		8	34	M	usf	ナデ	ナデ	横			欠損			
330	31･32	8	48中心	M	usf	縦削り	削り	縦			欠損			内面暗褐色
331		8	41	M	usf	不明	不明	不明		尖底	欠損			内面暗褐色
332		8	9	M	usf	不明	不明	不明		尖底	欠損			内面暗褐色
333	7	8	9	M	usf	横削磨き	削り	横～斜		鋭角尖底	欠損	340(頸-尖底)		内面暗褐色
334	36	8	17	M	usf	不明	削り	横			欠損			内面暗褐色
335	33	8	32,33	M	usf	斜削り	削り	斜			欠損			
336		8	35	M	usf	不明	削り	横		尖底	欠損			内面暗褐色
337	14	8	8,9	M	usf	横削磨き	磨き	横			欠損			内面暗褐色
338	30	8	18	M	usf	縦削り	磨き	縦		中角尖底	欠損	75(底)		底面上内面暗褐色
339		8	47	M	usf	縦削り	磨き	縦		中角尖底	欠損	45(底)		尖端残存
340		8	8	M	usf	不明	削り	横		中角尖底	欠損			内面暗褐色
341		8	9	M	usf	不明	縦削り	縦		尖底	欠損			内面暗褐色

５・棒状工具施文の土器　B

BTs(沈線文が施文される、砂粒胎土土器)

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	主な施文	施文の方向	施文の部位	施文幅/原体形状･施文手法	口縁唇施文	残存器高	口径	備考
2	15	9	1,2住,27	BT	s	横削り	縦位暗文状沈線	縦位回転状	口縁部～胴部以下	0.5mm/浅沈線	なし	125(口一胴)	390	１号/２号住内出土
78	15	9	２住	BT	s	縦削り	縦位暗文状沈線	縦位回転状	胴部	0.8mm/浅沈線	欠損			２号住内出土
342		9	27	BT	s	横削り	縦位暗文状沈線	縦位回転状	胴部	0.5mm/浅沈線	欠損			同類集中地点出土

BTsf-1(棒施文具による沈線文を中心に施文される、砂粒+繊維胎土土器群その１)

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	繊維	内面調整	主な施文	施文の方向	施文の部位	施文幅/原体形状･施文手法	口縁唇施文	残存器高	口径	備考
343	9	8	33集中	BT	s(f-)	横貝殻条痕	矢羽沈線文様	逆時計回り	口縁部～胴部	7mm/半裁管沈線/刺突	半裁管刻み	302(口-底近)	298	外面も貝殻条痕調整
344	10	8	42中心	BT	s(f-)	横貝殻条痕	矢羽沈線文様	逆時計回り	口縁部～胴部	8.5mm/半裁管沈線･刺突	半裁管刻み	320(推定)		外面も貝殻条痕調整
345		8	41	BT	s(f-)	横貝殻条痕	半裁管刻み/2段		胴部	7mm/半裁管沈線･刺突	欠損			
346		8	41	BT	s(f-)	横貝殻条痕	半裁管刻み/2段		胴部	7mm/半裁管沈線･刺突	欠損			
347		8	41	BT	s(f-)	横貝殻条痕	半裁管刻み/2段		胴部	7mm/半裁管沈線･刺突	欠損			
348		8	33	BT	s(f-)	横貝殻条痕	矢羽沈線文様？		口縁部付近	7mm/半裁管沈線･刺突	欠損			
349		8	49	BT	s(f-)	横貝殻条痕	半裁管刻み/3段	2重に刺突	胴部	8.5mm/半裁管沈線･刺突	欠損			
350		8	22	BT	s(f-)	横貝殻条痕	半裁管刻み/2段		胴部	3mm/半裁管刺突	欠損			
351		8	23	BT	sf	剥落	口縁部刻/斜沈線		口縁部	1.5mm/角形沈線,5mm/半裁管刺突	半裁管刻み			
352		8	54	BT	sf	剥落	矢羽沈線文様？	縦～斜位	胴部	半裁管束？櫛歯状連続沈線	欠損			
353		8	43	BT	sf	剥落	矢羽沈線文様	垂下→斜位	胴部	半裁管束？櫛歯状連続沈線	欠損			
354		8	49	BT	sf	横貝殻条痕	矢羽沈線文様？	左下り斜位	胴部	半裁管束？櫛歯状連続沈線	欠損			
355		8	9	BT	s(f-)	横貝殻条痕	縦～斜貝殻条痕		胴部		欠損			外面も貝殻条痕調整
356		8	42	BT	s(f-)	横貝殻条痕	横貝殻条痕		胴部		欠損			外面も貝殻条痕調整
357		8	36	BT	sf	横貝殻条痕	横条痕		胴部		欠損			外面も貝殻条痕調整

BTsf-2(棒施文具による沈線文を中心に施文される、砂粒+繊維胎土土器群その２)

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	繊維	内面調整	主な施文	施文の方向	施文の部位	施文幅/原体形状･施文手法	口縁唇施文	残存器高	口径	備考
358		8	23,32	BT	s(f-)	横貝殻条痕	垂下沈線文様		胴部	1.5mm/平形沈線	欠損			
359		8	27	BT	sf	横貝殻条痕	垂下沈線文様		胴部	1.5mm/平形沈線	欠損			
360		8	34	BT	s(f-)	横貝殻条痕	垂下沈線文様		胴部	7mm/半裁管？沈線	欠損			
361		8	24	BT	s(f-)	横貝殻条痕	垂下沈線文様		胴部	1.5mm/平形沈線	欠損			

BTsf-3(棒施文具による沈線文を中心に施文される、砂粒+繊維胎土土器群その３)

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	主な施文	施文の方向	施文の部位	施文幅/原体形状･施文手法	口縁唇施文	残存器高	口径	備考
369	49～53	9	10集中	BT	s(f-)	横削り	半裁管斜沈線	縦→横→斜	口縁部～胴部	6.5mm/半裁管沈線	なし	250(口-底近)	228	319,320,321共出
370	48	8	16	BT	s(f-)	横箆削り	刺突/斜･縦沈線	平行→斜	口縁部	２mm/角形刺突･沈線	箆刻み/斜			内面に半裁管痕

BTsf-4(棒施文具による沈線文を中心に施文される、砂粒+繊維胎土土器群その４)

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	主な施文	施文の方向	施文の部位	施文幅/原体形状･施文手法	口縁唇施文	残存器高	口径	備考
371	11	8	18集中	BT	sf	横削り	半裁管沈線/刺突	右→左刺突	口縁部	7mm/半裁管沈線･刺突	なし	180(口-胴)	306	重三角文　372共伴
372	2	8	18集中	BT	sf	横削り	半裁管沈線/刺突	右→左刺突	口～胴上	7mm/半裁管沈線･刺突	なし	206(口-胴)	300	弧状文様　371共伴

第６表　縄文時代遺物属性表（５）

BTsf-4(棒施文具による沈線文を中心に施文される、砂粒+繊維胎土土器群その４)

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	主な施文	施文の方向	施文の部位	施文幅/原体形状・施文手法	口縁唇施文	残存器高	口径	備考
373		8	48	BT	sf	横削り	半裁管沈線/刺突	右→左刺突	口縁部？	7mm/半裁管沈線・刺突	欠損			
374		8	25	BT	f(s-)	横削り	半裁管沈線		口縁部？	7.5mm/半裁管沈線・刺突	欠損			

BTsf-5(棒施文具による沈線文を中心に施文される、砂粒+繊維胎土土器群その５)

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	主な施文	施文の方向	施文の部位	施文幅/原体形状・施文手法	口縁唇施文	残存器高	口径	備考
375		8	10	BT	f(s-)	横筮削り	細隆線/変形斜沈線		口縁部	2mm/丸形刺突・沈線	丸刻み			
376		8	33	BT	f(s-)	剥落	半裁管沈線		口縁部	5mm/半裁管沈線	なし			
377		8	27	BT	f(s-)	剥落	細隆線/沈線		頸部？	5mm/半裁管沈線	欠損			
378		8	27	BT	f(s-)	剥落	変形斜沈線		口縁部？	２mm/丸形沈線	欠損			

BTsf-6(棒施文具による沈線文を中心に施文される、砂粒+繊維胎土土器群その他)

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	主な施文	施文の方向	施文の部位	施文幅/原体形状・施文手法	口縁唇施文	残存器高	口径	備考
362		8	32	BT	sf	横削磨き	斜沈線		口縁部	厚1.5mm/丸形刺突・沈線	丸刻み/斜			
363		7	41	BT	sf	剥落	斜沈線		口縁部	3.5mm/半裁管沈線	裏に刻み			
364		8	42	BT	sf	剥落	連続刺突		胴部？	4mm/三つ又状？刺突	欠損			同工具で条痕
365		8	24	BT	sf	横貝殻条痕	斜沈線(矢羽状?)	斜　左←右	口縁部	1.5mm幅平形沈線具	筮刻み/斜			
366		8	42	BT	sf	横削り	斜沈線		口縁部	1～2mm丸形沈線具(浅)	斜沈線			波状口縁か
367		8	34	BT	s(f-)	剥落	交差沈線	斜　左→右	胴部？	半裁管束状？櫛歯状工具	欠損			
368		8	48	BT	sf	横削り	半裁管沈線・刺突	右→左刺突	口縁部？	7mm幅半裁管沈線具・刺突具	欠損			

Btusf-1(棒施文具による沈線文を中心に施文される、砂粒+繊維+雲母胎土土器群その１)

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	主な施文	施文の方向	施文の部位	施文幅/原体形状・施文手法	口縁唇施文	残存器高	口径	備考
379	17	8	24中心	BT	sf(u-)	横貝殻条痕	渦巻状沈線文様		口縁部～(底部)	1.5mm/丸形沈線	なし	110(推定)	180	頸部波状沈線

BTusf-2（棒施文具による沈線文を中心に施文される、雲母+砂粒+繊維胎土土器群その２）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	主な施文	施文の方向	施文の部位	施文幅/原体形状・施文手法	口縁唇施文	残存器高	口径	備考
380	73	8	42他	BT	usf	横削り	綾杉状沈線文様	逆時計回り	口縁部～胴部	7mm/半裁管沈線,1mm/半裁部？沈線	半裁管刻み	190(口-胴)		
381		8	34	BT	usf	横削り	綾杉？沈線文様		口縁部	1.5mm/角形沈線,5mm半裁管刺突具	半裁管刻み			380と同一か
382		7,8	31,47	BT	usf	横削り	口縁刺突/斜沈線		口縁部	1.mm/角形沈線,4mm半裁管刺突具	半裁管刻み			380と同一か
383		8,9	33	BT	usf	剥落	綾杉状沈線文様		胴部	7mm/半裁管沈線,1mm幅角形沈線具	欠損			380と同一か
384		8	34	BT	usf	剥落	綾杉？沈線文様		胴部	1.5mm/角形沈線,7mm半裁管沈線具	欠損			380と同一か
385		8	35	BT	usf	ヨコナデ	綾杉？沈線文様	斜→縦	胴部	7mm/半裁管沈線,1mm幅角形沈線具	欠損			380と同一か
386		8	47	BT	usf	横削り	綾杉？沈線文様		胴部	7mm/半裁管沈線	欠損			380と同一か
387		8	24	BT	usf	横削り	縦位連続沈線文		口縁部	7.5mm/半裁管沈線・刺突具	半裁管刻み			
388		8	23	BT	usf	剥落	縦位連続沈線文		口縁部	7mm/半裁管刺突,1.5mm幅角形沈線具	半裁管刻み			388と同一か
389		8	23	BT	usf	剥落	縦位連続沈線文		胴部	7mm/半裁管沈線	欠損			388と同一か
390		7	23	BT	usf	剥落	縦位連続沈線文		胴部	1.5mm/角形沈線	欠損			388と同一か
391		8	23	BT	usf	横削り	縦位連続沈線文		胴部	1mm/角形沈線	欠損			388と同一か
392		8	24	BT	usf	横削り	縦位連続沈線文		胴部	1mm/角形沈線	欠損			388と同一か
393		8	23	BT	usf	横削り	縦位連続沈線文		胴部	1mm/角形沈線	欠損			388と同一か
394		8	23	BT	usf	剥落	縦位連続沈線文		胴部	1mm/角形沈線	欠損			388と同一か
395		8	23	BT	usf	剥落	縦位連続沈線文		胴部	1mm/角形沈線	欠損			388と同一か
396		8	24	BT	usf	剥落	縦位連続沈線文		胴部	1mm/角形沈線	欠損			388と同一か
397		8	23	BT	usf	剥落	縦位連続沈線文		胴部	1.5mm/角形沈線	欠損			388と同一か
398	35	8	39	BT	usf	横削り	綾杉斜沈線文様		口縁部	1.5mm/角形沈線,5mm半裁管刺突	半裁管刻み			

BTusf-3（棒施文具による沈線文を中心に施文される、雲母+砂粒+繊維胎土土器群　その３）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	主な施文	施文の方向	施文の部位	施文幅/原体形状・施文手法	口縁唇施文	残存器高	口径	備考
399	4	8	35中心	BT	usf	横筮削り	刺突・格子沈線	左→右	口縁部	厚1.5mm/筮状刺突・沈線,5mm/丸沈線	ハの字刻み	390(口-底近)	336	炭化物付着
400	3	8	9中心	BT	usf	横条痕	角押・格子沈線	左→右	口縁部	2mm/半裁管角押・沈線,1mm/沈線	縦連続押圧	282(口-胴)	330	
401	40	8,9	18,36	BT	usf	横削磨き	斜・波状沈線	斜→平行	口縁部	2mm/平形刺突,沈線	ハの字刻み			
402	16	8	43中心	BT	usf	横削り	平行・波状沈線	横　左→右	口縁部	4mm/丸形沈線	欠損			
403		8	18	BT	usf	横筮削り	斜沈線		口縁部	3mm/円形沈線・刺突	ハの字刻み			
404		8	36	BT	usf	横筮削り	刺突・斜沈線		口縁部	厚1mm/筮状刺突・沈線	筮刻み/斜			
405		9	2	BT	usf	横筮削り	刺突・格子沈線		口縁部	厚1mm/筮状刺突・沈線	筮刻み/斜			
406		8	42	BT	usf	剥落	斜・波状沈線	横　左→右	口縁部	4mm/半裁管状角押,2.5mm/沈線	欠損			
407		8	35	BT	usf	剥落	波状沈線		頸部	3mm幅丸形沈線具	欠損			

BKusf（棒施文具による角押・刺突文を中心に施文される、雲母+砂粒+繊維胎土土器群）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	主な施文	施文の方向	施文部位(文様帯)	施文幅/原体形状・施文手法	口縁唇施文	残存器高	口径	備考
408	5	8	9集中	BK	usf	横削磨き	刺突/角押/沈線	横　左→右	口縁部	厚1～2mm筮刺突,4mm/平形角押/沈線	ハの字刻み	422（口-底近）	400	波状口縁,波状沈線
409	61	8	9,17	BK	usf	横削磨き	角押	横　左→右	口縁部	3mm/丸形角押	文様なし			
410	43	8	2,9	BK	usf	剥落	角押	横　左←右	口縁部	4mm/丸形角押	文様なし			
411		8	18	BK	usf	横削り	刺突/角押	横　左→右	口縁部	厚1.5mm/筮刺突,4mm/半裁管状角押	ハの字刻み			
412		8	9	BK	usf	横削り	刺突/角押	横　左→右	口縁部	厚1.5mm/筮刺突,4mm/丸形角押	筮刻み/斜			
413		8	35	BK	usf	横削磨き	刺突/角押	横　左→右	口縁部	3mm/平形角押	筮刻み/斜			
414		8	8	BK	usf	剥落	刺突/角押	横　左→右	口縁部	3.5mm/丸形刺突,角押	筮刻み/斜			
415		8	16	BK	usf	横削磨き	刺突/角押	横　左→右	口縁部	厚1mm/筮状刺突,4mm/丸形角押	筮刻み/斜			
416		8	41	BK	usf	横削磨き	刺突/角押	横　左→右	口縁部	厚1mm/筮状刺突,4mm/丸形角押	筮刻み/斜			
417		8	27	BK	usf	横削磨き	角押	横　左→右	口縁部	5mm/丸形角押	欠損			
418		8	18	BK	usf	横削り	角押	横　左→右	口縁部	4mm/丸形角押	欠損			
419		8	39	BK	usf	剥落	角押	横　左→右	口縁部	5mm/平形角押(尖端やや丸い)	欠損			
420		8	18	BK	usf	横削磨き	角押	横　左→右	口縁部	4mm/平形角押	欠損			
421		8	17	BK	usf	横削磨き	角押	横　左→右	口縁部	3mm/丸形角押	欠損			
422		9	36	BK	usf	横削り	角押	横　左→右	口縁部	4mm/丸形角押	欠損			
423		8	26	BK	usf	横削り	角押	横　左→右	口縁部	5mm/平形角押(尖端やや丸い)	欠損			
424		8	9	BK	usf	横削り	角押～沈線	横　左→右	口縁部	4mm/半裁管角押～沈線	欠損			
425		8	35	BK	usf	横貝殻条痕	角押	左→右	口縁部？	5mm/丸形角押	欠損			
426		8	18	BK	usf	横削り	刺突・断続角押	横　左→右	口縁部	2mm/丸形刺突・角押	筮刻み/斜			
427		8	10	BK	usf	横削り	断続角押	横 下方から	口唇直下以下	3mm/丸棒角押	断続角押			擬似絡条体圧痕か

６・条痕文土器　ＪＫ

JKusf（条痕文が施文される、雲母+砂粒+繊維胎土土器群）

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	主な施文	施文の方向	施文の部位	施文幅/原体形状・施文手法	口縁唇施文	残存器高	口径	備考
428	6	8	17集中	JK	usf	横削り	斜条痕	斜　左→右	口縁部一胴部	厚1mm筮状刺突具・非貝系条痕？	筮刻み/斜	414(推定)	316	430と同地点出土
429		8	34	JK	usf	横削り	斜条痕	斜め条痕		非貝系条痕？	欠損			同一個体か

7・絡条体圧痕文土器　R

Rsf （絡条体圧痕文が施文される、繊維+砂粒胎土土器群

遺物番号	個体番号	年度	出土G	文様	胎土特徴	内面調整	主な施文	施文の方向	施文の部位	条幅/巻付方向/巻付間隔/原体幅	口縁唇施文	残存器高	口径	備考
430	1	8	17集中	R	f(s-)	筮横削り	平行隆線+絡	横斜位連続	口縁部隆線上・胴部	R 3mm/逆時計廻り/4mm間隔/6cm	筮刻み/斜	188(口-胴)	330	炭化種子含む
431		8	15	R	f(s-)	筮横削り	絡条体圧痕	横斜位連続	口唇直下以下	L 1.5mm/時計廻り/2mm間隔/5cm超	丸刻み/直			
432		8	18	R	sf	ヨコナデ	絡条体圧痕	横位連続	口唇直下以下	R 3mm/不整逆時計廻り/2mm間隔	なし			
433		8	9	R	f(s-)	筮横削り	絡条体圧痕	横位連続	口唇直下以下	L 2mm/時計廻り/3mm間隔(強押付)	絡条体刻？			補修孔付く
434		8	49	R	f(s-)	筮横削り	絡条体圧痕	横位連続	口唇直下以下	R 2mm/逆時計廻り/2.5mm間隔	なし？			
435		8	15	R	f(s-)	筮横削り	絡条体圧痕	横位連続	口唇直下以下	L 0.8mm/時計廻り/2～3mm間隔	筮刻み/斜			
436		8	49	R	sf	筮横削り	平行隆線+絡	横位	口縁平行隆線上	L 0.8mm/時計廻り/2mm間隔	なし			

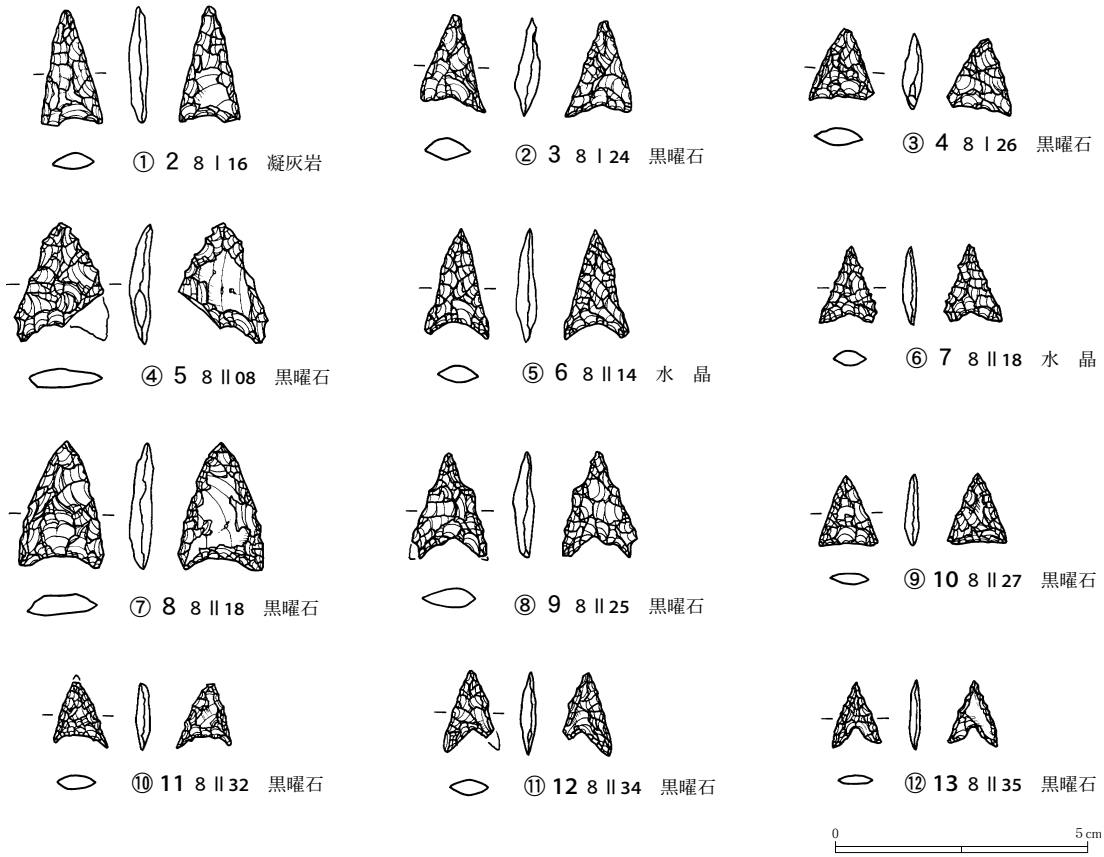
・土製品・石製装飾品

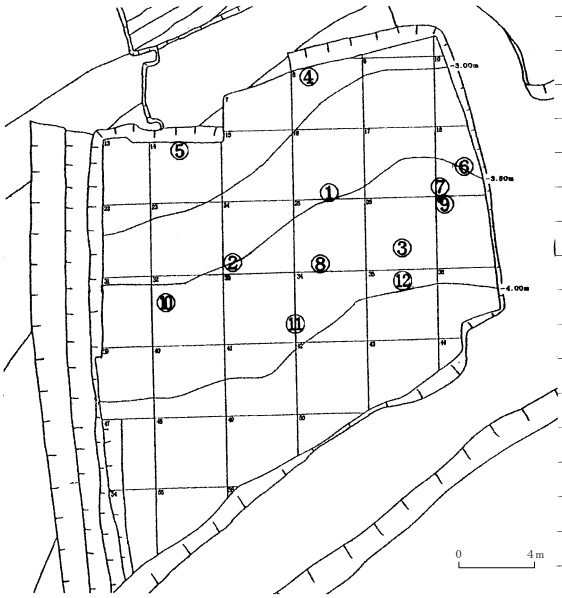
遺物番号	個体番号	年度	出土G	器種	胎土特徴	石材	調整	形状	穿孔	長辺	短辺	厚さ	備考
437		8	17	不明	u+		ナデ	洋ナシ形		3.0mm	2.75mm	7	土偶か？
438		8	16	垂飾			研磨	台形	片側穿孔	2.25mm	1.90mm	3.5	

第７表　縄文時代遺物属性表（６）

第２節　縄文時代の石器

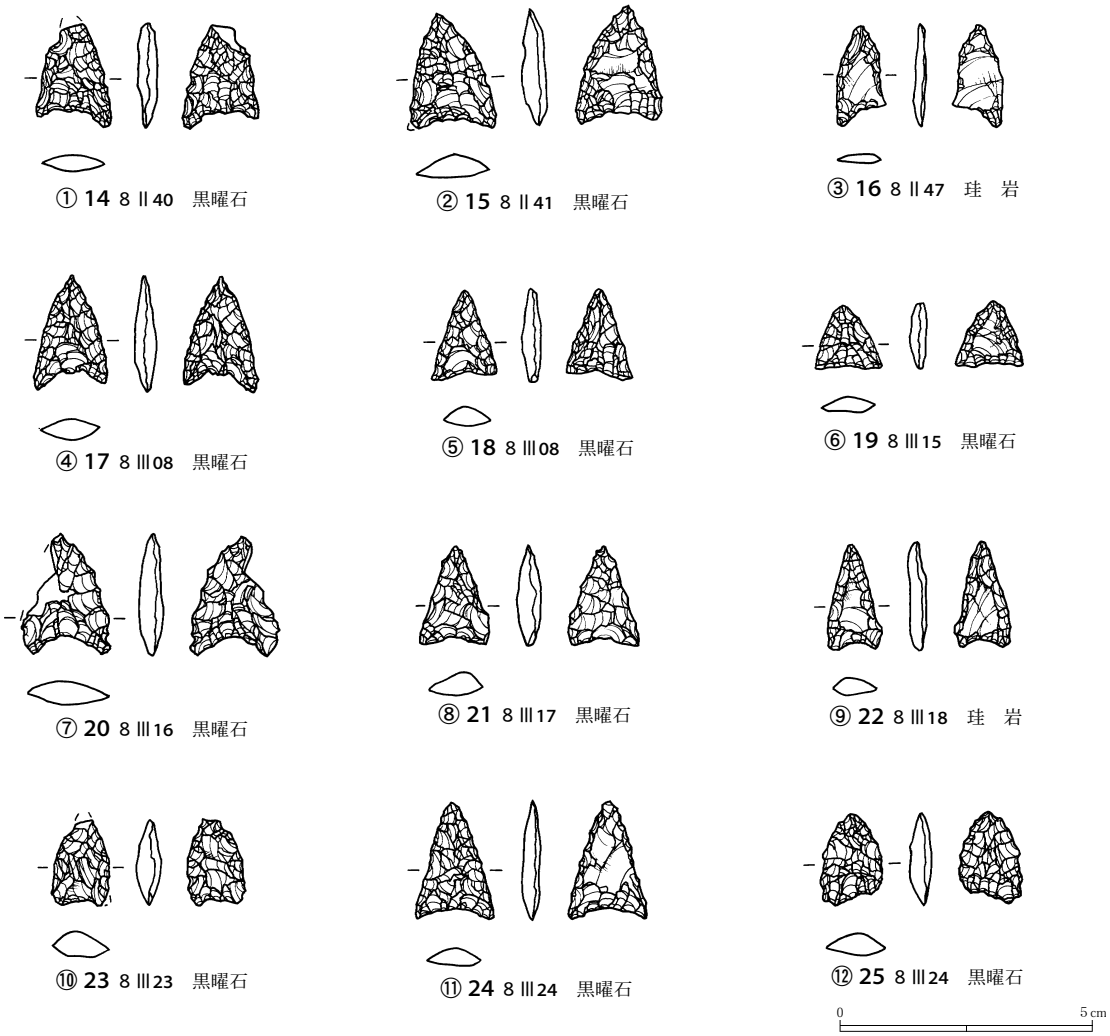
ここでは縄文時代の石器について、出土した遺物の実測図と出土位置を提示する。なお、各石器の説明については、第６章第３節の考察で併せて説明することにする。

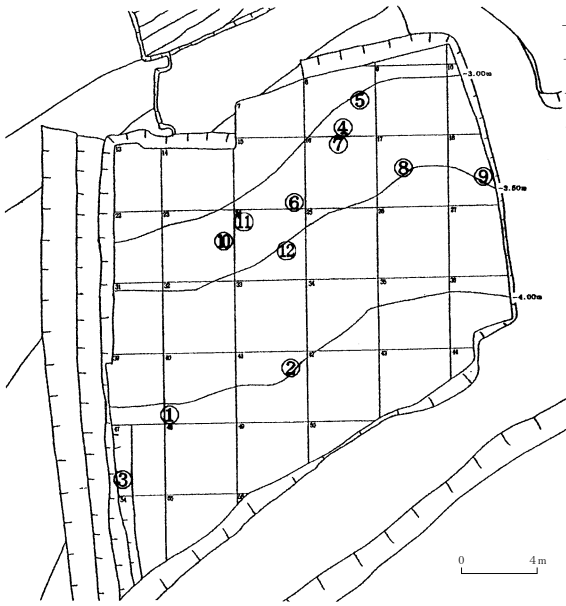




No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	16区画	372×	219×	−307.3
②	24区画	350×	20×	−290.8
③	26区画	303×	233×	−339
④	8区画	100×	90×	−244
⑤	14区画	135×	180×	−193
⑥	18区画	281×	166×	−308
⑦	18区画	370×	18×	−325
⑧	25区画	380×	158×	−349
⑨	27区画	5×	5×	−329
⑩	32区画	184×	111×	−330
⑪	34区画	320×	0×	−372
⑫	35区画	20×	233×	−386

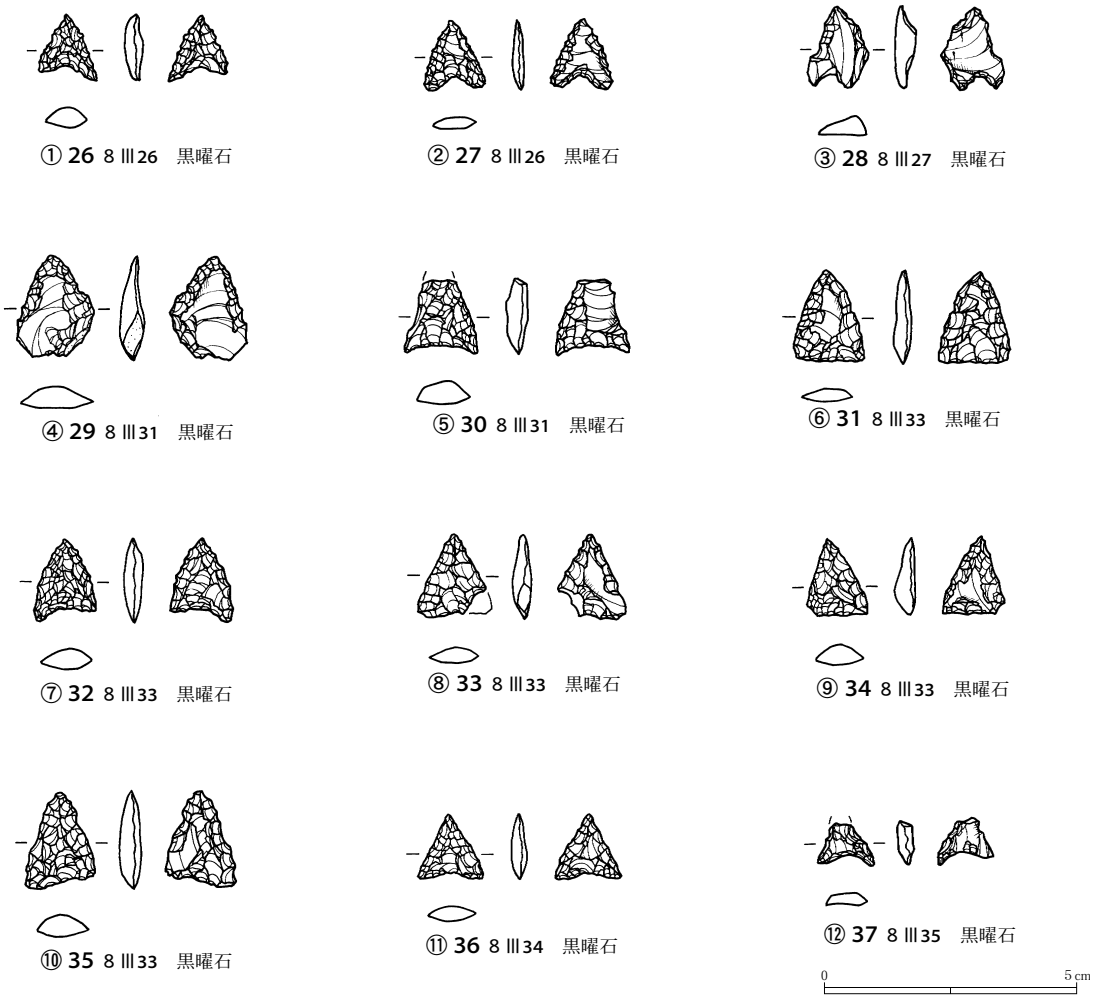
第136図　出土石器と出土位置 1（石器 2/3，分布図 1/400）

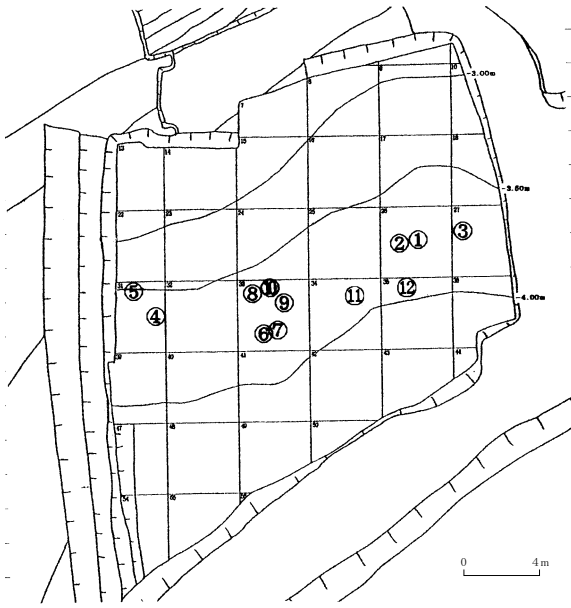




No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	40区画	365×	5×	−380
②	41区画	100×	310×	−377
③	47区画	320×	120×	−423
④	8区画	385×	204×	−291
⑤	8区画	210×	308×	−284
⑥	15区画	375×	354×	−315
⑦	16区画	6×	205×	−294
⑧	17区画	186×	148×	−344
⑨	18区画	240×	176×	−334
⑩	23区画	185×	360×	−311.5
⑪	24区画	66×	35×	−301
⑫	24区画	265×	320×	−331

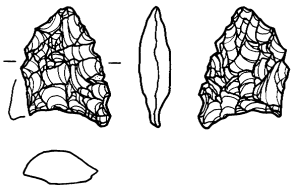
第137図　出土石器と出土位置 2 (石器 2/3，分布図 1/400)



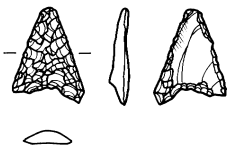


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	26区画	197×	230×	−363
②	26区画	210×	103×	−370
③	27区画	125×	80×	−372
④	31区画	259×	380×	−342
⑤	31区画	50×	190×	−335
⑥	33区画	295×	218×	−358
⑦	33区画	285×	238×	−365
⑧	33区画	69×	130×	−343.5
⑨	33区画	159×	288×	−366
⑩	33区画	30×	200×	−358
⑪	34区画	93×	260×	−388
⑫	35区画	33×	145×	−401

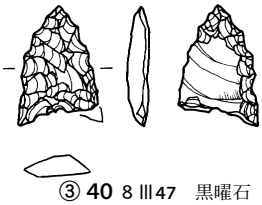
第138図　出土石器と出土位置 3（石器 2/3，分布図 1/400）



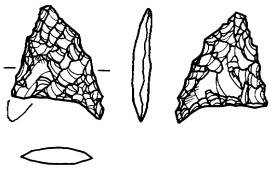
① 38 8 Ⅲ36 黒曜石



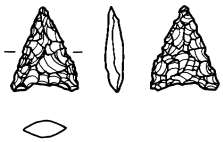
② 39 8 Ⅲ42 珪 岩



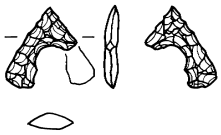
③ 40 8 Ⅲ47 黒曜石



④ 41 8 Ⅳ02 黒曜石



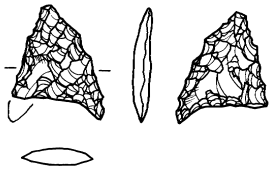
⑤ 42 8 Ⅳ19 黒曜石



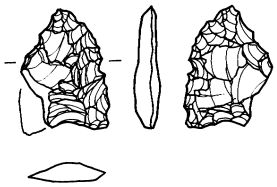
⑥ 43 8 Ⅳ34 凝灰岩

⑦ 32 8 Ⅳ33 黒曜石

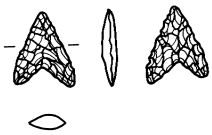
⑧ 45 9 Ⅰ09 黒曜石



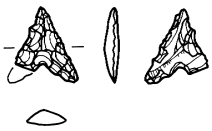
⑨ 46 9 Ⅰ09 黒曜石



⑩ 47 9 Ⅰ10 珪 岩

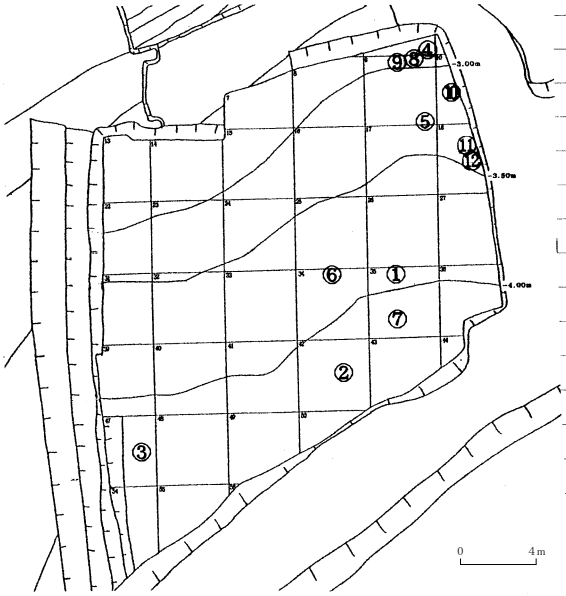


⑪ 48 9 Ⅰ18 水 晶



⑫ 49 9 Ⅰ18 黒曜石

0 5cm



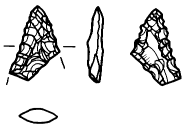
No.	区画	タテ× ヨコ× 高さ
①	36区画	21×161×−383
②	42区画	197×257×−396
③	47区画	265×330×−417
④	2区画	398×375×−295.5
⑤	9区画	385×369×−336
⑥	34区画	6×207×−384
⑦	35区画	296×170×−411.5
⑧	9区画	2×290×−299
⑨	9区画	25×180×−306
⑩	10区画	180×118×−333
⑪	18区画	180×200×−361
⑫	18区画	205×220×−363

第 139 図　出土石器と出土位置 4 (石器 2/3，分布図 1/400)

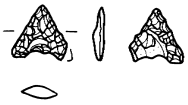
① 50 9 Ⅰ 25　黒曜石

② 51 9 Ⅰ 33　黒曜石

③ 52 9 Ⅱ 09　黒曜石

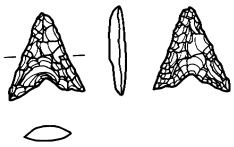


④ 53 9 Ⅱ 09　黒曜石



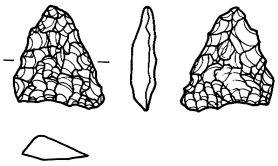
⑤ 55 9 Ⅱ 16　黒曜石

⑥ 56 9 Ⅱ 17　黒曜石

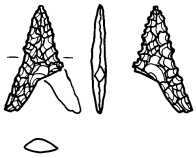


⑦ 57 9 Ⅱ 17　水　晶

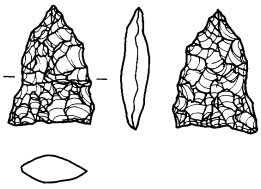
⑧ 58 9 Ⅱ 24　黒曜石



⑨ 59 9 Ⅱ 26　黒曜石



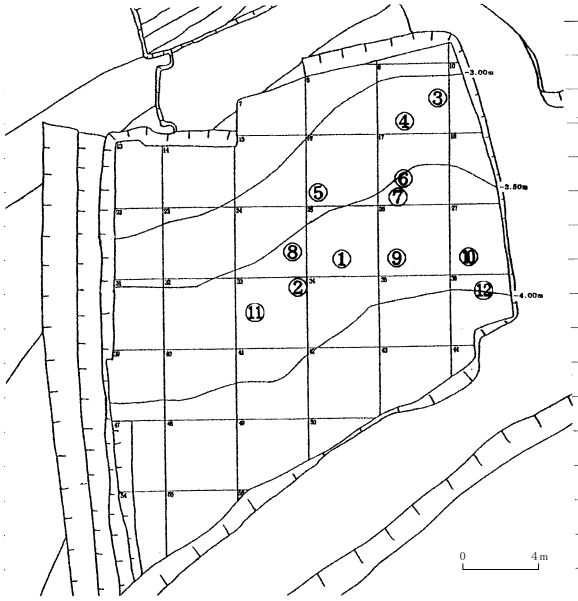
⑩ 60 9 Ⅱ 27　黒曜石



⑪ 61 9 Ⅱ 33　水　晶

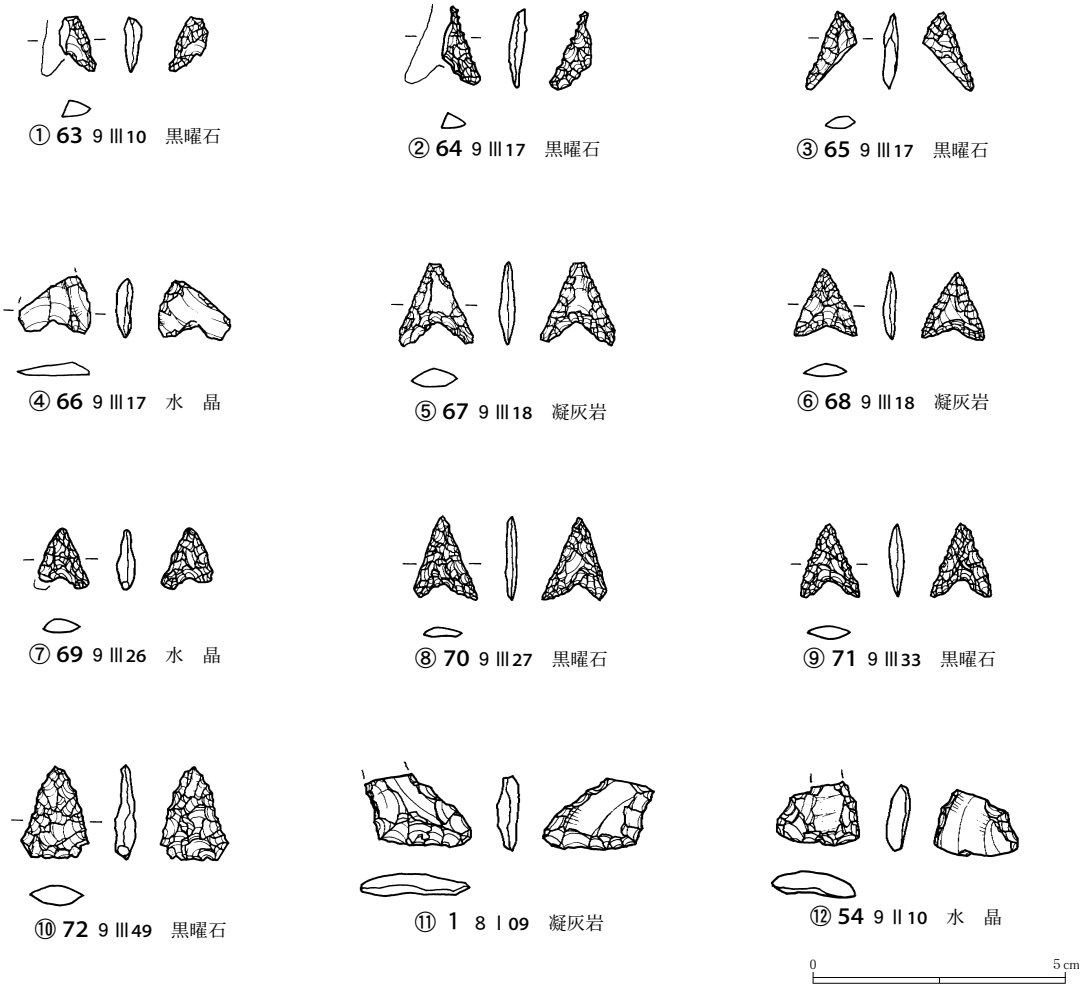
⑫ 62 9 Ⅱ 36　黒色頁岩

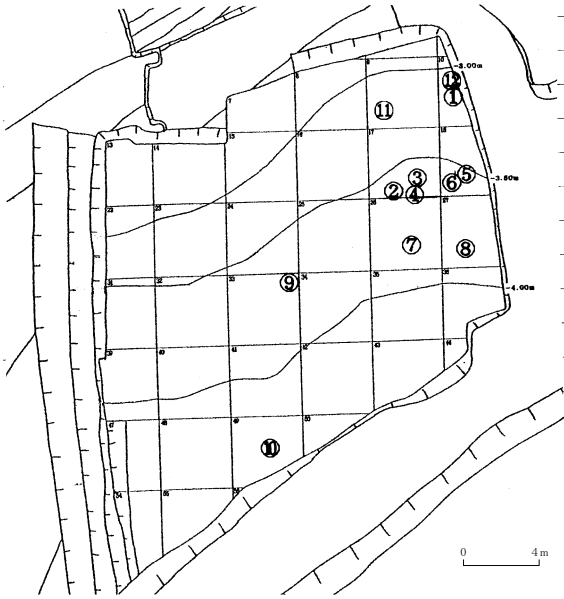
0　5 cm



No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	25区画	320×	194×	−373
②	33区画	40×	377×	−373
③	9区画	200×	365×	−343
④	9区画	340×	150×	−351
⑤	16区画	334×	57×	−356
⑥	17区画	255×	120×	−362
⑦	17区画	364×	123×	−369
⑧	24区画	231×	340×	−381
⑨	26区画	292×	106×	−391
⑩	27区画	320×	117×	−386
⑪	33区画	210×	114×	−385
⑫	36区画	88×	175×	−414

第 140 図　出土石器と出土位置 5（石器 2/3，分布図 1/400）

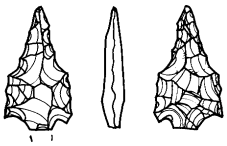




No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	10区画	224×	90×	−360
②	17区画	357×	167×	−373
③	17区画	263×	290×	−384
④	17区画	380×	270×	−386
⑤	18区画	288×	123×	−383
⑥	18区画	317×	66×	−387
⑦	26区画	280×	257×	−403
⑧	27区画	300×	146×	−407
⑨	33区画	45×	370×	−425
⑩	49区画	188×	214×	−467
⑪	9区画	290×	80×	−230
⑫	10区画	135×	98×	−354

第 141 図　出土石器と出土位置 6 (石器 2/3，分布図 1/400)

① 272 8Ⅳ35　黒曜石

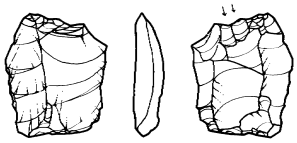


② 273 A区北西　ホルンフェルス

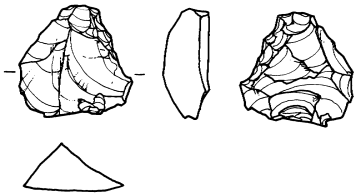
③ 274 9Ⅰ27　水　晶

④ 275 8Ⅱ47　凝灰岩

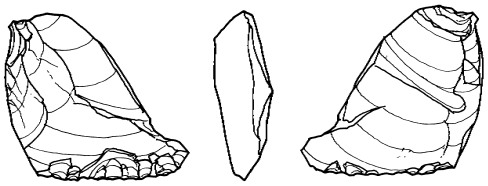
⑤ 276 8Ⅰ42　凝灰岩



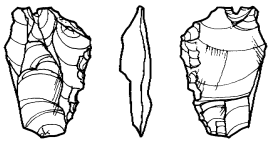
⑥ 277 8Ⅱ41　凝灰岩



⑦ 278 8Ⅰ33　凝灰岩

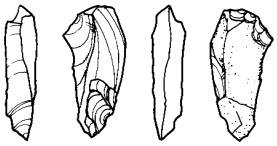


⑧ 279 8Ⅱ10　凝灰岩



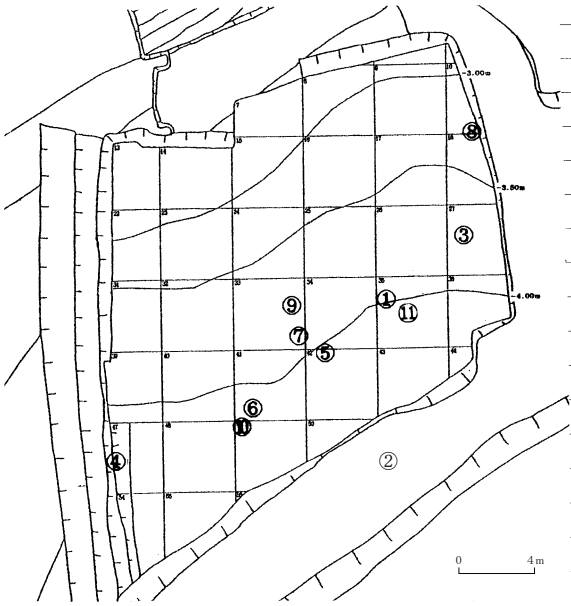
⑨ 280 8Ⅳ33　黒曜石

⑩ 281 8Ⅳ49　珪　岩



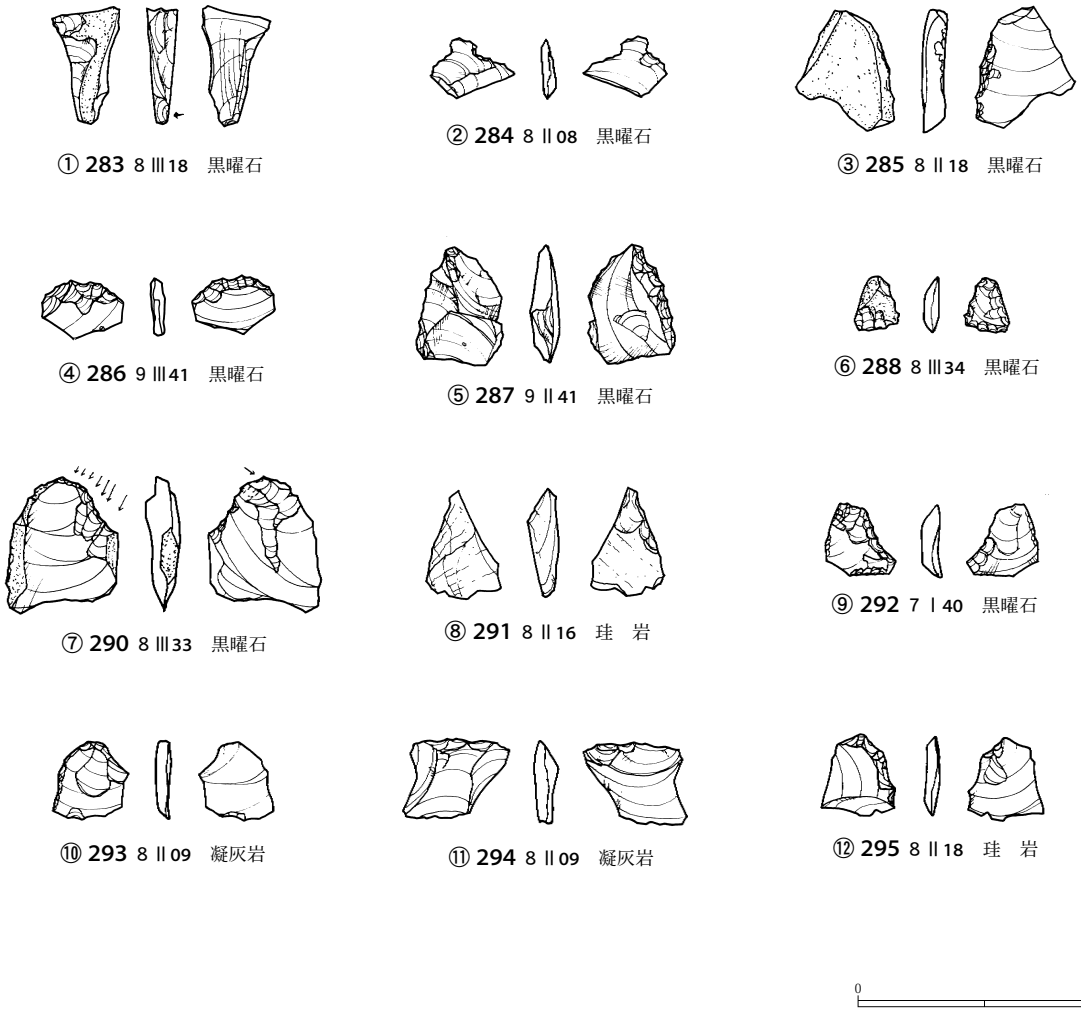
⑪ 282 8Ⅱ35　黒曜石

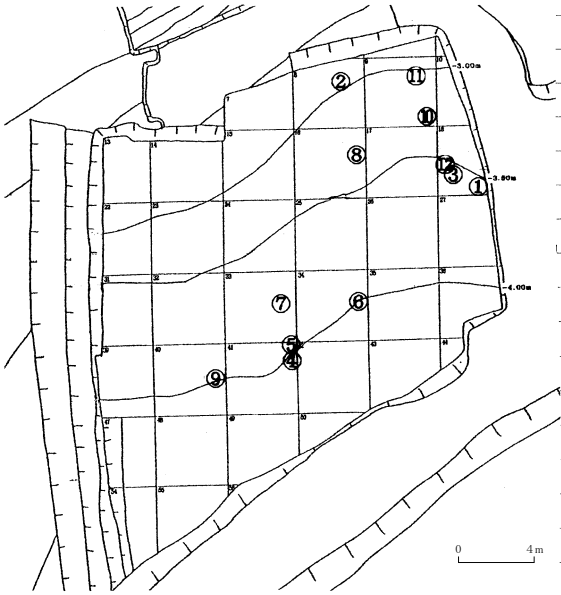
0　5cm



No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	35区画	128×	50×	−407.5
②	区画外出土			
③	27区画	150×	85×	−385
④	47区画	180×	120×	−400
⑤	42区画	5×	124×	−354
⑥	41区画	300×	120×	−384
⑦	33区画	320×	390×	−355
⑧	10区画	399×	116×	−303.5
⑨	33区画	175×	355×	−388
⑩	49区画	6×	8×	−394
⑪	35区画	190×	177×	−377

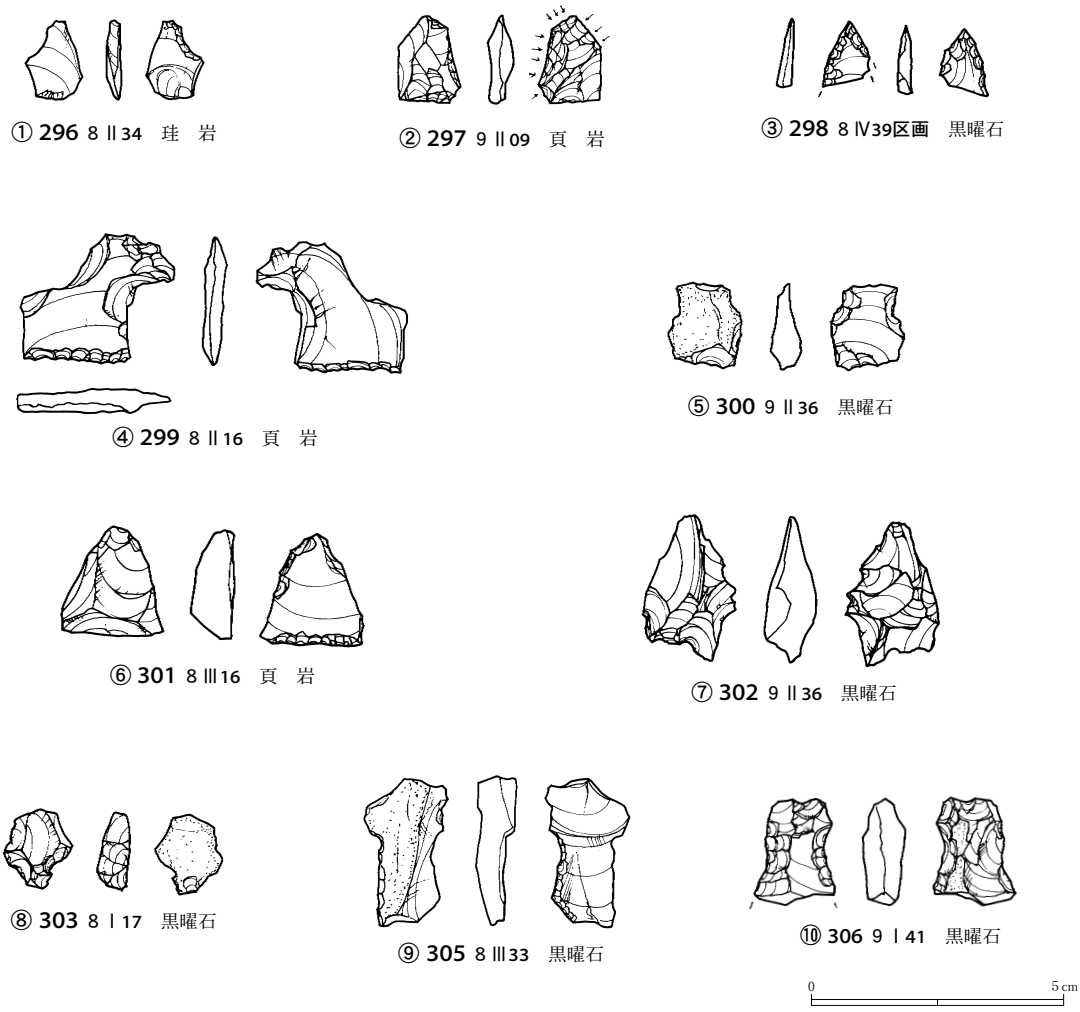
第142図　出土石器と出土位置 7（石器 2/3，分布図 1/400）

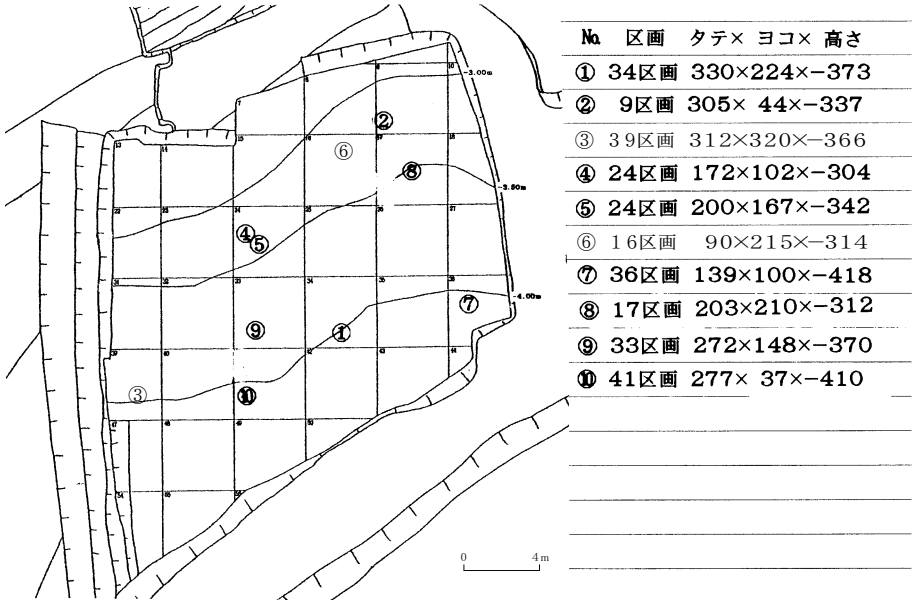




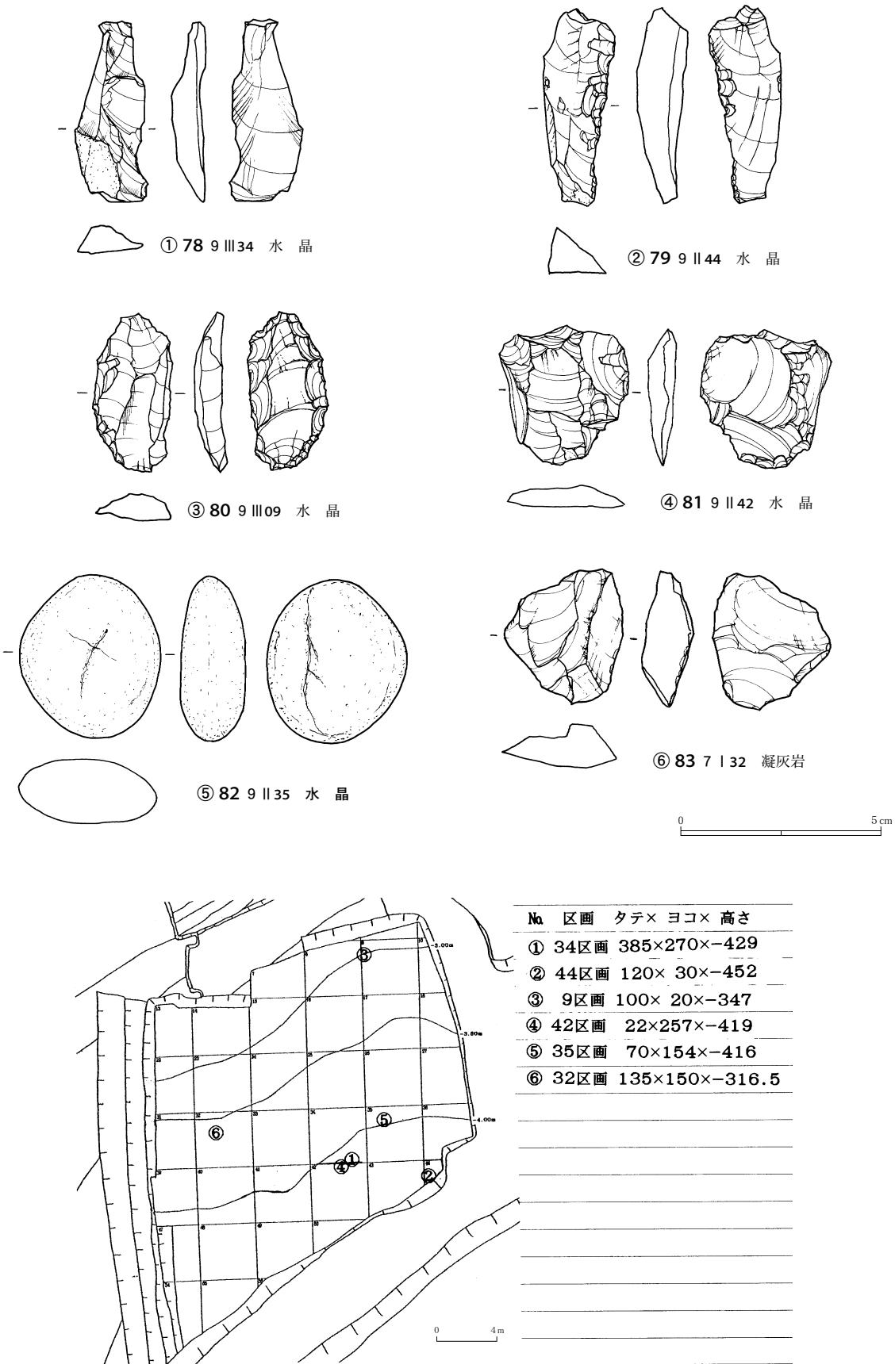
No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	18区画	370×	250×	−343
②	8区画	137×	279×	−248
③	18区画	266×	46×	−321
④	41区画	112×	375×	−426
⑤	41区画	3×	370×	−411
⑥	34区画	178×	361×	−385
⑦	33区画	188×	298×	−373
⑧	16区画	168×	377×	−339
⑨	40区画	175×	346×	−361.5
⑩	9区画	365×	380×	−304.5
⑪	9区画	100×	294×	−286
⑫	18区画	197×	40×	−330

第143図　出土石器と出土位置 8 (石器 2/3，分布図 1/400)





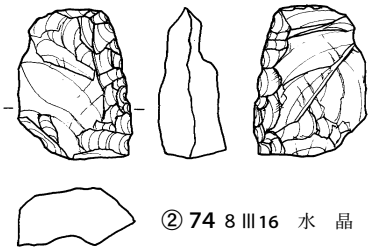
第 144 図　出土石器と出土位置 9（石器 2/3，分布図 1/400）



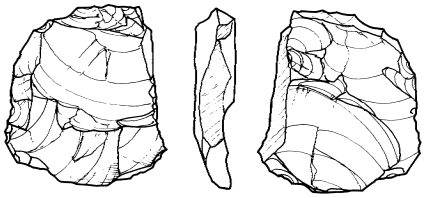
No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	34区画	385×	270×	−429
②	44区画	120×	30×	−452
③	9区画	100×	20×	−347
④	42区画	22×	257×	−419
⑤	35区画	70×	154×	−416
⑥	32区画	135×	150×	−316.5

第 145 図　出土石器と出土位置 10 (石器 2/3，分布図 1/400)

① 73 8 Ⅱ26 水 晶

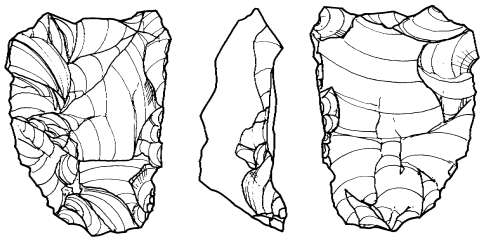


② 74 8 Ⅲ16 水 晶



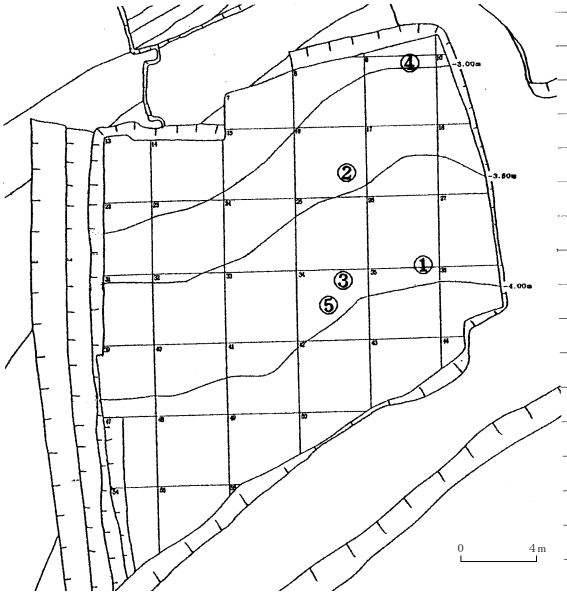
③ 76 9 Ⅱ34 水 晶

④ 75 9 Ⅱ09 水 晶



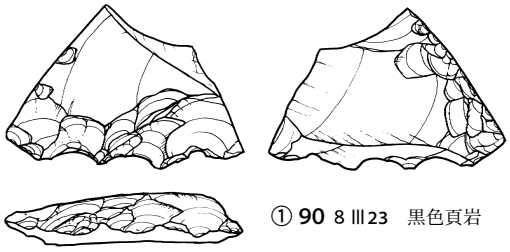
⑤ 77 9 Ⅱ34 水 晶

0 5cm

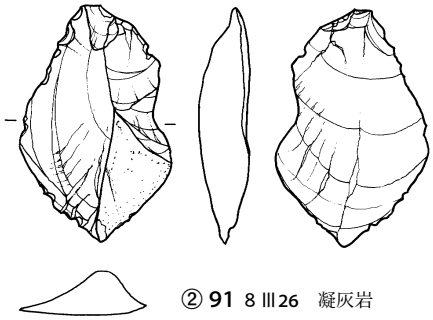


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	26区画	389×	285×	−383
②	16区画	240×	292×	−315.5
③	34区画	65×	240×	−391
④	9区画	66×	278×	−317
⑤	34区画	216×	156×	−405

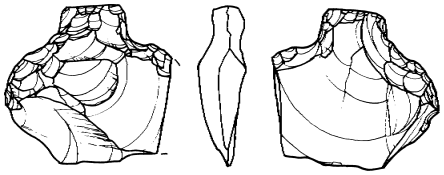
第146図　出土石器と出土位置 11 (石器 2/3，分布図 1/400)



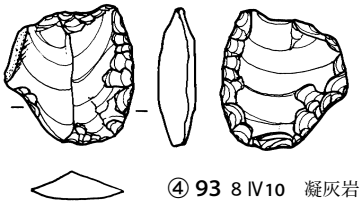
① 90 8 Ⅲ23　黒色頁岩



② 91 8 Ⅲ26　凝灰岩

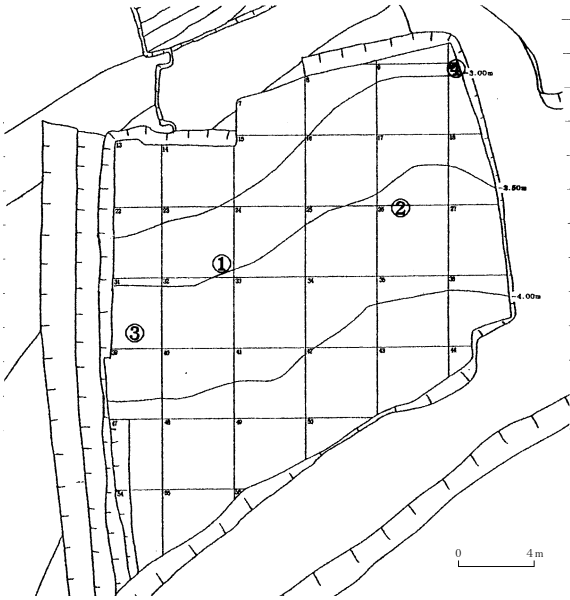


③ 92 8 Ⅲ31　凝灰岩



④ 93 8 Ⅳ10　凝灰岩

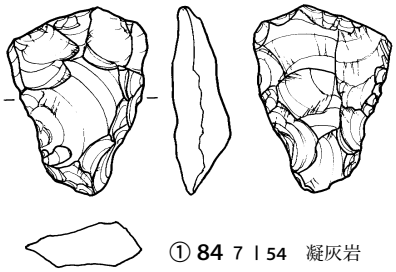
0　5 cm



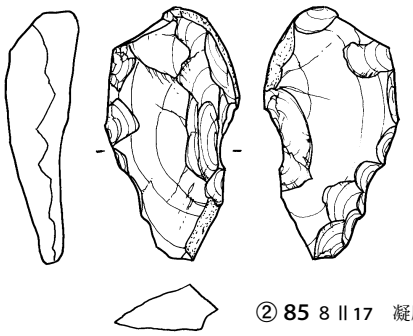
No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	23区画	335×	370×	−328
②	26区画	0×	125×	−353
③	31区画	330×	264×	−362
④	10区画	10×	23×	−295

第 147 図　出土石器と出土位置 12 (石器 2/3，分布図 1/400)

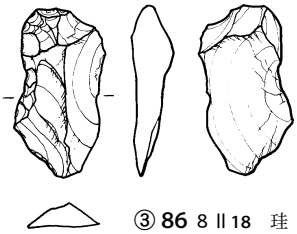
縄文発掘のきっかけの石器



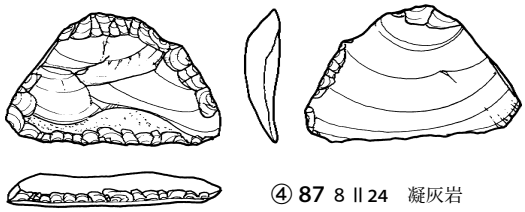
① 84 7 I 54 凝灰岩



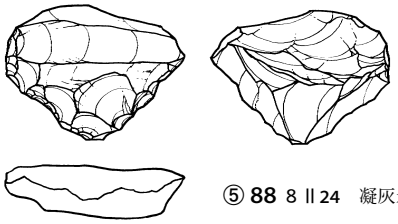
② 85 8 II 17 凝灰岩



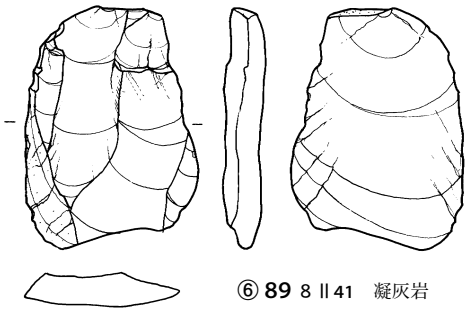
③ 86 8 II 18 珪 岩



④ 87 8 II 24 凝灰岩

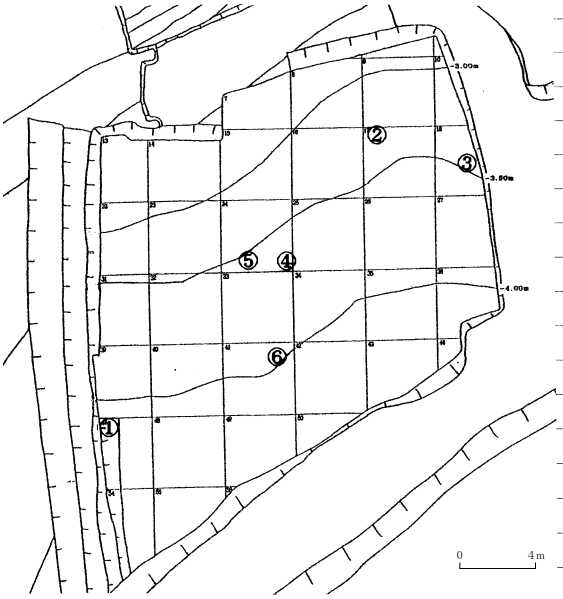


⑤ 88 8 II 24 凝灰岩



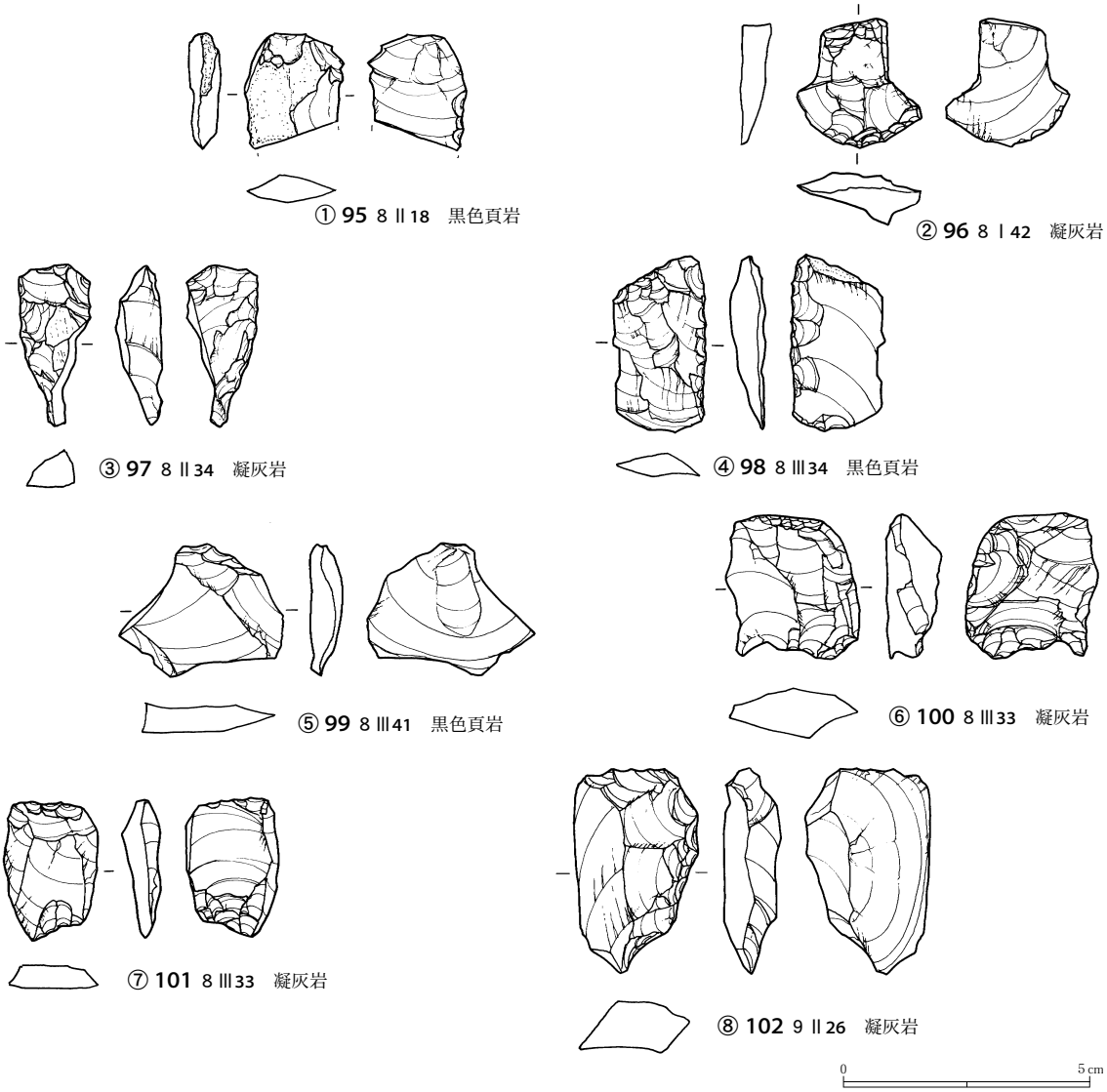
⑥ 89 8 II 41 凝灰岩

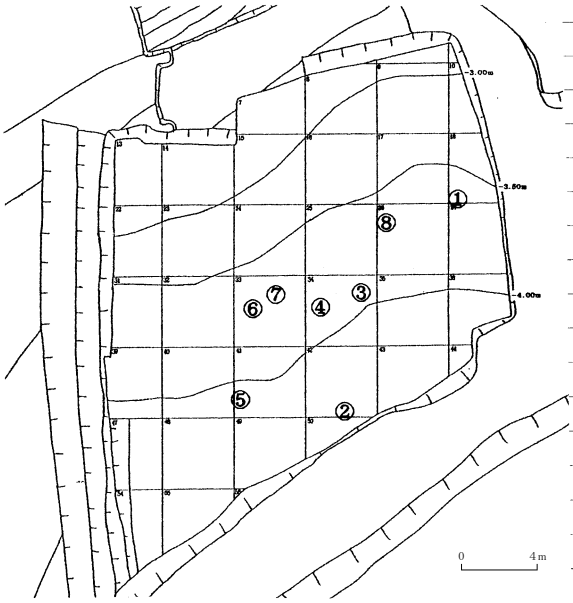
0 5cm



No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	54区画	不明		
②	17区画	10×	66×	−301
③	18区画	225×	195×	−311.5
④	24区画	362×	383×	−336
⑤	24区画	342×	130×	−363
⑥	41区画	88×	291×	−371

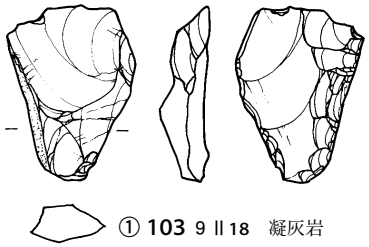
第148図　出土石器と出土位置 13 (石器 2/3，分布図 1/400)



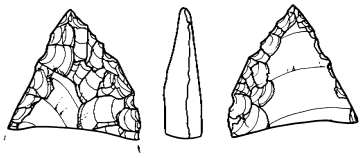


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	18区画	399×	46×	−345
②	42区画	380×	255×	−374
③	34区画	84×	302×	−358
④	34区画	174×	80×	−359
⑤	41区画	313×	21×	−390
⑥	33区画	183×	102×	−347
⑦	33区画	100×	258×	−354
⑧	26区画	116×	56×	−387

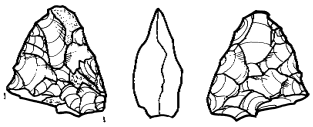
第 149 図　出土石器と出土位置 14 (石器 2/3，分布図 1/400)



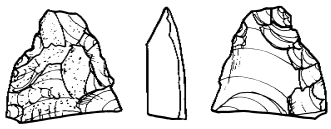
① 103 9 Ⅱ18　凝灰岩



② 107 8 Ⅰ16　珪　岩



③ 108 8 Ⅱ09　黒曜石



④ 109 9 Ⅲ18　黒曜石

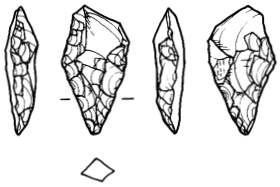
⑤ 110 8 Ⅰ42　黒曜石

⑥ 111 8 Ⅰ17　黒曜石

⑦ 112 9 Ⅰ10　黒曜石

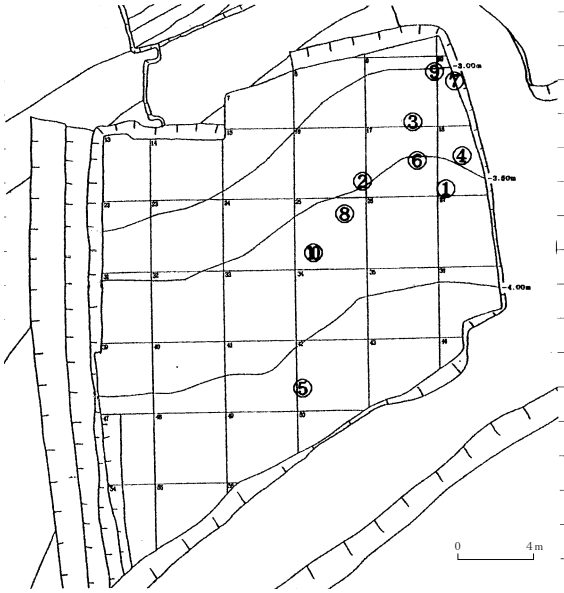
⑧ 113 8 Ⅱ25　珪　岩

⑨ 114 8 Ⅳ09　黒曜石



⑩ 115 8 Ⅰ25　凝灰岩

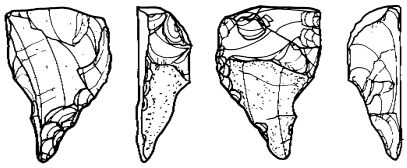
0　5cm



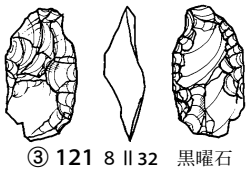
No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	18区画	372×	50×	−372
②	16区画	280×	390×	−304
③	9区画	386×	253×	−292
④	18区画	182×	165×	−393
⑤	42区画	285×	20×	−373
⑥	17区画	210×	286×	−313
⑦	10区画	135×	128×	−322
⑧	25区画	95×	280×	−325
⑨	9区画	105×	398×	−299
⑩	25区画	280×	120×	−320

第 150 図　出土石器と出土位置 15 (石器 2/3，分布図 1/400)

① 117 8Ⅳ09　珪　岩

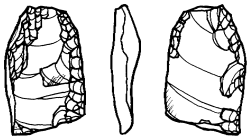


② 118 9Ⅲ16　珪　岩



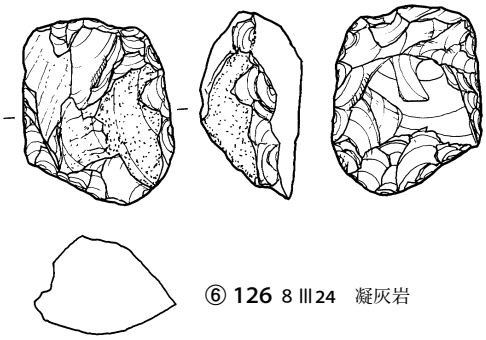
③ 121 8Ⅱ32　黒曜石

④ 122 8Ⅱ42　水　晶

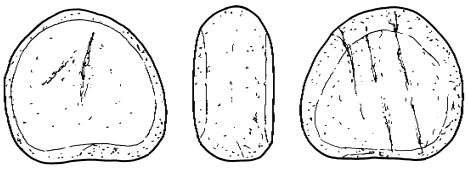


⑤ 125 8Ⅲ42　凝灰岩

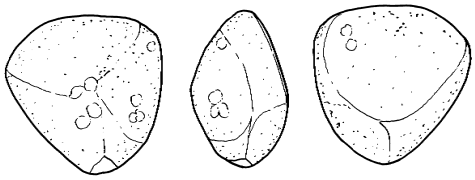
0　5cm



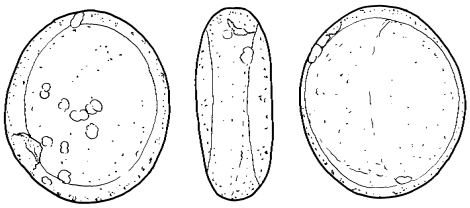
⑥ 126 8Ⅲ24　凝灰岩



⑦ 127 8Ⅳ10　砂　岩

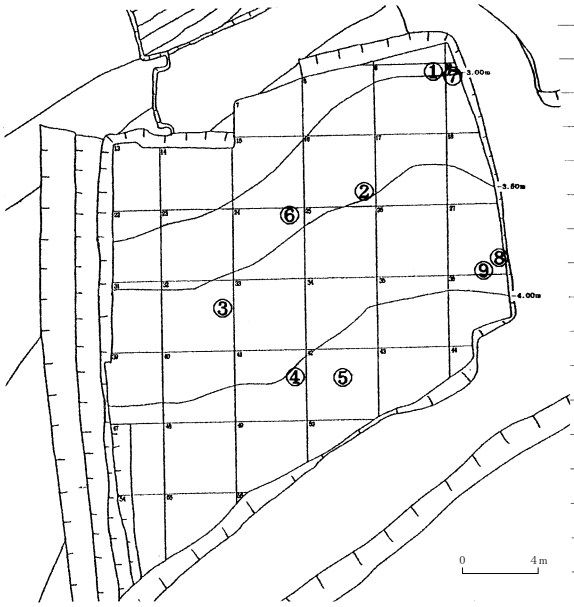


⑧ 128 9Ⅰ27　砂　岩



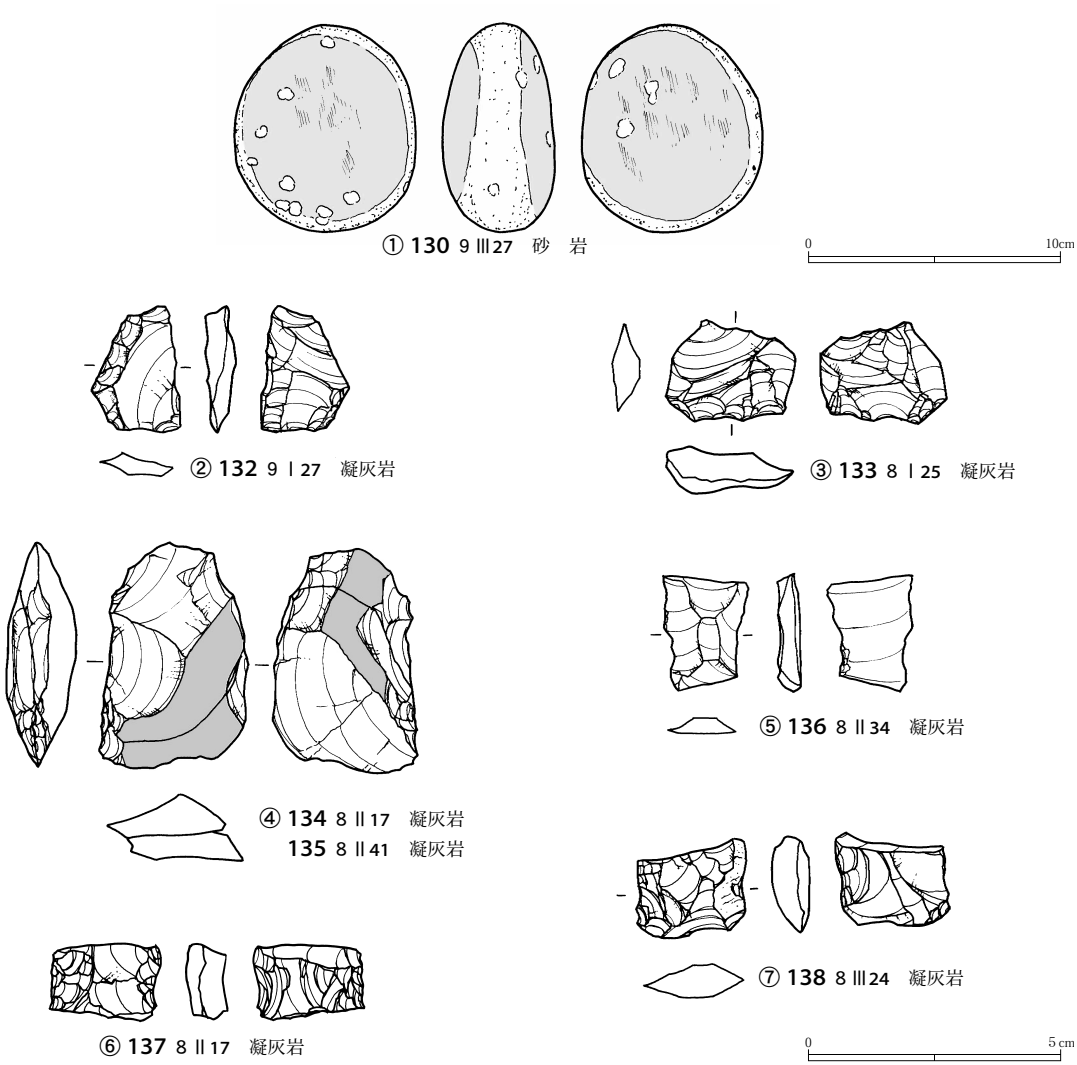
⑨ 129 9Ⅲ27　砂　岩

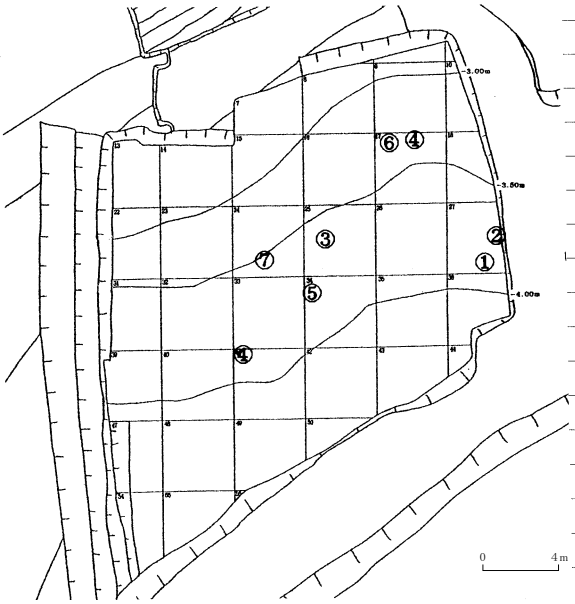
0　10cm



No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	9区画	56×	347×	−298
②	16区画	295×	344×	−364
③	32区画	150×	340×	−327.5
④	41区画	155×	380×	−383
⑤	42区画	184×	216×	−400
⑥	24区画	26×	324×	−316
⑦	10区画	70×	18×	−303
⑧	27区画	270×	330×	−373
⑨	27区画	379×	224×	−415

第 151 図　出土石器と出土位置 16 (石器 1/3・2/3，分布図 1/400)





No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	27区画	358×	235×	−417
②	27区画	188×	313×	−355
③	25区画	210×	110×	−297
④	41区画	15×	37×	−354
④	17区画	44×	235×	−315
⑤	34区画	104×	15×	−349
⑥	17区画	76×	107×	−309
⑦	24区画	328×	180×	−336.5

2点接合

第 152 図　出土石器と出土位置 17 (石器 1/3・2/3，分布図 1/400)

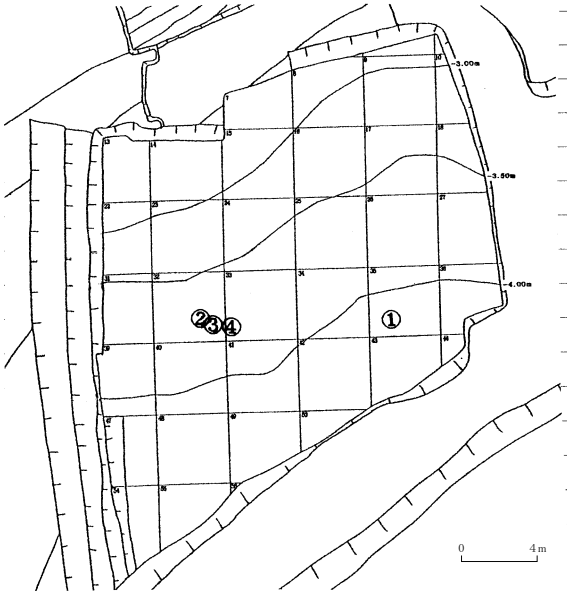
① 139 8 Ⅱ35　黒曜石

② 140 8 Ⅲ32　黒曜石

③ 141 8 Ⅱ326　黒曜石

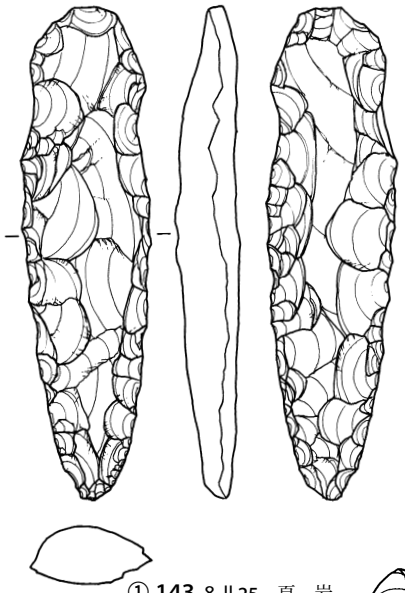
④ 142 8 Ⅲ33　水　晶

0　5 cm



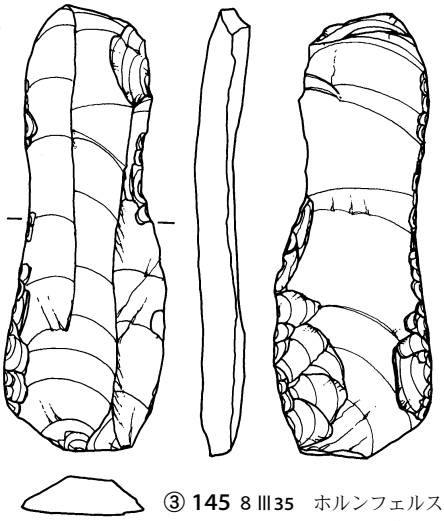
No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	35区画	330×	133×	−384
②	32区画	301×	364×	−353
③	32区画	301×	364×	−353
④	33区画	354×	18×	−389

第 153 図　出土石器と出土位置 18 (石器 2/3，分布図 1/400)



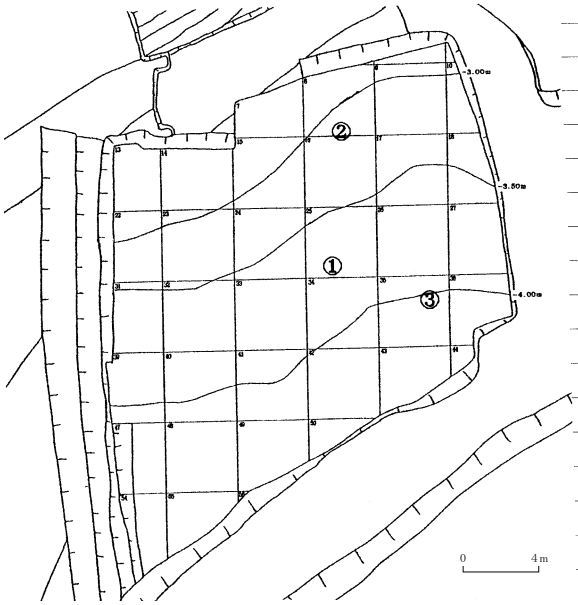
① 143 8 Ⅱ25 頁 岩

② 144 8 Ⅲ08 ホルンフェルス



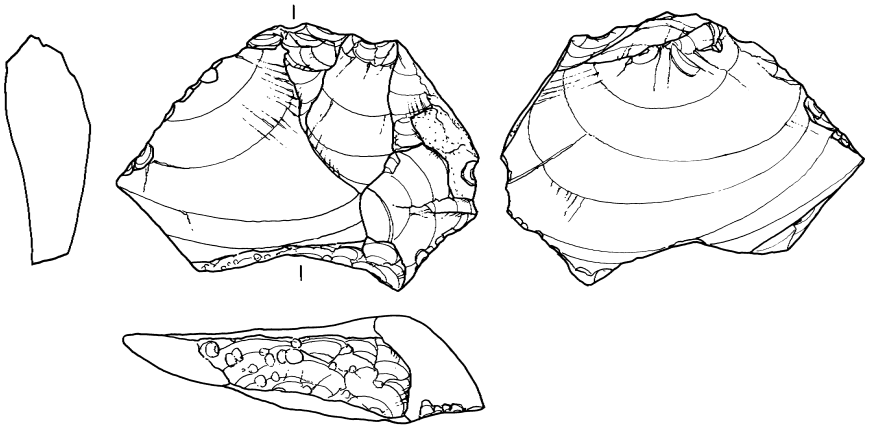
③ 145 8 Ⅲ35 ホルンフェルス

0 5cm

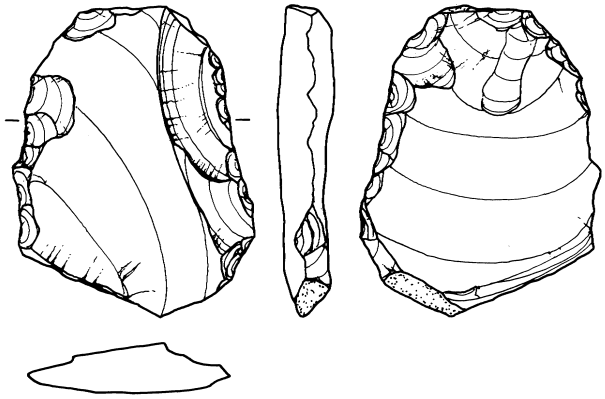


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	25区画	348×	120×	−344
②	8区画	398×	209×	−293
③	35区画	142×	279×	−404

第 154 図　出土石器と出土位置 19 (石器 2/3，分布図 1/400)

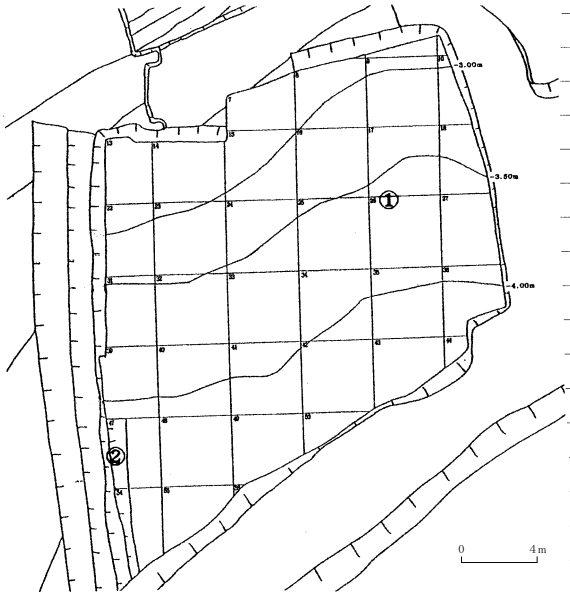


① 146 8 Ⅱ26 頁 岩



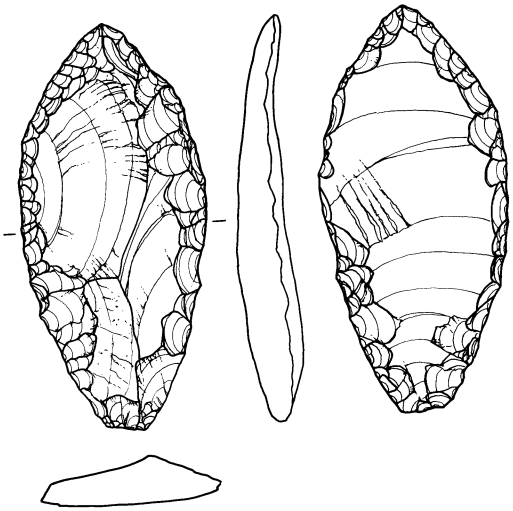
② 147 8 Ⅱ47 ホルンフェルス

0 5cm

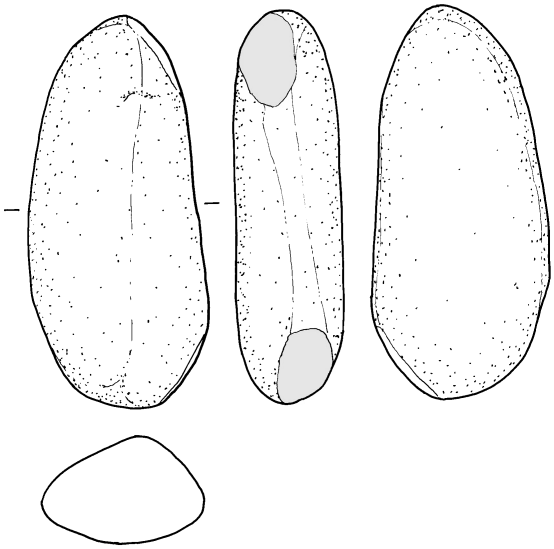


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	26区画	2×	135×	−336
②	47区画	235×	70×	−403

第 155 図　出土石器と出土位置 20 (石器 2/3，分布図 1/400)

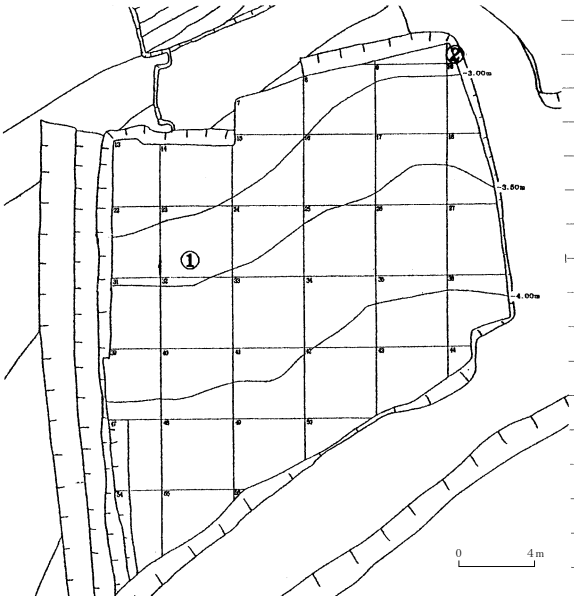


① 148 8 Ⅲ23　黒色頁岩



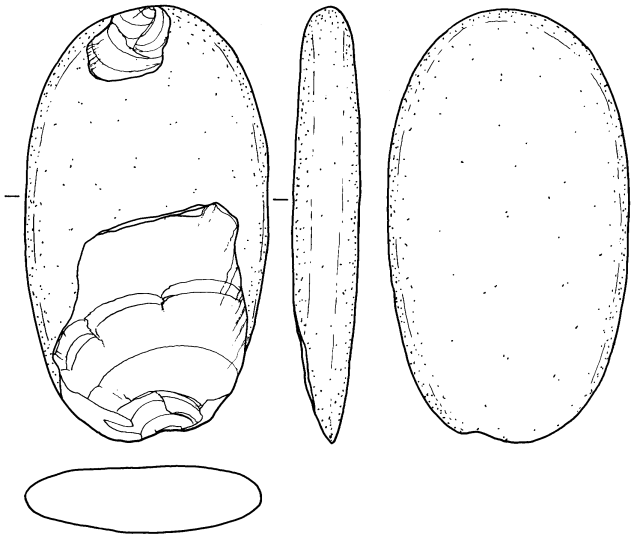
② 150 9 Ⅰ03　砂　岩

0　5cm

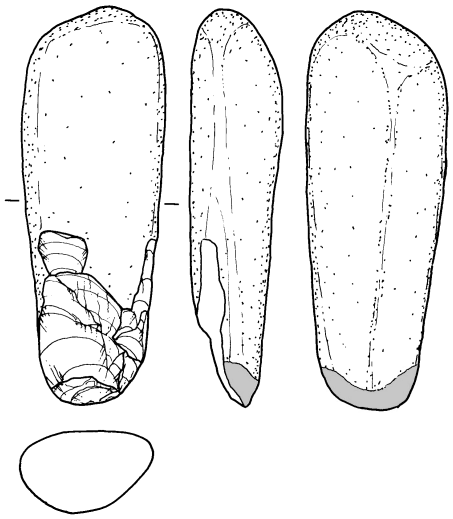


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	23区画	316×	175×	−330
②	3区画	384×	48×	−296

第 156 図　出土石器と出土位置 21 (石器 2/3，分布図 1/400)

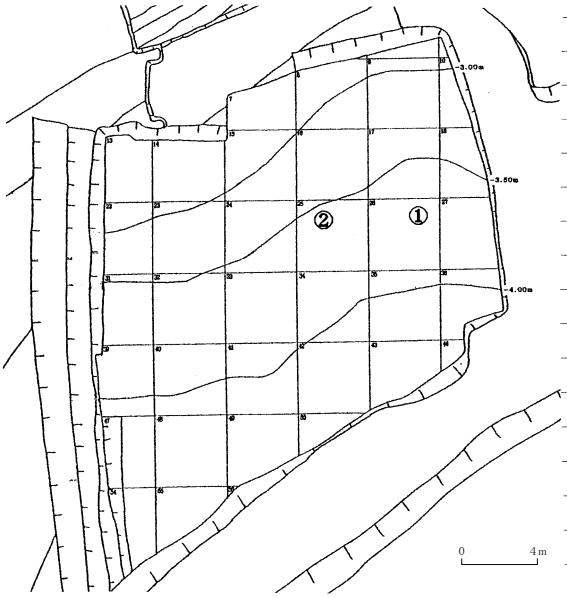


① 149 9 Ⅲ26　凝灰岩



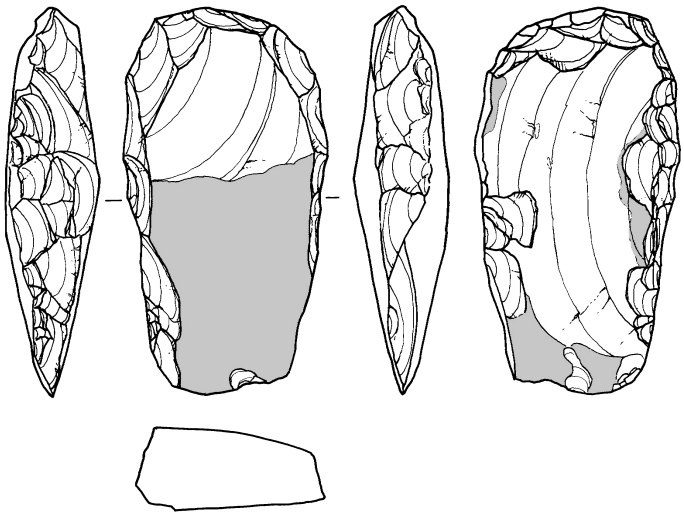
② 151 9 Ⅳ25　凝灰岩

0　5 cm

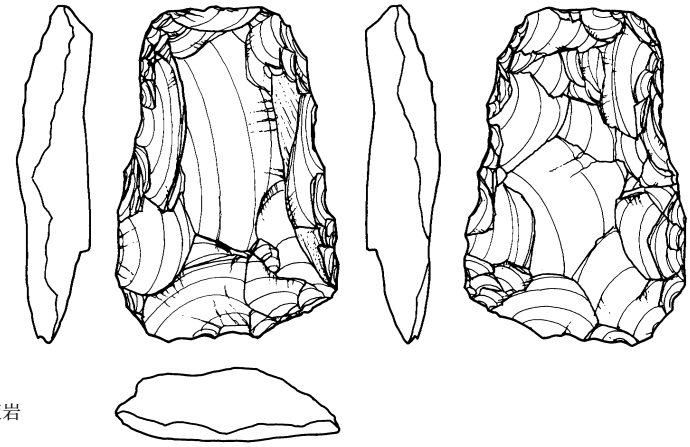


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	26区画	77×	284×	−437
②	25区画	153×	170×	−379

第 157 図　出土石器と出土位置 22 (石器 2/3，分布図 1/400)

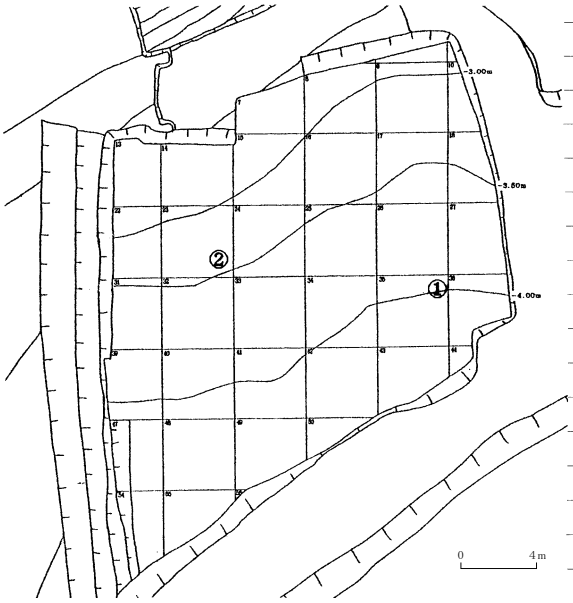


① 152 8 Ⅳ35　凝灰岩



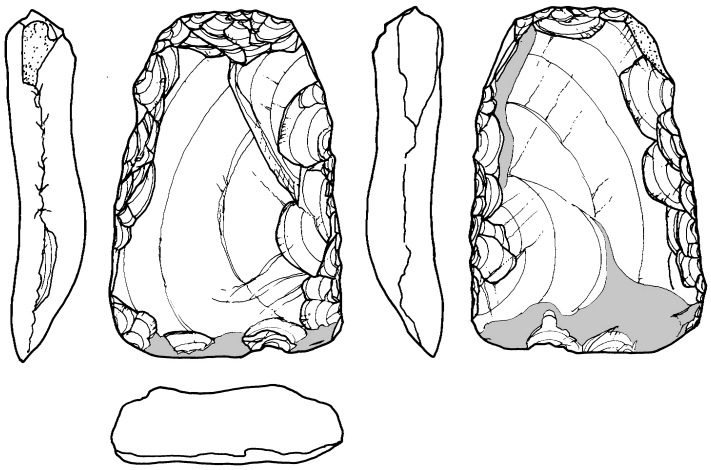
② 153 8 Ⅲ23　凝灰岩

0　5cm

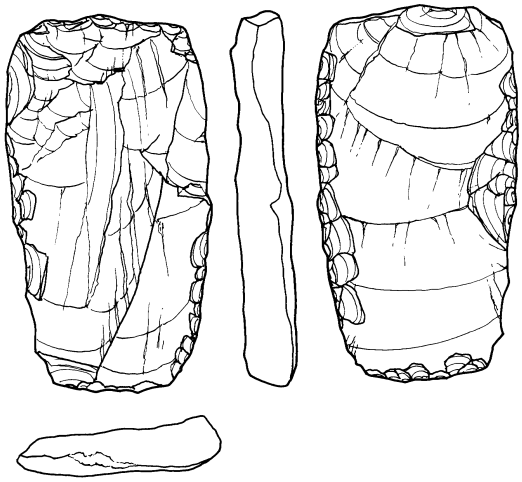


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	35区画	70	351	−412
②	23区画	314	334	−319

第 158 図　出土石器と出土位置 23 (石器 2/3，分布図 1/400)

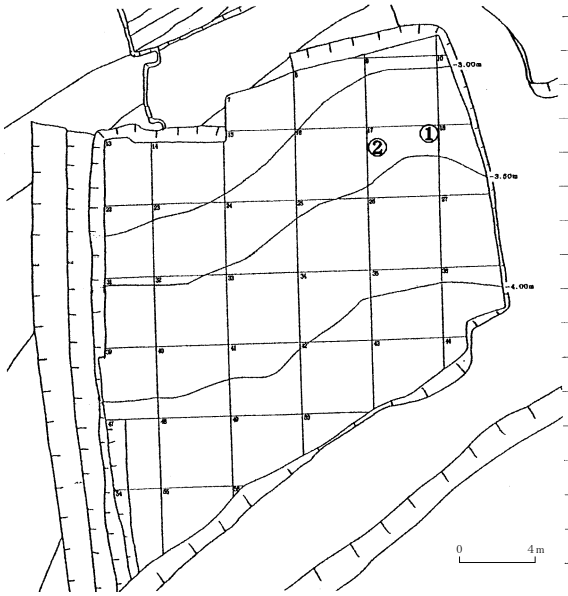


① 154 9 I 17　凝灰岩



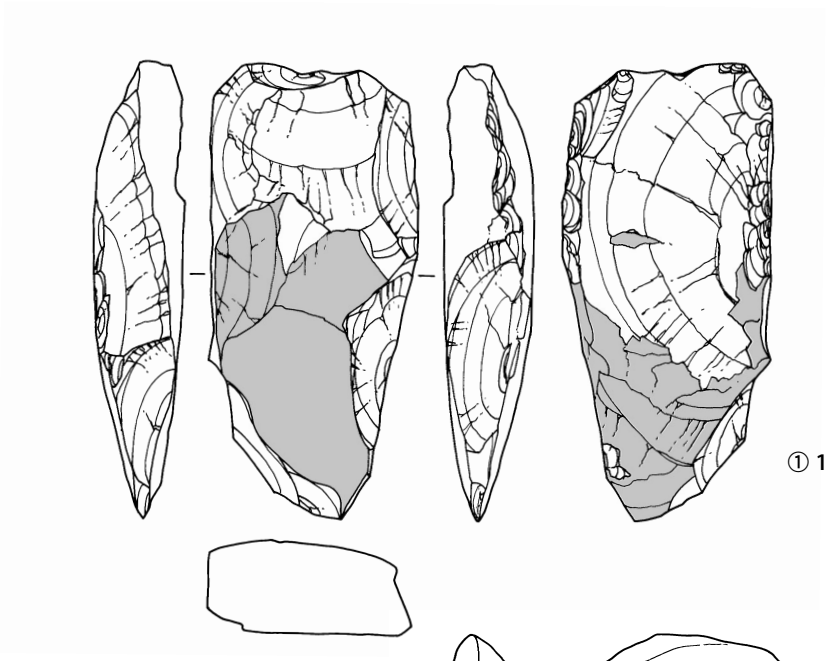
② 155 9 II 17　凝灰岩

0　5 cm

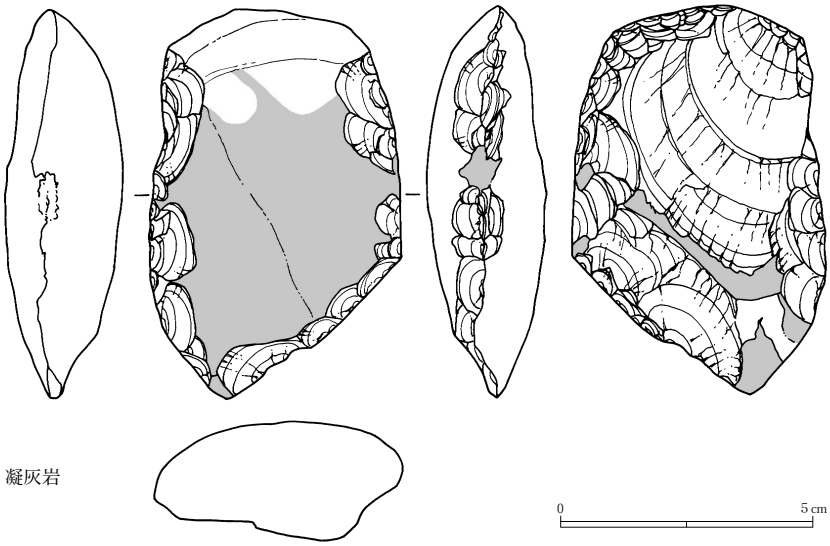


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	17区画	46×	355×	−352
②	17区画	98×	49×	−357

第 159 図　出土石器と出土位置 24 (石器 2/3，分布図 1/400)

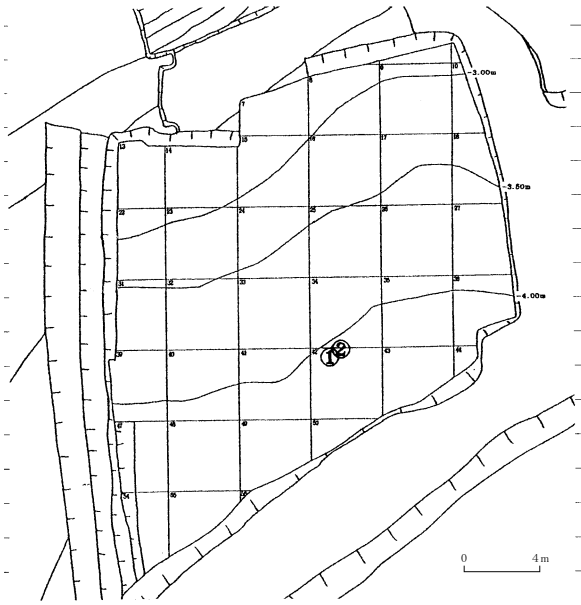


① 156 9 Ⅱ42　凝灰岩



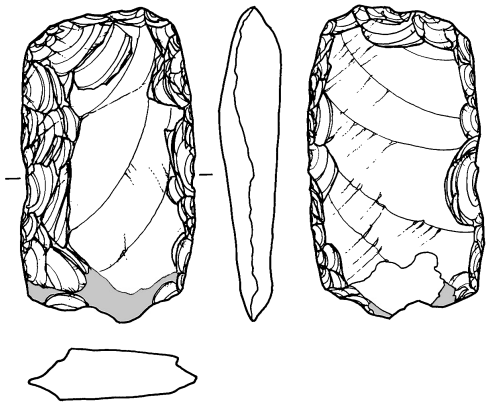
② 157 9 Ⅱ42　凝灰岩

0　5 cm

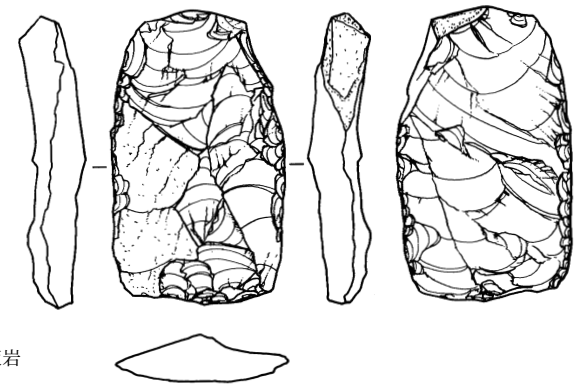


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	42区画	41×	120×	−419
②	42区画	0×	153×	−420

第 160 図　出土石器と出土位置 25 (石器 2/3，分布図 1/400)

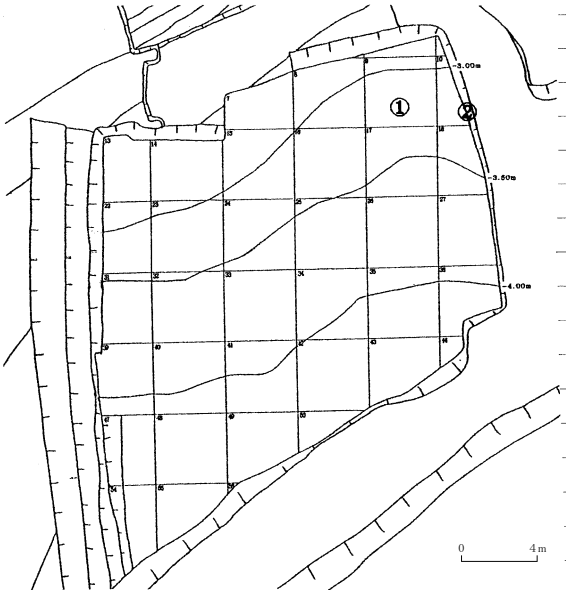


① 158 9 Ⅲ09　凝灰岩



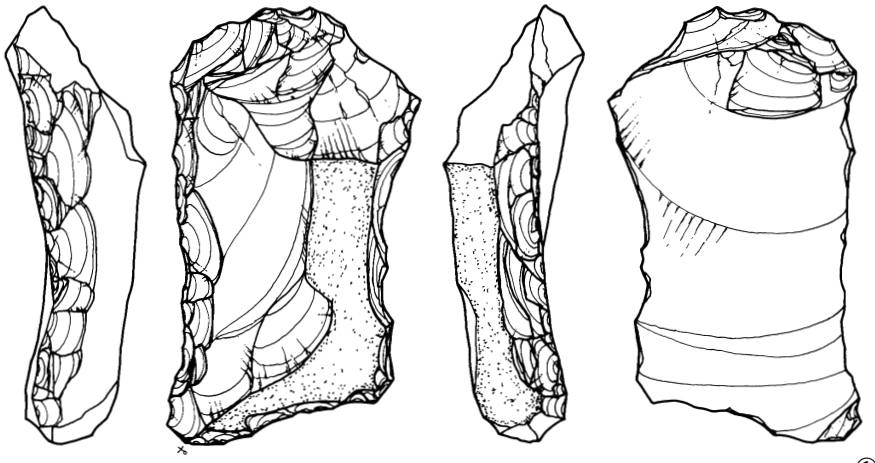
② 159 9 Ⅳ10　凝灰岩

0　5 cm

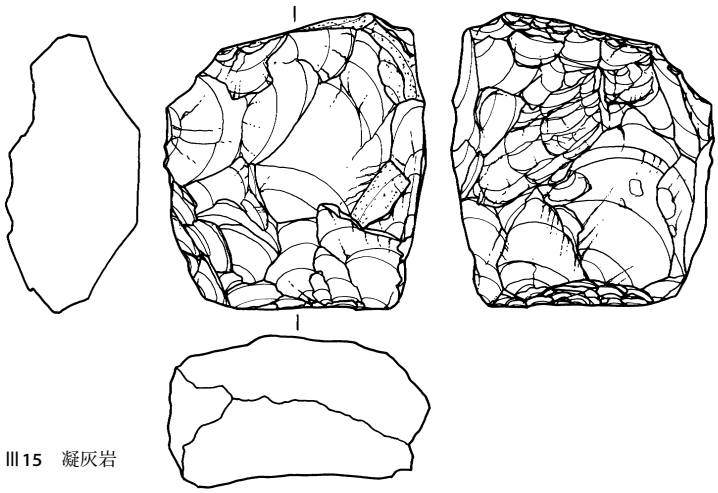


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	9区画	270×	205×	−357
②	10区画	360×	172×	−385

第 161 図　出土石器と出土位置 26 (石器 2/3，分布図 1/400)

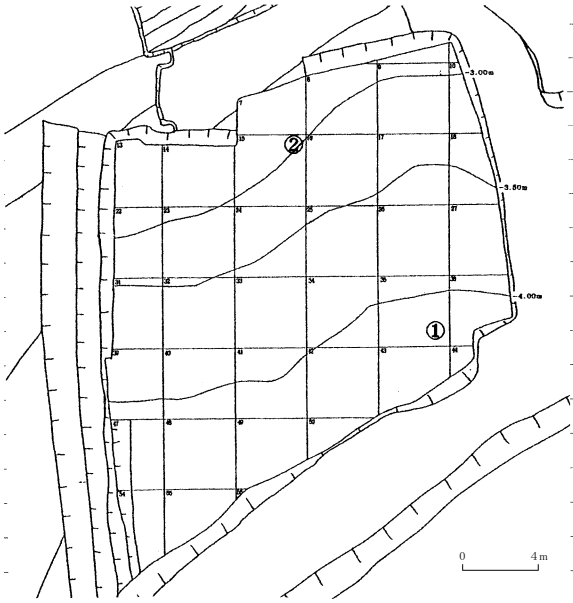


① 160 9 Ⅳ34 ＜土坑 7＞　凝灰岩



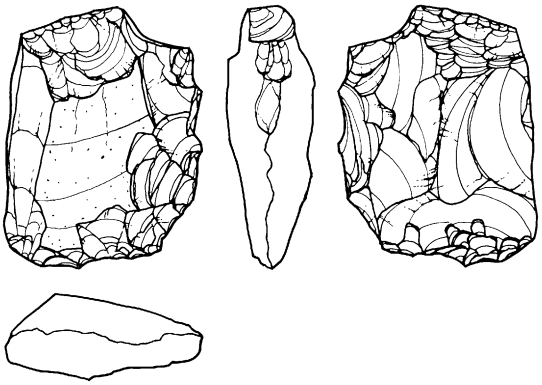
② 161 8 Ⅲ15　凝灰岩

0　5cm

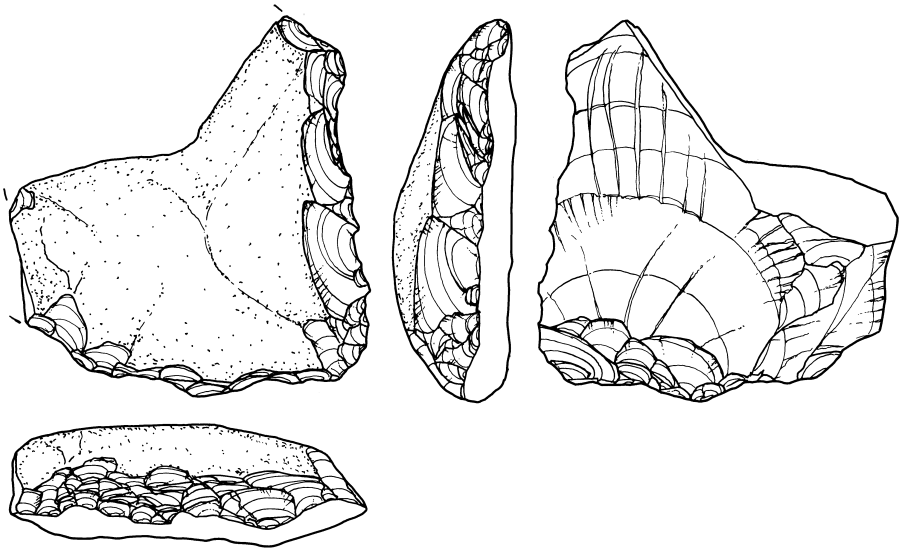


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	34区画	313×	351×	−424
②	15区画	47×	313×	−270

第 162 図　出土石器と出土位置 27 (石器 2/3，分布図 1/400)

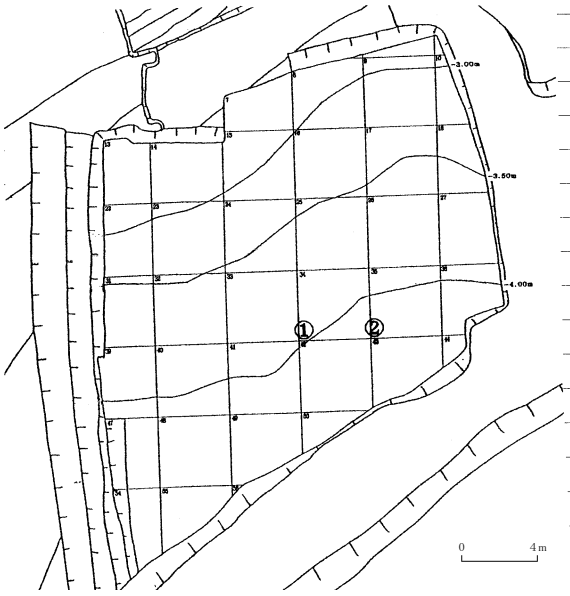


① 162 9 I 34　凝灰岩



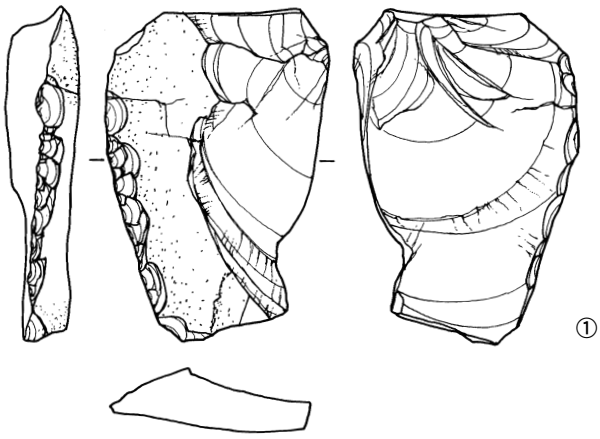
② 163 9 III 35　凝灰岩

0　5 cm

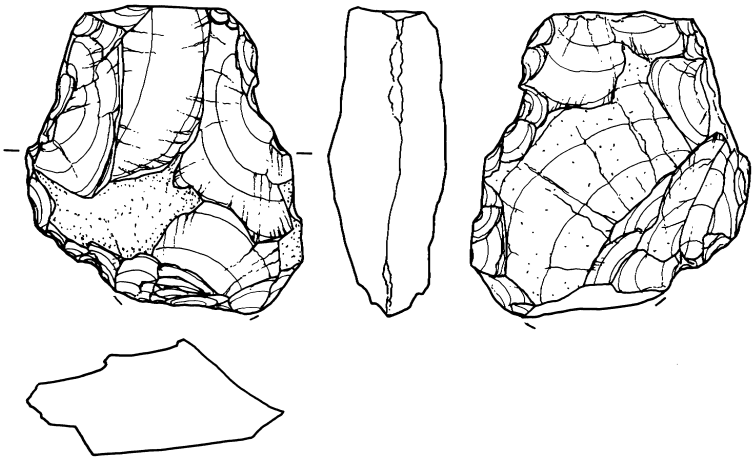


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	34区画	360×	26×	−397
②	35区画	356×	10×	−424

第 163 図　出土石器と出土位置 28 (石器 2/3，分布図 1/400)

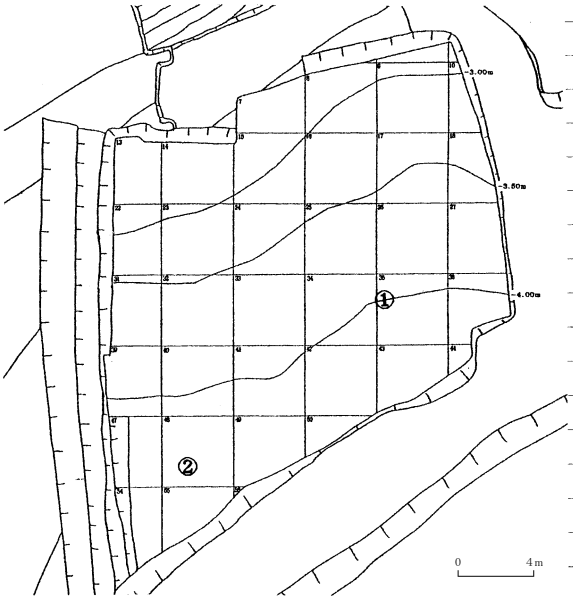


① 164 8 Ⅳ35 ＜土坑62＞　黒色頁岩



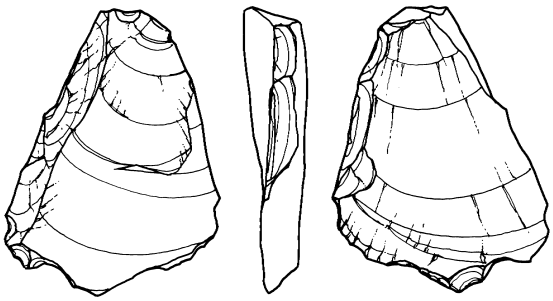
② 165 8 Ⅱ48　ホルンフェルス

0　5 cm

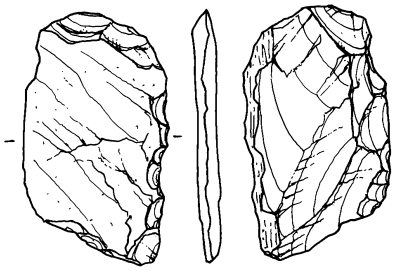


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	35区画	155×	32×	−412.5
②	48区画	330×	140×	−425

第 164 図　出土石器と出土位置 29 (石器 2/3，分布図 1/400)

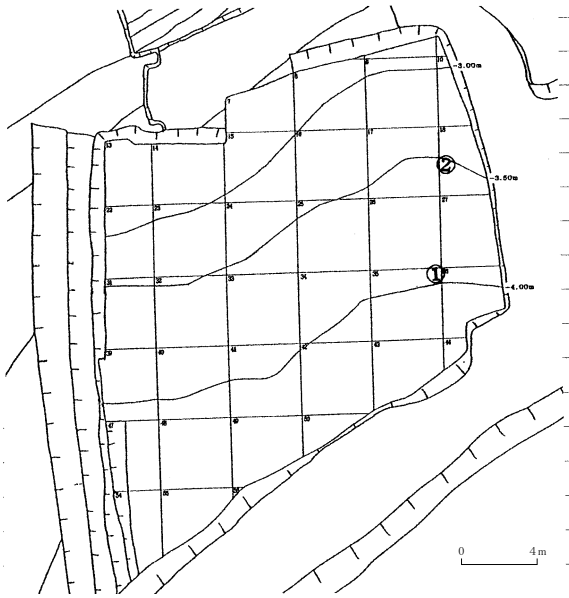


① 167 8 Ⅳ35　凝灰岩



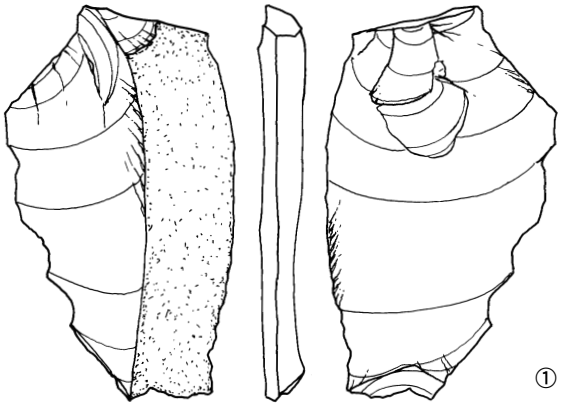
② 169 9 Ⅲ18　ホルンフェルス

0　5 cm

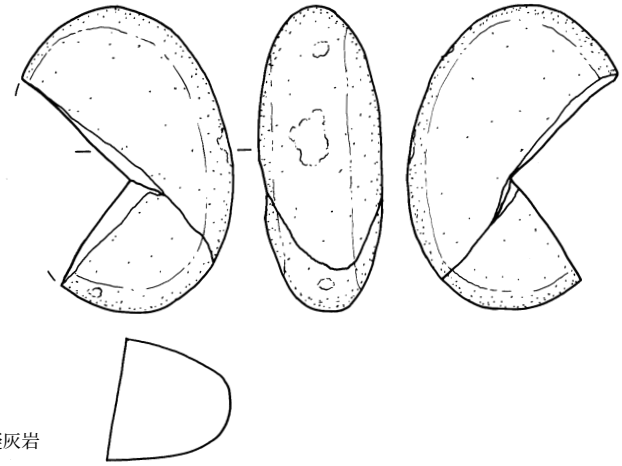


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	35区画	31×	378×	−412
②	18区画	192×	27×	−384

第 165 図　出土石器と出土位置 30 (石器 2/3，分布図 1/400)

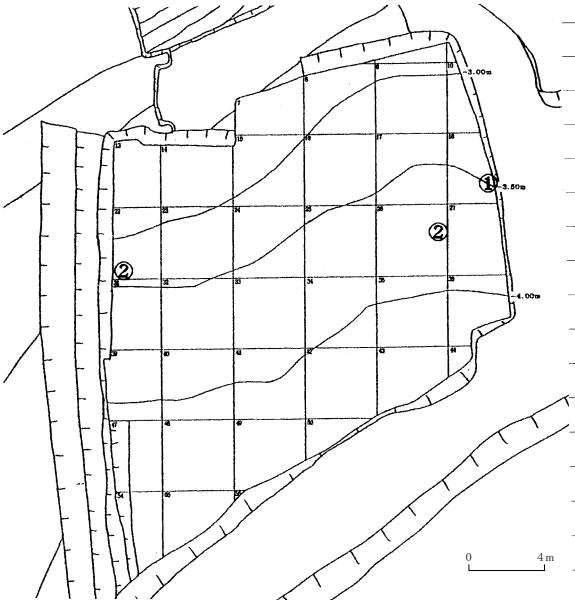


① 173 9 Ⅲ18　凝灰岩



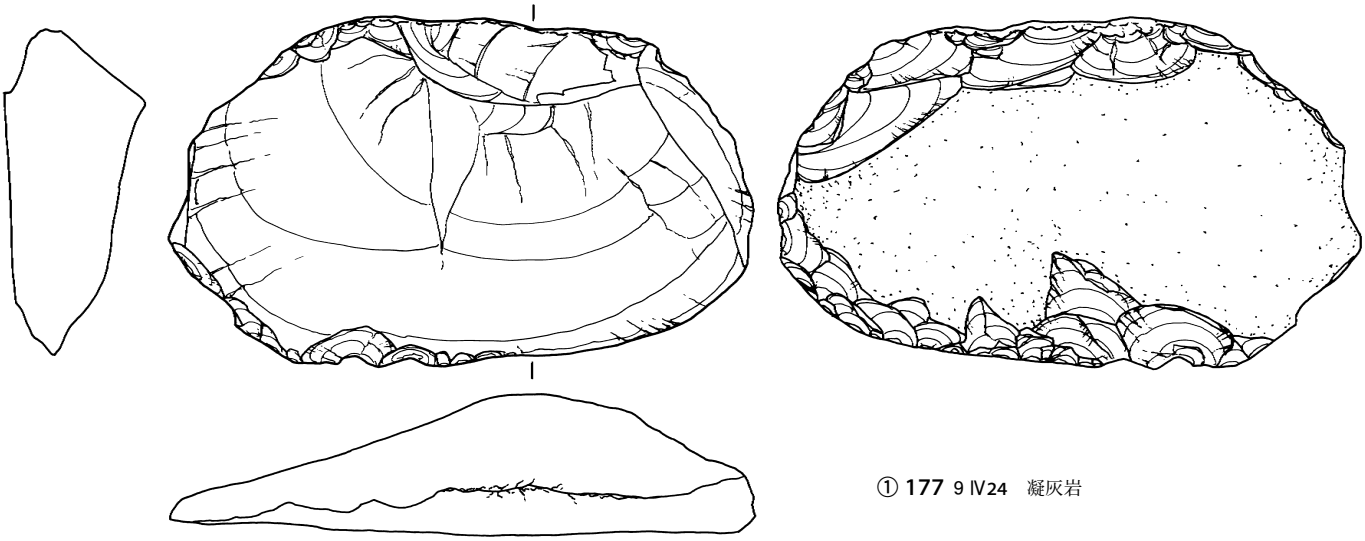
② 178 8 Ⅲ22・9 Ⅰ26　凝灰岩

0　5cm

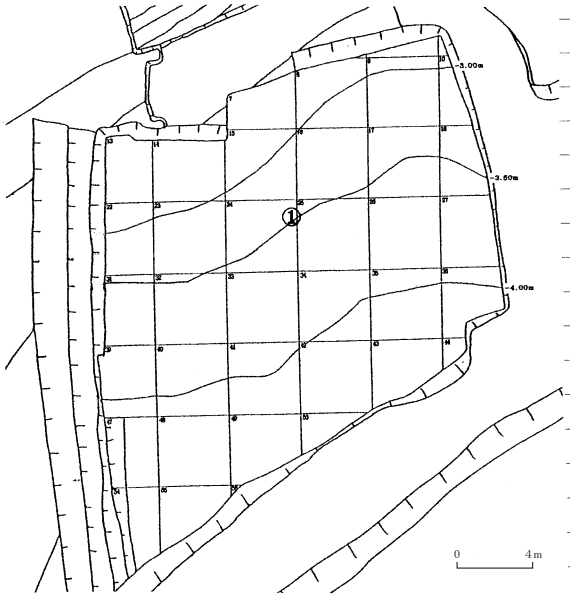


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ	
①	18区画	322×	235×	−389	
②	22区画	360×	190×	−310	接合
②	26区画	160×	375×	−389	

第 166 図　出土石器と出土位置 31 (石器 2/3，分布図 1/400)

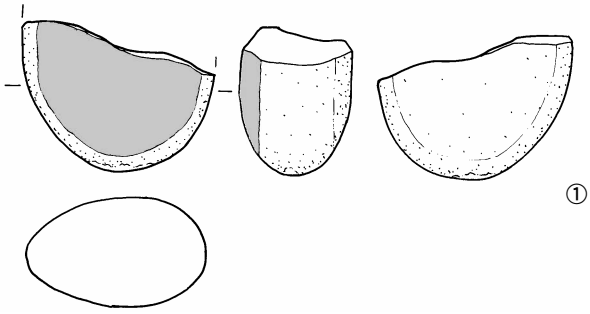


① 177 9 Ⅳ24　凝灰岩

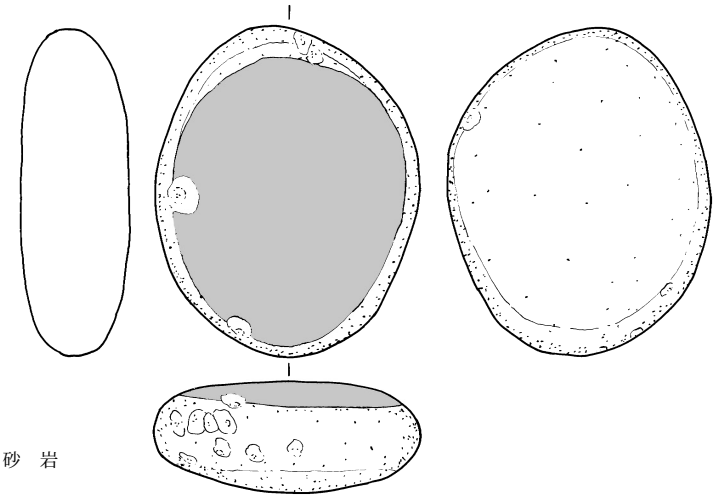


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	24区画	105×	330×	−393

第 167 図　出土石器と出土位置 32 (石器 2/3，分布図 1/400)

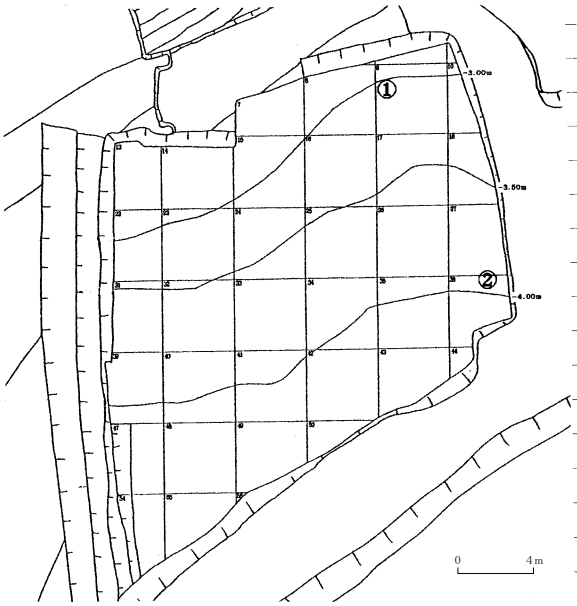


① 182 9 Ⅲ09 砂 岩



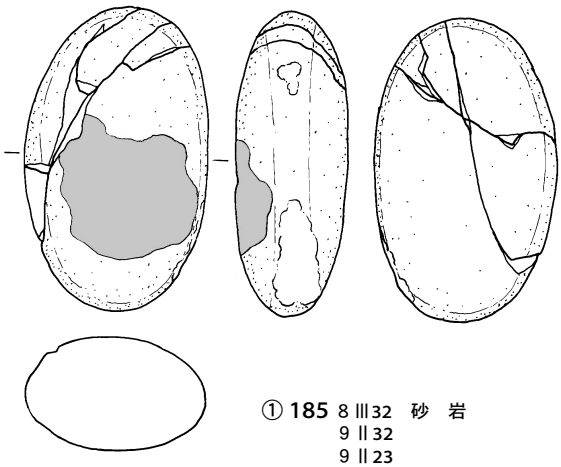
② 183 9 Ⅲ36 砂 岩

0 10cm



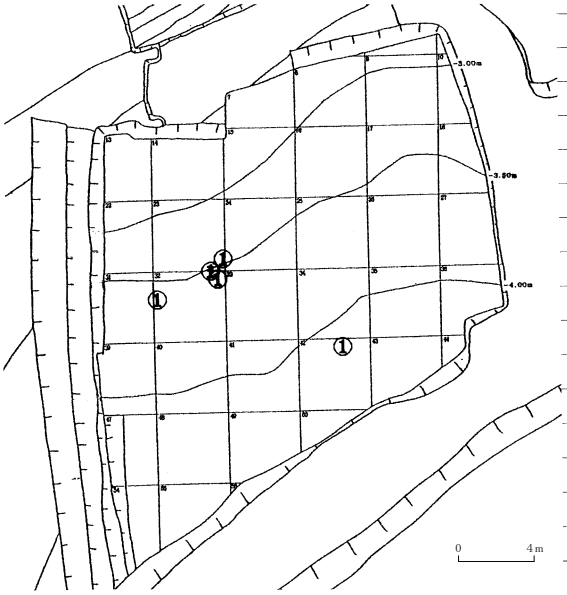
No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	9区画	140×	70×	−356
②	36区画	26×	236×	−419

第 168 図　出土石器と出土位置 33 (石器 1/3，分布図 1/400)



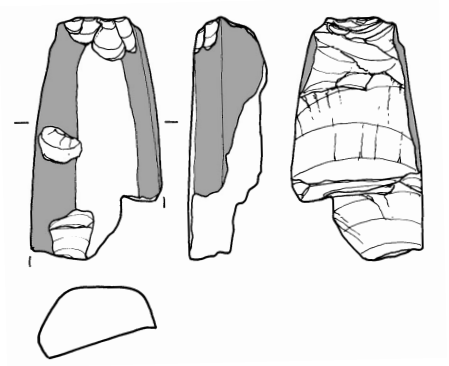
① 185 8 Ⅲ32　砂　岩
9 Ⅱ32
9 Ⅱ23
9 Ⅱ32
9 Ⅱ42

0　10cm

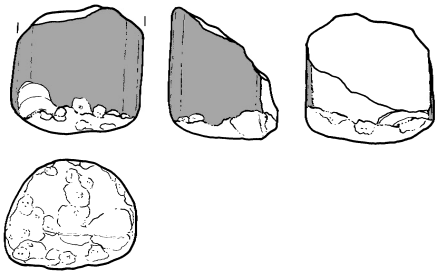


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	32区画	156×	8×	−369
①	32区画	40×	345×	−371
①	23区画	306×	394×	−369
①	32区画	5×	350×	−383
①	42区画	48×	261×	−421

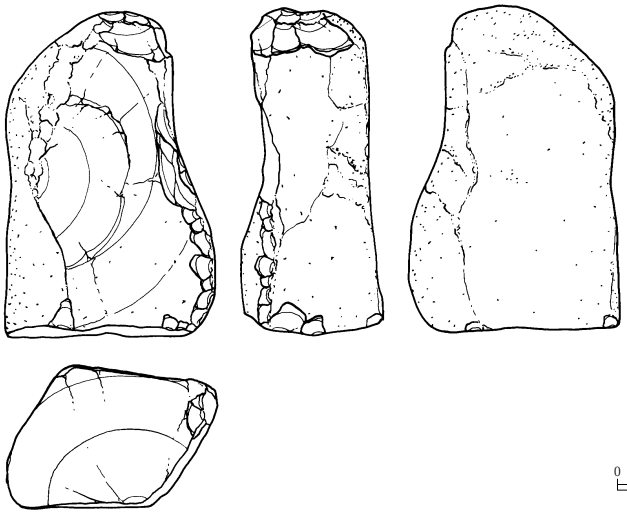
第 169 図　出土石器と出土位置 34 (石器 1/3，分布図 1/400)



① 186 9Ⅳ24　緑色岩

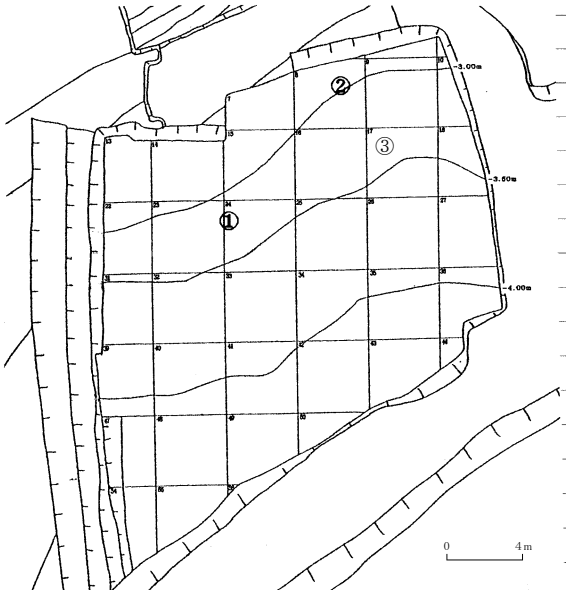


② 187 9Ⅲ08　閃緑岩



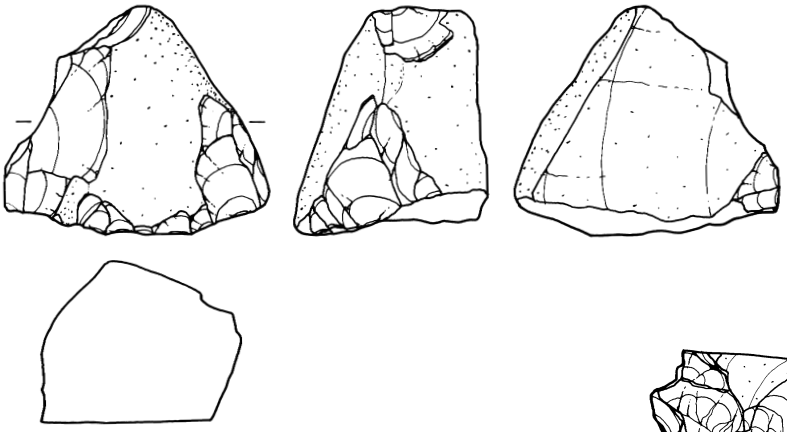
③ 188 9Ⅲ17　凝灰岩

0　10cm



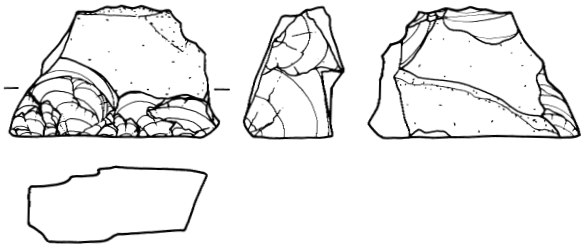
No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	24区画	80×	38×	−401
②	8区画	151×	265×	−348
③	17区画	122×	102×	−366

第 170 図　出土石器と出土位置 35 (石器 1/3，分布図 1/400)



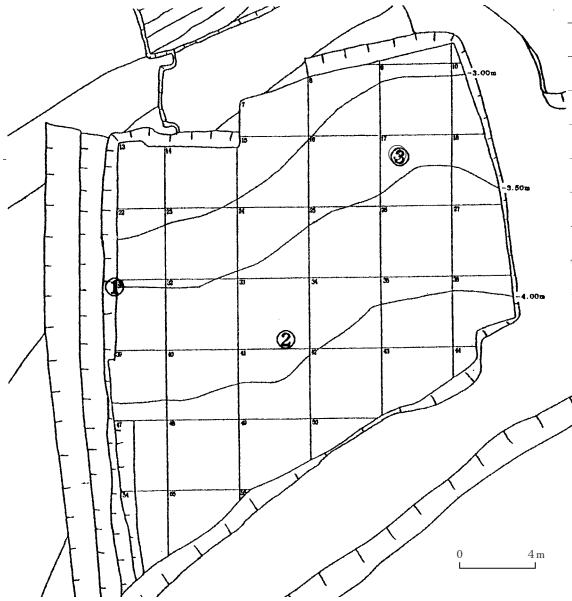
① 189 8 Ⅲ31　斑糲岩

② 190 7 Ⅰ33　凝灰岩



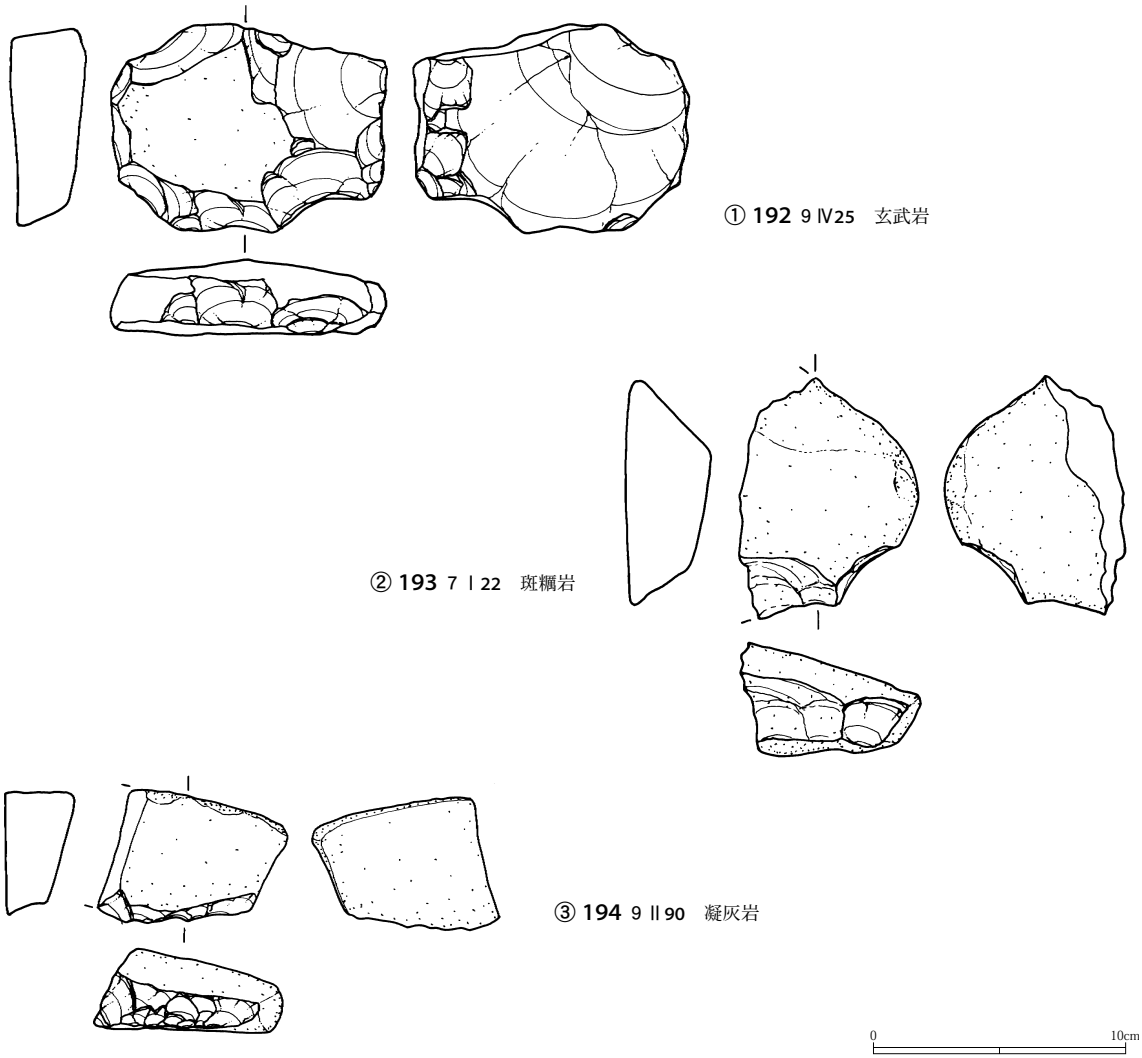
③ 191 9 Ⅲ17　凝灰岩

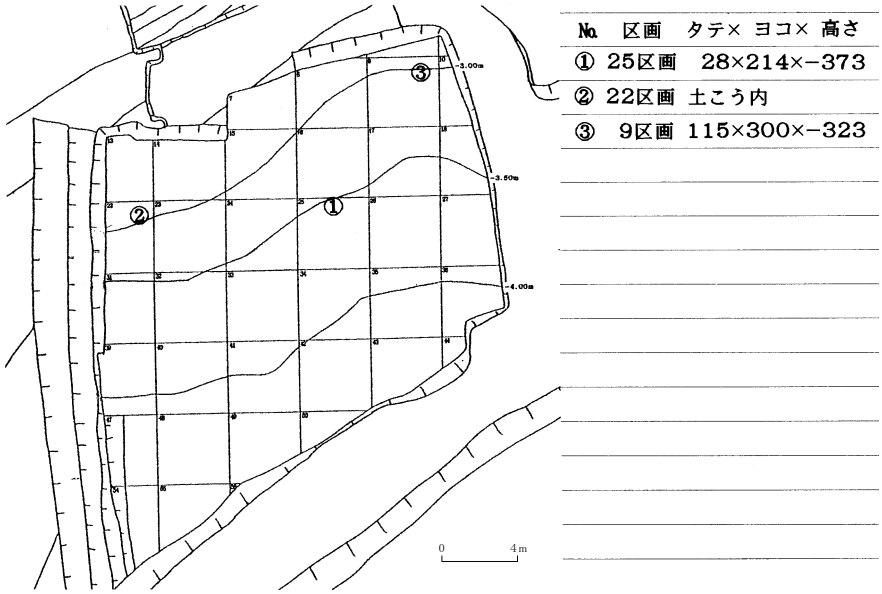
0　10cm



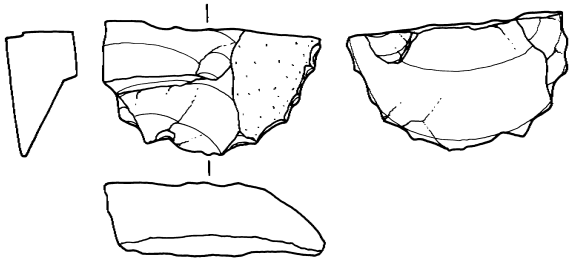
No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	31区画	30×	110×	−331
②	33区画	360×	240×	−351.5
③	17区画	120×	128×	−362

第 171 図　出土石器と出土位置 36 (石器 1/3，分布図 1/400)

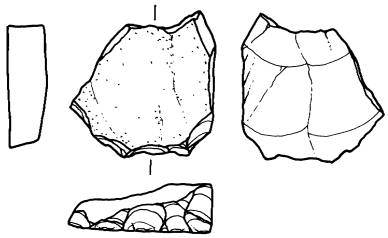




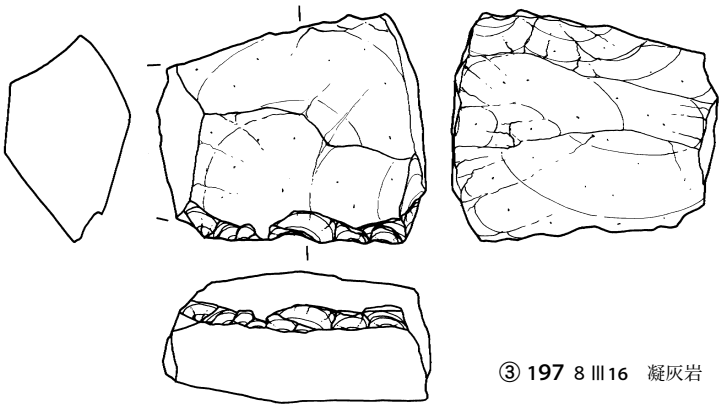
第 172 図　出土石器と出土位置 37 (石器 1/3，分布図 1/400)



① 195 8 Ⅲ22　斑糲岩

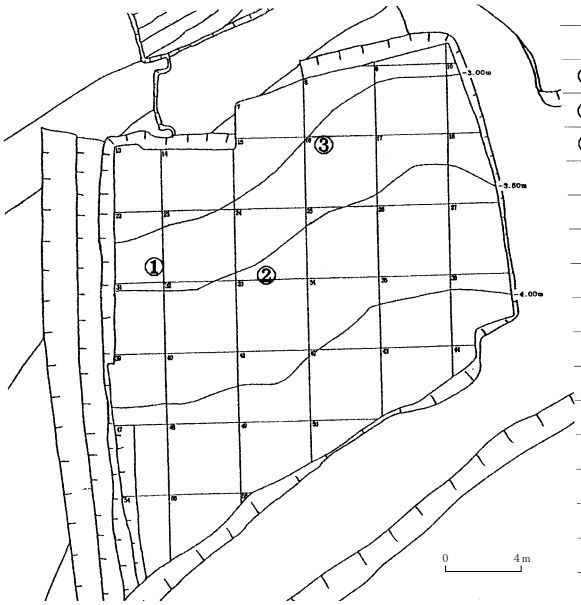


② 196 9 Ⅱ24　玄武岩



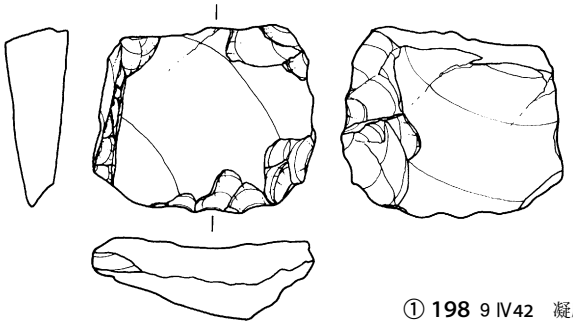
③ 197 8 Ⅲ16　凝灰岩

0　10cm



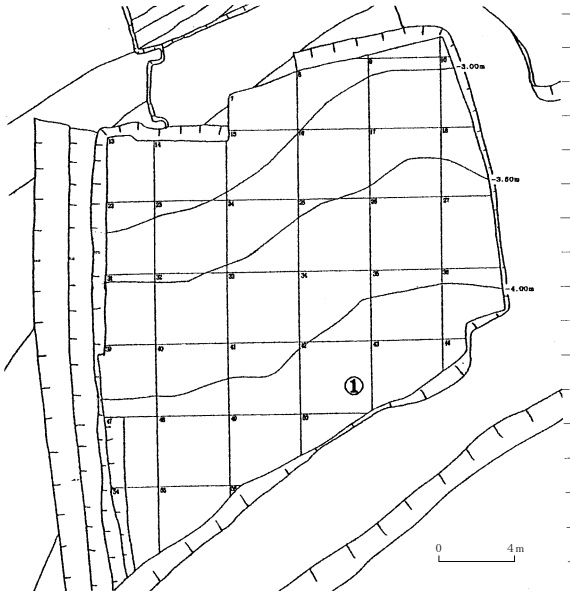
No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	22区画	317	376	−364
②	24区画	379	170	−386
③	16区画	40	105	−301

第 173 図　出土石器と出土位置 38 (石器 1/3，分布図 1/400)



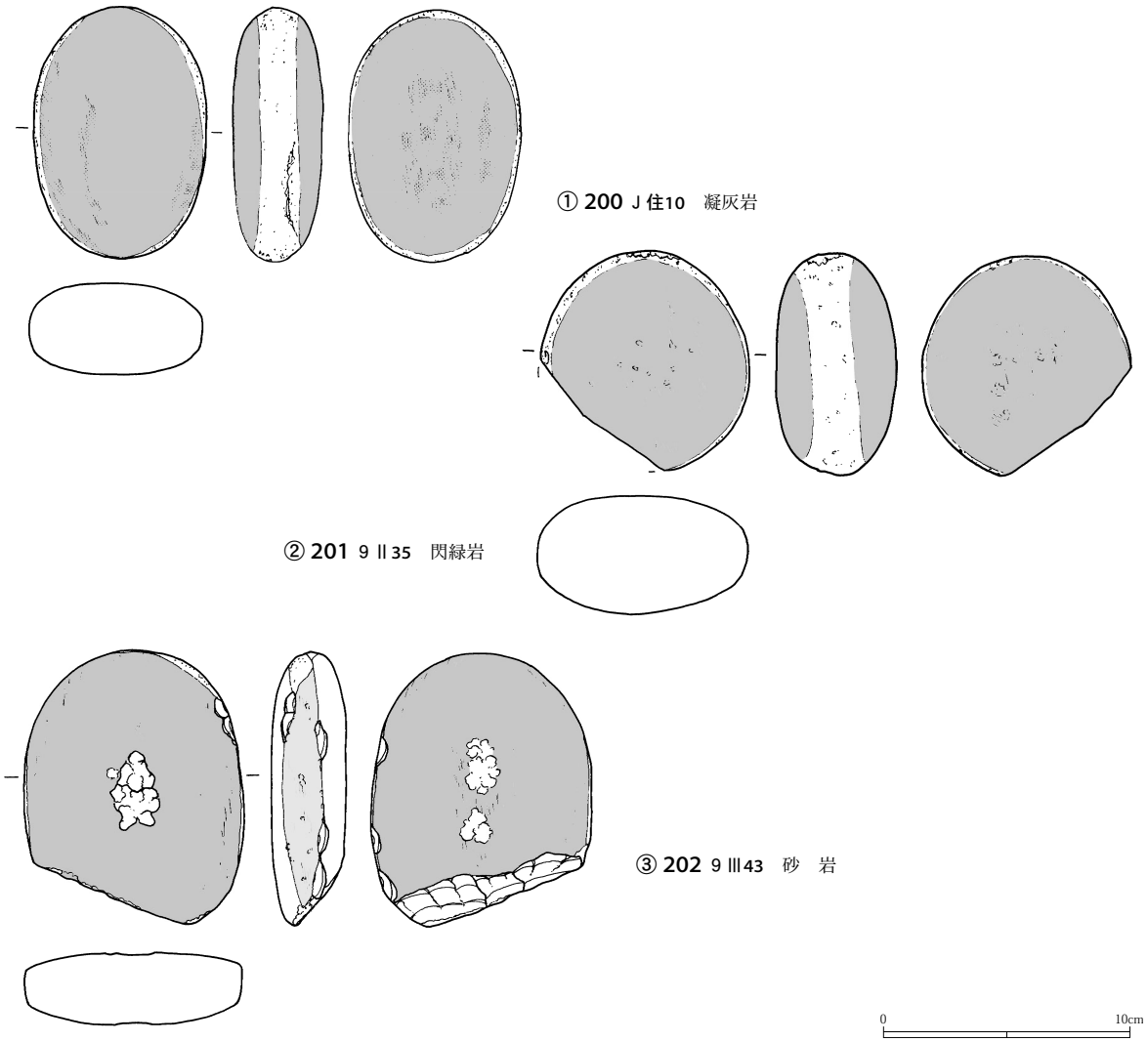
① 198 9 Ⅳ42　凝灰岩

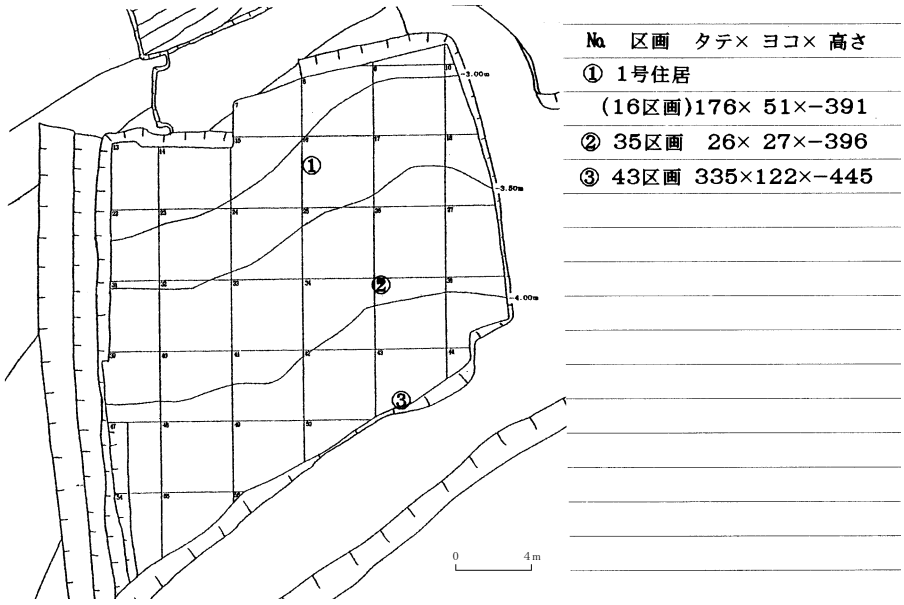
0　10cm



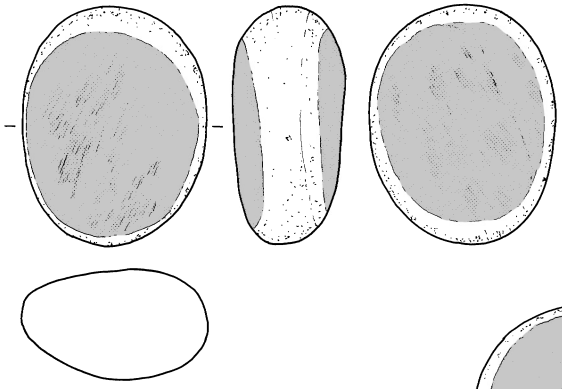
No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	42区画	237	290	−448

第 174 図　出土石器と出土位置 39 (石器 1/3，分布図 1/400)

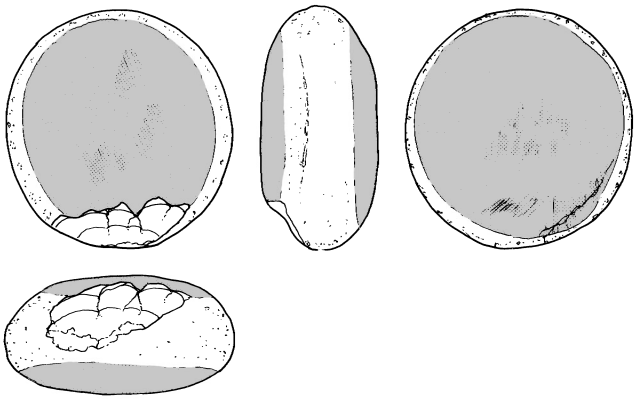




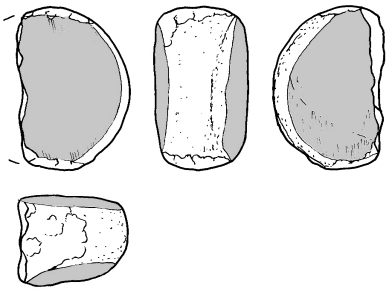
第 175 図　出土石器と出土位置 40 (石器 1/3，分布図 1/400)



① 203 J住10　砂　岩

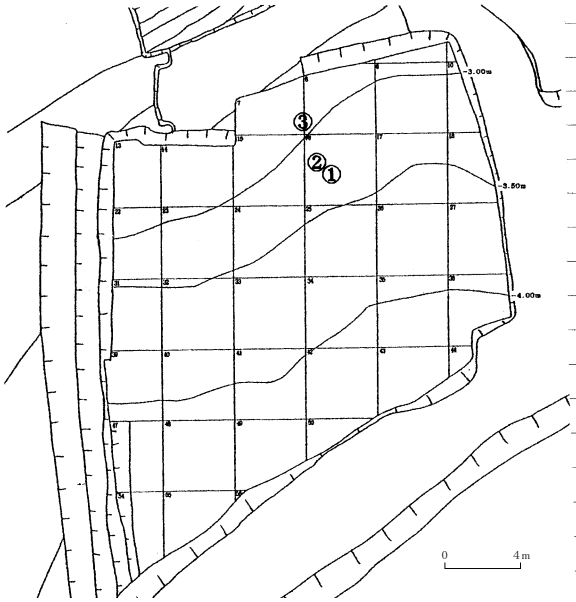


② 204 J住10　閃緑岩



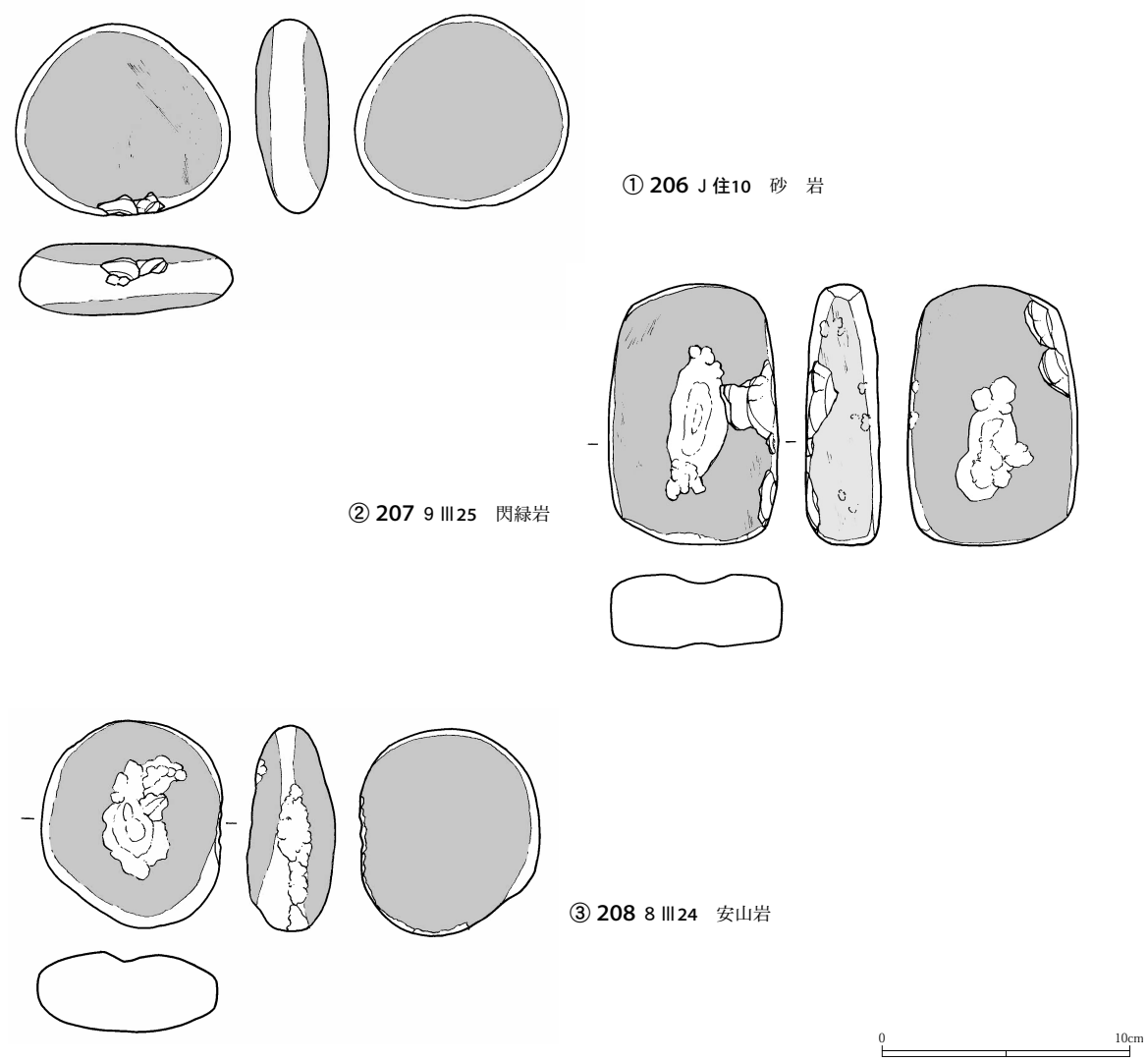
③ 205 9Ⅱ07　安山岩

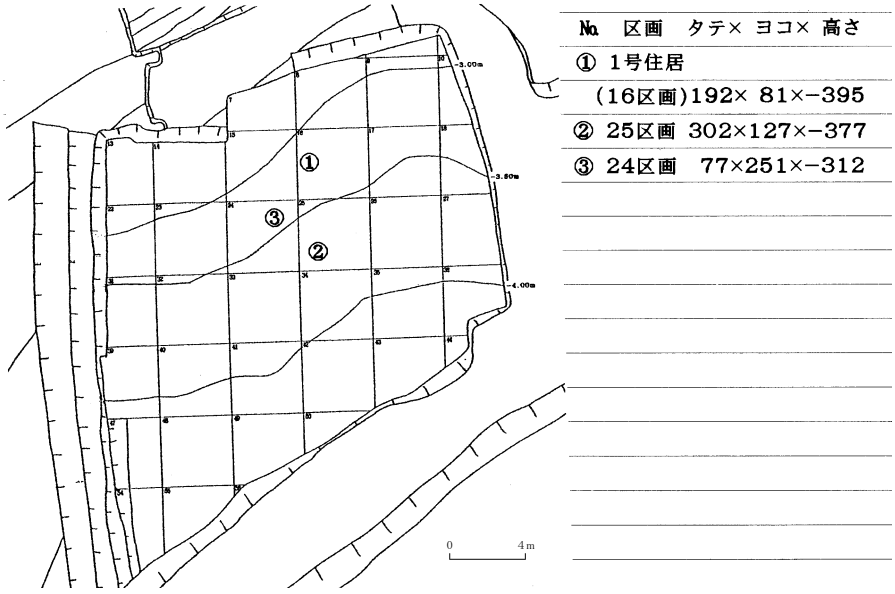
0　10cm



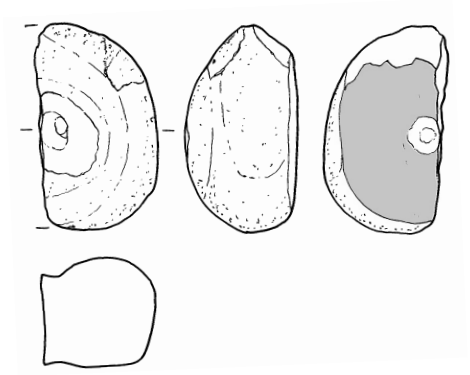
No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	1号住居			
	(16区画)	246×	145×	−393
②	1号住居			
	(16区画)	171×	61×	−406
③	7区画	300×	397×	−323

第176図　出土石器と出土位置41 (石器1/3，分布図1/400)

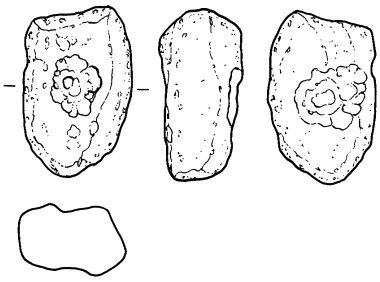




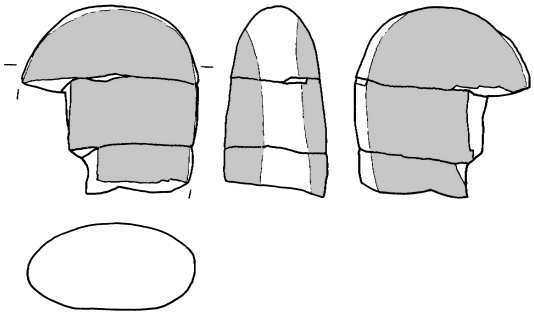
第177図　出土石器と出土位置42 (石器1/3，分布図1/400)



① 209 8 Ⅲ33　閃緑岩

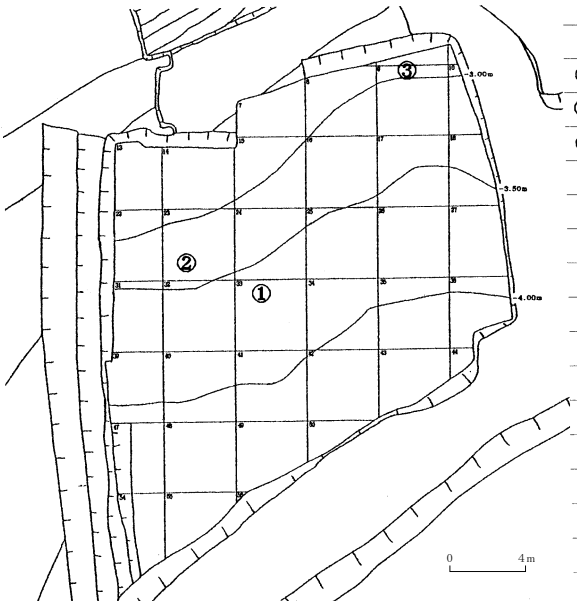


② 210 9 Ⅱ23　安山岩



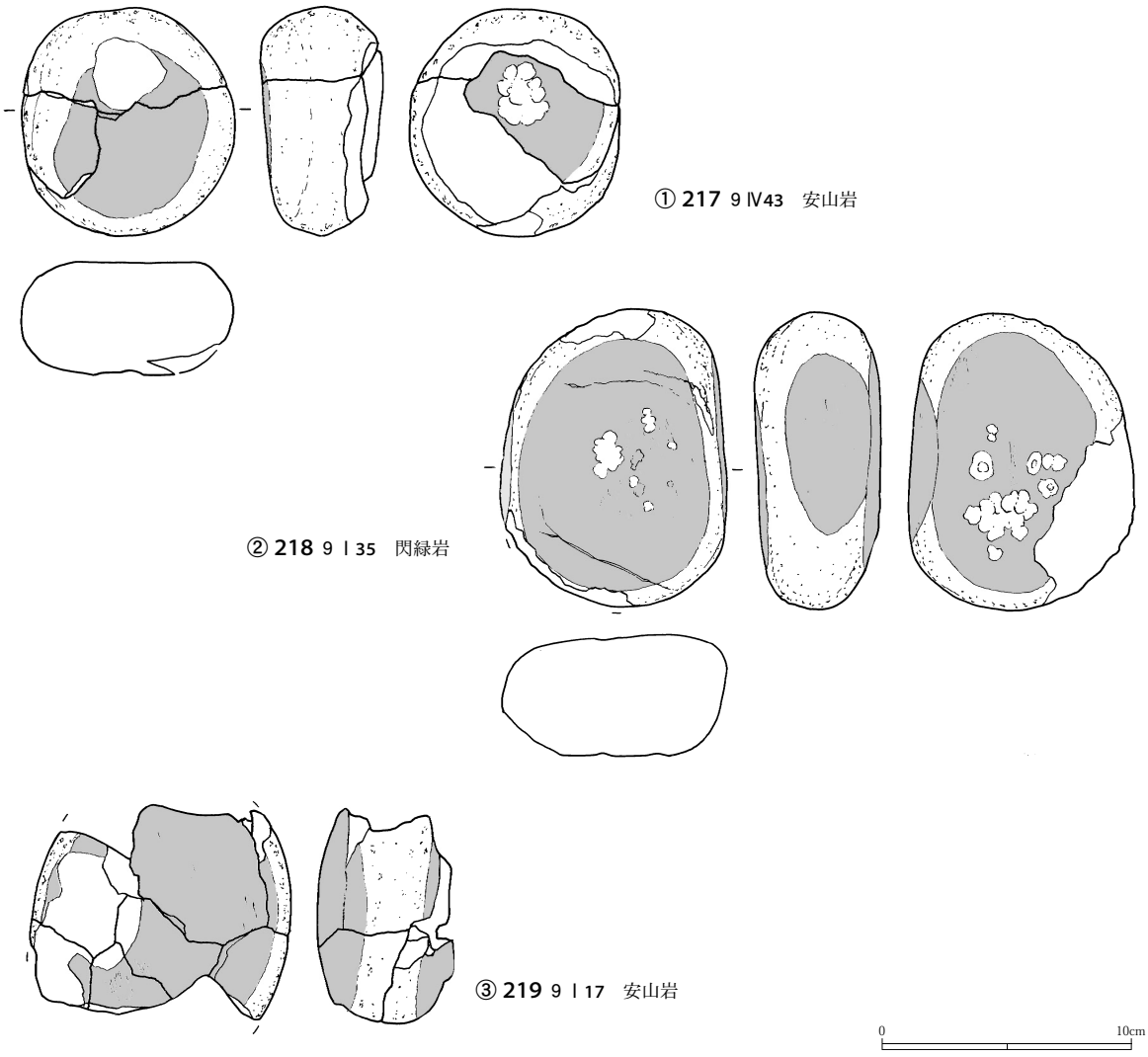
③ 211 J 住20　砂　岩

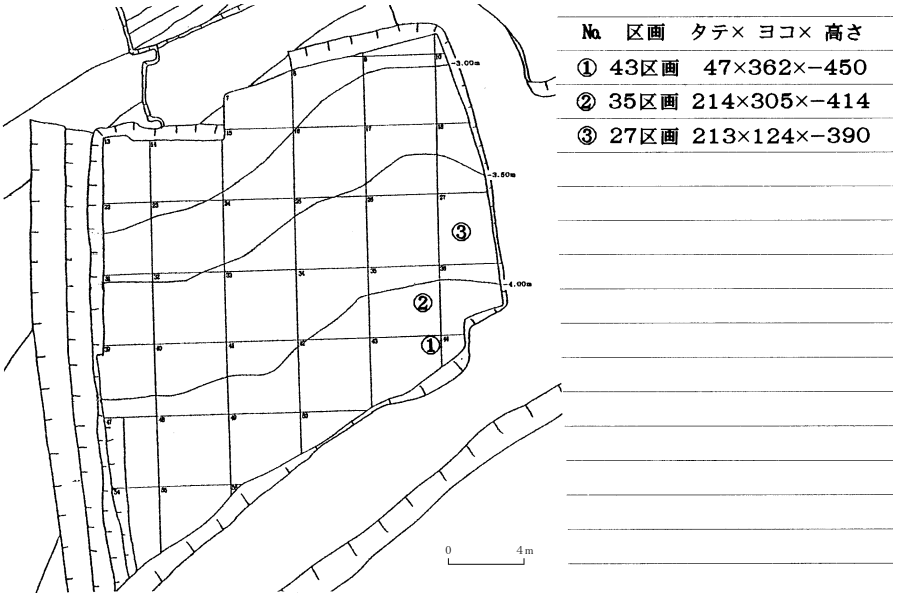
0　10cm



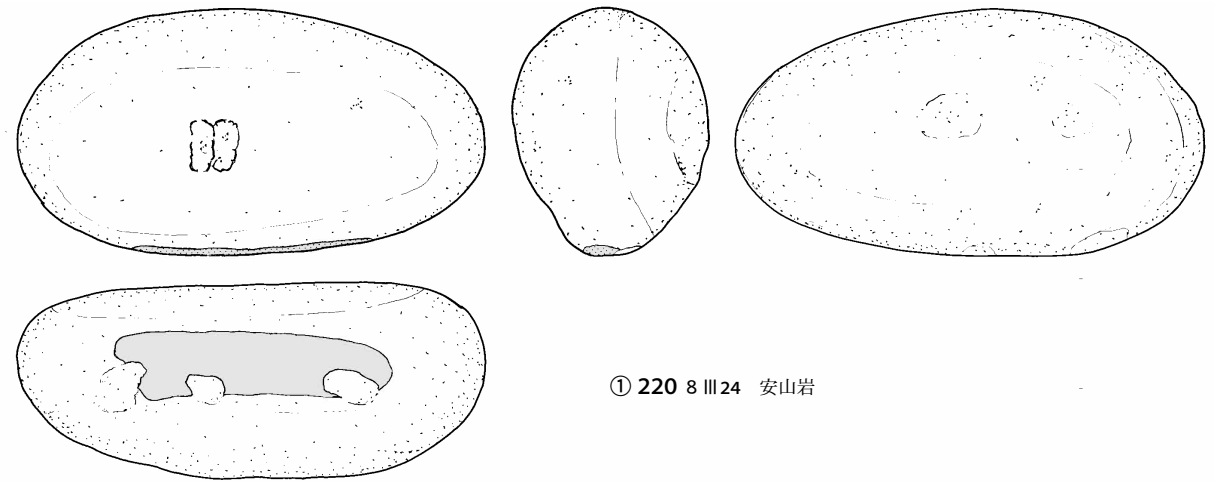
No.	区画	タテ× ヨコ× 高さ
①	33区画	77×148×−337
②	23区画	287×165×−358
③	2号住居	
	(9区画)	28×130×−365

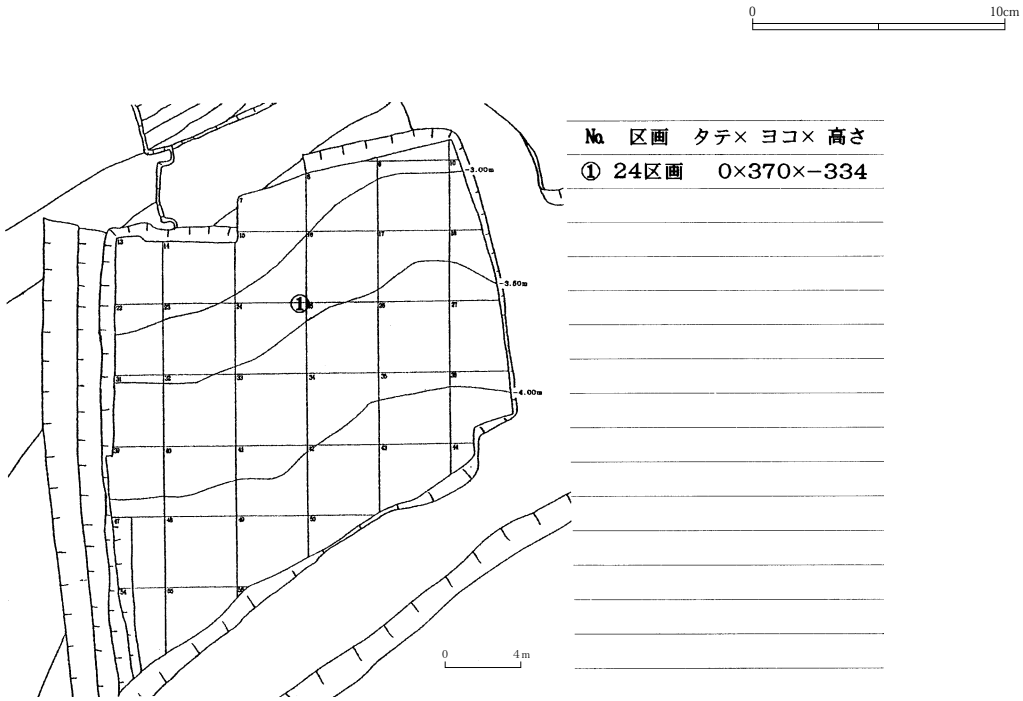
第 178 図　出土石器と出土位置 43 (石器 1/3，分布図 1/400)



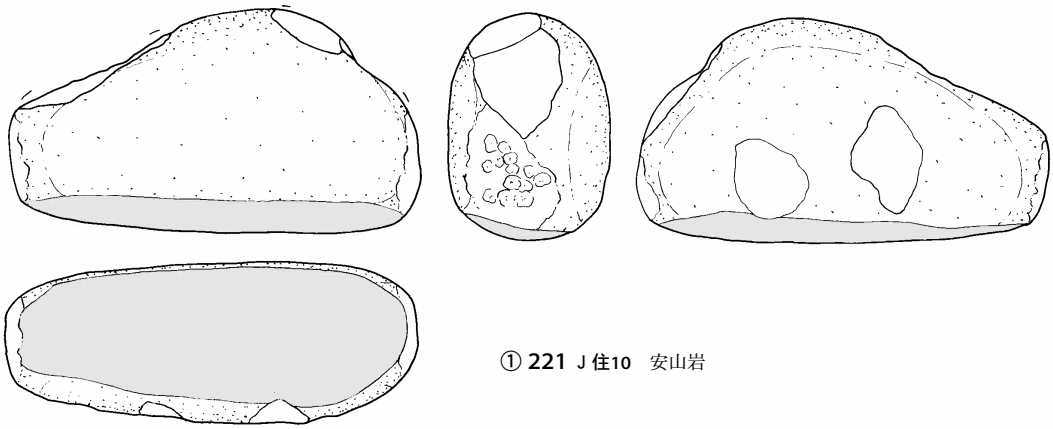


第 179 図　出土石器と出土位置 44 (石器 1/3，分布図 1/400)



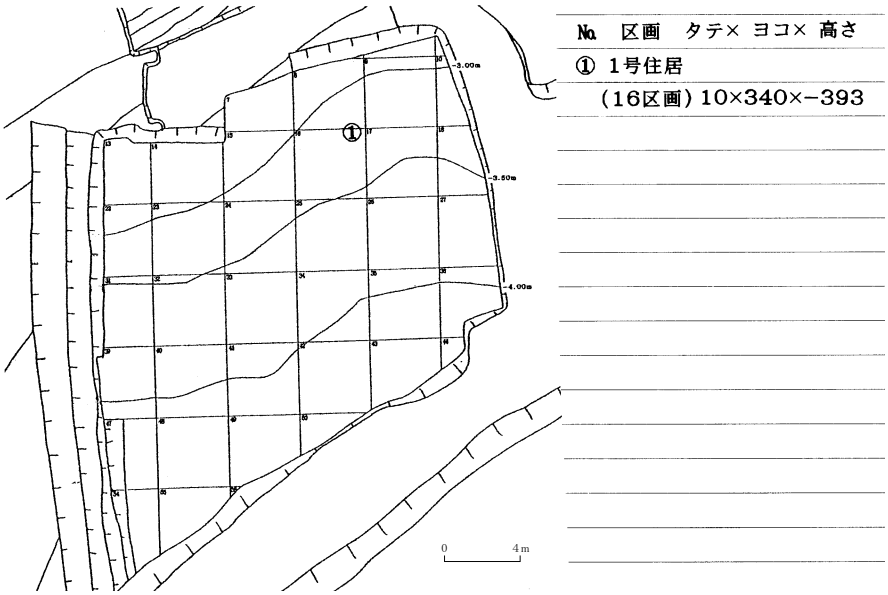


第 180 図　出土石器と出土位置 45 (石器 1/3，分布図 1/400)

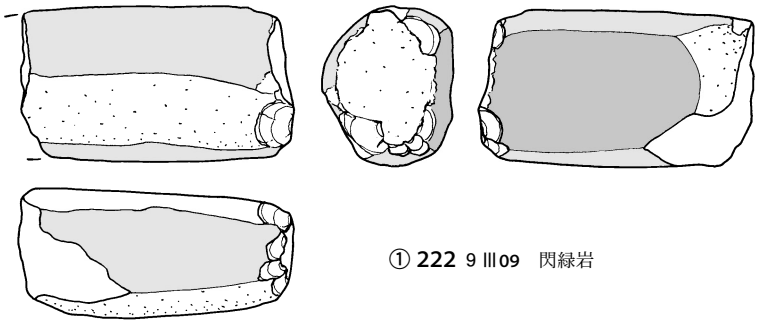


① 221 J住10　安山岩

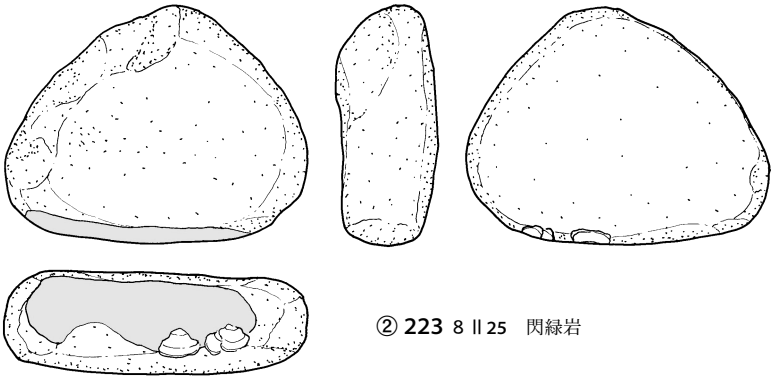
0　10cm



第181図　出土石器と出土位置46 (石器1/3，分布図1/400)

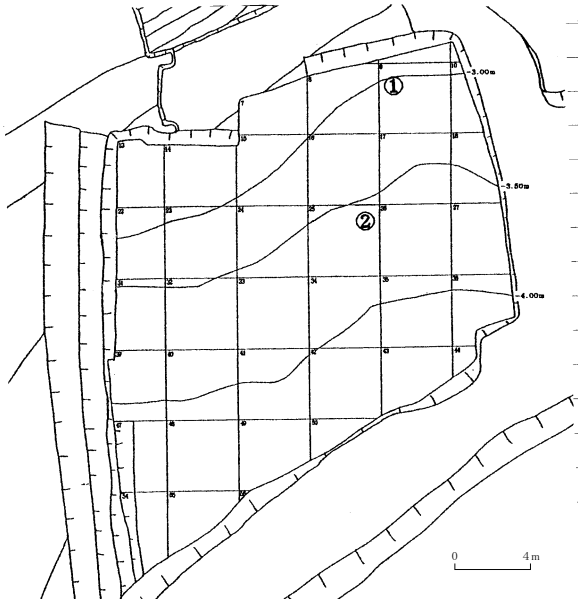


① 222 9 Ⅲ09　閃緑岩



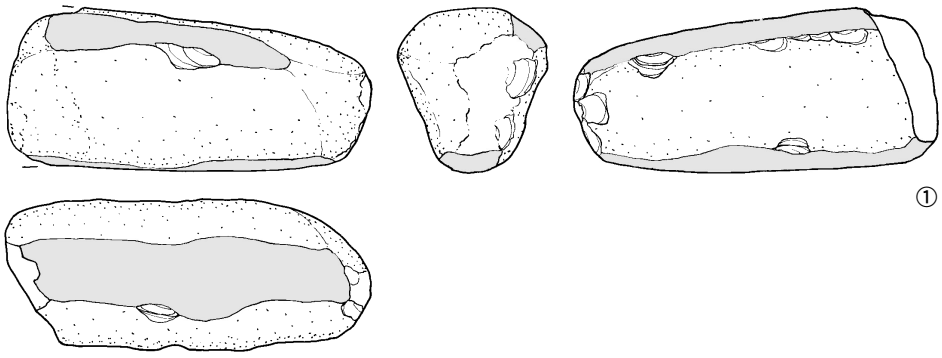
② 223 8 Ⅱ25　閃緑岩

0　10cm

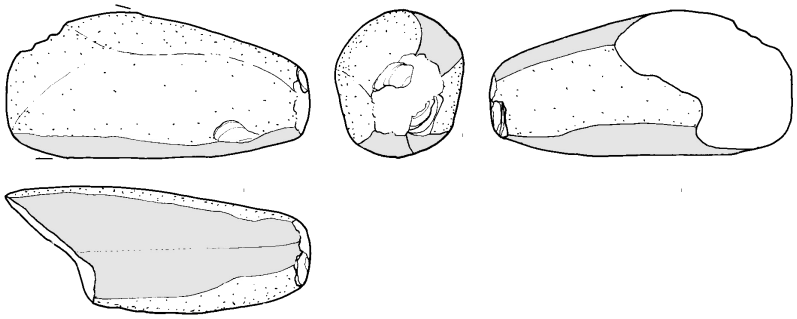


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	9区画	125×	90×	−358
②	25区画	76×	335×	−336

第 182 図　出土石器と出土位置 47 (石器 1/3，分布図 1/400)

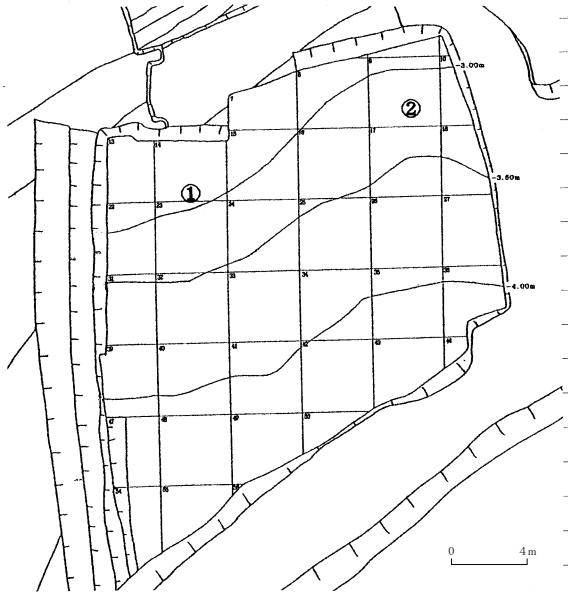


① 224 9 Ⅱ 14　斑糲岩



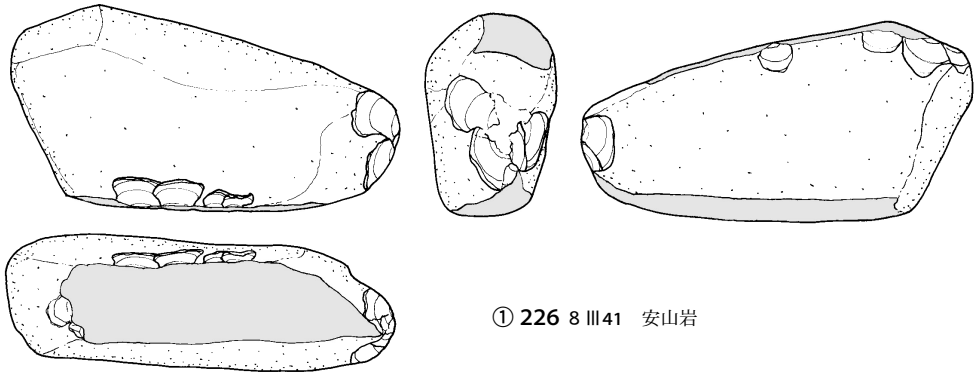
② 225 9 Ⅱ 09　閃緑岩

0　10cm

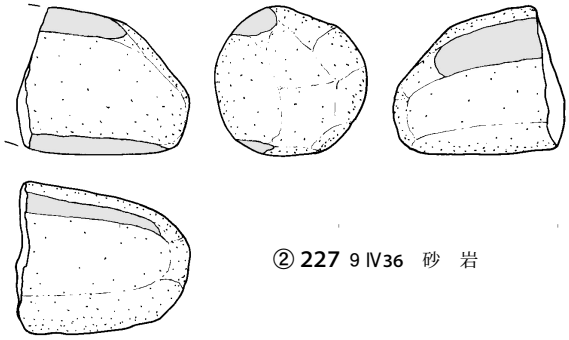


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	14区画	375	210	−348
②	9区画	315	255	−354

第 183 図　出土石器と出土位置 48 (石器 1/3，分布図 1/400)

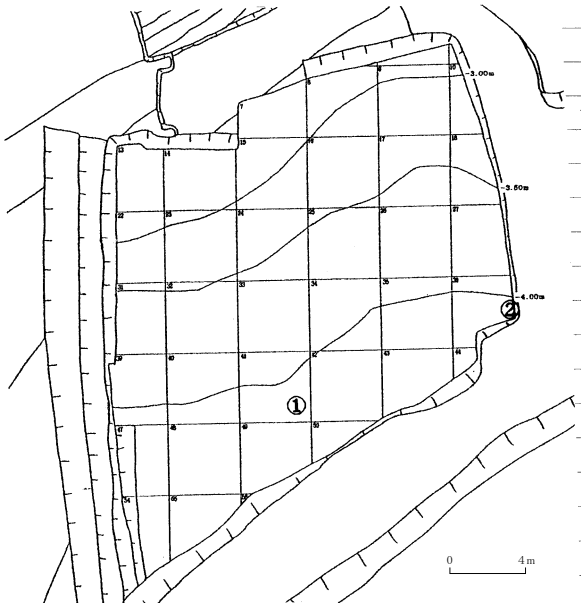


① 226 8 Ⅲ41　安山岩



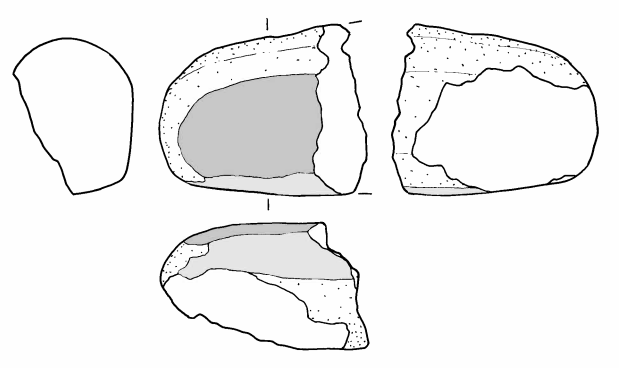
② 227 9 Ⅳ36　砂　岩

0　10cm

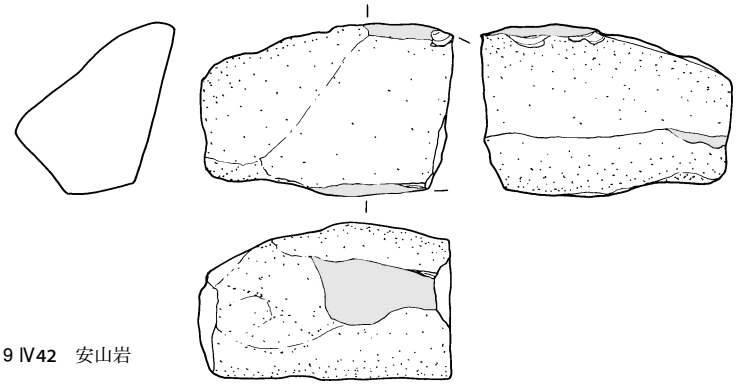


No.	区画	タテ× ヨコ× 高さ
①	41区画	329×300×−404
②	36区画	210×370×−425

第 184 図　出土石器と出土位置 49 (石器 1/3，分布図 1/400)

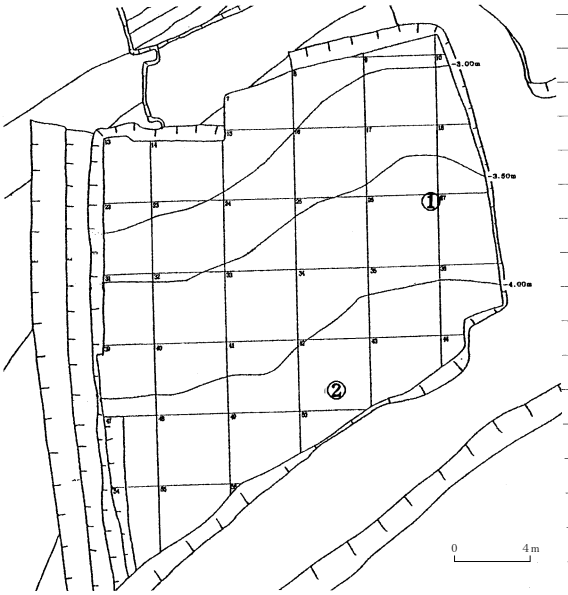


① 228 8 Ⅱ26　安山岩



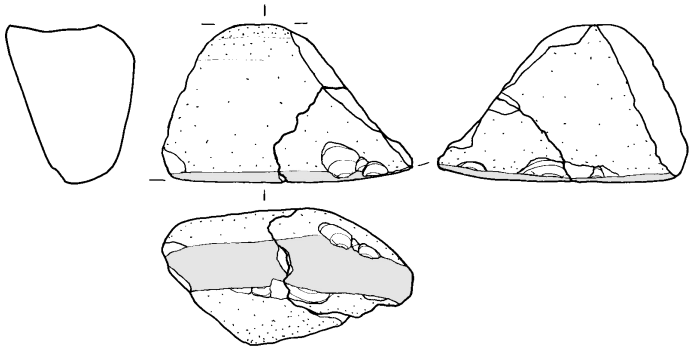
② 229 9 Ⅳ42　安山岩

0　10cm

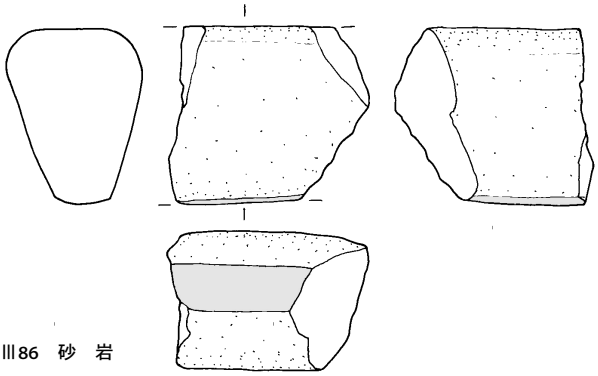


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	26区画	41×	362×	−340
②	42区画	298×	219×	−450

第 185 図　出土石器と出土位置 50 (石器 1/3，分布図 1/400)

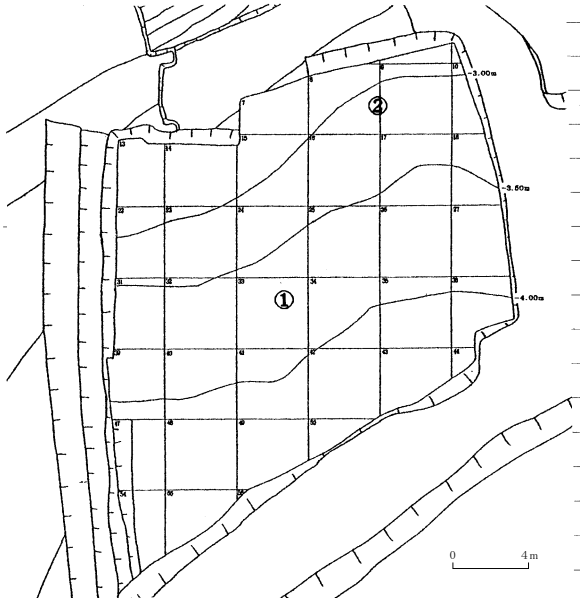


① 230 8 Ⅲ32　砂　岩



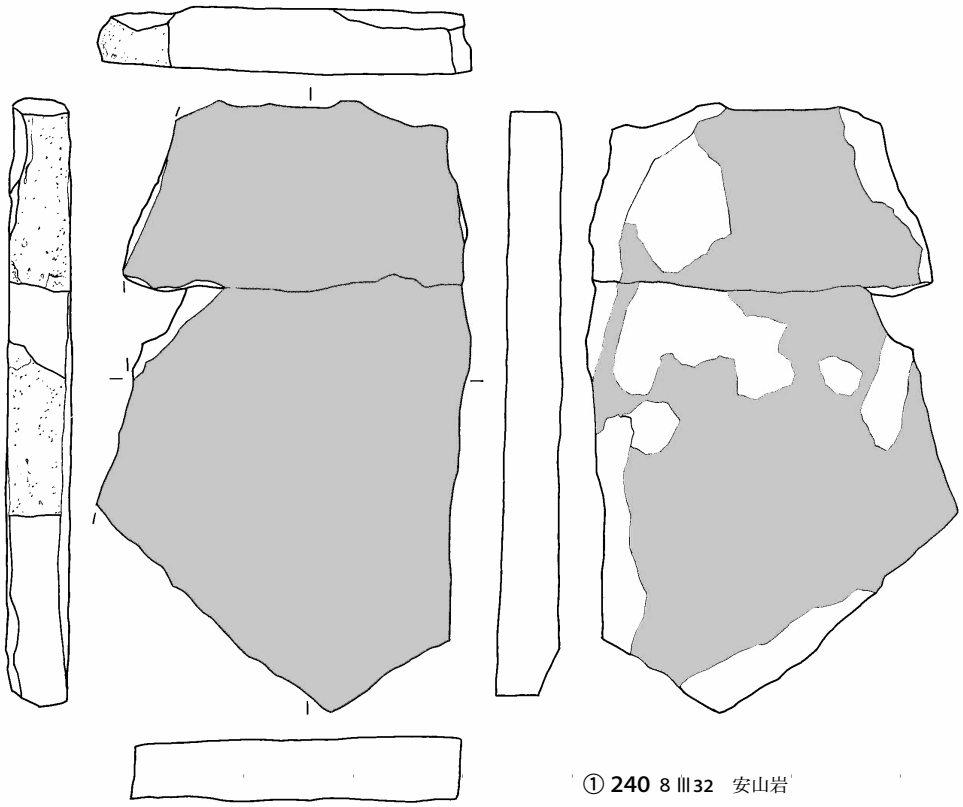
② 235 9 Ⅲ86　砂　岩

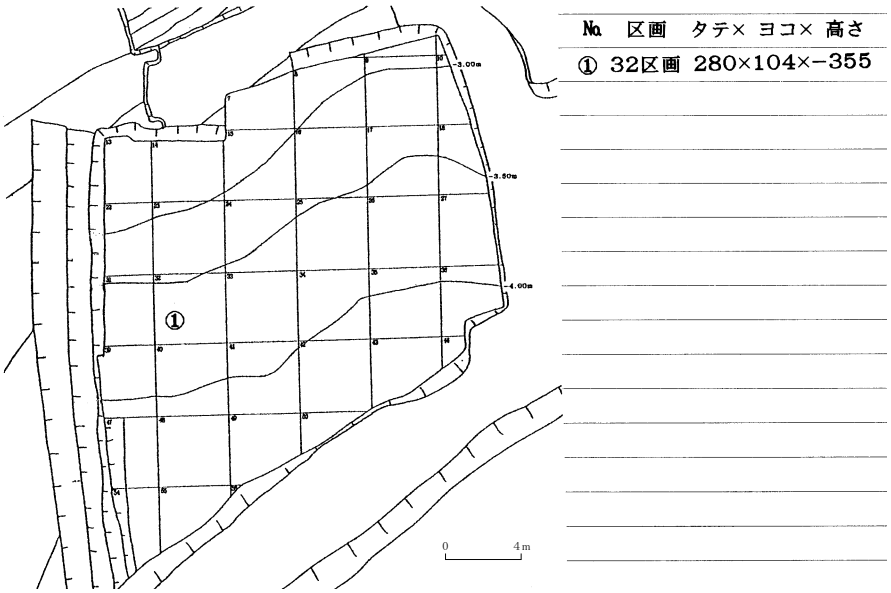
0　10cm



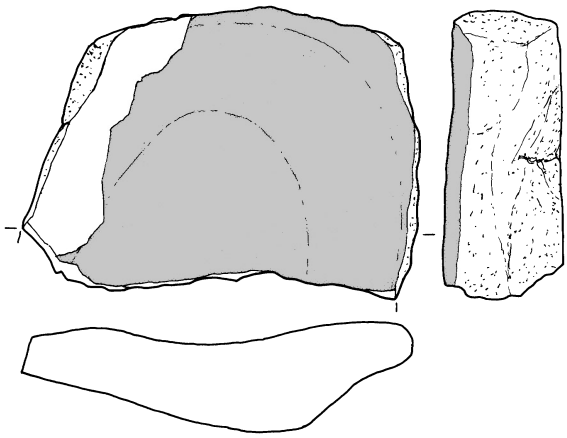
No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	33区画	159×	266×	−354.5
②	8区画	255×	395×	−343

第 186 図　出土石器と出土位置 51 (石器 1/3，分布図 1/400)

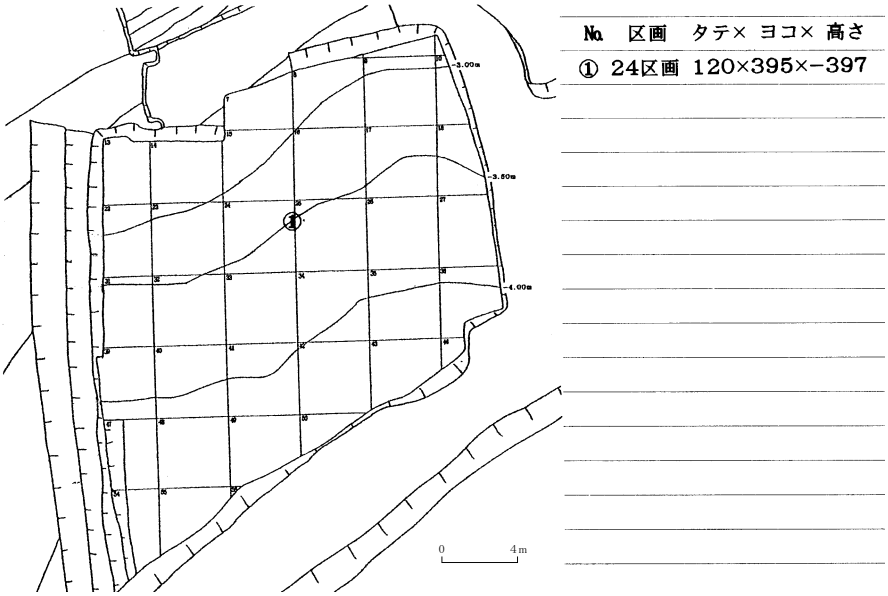




第 187 図　出土石器と出土位置 52 (石器 1/3，分布図 1/400)

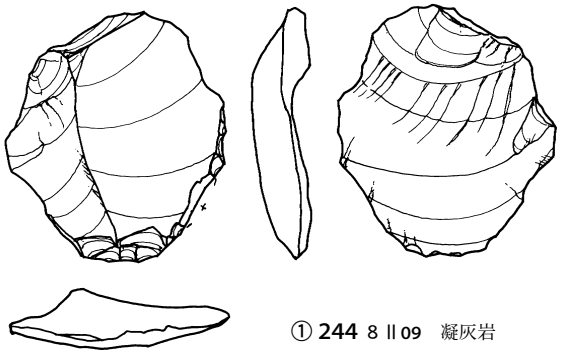


① 242 9 Ⅳ24　閃緑岩

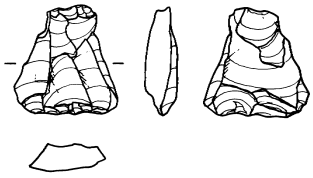


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	24区画	120×	395×	−397

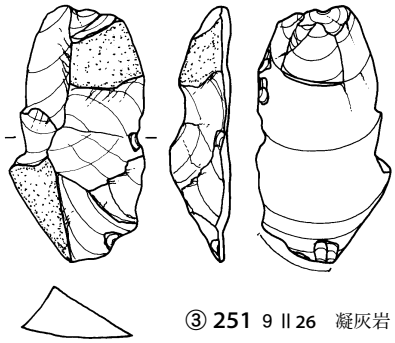
第 188 図　出土石器と出土位置 53 (石器 1/6，分布図 1/400)



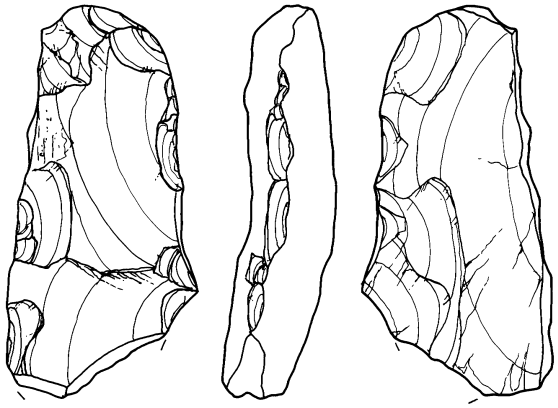
① 244 8 Ⅱ09 凝灰岩



② 247 8 Ⅲ36 凝灰岩

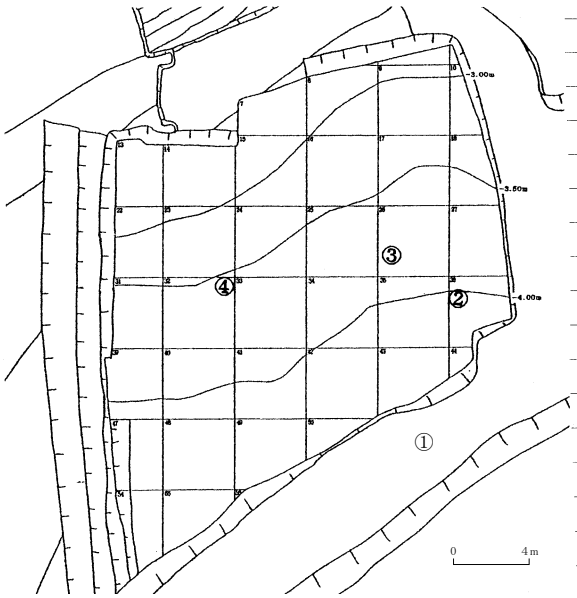


③ 251 9 Ⅱ26 凝灰岩



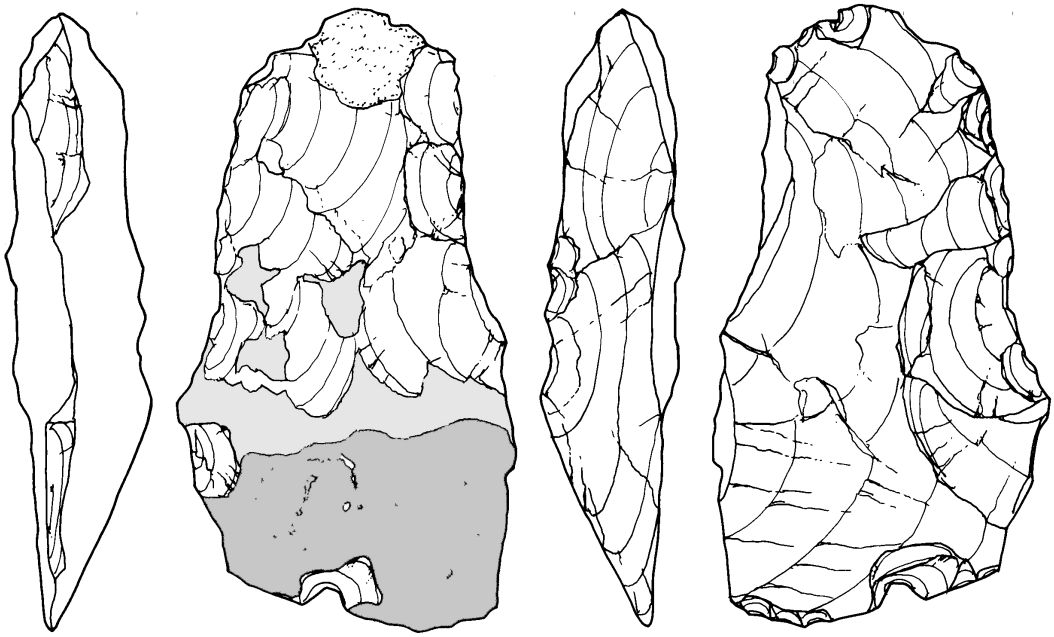
④ 252 7 Ⅱ32 凝灰岩

0 5cm

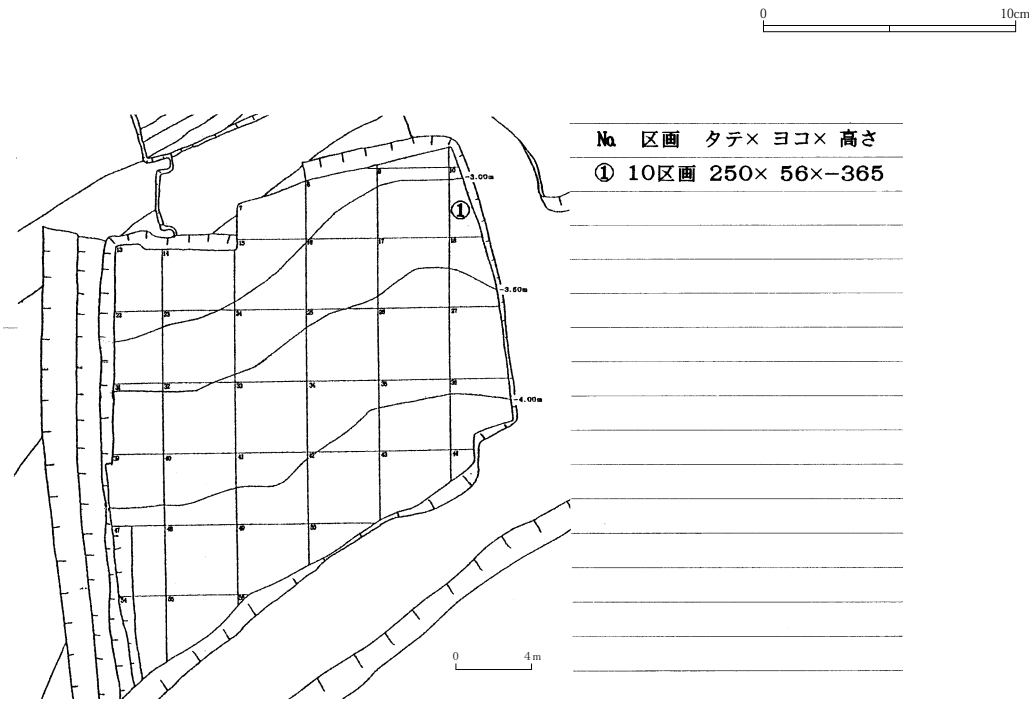


No.	区画	タテ×	ヨコ×	高さ
①	集石No. 8 内			
②	36区画	92×	40×	−379
③	26区画	310×	68×	−388
④	32区画	40×	364 ×	−369

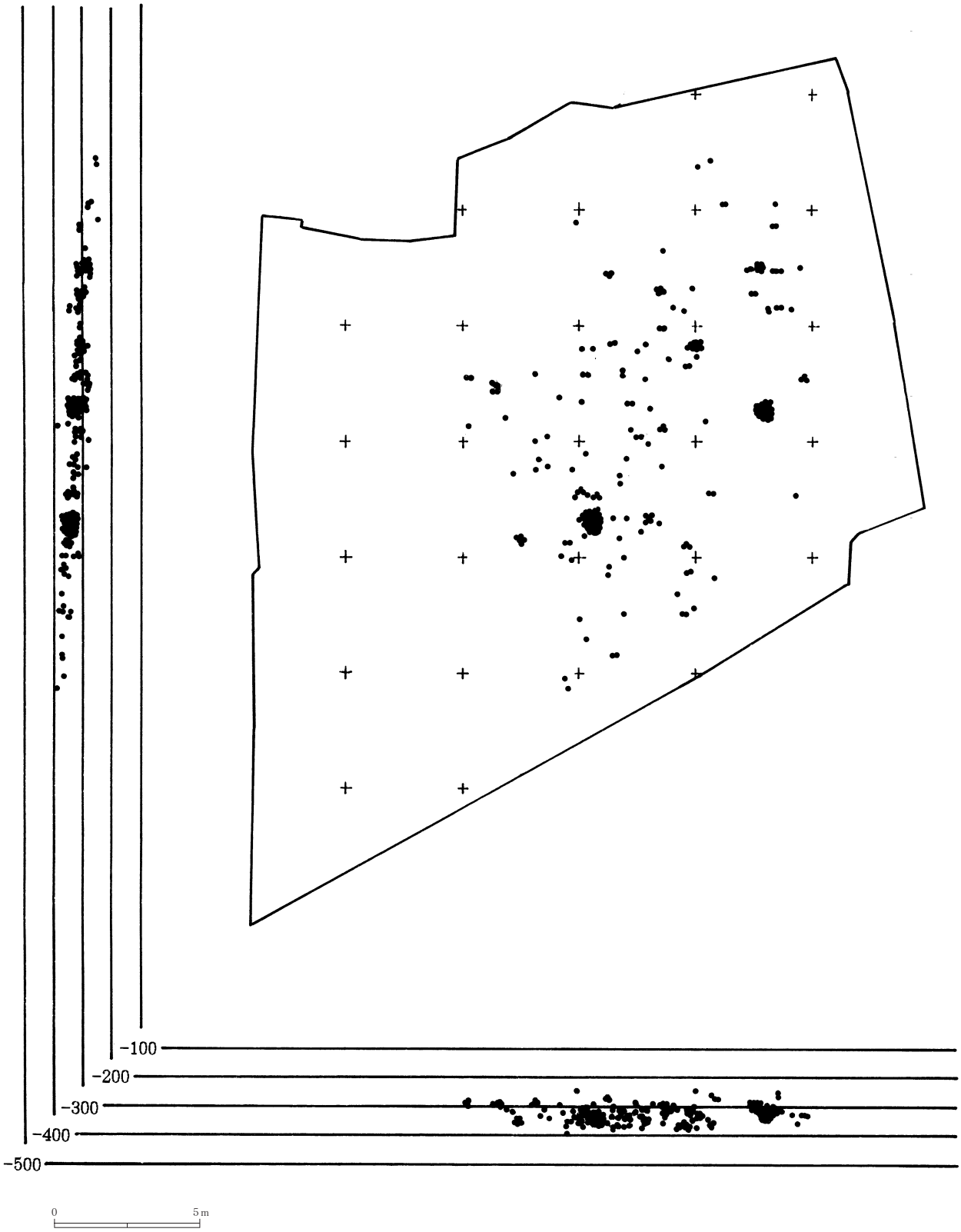
第 189 図　出土石器と出土位置 54 (石器 2/3，分布図 1/400)



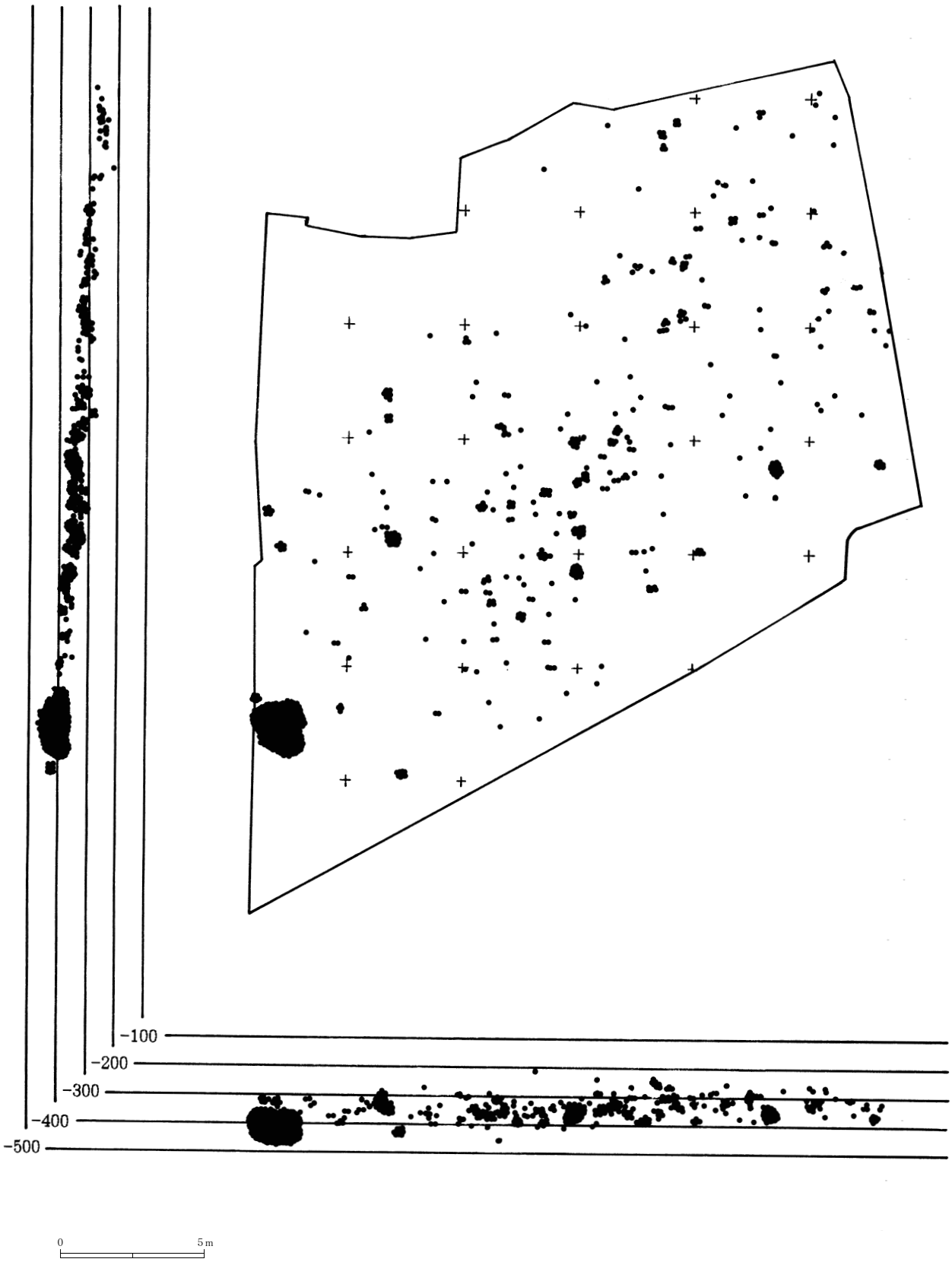
① 253 9Ⅳ10　凝灰岩



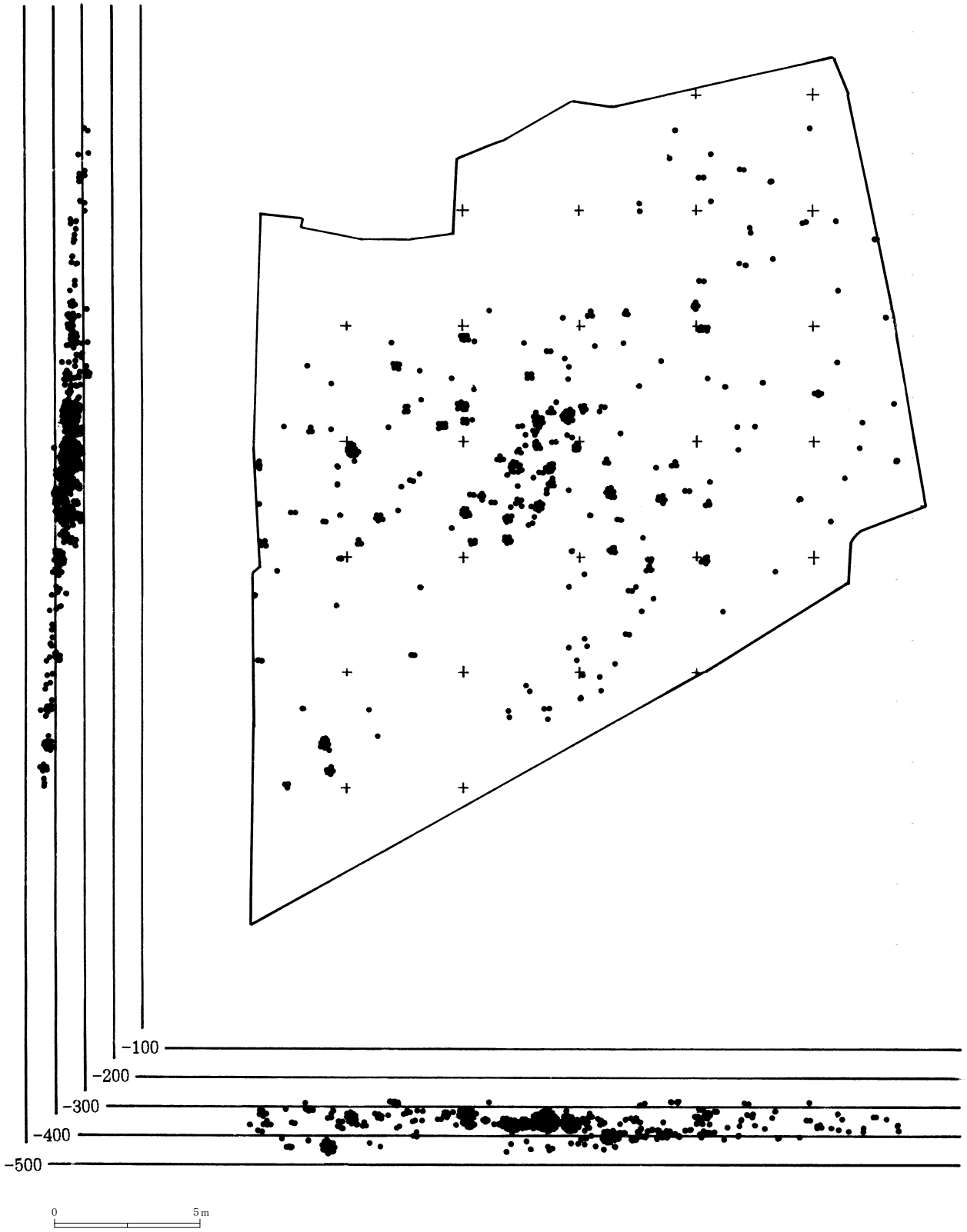
第 190 図　出土石器と出土位置 55 (石器 1/3，分布図 1/400)



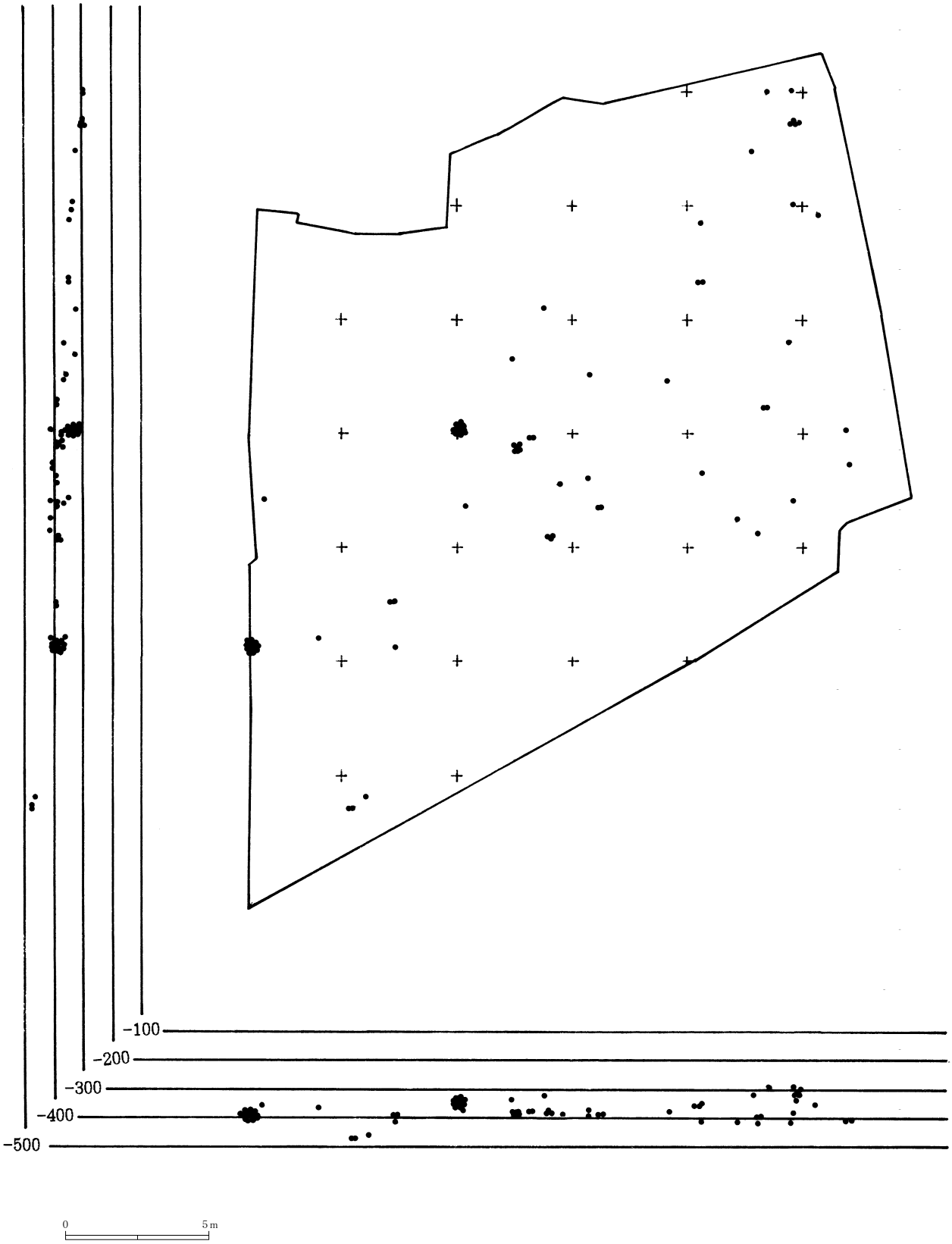
第 191 図　8 Ⅰ層黒曜石出土分布図 (1/200)



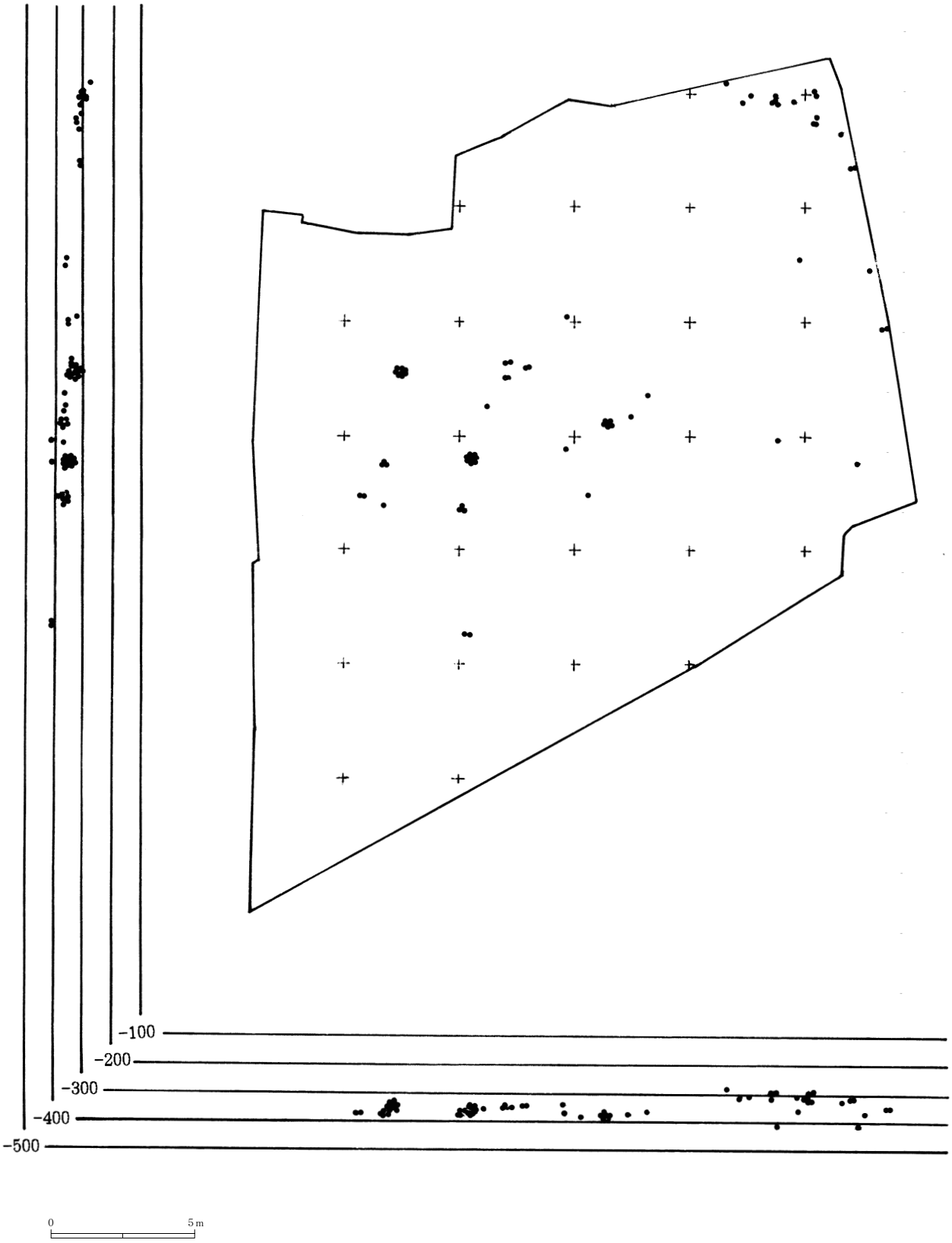
第 192 図　8 Ⅱ層黒曜石出土分布図 (1/200)



第 193 図　8 Ⅲ層黒曜石出土分布図 (1/200)

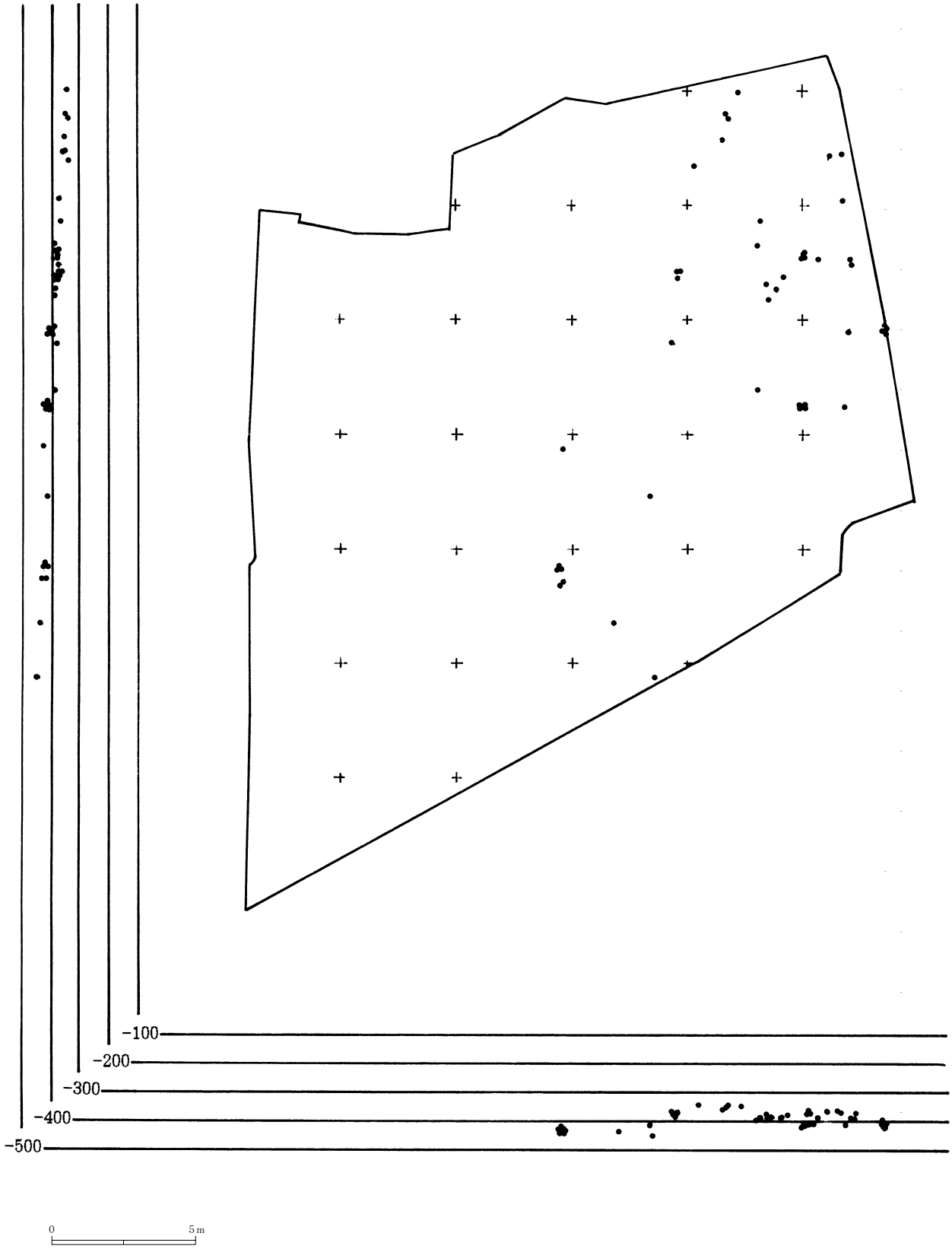


第 194 図　8 Ⅳ層黒曜石出土分布図 (1/200)

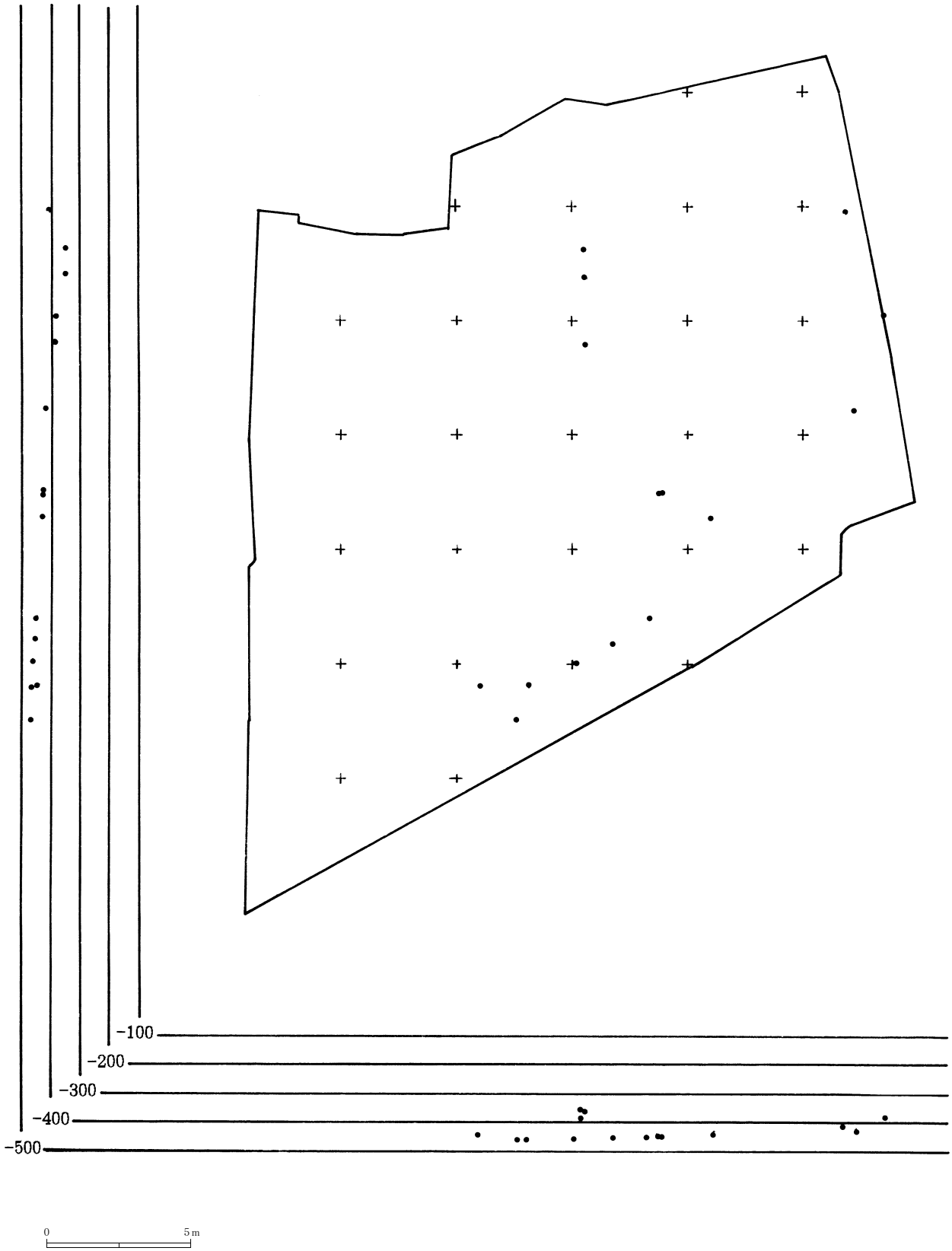


第 195 図　9 Ⅰ層黒曜石出土分布図 (1/200)

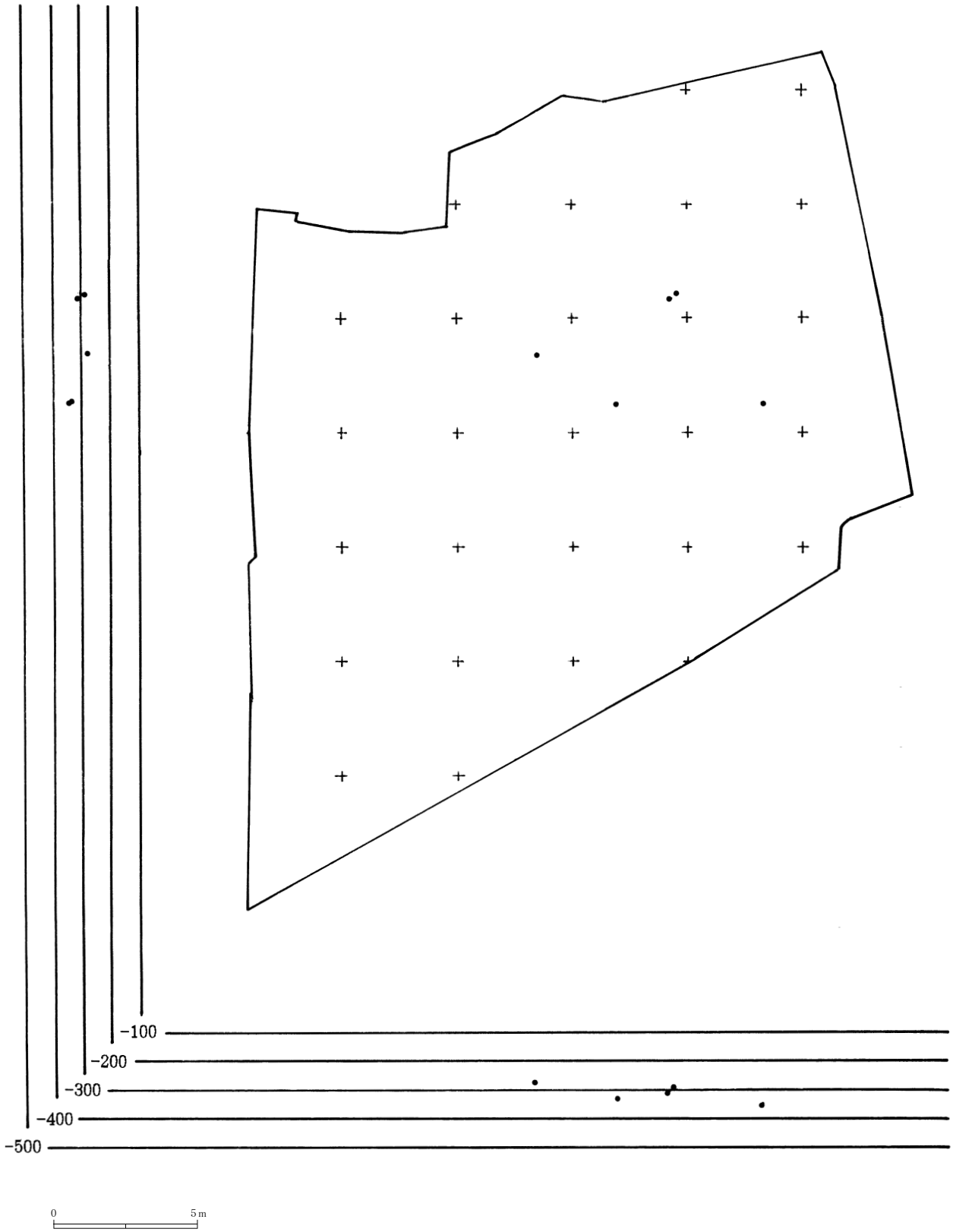
第 196 図　9 Ⅱ層黒曜石出土分布図 (1/200)



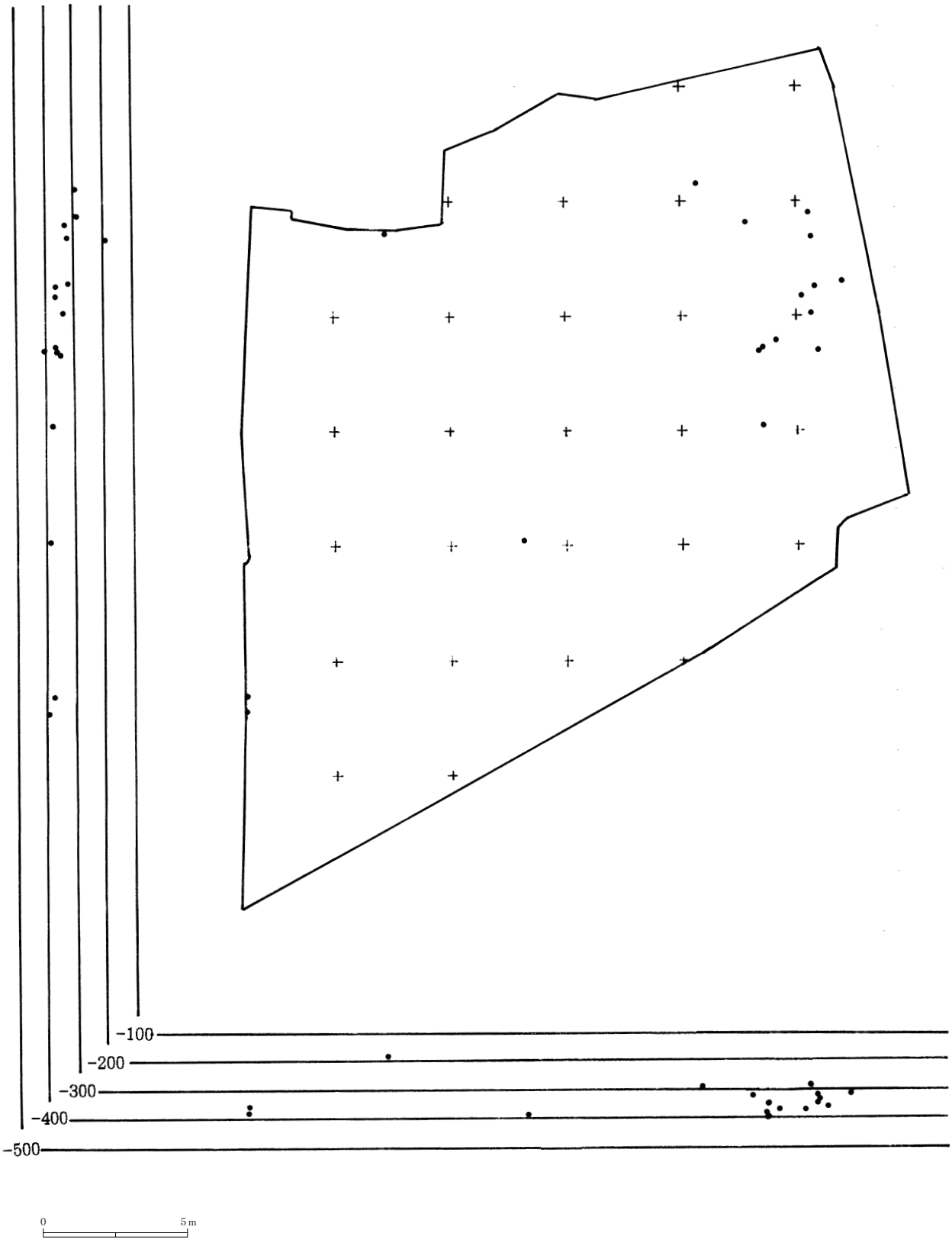
第 197 図　9 Ⅲ層黒曜石出土分布図 (1/200)



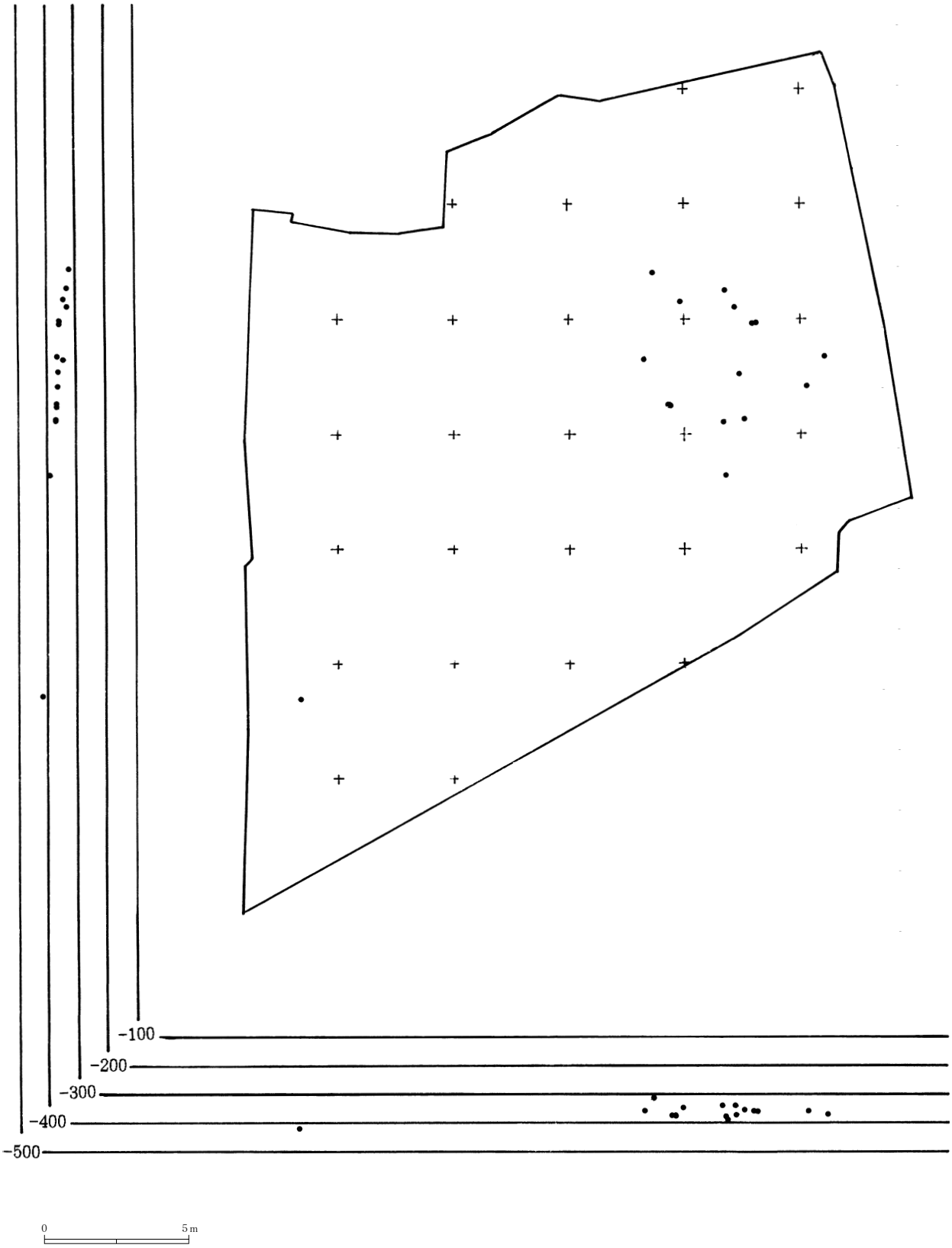
第 198 図　9 Ⅳ層黒曜石出土分布図 (1/200)



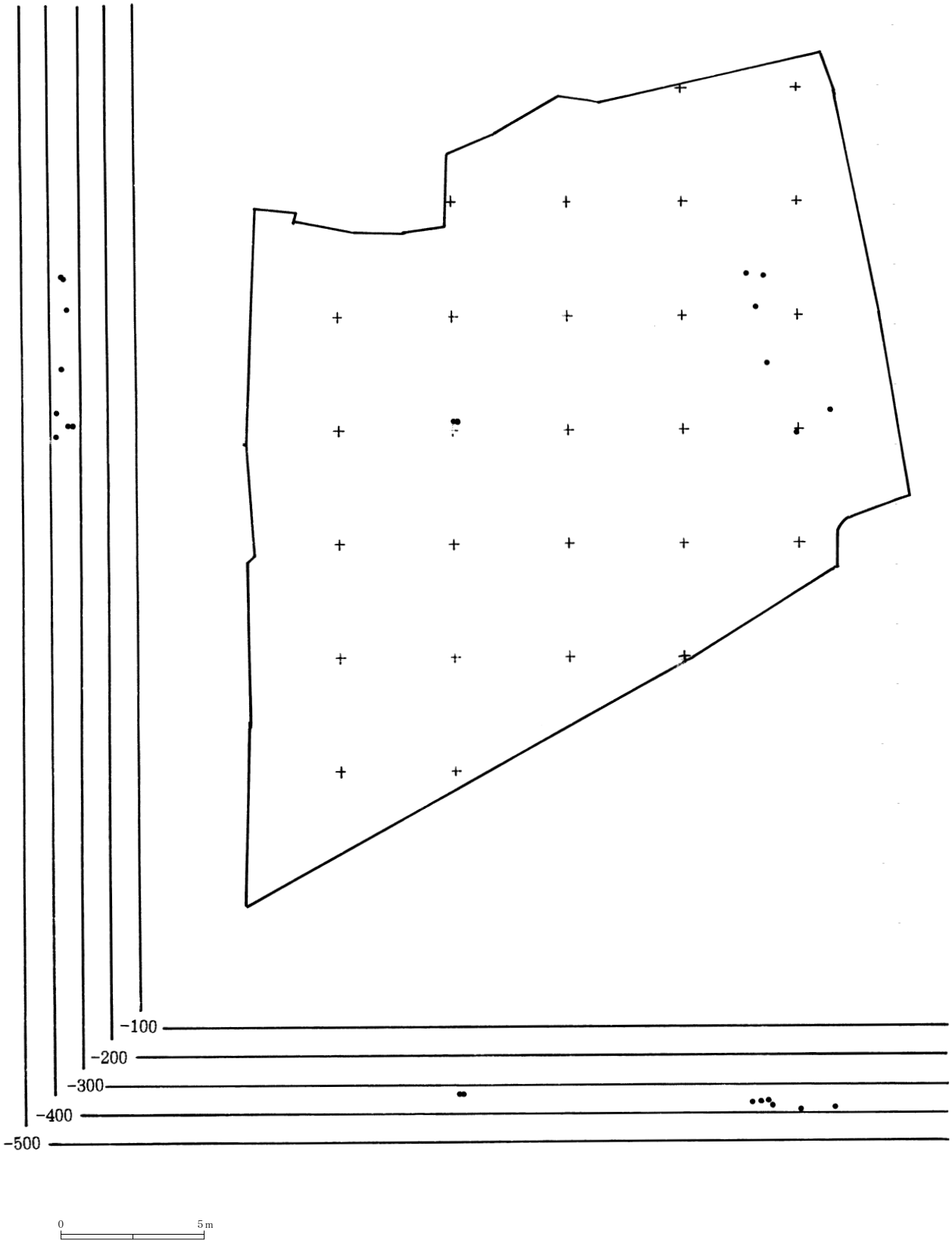
第 199 図　8 Ⅰ層水晶出土分布図 (1/200)



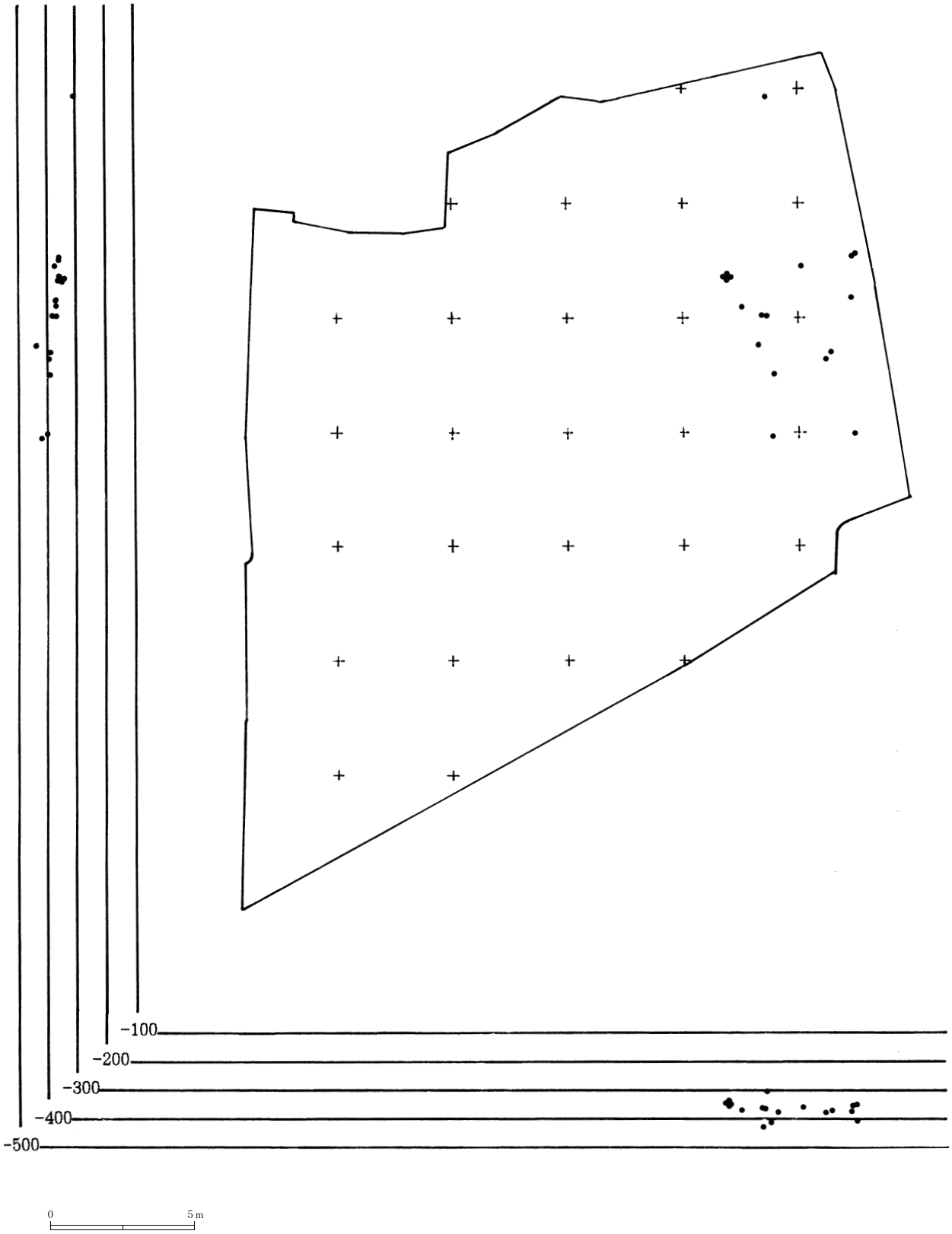
第 200 図　8 Ⅱ層水晶出土分布図 (1/200)



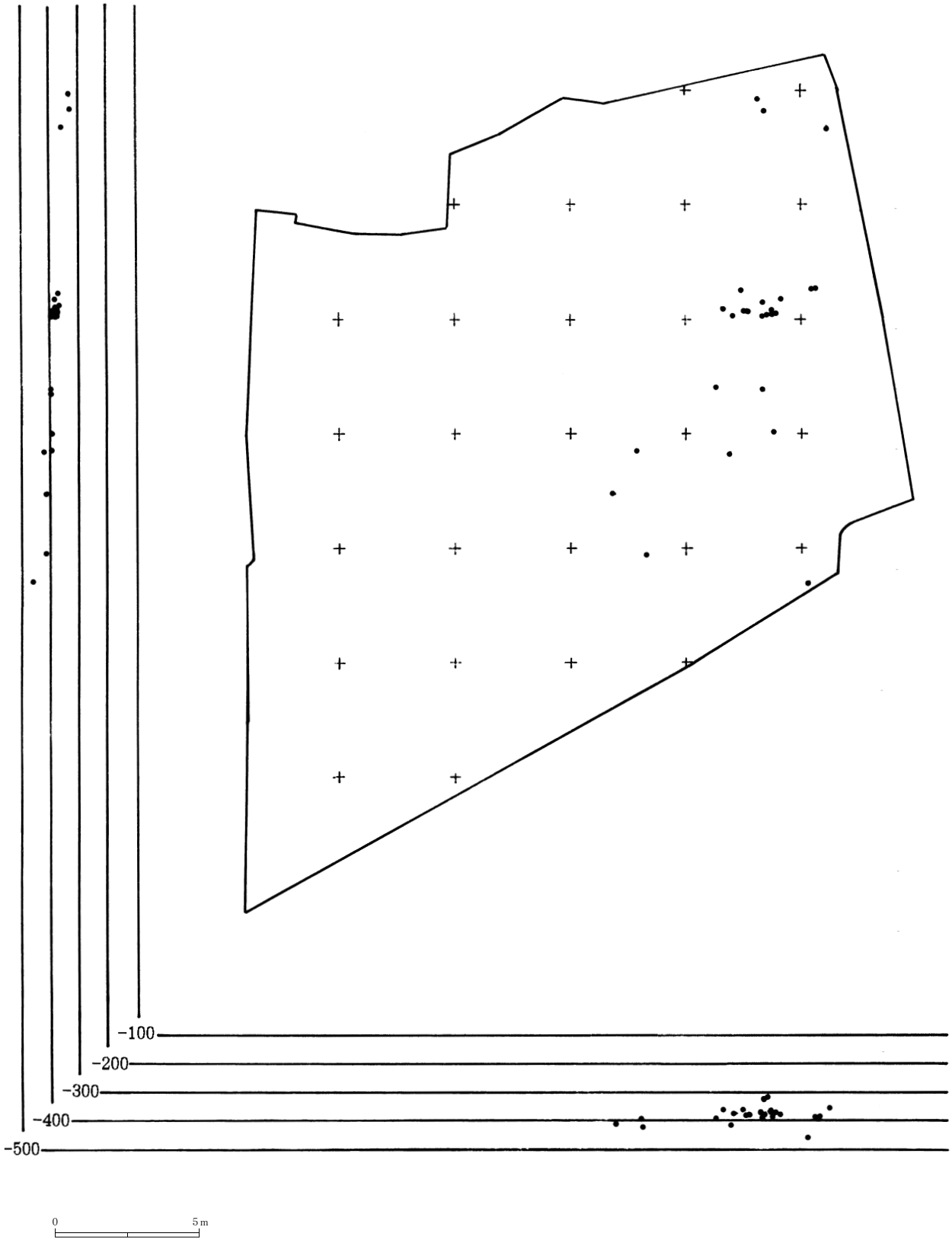
第 201 図　8 Ⅲ層水晶出土分布図 (1/200)



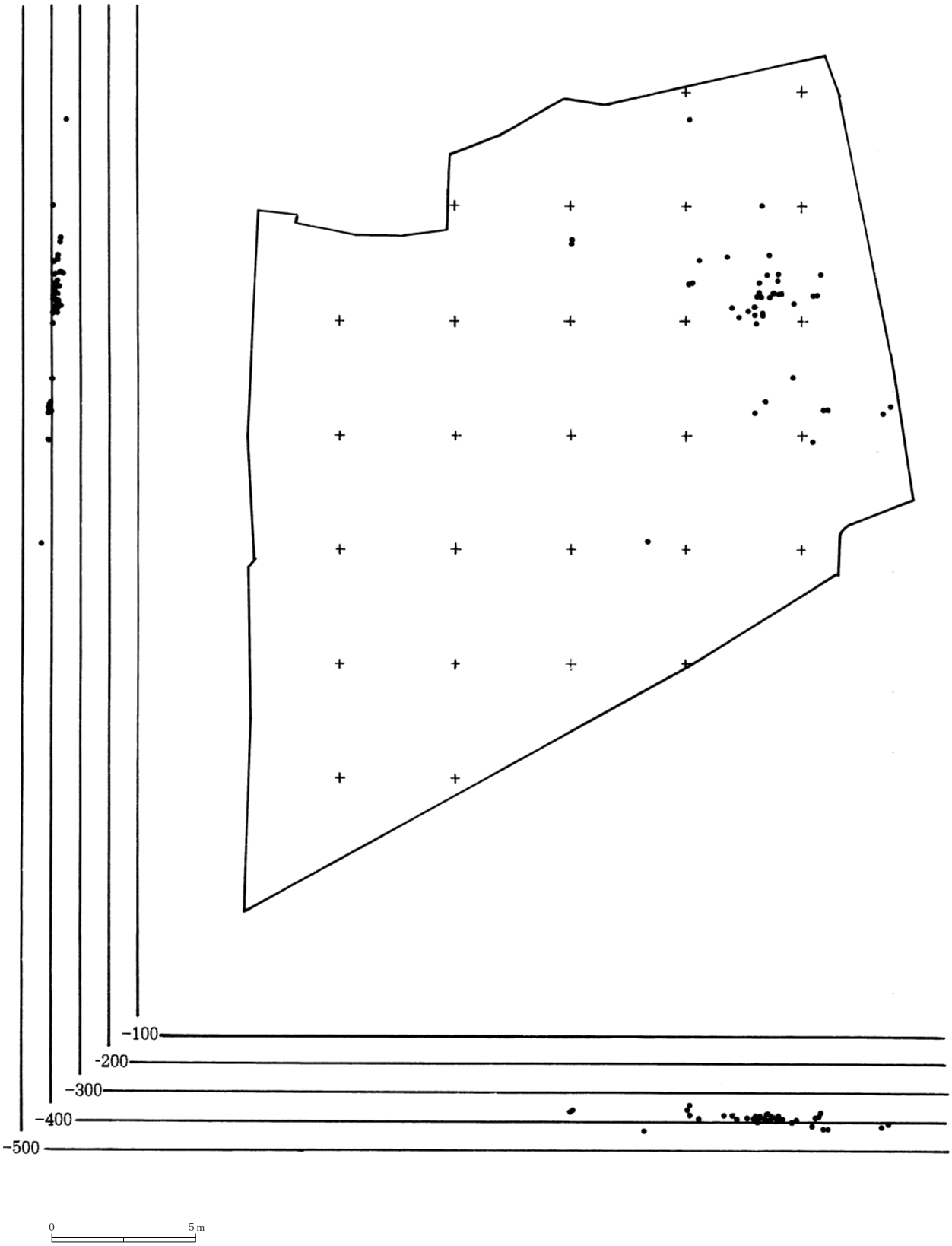
第 202 図　8 Ⅳ層水晶出土分布図 (1/200)



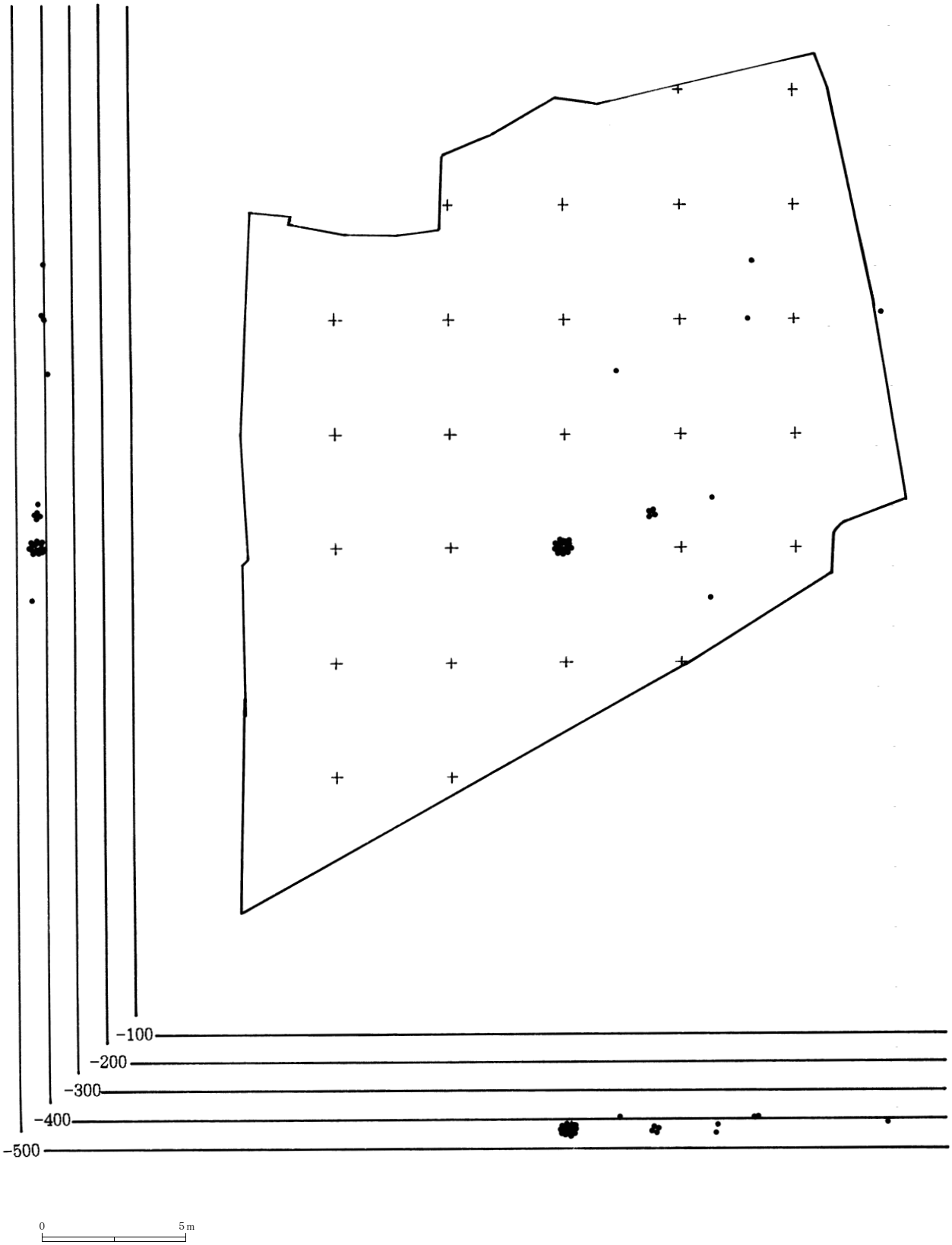
第 203 図　9 Ｉ層水晶出土分布図 (1/200)



第 204 図　9 Ⅱ層水晶出土分布図 (1/200)

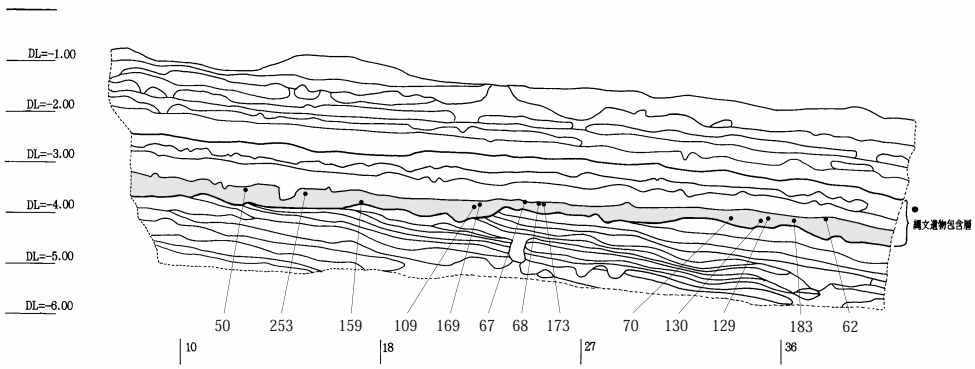


第 205 図　9 Ⅲ層水晶出土分布図 (1/200)

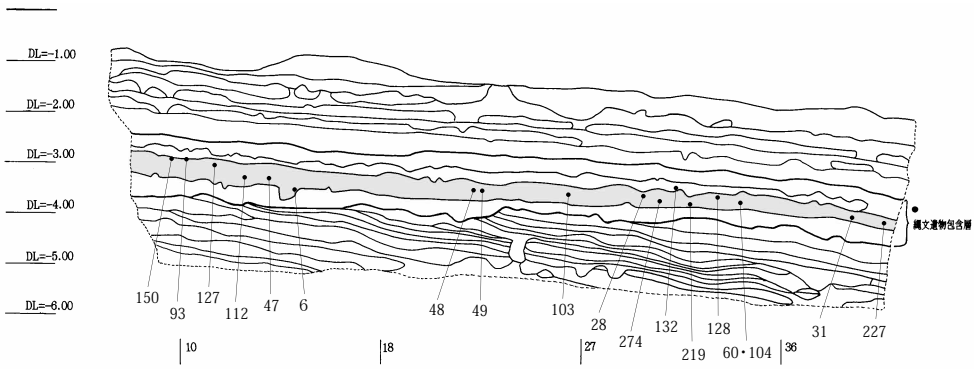


第 206 図　9 Ⅳ層水晶出土分布図 (1/200)

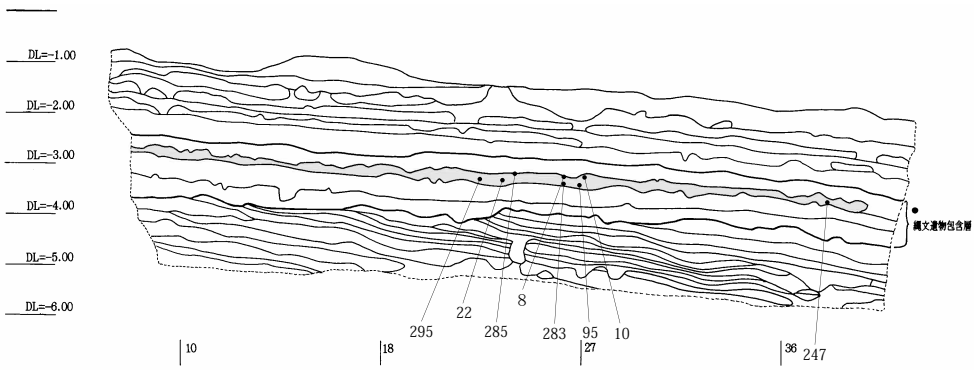
Ｙ－139



Ｙ－140、Ｙ－141－１

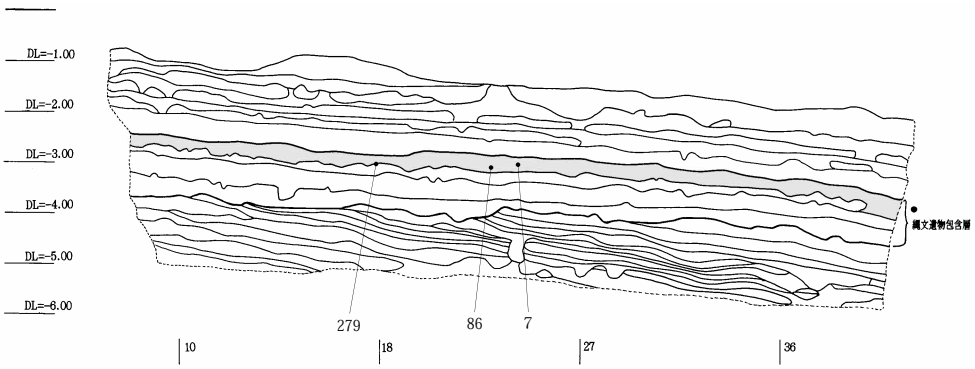


Ｙ－141－２

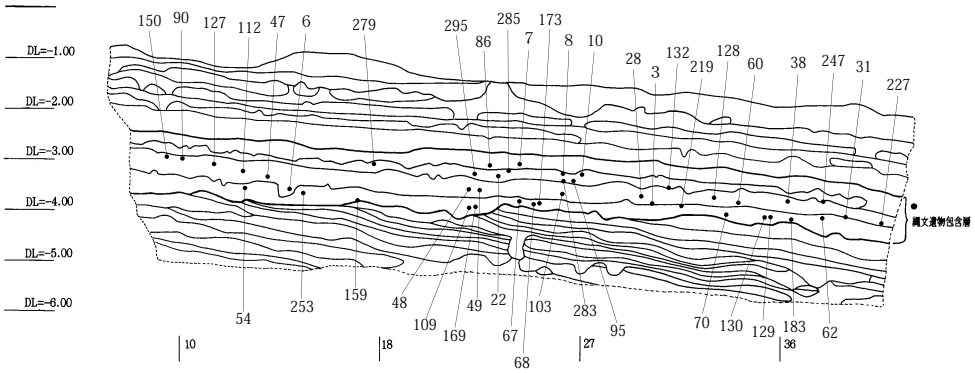


第 207 図　石器垂直分布図（東壁）１（1/150）

Ｙ－141－３



全石器（東壁）



第 208 図　石器垂直分布図（東壁）２（1/150）

通番	図面	器種	石材	加工様相	残存形状	所見	備考	推定産地	取上層位	文化層記号	推定文化層	東壁確認層位	確定文化層	グリッド	出土遺構	グリッド区分	注記全体	原産地分析番号	推定産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
1	有り	石鏃	凝灰岩	半両面	未製品	未製品。裏面に素材面を残す。		適用外	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	9		A	8Ⅰ・09001			14.2	21.5	4.0	1.0
2	有り	石鏃	凝灰岩	半両面	完形	完形。裏面に素材面を残す。		適用外	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	16		A	8Ⅰ・16030			22.3	11.5	3.4	0.7
3	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形	両面加工。		神津島恩馳島群	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	24		D	8Ⅰ・24015	1	神津島恩馳島群	18.6	12.8	5.3	0.6
4	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			諏訪星ヶ台群	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	26		B	8Ⅰ・26025	2	諏訪星ヶ台群	14.6	13.0	4.0	0.5
5	有り	石鏃	黒曜石	半両面	脚欠			神津島恩馳島群	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	8		A	8Ⅱ・08081	3	神津島恩馳島群	22.3	17.9	4.0	1.1
6	有り	石鏃	水晶	両面	完形			適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	14		C	8Ⅱ・14001			21.7	13.2	4.0	0.7
7	有り	石鏃	水晶	両面	完形			適用外	8Ⅱ	A	上層	141-3	上層	18		A	8Ⅱ・18019			14.3	11.5	2.7	0.3
8	有り	石鏃	黒曜石	半両面	完形			推定不可	8Ⅱ	A	上層	141-2	上層	18		A	8Ⅱ・18028	4	推定不可	24.8	16.6	4.0	1.2
9	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			諏訪星ヶ台群	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	25		B	8Ⅱ・25071	5	諏訪星ヶ台群	20.5	14.5	3.7	0.8
10	有り	石鏃	黒曜石	半両面	完形			神津島恩馳島群	8Ⅱ	A	上層	141-2	上層	27		B	8Ⅱ・27001	6	神津島恩馳島群	13.8	11.8	2.3	0.3
11	有り	石鏃	黒曜石	半両面	完形			神津島恩馳島群	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	32		D	8Ⅱ・32041	7	神津島恩馳島群	13.0	10.7	2.7	0.2
12	有り	石鏃	黒曜石	両面	脚欠			諏訪星ヶ台群	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	34		B	8Ⅱ・34079	8	諏訪星ヶ台群	15.4	10.0	2.6	0.3
13	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			諏訪星ヶ台群	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	35		B	8Ⅱ・35102	9	諏訪星ヶ台群	12.0	9.5	2.0	0.1
14	有り	石鏃	黒曜石	両面	先端・脚欠			和田鷹山群	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	40		D	8Ⅱ・40033	10	和田鷹山群	20.6	15.0	4.0	0.7
15	有り	石鏃	黒曜石	半両面	完形			諏訪星ヶ台群	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	41		D	8Ⅱ・41108	11	諏訪星ヶ台群	24.0	16.7	4.5	1.4
16	有り	石鏃	珪岩	周縁	未製品			適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	47		D	8Ⅱ・47031			19.4	9.8	1.6	0.3
17	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	8		A	8Ⅲ・08004	12	諏訪星ヶ台群	21.3	14.3	4.0	0.9
18	有り	石鏃	黒曜石	両面	脚欠			諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	8		A	8Ⅲ・08016	13	諏訪星ヶ台群	17.2	12.8	3.5	0.6
19	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			神津島恩馳島群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	15		C	8Ⅲ・15064	14	神津島恩馳島群	12.7	13.5	3.0	0.5
20	有り	石鏃	黒曜石	両面	先端欠			諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	16		A	8Ⅲ・16013	15	諏訪星ヶ台群	23.4	17.0	4.5	1.2
21	有り	石鏃	黒曜石	両面	脚欠			諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	17		A	8Ⅲ・17057	16	諏訪星ヶ台群	19.4	13.4	4.4	0.8
22	有り	石鏃	珪岩	周縁	完形			適用外	8Ⅲ	A	上層	141-2	上層	18		A	8Ⅲ・18001			20.0	10.9	3.3	0.6
23	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	23		D	8Ⅲ・23004	17	諏訪星ヶ台群	17.0	11.0	4.5	0.7
24	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	24		D	8Ⅲ・24042	18	諏訪星ヶ台群	22.8	15.0	3.0	0.5
25	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	24		D	8Ⅲ・24068	19	諏訪星ヶ台群	17.0	12.5	4.1	0.8
26	有り	石鏃	黒曜石	両面	脚欠			諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	26		B	8Ⅲ・26005	20	諏訪星ヶ台群	11.8	11.3	3.4	0.3
27	有り	石鏃	黒曜石	半両面	完形	素材は両極剥片の可能性がある。		天城柏峠群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	26		B	8Ⅲ・26028	21	天城柏峠群	13.2	11.9	2.0	0.2
28	有り	石鏃	黒曜石	周縁	未製品			天城柏峠群	8Ⅲ	A	上層	141-1	中層	27		B	8Ⅲ・27018	22	天城柏峠群	15.7	11.6	3.2	0.4
29	有り	石鏃	黒曜石	周縁	未製品	裏面はバルブのあるポジ面。		諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	31		D	8Ⅲ・31022	23	諏訪星ヶ台群	19.4	15.0	4.0	0.9
30	有り	石鏃	黒曜石	両面	先端欠			推定不可	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	31		D	8Ⅲ・31034	24	推定不可	14.3	14.6	4.2	0.7
31	有り	石鏃	黒曜石	両面	未製品	平基。脚部製作直前形態。		諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	33		D	8Ⅲ・33009	25	諏訪星ヶ台群	17.8	13.8	2.9	0.6
32	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	33		D	8Ⅲ・33011	26	諏訪星ヶ台群	15.5	12.0	3.4	0.5
33	有り	石鏃	黒曜石	半両面	脚欠			諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	33		D	8Ⅲ・33031-2	27	諏訪星ヶ台群	15.8	13.3	3.0	0.5
34	有り	石鏃	黒曜石	両面	脚欠			諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	33		D	8Ⅲ・33131	28	諏訪星ヶ台群	15.5	11.8	3.5	0.5
35	有り	石鏃	黒曜石	半両面	脚欠	背面に自然面を残す。		天城柏峠群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	33		D	8Ⅲ・33150	29	天城柏峠群	18.2	14.3	4.1	0.8
36	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	34		B	8Ⅲ・34049	30	諏訪星ヶ台群	12.2	12.9	2.9	0.3
37	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			和田土屋橋南群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	35		B	8Ⅲ・35002	31	和田土屋橋南群	8.0	11.1	2.7	0.2
38	有り	石鏃	黒曜石	両面	脚欠	やや大形石鏃。		諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	36		B	8Ⅲ・36042	32	諏訪星ヶ台群	23.1	17.6	6.0	1.8
39	有り	石鏃	珪岩	半両面	脚欠			適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	42		B	8Ⅲ・42002			18.5	14.0	3.3	0.6
40	有り	石鏃	黒曜石	半両面	未製品			諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	47		D	8Ⅲ・47004	33	諏訪星ヶ台群	23.0	16.3	3.6	1.2
41	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			蓼科冷山群	8Ⅳ	B	中層	141-1	中層	2		A	8Ⅳ・02007	34	蓼科冷山群	20.0	17.7	4.3	1.0
42	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			神津島恩馳島群	8Ⅳ	A	上層	不明	不明	9		A	8Ⅳ・09033	35	神津島恩馳島群	16.8	13.5	3.7	0.6
43	有り	石鏃	凝灰岩	両面	脚欠	鍬形鏃。		適用外	8Ⅳ	A	上層	不明	不明	34		B	8Ⅳ・34003			15.5	14.2	2.5	0.2
44	有り	石鏃	黒曜石	両面	脚欠			天城柏峠群	8Ⅳ	A	上層	不明	不明	35		B	8Ⅳ・35003	36	天城柏峠群	16.0	11.0	2.4	0.3
45	有り	石鏃	黒曜石	両面	未製品	平基。脚部製作直前形態。		諏訪星ヶ台群	9Ⅰ	A	上層	不明	不明	9		A	9Ⅰ・09003	37	諏訪星ヶ台群	17.8	12.7	4.5	0.8
46	有り	石鏃	黒曜石	半両面	脚欠			神津島恩馳島群	9Ⅰ	A	上層	不明	不明	9		A	9Ⅰ・09014	38	神津島恩馳島群	22.5	18.3	3.2	0.9
47	有り	石鏃	珪岩	両面	脚欠			適用外	9Ⅰ	B	中層	141-1	中層	10		A	9Ⅰ・10078			23.4	17.4	4.3	1.6
48	有り	石鏃	水晶	両面	完形			適用外	9Ⅰ	B	中層	141-1	中層	18		A	9Ⅰ・18003			14.2	12.0	2.6	0.3
49	有り	石鏃	黒曜石	両面	脚欠			諏訪星ヶ台群	9Ⅰ	B	中層	141-1	中層	18		A	9Ⅰ・18005	39	諏訪星ヶ台群	14.8	12.4	2.1	0.2
50	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			諏訪星ヶ台群	9Ⅰ	A	上層	不明	不明	25		B	9Ⅰ・25002	40	諏訪星ヶ台群	20.4	17.6	2.9	0.6
51	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			諏訪星ヶ台群	9Ⅰ	A	上層	不明	不明	33		D	9Ⅰ・33002	41	諏訪星ヶ台群	17.5	13.0	2.4	0.4
52	有り	石鏃	黒曜石	両面	脚欠			諏訪星ヶ台群	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	9		A	9Ⅱ・09002	42	諏訪星ヶ台群	15.0	8.7	2.7	0.2

第８表　縄文時代石器属性表（１）

通番	図面	器種	石材	加工様相	残存形状	所見	備考	推定産地	取上層位	文化層記号	推定文化層	東壁確認層位	確定文化層	グリッド	出土遺構	グリッド区分	注記全体	原産地分析番号	推定産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
53	有り	石鏃	黒曜石	両面	脚欠			諏訪星ヶ台群	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	9		A	9Ⅱ・09003	43	諏訪星ヶ台群	14.2	10.0	2.1	0.2
54	有り	石鏃	水晶	周縁	未製品	素材は両極剥片の可能性がある。		適用外	9Ⅱ	B	中層	139	下層	10		A	9Ⅱ・10003			11.8	16.7	3.6	0.8
55	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形	部分磨製石鏃。		諏訪星ヶ台群	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	16		A	9Ⅱ・16003	44	諏訪星ヶ台群	10.7	10.7	1.6	0.1
56	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			諏訪星ヶ台群	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	17		A	9Ⅱ・17014	45	諏訪星ヶ台群	16.8	13.2	4.3	0.6
57	有り	石鏃	水晶	両面	完形			適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	17		A	9Ⅱ・17015			16.5	15.0	2.8	0.4
58	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			諏訪星ヶ台群	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	24		D	9Ⅱ・24020	46	諏訪星ヶ台群	10.0	12.3	1.8	0.1
59	有り	石鏃	黒曜石	両面	未製品	平基。脚部製作直前形態。		和田鷹山群	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	26		B	9Ⅱ・26031	47	和田鷹山群	20.0	17.8	4.2	1.2
60	有り	石鏃	黒曜石	両面	脚欠			諏訪星ヶ台群	9Ⅱ	B	中層	141-1	中層	27		B	9Ⅱ・27002	48	諏訪星ヶ台群	20.2	11.6	2.6	0.3
61	有り	石鏃	黒曜石	両面	未製品	平基。脚部製作直前形態。		諏訪星ヶ台群	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	33		D	9Ⅱ・33013	49	諏訪星ヶ台群	23.0	16.7	5.0	1.4
62	有り	石鏃	黒色頁岩	半両面	脚欠			適用外	9Ⅱ	B	中層	141-1	中層	36		B	9Ⅱ・36001			16.6	12.4	2.3	0.3
63	有り	石鏃	黒曜石	両面	断片			諏訪星ヶ台群	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	10		A	9Ⅲ・10004	50	諏訪星ヶ台群	10.0	5.5	3.3	0.1
64	有り	石鏃	黒曜石	両面	断片			諏訪星ヶ台群	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	17		A	9Ⅲ・17017	51	諏訪星ヶ台群	15.4	9.0	2.8	0.1
65	有り	石鏃	黒曜石	両面	断片			諏訪星ヶ台群	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	17		A	9Ⅲ・17137	52	諏訪星ヶ台群	14.0	11.0	2.6	0.1
66	有り	石鏃	水晶	半両面	未製品			適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	17		A	9Ⅲ・17078			10.7	13.7	2.6	0.3
67	有り	石鏃	凝灰岩	半両面	完形			適用外	9Ⅲ	B	中層	139	下層	18		A	9Ⅲ・18011			15.5	14.4	3.2	0.4
68	有り	石鏃	凝灰岩	半両面	完形			適用外	9Ⅲ	B	中層	139	下層	18		A	9Ⅲ・18037			13.0	12.1	2.1	0.2
69	有り	石鏃	水晶	両面	脚欠			適用外	9Ⅲ	B	中層	139	下層	26		B	9Ⅲ・26059			11.7	10.0	2.9	0.1
70	有り	石鏃	黒曜石	両面	脚欠			諏訪星ヶ台群	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	27		B	9Ⅲ・27049	53	諏訪星ヶ台群	16.0	12.4	2.2	0.2
71	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形			諏訪星ヶ台群	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	33		D	9Ⅲ・33003	54	諏訪星ヶ台群	14.1	11.5	2.5	0.2
72	有り	石鏃	黒曜石	両面	脚欠			諏訪星ヶ台群	9Ⅳ	C	下層	不明	不明	49		D	9Ⅳ・49004	55	諏訪星ヶ台群	18.2	13.3	3.6	0.6
73	有り	削器	水晶	片刃	完形	素材と刃部はCHD。刃部にMF。		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	26		B	8Ⅱ・26078			30.0	44.4	11.8	15.4
74	有り	削器	水晶	両刃	完形	刃部は押圧剥離。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	16		A	8Ⅲ・16006			30.0	22.1	12.5	8.3
75	有り	両極剥片	水晶	加工なし	完形	HvDで剥離されている。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	9		A	9Ⅱ・09006			26.0	15.3	6.9	2.3
76	有り	削器	水晶	片刃	完形	素材は両極石器。刃部は押圧剥離。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	34		B	9Ⅱ・34003			34.9	31.3	6.6	8.8
77	有り	使用痕剥片	水晶	加工なし	完形	素材は両極剥離。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	34		B	9Ⅱ・34005			44.1	32.5	15.6	20.6
78	有り	使用痕剥片	水晶	加工なし	完形	素材はCHD。打面残存。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	42		B	9Ⅱ・42005			45.1	18.6	7.5	4.9
79	有り	使用痕剥片	水晶	加工なし	完形	素材はCHD。打面残存。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	44		B	9Ⅱ・44001			48.0	15.8	13.0	8.6
80	有り	削器	水晶	両刃	完形	素材は両極石器。刃部は押圧剥離。		適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	9		A	9Ⅲ・09018			38.8	19.3	7.8	6.5
81	有り	両極石器	水晶	加工なし	完形			適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	34		B	9Ⅲ・34007			34.0	31.5	6.5	7.6
82	有り	原石	水晶	加工なし	完形	小形の扁平楕円礫。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	35		B	9Ⅱ・35008			40.0	34.6	16.5	31.0
83	有り	使用痕剥片	凝灰岩	加工なし	完形	素材はCHD。線状打面。		適用外	7Ⅰ	A	上層	不明	不明	不明	不明	不明	7Ⅰ・3204			32.4	29.4	12.6	9.2
84	有り	二次加工剥片	凝灰岩	不整半両面	完形	石錐の未製品か。		適用外		A	上層	不明	不明	不明	不明	不明	7Ⅰ・5401			36.2	27.5	11.0	8.3
85	有り	二次加工剥片	凝灰岩	不整半両面	完形	石錐の未製品か。		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	17		A	8Ⅱ・17090			48.5	26.5	14.0	16.1
86	有り	使用痕剥片	珪岩	周縁	完形	石器の加工で生じた剥片を素材。その加工は押圧剥離。		適用外	8Ⅱ	A	上層	141-3	上層	18		A	8Ⅱ・18039			32.7	17.5	6.9	3.3
87	有り	削器	凝灰岩	片刃	完形	形態形成はS'P/急角度。		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	24		D	8Ⅱ・24064			25.6	42.5	6.3	6.9
88	有り	両極石器	凝灰岩	加工なし	完形	剥片素材の両極石器。		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	24		D	8Ⅱ・24072			26.4	35.0	10.0	7.7
89	有り	使用痕剥片	凝灰岩	加工なし	完形	自然面打面。S'Dの剥離。被熱資料。		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	41		D	8Ⅱ・41067			45.9	34.7	7.4	13.0
90	有り	鋸歯縁削器	黒色頁岩	片刃	完形	HⅠ/急角度の刃部。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	23		D	8Ⅲ・23006			46.5	31.2	9.6	15.4
91	有り	剥片	凝灰岩	加工なし	完形	全面磨耗（使用が原因でない）。剥離はCHD。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	26		B	8Ⅲ・26023-2			45.8	30.3	9.5	8.8
92	有り	横形石匙	凝灰岩	周縁	部分欠損	直接打撃と押圧剥離で摘み形成。刃部は素刃。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	31		D	8Ⅲ・31032			30.8	33.5	8.0	8.6
93	有り	削器	凝灰岩	周縁	完形	刃部は押圧剥離で両刃。形態は横形石匙に近似。		適用外	8Ⅳ	B	中層	141-1	中層	10		A	8Ⅳ・10003			26.0	24.9	6.4	4.8
94	有り	剥片	珪岩	加工なし	完形	素材はCHD。打面残存。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	18		A	9Ⅱ・18008			36.7	32.5	11.3	10.8
95	有り	素刃削器	黒色頁岩	部分	部分欠損	98と同じ石器。		適用外	8Ⅱ	A	上層	141-2	上層	18		A	8Ⅱ・18128			22.0	20.0	6.0	3.2
96	有り	削器	凝灰岩	片刃	完形	素材剥離はCHD。刃部は押圧剥離。		適用外	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	42		B	8Ⅰ・42034			25.0	24.9	10.0	3.8
97	有り	石錐	凝灰岩	周縁	部分欠損	被熱資料。		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	34		B	8Ⅱ・34030			31.7	15.6	7.2	2.8
98	有り	削器	黒色頁岩	周縁	完形	素材はCHD。背部加工は正反の押圧剥離		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	34		B	8Ⅲ・34050			34.7	18.7	5.0	3.7
99	有り	素刃削器	黒色頁岩	部分	完形	ヒンジエンドの剥片素材。打面部分を稜上反HDで成形。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	41		D	8Ⅲ・41029			25.3	33.3	6.7	5.4
100	有り	石錐	凝灰岩	部分	完形	両極石器が素材。長辺の一部を急角度の押圧剥離で加工。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	33		D	8Ⅲ・33046-1			30.0	26.6	10.5	7.8
101	有り	両極石器	凝灰岩	加工なし	完形			適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	33		D	8Ⅲ・33121			27.4	18.9	6.7	3.9
102	有り	剥片	凝灰岩	加工なし	完形	ヘラ形石器の製作剥片。剥離角135度。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	26		B	9Ⅱ・26007			40.7	25.1	10.2	11.7
103	有り	素刃削器	凝灰岩	周縁	完形	側辺加工は直接打撃。		適用外	9Ⅱ	B	中層	141-1	中層	18		A	9Ⅱ・18002			34.1	24.6	9.0	6.4
104	無し	剥片	凝灰岩	加工なし	完形	ヘラ形石器の製作剥片。打面残置。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	27		B	9Ⅱ・27002			26.5	22.2	7.8	4.1

第９表　縄文時代石器属性表（２）

通番	図面	器種	石材	加工様相	残存形状	所見	備考	推定産地	取上層位	文化層記号	推定文化層	東壁確認層位	確定文化層	グリッド	出土遺構	グリッド区分	注記全体	原産地分析番号	推定産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
105	無し	素刃削器	凝灰岩	周縁	完形	側辺加工は稜上反HD。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	43		B	9Ⅱ・43010			23.1	25.4	6.7	2.2
106	無し	剥片	ホルンフェルス	加工なし	完形	貝殻状剥片。背面はポジ面。		適用外	9Ⅳ	C	下層	不明	不明	25		B	9Ⅳ・25043			27.4	41.5	7.0	7.5
107	有り	尖頭器	珪岩	不整半両面	断片	加工は押圧剥離。		適用外	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	16		A	8Ⅰ・16037			24.4	26.0	7.0	3.6
108	有り	尖頭器	黒曜石	不整両面	断片	加工は押圧剥離。		諏訪星ヶ台群	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	9		A	8Ⅱ・09013	56	諏訪星ヶ台群	20.5	20.0	8.5	2.4
109	有り	尖頭器	黒曜石	不整両面	断片	加工は押圧剥離。		諏訪星ヶ台群	9Ⅲ	B	中層	139	下層	18		A	9Ⅲ・18041	57	諏訪星ヶ台群	21.2	22.4	6.8	3.2
110	有り	尖頭器	黒曜石	両面	断片	加工は押圧剥離。		神津島恩馳島群	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	42		B	8Ⅰ・42031	58	神津島恩馳島群	17.0	11.8	4.7	0.7
111	有り	石鏃	黒曜石	周縁	未製品			神津島恩馳島群	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	17		A	8Ⅰ・17051	59	神津島恩馳島群	16.0	13.3	5.0	0.8
112	有り	石鏃	黒曜石	両面	脚欠			神津島恩馳島群	9Ⅰ	B	中層	141-1	中層	10		A	9Ⅰ・10073	60	神津島恩馳島群	15.8	11.6	4.2	0.5
113	有り	石鏃	珪岩	両面	断片			適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	25		B	8Ⅱ・25018			10.0	16.0	5.5	0.7
114	有り	石鏃	黒曜石	両面	脚欠			推定不可	8Ⅳ	A	上層	不明	不明	9		A	8Ⅳ・09015	61	推定不可	25.8	11.0	5.8	1.4
115	有り	石錐	凝灰岩	半両面	完形	加工は押圧剥離。		適用外	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	25		B	8Ⅰ・25095			24.8	12.8	6.4	1.7
116	無し	両極剥片	水晶	加工なし	完形	石鏃の素材剥片。		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	27		B	8Ⅱ・27057			19.2	10.3	3.0	0.7
117	有り	削器	珪岩	周縁	完形	尖頭削器。		適用外	8Ⅳ	A	上層	不明	不明	9		A	8Ⅳ・09014			23.5	29.7	7.3	4.7
118	有り	石錐	珪岩	周縁	完形	形態形成は稜上反HD。		適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	16		A	9Ⅲ・16005			29.7	22.0	14.5	5.3
119	無し	両極剥片	黒曜石	加工なし	完形	図なし。		諏訪星ヶ台群	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	34		B	8Ⅰ・34031	62	諏訪星ヶ台群	19.6	8.4	5.0	0.1
120	無し	両極剥片	水晶	加工なし	完形	図なし。		適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	17		A	9Ⅲ・17074			17.1	5.1	3.0	0.3
121	有り	二次加工剥片	黒曜石	部分	完形	両極石器が素材。部分的な押圧剥離。		神津島恩馳島群	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	32		D	8Ⅱ・32001	63	神津島恩馳島群	26.0	14.5	8.0	2.1
122	有り	両極石器	黒曜石	加工なし	完形	石鏃の素材。		諏訪星ヶ台群	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	41		D	8Ⅱ・41079	64	諏訪星ヶ台群	17.8	12.0	6.5	1.3
123	無し	裂片	黒曜石	加工なし	完形	図なし。		神津島恩馳島群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	9		A	8Ⅲ・09130	65	神津島恩馳島群	7.2	13.5	2.5	0.2
124	無し	剥片	珪岩	加工なし	断片			適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	26		B	8Ⅲ・26012			23.0	13.4	6.0	1.6
125	有り	二次加工剥片	黒曜石	部分	完形	石鏃の未製品。		諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	42		B	8Ⅲ・42018	66	諏訪星ヶ台群	24.6	15.0	4.8	1.8
126	有り	両極剥片	凝灰岩	加工なし	完形			適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	24		D	8Ⅲ・24033-1			37.5	29.3	18.5	20.6
127	有り	摩耗礫	砂岩	加工なし	完形			適用外	8Ⅳ	B	中層	141-1	中層	10		A	8Ⅳ・10005			30.0	32.0	16.1	23.7
128	有り	摩耗礫	砂岩	加工なし	完形			適用外	9Ⅰ	B	中層	141-1	中層	27		B	9Ⅰ・27013			31.0	31.2	18.0	20.3
129	有り	摩耗礫	砂岩	加工なし	完形			適用外	9Ⅲ	B	中層	139	下層	27		B	9Ⅲ・27065			37.0	32.4	15.7	27.5
130	有り	磨石	砂岩	加工なし	完形			適用外	9Ⅲ	B	中層	139	下層	27		B	9Ⅲ・27088			40.0	35.0	21.0	41.7
131	無し	両極剥片	凝灰岩	加工なし	完形			適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	26		B	8Ⅲ・26023-1			22.8	10.0	3.5	0.8
132	有り	石鏃	凝灰岩	半両面	断片			適用外	9Ⅰ	B	中層	141-1	中層	27		B	9Ⅰ・27012			24.1	179.0	4.7	1.7
133	有り	両極石器	凝灰岩	加工なし	完形			適用外	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	25		B	8Ⅰ・25016			22.8	19.0	8.8	3.4
134	有り	使用痕剥片	凝灰岩	加工なし	完形	134+135接合		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	17		A	8Ⅱ・17018			45.0	27.8	13.1	14.2
135	有り	使用痕剥片	凝灰岩	加工なし	完形	磨耗		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	41		D	8Ⅱ・41028			接合	接合	接合	接合
136	有り	剥片	凝灰岩	加工なし	断片			適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	34		B	8Ⅱ・34041-1			22.4	16.7	3.6	1.7
137	有り	両極石器	凝灰岩	加工なし	完形			適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	17		A	8Ⅱ・17098			15.5	21.9	8.2	3.2
138	有り	両極石器	凝灰岩	加工なし	完形			適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	24		D	8Ⅲ・24016			17.2	21.4	7.0	3.1
139	有り	石鏃	凝灰岩	不整半両面	未製品	素材は両極剥片。		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	35		B	8Ⅱ・35068			23.1	20.7	6.4	2.4
140	有り	使用痕剥片	凝灰岩	加工なし	完形	素材は両極剥片。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	32		D	8Ⅲ・32010-1			24.3	12.7	4.2	0.9
141	有り	両極石器	凝灰岩	加工なし	完形			適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	32		D	8Ⅲ・32010-2			23.8	23.6	7.9	4.5
142	有り	二次加工剥片	凝灰岩	部分	完形	中形の剥片を折り取った石器。両極石器の素材。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	33		D	8Ⅲ・33149			21.4	36.9	12.5	10.6
143	有り	縦形石匙	頁岩	両面	完形	形態形成加工はS'D、整形・刃部加工はS'P。		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	25		B	8Ⅱ・25044			94.8	25.9	11.4	34.5
144	有り	使用痕剥片	ホルンフェルス	加工なし	完形	打面は自然面打面。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	35		B	8Ⅲ・35008			93.2	20.6	9.6	23.8
145	有り	素刃削器	ホルンフェルス	部分	完形	切子打面。整形加工はバルブ除去の平坦剥離。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	8		A	8Ⅲ・08001			88.4	31.7	7.8	27.7
146	有り	石錐	頁岩	部分	完形	素材の尖頭部を用いた石錐。		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	26		B	8Ⅱ・26057			52.9	71.1	21.3	66.0
147	有り	削器	ホルンフェルス	部分	完形	素材剥片は平坦打面、剥離角120度。刃部加工はHP。		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	47		D	8Ⅱ・47010			61.4	48.0	10.2	37.7
148	有り	尖頭器	黒色頁岩	周縁	完形	二次加工は押圧剥離。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	23		D	8Ⅲ・23024			79.8	37.3	9.9	35.5
149	有り	刃部磨製削器	凝灰岩	部分	未製品	礫石鏃が素材。刃部を研磨した時点で放棄。		適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	26		B	9Ⅲ・26053			85.6	49.1	13.7	89.7
150	有り	敲石	砂岩	加工なし	完形	石器製作のハンマー。硬質のソフトハンマーの可能性がある。		適用外	9Ⅰ	A	上層	不明	不明	3		A	9Ⅰ・03003			77.9	33.4	21.9	83.8
151	有り	削器	凝灰岩	部分	完形	棒状の礫が素材。149と同じ石器。		適用外	9Ⅳ	C	下層	不明	不明	25		B	9Ⅳ・25020			78.9	28.8	16.6	59.6
152	有り	刃部磨製ヘラ形削器	凝灰岩	周縁	完形	横長剥片素材。		適用外	8Ⅳ	A	上層	不明	不明	35		B	8Ⅳ・35030			76.2	41.2	16.9	78.3
153	有り	ヘラ形削器	凝灰岩	不整半両面	完形	加工はS'DとS'P。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	23		D	8Ⅲ・23005			66.3	43.3	14.4	47.1
154	有り	刃部磨製ヘラ形削器	凝灰岩	周縁	完形	横長剥片素材。		適用外	9Ⅰ	A	上層	不明	不明	17		A	9Ⅰ・17003			68.5	46.2	14.0	62.7
155	有り	掻器	凝灰岩	周縁	完形	縦長剥片素材。素材末端辺は摩耗顕著。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	17		A	9Ⅱ・17021			73.5	40.0	9.0	42.4
156	有り	刃部磨製ヘラ形削器	凝灰岩	周縁	完形	横長剥片素材。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	42		B	9Ⅱ・42006			88.6	41.2	19.1	97.8

第10表　縄文時代石器属性表（3）

通番	図面	器種	石材	加工様相	残存形状	所見	備考	推定産地	取上層位	文化層記号	推定文化層	東壁確認層位	確定文化層	グリッド	出土遺構	グリッド区分	注記全体	原産地分析番号	推定産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
157	有り	刃部磨製ヘラ形削器	凝灰岩	周縁	完形	横長剥片素材。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	42		B	9Ⅱ・42007			77.4	49.7	24.4	102.4
158	有り	刃部磨製ヘラ形削器	凝灰岩	周縁	完形			適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	9		A	9Ⅲ・09055			62.0	34.6	11.1	36.0
159	有り	掻器	凝灰岩	周縁	完形	縦長剥片素材。素材末端辺は摩耗顕著。		適用外	9Ⅳ	C	下層	139	下層	10		A	9Ⅳ・10010			58.7	34.6	9.8	27.6
160	有り	掻器	凝灰岩	周縁	完形	打面は自然面打面。		適用外	9Ⅳ	C	下層	不明	不明	34		B	9Ⅳ・34024			85.7	49.4	27.2	100.9
161	有り	両極石核	凝灰岩	両極打撃	完形	小形の両極剥片を剥がす石核。被熱資料。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	15		C	8Ⅲ・15019			58.7	51.6	30.0	107.0
162	有り	両極石核	凝灰岩	両極打撃	完形	小形の両極剥片を剥がす石核。被熱資料。		適用外	9Ⅰ	A	上層	不明	不明	34		B	9Ⅰ・34003			51.1	38.3	17.9	37.9
163	有り	掻器	凝灰岩	周縁	断片	159と同じ石器。刃部だけ残存。		適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	35		B	9Ⅲ・35013			73.5	70.0	24.2	135.0
164	有り	削器	黒色頁岩	部分	完形	側辺に押圧剥離で刃部形成。素材剥片は切子打面。被熱資料。		適用外	8Ⅳ	A	上層	不明	不明	35		B	8Ⅳ・35012			66.1	45.0	15.2	35.2
165	有り	打製石斧	ホルンフェルス	周縁	断片	被熱資料。刃部欠損。		適用外	8II	A	上層	不明	不明	48		D	8Ⅱ・48013			60.9	53.1	22.6	73.3
166	無し	石核	凝灰岩	直接打撃	完形	凝灰岩の礫を素材にした中形剥片の石核。未図化。		適用外	8Ⅳ	A	上層	不明	不明	35		B	8Ⅳ・35019			84.0	51.0	40.0	234.9
167	有り	掻器	凝灰岩	部分	完形	剥片の末端辺にHD/急角度の加工で刃部を形成した掻器。		適用外	8Ⅳ	A	上層	不明	不明	35		B	8Ⅳ・35004			56.0	42.6	13.2	30.3
168	無し	使用痕剥片	凝灰岩	加工なし	完形	切子打面、剥離角145度の剥片。側辺にMFが観察される。未図化。		適用外	8III	A	上層	不明	不明	41		D	8III・41049			48.0	66.0	19.0	36.7
169	有り	削器	ホルンフェルス	部分	完形	刃部は押圧剥離。		適用外	9III	B	中層	139	下層	18		A	9III・18018			50.6	28.9	3.7	6.9
170	無し	剥片	黒色頁岩	加工なし	完形	礫端片。未図化。		適用外	9III	B	中層	不明	不明	17		A	9III・17080			84.0	36.0	4.5	16.3
171	無し	両極石核	凝灰岩	両極打撃	完形	166と同じ石質。素材は礫。未図化。		適用外	9III	B	中層	不明	不明	36		B	9III・36021			66.0	45.5	35.1	127.2
172	無し	素刃削器	凝灰岩	部分	完形	形態形成は稜上反HD。素材剥片末端辺が刃部。未図化。		適用外	9Ⅳ	C	下層	不明	不明	10		A	9Ⅳ・10001			56.2	61.0	12.5	50.7
173	有り	使用痕剥片	凝灰岩	加工なし	完形	平坦打面、剥離角110度の剥片。		適用外	9III	B	中層	139	下層	18		A	9III・18031			76.8	45.0	9.6	33.1
174	無し	剥片	ホルンフェルス	加工なし	完形	165打製石斧と同じ石質。被熱資料。未図化。		適用外	9III	B	中層	不明	不明	27		B	9III・27075			56.4	34.0	10.0	10.9
175	無し	剥片	凝灰岩		完形	礫端片。未図化。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	33		D	8Ⅲ・33065			26.0	50.0	8.0	10.5
176	無し	剥片	凝灰岩	加工なし	完形	礫端片。未図化。		適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	25		B	9Ⅲ・25021			50.0	25.5	4.0	5.0
177	有り	削器	凝灰岩	周縁	完形	大形横長剥片素材。基辺は敲打で整形。末端辺はHDで刃部作出。		適用外	9Ⅳ	C	下層	不明	下層	24	土坑８	D	9Ⅳ・24006			67.0	116.0	29.0	250.7
178	有り	磨石	凝灰岩	部分	接合	未図化。		適用外	9Ⅰ・8Ⅲ	A	上層	不明	不明	22		D	8Ⅲ・22026			60.8	41.4	24.3	63.4
179	無し	敲石	不明	適用外	断片	未図化。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	26		B	9Ⅱ・26019			58.0	25.5	26.0	49.7
180	無し	礫石器	不明	不明	断片	未図化。		適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	9		A	9Ⅲ・09002			42.0	14.0	26.0	16.4
181	無し	礫石器	不明	不明	断片	未図化。2点接合。被熱資料。		適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	17		A	9Ⅲ・17130			53.0	39.0	34.0	46.8
182	有り	敲石	砂岩	不明	断片			適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	9		A	9Ⅲ・09037			50.8	76.2	43.6	213.5
183	有り	敲石	砂岩	不明	完形			適用外	9Ⅲ	B	中層	139	下層	36		B	9Ⅲ・36004			51.7	65.5	22.5	107.5
184	無し	礫石器	砂岩	不明	断片	未図化。		適用外	9Ⅳ	C	下層	不明	不明	35		B	9Ⅳ・35002			68.8	60.0	26.0	111.8
185	有り	敲石+磨石	砂岩	不明	断片	9Ⅱ23008/9Ⅱ32010/8Ⅲ32033		適用外	9Ⅱ・8Ⅲ	B	中層	不明	不明	32		D	9Ⅱ・32003			118.1	72.6	44.0	514.7
186	有り	敲石	緑色岩	不明	断片	被熱資料。		適用外	9Ⅳ	C	下層	不明	不明	24		D	9Ⅳ・24013			94.0	49.3	32.4	183.9
187	有り	敲石	閃緑岩	適用外	断片			適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	8		A	9Ⅲ・08027			51.4	51.4	44.2	154.1
188	有り	スタンプ形石器	凝灰岩	周縁	完形			適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	17		A	9Ⅲ・17038			127.8	79.9	61.6	873.0
189	有り	大形掻器	斑糲岩	周縁	完形	大形の礫を粗く加工して急角度の刃部を形成している。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	31		D	8Ⅲ・31016			90.6	82.6	64.2	774.0
190	有り	尖頭器	凝灰岩	不整半両面	未製品	大形尖頭器の未製品。被熱資料。		適用外	7Ⅰ	A	上層	不明	不明	不明	不明	不明	7Ⅰ・03318			120.8	61.8	27.4	267.8
191	有り	石核	凝灰岩	直接打撃	完形	角礫素材の石核。石鏃の素材になるような小形剥片を剥離している。		適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	17		A	9Ⅲ・17030			26.4	35.6	14.8	206.1
192	有り	大形掻器	玄武岩	周縁	完形	大形礫を素材にHD/急角度で加工した掻器。		適用外	9Ⅳ	C	下層	不明	不明	25		B	9Ⅳ・25010			24.2	41.0	15.4	390.1
193	有り	大形掻器	斑糲岩	部分	断片	礫に直接打撃で刃部を形成。側辺は折れている。		適用外	7Ⅰ	A	上層	不明	不明	不明	不明	不明	7Ⅰ・02201			35.9	45.5	23.0	285.0
194	有り	大形掻器	凝灰岩	部分	完形	亜角礫に直接打撃で刃部を形成。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	9		A	9Ⅱ・09013			36.9	26.3	16.3	148.0
195	有り	大形掻器	斑糲岩	部分	完形	礫断片に直接打撃で刃部を形成。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	22		D	8Ⅲ・22023			43.0	25.1	15.0	144.6
196	有り	大形掻器	玄武岩	周縁	完形	礫断片に直接打撃で刃部を形成。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	24		D	9Ⅱ・24027			28.6	29.3	10.5	74.3
197	有り	大形掻器	凝灰岩	部分	完形	大形の石核に直接打撃で刃部を形成。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	16		A	8Ⅲ・16033			102.9	84.2	49.8	649.9
198	有り	大形掻器	凝灰岩	部分	完形	大形の剥片に直接打撃で刃部を形成。		適用外	9Ⅳ	C	下層	不明	不明	42		B	9Ⅳ・42001			83.2	72.5	33.0	232.5
199	無し	大形掻器	凝灰岩	部分	完形	大形の剥片に直接打撃で刃部を形成。		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	16		A	8Ⅲ・16061			67.5	92.1	39.5	201.7
200	有り	磨石	凝灰岩	適用外	完形	主面部に磨面、側面にザラザラの磨面		適用外	9Ⅳ	C	下層	不明	下層	J住		A	J住・1054			100.6	68.9	36.6	392.9
201	有り	磨石	閃緑岩	適用外	完形	主面部に磨面		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	35		B	9Ⅱ・35001			80.7	87.1	47.2	479.3
202	有り	礫器	砂岩	適用外	完形	磨石+敲石を再加工している。		適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	43		B	9Ⅲ・43003			100.4	87.5	29.8	437.7
203	有り	磨石	砂岩	適用外	完形	主面部に磨面		適用外	9Ⅳ	C	下層	不明	下層	J住		A	J住・1055			93.1	74.3	43.8	441.6
204	有り	磨石+敲石	閃緑岩	適用外	完形	主面部に磨面と端部に敲打痕		適用外	9Ⅳ	C	下層	不明	下層	J住		A	J住・1066			94.1	46.0	46.5	610.8
205	有り	磨石+敲石	安山岩	適用外	左側欠	主面部に磨面、端部に敲打痕		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	7		C	9Ⅱ・07007			64.5	44.3	37.5	161.4
206	有り	摩耗礫	砂岩	適用外	完形	主面部に摩耗		適用外	9Ⅳ	C	下層	不明	下層	J住		A	J住・1057			76.4	85.1	30.6	291.3
207	有り	磨石+敲石	閃緑岩	適用外	完形	主面部に磨面と敲打痕の集中、側面と端部にはザラザラの磨面、被熱		適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	25		B	9Ⅲ・25024			105.4	69.1	30.8	407.6
208	有り	敲石	安山岩	適用外	完形	主面部に敲打痕の集中、側面に敲打痕		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	24		D	8Ⅲ・24005			82.7	72.8	34.2	275.4

第11表　縄文時代石器属性表（４）

通番	図面	器種	石材	加工様相	残存形状	所見	備考	推定産地	取上層位	文化層記号	推定文化層	東壁確認層位	確定文化層	グリッド	出土遺構	グリッド区分	注記全体	原産地分析番号	推定産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
209	有り	磨石+敲石	閃緑岩	適用外	左側欠	主面部に敲打痕の集中、裏面に平坦な磨面		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	33		D	8Ⅲ・33023			83.3	46.8	43.0	249.2
210	有り	敲石	安山岩	適用外	完形	主面部に敲打痕の集中		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	23		D	9Ⅱ・23004			68.0	45.9	33.1	101.1
211	有り	磨石	砂岩	適用外	断片	被熱、主面部に磨面	J住・2087	適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	10		A	9Ⅱ・10010			74.1	71.2	40.7	261.6
212	無し	特殊磨石	砂岩	適用外	断片	風化顕著、側面にザラザラの磨面	8Ⅲ33122/25017	適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	33		D	8Ⅱ・33049			94.5	80.0	42.0	428.1
213	無し	磨石	閃緑岩	適用外	断片	主面部に磨面		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	36		B	8Ⅱ・36017			67.5	66.0	45.2	278.1
214	無し	磨石	安山岩	適用外	断片	主面部に平坦な磨面		適用外	7Ⅰ	A	上層	不明	不明	不明	不明	不明	7Ⅰ・04129			62.0	99.0	40.8	302.0
215	無し	磨石	閃緑岩	適用外	左側部分欠	主面部に磨面、側面にザラザラの磨面、破損顕著	9Ⅲ16045/9Ⅳ25045	適用外	9Ⅰ	A	上層	不明	不明	8		A	9Ⅰ・08002			106.5	77.0	42.0	451.5
216	無し	磨石	閃緑岩	適用外	半欠	主面部に磨面		適用外	9Ⅳ	C	下層	不明	不明	24		D	9Ⅳ・24010			94.8	51.5	45.0	346.7
217	有り	磨石+敲石	安山岩	適用外	裏面欠	主面部に平坦な磨面と敲打痕の集中	9Ⅳ43011	適用外	9Ⅳ	C	下層	不明	不明	43		B	9Ⅳ・43014			90.5	88.0	47.4	435.6
218	有り	磨石+敲石	閃緑岩	適用外	完形	主面部に磨面、さ側にザラザラの磨面		適用外	9Ⅰ	A	上層	不明	不明	35		B	9Ⅰ・35005			116.0	84.3	49.3	820.1
219	有り	磨石	安山岩	適用外	断片	主面部に磨面	9Ⅲ26041/17158/18040/17105 9Ⅱ18007/9Ⅰ27005/8Ⅰ35027	適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	27		B	9Ⅲ・27048			84.8	103.0	56.0	458.5
220	有り	特殊磨石	安山岩	適用外	完形	長楕円礫の一側面にザラザラの磨面、主面部に敲打痕		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	24		D	8Ⅲ・24094			96.0	184.0	71.5	1845.0
221	有り	特殊磨石	安山岩	適用外	完形	一側面にザラザラの磨面、両側辺に敲打痕		適用外	9Ⅰ	C	下層	不明	下層	J住		A	J住・1011			92.0	157.6	63.1	1329.5
222	有り	特殊磨石	閃緑岩	適用外	半欠	亜角礫の稜線上にザラザラの磨面		適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	9		A	9Ⅲ・09113			62.4	104.3	52.1	597.0
223	有り	特殊磨石	閃緑岩	適用外	完形	扁平礫の一側辺にザラザラの磨面		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	25		B	8Ⅱ・25081			92.9	118.4	37.4	664.6
224	有り	特殊磨石	斑糲岩	適用外	左側欠	亜角礫の稜線上にザラザラの磨面		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	14		C	9Ⅱ・14010			61.8	143.1	61.3	764.6
225	有り	特殊磨石	閃緑岩	適用外	左側欠	亜角礫の稜線上にザラザラの磨面、右側端部に敲打痕		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	9		A	9Ⅱ・09005			56.9	118.8	56.9	452.8
226	有り	特殊磨石	安山岩	適用外	完形	亜角礫の稜線上にザラザラの磨面、右側端部に敲打痕		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	41		D	8Ⅲ・41038			78.2	156.1	47.0	876.3
227	有り	特殊磨石	砂岩	適用外	断片	亜角礫の稜線上にザラザラの磨面		適用外	9Ⅰ	C	下層	不明	不明	36		B	9Ⅰ・36009			55.6	68.9	57.3	325.8
228	有り	特殊磨石	安山岩	適用外	断片	長楕円礫の一側面にザラザラの磨面		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	26		B	8Ⅱ・26013			64.6	83.9	50.9	291.9
229	有り	特殊磨石	安山岩	適用外	断片	亜角礫の稜線上にザラザラの磨面		適用外	9Ⅰ	C	下層	不明	不明	42		B	9Ⅰ・42005			71.8	101.0	61.1	532.6
230	有り	特殊磨石	砂岩	適用外	断片	亜角礫の稜線上にザラザラの磨面		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	24		D	8Ⅲ・24078			63.1	96.6	61.3	326.1
231	無し	特殊磨石	ドレライト	適用外	断片	亜角礫の稜線上にザラザラの磨面		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	15		C	9Ⅱ・15003			49.0	78.0	54.7	215.0
232	無し	特殊磨石	閃緑岩	適用外	断片	亜角礫の稜線上にザラザラの磨面		適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	29		D	9Ⅲ・29058			69.4	70.0	53.3	339.2
233	無し	特殊磨石	閃緑岩	適用外	断片	亜角礫の稜線上にザラザラの磨面、風化顕著		適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	35		B	8Ⅱ・35015			54.5	58.8	50.0	248.4
234	無し	特殊磨石	砂岩	適用外	断片	亜角礫の稜線上にザラザラの磨面		適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	42		B	9Ⅲ・42001			56.0	53.0	48.2	109.4
235	有り	特殊磨石	砂岩	適用外	断片	亜角礫の稜線上にザラザラの磨面	9Ⅰ25076	適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	8		A	9Ⅲ・08008			69.1	74.0	54.9	401.2
236	無し	特殊磨石	閃緑岩	適用外	断片	長楕円礫の一側面にザラザラの磨面		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	31		D	8Ⅲ・31074			71.0	64.5	54.0	370.4
237	無し	特殊磨石	凝灰岩	適用外	断片	亜角礫の稜線上にザラザラの磨面		適用外	9Ⅰ	A	上層	不明	不明	7		C	9Ⅰ・07005			76.3	84.5	51.5	323.4
238	無し	剥片	安山岩	適用外	端部欠	大形の剥片だが打面部が欠損		適用外	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	48		D	8Ⅰ・48002			140.0	56.7	30.0	230.0
239	無し	礫器断片	凝灰岩	適用外	断片			適用外	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	24		D	8Ⅰ・24006			111.0	48.0	31.0	266.1
240	有り	石皿	安山岩	適用外	断片	主面部に磨面顕著	7Ⅰ3316/7Ⅰ4124-1/8Ⅲ13003 32014/32082-2/17040/9Ⅲ49001-2	適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	32		D	8Ⅲ・32049			240.0	142.0	25.0	1382.7
241	無し	石皿断片	凝灰岩	適用外	断片		8Ⅰ18010	適用外	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	18		A	8Ⅰ・18009			116.5	143.0	30.0	603.4
242	有り	石皿	閃緑岩	適用外	半欠	大形品、風化により磨面は不明瞭		適用外	不明	D	不明	不明	不明	不明			注記なし			232.4	312.8	83.6	8400.0
243	無し	石皿	安山岩	適用外	断片	多孔質安山岩		適用外	9Ⅰ	C	下層	不明	不明	24		D	9Ⅰ・24011			74.8	63.5	69.5	499.3
244	有り	掻器	凝灰岩	部分	部分破損	素材剥片は打面折れ。末端辺に押圧剥離で刃部形成。		適用外	不明	D	不明	不明	不明	8		A	8石・08014			48.4	44.0	12.6	17.7
245	無し	剥片	凝灰岩	適用外	断片			適用外	9Ⅰ	C	下層	不明	不明	43		B	9Ⅰ・43020			36.8	34.3	19.1	25.2
246	無し	両極石器	珪岩	両極打撃	完形			適用外	不明	D	不明	不明	不明	9		A	8石・09043			20.0	14.5	6.0	2.0
247	有り	両極石器	凝灰岩	両極打撃	完形			適用外	8Ⅲ	A	上層	141-2	上層	36		B	8Ⅲ・36011			22.0	21.0	6.2	2.4
248	無し	剥片	凝灰岩	適用外	完形	背面は自然面		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	42		B	8Ⅲ・42038			79.0	30.0	16.9	34.9
249	無し	剥片	ホルンフェルス	適用外	完形			適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	18		A	8Ⅲ・18003			80.7	26.9	10.0	13.3
250	無し	石核？	安山岩	適用外	断片			適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	23		D	9Ⅱ・23010			112.8	86.9	45.5	426.6
251	有り	素刃削器	凝灰岩	部分	完形	縦長剥片の打面・バルブを除去した削器。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	26		B	9Ⅱ・26024			50.5	26.9	10.6	113.4
252	有り	打製石斧	凝灰岩	部分	部分破損	刃部破損。横長剥片素材。側辺の加工はHD。未図化。		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	32		D	9Ⅱ・32002			76.7	38.0	18.9	480.1
253	有り	打製石斧	凝灰岩	適用外	完形			適用外	9Ⅰ	C	下層	139	下層	10		A	9Ⅰ・10003			241.2	133.2	109.2	1691.5
254	無し	礫	安山岩	適用外	完形			適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	36		B	9Ⅲ・36002			95.6	78.0	50.0	559.2
255	無し	礫	閃緑岩	適用外	断片		9Ⅱ24019	適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	24		D	9Ⅱ・24023			84.5	65.0	41.8	269.2
256	無し	磨石	安山岩	適用外	断片	表裏に磨面		適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	41		D	9Ⅱ・41004			64.3	38.0	41.6	128.5
257	無し	特殊磨石	閃緑岩	適用外	断片	亜角礫の稜線上にザラザラの磨面		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	8		A	8Ⅲ・08020			52.0	55.0	57.8	203.6
258	無し	磨石+敲石	閃緑岩	適用外	断片	主面部に平坦な磨面をもち、一部に敲打痕		適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	49		D	8Ⅲ・49005			57.5	50.0	35.0	135.3
259	無し	礫	閃緑岩	適用外	断片			適用外	9Ⅰ	C	下層	不明	不明	35		B	9Ⅰ・35015			77.0	50.0	32.0	111.3

第12表　縄文時代石器属性表（5）

通番	図面	器種	石材	加工様相	残存形状	所見	備考	推定産地	取上層位	文化層記号	推定文化層	東壁確認層位	確定文化層	グリッド	出土遺構	グリッド区分	注記全体	原産地分析番号	推定産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
260	無し	特殊磨石	安山岩	適用外	断片	亜角礫の稜線上にザラザラの磨面		適用外	9Ⅰ	C	下層	不明	不明	35		B	9Ⅰ・35029			45.0	38.9	37.5	95.3
261	無し	礫断片	安山岩	適用外	断片			適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	32		D	8Ⅲ・32001			68.3	40.0	20.0	52.4
262	無し	礫断片	安山岩	適用外	断片			適用外	9Ⅰ	A	上層	不明	不明	18		A	9Ⅰ・18006			70.0	39.0	10.0	30.9
263	無し	礫断片	閃緑岩	適用外	断片			適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	9		A	9Ⅱ・09103			63.0	37.0	20.0	46.8
264	無し	磨石断片	閃緑岩	適用外	断片			適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	35		B	9Ⅱ・35018			51.0	42.0	18.5	45.0
265	無し	磨石断片	閃緑岩	適用外	断片			適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	9		A	9Ⅲ・09103			42.0	27.0	22.0	22.1
266	無し	磨石断片	閃緑岩	適用外	断片			適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	40		D	8Ⅲ・40012			33.0	38.5	16.0	20.9
267	無し	礫断片	安山岩	適用外	断片			適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	9		A	8Ⅲ・09110			58.5	27.3	8.0	15.0
268	無し	磨石断片	砂岩	適用外	断片			適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	23		D	8Ⅲ・23023			37.2	31.0	15.0	12.2
269	無し	礫断片	凝灰岩	適用外	断片			適用外	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	35		B	9Ⅲ・35014			26.6	17.6	6.8	2.8
270	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形	平基。未製品の可能性。	追加分	諏訪星ヶ台群	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	26		B	8Ⅰ・26017	67	諏訪星ヶ台群	18.0	15.0	6.5	1.2
271	有り	石鏃	黒曜石	両面	完形		追加分	諏訪星ヶ台群	不明	D	不明	不明	不明	不明			出土地不明	68	諏訪星ヶ台群	23.0	18.0	4.4	1.4
272	有り	石鏃	黒曜石	両面	脚欠		追加1	諏訪星ヶ台群	8Ⅳ	A	上層	不明	不明	35		B	8Ⅳ・35013	69	諏訪星ヶ台群	11.6	6.2	2.9	0.2
273	有り	石鏃	ホルンフェルス	両面	脚欠	表土出土。縄文晩期資料。	追加2	適用外	不明	D	不明	不明		表採			A区画北西			24.1	13.5	4.8	1.1
274	有り	石錐	水晶	周縁	完形	小形の石錐。	追加3	適用外	9Ⅰ	B	中層	141-1	中層	27		B	9Ⅰ・27009			13.2	12.3	5.5	0.9
275	有り	使用痕剥片	凝灰岩	加工なし	完形	両極剥片	追加4	適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	47		D	8Ⅱ・47062-12			19.2	11.2	2.9	0.5
276	有り	両極剥片	凝灰岩	加工なし	完形		追加5	適用外	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	42		B	8Ⅰ・42010			20.1	15.9	3.5	0.9
277	有り	両極石器	凝灰岩	加工なし	完形		追加6	適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	41		D	8Ⅱ・41053			24.3	19.5	5.9	2.3
278	有り	両極石器	凝灰岩	加工なし	完形		追加7	適用外	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	33		D	8Ⅰ・33032			22.4	22.7	9.2	3.5
279	有り	両極石器	凝灰岩	加工なし	完形		追加8	適用外	8Ⅱ	A	上層	141-3	上層	10		A	8Ⅱ・10015			33.7	37.1	12.0	10.6
280	有り	両極剥片	黒曜石	加工なし	完形		追加9	諏訪星ヶ台群	8Ⅳ	A	上層	不明	不明	33		D	8Ⅳ・33013	70	諏訪星ヶ台群	25.8	17.7	6.7	2.1
281	有り	両極石器	珪岩	加工なし	完形		追加10	適用外	8Ⅳ	A	上層	不明	不明	49		D	8Ⅳ・49001			15.9	13.8	5.0	0.8
282	有り	石錐	黒曜石	部分	完形	両極石器素材。加工は押圧剥離。	追加11	諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	141-2	上層	35		B	8Ⅱ・35083	71	諏訪星ヶ台群	25.5	12.8	7.4	1.8
283	有り	石錐	黒曜石	部分	完形	両極石器素材。加工は押圧剥離。	追加12	諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	18		A	8Ⅲ・18052	72	諏訪星ヶ台群	21.9	13.9	6.3	1.5
284	有り	両極剥片	黒曜石	加工なし	断片		追加13	神津島恩馳島群	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	8		A	8Ⅱ・08008-1	73	神津島恩馳島群	11.9	17.0	2.9	0.4
285	有り	使用痕剥片	黒曜石	加工なし	完形	素材は直接打撃。	追加14	諏訪星ヶ台群	8Ⅱ	A	上層	141-2	上層	18		A	8Ⅱ・18095	74	諏訪星ヶ台群	24.2	18.9	5.2	2.0
286	有り	剥片	黒曜石	加工なし	完形	CHD剥片。石鏃素材。	追加15	天城柏峠群	9Ⅲ	B	中層	不明	不明	41		D	9Ⅲ・41002-2	75	天城柏峠群	11.2	16.4	3.0	0.5
287	有り	削器	黒曜石	部分	完形	両極剥片素材。刃部は押圧剥離で片刃。	追加16	神津島恩馳島群	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	41		D	9Ⅱ・41005	76	神津島恩馳島群	23.6	17.4	5.8	1.9
288	有り	石鏃	黒曜石	部分	未製品		追加17	諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	34		B	8Ⅲ・34002-2	77	諏訪星ヶ台群	10.9	8.9	3.5	0.2
289	無し	削器	黒曜石	部分	完形	素材は直接打撃。末端辺にノッチ状の加工。未図化。	追加18	諏訪星ヶ台群	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	25		B	8Ⅱ・25区画	78	諏訪星ヶ台群	18.0	15.0	3.8	0.8
290	有り	石鏃	黒曜石	部分	未製品	尖頭部形成途上。	追加19	諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	39		D	8Ⅲ・3916	79	諏訪星ヶ台群	24.9	21.9	7.2	2.7
291	有り	石錐	珪岩	部分	未製品	素材は両極剥片断片。刃部形成途上。刃部は押圧剥離。	追加20	適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	16		A	8Ⅱ・16054			21.4	14.5	6.2	1.3
292	有り	石鏃	黒曜石	部分	未製品		追加21	神津島恩馳島群	7Ⅰ	A	上層	不明	不明	不明		D	7Ⅰ・4006	80	神津島恩馳島群	14.3	14.4	4.3	0.6
293	有り	石鏃	凝灰岩	部分	未製品		追加22	適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	9		A	8Ⅱ・09051			14.9	15.0	3.8	0.5
294	有り	両極剥片	凝灰岩	加工なし	完形		追加23	適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	9		A	8Ⅱ・09139			15.5	20.0	5.4	1.2
295	有り	両極剥片	珪岩	加工なし	完形		追加24	適用外	8Ⅱ	A	上層	141-2	上層	18		A	8Ⅱ・18109			15.7	14.6	3.5	0.5
296	有り	石錐	珪岩	部分	完形	小形の石錐。	追加25	適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	34		B	8Ⅱ・34028			15.7	11.8	3.4	0.5
297	有り	両極石器	頁岩	加工なし	完形		追加26	適用外	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	9		A	9Ⅱ・09019			17.3	13.1	5.2	0.8
298	有り	石鏃	黒曜石	部分	未製品		追加27	神津島恩馳島群	8Ⅳ	A	上層	不明	不明	39		D	8Ⅳ・39区画	81	神津島恩馳島群	12.8	8.8	2.9	0.3
299	有り	削器	頁岩	部分	部分破損	刃部は押圧剥離。	追加28	適用外	8Ⅱ	A	上層	不明	不明	24		D	8Ⅱ・24017			25.9	30.5	4.8	2.2
300	有り	石鏃	黒曜石	部分	未製品		追加29	諏訪星ヶ台群	9Ⅰ	A	上層	不明	不明	24		D	9Ⅰ・24001-2	82	諏訪星ヶ台群	17.0	14.2	6.3	1.0
301	有り	使用痕剥片	頁岩	加工なし	完形	両極石器の鋭い辺に使用痕。	追加30	適用外	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	16		A	8Ⅲ・160116			21.6	20.9	8.9	3.1
302	有り	石鏃	黒曜石	部分	未製品	やや厚い両極石器を間接打撃（HⅠ)で成形加工。	追加31	神津島恩馳島群	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	36		B	9Ⅱ・36003-1	83	神津島恩馳島群	28.6	18.4	10.3	3.1
303	有り	掻器	黒曜石	部分	完形	小形の断片に、HⅠ/急角度の加工	追加32	諏訪星ヶ台群	8Ⅰ	A	上層	不明	不明	17		A	8Ⅰ・17049	84	諏訪星ヶ台群	15.7	13.3	6.1	1.1
304	無し	使用痕剥片	黒曜石	部分	完形	未図化。末端辺に微細な剥離。	追加33	諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	31		D	8Ⅲ・31区画	85	諏訪星ヶ台群	17.5	15.0	3.3	0.6
305	有り	削器	黒曜石	部分	完形	切子打面の縦長剥片。複式削器。	追加34	諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	33		D	8Ⅲ・33103	86	諏訪星ヶ台群	28.6	15.7	7.5	2.5
306	有り	二次加工剥片	黒曜石	部分	部分破損	石器未製品だが、製作意図が不明。押圧剥離加工。	追加35	諏訪星ヶ台群	9Ⅰ	A	上層	不明	不明	41		D	9Ⅰ・41001-2	87	諏訪星ヶ台群	20.1	16.6	8.5	2.6
307	無し	両極剥片	黒曜石	加工なし	断片	未図化。	追加36	諏訪星ヶ台群	9Ⅱ	B	中層	不明	不明	41		D	9Ⅱ・41区画	88	諏訪星ヶ台群	19.0	8.0	4.2	0.5
308	無し	石核素材	黒曜石	加工なし	完形	平面に数枚の剥離痕。小形亜角礫の石核素材。	追加37	諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	17		A	8Ⅲ・17003	89	諏訪星ヶ台群	36.6	32.3	17.2	23.0
309	無し	剥片	黒曜石	加工なし	断片	両極石器の素材。	追加38	諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	24		A	8Ⅲ・24054	90	諏訪星ヶ台群	16.0	32.8	17.0	6.5
310	無し	両極石器	黒曜石	加工なし	完形		追加39	神津島恩馳島群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	24		A	8Ⅲ・24018	91	神津島恩馳島群	18.8	23.3	10.0	3.7
311	無し	残核	黒曜石	加工なし	完形		追加40	諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	24		A	8Ⅲ・24079	92	諏訪星ヶ台群	17.0	29.3	18.0	8.4
312	無し	使用痕剥片	黒曜石	加工なし	完形	縦折の剥片。	追加41	神津島恩馳島群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	36		B	8Ⅲ・36037	93	神津島恩馳島群	10.3	31.0	15.6	4.2
313	無し	石核素材	黒曜石	加工なし	完形	石核素材の分蓄礫。	追加42	諏訪星ヶ台群	8Ⅲ	A	上層	不明	不明	34		B	8Ⅲ・34057	94	諏訪星ヶ台群	22.0	27.0	16.0	11.1

第13表　縄文時代石器属性表（6）

第Ⅴ章　　平安時代の遺構と遺物

平成9年調査で表土５２層の下４９・５０・５１層で発見された。（第２０９図参照）住居跡は5軒である。1号住居跡は2軒が重複する形で発見された。

１－１号・１－２号・２号・３号・４号住居跡と命名した。

形状は１－２号・２号・３号・４号住居跡はほぼ同型の四角形であった。

１－２号・２号・３号住居跡の炉跡は北東部壁面中央部に位置していた。１－２号については１－１号住居跡のために焼土と若干の炉跡の痕跡を確認するにとどまった。

１－１号住居跡は１－２号住居跡遺構廃棄後に作成された。炉跡は南東部壁面中央部
炉跡を残していた。規模は１－２号・２号・３号・４号住居跡より小規模の四角形であった。5軒の住居跡はほぼ西北方向に傾斜した形状で１辺約４ｍの正方形の竪穴式住居跡であった。住居跡の周囲に周溝を確認できたのは3号・４号住居跡でした。

４号住居跡は火災にあったようで遺構全体に炭化物と焼土が出土した。炉跡は西北部壁面中央部に発見した。石囲した炉跡は3号住居跡だけでした。

２号住居跡の炉跡周辺床面から「水神・可」の判読できる墨書皿土器と蓋が出土した。時期は甲斐型土器編年Ⅷ期（８２０～８４０）－Ⅸ期（８４０～８６０）の範囲に限定される。

笹見原遺跡の平安時代の出土遺物は、遺跡全体図の遺物分布にみるように山側の北面から宇津湖辺にくだる南面へ傾斜するように土器片を中心とする遺物が出土した。

遺物は、ほぼ平安時代の甲斐型土器片を中心に、暗文・墨書・黒色土器片、甕・壺・皿・蓋などが出土し、復元された土器が合計２３点であった。

平安時代住居跡　　１－１号・１－２号住居跡

形状は１－１号・１－２号住居跡はほぼ隅丸方形であった。

１－２号住居跡の竈跡は北東部壁面中央部に位置していた。１－２号については１－１号住居跡のために焼土と若干の竈跡の痕跡を確認するにとどまった。

１－１号住居跡は１－２号住居跡遺構廃棄後に作成された。竈跡は南東部壁面中央部炉跡を残していた。

１－１号住居跡は、規模が南西から北東３．１０ｍ×北西から南東２．５０ｍで平面図グリッドNo.８・９の土層No.４８～５１（Ｓ－２４－６～Ｓ－２４－９）から発見された。

１－２号住居跡は、規模が南西から北東３．６５ｍ×北西から南東３．５０ｍで平面図グリッドNo.８・９・１６・１７の土層No.４８～５１（Ｓ－２４－６～Ｓ－２４－９）から発見された。2軒の住居跡がほぼ軸を合わせ重複していた。

地形は北から南に傾斜する宇津湖畔に面する場所である。

１－１号住居跡出土遺物は長胴甕（外側縦刷毛目・内側横刷毛目・口縁部末広）である。１－２号住居跡出土遺物は皿・暗文（放射状）のある坏である。

平安時代住居跡　　２号住居跡

形状はほぼ隅丸方形であった。2号住居跡の竈跡は北東部壁面中央部に位置していた。2号住居跡は、規模が南西から北東３.４５ｍ×北西から南東３.７５ｍで平面図グリッドNo.１５・１６・２４・２５の土層No.４８～５１（Ｓ－２４－６～Ｓ－２４－９）から発見された。地形は北から南に傾斜する宇津湖畔に面する場所である。

２号住居跡出土遺物は暗文（渦巻文）及び墨書（水神＋可）の皿・長胴甕（外側縦刷毛目・内側横刷毛目・口縁部薄長）・小型甕2種（1外側縦刷毛目・内側なで調整、2内側横刷毛目・外側なで調整、いずれも底部は木葉底）である。

墨書（水神＋可）の皿の時期は甲斐型土器編年Ⅷ期（８２０～８４０）－Ⅸ期（８４０～８６０）の範囲に限定される。

平安時代住居跡　　３号住居跡

形状はほぼ隅丸方形であった。3号住居跡の竈跡は北東部壁面中央部に位置していた。3号住居跡は、規模が南西から北東４.００ｍ×北西から南東３.００ｍで平面図グリッドｍ１の土層No.４８～５１（Ｓ－２４－６～Ｓ－２４－９）から発見された。地形は北から南に傾斜する宇津湖畔に面する場所である。

３号住居跡出土遺物は土師器坏（暗文なし）・土師器甕（外側縦刷毛目・内側横刷毛目）・駿東型甕（口縁部残存）・須恵器（猿投窯）である。

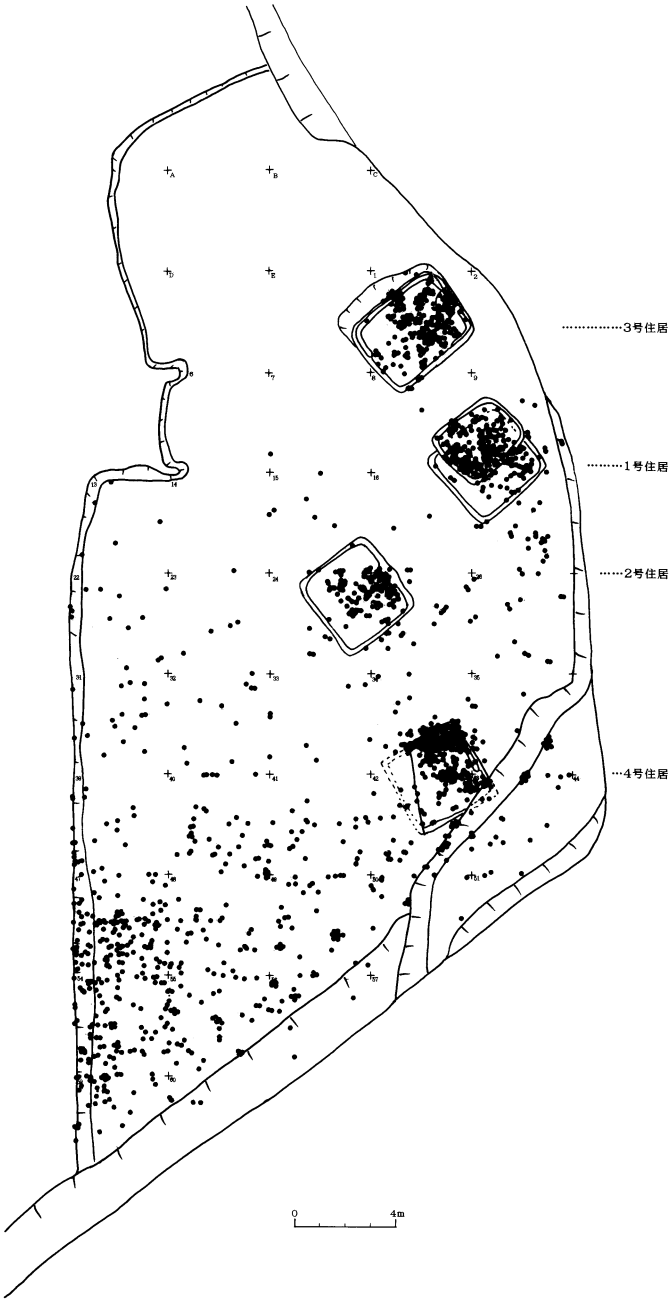
住居跡の特徴として、竈を囲むように石（溶岩）が配置されており、南側壁を除き三方に周構が検出された。

平安時代住居跡　　４号住居跡

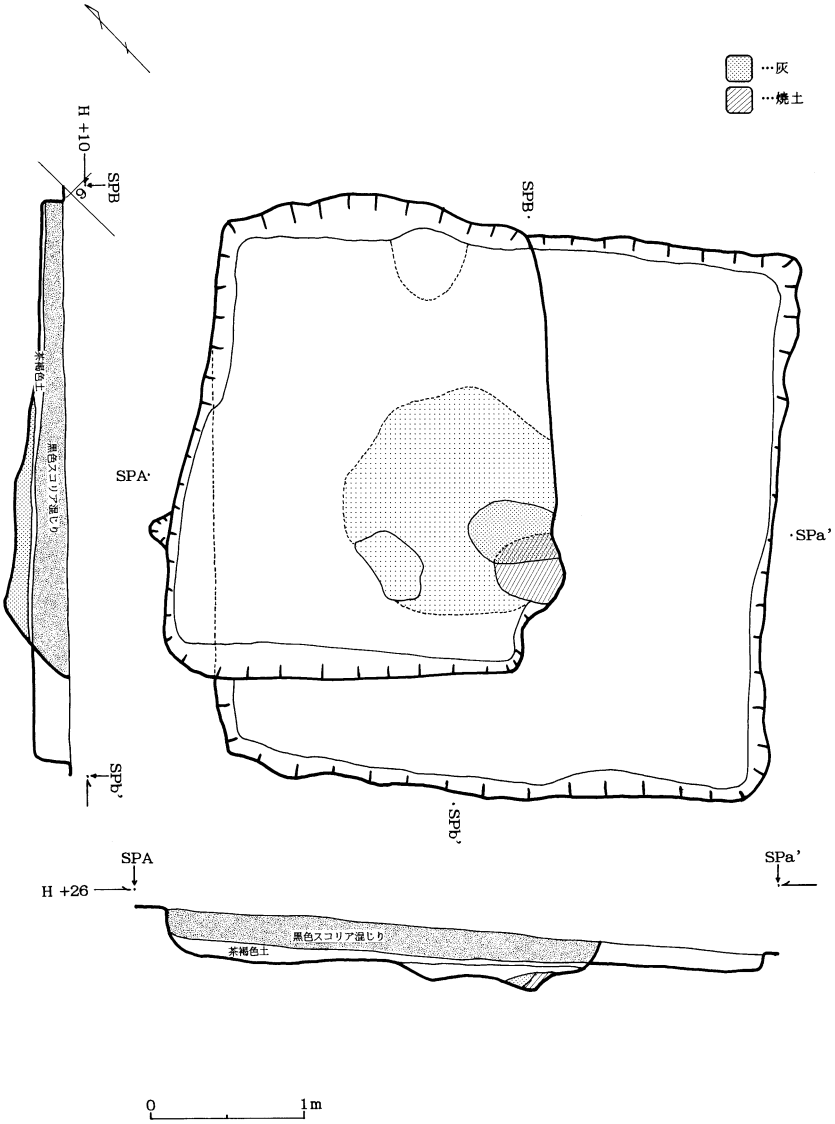
形状はほぼ隅丸方形であった。4号住居跡は火災にあったようで遺構全体に炭化物と焼土が出土した。竈跡は西北部壁面中央部に出土した。4号住居跡は、規模が北北西から南南東3.８５ｍ×（北西から南東3～4ｍ？）で平面図グリッドNo.３４・４２・４３の土層No.４８～５１（Ｓ－２４－６～Ｓ－２４－９）から発見された。地形は北から南に傾斜する宇津湖畔に面する場所である。

４号住居跡出土遺物は土師器皿（暗文）・土師器坏・小型甕（内側横刷毛目）・土師器長胴甕（外側縦刷毛目・内側横刷毛目・口縁部薄型）・須恵器である。

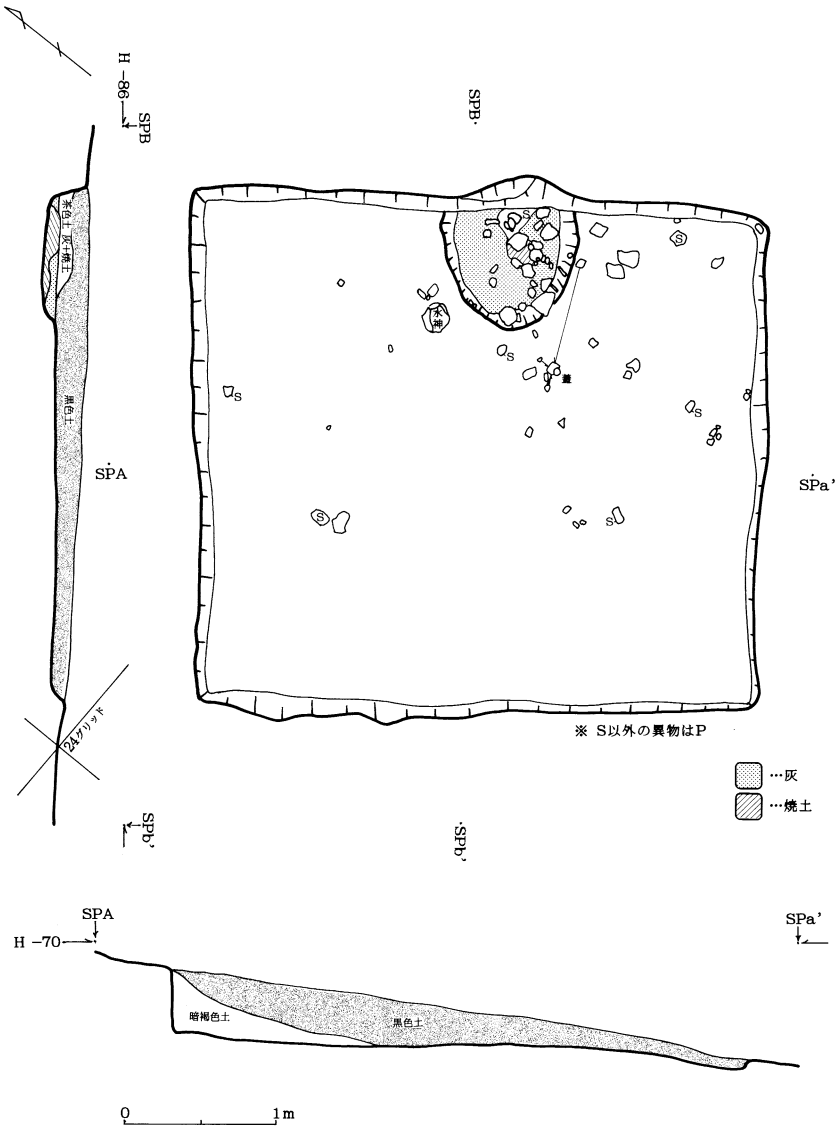
住居跡の特徴として、竈付近から多数出土している。火事にあった可能性があり住居跡全体からおびただしい炭化物が検出された。数か所に上部が平坦な石が配置されていた。北側、東側側壁に周構が検出された。



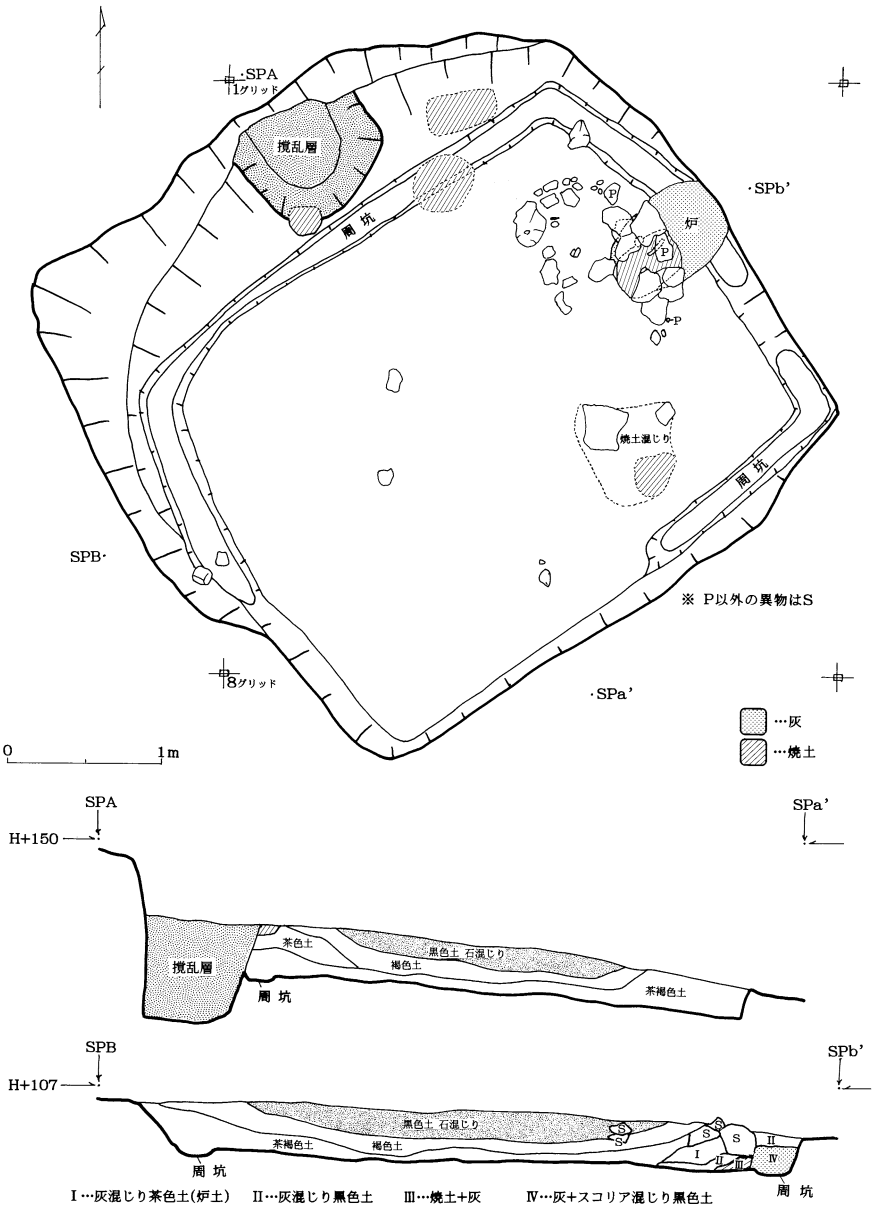
第 209 図　平安時代出土全土器分布図・全体図 (1/300)



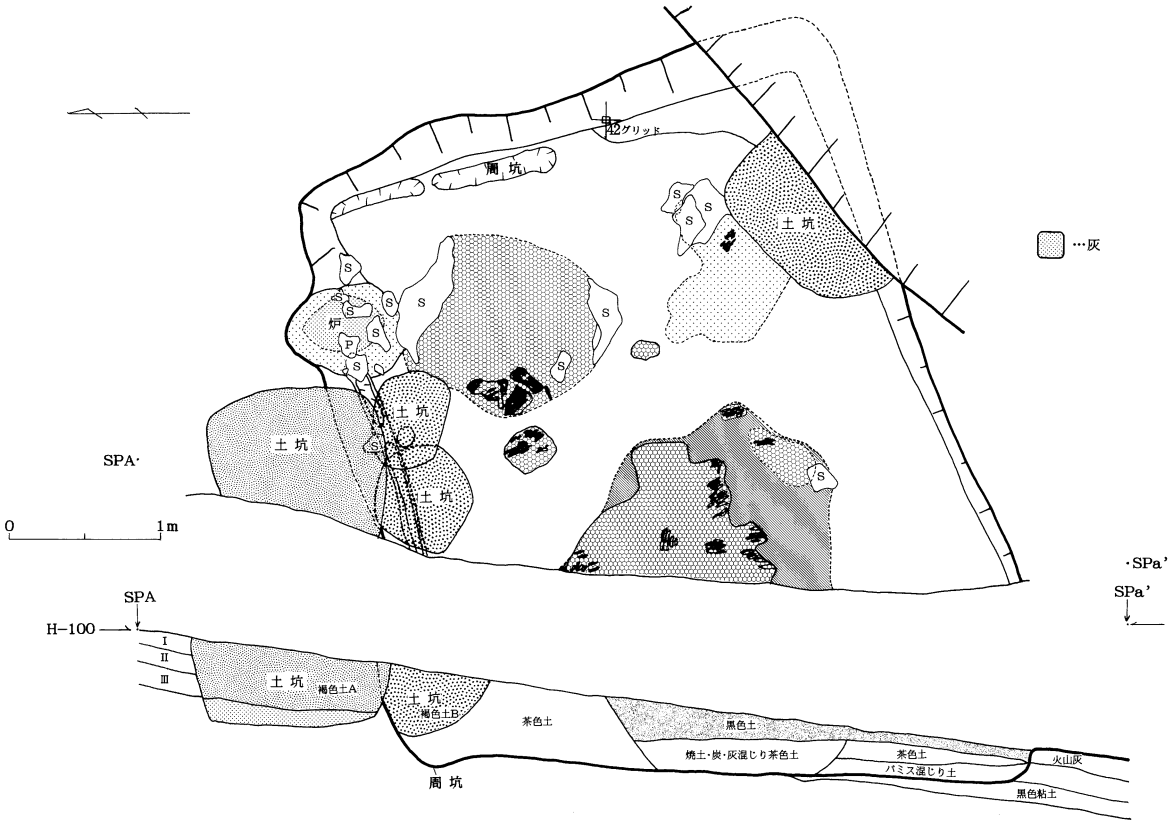
第 210 図　1 号住居跡平面図 (1/50)



第 211 図　2 号住居跡平面図 (1/50)

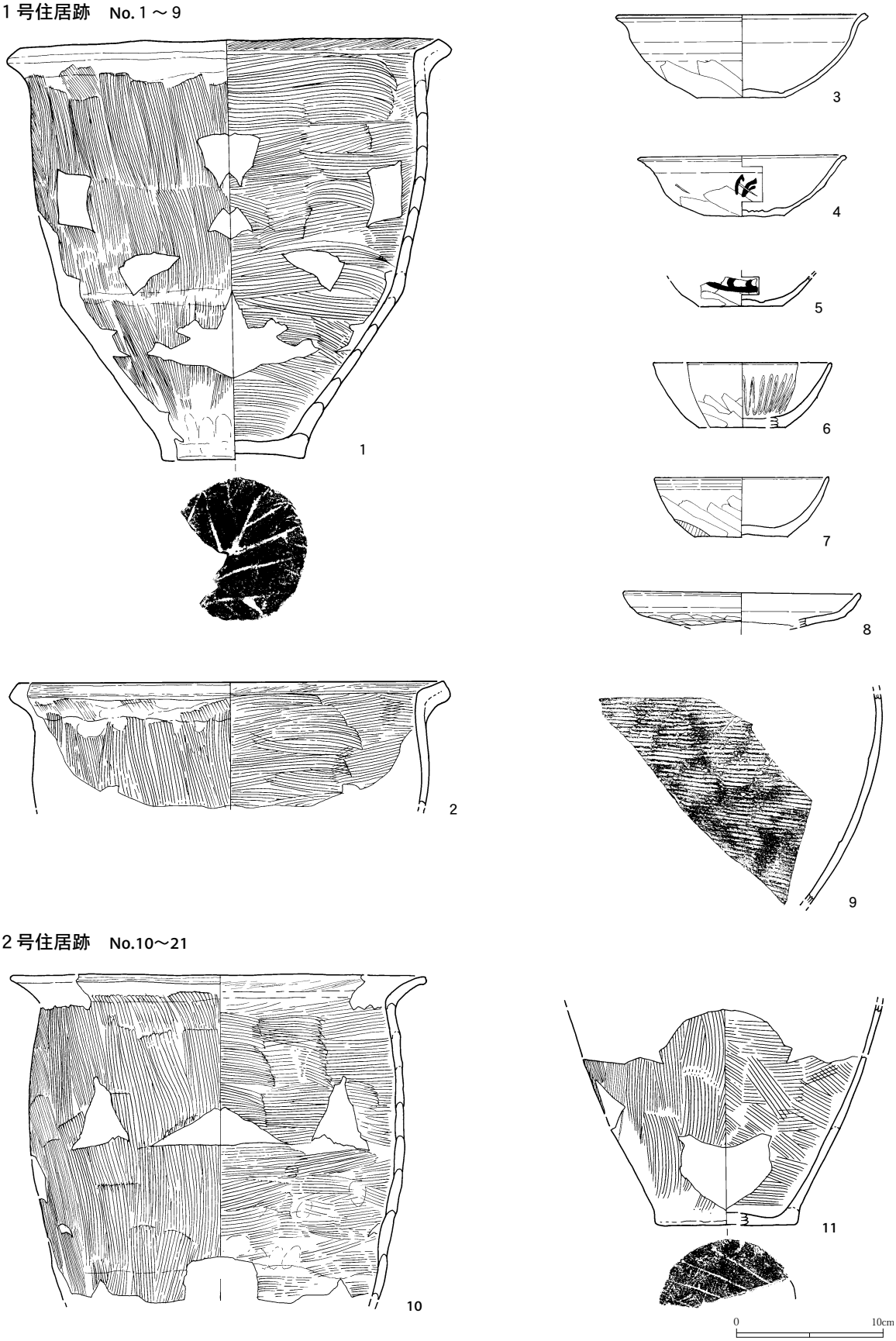


第212図　3号住居跡平面図 (1/50)



第 213 図　4 号住居跡平面図 (1/50)

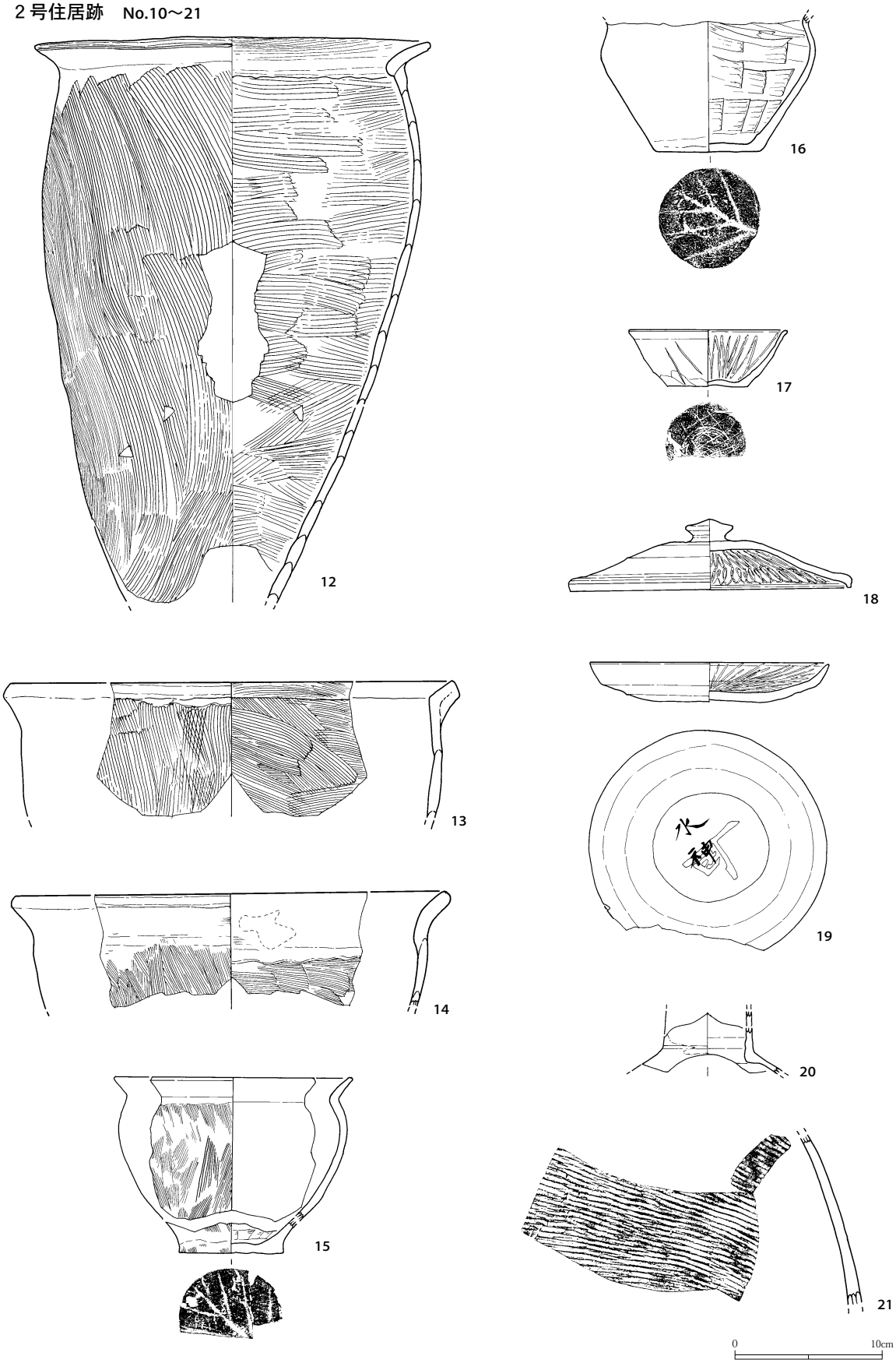
1 号住居跡　No. 1 ～ 9



2 号住居跡　No.10～21

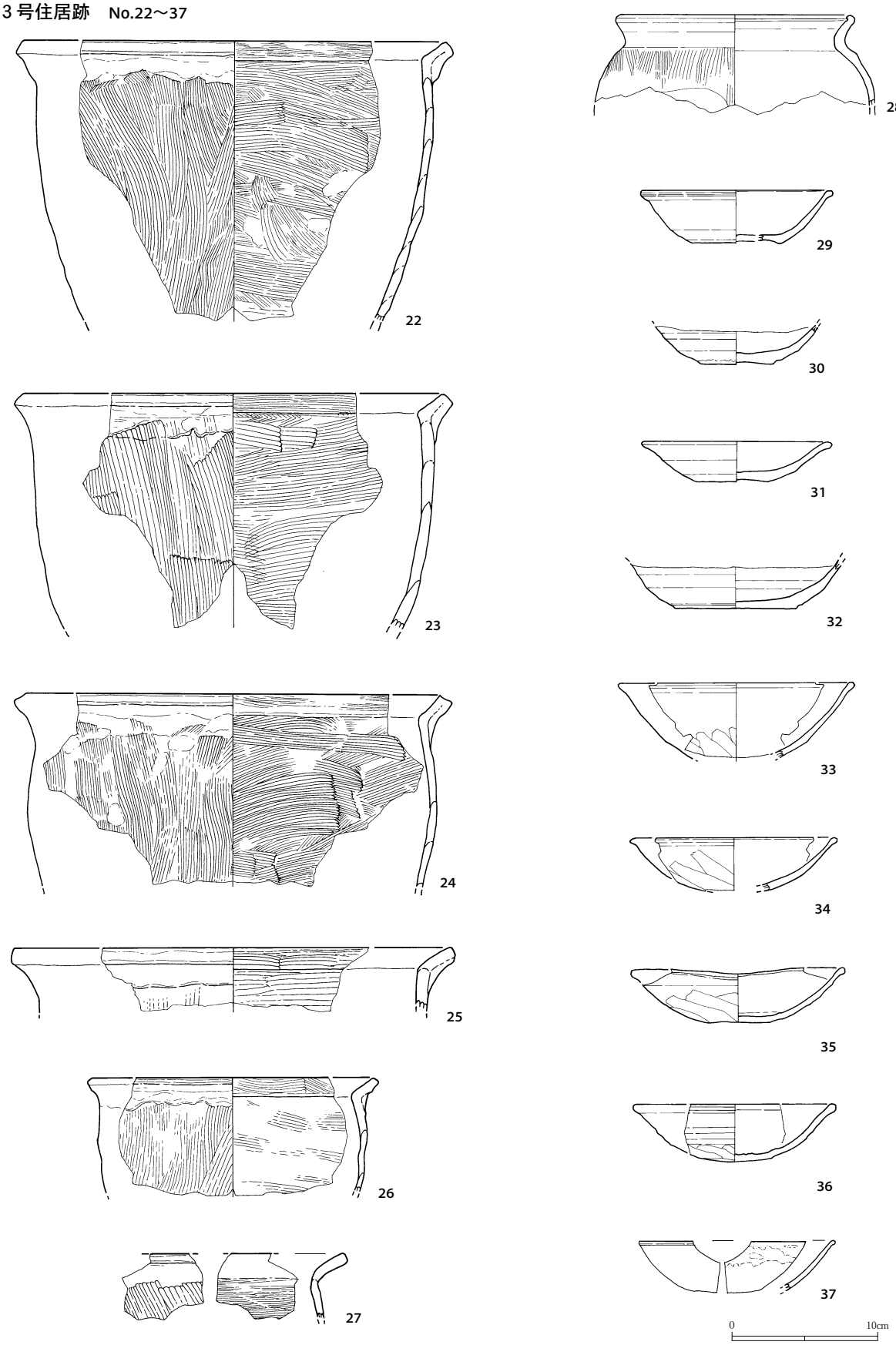
第 214 図　平安時代遺物（１）(1/4)

２号住居跡　No.10～21



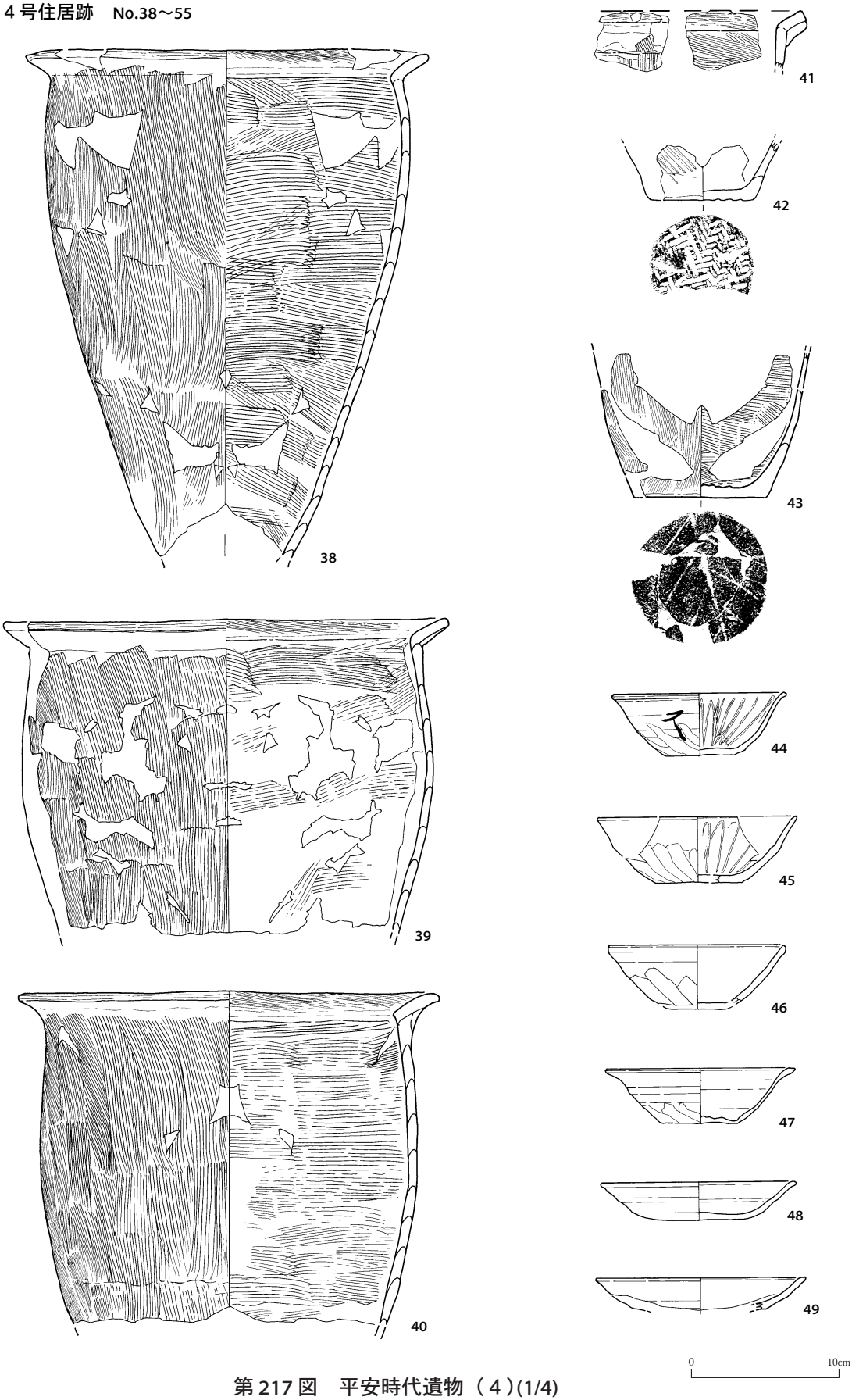
第 215 図　平安時代遺物（２）(1/4)

3号住居跡　No.22～37



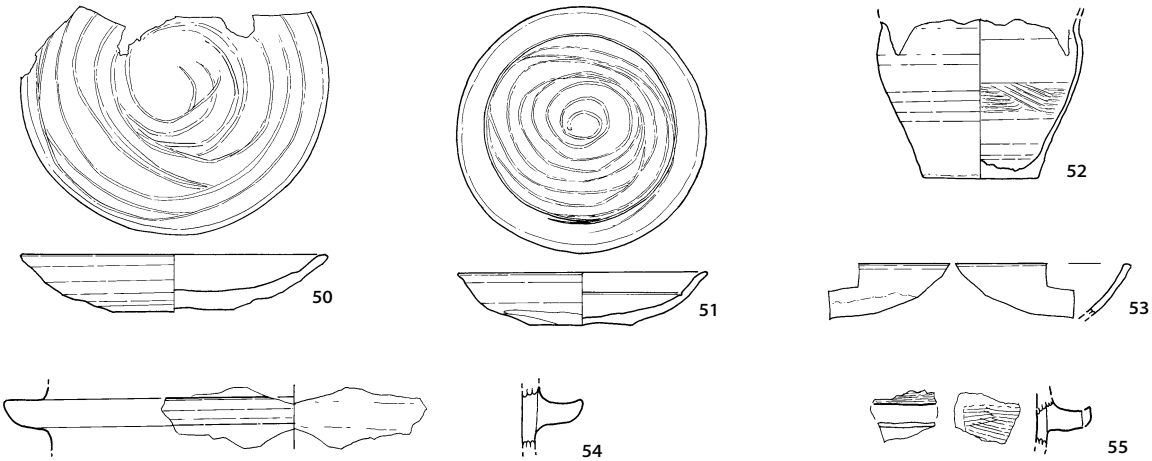
第216図　平安時代遺物（3）(1/4)

4号住居跡　No.38～55



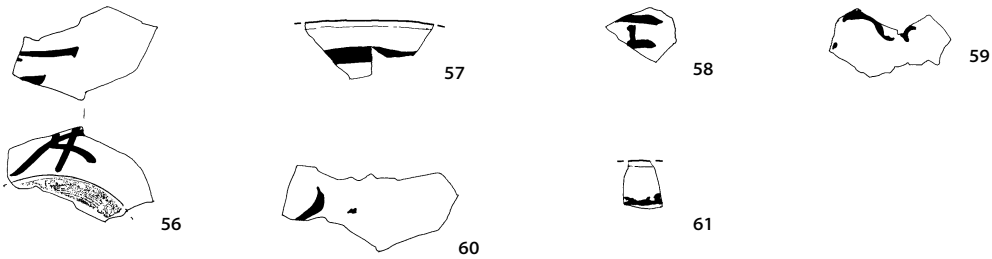
第217図　平安時代遺物（4）(1/4)

4号住居跡　No.38～55

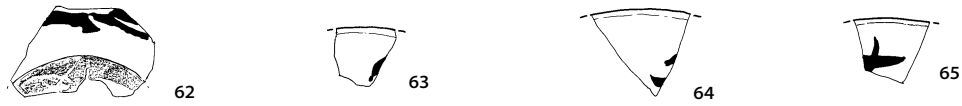


墨書土器片

1号住居跡

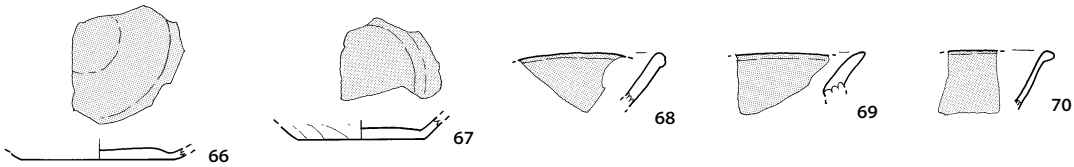


遺構外

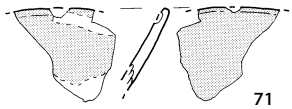


黒色土器片

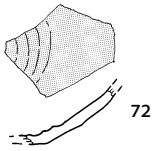
4号住居跡



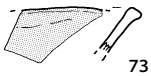
2号住居跡



遺構外

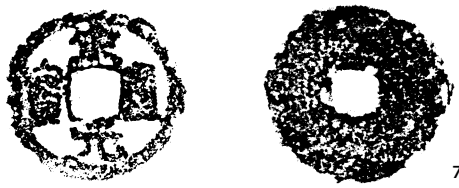


1号住居跡



0　10cm

遺構外



0　5cm

第218図　平安時代遺物（5）(1/1，1/3，1/4)

1住

図番号	器種	胎土	外面調整	内面調整	暗文	底面調整	甕の口縁形状	口径	（残存）器高	底径	備考
1	長胴甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		木葉痕	末広口縁	30.3	28.5	9.5	
2	長胴甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		欠損	末広口縁	30	8.4	欠損	
3	坏系鉢	s	回転ナデ-篦削り	回転ナデ		ヘラ切り		17	5.6	5.9	
4	坏ｂ	s	回転ナデ-篦削り	回転ナデ		糸切り/ヘラ削り		14.2	4	5.3	墨書あり。文字不明
5	坏ｂ	s	回転ナデ-篦削り	回転ナデ		糸切り/ヘラ削り		欠損	1.8	5.6	墨書あり。文字不明
6	坏ａ	s(u-)	回転ナデ-篦削り	回転ナデ	放射状	欠損		12	4.4	5.8	
7	坏ａ	s(u-)	回転ナデ-篦削り	回転ナデ		糸切り/ヘラ削り		11.8	4	6.3	ヘラ痕一部櫛歯状
8	皿	s(u-)	回転ナデ-篦削り	回転ナデ		欠損		16	5	欠損	
9	須恵甕	s -	叩き目	回転状叩き目		欠損		不明	不明	不明	釉薬付着なし

2住

図番号	器種	胎土	外面調整	内面調整	暗文	底面調整	甕口縁形状	口径	（残存）器高	底径	備考
10	長胴甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		欠損	薄口縁	28	22	欠損	
11	長胴甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		木葉痕	欠損	不明	14.6	9.2	
12	長胴甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		欠損	薄口縁	26.5	38.2	欠損	やや形歪む
13	長胴甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		欠損	末広口縁	31.2	9	欠損	
14	長胴甕	s	縦ハケメ	横ハケメ		欠損	薄口屈折ナシ	29.6	7.6	欠損	
15	小型甕	s	縦ハケメ	ナデ/ヘラナデ		木葉痕	薄口縁	16	11.9	7	
16	小型甕	s(u-)	手ナデ	ヘラナデ		木葉痕	欠損	不明	8.8	8.2	表面ざらつく
17	坏ａ	s	回転ナデ-篦削り	回転ナデ	放射状	糸切り/ヘラ削り		10.6	3.8	5.4	底面に格子沈線描出
18	蓋	s(u-)	回転ナデ-回転篦削り	回転ナデ	２段放射状				4.7	19	つまみ部回転成形　墨書記入？
19	皿	s(u-)	回転ナデ-回転篦削り	回転ナデ	放射状	糸切り/ヘラ削り		16	2.6	7.6	底面に「水神」、「可」の墨書あり
20	灰釉瓶	s -	回転ナデ	回転ナデ		欠損		欠損	4	頸部径6cm	一部釉薬付着
21	須恵甕	s	叩き目	なし		欠損		欠損	欠損	欠損	外面全面に灰釉薬付着

3住

図番号	器種	胎土	外面調整	内面調整	暗文	底面調整	甕口縁形状	口径	（残存）器高	底径	備考
22	長胴甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		欠損	末広口縁	30	19	欠損	
23	長胴甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		欠損	末広口縁	29.6	16	欠損	
24	長胴甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		欠損	厚口縁	30	12.8	欠損	
25	長胴甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		欠損	厚口縁	30.4	4.4	欠損	
26	小型甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		欠損	厚口縁	20	8	欠損	
27	小型甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		欠損	薄口縁	不明	4.4	欠損	
28	駿東型甕	s	縦ハケメ	ナデ		欠損	（頸部内湾）	16.2	6.8	欠損	
29	坏ａ	s(u-)	回転ナデ	回転ナデ		糸切り		13	3.5	6	
30	高台付坏	s(u-)	回転ナデ/指調整	回転ナデ		糸切り		欠損	2.5	4.8	
31	皿	s -	回転ナデ	回転ナデ		糸切り		12.8	2.7	4.2	
32	鉢？	s(u-)	回転ナデ-回転篦削り	回転ナデ		糸切り		欠損	3	8.2	
33	坏系鉢	s	回転ナデ-篦削り	回転ナデ		欠損		16	5.1	欠損	
34	坏ｂ	s	回転ナデ-篦削り	回転ナデ		欠損		14	3.6	欠損	
35	坏ｂ	s	回転ナデ-篦削り	回転ナデ		ヘラ切り		14.6	3.6	4.2	
36	坏ｂ	s	回転ナデ-篦削り	回転ナデ		ヘラ切り		13.8	4	5	底面丸みを帯びる
37	灰釉椀	s	回転ナデ	回転ナデ		欠損		15～17	3.6	欠損	猿投窯か　内面のみ灰釉付着

4住

図番号	器種	胎土	外面調整	内面調整	暗文	底面調整	甕口縁形状	口径	（残存）器高	底径	備考
38	長胴甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		欠損	薄口縁	26.9	34.1	欠損	
39	長胴甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		欠損	厚口縁	29.6	21.2	欠損	
40	長胴甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		欠損	厚口縁	28	22.4	欠損	
41	長胴甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		欠損	厚口縁	不明	4	欠損	
42	小型甕	us	斜めハケメ	ナデ		網代痕	欠損	欠損	3.6	6.8	
43	長胴甕	us	縦ハケメ	横ハケメ		木葉痕	欠損	欠損	9.8	8.8	
44	坏ａ	s -	回転ナデ-篦削り	回転ナデ	放射状	糸切り/ヘラ削り		11.8	4.1	4.7	
45	坏ａ	s -	回転ナデ-篦削り	回転ナデ	放射状	ヘラ切り		13.3	4.4	5.6	
46	坏ａ	s(u-)	回転ナデ-篦削り	回転ナデ		欠損		11.8	4	欠損	
47	坏ｂ	s -	回転ナデ-篦削り	回転ナデ		糸切り/ヘラ削り		12.6	3.7	5	
48	皿	s -	回転ナデ	回転ナデ		ヘラ切り		13	2.5	4.6	
49	皿	s	回転ナデ-回転篦削り	回転ナデ	回転状	ヘラ切り		16	3	6.3	
50	皿	s	回転ナデ	回転ナデ		欠損		14	2.2	欠損	
51	皿	s(u-)	回転ナデ-篦削り	回転ナデ	回転状	ヘラ切り		13	2.8	5.2	
52	小型甕	s(u-)	回転ナデ	回転ナデ		糸切り/ヘラ削り		欠損	8.4	5.9	
53	灰釉椀	s	回転ナデ	回転ナデ		欠損		18～20	3.4	欠損	内外面灰釉薬付着
54	羽釜	us	回転ナデ	横ナデ		欠損		欠損	3.2	欠損	
55	羽釜	s	回転ナデ	横ハケメ		欠損		欠損	3.2	欠損	

その他

図番号	遺物	状態	特徴	出土
56～65	坏	破片	墨書記入あり	1住、遺構外
66～73	坏	破片	黒色土器	1,2,４住
74	宋通元寶		北宋銭　960年12月初鋳	遺構外

第 14 表　平安時代遺物属性表

第Ⅵ章　　考察

第１節　笹見原遺跡上層文化層土器群の型式学的検討

株式会社アルカ
西本　正憲

はじめに

笹見原遺跡では縄文早期の文化層が大別して３枚（下層文化層、中層文化層、上層文化層）に分層され、うち上層文化層からは、貝殻沈線文土器群終末から条痕文系土器群前半にかけての時期と推定される土器群が良好な状態で出土している。

上層文化層出土の土器群は、その土器の特徴から幾分かの時間幅をもつことが予想され、出土層位による段階差の確認を試みたが、セクション図が残されている遺跡の東壁に近接した地点から出土した土器を除き、明確な層位の確認ができなかった。

従って本節では、遺跡全体における土器の分布とその構成内容を把握した上で、遺跡東壁付近から出土した土器を層位的に区分し、引き続き上層文化層全体の出土土器群に型式学的検討を加えることにより、笹見原上層文化層の段階差をより明確な形で提示することを試みることとする。

１）上層文化層出土土器の分布と構成

上層文化層から出土している接合土器の個体別分布図を、１枚の遺跡遺構図に投影してその分布状況を確認した。

その結果、上層出土土器群は、遺跡の北東部と南西部にそれぞれ大きく集中する分布を見せ、さらにその土器の特徴によって、その分布域を異にしていることが判明した。（第２１９，２２０図）

ここで遺跡北東側に広がる分布圏を、北東分布圏とし、遺跡南西側に広がる分布圏を、南西分布圏とした。

それぞれの分布圏に含まれる土器群を以下に紹介する。

・北東分布圏から検出された主な土器群

＊usf 型胎土（雲母混入繊維胎土）

角状押引文土器（BKusf）、沈線文土器（BTusf 3類）、無文土器（Musf）、条痕文土器（Jkusf）

＊sf 型胎土（無雲母繊維胎土）

無文土器（Msf）、沈線文土器３種（BTsf 3、4、5類）、絡条体圧痕文土器（Rsf）

・南西分布圏から検出された主な土器群

＊usf 型胎土

BTusf 2類（判の木山西式－2）、BTusf 1類（田戸上層式新段階）縄文（Musf）、

＊sf 型胎土

沈線文 BTsf １類（判の木山西－1）同2類、同6類、無文 Msf 型

上記のうち両分布圏で共通して見られる土器は、無文土器Msf型のみとなる。以上のことから、笹見原上層文化層では土器の種類により、遺跡内分布圏を異にしている状況が明らかとなった。

２）北東分布圏出土土器（第２２１図）の層位による段階検討

次に、北東分布圏のなかでも、特に遺跡東壁セクションに近接して集中出土している土器の層序を確認したい。層位の確認は3章1節土器編、上層文化層項に掲載してある個体別分布図、遺跡東壁セクション図によって行った。

この東壁に接する地区の１０Ｇと１８Ｇ、また近接している地区の９Ｇと１７Ｇ、計4箇所から遺物集中地点が確認されており、その4地点からの出土した土器を中心にして記述する。

＊１０Ｇ遺物集中地点の接合土器

９９年度発掘の東壁拡張時に数種類の土器片がまとまった形で検出された。この地点から出土した土器は、BTsf 3類、無文usf型、無文sf型の3種である。他に無文の口縁部破片が数点出土している。

出土レベルと層位を確認した結果、これらの土器は8Ⅳ遺構検出面の等高線にほぼ一致した。層位的にはＹ－１４１－１層内上方からＹ－１４１－２最下面にあたり、この地点では、遺構検出面と自然堆積層がほぼ一致することが確認された。

従ってこれらの土器は、上層文化層の8Ⅳ遺構検出面に伴い、上層文化層の古い段階に位置する物と推定される。

＊１８Ｇ遺物集中地点の接合土器

１０Ｇの南に当たる１８Ｇから、BTsf 4類の良好な資料が2点検出された。（No. ３７１、３７２）

発掘時の状況によると、2点が重なって出土し、器形、大きさ、質も同様のため、同一個体と認識したという。この2点の土器の要素を見ていくと、文様帯のデザインは異なるが、胎土、器形、施文工具の種類と大きさ、文様帯の幅など、共通した要素を多く持っている。同時期における文様帯デザインの幅を確認できる、格好の資料と言えよう。

この出土地点の出土レベル、層位を確認すると、１０Ｇ遺物集中地点より上方の自然堆積層内（Ｙ－１４１－２層）にほぼ全ての破片が含まれている。

この層位的事実により、この2点の土器が１０Ｇ遺物集中地点出土土器より新しい段階であることが確認できた。

＊９Ｇ遺物集中地点の接合土器

遺跡東壁から3～4ｍほど西側に離れた地点で、数種の角状押引文土器、無文usf型土器が出土した。この地点から出土した良好な資料は、全てusf胎土を使用するという特徴を持つ。

前述した2地点と比べると、中心部は集中分布しているが、周辺部にもやや散漫に広がる傾向を持つ。

この傾向は土器の出土レベルにおいても同様で、前述2点の集中地点に比べ、上下の差が大きくなっている。この点を8Ⅳ遺構検出面と8、遺構検出面の等高線から確認すると、 遺跡北東部においては東壁から離れるにつれ、標高が高くなる傾向にあることから、この上下差は地形の高低差によって生じた物と考えられる。このことは接合土器の個々の破片の出土地点と出土レベルからも確認でき、また平面分布が散漫に広がることも、この地形の影響によるものと推定される。

以上の理由から、9Ｇ遺物集中地点出土の接合土器個体5（No.４０８）と個体7（No.３３３）の内、より東壁に近い１０Ｇ出土の土器片に限って出土レベル、層位を確認してみると、この地点出土の土器は、１０区遺物集中地点出土土器出土レベルの上面に分布している。セクション図に投影させると層位的にはＹ－１４１－１層上面からＹ－１４１－２下面の範中に含まれることが判明した。

従って9Ｇ土器集中地点の土器は、１０区土器集中地点の土器群より若干新しい段階に属すると推定される。

＊１７Ｇ遺物集中地点の接合土器

９Ｇ遺物集中地点より４～５ｍ南方、東壁セクションからは4ｍ弱西側にあたる１７Ｇ遺物集中地点では、清水柳Ⅱ群Ｅ類に比定される絡条体圧痕文土器と、usf型胎土の条痕文土器（個体6＜No.４２８＞）が出土している。この2点は出土レベルにより共伴が確認されている。

この地点から出土している、絡条体圧痕文土器（個体1＜No.４３０＞）の平面分布と出土レベルを確認すると、分布はほぼ1カ所にまとまっており、出土レベルはやや高低を見せるものの、その多くは－３００～－３２０㎝の範囲で検出されている。

地形的には、前述したように東壁から西側に離れるごとに標高が高くなる傾向があるが、この地点では9Ｇ遺物集中地点と比べその差は少ない。そのことは土器破片の平面分布にも現れており、他地区の出土は3片のみで、他は１７Ｇ北東部に限られている。

この出土レベルをそのまま東壁セクション図に投影すると、多くがＹ－１４１－2層中～上方に含まれる。

従って１７Ｇ遺物集中地点出土の土器は、上層文化層の新しい段階に属すると推定される。

＊他の東壁付近出土の接合土器

９Ｇと１７Ｇ遺物集中地点の中間に位置する位置から、BTusf３類にあたる土器（個体3＜No.４００＞）の中心的な破片が出土している。出土レベルと層位を確認すると、殆どの破片がＹ－１４１－2層に収まり、より東壁セクションに近接した１８Ｇ出土の破片についても同様であることから、本資料はＹ－１４１－2層中の段階に属すると推定される。

上記と同類BTusf３類の良好な資料（個体4＜No.３９９＞）が、遺跡東部南側にあたる３５Ｇを中心にして出土している。この土器の３５Ｇ出土状況が撮影されているが、口縁～胴部土器片が数枚重ねられ、斜めに立てたような形で検出されている。

出土レベルと出土層位を確認したところ、３５Ｇ出土、２７Ｇ出土同個体破片共に自然堆積層Ｙ－１４１－1層直上に位置していることが確認された。

また、器形は異なるものの、口縁部に横「ハ」の字刺突が付き、胴部文様に鋸歯＋斜行文の文様帯が施文される資料が１８Ｇと３６Ｇから出土している（個体４０＜No.４０１＞）。この出土レベルは１８ＧでＹ－１４１－1直上、３６ＧでＹ－１４１－1層中上方に該当する。

以上の結果により、これらの資料は上層文化層の古い段階に位置すると推定される。

＊小結

以上、上層文化層の東壁付近から出土した、主な接合土器の層位を検討した結果、遺跡北東分布圏土器は、層位的に大きく二つの段階に分かれることが判明した。

古い段階は、自然堆積層Ｙ－１４１－１直上～層中上部に位置するもので、１０Ｇ遺物集中地点出土の土器、個体４と４０の土器が該当する。

新しい段階は、自然堆積層Ｙ－１４１－２層中に含まれるもので、９Ｇ、１７Ｇ、１８Ｇの各遺物集中地点の土器と、個体３がそれにあたる。

３）南西分布圏出土土器群の種類（第２２２図）

南西分布圏では、北東分布圏と様相を異にする土器群が分布している。その主な土器群の詳細を記載したうえで、次項にて南西分布圏出土土器群の代表的な２群について型式学検討を加えることとする。

＊ BTusf-１類（田戸上層新段階）

遺跡中央の若干西側に位置する、２４Ｇを中心にした地点から、田戸上層の新段階に比定される土器が検出された（№３７９）。非接合破片もあるが、質と文様から同一の個体と推定される。本遺跡で本類は１個体のみの出土である。

胎土は僅かに雲母を含み、砂粒の量が多い繊維胎土sf(u-)で、雲母を僅かに含む点を除けば、後述するBTsf-１類（判ノ木山西式-１）の胎土に近い。器面は薄く、口唇部は５㎜程度、最も厚い頸部で１０㎜前後、胴部は８㎜前後である。内面には貝殻によると推定される調整痕が横方向にされる。

器形は、頸部で一度内湾してから、口縁部で直線的に開く形状をしており、屈曲部にあたる頸部には、２本の横沈線内に横位の鋸歯状沈線が描かれる。この文様を境にして、口縁部には複数の沈線による渦巻き状文様が、胴部には縦～斜方向の連続沈線が施文される。

出土レベル的には８Ⅳ遺構検出面から８Ⅱ遺構検出面の中間程度に位置し、特に下方から出土しているような状況は見られない。他種の沈線文土器でも数例見られる頸部の波状線を除き、全体的に土器の構成要素が他の資料に連続しないことから、本遺跡内では客体的な物かもしれない。

若干異なる点は見受けられるが、本資料に近似する他遺跡の資料として、静岡県の清水柳北遺跡出土資料がある。また口縁部文様帯の渦巻状モチーフの形状は、田戸遺跡出土資料に近似する物である。

＊ BTsf-１類（判ノ木山西式－１）

上層文化層南西分布圏では、雲母を含まない繊維胎土、「sf型」胎土を使用し、整形時に表裏または裏面のみに貝殻調整痕を加えた、判ノ木山西式に相当する１群が検出されている。この資料群を便宜的に「判ノ木山西－１」と仮称したい。

胎土は砂粒が多く、繊維の含有量は少ない。器壁は比較的薄手で、８㎜前後であり、器面の硬度は硬質である。この胎土と器壁の特徴は、貝殻調整痕を有する土器に共通する性質である。

土器全体の器形を把握できる資料として、個体９（№３４３）と個体１０（№３４４）が挙げられる。施文工具は幅広で器面接地部が平らに加工された半裁管腹側を使用し、胴部半ばまで綾杉状文様が描かれる。口唇直下に同工具により連続刺突が１段、胴部中半の文様帯下部にもやや伸ばした連続刺突文が、２段または３段に施文される。同一手法で同一文様が施文される、極度に近似する資料として、神奈川県北西部の宮ヶ瀬遺跡群、久保ノ坂遺跡出土遺物が挙げられる。

個体９と個体１０の接合破片は、それぞれ３３Ｇ、４１Ｇ周辺を中心に分布しており、北東分布圏の土器分布に比べ、やや広がる分布を示す。同類破片についても同様で、破片数点を除き、殆どの破片が遺跡西側出土である。

また、他の同類資料の使用工具バリエーションとして、先が櫛歯状化したもの、細い半裁管工具などがある。

＊ BTusf- 2類（判ノ木山西式－２）

文様はBTsf- 1類（判ノ木山西－１）と近似するが、雲母を含む繊維胎土「usf型」胎土で製作される。

本類の胎土は繊維、雲母をやや多めに含む。口唇部は若干薄目に成形しているものの、全体的には厚手で１０㎜を越える。硬度は内面が特に脆弱で、内面側が剥落した資料が多い。また、本類で貝殻調整が行われる資料はない。

本類で最も良好な状態の資料は№.３８０で、口径復元までには至らないが、文様帯下部まで接合残存している資料である。文様モチーフはBTsf- 1類同様、綾杉状文様が胴部まで描かれ、共通する。

しかし、細かい点を観察していくと、BTsf- 1類と異なる点が随所に見受けられる。施文工具の点では、BTsf- 1類は幅広で器面接地部が平板な半裁管工具を使用するのに対し、本資料は残存中心部と右端の垂下線は幅広の半裁管工具を使用しているものの、他は接地部がやや尖った細い半裁管を使用している。また、施文部の多くは半裁管の片側が深く、もう片側が施文されず、単一の沈線となりがちな特徴を持つ。また胴部刺突は、本類では施文されない。

他の同類資料の使用工具バリエーションは、先の鋭い半裁管、先が櫛歯状化したもの、半裁管背側使用のもの、単一沈線などがある。

胴部文様のバリエーションとしては、BTsf- 1類より幅が広く、綾杉状文様の他に、垂下沈線のみのもの、綾杉状文様がやや崩れたような様相の変形斜沈線に近い文様もある（№.３９８）。

口縁部刺突は胴部文様に比べ変化が少なく、半裁管腹側による連続刺突で占められる。工具を縦にして刺突をし、横方向に連続する技法である。

分布としては、本類の殆どが遺跡中央より西側から検出されている。綾杉文様の№.３８０と変形綾杉（斜線）文様の№.３９８は遺跡南西部に接合片がひろがり、垂下沈線のみの物は北西部２３Ｇに破片が集中分布する。

BTsf- 1類（判ノ木山西－１）と対比し、本類を「判ノ木山西－２」と仮称する事とする。

＊縄文施文土器（Jusf）

上層文化層で１点のみ、器形全体が把握できる縄文土器資料破片が４１Ｇ南方に集中して分布している（№.１７３）。この地点はBTsf- 1類（判ノ木山西式－１）の個体１０と分布が近接しており、出土レベルを確認すると、この周辺ではほぼ一致したレベル値を示していたことから、BTsf- 1類（判ノ木山西式－１）とほぼ同時期の資料と推定される。

胎土は雲母を含むusf型で、太めのＲＬが横方向施文される。器形は頸部で屈折し、口縁部が広がる器形で、口唇に向かうにつれ器壁の厚みは先細りになる。笹見原遺跡で同様の頸部屈折をもつ資料として、遺跡中央周辺で検出されている、無文土器の№.２９９がある。こちらは雲母が混入さ

れないsf胎土を使用している。

＊無文土器（Msf）

BTsf-１類が分布している地域よりやや北方の、遺跡西側の北部から中央部にかけて、雲母を混入しないsf型胎土の無文土器が分布している。雲母は含まないものの、BTsf-１類の砂粒を多く含み繊維が少ないs(f-)型とは異なり、砂粒が少なく繊維を多く含むf(s-)型で、質的には北東分布圏出土の絡条体圧痕文土器や１８Ｇ遺物集中地点出土のBTsf４類に近い。器面の厚み、調整等も同様である。

BTsf-１類の分布からやや離れ、標高差も大きい地点であることから、南西分布圏沈線文土器との関係は不明だが、土器胎土の特徴などから、北東分布圏のsf型胎土土器と関連する物だと思われる。

４）南西分布圏土器群の型式学的検討（第２２３図）

前項にて、南西分布圏出土の主な土器について記述したが、ここで注目したいのはBTsf-１類（判の木山西式－１）とBTusf-２類（判の木山西式－２）の関係である。

この２点は文様、器形において、表面上のデザインはよく似ているが、使用胎土、器面厚み、調整法、施文工具、文様のバリエーションなどで、相違点があることは前述した通りである。この表面上で類似していながら、素材・技法・技術の相違点が存在するという様相を考慮すると、この２類の関係は、異なる土器製作技術の祖形（オリジナル）と模倣（コピー）の関係に相当すると推測される。

ここで、この２類のどちらが祖形（オリジナル）かという問題が浮上するが、この点を明確にするため、両者の施文工具と文様バリエーションの技術的な差違を改めて整理したい。

BTsf-１類は工具、文様共にバリエーションが少ないことから、製作と文様技法が定着しており、その時点で技法が完成している観がある。

対してBTusf-２類は、工具、文様共にバリエーションが多い。このことは、BTusf-２類は、土器製作に関してある程度の許容幅を持ち、様々な要素を取り入れる素質を有していると推定される。

さらに上層文化層全体から、それぞれの胎土特徴と成形技法が共通する土器群の有無を見てみよう。

BTsf-１類に使用されるのは、雲母を含まない繊維胎土「sf型」だが、同じ「sf型」の中でも、砂粒を多く含み繊維が少ない「s(f-)型」が使用されている。またその成形特徴として、器面は１０㎜以内と若干薄手で、比較的硬質である点が挙げられる。貝殻調整がされる点も大きな特徴であるといえよう。

これらの特徴が共通する土器群として、BTsf-２類が挙げられる。BTsf-２類は胴部破片４点のみの土器群で、胎土、厚み、内面の貝殻調整痕など、質の面ではBTsf-１類とほぼ一致する。

大きく異なるのは表面で、微妙にうねる単一沈線の垂下線の連続や、半裁管腹側を使用したと見られる縦位の入り組み文？的な形状を見せる。他の土器と違い、胴部に縦位の文様が配置されている様であるが、残存が胴部破片のみの為、全体像は不明である。また、文様施文後に表面がナデにより滑らかにされるという特徴もこの類の持つ特徴的な点である。このBTsf-２類の分布は破片１点がＹ－１４１－２層中に含まれているが、他はBTsf-１類と同様南西分布圏からの出土である。

他に、１群を有する量に満たない資料をまとめてBTsf-６類とした物がある。口縁部の連続刺突を持たないもの、波状口縁？の可能性がある資料、口唇裏に刺突が認められるものがあるが、いずれ

も小破片で全体像は不明である。これらも南西分布圏からの出土である。

BTsf-１類と同質の土器群は、以上に挙げた２つの類に留まり、南西分布圏以外では殆ど見られない。

これに対し、雲母を含有するusf型胎土は、絡条体圧痕文土器を除いた全ての文様要素の土器に使用されており、笹見原上層文化層では中心的な位置を占める胎土である。分布についても上層文化層全体に広がりをみせ、また土器の質面では、繊維の量に差が見られるものの、全体的には均一な様相を見せる。

以上の状況からこの両者の関係を推察すると、以下のような形になる。

・BTsf-１類（判ノ木山西－１）がオリジナルとして存在し、異胎土異成形技術のBTusf-２類（判ノ木山西－２）がコピーという形で共存する。

・BTusf土器群が有する、土器製作に関してある程度の許容幅を持ち、様々な要素を取り入れるという特性から、BTusf-２類の文様バリエーションが多様化する。

また、BTusf-２類の中で、綾杉がやや変形したとみられる文様を持つ資料№.３９８が、遺跡西端の３９Ｇから出土している。北東分布圏では鋸歯+斜行状文を持つ１群が確認されており、その影響関係が予想される。この点をふまえ、次項にて笹見原上層文化層の全体像を型式学的検討により試案してみたい。

５）上層文化層土器　文様要素と段階差の検討

北東分布圏においては、新旧２段階の存在が層位によって確認されている。それらの土器群がもつ個々の文様要素の結びつきと段階差を検討し、南西分布圏土器も視野に入れた形で確認していく。

その手法として、複数の類別土器にまたがる様相を見せる主な文様モチーフを抽出し、その差違と層位的段階差を検討する事とする。

（あ）横「ハ」の字刺突（第２２４図-１）

口縁直下に篦状工具、棒状工具、半裁管背側などを使い、横位の「ハ」の字形状に連続刺突を回す文様で、上層文化層ではBKusf２個体分、BTusf３類に３個体分の資料が確認されている。（図w）いずれも胎土タイプはusf型で、出土は全て北東分布圏から検出されている。

これらの土器を北東分布圏の段階区分から見ると、古段階と新段階の両方にこの文様要素を有する土器が存在する。しかしながら新段階の可能性がある資料はＢＫ類のみで、同刺突が施文される斜行沈線文系は古段階に該当する。

使用工具は個体により異なる様相を見せるが、これはそれぞれ他箇所で施文される沈線、角押工具と同様の物を使用しており、特定の共通する工具で施文されることはない。笹見原遺跡では副次的な文様要素であると想定される。

周辺地域に目を向けると、長野県北佐久郡望月町の平石遺跡資料で同様の施文が見られる。平石遺跡では、後述する鋸歯＋斜行沈線文や角押文など、笹見原上層文化層土器の文様と多く共通する点が見受けられる。

（い）鋸歯＋斜行沈線文（第２２４図－２）

上層文化層の沈線文土器で多く見られる文様であり、胎土面でusf型とsf型の両方のタイプで見られ、器形にも幅がある。また文様帯の縦幅は、口縁部から頸部周辺までの狭い範囲に限られるという特徴を持ち、この文様帯幅の範囲はBK類も共通する。

分布は北東文化層内にほぼ限定される。層位による段階区分を確認すると、古段階はusf型胎土に限られるようで、sf型胎土の資料は、新段階に１点と層位確認不能地点からの出土だった。usf型胎土では、斜行沈線が重ねられ格子目文化した同類が、新段階の出土となっている。

この鋸歯＋斜行・格子沈線文土器群でusf型胎土を特徴とする土器をまとめてBTusf３類と分類したが、同２類に分類した資料の中で、鋸歯＋斜行文に近似する資料が存在する。前出の南西分布圏出土の№.３９８がそれに当たり、一見鋸歯＋斜行文と捉えられるが、実際には斜めに傾いた１条の垂下沈線を軸にして、斜行沈線が両側から出ていることを考慮すると、綾杉状文様の範疇に入るべきであろう。口縁部にはBTusf２類の特徴である連続刺突列が残存している。本資料はBTsf１類のコピー要素を持つBTusf２類と、BTusf３類の要素が複合していることから、折衷（ハイブリッド）土器と推定される。

sf型胎土資料としては、口唇上から隆線文が垂下する№.３７９があり、層位的に新段階に該当する。斜行沈線文パターンを観察すると、通常は軸線となる鋸歯状文は交差されないが、本資料は軸線の鋸歯状文が交差して配置した上で斜行沈線を充填している。また、破片下部には軸線に平行する斜沈線が僅かに残存しており、隆線文の存在も合わせ、のちの野島系列の文様につながる物かもしれない。

№.３７０は砂粒、繊維の混入が僅かで礫を含む硬質な土器である。自然層位確認が不可能な位置からの出土だが、鋸歯状＋斜行沈線文が簡略化しており、平頭の口唇に丸棒状の刻みが施されるなどの特徴から、新段階の資料と推定される。

（う）頸部鋸歯状（波状）沈線文（第２２５図－１）

土器頸部、または口縁部文様帯最下部に、横方向に鋸歯状沈線が廻る資料が５点確認されている。BTusf３類が３点、BTusf１類、BKusf類が１点ずつである。

内BTusf１類は型式学的にみて、田戸上層の新段階に相当すると推測される。本資料と他の上層文化層土器群との直接的な連続性は薄いと考えられるが、同文様は田戸上層式新段階とされるものでは比較的見られる文様であることから、広い意味では影響を及ぼした可能性が考えられる。

他の同施文がされる資料は、小破片を除き北東部分布圏内から出土しており、内２点は層位図に投影可能な資料である。それぞれが古段階と若干新しい段階に該当した。

（え）角押文（第２２５図－２）

口縁部文様帯に角状押引文が数段横方向に施されるタイプで１群を設け、BKusf群とした。

使用工具は半裁管背側が多く、ついで箆状工具である。口唇部は、刺突がつくもの、口唇下に横「ハ」の字刺突がつくもの、刺突がされないものの３種があり、いずれも分布は９Ｇ遺物集中地点周辺に偏りを見せる。

類似の物として、遺跡南東から角押文が沈線化した物も見られる。本資料の文様帯最下部には、個体５（№.４０８）と同様、鋸歯状沈線文が施文される。

また、文様帯の主要要素では無いものの、文様描出の一要素として角押文がされるBTusf 3類の個体3が挙げられる。格子目の口縁部文様帯上部に、細い半裁管の腹部を使い3段に施文し、また外反した口唇外側には同工具による縦位の連続刺突が施される。

通常は工具を横方向に持ち施文するのに対し、工具を縦方向にして断続的に刺突を行うものもある。文様形状は絡条体圧痕文に似ており、同じ段階に絡条体圧痕文土器が存在することを考えると、それを模した物かもしれない。

同施文要素を持つものはusf型胎土に限られ、また層位的に確認可能な物については、上層文化層のやや新しい段階に入ると思われる。usf型胎土の沈線文土器が新しい段階ではあまり見られないことから、角押施文土器群（BKusf）は、usf胎土土器における新しい段階の中心的な施文手法と推測される。

子母口影響の可能性もあるが、本遺跡では中部高地で見られる文様要素が多く認められることから、この角押文もその一要素と考えられる。しかしその施文方向が、口縁と平行方向のみに限られる点は、子母口影響の要素も考慮すべきかもしれない。

（お）口唇上刺突文（第２２６図 - １）

口唇の下ではなく、頂部に刺突または刻みが入るものを指す。口唇上刺突文が施文される土器群としては、絡条体圧痕文土器、角押文BKusf土器群、条痕文JKusf土器、沈線文BTsf 3類、5類、6類、BTusf 3類のそれぞれ1部が該当する。

刻みの種類は、篦による鋭い刻みと、丸棒を押し付けたような丸い断面を呈する物があり、BKusf土器群は篦刻みで共通し、BTsf土器群は後者が多く見られる。また、篦刻みが施されるものの口唇形状は丸頭状で、丸棒刻みは口唇形状が平頭状の物に施文されることが多い。

口唇上刺突文がされる資料で層位が確認できる物は、古い段階に位置する資料からは確認出来ず、笹見原上層文化層土器群の新しい様相であることを示している。

（か）隆線文（第２２６図 - ２）

笹見原遺跡で隆線文が施される資料は、絡条体圧痕文土器2点と、沈線文土器の2点、計4点のみであった。

そのうち状態のよい2点が層位確認可能で、2点とも新段階に該当した。

絡条体圧痕文土器はいわゆる清水柳Ⅱ群E類で、口縁部に2条の隆線が水平に回り、その隆線上面と隆線下の胴部全体を、横位多段に絡条体圧痕文を施すタイプである。

砂粒は少なく礫を含む胎土に、繊維が多く混入されている。胎土中には植物の種子痕なども複数残っており、f(s-)型胎土の中でも特徴的なものであった。

沈線文土器は前出しているBTsf 5類で、口唇上から下方へ隆線が垂下する。沈線文は鋸歯＋斜行沈線文が重なる形態で続くようである。

絡条体圧痕文土器ほど繊維は含まないものの、質的には近似するf(s-)型胎土で成形される。器壁厚みなども似た様相である。

その特徴から、野島式に近接するものと推察される。

６）その他の土器について（第２２７図）

上記に挙げた文様要素以外の特徴を持つ土器を、この項で個体別に扱っていくこととする。また無文の土器についても本項にて取り上げたい。

＊個体４９～５３＜No.３６９＞

１０Ｇ遺物集中地点にて検出された個体である。胎土特徴は礫を含み、繊維は僅かに含む荒い胎土 s(f-) 2型である。器面の厚みは全体的に分厚く、尖頭に近い丸頭の輪積み痕が顕著に見られる。

本資料は東壁セクションに直近した地点から出土したため、明確な帰属層位が判明している。Ｙ－１４１－１層上方に位置し層位確認可能な資料の中では、上層文化層の最古の段階に位置づけられる。

本資料は、器面接地部分を平らにした半裁管工具の腹側を使って平行沈線を描いている。文様帯は胴部中半まで及び、まず胴部中半に文様帯区画線を描き、次に垂下線を連続させ、最後に斜行線を連続させている。

本資料は同地点で共伴資料があるが、それは無文 usf 型と sf 型の土器で、半裁管沈線文は見ることが出来ない。

ここで南西分布圏に目を向けると、同工具を使用する物としてBTsf 1類が存在する。南西分布圏では帰属する自然堆積層位の確認が不可能なため、分布圏内の沈線文土器に型式学的検討を試みたが、BTsf 1類は別類土器の元になる（祖形）と推察された。

個体４９とBTsf 1類には、胎土、成形技法という大きな違いがあるが、施文工具と文様帯の範囲では共通する点が見られる。この両者の関係は、BTsf 1類とBTusf 2類の関係によく似ている。

以上、両者が上層文化層古手と見られる点、施文工具と文様帯範囲が共通する点、BTsf 1類とBTusf 2類の関係に近似する点の3点から、本資料もBTsf 1類と何らかの関係性があり、時期的にも近接すると推測される。

＊無文土器 usf 型胎土の資料に関して

No.３６９と同地点から、口縁直下に粘土紐が貼り付けられ、段差口縁を形成する usf 型胎土の無文土器が出土している（個体４４＜No.３１８＞）。また同地点から、口縁部が外反して平頭口唇を持つ、異なる口縁形状をした usf 型無文土器片も検出されており、上層文化層古段階では、口縁形状にバリエーションを持つ usf 型無文土器群が存在する。

ここで中層文化層と上層文化層分離の根拠となった8Ⅳ遺構検出面に目を向けて見たい。この8Ⅳ遺構検出面からは多くの土抗、焼土が検出されているが、その遺構に伴う遺物は殆ど存在しない。

しかし遺跡東側やや南方の土抗６２からは、usf型胎土無文土器の口縁部片が検出されており、また同遺構検出面焼土中からも、文様を持たない usf 型胎土の土器片が出土している。

以上の状況を考えると、笹見原上層文化層最古の段階には、usf 型胎土の無文土器群が存在したと推定される。

＊１８Ｇ遺物集中地点で出土した沈線文土器について

本地点から出土したBTsf 4類に比定した土器2点（個体１１＜No.３７１＞、個体２＜No.３７２＞）に

ついては、他の土器群との文様面における共通性が薄いので、遺跡内における文様変遷は留保し、この2点の共通点と胎土面で見ていきたい。

この2点の土器は、文様面においてのデザインは異なるが、工具の種類と施文技術はほぼ同様である。

特徴的なのは半裁管工具の刺突手法で、通常の角押文、押引文の場合は、工具を器面に押し付け、工具痕を圧痕したあと、「手前に引く」身振りの連続により施文がされるのに対し、この2点は、工具を器面に押し付け、工具痕を圧痕させてから、さらに「向こう側に押す」身振りの連続で、施文を施している。

通常の「押引文」に対して、「押押文」とでも呼称できようか。

このような手法は、笹見原遺跡では他に例のないもので、この2点のみの手法である。また、個体2の上下の弧状線や斜曲線については、本資料のみの特徴的な要素である。

この2点を胎土面から見ていくと、個体1の絡条体圧痕文土器等に近い、礫を含むsf型の胎土である。器形と調整も似た様相を見せることから、絡条体圧痕文土器等と同様、駿東方面をルーツに持つ1種ではないかと思われる。

7）笹見原遺跡上層文化層の編年的位置

前項までに、笹見原遺跡上層文化層から出土した個々の土器の検討を中心にして進めてきた。以上の点をふまえた上で、笹見原遺跡上層文化層土器群の土器編年的位置について簡単に触れたい。

笹見原上層文化層から出土した土器のなかで、土器型式として古い段階に挙げられるのは、田戸上層式新段階に相当する資料である。笹見原遺跡出土資料と類似する物として、清水柳北遺跡出土資料が挙げられる。

また、新しい段階としては、清水柳Ⅱ群5類に相当する絡条体圧痕文土器が、良好な状態で出土している。破片資料としては、縄文施文の上に沈線文が施され、頸部段差をもつ古屋敷遺跡早期Ⅳ群に該当する破片が1片のみ出土しており、野島段階にかかるぐらいまで、連続的な土器群の存在が伺える。

笹見原上層文化層の初段階と終末段階の共に、近似資料が静岡県の清水柳遺跡周辺から出ているという事実は興味深く、また本遺跡内から神津島産の黒曜石が出土している点でも、駿豆地方との関連性を想起させる。

しかしながら、笹見原上層文化層で最も資料的に充実しているのは、田戸上層新段階から条痕文系初段階にかけての中間期にあたるとされる時期である。

近年、田戸上層から子母口、野島期にかけての時期に、中部高地系の土器群の拡がりが注視されつつあるが、笹見原遺跡上層文化層には、長野県北佐久郡の平石遺跡出土資料や下荒田遺跡出土資料、同県茅野市の判ノ木山西遺跡出土資料などに多くの共通性が見られる。

一方、田戸上層新段階以降の流れを汲むと思われる要素も存在し、その幾つかの要素が遺跡内において、折衷と混合を起こしている状態が、笹見原遺跡上層文化層の前半～中半期であると推測される。

後半期については、前半～中半期の延長上にある一群に、静岡県清水柳遺跡出土資料や同県上川遺跡出土資料に代表される、微隆起文や絡条体圧痕文を有する東海的要素が流入するような状況に

なり、ある程度の要素の混合を起こした段階で、遺跡は収束を迎えるといった印象を受ける。

山梨県東部地域の遺跡としては、忍野村に隣接する富士吉田市の古屋敷遺跡があり、笹見原遺跡上層文化層においても、縄文地文に縦位の連続沈線が施文され、頸部に角をもつ、古屋敷遺跡早期第Ⅳ群2類に相当する資料が検出されている。（No. 1 7 9）

また北都留郡上野原町の談合坂遺跡では、Ⅰ群D類資料の中で、頸部にあたる位置に鋸歯状沈線文が施文される資料、口縁端部に刺突列が並ぶ資料など、笹見原遺跡上層文化層土器と共通要素を持つ資料が検出されており、注目される。

このような共通要素を持つ周辺遺跡が存在する中で、興味深い点が2点ある。

一つは笹見原上層文化層において、撚糸文土器と押型文土器の存在が殆ど見られないことである。両者とも、遺物出土レベルの点で上層文化層に入る可能性を持つ資料は存在するが、その数量は小破片数片ずつと極僅かであり、沈線文土器群資料数の充実に比べ、明らかな質量の差違を見せる。

また笹見原遺跡の下層～中層文化層には、無文、撚糸文、縄文、押型文土器が多数出土していることが、資料出土レベルと8Ⅳ遺構検出面等高線により確認されているが、それらの中層文化層以下の土器群と上層文化層以上の土器群では、文様を除いた胎土状況でも大きな差違があることから、土器文化の連続性はそこで一度中断しているようである。以上の点から、笹見原上層文化層において押型文土器群が共伴する可能性は低い。

もうひとつの注目すべき点は、上層文化層土器群では貝殻復縁文が施文される資料が1点も検出されていない点である。上層文化層土器群では、田戸上層、中部高地系土器群との共通性が多く見られながら、北佐久郡新水Ｂ遺跡で見られるような貝殻復縁文資料が存在しない事実は、笹見原上層文化層古段階の時期的な位置づけを、ある程度指標づける要素となるかもしれない。

８）まとめ

以上、笹見原遺跡の上層文化層から出土した土器群について、遺跡内分布・出土層位・型式学的検討等の視点から整理をすすめた。

分布に関しては、個体別土器の分布確認によって、笹見原上層文化層では、土器の分布圏が遺跡北東部と南西部の2カ所に分かれ、土器型式、または土器の特徴によって、その分布を異にしている状況が判明した。

また、遺跡東壁に近接する、北東分布圏土器の出土層位を検討した結果、笹見原遺跡上層文化層の東側では、層位的に大きく2段階に分かれることが明らかとなった。

セクション図のない南西分布圏土器については、胎土特徴と型式学的検討によって、南西分布圏に分布する判ノ木山西式のオリジナルとコピー、またほぼ同時期と推定される北東分布圏土器とのハイブリッドの存在が浮上し、またそのハイブリッド土器の存在によって、南西分布圏土器は、北東分布圏の古い段階に相当すると推察された。

北東分布圏では、usf型胎土特徴を持ち、田戸上層系と中部高地系の文様要素を保有する土器が古い段階から新しい段階まで続き、新しい段階でsf型胎土を持つ駿東系の土器群が流入するような

様相が推定された。

全体的には、笹見原遺跡上層文化層では、広域的異分布圏の土器群同士による流入と影響関係が認められ、そしてあらたな形態に変容していく様相を表出していると推察される。

なお、本稿と3章1節土器編において明らかとなった土器の変遷を、変遷模式図として別項にて試案した。基本的には土器の出土層序が明確なものを扱い、上層文化層南西分布圏出土資料など、型式学的検討を加えたものについては、別枠で掲載することとする。

あとがき

本論の作成に際しては、三田村美彦氏から資料の実見や御助言及び文献の紹介を頂いた。原田昌幸氏からは書簡にて多くの御助言及び文献の紹介を頂いた。田中総氏からは遺物整理の初期の段階において、資料の実見や御助言を頂いている。

また、本論作成は、笹見原遺跡発掘調査団団長、田中悟道氏の御厚慮により実現した賜であった。

記して諸氏に感謝の意を表する次第である。

また本論に掲載した、分布圏別平面分布図の基礎となった個体別平面分布図と、出土資料の帰属層位確認に使用した東壁セクション図は、笹見原遺跡発掘調査団によって作成されたものであり、その各図に関しては3章1節土器編の上層文化層項に別途掲載した。

参考文献

＊論文・論文集

会田　進・中沢道彦　1997「シンポジウム開催にあたって」シンポジウム『押型文と沈線文』 長野県考古学会縄文時代（早期）部会

我孫子昭二　1982「子母口式土器の再検討」東京考古1

阿部芳郎　1990「古屋敷遺跡早期第Ⅳ群土器の型式学的検討」『古屋敷遺跡発掘調査報告書』 富士吉田市史編さん室

阿部芳郎　1997「判ノ木山西遺跡出土土器の分類と編年」シンポジウム『押型文と沈線文』 長野県考古学会縄文時代（早期）部会

井上　賢　2001「野島2式土器に関するいくつかの論点」先史考古学研究第8号　阿佐ヶ谷先史学研究会

小笠原永隆　1997「関東地方における田戸上層式・子母口式土器の様相」シンポジウム『押型文と沈線文』長野県考古学会縄文時代（早期）部会

小笠原永隆　2001「子母口式成立前後の広域編年作業に向けての問題点」先史考古学研究第8号　阿佐ヶ谷先史学研究会

小熊博史　1997「新潟県における押型文土器及び沈線文土器群の様相」シンポジウム『押型文と沈線文』長野県考古学会縄文時代（早期）部会

恩田　勇　1997「神奈川県における沈線文土器後葉期の一様相」シンポジウム『押型文と沈線文』 長野県考古学会縄文時代（早期）部会

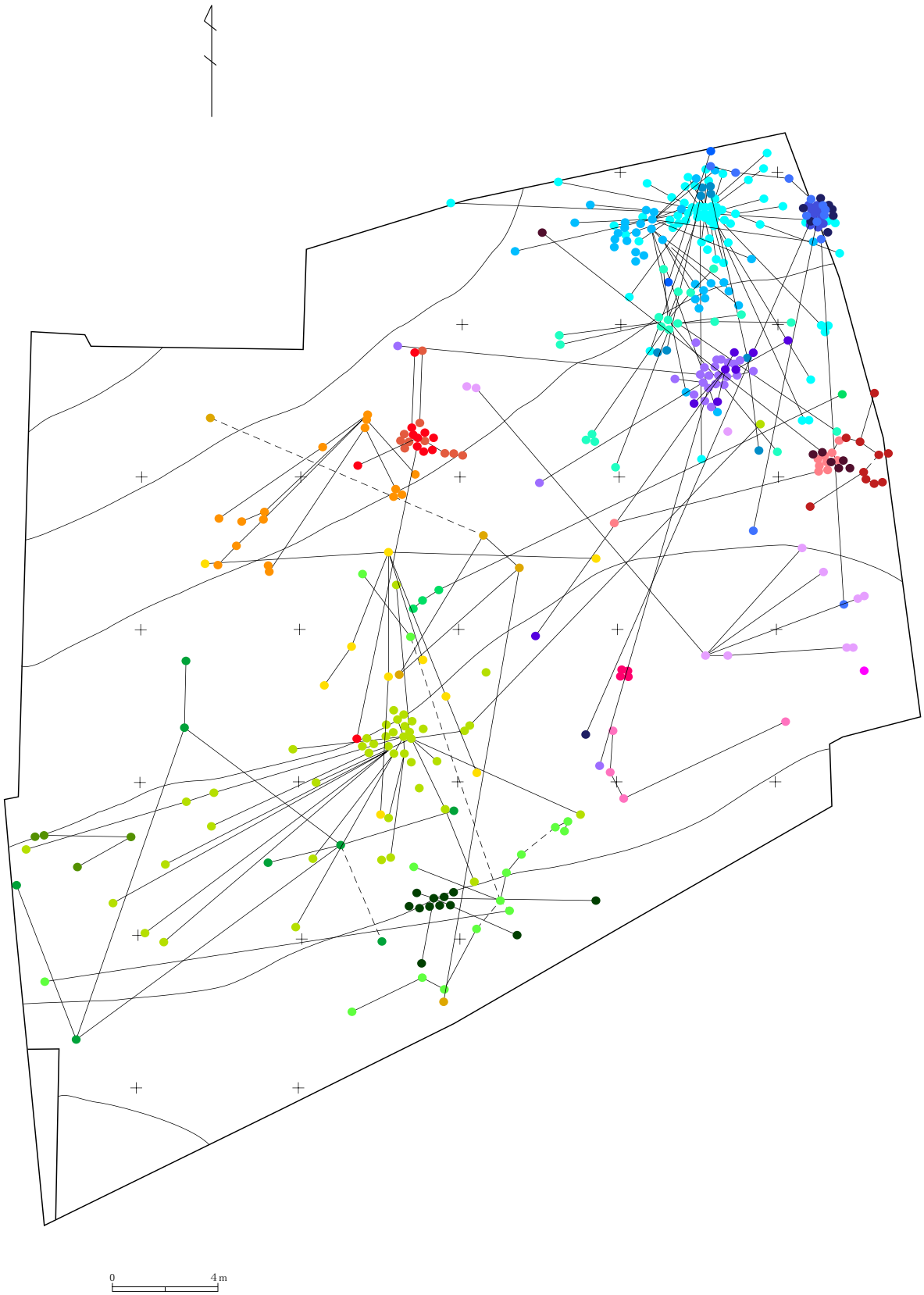
恩田　勇　2002「縄文早期沈線文土器後葉期の異相」神奈川考古第38号

金子直行　1993「子母口式新段階「木の根Ａ式」土器の再検討」埼玉県埋蔵文化財事業団研究紀要10号

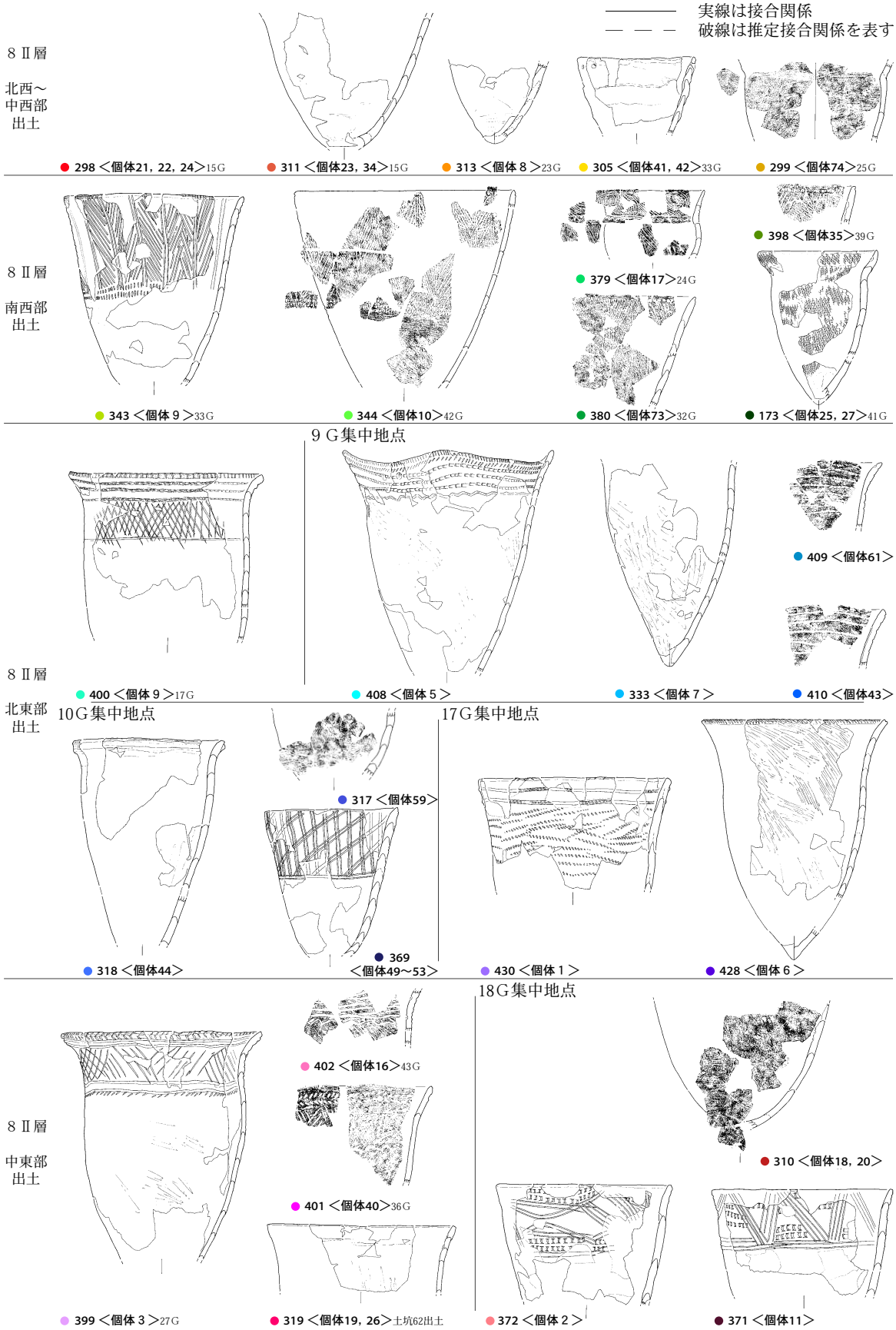
佐野　隆　1997「山梨県内における縄文早期前半の様相について」シンポジウム『押型文と沈線文』 長野県

考古学会縄文時代（早期）部会
杉原荘介・芹沢長介　１９５７「神奈川県夏島における縄文文化初頭の貝塚」明治大学文学部研究報告考古学第二冊
鈴木克彦　１９７８「子母口式土器の検討の必要性」多摩川考古１３号
瀬川裕市郎　１９８２「子母口式土器再考」沼津市歴史民俗資料館紀要６
瀬川裕市郎ほか　１９７６「清水柳遺跡の土器と石器」沼津市歴史民俗資料館紀要１
田中　総　１９９７「中部・東海地方における沈線文土器の様相」（発表要旨）シンポジウム『押型文と沈線文』長野県考古学会縄文時代（早期）部会　編
田中　総　１９９９「中部地方における縄文早期沈線文土器群の終末について」長野県考古学会誌８７・８８号
田村　隆　１９８５「タルカ作遺跡第Ⅲ郡第１類土器の諸問題」『佐倉市タルカ作遺跡』　千葉県文化財センター
原田昌幸　１９９１「撚糸文土器様式」考古学ライブラリー６１　ニューサイエンス社
福島邦夫・中沢道彦　１９９７「長野県北佐久郡望月町新水Ｂ遺跡の遺構と遺物」シンポジウム『押型文と沈線文』長野県考古学会縄文時代（早期）部会
増子章二・浜田晋介　１９９８「川崎市高津区子母口貝塚調査報告」川崎市市民ミュージアム紀要第１集
三田村美彦　１９９８「談合坂遺跡　第Ⅰ群土器について」山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第１５１集『矢坪遺跡・談合坂遺跡』
三田村美彦　２００１「山梨における早期沈線文土器群後半の様相」山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター研究紀要１７
守屋豊人「中部地方における押型文土器後半期の様相」シンポジウム『押型文と沈線文』　長野県考古学会縄文時代（早期）部会
八幡一郎　１９７２「日本中部山地に於ける縄文早期文化の研究（上）」　八幡一郎先生古稀祝賀記念会
八幡一郎　１９７８「日本中部山地に於ける縄文早期文化の研究（中）」　雄山閣
山内清男　１９２９「関東北に於ける繊維土器」史前学雑誌第１巻２号～第２巻３号
山内清男　１９４１「茅山式・子母口式」日本先史土器図譜第１２集

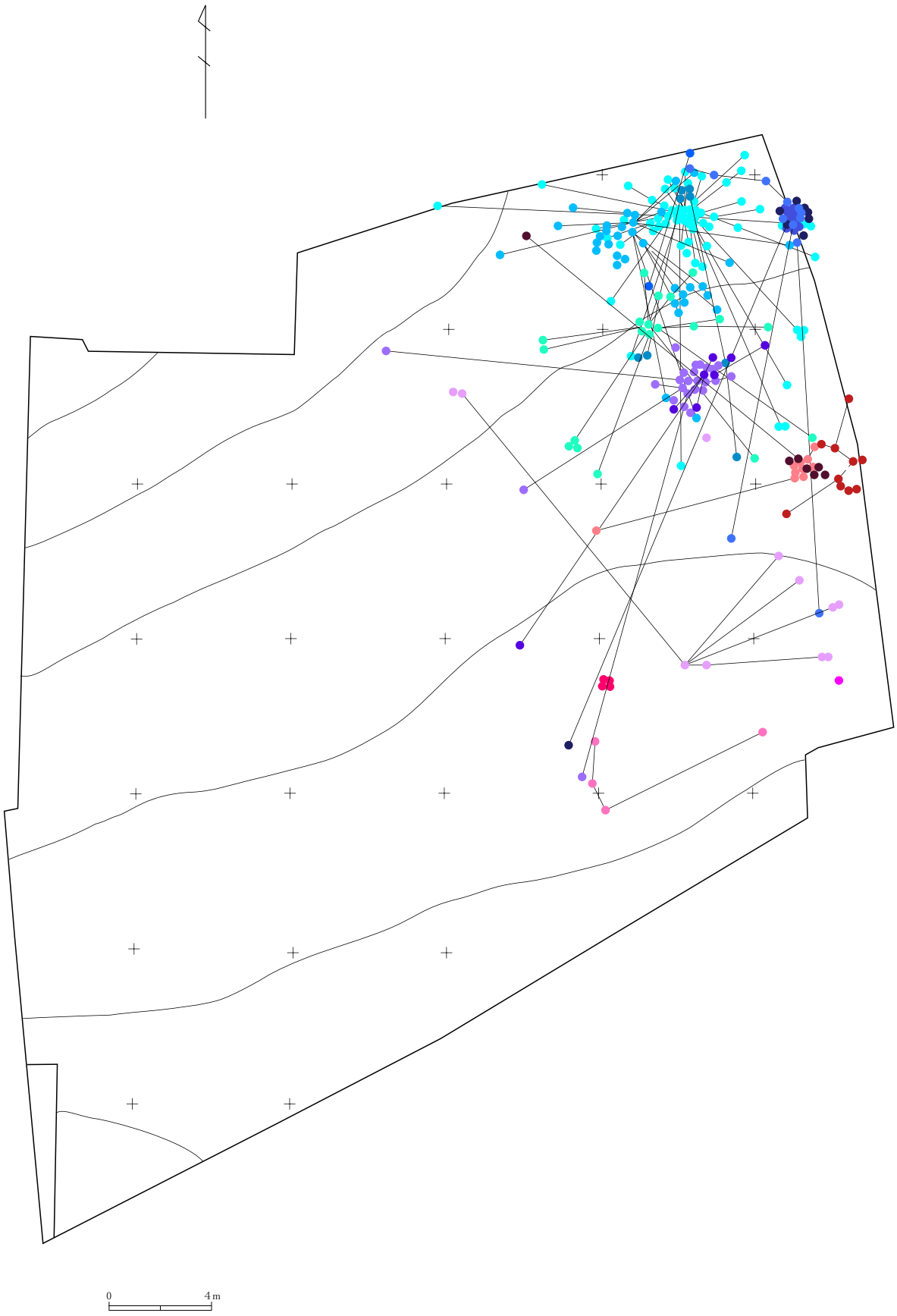
＊発掘調査報告書他
忍野村教育委員会　２００２『笹見原遺跡発掘調査概報』
信濃町教育委員会　２００１『市道遺跡発掘調査報告書』
千葉県文化財センター　１９８５『佐倉市タルカ作遺跡』
沼津市教育委員会　１９９０『清水柳北遺跡発掘調査報告書』
沼津市教育委員会　１９９２『尾上イラウネ発掘調査報告書』
富士吉田市史編さん室　１９９０『古屋敷遺跡発掘調査報告書』
望月町教育委員会　１９８９『平石遺跡』
山梨県教育委員会　１９９８『矢坪遺跡・談合坂遺跡』
四街道市・印旛郡市文化財センター　１９８６『割山遺跡』



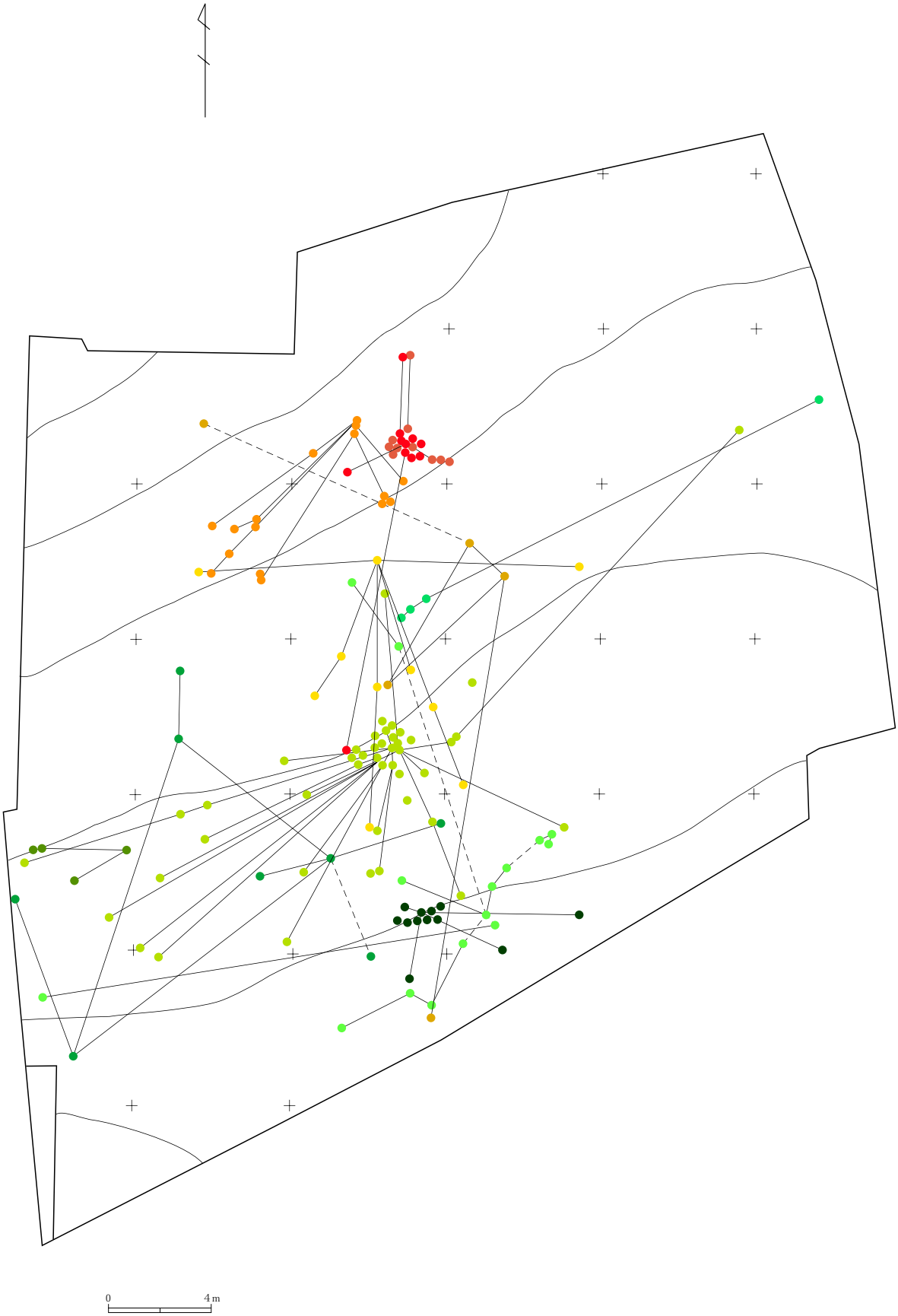
第 219 図　縄文時代早期上層文化層出土土器分布 (1/150)



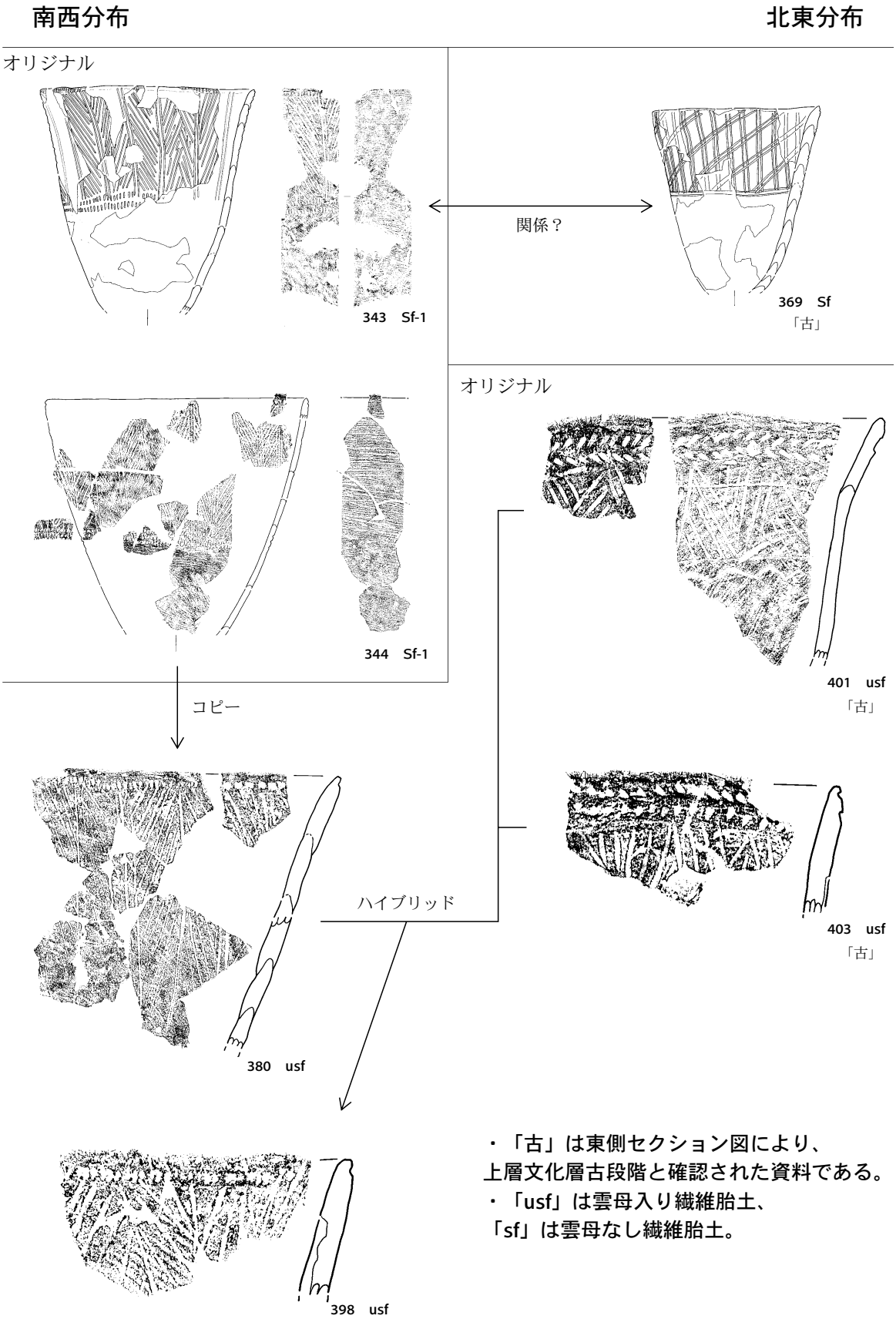
第 220 図　上層文化層出土の接合土器



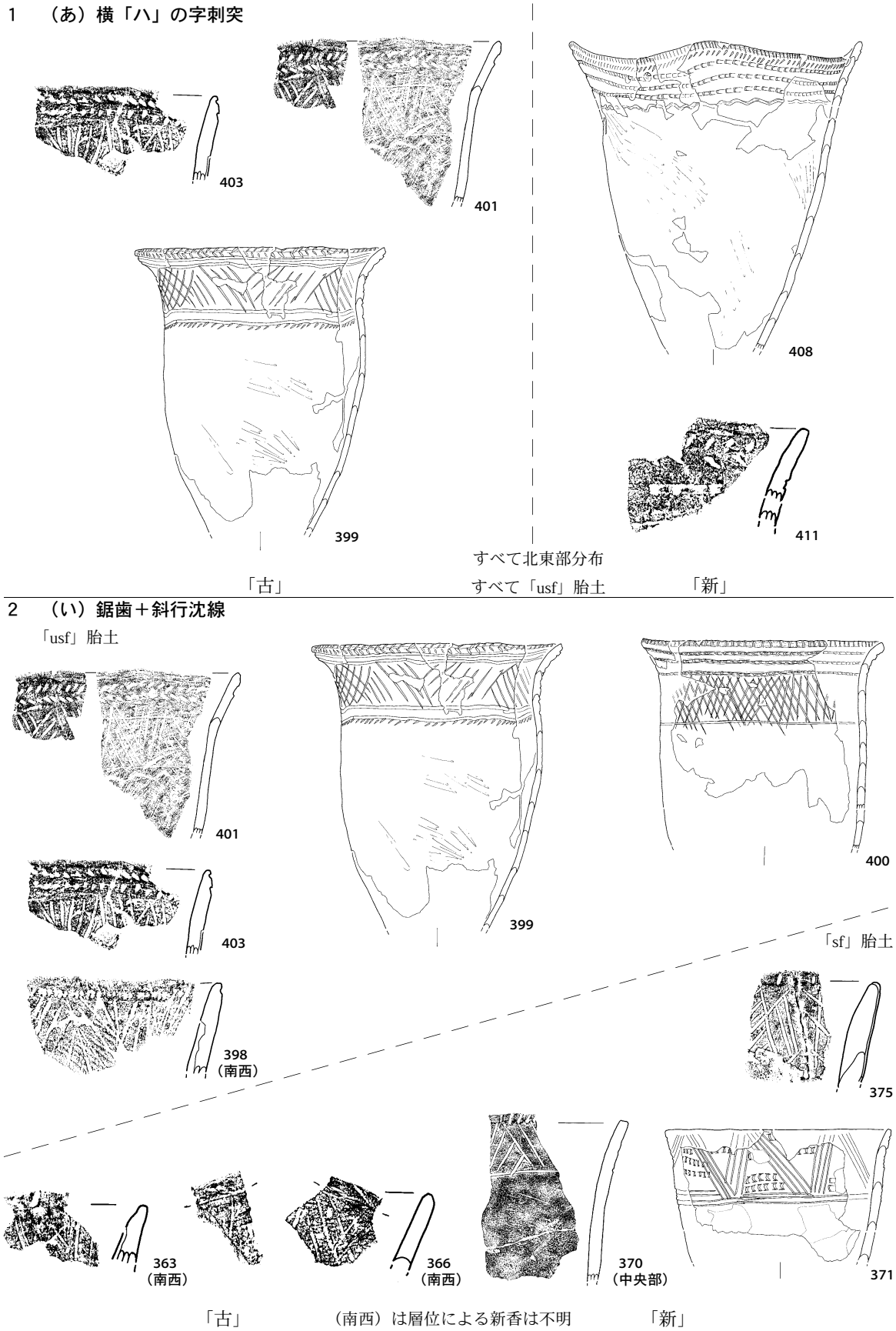
第 221 図　上層文化層北東分布圏出土土器 (1/150)



第 222 図　上層文化層南西分布圏出土土器 (1/150)

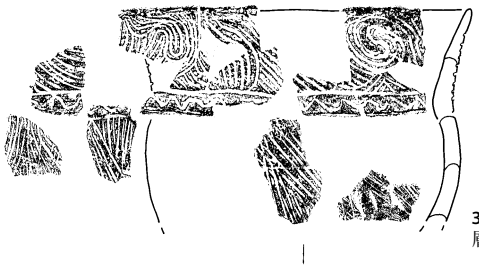


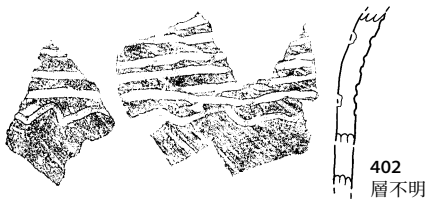
第 223 図　上層文化層「古」段階における土器文様の関係

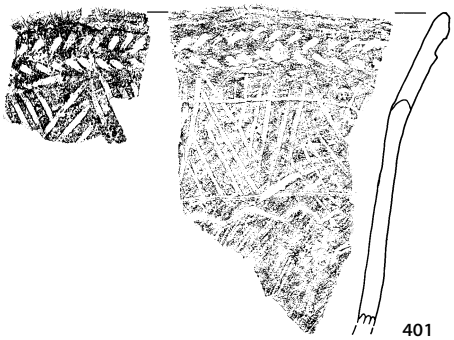


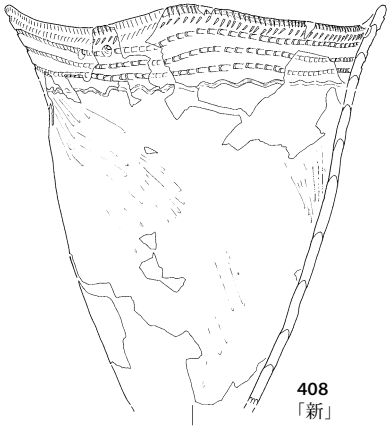
第 224 図　上層文化層出土土器文様要素と段階差の検討（1）

1　（う）頸部鋸歯（波状）文　すべて「usf」胎土

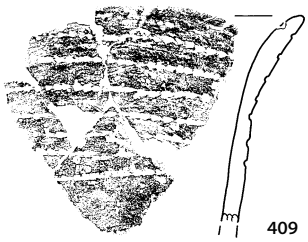


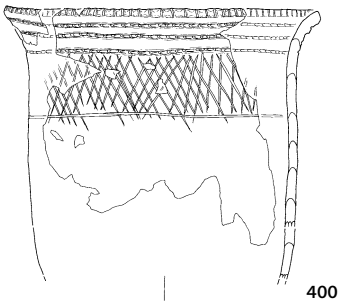


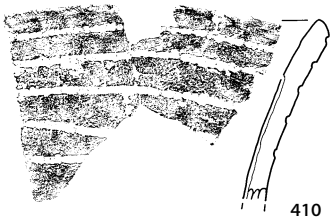


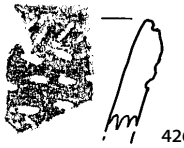


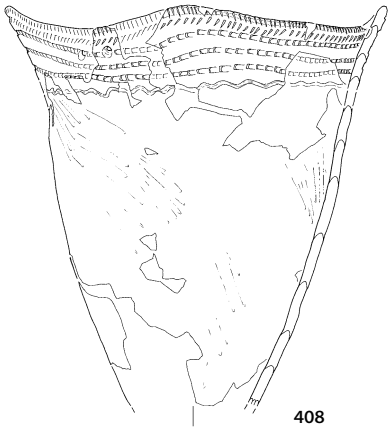
2　（え）角押文　すべて「usf」胎土











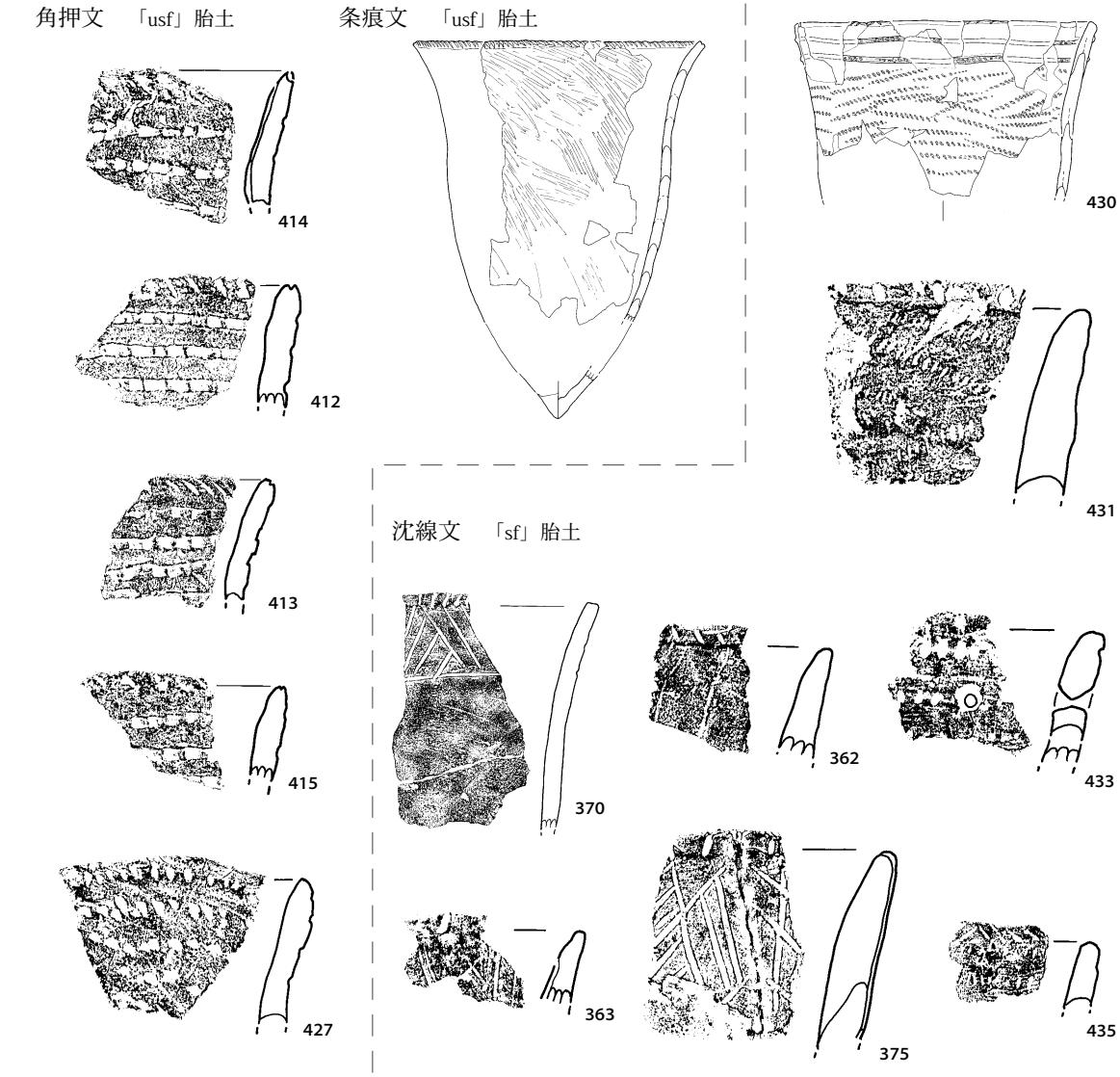
第 225 図　上層文化層出土土器文様要素と段階差の検討（２）

1　（お）口唇上刺突文

角押文　「usf」胎土

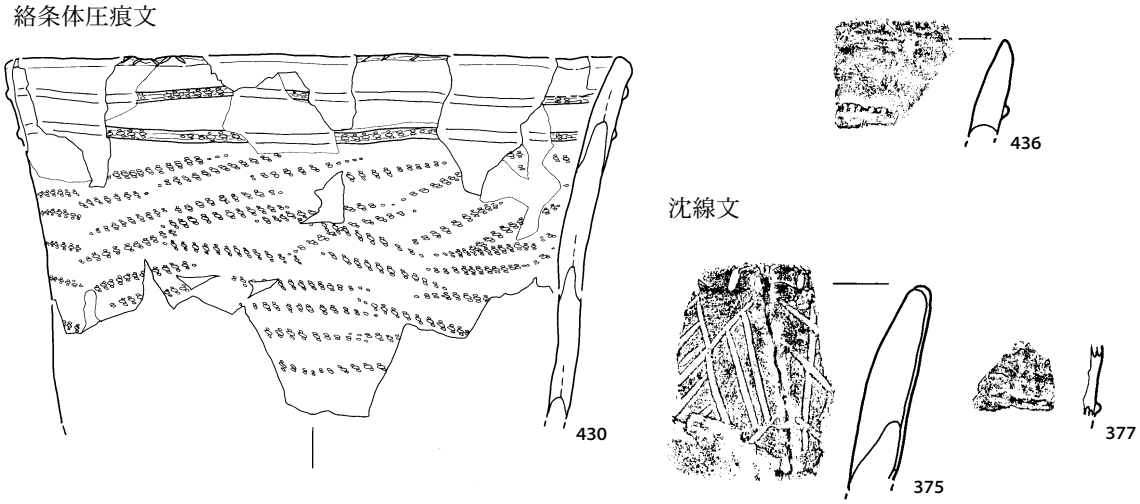
条痕文　「usf」胎土

絡条体圧痕文　「sf」胎土



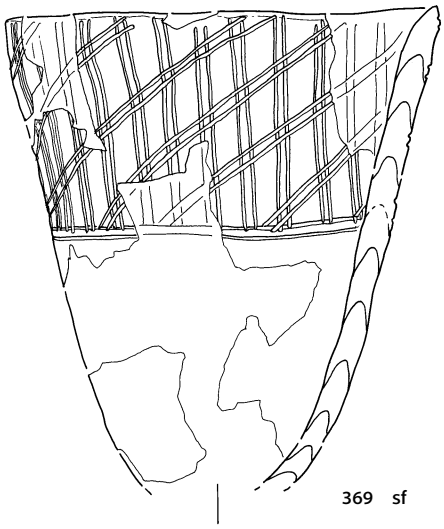
2　（か）隆線文　すべて「usf」胎土

絡条体圧痕文

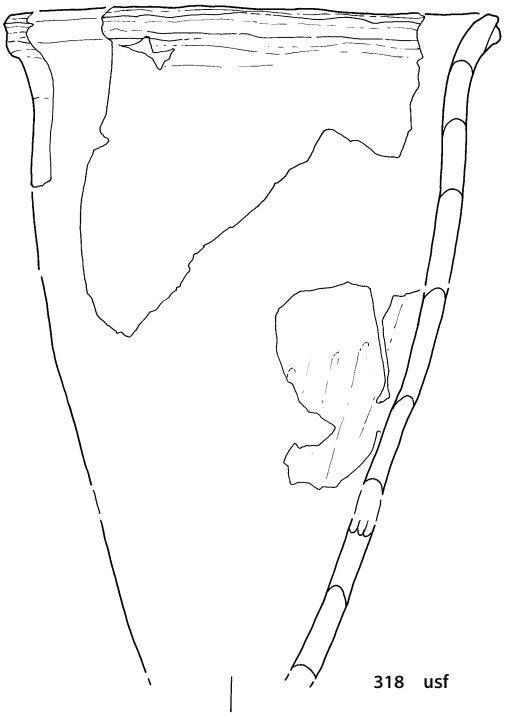


第 226 図　上層文化層出土土器文様要素と段階差の検討（3）

1　10Ｇ遺物集中地点出土土器



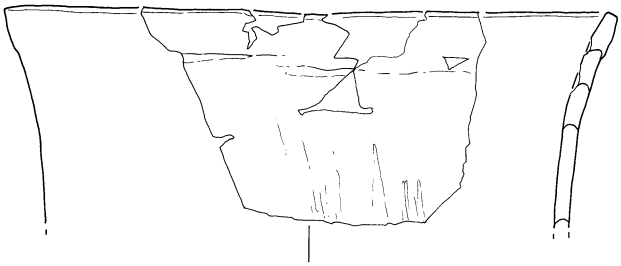
369　sf



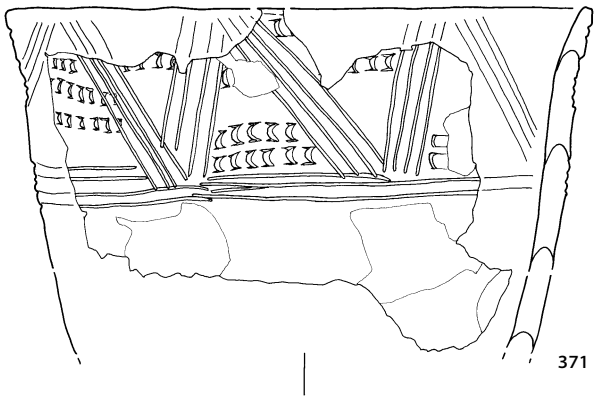
318　usf

317　sf

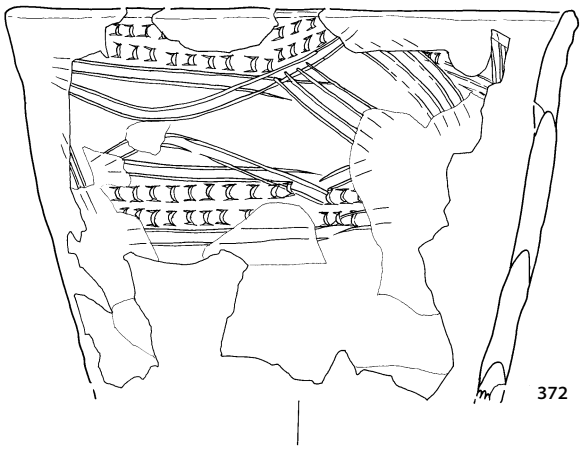
2　土坑62から出土の無文土器　「usf」胎土



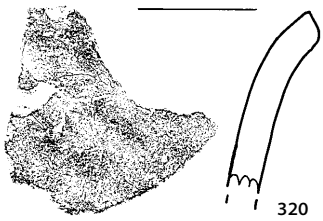
3　18Ｇ遺物集中地点出土土器　「sf」胎土



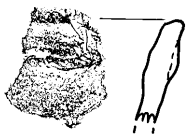
371



372

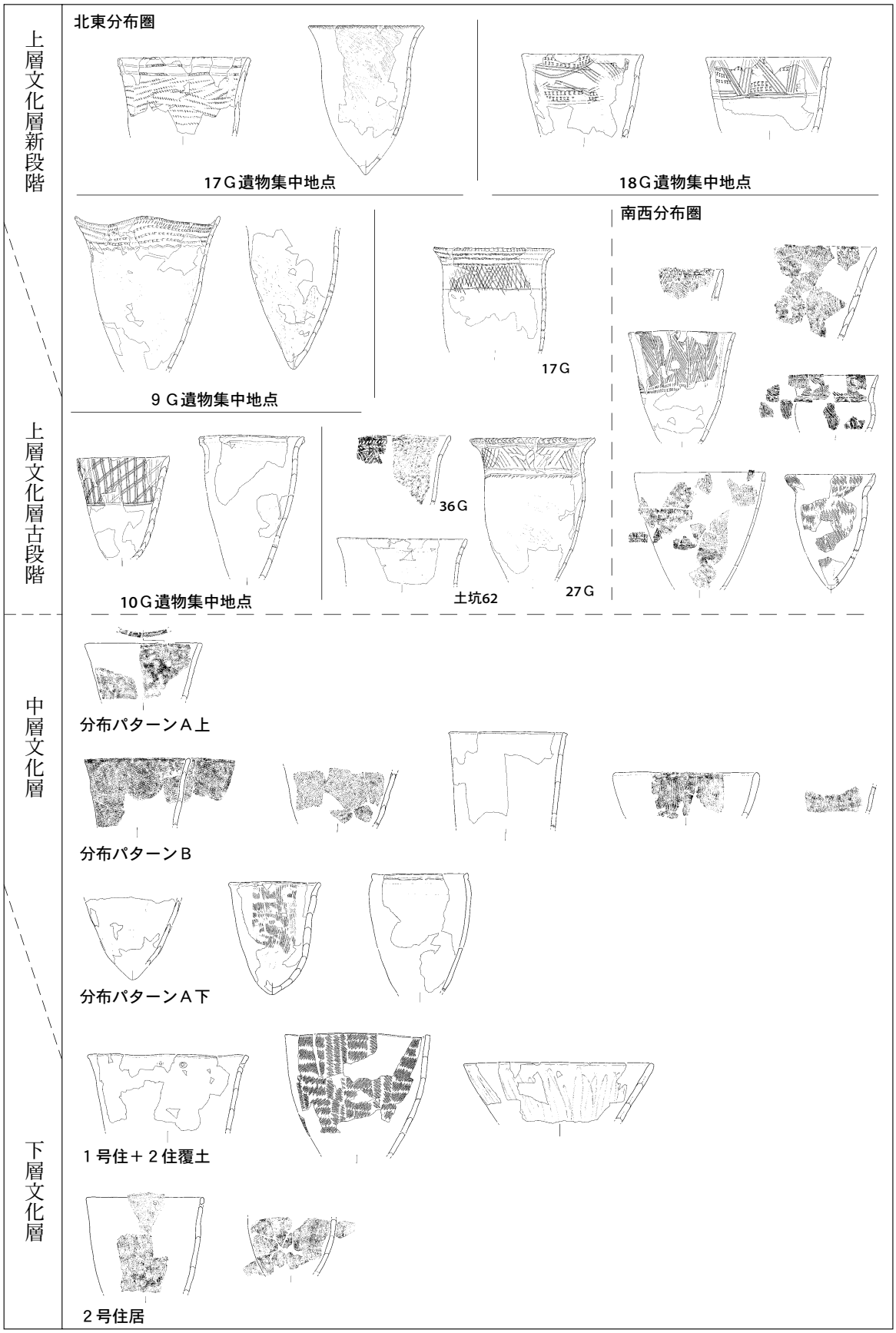


320　usf



321　usf

第 227 図　上層文化層出土土器その他



第 228 図　笹見原遺跡縄文時代早期土器変換試案

第２節　笹見原遺跡上層文化層から出土した縄文時代早期土器群について

三田村　美彦

はじめに

笹見原遺跡上層文化層からは、縄文時代早期沈線文土器群終末から条痕文土器群初頭に比定される土器群がまとまって出土している。これらの主体は中部地域を中心に分布する沈線文土器群で、その年代的序列や隣接地域との併行関係を巡っては、長野県考古学会主催のシンポジウム『押型文と沈線文』（長野県考古学会１９９７）を契機として多くの論考が提出され（守屋１９９９、田中１９９９、小笠原１９９９）、その実態が明らかになってきた。これを受けて、山梨県の様相については筆者も概観したところであるが（三田村２００１）、現状ではこれら中部地域の土器群も当該期の広域編年における位置づけがなされると同時に（阿部１９９９、小笠原２００１）、地域性豊かな当該期土器群の検討から、関東を中心として新たな型式を設定する試みもみられる（阿部１９９９、恩田２００２）。ここではそのような研究の成果を踏まえ、改めて本遺跡で出土した当該期土器群の分類を行い、その時間的位置づけを検討してみたい。

出土土器の分類と検討

上層文化層から出土した土器は、その主たる文様要素から沈線文、縄文、絡条体圧痕文、条痕文、無文などに大別できる。このうち、時期決定の指標となり上層文化層土器群の主体ともなる沈線文、絡条体圧痕文、縄文などが施された土器群を中心に分類を行う。

また、検討を行うにあたっては、他遺跡の類例との比較検討を型式学的視点から行うと同時に、遺跡での出土状況も考慮し、関東編年との併行関係について考えてみたい。併行関係にあると考えられる関東の土器型式は田戸上層式から野島式にかけてであるが、田戸上層式の新段階から子母口式にかけては、その呼称や内容が研究者間で若干異なるものの、主として城之台北貝塚第5類土器（吉田１９５５）を介在させた変遷観が大方の一致をみていることから（金子１９９３、橋本１９９４、小笠原１９９４・１９９７、阿部１９９９）、上層文化層土器群も極力それに対応するよう努めていきたい。なお、本稿では対応する関東編年の基軸として、沈線文土器群終末から条痕文土器群初頭の土器群を射程とした、小笠原編年（小笠原２００１）を用いることにする。小笠原編年は、田戸上層式の後半を（新）（新々）の2段階に細分し、子母口式、野島式と変遷する。

第１類土器（第２２９図１）

本類は頸部が屈曲する器形となり、外反する口縁部には集合沈線による入組文が描かれた文様帯を持つ。文様帯下端は、併行沈線間に施文された鋸歯文で区画され、胴部は集合沈線が斜行する。このような器形や文様構成は、文様表出の技法は異なるものの、田戸上層式（新）段階と類似し、直接対比することが可能な資料となろう。また、沼津市清水柳北遺跡例（関野１９９０第２３３図１）も、口縁部の文様帯区画やモチーフの表出に押引沈線を用いる点が異なるものの、器形や入組文のモチーフなど文様構成が類似し、ほぼ同時期の所産と考えられるものである。

第２類土器（第２２９図2～4）

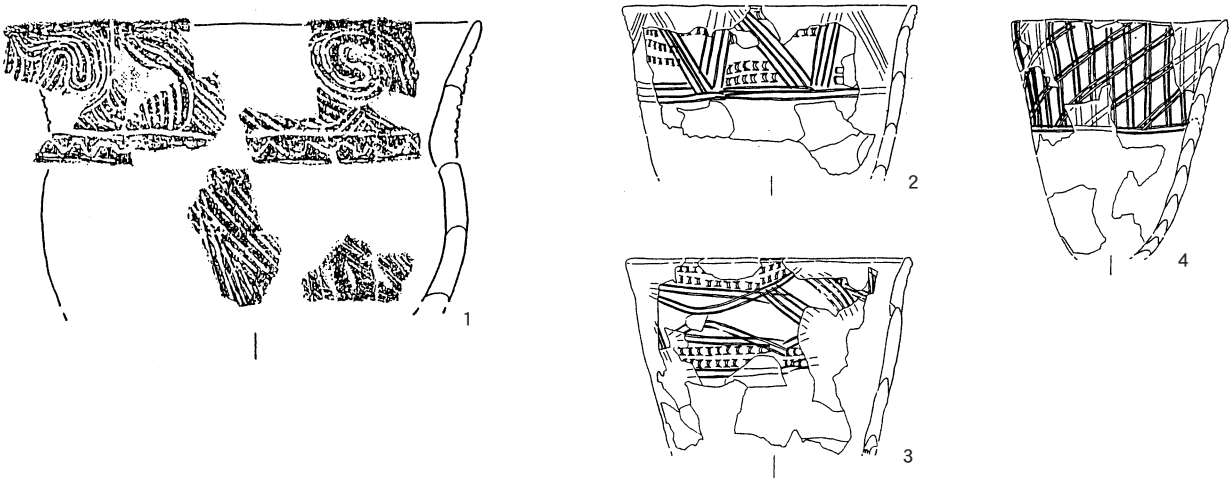
本類は口縁部に半截竹管状工具による併行沈線で文様を描くもので、文様帯の下端を同様の施文具による併行沈線で区画し、以下無文となる文様構成となる。このうち、2と3は主たるモチーフは異なるものの、同一施文具による併行沈線と刺突文で文様を表出し、器形、胎土、色調、成形が酷似している点や、１８グリッドを中心として両者が近接して出土している点から、ほぼ同時期のものと考えられ同種とした（ａ種）。2は大柄な鋸歯文を施文し、その上下端に同一施文具による刺突文が数段に渡って施文される。3は弧線と入組文のようなモチーフが描かれ、2同様に文様帯の上下端に刺突文が2段に渡って施文される。

両者とも類例が少なく判断に苦しむが、2の大柄な鋸歯文と文様帯の下端を区画する併行沈線は、施文具が貝殻腹縁文となる山梨県大椚Ⅱ遺跡例（宮沢１９９８第２３３図7）や同県穴沢遺跡例（小西１９９２第２３３図2～6）と類似し、施文具の置換関係が考えられる。3の弧線文が向かい合うようなモチーフは、長野県新水Ｂ遺跡例（中沢ほか１９９７第２３３図8）に類するものが認められると同時に、器面右側の入組文が崩れたようなモチーフは、第1類土器同様田戸上層式（新）段階との関係を想起させるものである。文様構成やモチーフの類似した大椚Ⅱ、穴沢、新水Ｂの各遺跡例がいずれも田戸上層式（新）段階とほぼ併行関係にある中部地域の土器群であることを考慮すると（三田村２００１）、第2類ａ種も当該期の範疇で捉えられる可能性がある。ただ、文様帯の上下に認められる数段の刺突文など、今後さらに検討を加える必要のある土器である。

4は2、3と比べ幅広な文様帯を持ち、竹管状工具による併行沈線だけで文様を表出する。文様は垂下する沈線と斜行する沈線が交差するように施文され、格子目状となる（ｂ種）。

直線的に外反する器形に、格子目状のモチーフが描かれる幅広な文様帯を持つ構成から、長野県判ノ木山西遺跡（小林１９８１）類似例との関連が注目されるが、現状では中部地域の沈線文土器群終末～条痕文土器群初頭という大枠の範疇で捉えておきたい。

ともあれ、第2類土器はその文様や文様構成から、中部地域土器群の系統で理解すべき土器であるが、現状では類例が少なくその時間的位置づけを含め、今後とも追求すべき課題が多く残されている。



第229図　上層文化層出土土器　第１・２類土器 (拓影図 1/3，実測図 1/8)

第３類土器（第２３０図）

本類は、個体によって文様要素の組合せが多種に渡るが、口縁部に矢羽状の沈線や刺突、連続押引文、沈線、鋸歯状沈線などが横位施文（多くは多段の施文となる）されるものを一括した。3～6は区画内に沈線で大柄な鋸歯文が、2、7は格子目文が施文される。1は区画内の鋸歯文が一部交差して格子目状となっている。8は口縁上端から1段の矢羽状沈線、3段の連続連続押引文、1段の鋸歯状沈線が巡る。9～１３、１７、１８は口唇部から口縁上端にかけて矢羽状沈線や斜位の刻文を施し、以下連続押引文が多段に施文される。１９～２２はその口縁上端を欠損した破片であろう。１４～１６は連続押引文を横位多段に施文するだけのもの。２３、２５も口縁上端は不明だが、沈線を横位多段に施文している。また、3、6、8、２４、２５のように、文様帯の下端に鋸歯状沈線が巡るものもがみられる。

上記したように、様々な描線が口縁部を横走するのが本類の特徴であるが、鋸歯状沈線は下端を巡るものに限られる（3、6、8、２４、２５）。これは第1類土器（第２２９図1）と同様、文様帯下端を鋸歯状沈線で区画する田戸上層式と対比することができ、注目される。1～3、8などから、本類は口縁部に文様施文域が集約し、1～7のように横位区画内に格子目文や大柄な鋸歯文が施文され、胴部以下は無文となる文様構成が主となることを考慮すると、田戸上層式でも（新）～（新々）段階と対比が可能と思われる。なお、格子目文や大柄な鋸歯文は、当該期併行の中部地域沈線文土器群にもみられ、田戸上層式の系譜だけでは理解できない。1、3、4、8、9など、口縁上端に施文される矢羽状沈線や連続押引文は、長野県平石遺跡（福島ほか１９８９第２３３図9～１２）と、1、2、8～２３、２５などにみられる連続押引文や、沈線が横位多段に施文される文様構成は、施文具や施文手法の差異はあるものの、長野県下荒田遺跡（中沢ほか１９９５第２３３図１３、１４)、栃木県出流原小学校遺跡（矢島１９８４第２３３図１６～１９)、子母口式（金子１９９２第２３４図1～5）など、中部、関東の土器群さらには、南東北の常世1式との関連も考慮すべきもので、そのような観点からすると、本類は8に代表されるように折衷的な土器が多いといえよう。領塚正浩氏は横位多段の系譜を北海道西南部の中野Ａ式に求め、その文様構成が東北から中部、関東まで南下するとし、南東北の常世1式、関東の子母口式などの成立に関わることを指摘し（領塚１９９７a,b)、注目される。下荒田遺跡例や出流原小学校遺跡例は、研究者によって田戸上層式新段階から子母口式の範疇で対比され、その位置づけに差異があるが（中沢１９９５、阿部１９９９、金子２０００、小笠原２００１)、本遺跡第3類土器も含め、領塚氏が指摘した広域にわたる横位多段構成土器群の動態や、変容過程を考慮して評価される土器群といえよう。

筆者は山梨の当該期の様相を概観し、田戸上層式（新）段階併行と考えられる、貝殻腹縁文を用いて大柄な鋸歯文を描く大椚Ⅱ、穴沢遺跡例に後続する土器群として、第3類土器と類似する諏訪前遺跡例（第２３３図１５、長沢１９９８）を挙げ、田戸上層式終末から子母口式併行の範疇で捉えた（三田村２００１)。口縁部の横位多段の刺突列が、上記したように下荒田遺跡例、出流原小学校遺跡例、常世1式、子母口式などにみられる横位多段の文様構成と関連すると考えられると同時に、文様表出に貝殻腹縁文を用いない点が、先行すると考えられる大椚Ⅱ、穴沢遺跡例より新しい要素であるこ

とがその理由となる。第3類土器も横位多段の文様構成がみられるとともに、沈線で描かれた大柄な鋸歯文がみられることから、大椚Ⅱ、穴沢遺跡例からの連続性が認められ、格子目文も含めそのモチーフは、本類に後続すると考えられる判ノ木山西遺跡（小林１９８１）類似例に継承されていくものと考えられる。また、前述したように鋸歯状沈線が下端を巡るものが認められることを考慮すると、第3類土器はその一部が田戸上層式(新)段階に併行する可能性を有すが、概ね田戸上層式(新々)段階に併行するものとして、第1類や第2類ａ種に後続する土器群と捉えておきたい。

第４類土器（第２３１図）

本類は長野県判ノ木山西遺跡の類似例を一括した。1～4は口縁部に沈線で綾杉状のモチーフを描くもので、口縁上端に1段の刺突文が巡る。1、2は文様帯の下端にも同様の刺突文が2、3段に渡って巡り文様帯の下端を区画する。5～9も1段の刺突文が口縁部上端を巡る破片だが、モチーフは判然としない。１０～１４は文様帯下端部分の破片で、いずれも刺突文が巡り文様帯を区画している。破片なので正確な段数は不明だが、1段（１０）、2段（１１、１３、１４）、3段（１２）となり、文様構成のわかる1、2も含めると、文様帯下端の区画には数段に渡って刺突文を巡らすものが多い傾向が認められる。１５～１８は縦位沈線、縦位蛇行沈線などが施文されたものだが、胴部破片のため、文様帯の上下区画の状況は不明。

本類の分類基準となった判ノ木山西遺跡では、本遺跡でみられる綾杉状、縦位沈線、縦位蛇行沈線のほか、鋸歯状、格子目状のモチーフを描くものがみられ（第２３４図6～１０）、第3類土器との連続性が注目される。山梨でも筆者の検討以降（三田村２００１）、明野村大日川原遺跡（高田２００１）、境川村西原遺跡（野崎２００２）などで類例が増加しており、本類が主体となって存在する時期があることが明確になってきた。関東編年との対比では、城之台貝塚段階から子母口式に併行するとする阿部芳郎氏（阿部１９９７、１９９９）と子母口式に併行する小笠原永隆氏（小笠原１９９９、２００１）のほか、金子直行氏が子母口式から木ノ根Ａ段階への併行関係を想定している（金子２０００）。筆者も判ノ木山西遺跡類似例と子母口式土器について、上野原町談合坂遺跡出土例を通じて比較検討を行い、その併行関係の可能性を指摘しているところである（三田村１９９８）。ただ、本遺跡で出土した、幅広の文様帯に綾杉状のモチーフを施す文様構成は（第２３１図1～4）、第3類土器からの連続性が判然としない。隣接地域に目を転じると、口唇部に絡条体圧痕文が施文され、口縁部には縦位区画をもち、鋸歯状のモチーフを沈線と刺突文で表出する出流原小学校遺跡例（第２３３図２０、２２、２３）が類似し、その関連性が注目される。ただ、その時期に関しては阿部氏が城之台貝塚段階に（阿部１９９９）、金子、小笠原の両氏が子母口式に対応するとして（金子１９９４、小笠原２００１）、見解の相違がある。出流原小学校遺跡例は、第3類土器でも横位多段の文様構成からその関連が指摘され、絡条体圧痕文が施文され、縦位、横位の文様構成のもつものとして看過できない。北関東という立地から南東北、関東、中部地域など広域な当該期土器群の動態を把握する上で鍵となる資料となり、資料増加を待ち、今後とも検討すべきものである。

遺跡での出土状況も、判ノ木山西遺跡類似例が帰属する時期の指標を与えてくれるデータが揃ってきている。東京都引谷ヶ谷戸遺跡（黒尾ほか１９９８）では、子母口式と格子目文を施す判ノ木山

第 230 図　上層文化層出土土器　第 3 類土器 (拓影図 1/3，実測図 1/8)

西遺跡類似例が分布を同じくして出土し、第3類土器と類似する矢羽状沈線と連続押引文を口縁部に施文する土器とは分布を異にしていることから、子母口式と判ノ木山西遺跡類似例が共伴する可能性を指摘すると同時に、第3類土器類似例とは伴わないと指摘している。本遺跡でも第3類土器と綾杉状のモチーフを施文する判ノ木山西遺跡類似例を主とする本類は、その主たる分布域が異なることから（第２３５図）、時間差を想起させ、中部地域系沈線文土器群の出土状況は引谷ヶ谷戸遺跡と同様の傾向が看取される。また、神奈川県久保ノ坂（No.４）遺跡では田戸上層式、子母口式、野島式にかけての資料とともに、本類（第２３１図1）と類似する綾杉状のモチーフを施文した、判ノ木山西遺跡類似例が出土している。判ノ木山西遺跡類似例は、その分布域を田戸上層式、子母口式と同じくし、野島式とは大きく異なることから、野島式との関連性は極めて低いとして、その帰属時期を田戸上層終末から子母口式の範疇で捉えている（恩田１９９８）。このような各遺跡での出土状況と、第3類土器が田戸上層式（新々）段階と関連することを考慮すると、本類は概ね子母口式に併行する中部地域の土器群として捉えられよう。

第５類土器（第２３２図1～7）

本類は列点状の絡条体圧痕文が横、斜位に施文されたものを一括した。1は口縁部に絡条体圧痕文を施した細隆線が2条巡り、以下絡条体圧痕文が斜、横位に施文される。2も口縁部に絡条体圧痕文を施した細隆線が巡る。3～7は口縁上端から絡条体圧痕文が施されるもの。このうち、1、3～6には口唇部に刻文が施され、6は絡条体による刻文の可能性が指摘されている。

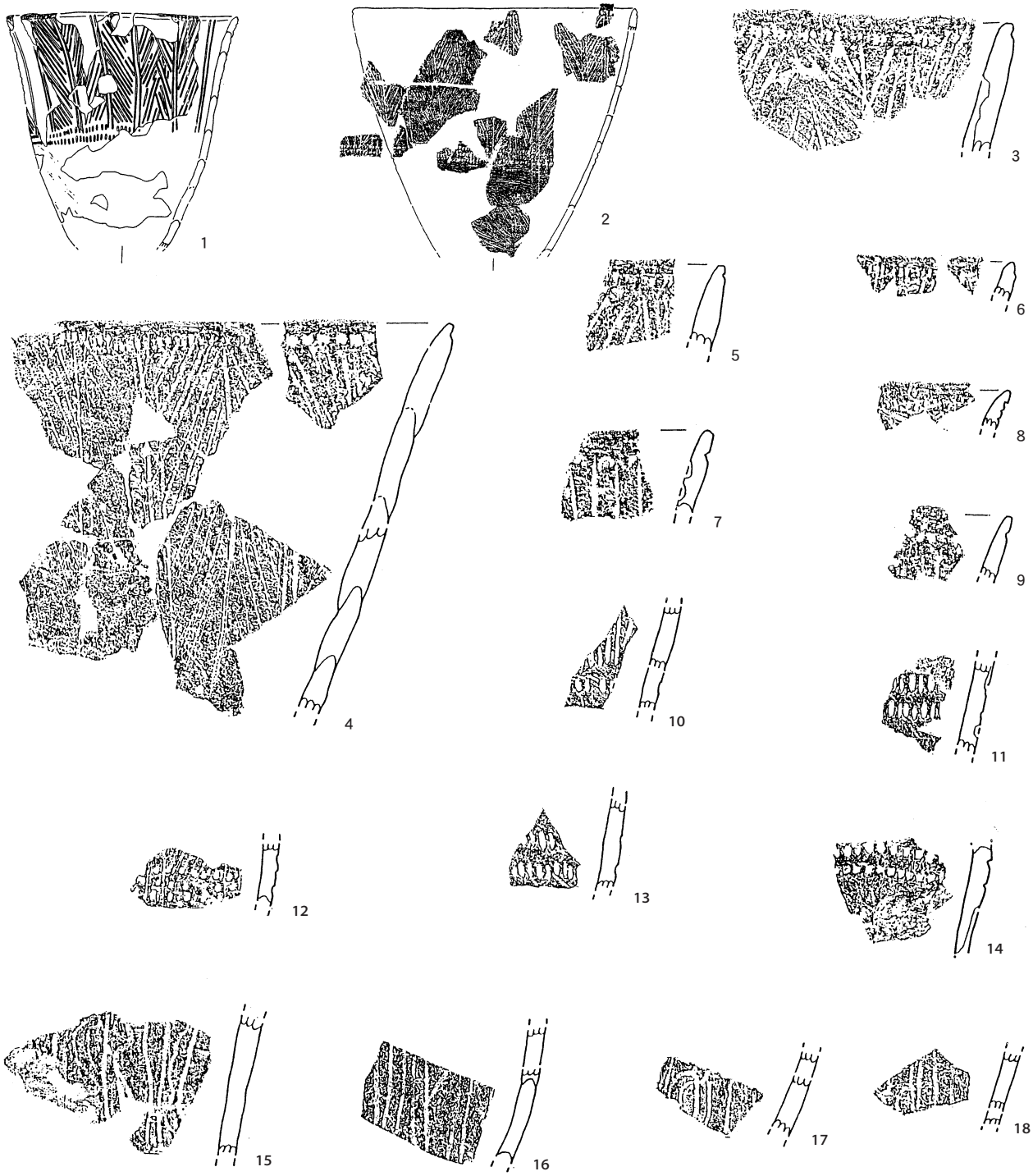
列点状の絡条体圧痕文は、山内清男氏が『日本先史土器図譜』子母口式に1例掲載しており（山内１９４１）、すでに山内氏が本類を子母口式と併行する土器群と考えていた可能性がある。その後、静岡県清水柳遺跡でまとまって出土し、瀬川裕市朗氏は清水柳Ｅ類とし、野島式に併行する土器群とした（瀬川１９７６）。これに対し、安孫子昭二氏は子母口式を巡る瀬川氏との論争の過程で、清水柳遺跡例を再検討し、清水柳Ｅ式を設定し子母口式に対比させた（安孫子１８８２）。近年では阿部氏が野島式に盛行するとし（阿部１９９０）、金子氏も木の根Ａ段階に大半が位置づけられるとする（金子２０００）。領塚、関野、小笠原の各氏は子母口式との関連を指摘する（領塚１９９７b、関野１９８８、小笠原２００１）。筆者も山梨県談合坂遺跡出土例の検討から、本類は子母口式期から認められるとしたが（三田村２００１）、1、2にみられる細隆線のように絡条体圧痕文以外の要素が口縁部にみられ、加飾的となるものはより新しい時期に併行するものと思われる。本遺跡では後述する第6、7類土器など、野島式やそれに併行する土器群が出土していることから、本類も当該期に対比されるものが含まれるものと思われる。神奈川県臼久保遺跡では、遺構や包含層から野島式古段階の土器群とともに列点状絡条体圧痕文を施した土器が多数出土しており、調査を担当した松田光太郎氏は、これらを野島式の古段階に位置づけている（松田１９９９）。このようなことを考慮すると本類は、子母口式～野島式古段階併行の範疇で捉えておきたい。

第６類土器（第２３２図8～１１）

本類は野島式に比定されるものを一括した。8は口唇部に刻文が施される。口縁部には細沈線で下端を区画した幅狭な文様帯を持つ。文様帯内には異方向に斜行する細沈線が施文され、恐らく鋸

歯状のモチーフとなるものであろう。9も細沈線で文様を表出する。１０は口縁上端から細隆線が垂下し、細沈線で文様を描もの。9、１０ともに、細沈線で描かれるモチーフは梯子状となろう。１１も細隆線と細沈線が施文されるがモチーフは不明。

類似例は後述する山梨県古屋敷遺跡（阿部１９９０）や静岡県清水柳遺跡などでみられるが、山梨県における野島式の資料は未だ充実したものではなく、その様相は判然としない。ただ、細沈線で



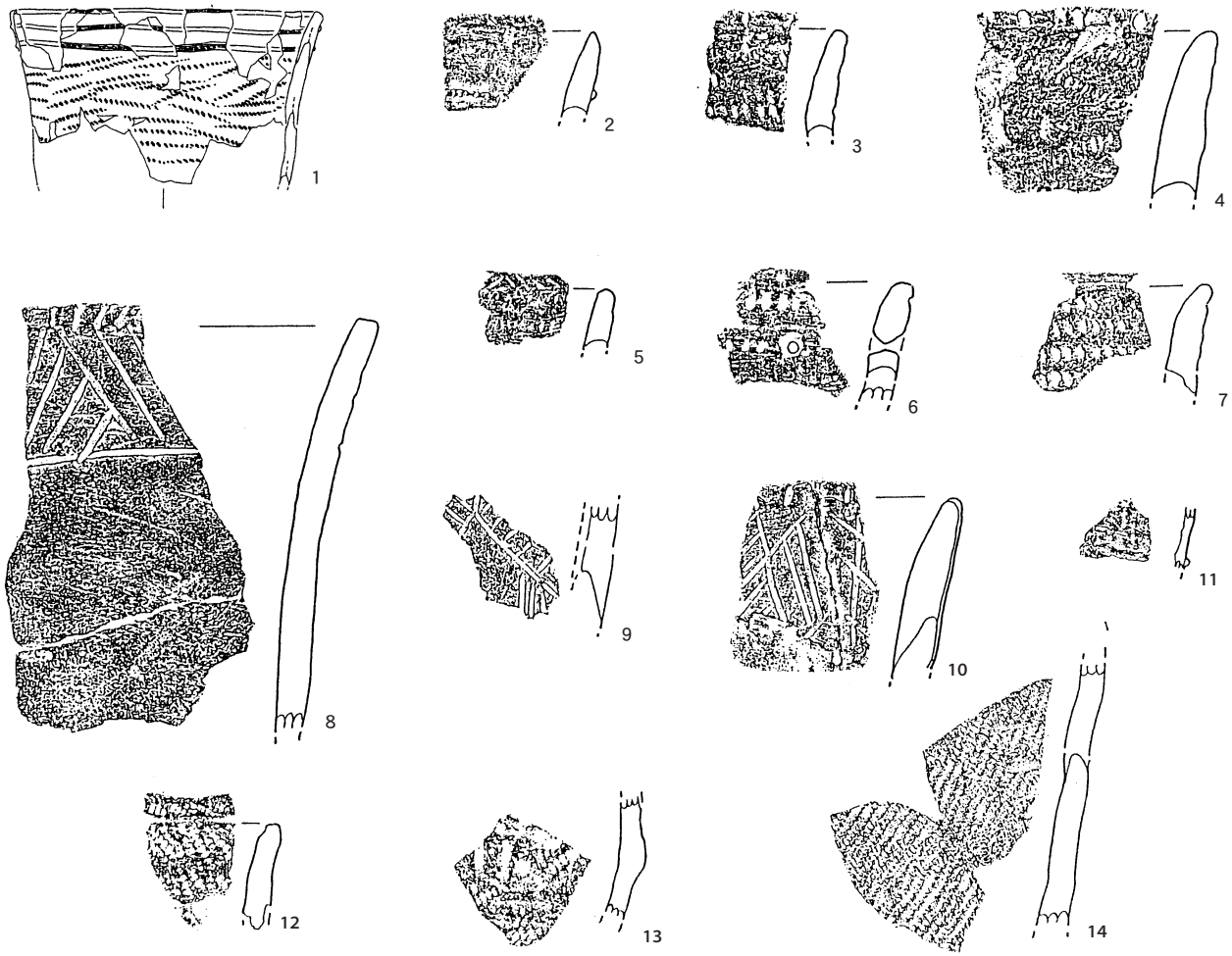
第 231 図　上層文化層出土土器　第 4 類土器 (拓影図 1/3，実測図 1/8)

描かれた鋸歯状や梯子状のモチーフの間に空白部がみられ、沈線による充填施文がみられないことを考慮すると、野島式でも古段階に比定されるものであろう。

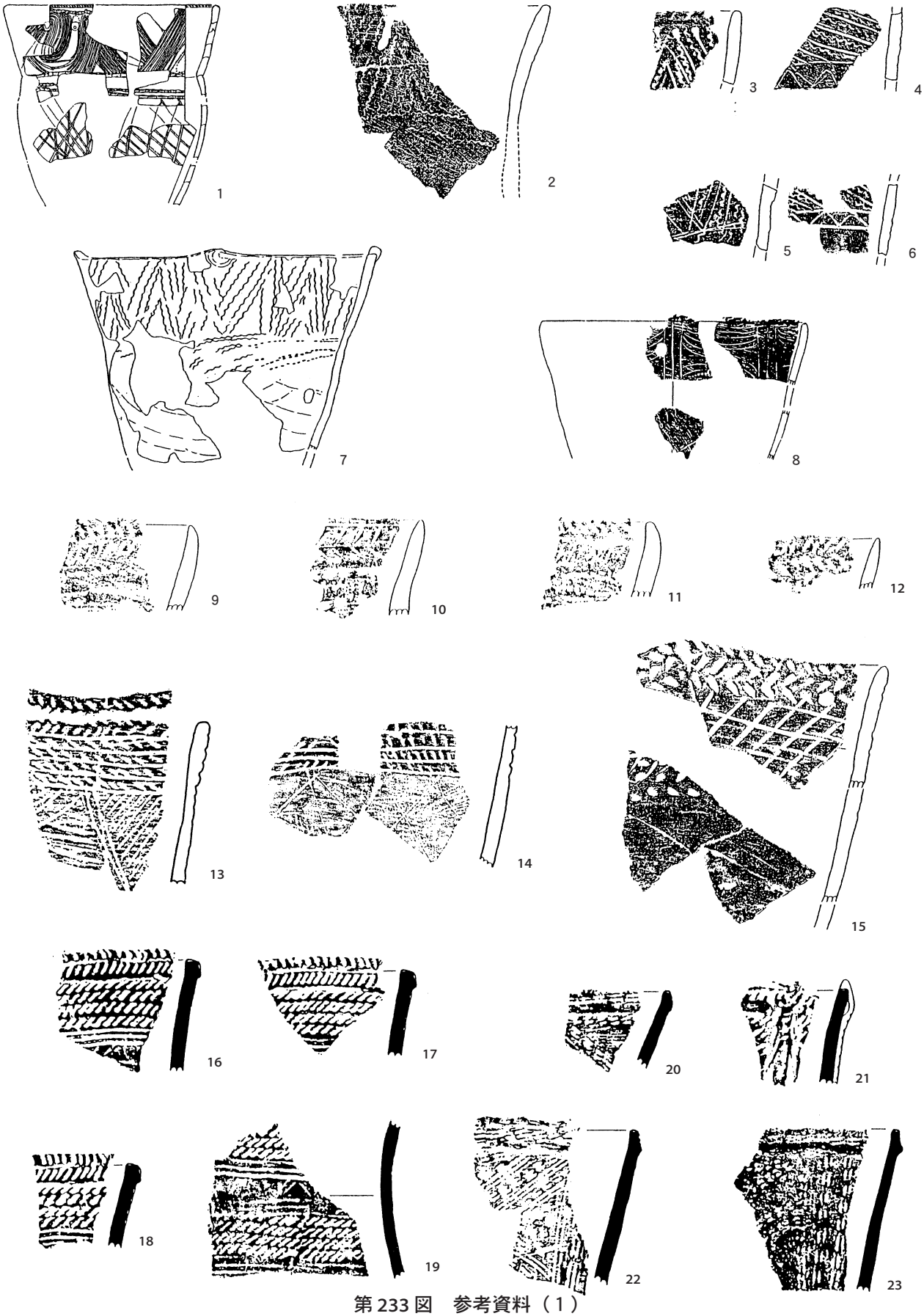
第7類土器（第２３２図１２～１４）

縄文を施した土器のうち、胎土に金色雲母が特徴的に含まれ、繊維状物質が混入されるもので、山梨県古屋敷遺跡で出土した、古屋敷第Ⅳ群１、２類に類似するものを一括した。１２は口唇部にも縄文が施文されるもの。１３は段帯部の破片で、縄文の他に沈線が縦位に施文される。１４は縄文が施文される胴部破片である。

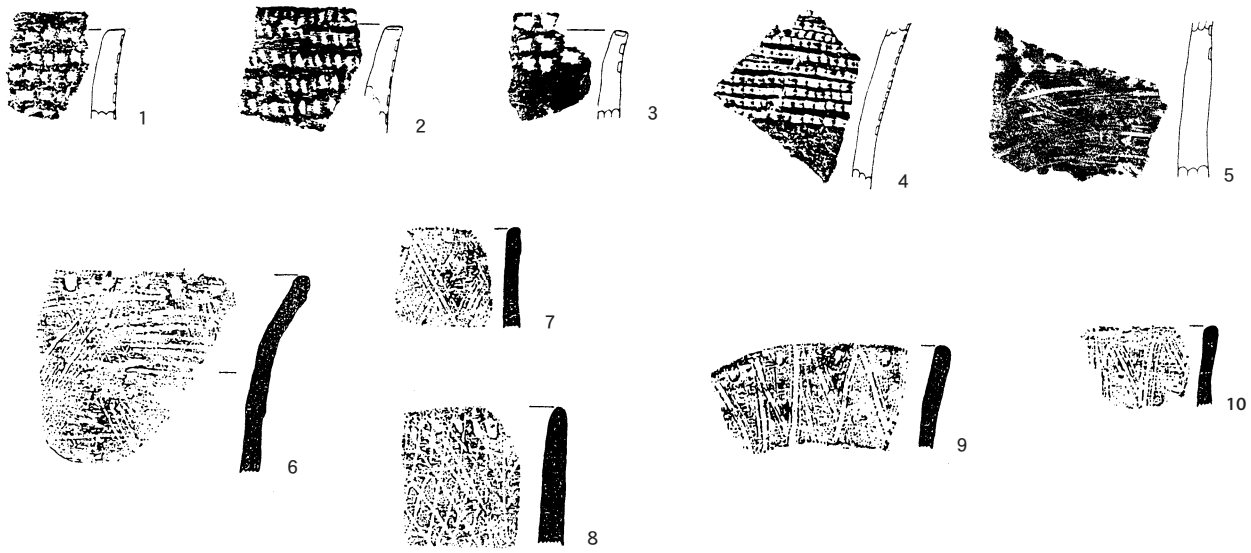
古屋敷第Ⅳ群１、２類は、古屋敷遺跡での層位的な出土状況と型式学的検討から、阿部氏によって野島式に併行する土器群として評価されている（阿部１９９０）。近年山梨では、西原遺跡など甲府盆地でも類例がみられ、その分布域が広がっている。前述した神奈川県久保ノ坂（No. 4）遺跡や同県臼久保遺跡では野島式の古段階に比定される土器群との併行関係が指摘されており（恩田１９９８、松田１９９９）、本類と第６類は系統の異なるほぼ同時期の土器群として位置づけられよう。



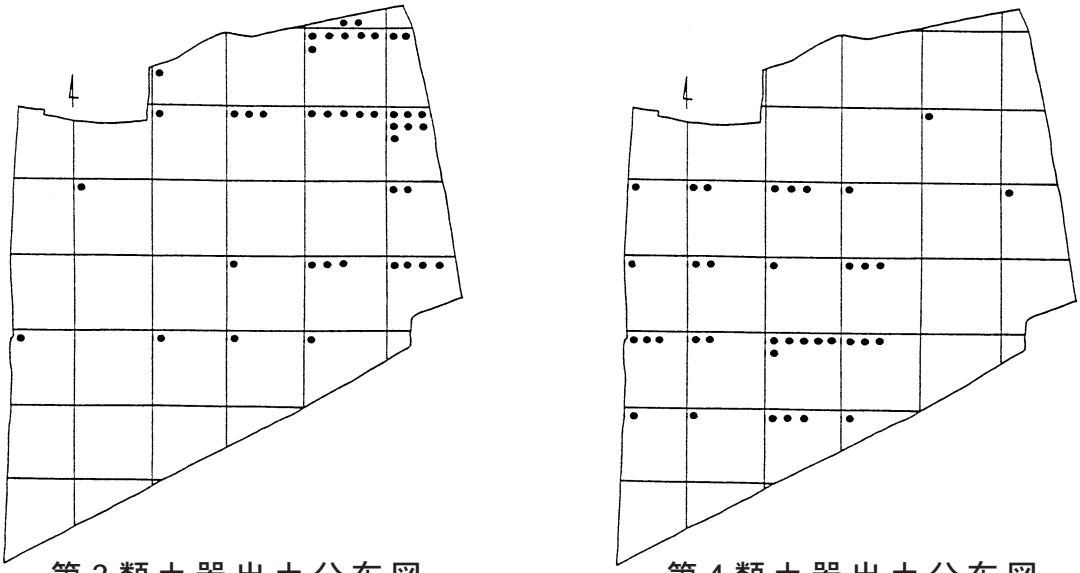
第 232 図　上層文化層出土土器　第５・６・７類土器 (拓影図 1/3，実測図 1/8)



第233図　参考資料（1）



第234図　参考資料（2）



第3類土器出土分布図　　第4類土器出土分布図

本図はグリット単位での土器分布状況を示す

第235図　上層文化層出土土器分布図 (1/400)

まとめ

笹見原遺跡上層文化層から出土した土器群を第7類にまで分類し、その時間的位置づけを検討してきたが、まとめとしてその変遷を確認すると同時に、今後の課題を指摘しておきたい。

上層文化層土器群はおよそ4段階に分かれて変遷すると考えられ、1段階として第1類、第2類a種が、2段階として第3類が、3段階として第4類、第5類が、4段階として第5類、第6類、第7類

の各土器群が対応する。関東編年との対比では、1段階は田戸上層式（新）段階に、2段階は一部田戸上層(新）段階にかかる可能性を有すが、その主体は田戸上層式（新々）段階に、3段階は子母口式に、4段階は野島式古段階に併行するものと考えられる。ただ上層文化層土器群は、主として中部から東海、関東南西部にかけて分布する独自性の強い土器群で構成され、地域全体としては器形や文様構成の窺える個体資料が充実していない類が多い。従って、基軸となる関東編年との対比を試みるには未だ不明瞭な点もあり、若干前後する可能性は否定できず、今後とも良好な資料を求め、検討を重ねる必要がある。

いずれにしても、本遺跡の上層文化層土器群は、縄文時代早期沈線文土器群終末から条痕文土器群初頭に比定される数少ない個体資料を含み重要で、当該期の広域編年を射程とした、山梨とその隣接地域の諸相を知る上で欠かせない資料となることは間違いない。

引用・参考文献

会田　進・中沢道彦　１９９７　「シンポジウム」開催にあたって－中部高地の早期中葉土器編年の課題－『シンポジウム押型文と沈線文本編』長野県考古学会縄文時代（早期）部会

安孫子昭二　１９８２　「子母口式土器の再検討－清水柳遺跡第二群土器の検討を中心として－」東京考古１

阿部芳郎　１９９０　「古屋敷遺跡早期第、群土器の型式学的検討」『古屋敷遺跡発掘調査報告書』富士吉田市史編さん室

阿部芳郎　１９９７　「判ノ木山西遺跡出土土器の分類と編年」『シンポジウム押型文と沈線文本編』長野県考古学会縄文時代（早期）部会

阿部芳郎　１９９９　「縄文時代早期後葉土器編年における北関東地方の様相－栃木県佐野市出流原遺跡出土の型式学的検討」『駿台史学』　第１０６号

小笠原永隆　１９９４　「考察子母口式土器（第Ⅳa群土器）について」『城ノ台南貝塚発掘調査報告書』千葉大学考古学研究報告第１冊

小笠原永隆　１９９７　「関東地方における田戸上層式・子母口式の様相－認識の再確認を中心として」『シンポジウム押型文と沈線文本編』　長野県考古学会縄文時代（早期）部会

小笠原永隆　１９９９　「中部地方を中心とする縄紋時代早期中葉土器群編年の展望－「シンポジウム」の再検討を中心とした若干の考察－」『長野県考古学会誌』８７・８８

小笠原永隆　２００１　「子母口式成立前後の広域編年作業にむけての問題点」『先史考古学研究』第８号

恩田　勇　１９９７　「神奈川県における沈線文土器群後葉期の一様相」『シンポジウム　押型文と沈線文　本編』長野県考古学会縄文時代（早期）部会

恩田　勇　１９９８　『宮ヶ瀬遺跡群ⅩⅥ久保ノ坂（№４）遺跡』かながわ考古学財団調査報告４２

恩田　勇　２００２　「縄文早期沈線文土器群後葉期の異相」『神奈川考古』第３８号

金子直行　１９９２　『山内清男考古資料４田戸遺跡資料』奈良国立文化財研究所史料第３４冊

金子直行　１９９２　『山内清男考古資料５子母口貝塚・大口坂貝塚資料』奈良国立文化財研究所史料第３５冊

金子直行　１９９３　「子母口式新段階「木の根Ａ式」土器の再検討－細隆起線文土器の出自と系譜を中心として－」『研究紀要』１０　埼玉県埋蔵文化財事業団

金子直行　１９９４　「貝殻沈線文系土器群終末期の様相－吹切沢式と子母口式の関係について－」『縄文時代』第５号

金子直行　２０００　「野島式の成立について－条痕文系土器群成立期の型式学的な系統整理を中心として－」『土曜考古』第２４号

黒尾和久　１９９８　『松坪Ｂ・引谷ヶ谷戸・儘上・天王沢』あきる野市秋川南岸道路関連遺跡調査会

小西直樹　１９９２　『穴沢遺跡・カイル沢遺跡』上野原町埋蔵文化財報告第３集
小林秀雄　１９８１　「長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書　茅野市･原村その３－判ノ木山西遺跡－」長野県教育委員会
瀬川裕市郎　１９７６「清水柳遺跡の土器と石器」『沼津市歴史民俗資料館紀要』１
関野哲夫　１９８８「高山寺式土器の編年」『先史考古学研究』第１号
関野哲夫　１９８９・１９９０『清水柳北遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会
田中　聡　１９９７　「中部東海地方における沈線文土器の様相」『シンポジウム押型文と沈線文本編』長野県考古学会縄文時代（早期）部会
田中　聡　１９９９　「中部地方における縄文早期沈線文土器群の終末について－関東以西における早期前半から後半への移行期の問題－」『長野県考古学会誌』８７・８８
高田賢治　２００１　『大日川原遺跡』明野村文化財調査報告１３
中沢道彦　１９９５　「下荒田遺跡早期第Ⅰ群土器について」『下荒田遺跡』御代田町教育委員会
中沢道彦　１９９７　「長野県北佐久郡望月町新水Ｂ遺跡の遺構と遺物」『シンポジウム押型文と沈線文本編』長野県考古学会縄文時代（早期）部会
長沢宏昌　１９９８　『諏訪前遺跡』山梨県教育委員会
長野県考古学会　１９９７　『シンポジウム押型文と沈線文本編』長野県考古学会縄文時代（早期）部会
野崎　進　２００２　『西原遺跡・柳原遺跡（第２次）』　境川村埋蔵文化財調査報告　第１７輯
橋本　淳　１９９４　「考察田戸上層式土器（第Ⅲ群土器）について」『城ノ台南貝塚発掘調査報告書』千葉大学考古学研究報告第１冊
福島邦男　１９８４　『平石遺跡緊急発掘調査報告書』望月町教育委員会
松田光太郎　１９９９　『臼久保遺跡』かながわ考古学財団調査報告６０
三田村美彦　１９９８　「談合坂遺跡第Ⅰ群土器について」『談合坂遺跡』　山梨県教育委員会
三田村美彦　２００１　「山梨における早期沈線文土器群後半の様相－談合坂遺跡出土土器の検討を通じた予察」『研究紀要』１７　山梨県立考古博物館　山梨県埋蔵文化財センター
宮沢公雄　１９９８　「大椚遺跡群」『山梨県史資料編１』山梨県
守屋豊人　１９９９　「東海地方押型文土器後半期の編年と相木式土器の成立について」『長野県考古学会誌』８７･８８
矢島俊雄　１９８４　『出流原小学校遺跡発掘調査報告書』佐野市教育委員会
山内清男　１９４１　「茅山式・子母口式」『日本先史土器図譜』第ⅩⅡ輯
吉田　格　１９５５　「千葉県城ノ台貝塚」『石器時代』第１号
領塚正浩　１９９７ａ　「常世式の再検討－常世１式の成立過程と、編年的位置をめぐって」『シンポジウム押型文と沈線文本編』　長野県考古学会縄文時代（早期）部会
領塚正浩　１９９７ｂ　「子母口式土器の成立過程」『奈和』第３５号

第３節　笹見原遺跡の石器について

株式会社アルカ
角張　淳一

はじめに

笹見原遺跡は、土器の層位的出土状態と土器型式の変遷の分析で、縄文早期の文化層が3枚に分かれる遺跡である。石器については、石器そのものが小さく、遺跡形成のあとでも地層の中を上下することが既にわかっているので、個別の石器を全て土器から導かれた文化層に帰属させることは不可能であった。

そこで、本稿では、石器の製作技術・器種などの考古学的事実と黒曜石の原産地分析を総合して、笹見原遺跡の石器様相を記述することにしたい。

石器の時期区分

自然層の明らかな石器

最初の作業は、良好の地層堆積が見られる東壁セクション図をもとに、東壁に接するグリッドの石器をセクション図に投影させて石器の自然層を求めた。なお、東壁セクション図に投影した石器は、属性表に自然層を記入した。この自然層と石器の取り上げ層位の関係は以下の第１５表となる。

	8Ⅱ	8Ⅲ	8Ⅳ	9Ⅰ	9Ⅱ	9Ⅲ	9Ⅳ	合計
141-3 層	3	0	0	0	0	0	0	3
141-2 層	5	3	0	0	0	0	0	8
141-1 層	0	1	3	7	3	0	0	14
139 層					1	9	2	12
合計	8	4	3	7	4	9	2	37

第 15 表　自然層と取り上げ層の確定した石器の層位関係表

一方、土器から求めた自然層と文化層の関係は以下の第１６表である。

自然層	取り上げ層	土器文化層	所見
141-3 層	8Ⅱ層		縄文遺物出土始め
141-2 層	8Ⅱ・8Ⅲ層	上層文化層	土坑・集石。田戸上層新段階・中部高地系土器群・清水柳Ｅ類・判ノ木山西式。
141-1 層	8Ⅳ・９Ⅰ・9Ⅱ層	中層文化層	縄文・撚糸文・押型文・無文・東山ｂ式
140 層（汚れローム）	9Ⅲ層	中層文化層	
139 層	9Ⅳ層	下層文化層	無文・異方向縄文・暗文状沈線文

第 16 表　自然層と取り上げ層及び土器文化層の関係表

第１５表と第１６表を総合すると、１４１-２層までが上層文化層、１３９層が下層文化層となり、その

間に中層文化層がくる。中層文化層は数段階に分かれる様相だが、土器分析と自然層の対比では、明確に分離できないことは、土器の章で既に記載してある。また石器が地層を上下する点も考慮すると、１４１-１層中には、数段階にわたる土器型式に帰属する石器が含まれるとともに、上層と下層の一部の石器が含まれている可能性が高いと推定される。

自然層の明らかでない石器

東壁セクションの地層が最も厚く、火山灰の堆積が良好であったが、南に下るにつれて地層は不安定になり、一部に１４０層（汚れローム）のような二次堆積ローム層が分布する。また南西部は地形の最も低い地点となり、良好な層位が得られず、８Ⅱ層から９Ⅳ層までは非常に薄堆積で、石器や土器が出土しても、その層位的根拠は弱いものであった。

一方、上層文化層には良好な土器分布の状況がみられ、それは北東・南東・南西の3区域に集中し、北西には遺物の集中が少ない。遺跡を4等分して、それを取り上げ層位の関係にした第１７表を作成した。

	8Ⅰ	8Ⅱ	8Ⅲ	8Ⅳ	9Ⅰ	9Ⅱ	9Ⅲ	9Ⅳ	合計
北東	5	16	15	7	1	15	23	8	101
南東	7	18	17	8	6	18	17	12	103
北西	0	1	2	0	1	3	0	0	7
南西	2	16	42	5	3	11	3	5	87
合計	14	51	76	20	20	47	43	25	298

第 17 表　遺跡地区別・取り上げ層位別の表

この表では8Ⅳ層・９Ⅰ層で遺物出土量が極端に減少し、９Ⅱ層以下で再度増加していることがわかる。一方、東壁のセクションでは、8Ⅳ層・９Ⅰ層・９Ⅱ層は、自然層の１４１-１層や、パッチ状に残る１４０層（汚れローム層）に対応している。

上層文化層の石器

さて以上の点でわかったことは、1：東壁セクションに投影できる３７点の石器は、取り上げ層位と自然層の対応が一致しているので、土器の層位と文化層に帰属させることができる、2：それ以外の石器については、９Ⅰ層を便宜的に上層文化層の石器に帰属させることにする、という2点である。なお、中層と下層文化層の分離は難しく、9Ⅳ層に限定して下層文化層とした。

上層文化層の石器

石器組成とその分布

上層文化層の石器は１８３点の出土である。その石器組成と出土地区の概要は以下となる。

第１８表からは、土器の集中分布に従って、およそ５０点から７０点前後に石器が集中し、土器集中の少なかったC(北西)には石器もほとんど分布していないことがわかる。

また、石鏃、削器、両極石器・剥片類、磨石の量が比較的多く、それらがA、B、Dの石器集中区を形成していることがわかる。石鏃の中には、両極剥片に押圧剥離で加工した石鏃未製品も含まれるので、およそ、笹見原遺跡では、石鏃と削器そして磨石に組成が偏在し、それは土器の集中分布

	A	B	C	D	不明	総計
ヘラ形削器				1		1
横形石匙				1		1
鋸歯縁削器				1		1
削器	2	5		4		11
残核	1					1
使用痕剥片	4	2		6	1	13
縦形石匙		1				1
刃部磨製ヘラ形削器	1	1				2
石核		1				1
石核素材	1	1				2
石器不明	1			1		2
石皿	1			1		2
石錐	2	5		1		8
石鏃	16	20	2	21		59
尖頭器	2	1		1	1	5
素刃削器	2			1		3
掻器	1	1				2
打製石斧				1		1
大形掻器	1			1	1	3
特殊磨石	1	3	1	4		9
二次加工剥片	1	1		3	1	6
剥片	2	3		1		6
磨石	3	2		6	1	12
両極石核		1	1			2
両極石器	3	2		8		13
両極剥片	3	4		2		9
裂片	1					1
敲石	1			2		3
(空白)		1		2		3
総計	50	55	4	69	5	183

第18表　上層文化層の地区別・器種別組成表（Ａは北東、Ｂは南東、Ｃは北西、Ｄは南西）

区と一致し、さらに各集中区ともに石器数量が一定であることが、第１８表と石器の所見が示している。

註）Ａ区：８、９，１０，１６，１７．１８グリッド。Ｂ区：２５、２６，２７，３４，３５，３６．４２．４３．４４，５０．５１グリッド。Ｃ区：７、１３、１４、１５グリッド。Ｄ区はその他のグリッドである。詳細は属性表に記載した。

黒曜石の原産地分析

第１９表は文化層別の推定原産地である。また第２０表は上層文化層の集中区別・推定原産地別の表である。第１９表では、黒曜石が上層文化層に集中すること、下層文化層にはほとんどないこと

	神津島恩馳島群	諏訪星ヶ台群	推定不可	天城柏峠群	和田鷹山群	和田土屋橋南群	蓼科冷山群	総計
上層	16	46	3	4	1	1		71
中層	3	15		1	1		1	21
下層		1						1
不明		1						1
総計	19	63	3	5	2	1	1	94

第19表　文化層別黒曜石推定原産地

	神津島恩馳島群	諏訪星ヶ台群	推定不可	天城柏峠群	和田鷹山群	和田土屋橋南群	総計
北東	7	12	2				21
南東	3	16		3		1	23
北西	1						1
南西	5	18	1	1	1		26
総計	16	46	3	4	1	1	71

第20表　上層文化層地区別推定原産地

が示されている。また、上層と中層を比較して、χ二乗検定をかけると、有意ではないという結果になった。この結果は、上層文化層と中層文化層の黒曜石原産地組成は区別されないという結果である。しかし、よく表を観察すると、神津島・天城柏峠は中層に1点しかなく、上層には複数の点数がある。暫定的な文化層の認定ではあるが、本稿では、中層文化層は信州系に偏り、上層文化層が信州系の他に、天城柏峠・神津島などの黒曜石が持ち込まれたと推定したい。

なお、この推定は、土器群の型式分類からみた、土器群の中心地域と一致することは非常に興味深い結果である。

次に第20表は土器の集中区に分布する黒曜石の推定原産地分布である。これをみると、各集中区には、ほぼ同じような数量と同じ原産地の黒曜石が複数残されていることがわかる。その原産地は信州諏訪の星ヶ台、天城柏峠、そして神津島恩馳島である。この3大原産地を結んで、笹見原遺跡の地に黒曜石が持ち込まれたのであろう。これはこの時期の居住形態を考察する上で貴重なデータである。

特徴的な石器・剥離技術とその広がり・居住形態

上層文化層には、周縁加工の石槍、両面加工の縦形石匙が客体的に伴う。これらは、北東北から北海道南部にかけて、縄文早期の時期に見られる石器であり、北海道函館市にある中野B遺跡が、尖頭器と石匙が伴う北限に近い大集落である。石器が客体的に持ち込まれている点から、中野B遺跡との直接的関連は希薄であるが、比較的広い範囲に、集団間の交流が行われていたことが伺いしれる。それは神津島に関連があるのだろうか、今後の課題となるであろう。

笹見原遺跡の剥片石器は、強い力で垂直にハンマーを振り下ろす直接打撃と、比較的圧縮力の強いソフトハンマー（石材に対して変形するハンマー）の押圧剥離が特徴である。製作される石器は、石鏃を主体として、穿孔具の石錐、剥片の素材辺を刃部にした削器、押圧剥離の刃部をもつ削器で

ある。石鏃は小形で、その他の剥片石器も親指の腹程度の大きさであるので、装備としては軽装備である。磨石や石皿もあるが、それらは熱を受けて壊されているものが多い。遺構は集石遺構と小さな土坑の集合である。これらの点をみると、この遺跡で越冬した装備とはいえず、冬以外に各地の集団が集合した遺跡であると推定できる。

中層・下層文化層の石器

中層は複数の段階が重なる文化層である。この文化層も遺構がなく、上層文化層と同じような移動生活を想起させるが、黒曜石が信州系に偏在することから、上層文化層よりは狭いテリトリー内に収斂する集団が推定できる。具体的な石器装備などは、この遺跡のデータでは触れることはできない。

下層は竪穴住居址と土坑が、各2基づつ検出されている。土坑にも石器と土器が出土し、また焼土なども検出されていることから、住居であるとの推定も可能かもしれない。

下層文化層の石器は、住居址出土、土坑出土の石器が確実であり、そこには磨石と削器類しか残されていない。下層文化層は、笹見原遺跡を一例として、今後の類例が待たれる遺跡である。

第４節　笹見原遺跡出土石器の使用痕分析

株式会社アルカ
池谷　勝典

はじめに

本遺跡の石器を観察し、その中で低倍率と高倍率の使用痕分析が可能なものを選択した。選択内容は、礫斧3点（１５２，１５７，１５８）、磨石1点（２０１）である。

分析をおこなった石器については、石器の操作方法および被加工物を推定をおこない、それらの石器の使い方を明らかにする目的がある。

分析方法

観察は、キーエンス社のデジタルHDマイクロスコープ（VH-７０００）による低倍率ズーム（VH-Ｚ０５）と高倍率ズームレンズ（VH-Ｚ４５０）を用いて高倍率の使用痕光沢の観察をおこなった。観察倍率は、5倍～４０倍と４５０倍～１０００倍（倍率はマイクロスコープでの倍率で従来の金属顕微鏡の倍率比とは異なる）である。観察面は、中性洗剤で洗浄をおこない、適宜アルコールを浸した脱脂綿で軽く拭き取り、脂分などを取り除いた。観察範囲は、石器表面全体を詳細に観察し、使用痕光沢および線状痕の認定をおこなった。使用痕光沢分類は東北大学の分類基準によっている（梶原・阿子島１９８１、阿子島１９８９）。

分析資料について

資料１５７・礫斧（砂岩）

石器は、背面に自然面を残す剥片を素材として、直接打撃で整形したのち刃部付近と側辺の一部を研磨している。さらに、末端部の刃部にみられる直接打撃は、研磨痕よりも新しい加工であり、尖頭状に作り出している。その尖頭部には側辺の稜線が摩滅し線状痕が稜線に直交していることからドリルの先端としての機能していたと推定される（写真1、2）。このことからこの石器は、当初石斧として使用されていたが、その後石錐として再加工されたことがわかる。

高倍率使用痕観察では、刃部の研磨面を中心におこなった。観察の結果、明らかに使用痕であるという光沢は、認められなかった。写真3、4については、観察された光沢の様相は相違するが、光沢タイプは不明である。錐部では、線状痕は明瞭であるが、使用痕光沢は不明である（写真2）。

資料１５２・礫斧（砂岩）

石器は、横長剥片を素材としている。両側辺は直接打撃で整形される。刃部は両面研磨され、両刃状に研ぎ出されている。

高倍率使用痕観察では、不明光沢がみられる（写真1、2）。線状痕等も不明瞭である。

資料１５８・礫斧（凝灰岩）

石器は、横長剥片を素材としている。両側辺は、直接打撃で整形される。刃部は、両面研磨され、

両刃状に研ぎ出される。

高倍率使用痕観察では、刃部に使用痕光沢が観察される。写真1～3は、Ｂタイプに類似する使用痕光沢である。Ｂタイプは、実験使用痕研究の結果から、稲科植物、木などに対して使用された場合特徴的に見られる光沢である。線状痕は、不明瞭であるが、写真2の光沢面を見ると光沢面上にうっすらと横方向に筋が見える。これは、おそらく使用の結果できたものと推定される。

操作方法については、この石器が横斧装着されたものか、縦斧装着されたものか不明である。

資料２０１・磨石（閃緑岩）

石器は、楕円礫を素材として、表裏面に顕著な摩耗がみられる。

高倍率使用痕観察では、摩耗面にＢタイプの使用痕光沢が観察される（写真１～３）。Ｂタイプは、実験使用痕研究の結果から、稲科植物、木などに対して使用された場合特徴的に見られる光沢である。磨石にこのような光沢が観察された例は今までになく、実験研究においても磨石の実験例がないことから、被加工物などの推定はできない。しかしながら、光沢の状態などから、水分をある程度含んだ軟質のものであることは、推定できる。

まとめ

礫斧

観察した3点ともに違った光沢の様相がみられた。１５８については、植物質のものに対して使用されたかの可能性を指摘できるが、他のものについては不明である。また、その用い方についても線状痕、微細剥離などが不明瞭であることから推定できない。さらに、観察例を増やしていく必要がある。

磨石

高倍率による磨石の観察例が報告されるのは、はじめてであると思われるが、非常に良好な使用痕光沢が観察された。被加工物の推定については、まだまだ実験データが不足しており不可能であったが今後観察例を増やし、検討していく必要がある。

参考文献

阿子島香　１９８９『石器の使用痕』考古学ライブラリー５６　ニューサイエンス社

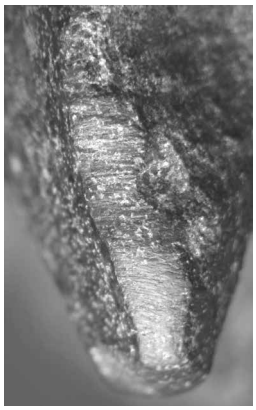
角張淳一　２００２「石器研究の展望」『利根川』２３　利根川同人

梶原洋・阿子島香　１９８１「頁岩製石器の実験使用痕研究−ポリッシュを中心とした機能推定の試み−」『考古学雑誌』６７-１

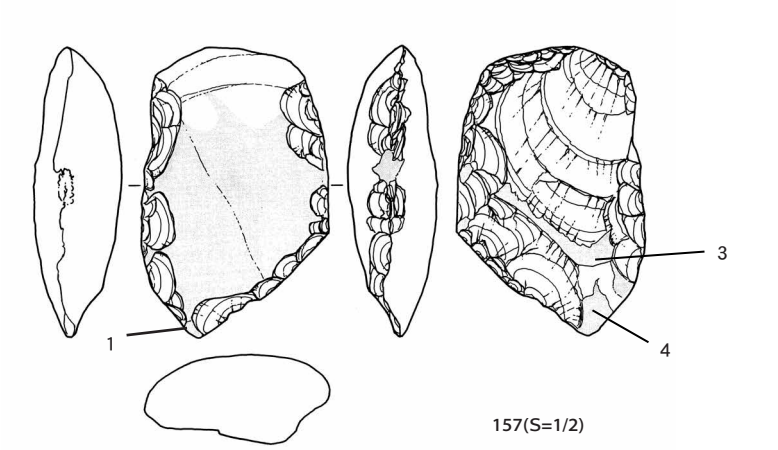
梶原　洋　１９８２「石匙の使用痕分析 - 仙台市三神峯遺跡出土資料を使って -」『考古学雑誌』６８-２

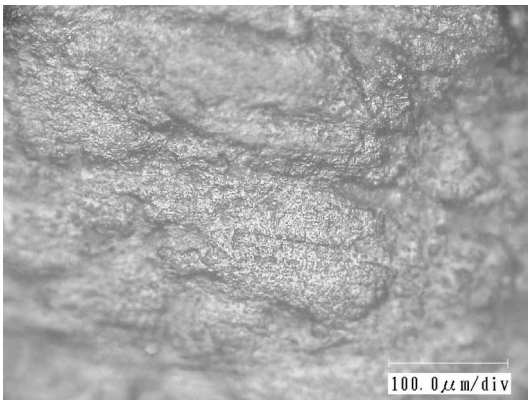
佐原　眞　１９７７「石斧論」『考古論集－慶祝松崎寿和先生六十三歳論文集』

竹岡俊樹　１９８８『石器研究法』言叢社

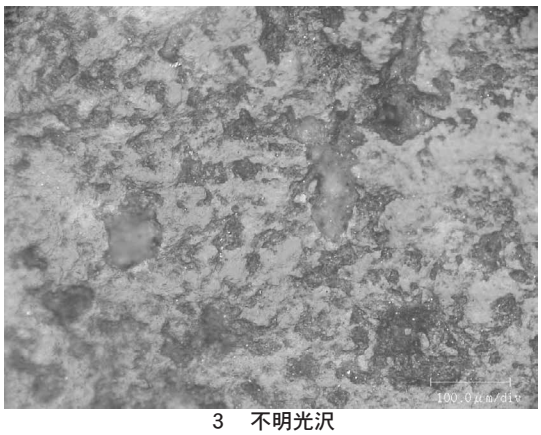


1　左側刃部摩耗

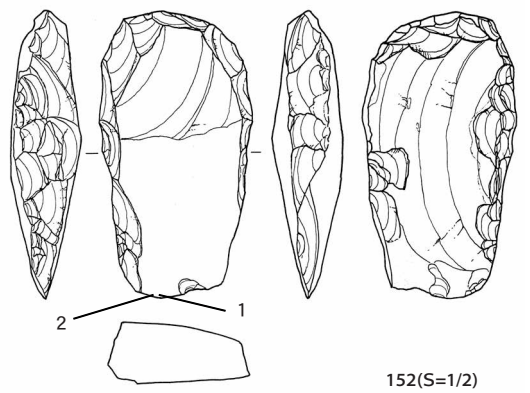


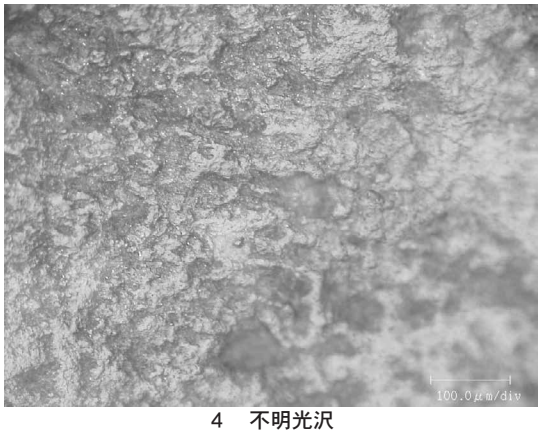


2　不明光沢と線条痕

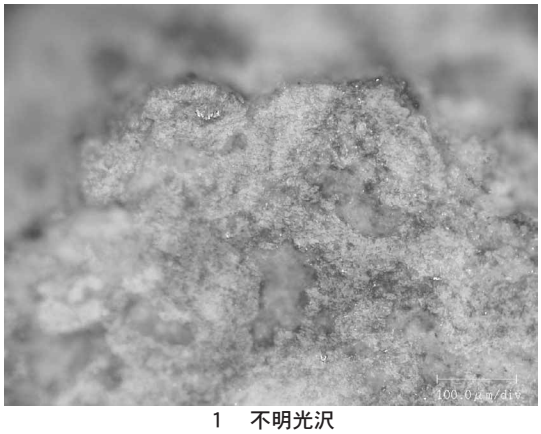


3　不明光沢

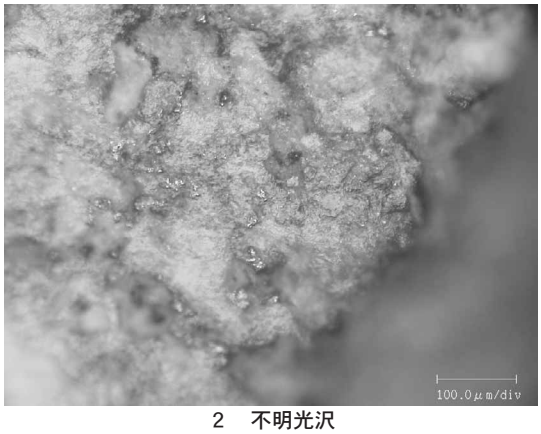




4　不明光沢

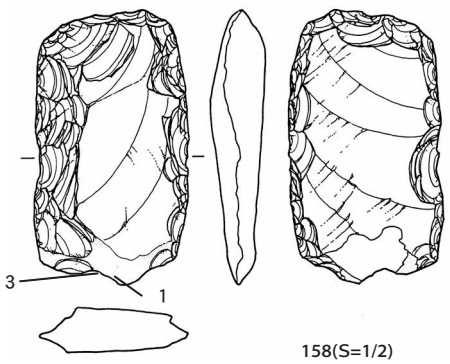


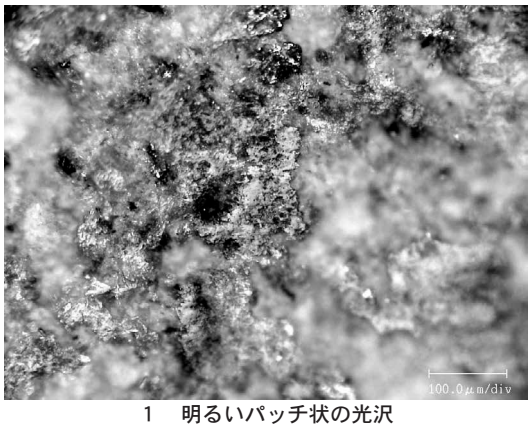
1　不明光沢



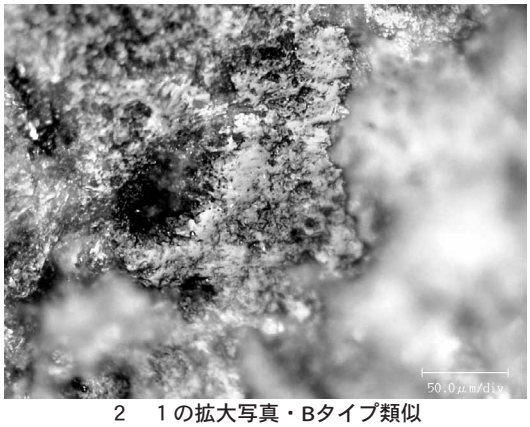
2　不明光沢

第 236 図　礫斧の使用痕

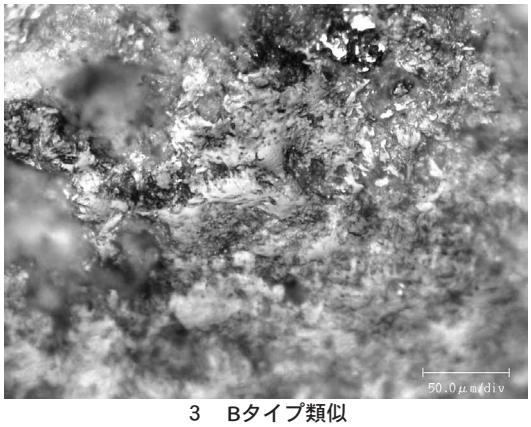




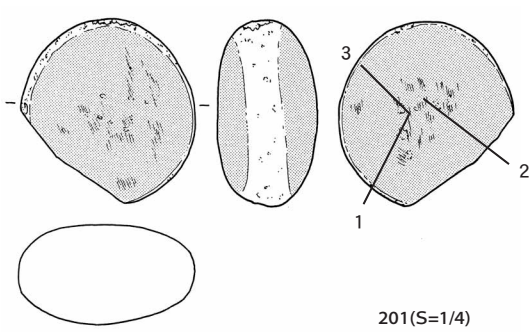
1　明るいパッチ状の光沢

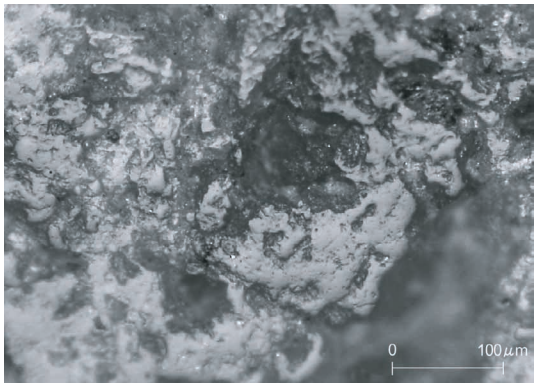


2　1の拡大写真・Bタイプ類似

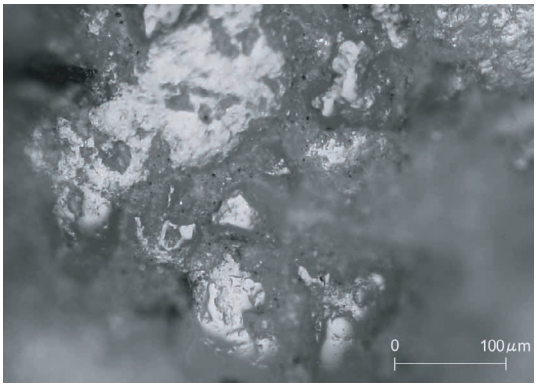


3　Bタイプ類似

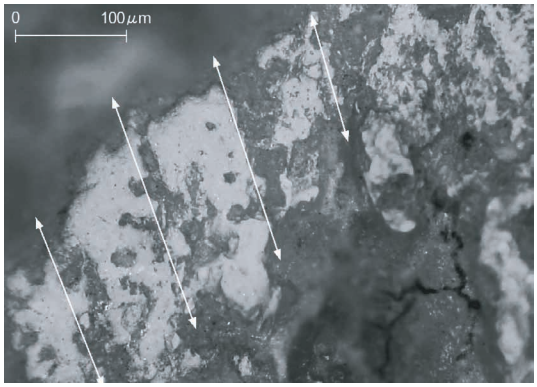




1　Bタイプ



2　Bタイプ



3　Bタイプ、線状痕明瞭（白い矢印）

第237図　礫斧と磨石の使用痕

第Ⅶ章　　調査成果のまとめ

笹見原遺跡は、富士山麓忍野村の歴史の一端を明らかにしたわけであるが、出土した遺物の考古学検討は忍野村の歴史だけにとどまるものではなく、むしろ各時代で広範な地域の歴史も視野におさめることができる歴史事実を明らかにした。その点を以下にまとめてみたい。

なお、この貴重な成果を出すにあたり、忍野村教育委員会及び、田中悟道団長、そして笹見原遺跡調査団の苦心・工夫そして忍耐が必要であった。ことに田中団長の精神の高さが、本報告を世に出す原動力となったことは事実であり、考古学者としての使命感あふれる業績として高く評価されるべきである。本報告をもって笹見原遺跡が文献として甦り、後生の国民の宝となるのであれば、まずは田中団長の第一等の功績であることを、この文面に明らかにする次第である。

（角張淳一）

１．古代の土器の成果

9 世紀～ 10 世紀の４棟の住居祉から平安時代の甲斐型土器（甕、小甕、坏、皿、鉢、蓋、羽釜破片）が多く出土した。黒色土器（坏破片）、須恵器（大甕破片）、灰釉陶器（皿破片）は少量であり、笹見原遺跡では組成の殆どが甲斐型土器で占められていることが確認できた。

２．縄文土器の成果

縄文時代早期の土器群が大きく２段階に分かれ出土しており、古い段階は南関東地方の撚糸文期終末にあたる土器（平坂式、東山式）、駿豆地域の撚糸文土器、押型文土器、縄文施文土器が出土した。検出された２棟の住居祉の内１棟からは、平坂式土器が床近くから確認されている。

新しい段階は、田戸上層終末期から条痕文系土器群に該当する土器が出土しており、ペンダント状の土製品も検出されている。

土器では、関東地方、中部高地地方、駿豆地方の各地域で確認される土器群が、遺跡内で分布を異にして検出されており、また胎土特徴と文様の関係から、遺跡内での土器の折衷が行われていた可能性がある。

（西本正憲）

３．縄文石器の成果と黒曜石原産地分析の成果

石器は土器のように段階変遷がたどれなかった。石器組成は石鏃を主体に、削器類、刃部磨製石斧などが出土している。刃部磨製石斧は南関東の事例からおそらく撚糸文土器文化の所産と推定される。特筆すべきは黒曜石の原産地分析が３原産地（伊豆・信州・神津島）に分かれ、それぞれが早期後半の土器の中心圏と重なった点である。今後の自然科学分析と考古学分析の指標となる成果であろう。また磨石の使用痕が観察され、それは現段階での最古の磨石使用痕の成果である。今後の類例をまちたい。

（角張淳一）

結語　「人の縁を思う」

ここに「笹見原遺跡発掘調査報告」が発刊の運びとなりました。

笹見原遺跡は忍野村にあります。

遺跡は平安時代・縄文時代・富士火山活動期の3区分ができる堆積層からなっています。笹見原遺跡の土層は５３層に分類されます。土層説明については都留文科大学上杉陽教授の論文を基準に作成しました。上杉教授の現地調査により、笹見原遺跡の土層分析がなされ、その地層説明に依拠して土層図を作成しました。

平安時代・縄文時代の遺跡を確認した。平安時代の遺構は住居跡5基、縄文時代の遺構は住居跡2基・土構１５０以上を確認しました。

ここにいたるまでの経過は、一言で「人の縁（えにし）」による調査ということに尽きます。

６，７年前、当時の忍野村教育長故渡辺信喜氏と秋山村教育長故原田芳明氏が取り持つ縁で、忍野村の笹見原遺跡発掘調査の担当を引き受けることとなりました。実際は、平成9年からの調査になるのですが、現地調査にはいるまでの経緯は、当時の教育課長渡辺寿久氏他渡辺広人氏事務担当職員ほか諸氏の幾度かの来訪を受けての交渉の中で実現しました。県文化課田代孝氏・末木健氏・南都留土木事務所長・忍野村村長大森一男氏・前忍野村村長三浦玄吾氏・忍野村教育長小山田又三氏のご理解、ご指導のもとに調査、調査後の整理作業は無事終了しました。

調査は平成9年より１１年までの3ケ年にわたるものでした。

整理作業は平成１２年から１３年までの2ケ年にわたるものでした。

忍野村は今回の考古学的調査が初めての実施であること、富士山の正面で至近距離に位置する環境にあることが調査の特色でした。

初めて実施されたこの調査によって忍野村の過去の住環境が理解できる多くの資料を得ることができました。発堀の規模はおおよそ８５０㎡・深さ－６ｍでした。堆積層は表土・①・②・③・②の土層構成でした。

結果として、3分野の領域を確認できました。

①．平安時代生活期層　甲斐型土器を中心とした遺物・遺構出土

平安時代の遺物包含層はNo.５１.（Ｓ－２４－９）No.５０（Ｓ－２４－８／Ａ･Ｂ）No４９（Ｓ－２４－７）の土層に分布していた。

②．富士火山活動期層　厚さ2～３ｍの堆積層

火山活動期の土層はNo４２.（Ｓ－２２）湯船第二スコリア層からNo.２６（Ｓ－０－１）新期富士黒層までの１７層から形成されて堆積していた。

③．縄文時代生活期層　早期土器を中心とした遺物・遺構出土

縄文時代の遺物包含層はNo.２５（Ｙ－１４１－１～3）からNo.２３（Ｙ－１３９）の3層に分布していた。

縄文時代遺物包含層下の自然堆積土層（火山活動の堆積層を含）はNo.２２（Ｙ－１３８）以下No.１（Ｙ－１２８）・No.０までの土層が確認できた。

表土より５３層にいたる土層が、上杉教授により分析されました。

深さ－５ｍの５３層にいたると地下水が湧出しました。

②の富士火山活動期が長期にわたるために、生活した痕跡が確認できませんでした。幾多の富士火山活動を直接うけたことの痕跡が各層に現われています。その間、数回、宇津湖（忍野村全体が湖沼化する。）が現出したことも確認しました。

富士火山活動など厳しい住環境の中で先住民が生活していたことを当遺跡調査をとおして確認することができました。

土層の時代別尺度を設定することができました。このことにより、2時代の層位関係が確認でき標準土層が設定できました。

縄文時代早期から前期前半にいたる生活土層から平安時代の生活土層までの長い期間、富士火山活動のために遺跡らしき生活面は確認できず火山活動の堆積土層でうずもれていた時代であったことが笹見原遺跡については確認できました。

上杉教授の指摘によると、縄文時代の忍野村地域は温暖な生活しやすい良好な風土であったようです。その後、富士火山活動を幾重にも繰り返す中で現在の自然環境に変化していったようです。

当遺跡は忍野村が縄文時代生活期層（早期土器を中心とした遺物・遺構出土）平安時代生活期層（甲斐型土器を中心とした遺物・遺構出土）より現在まで、1万年のながい年月を継続して生活してきた確かな証拠を提示してくれました。

私は、現地調査をするためには「忍野村の文化は忍野村の人たちで守るのが当然の理念である」と考えました。そうした考え方にのっとって、発掘調査は、地元のご婦人方の湯山さんを中心に１０人のスタッフに協力していただきました。現場作業・遺物整理・作図・分析・写真撮影(長田歳徳氏写真指導)・基礎資料台帳作成など、すべて彼女たちが助け合い個々の作業目標をクリアして報告書作成にあたってきました。

現場の欠点を補ってくれた各先生方には感謝申し上げます。

県文化課田代先生・末木先生・坂本先生・出月先生・新津先生・保坂先生・小野先生・長沢先生・高野先生の指導でした。

また、末木先生の紹介による都留文科大学上杉先生・明治大学阿部先生・㈱アルカ社長角張様には多くの協力助言をいただきました。

南都留土木事務所のご理解ご協力があっての本調査であることは言うまでもありません。こころよりありがたく感謝申し上げます。

末筆ですが、忍野村教育委員会事務担当前天野満さん、および後任長田広斉さんが各機関の交渉取り計らいの窓口となり東奔西走されたことが事業の円滑な進展を可能にしたことを忘れてはいけません。

今回の発掘調査は、多くの分野の専門家集団の協力に支えられたものでした。改めて人の縁がいかに大切かを教えられた調査でした。

ただ、ただ、感謝です。今後もよろしくご指導おねがいします。

平成１５年3月３１日

忍野村笹見原遺跡発堀調査団長

田　中　悟　道

［付編］

笹見原遺跡 自然科学分析

＜目次＞

１．笹見原遺跡出土石器に用いられた黒曜石の産地

はじめに

１．試料

２．分析方法

３．結果

４．考察

参考文献

２．笹見原遺跡出土黒曜石産地推定結果

１．産地推定結果

２．産地判別図

３．産地データ

４．まとめ

３．笹見原遺跡の自然科学分析

はじめに

１．種実遺体の年代

２．種実遺体の種類

３．炭化材の樹種

４．土器中に見られた圧痕

引用文献

４．笹見原遺跡のテフラ層序

１.結論

２.これまでの経過と本報告書の主目的

３.富士系標準テフラ柱状図・テフラカタログ

４.本遺跡自然土層の標準テフラ層位についての一部修正

５.本遺跡主要土層および模式地すぎな沢の１４Ｃ年代

６.文献

＜図表一覧＞

図 1　産地判定図
図 2　産地判別図１
図 3　産地判別図２
図 4　黒曜石産地図
図 5　テフラ柱状凡例図
図 6　笹見原遺跡自然土層の肉眼的諸特徴と推定テフラ年代
図 7　新富士火山噴出物模式地すぎな沢のテフラ柱状図

表 1　蛍光Ｘ線分析結果（ガラスビードーＦＰ式）
表 2　産地推定結果（１）
表 3　産地推定結果（２）
表 4　産地原石判別群（SEIKO SEA-2110L 蛍光Ｘ線分析装置による）
表 5　笹見原遺跡出土黒曜石産地組成
表 6　放射性炭素年代測定結果
表 7　種実同定結果
表 8　樹種同定結果
表 9　１次テフラの内容
表 10　粒径別重量構成比
表 11　泥水色の変化
表 12　色彩変化
表 13　低温酸化の程度
表 14　スコリア礫の平均粒径
表 15　スコリア礫の外形
表 16　スコリア礫の気孔形態
表 17　反射光下での諸特徴
表 18　スコリア礫の仮比重(g/cc)
表 19　他火山ガラスの諸特徴

付編図版 1　黒曜石写真
付編図版 2　炭化材（１）
付編図版 3　炭化材（２）
付編図版 4　炭化材（３）
付編図版 5　炭化材（４）
付編図版 6　炭化材（５）・種実遺体
付編図版 7　土器中の痕跡
付編図版 8　明神峠のテフラ断面（１）
付編図版 9　明神峠のテフラ断面（２）
付編図版 10　忍野笹見原遺跡 1998 年 11 月 16 日の西壁
付編図版 11　忍野笹見原遺跡 1999 年 11 月 12 日の北西壁
付編図版 12　忍野笹見原遺跡 1999 年 11 月 12 日の東壁

１．笹見原遺跡出土石器に用いられた黒曜石の産地

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

笹見原遺跡は、富士山東麓の山梨県忍野村に所在する。発掘調査では、撚糸文、押型文、条痕文などの縄文時代早期土器が出土し、これらの土器と同時期とされる石鏃をはじめとする黒曜石製の石器も出土している。山梨県内では、これまでのところ黒曜石の原産地は未確認であり、これらの石器に使用された黒曜石は、県外から持ち込まれたものと思われる。いまのところ、山梨県周辺の黒曜石産地として、南には箱根や伊豆半島、さらに神津島が、北には和田峠や霧ヶ峰などの産地が集中する中信高原が、それぞれ知られている。

本今回の分析調査では、笹見原遺跡より出土した黒曜石製の剥片２点および裂片１点の計３点について、その化学組成に基づき産地を推定することで、縄文時代早期の笹見原遺跡における石材の入手・利用状況にかかわる、基礎資料を作成する。

１．試料

試料は、遺物NO. １～３とされた黒曜石製石器３点である。これらのうち、遺物NO. １および２は剥片であり、遺物NO. ３は裂片である。試料の出土位置などは、分析結果を示した表１に併記する。

２．分析方法

試料の化学組成は、分析精度の高い波長分散型蛍光Ｘ線分析装置を用いた、ガラスビード法によって定量した。分析元素はSiO_2、TiO_2、Al_2O_3、Fe_2O_3、MnO、MgO、CaO、Na_2O、K_2O、P_2O_5、Rb、Sr、Zr、Baの14元素である。以下に処理過程を述べる。あわせて、得られたデータによる産地判定方法についても説明する。

1)装置

理学電機工業社製RIX1000（ＦＰ法のグループ分析プログラム）

2)試料調製

試料を振動ミル（平工製作所製TI100；10ml容タングステンカーバイト容器）で微粉砕した後、以下の条件でガラスビードを作成した。

溶融装置；自動剥離機構付理学電機工業社製高周波ビートサンプラー（3491A1）

溶剤及び希釈率；融剤（ホウ酸リチウム）5.000g:試料0.500g

剥離剤；LiI（溶融中２回投入）

溶融温度；1200℃　約７分

3)測定条件

Ｘ線管；Cr（50Kv－50mA）

スペクトル；全元素Ｋα

分光結晶；LiF,PET,TAP,Ge

検出器；F-PC,SC

計数時間；PeaK40sec,Back20sec

4)FeとRbによる黒曜石産地推定

黒曜石は、流紋岩～デイサイトに相当するガラス岩である。流紋岩～デイサイトの成因は多様であるが、その反面出発物質としてのマグマの生成過程、および分化過程で化学組成の挙動が異なることが期待される。大沢ら(1991）の黒曜石の化学組成を岩系別に見ると、Rb（ルビジウム）、La（ランタン）、Ce（セリウム）、Eu（ユウロピウム）、Th（トリウム）、Sc（スカジウム）の変動が著しく、地域的な特性を示す微量成分元素として注目される。

そこで黒曜石の岩系に基づいた化学成分の変化を背景に、産地判定の指標成分としてコンパティブル元素であるFeとインコンパティブル元素であるRbを選択し、各産地ごとの２成分の領域を図示した黒曜石の産地判定図（図１）を作成した。本判定図は大沢ら（1991）の原産地黒曜石370試料、当社保有の原産地黒曜石110試料および様々な文献を参照し、計480試料以上の黒曜石の化学組成を用いて作成した。作成した判定図は、縦軸にRb（ppm）、横軸にFe（％）をとると指数関数的な分布を示し、産地間の分離が良好であることから、分析精度が十分に高ければ産地の識別は可能と考えられる（五十嵐 , 未公表）。なお、この図はFe（％）とRb（ppm）の値を採用しているため、酸化物の値である分析結果からそれぞれ換算して用いている。

遺物NO.	注記	器種	備考	SiO2 %	TiO2 %	Al2O3 %	Fe2O3 %	MnO %	MgO %	CaO %	Na2O %	K2O %	P2O5 %	Rb ppm	Sr ppm	Zr ppm	Ba ppm	推定原産地	参考値Fe%
1	1998II層25区画	剥片	垂直打撃の剥片	77.55	0.09	13.01	0.64	0.07	0.19	0.50	3.17	4.77	0.01	144.2	41.0	73.5	331.1	星ヶ塔	0.45
2	1998II層17区画	剥片	垂直打撃の剥片	77.03	0.09	12.97	0.67	0.07	0.23	0.53	3.41	5.00	0.01	141.7	43.4	78.5	342.1	星ヶ塔	0.47
3	1998II層10区画	裂片		77.36	0.13	13.01	0.90	0.07	0.25	0.86	3.99	3.41	0.01	63.7	83.5	77.4	625.4	神津島	0.63

参考値Fe%：酸化物から換算した値．産地判定図に用いる。産地判定図のRbの値は表中に示す。

表１　蛍光Ｘ線分析結果（ガラスビード－ＦＰ式）

３．結果

分析結果を表１に、産地判定図を図１に示す。図１より、推定原産地は、遺物NO. １および２が「星ヶ塔産」、遺物NO. ３が「神津島産」の黒曜石と判定される。

４．考察

今回の分析試料は３点であり、必ずしも多くはなかったが、分析の結果、信州産と神津島産の両者の存在を確かめることができた。これは、笹見原遺跡の縄文時代早期における石器石材の入手・利用状況を考える上で、重要な示唆を持つ結果といえる。

今後、さらに分析データを蓄積することができれば、該期の笹見原遺跡における黒曜石の入手状況がさらに解明できるものと期待される。特に、笹見原遺跡から距離的に最も近い産地である箱根や伊豆半島産の黒曜石の存在については、注目しておきたい。さらに、試料の出土した遺構や層位な

どの詳細な情報を分析結果に加えることにより、時期や遺構別にみた黒曜石石材の入手状況の変化などに関する情報も得られることが期待される。

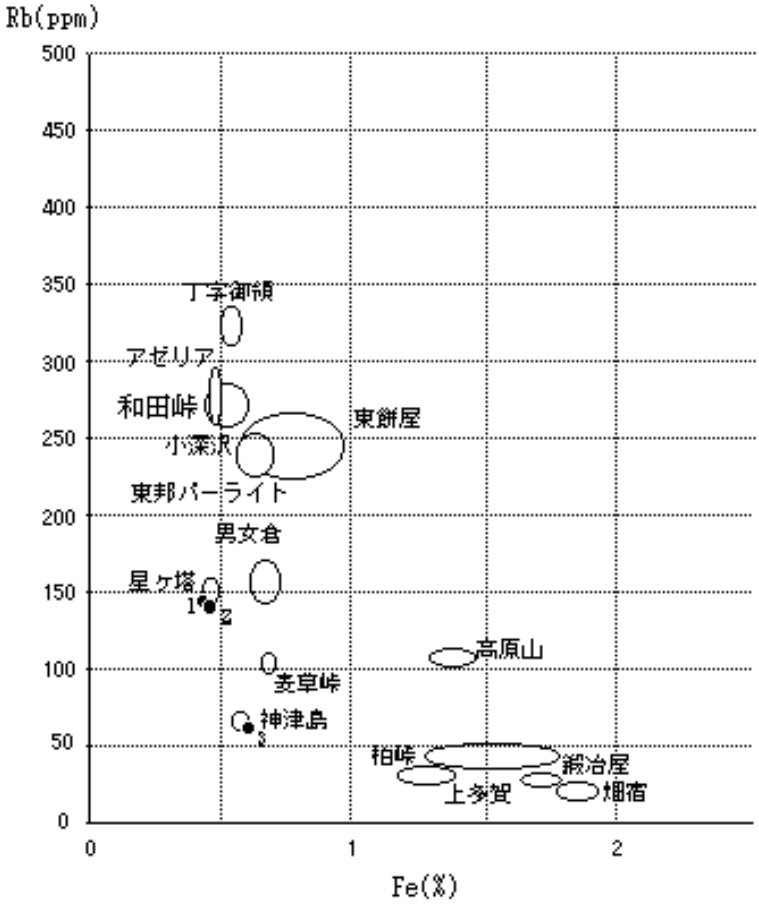


図１　産地判定図

参考文献

五十嵐俊雄（未公表）化学組成を用いた黒曜石の産地判別．火山岩の化学－黒曜石の微量成分による産地同定のための岩石化学－ ,22p.,：p.8-10.

二宮修治・綱干　守・藁科　実・友廣秀尚・大沢眞澄（1991）微量成分元素存在量による原産地黒曜石の識別・分類と遺跡出土黒曜石石器の原産地推定への適用．「黒曜石の化学 遺跡出土黒曜石石器の原産地推定の基礎として」, 平成２年度科学研究費補助金（一般研究Ｂ）研究成果報告書 ,69p.,:p.54-69.

２．笹見原遺跡出土黒曜石産地推定結果

沼津工業高等専門学校

望月　明彦

１．産地推定結果

下記の右の表に判別図法の結果と判別分析の結果を挙げてある。左の表は二つの方法から導いた推定結果をまとめたものである。

判別図判別群：判別図法によって推定された産地。判別分析と結果が異なるときは"*"をつけて示す。
判別分析：第１候補産地…判別分析により推定された産地の第1候補
第２候補産地…判別分析により推定された産地の第2候補
判別群　候補産地記号　→　判別図法による産地と通常は一致する。
距離　試料から候補産地までのマハラノビス距離　→　値が小さいほど候補産地と類似性が高い。
確率　試料が候補産地に属する確率　→　１に近いほど類似性が高い。

判別図法・判別分析からの最終推定結果　　判別図法による推定結果と判別分析による推定結果

分析番号	遺物番号	推定産地	付編図版１	判別図判別群	判別分析 第１候補産地 判別群	距離	確率	第２候補産地 判別群	距離	確率
1	8・・24015	神津島恩馳島群	分析番号 01-18	KZOB	KZOB	6.1	1	KZSN	80.66	0
2	8・・26025	諏訪星ヶ台群	分析番号 01-18	SWHD	SWHD	6.84	1	SBIY	72.82	0
3	8・・08081	神津島恩馳島群	分析番号 01-18	KZOB	KZOB	6.23	1	KZSN	43.99	0
4	8・・18028	推定不可	分析番号 01-18	推定不可	推定不可			推定不可		
5	8・・25071	諏訪星ヶ台群	分析番号 01-18	SWHD	SWHD	3.71	1	WDTN	84.55	0
6	8・・27001	神津島恩馳島群	分析番号 01-18	KZOB	KZOB	6.68	1	KZSN	29.91	0
7	8・・32041	神津島恩馳島群	分析番号 01-18	KZOB	KZOB	4.23	1	KZSN	48.97	0
8	8・・34079	諏訪星ヶ台群	分析番号 01-18	SWHD	SWHD	0.75	1	SBIY	92.14	0
9	8・・35102	諏訪星ヶ台群	分析番号 01-18	SWHD	SWHD	10.94	1	SBIY	70.79	0
10	8・・40033	和田鷹山群	分析番号 01-18	WDTY	WDTY	5.52	1	WDKB	26.58	0
11	8・・41108	諏訪星ヶ台群	分析番号 01-18	SWHD	SWHD	2.95	1	SBIY	70.21	0
12	8・・08004	諏訪星ヶ台群	分析番号 01-18	SWHD	SWHD	9.25	1	WDTN	88.57	0
13	8・・08016	諏訪星ヶ台群	分析番号 01-18	SWHD	SWHD	5.21	1	SBIY	52.6	0
14	8・・15064	神津島恩馳島群	分析番号 01-18	KZOB	KZOB	5.12	1	KZSN	44.8	0
15	8・・16013	諏訪星ヶ台群	分析番号 01-18	SWHD	SWHD	5.62	1	WDTN	92.86	0
16	8・・17057	諏訪星ヶ台群	分析番号 01-18	SWHD	SWHD	7.07	1	SBIY	77.94	0
17	8・・23004	諏訪星ヶ台群	分析番号 01-18	SWHD	SWHD	7.5	1	SBIY	86.24	0
18	8・・24042	諏訪星ヶ台群	分析番号 01-18	SWHD	SWHD	3.17	1	WDTN	84.91	0
19	8・・24068	諏訪星ヶ台群	分析番号 19-36	SWHD	SWHD	8.48	1	SBIY	82.06	0
20	8・・26005	諏訪星ヶ台群	分析番号 19-36	SWHD	SWHD	12.75	1	SBIY	92.46	0
21	8・・26028	天城柏峠群	分析番号 19-36	AGKT	AGKT	4.38	1	HNKT	141.07	0
22	8・・27018	天城柏峠群	分析番号 19-36	AGKT	AGKT	2.19	1	HNKT	133.45	0
23	8・・31022	諏訪星ヶ台群	分析番号 19-36	SWHD	SWHD	3.11	1	SBIY	57.42	0
24	8・・31034	推定不可	分析番号 19-36	推定不可	推定不可			推定不可		
25	8・・33009	諏訪星ヶ台群	分析番号 19-36	SWHD	SWHD	13.33	1	SBIY	75.9	0
26	8・・33011	諏訪星ヶ台群	分析番号 19-36	SWHD	SWHD	6.71	1	SBIY	94.43	0
27	8・・33031-2	諏訪星ヶ台群	分析番号 19-36	SWHD	SWHD	4.79	1	SBIY	111.77	0
28	8・・33131	諏訪星ヶ台群	分析番号 19-36	SWHD	SWHD	9.22	1	WDTN	78.53	0
29	8・・33150	天城柏峠群	分析番号 19-36	AGKT	AGKT	1.53	1	HNKT	130.8	0
30	8・・34049	諏訪星ヶ台群	分析番号 19-36	SWHD	SWHD	19.61	1	WDTM	94.5	0
31	8・・35002	和田土屋橋南群	分析番号 19-36	WDTM	WDTM	3.79	1	WOTM	49.86	0
32	8・・36042	諏訪星ヶ台群	分析番号 19-36	SWHD	SWHD	2.68	1	SBIY	95.56	0
33	8・・47004	諏訪星ヶ台群	分析番号 19-36	SWHD	SWHD	6.87	1	SBIY	67.42	0
34	8・・02007	蓼科冷山群	分析番号 19-36	TSTY	TSTY	4.2	1	TSHG	29.98	0
35	8・・09033	神津島恩馳島群	分析番号 19-36	KZOB	KZOB	14.74	1	KZSN	71.34	0
36	8・・35003	天城柏峠群	分析番号 19-36	AGKT	AGKT	7	1	HNKT	106.74	0
37	9・・09003	諏訪星ヶ台群	分析番号 37-54	SWHD	SWHD	6.22	1	WDTN	105.15	0
38	9・・09014	神津島恩馳島群	分析番号 37-54	KZOB	KZOB	0.99	1	KZSN	59.22	0

表２　産地推定結果（１）

分析番号	遺物番号	推定産地	付編図版１	判別図 判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
39	9・・18005	諏訪星ヶ台群	分析番号 37-54	SWHD	SWHD	3.62	1	SBIY	76.37	0
40	9・・25002	諏訪星ヶ台群	分析番号 37-54	SWHD	SWHD	5.14	1	SBIY	80.83	0
41	9・・33002	諏訪星ヶ台群	分析番号 37-54	SWHD	SWHD	3.79	1	SBIY	94.09	0
42	9・・09002	諏訪星ヶ台群	分析番号 37-54	SWHD	SWHD	1.81	1	SBIY	97.45	0
43	9・・09003	諏訪星ヶ台群	分析番号 37-54	SWHD	SWHD	8.99	1	SBIY	61.49	0
44	9・・16003	諏訪星ヶ台群	分析番号 37-54	SWHD	SWHD	9.22	1	SBIY	89.34	0
45	9・・17014	諏訪星ヶ台群	分析番号 37-54	SWHD	SWHD	9.27	1	SBIY	67.27	0
46	9・・24020	諏訪星ヶ台群	分析番号 37-54	SWHD	SWHD	5.89	1	SBIY	79.73	0
47	9・・26031	和田鷹山群	分析番号 37-54	*SWHD	WDTY	3.49	0.9979	WDHY	13.35	0.0021
48	9・・27002	諏訪星ヶ台群	分析番号 37-54	SWHD	SWHD	7.34	1	SBIY	86.45	0
49	9・・33013	諏訪星ヶ台群	分析番号 37-54	SWHD	SWHD	7.1	1	WDTN	120.27	0
50	9・・10004	諏訪星ヶ台群	分析番号 37-54	SWHD	SWHD	3.69	1	SBIY	64.02	0
51	9・・17017	諏訪星ヶ台群	分析番号 37-54	SWHD	SWHD	2.15	1	WDTN	98.1	0
52	9・・17137	諏訪星ヶ台群	分析番号 37-54	SWHD	SWHD	8.48	1	SBIY	78.87	0
53	9・・27049	諏訪星ヶ台群	分析番号 37-54	SWHD	SWHD	7.7	1	SBIY	119.28	0
54	9・・33003	諏訪星ヶ台群	分析番号 37-54	SWHD	SWHD	11.42	1	SBIY	59.2	0
55	9・・49004	諏訪星ヶ台群	分析番号 55-72	SWHD	SWHD	8.75	1	SBIY	53.19	0
56	8・・09013	諏訪星ヶ台群	分析番号 55-72	SWHD	SWHD	17.43	1	SBIY	70.84	0
57	9・・18041	諏訪星ヶ台群	分析番号 55-72	SWHD	SWHD	1	1	SBIY	73.12	0
58	8・・42031	神津島恩馳島群	分析番号 55-72	KZOB	KZOB	6.74	1	KZSN	44.8	0
59	8・・17051	神津島恩馳島群	分析番号 55-72	KZOB	KZOB	5.79	1	KZSN	28.28	0
60	9・・10073	神津島恩馳島群	分析番号 55-72	KZOB	KZOB	8.78	1	KZSN	63.97	0
61	8・・09015	推定不可	分析番号 55-72	推定不可	推定不可			推定不可		
62	8・・34031	諏訪星ヶ台群	分析番号 55-72	SWHD	SWHD	4.54	1	SBIY	73.62	0
63	8・・32001	神津島恩馳島群	分析番号 55-72	KZOB	KZOB	5.06	1	KZSN	34.66	0
64	8・・41079	諏訪星ヶ台群	分析番号 55-72	SWHD	SWHD	15.4	1	SBIY	143.93	0
65	8・・09130	神津島恩馳島群	分析番号 55-72	KZOB	KZOB	14.25	1	KZSN	36.97	0
66	8・・42018	諏訪星ヶ台群	分析番号 55-72	SWHD	SWHD	7.46	1	SBIY	79.97	0
67	8IV・26017	諏訪星ヶ台群	分析番号 55-72	SWHD	SWHD	2.76	1	SBIY	71.44	0
68	出土地不明	諏訪星ヶ台群	分析番号 55-72	SWHD	SWHD	10.98	1	WDTN	74.52	0
69	8IV・35013	諏訪星ヶ台群	分析番号 55-72	SWHD	SWHD	6.11	1	SBIY	61.34	0
70	8IV・33013	諏訪星ヶ台群	分析番号 55-72	SWHD	SWHD	20.98	1	SBIY	142.56	0
71	8II・35083	諏訪星ヶ台群	分析番号 55-72	SWHD	SWHD	5.83	1	SBIY	56.8	0
72	8III・18052	諏訪星ヶ台群	分析番号 55-72	SWHD	SWHD	5.63	1	WDTN	112.19	0
73	8II・08008-1	神津島恩馳島群	分析番号 73-90	KZOB	KZOB	9.19	1	KZSN	70.28	0
74	8II・18095	諏訪星ヶ台群	分析番号 73-90	SWHD	SWHD	6.56	1	SBIY	89.72	0
75	9III・41002-2	天城柏峠群	分析番号 73-90	AGKT	AGKT	0.18	1	HNKT	110.33	0
76	9II・41005	神津島恩馳島群	分析番号 73-90	KZOB	KZOB	12.12	1	KZSN	38.16	0
77	8III・34002-2	諏訪星ヶ台群	分析番号 73-90	SWHD	SWHD	4.46	1	SBIY	104.89	0
78	8II・25区画	諏訪星ヶ台群	分析番号 73-90	SWHD	SWHD	5.99	1	SBIY	122.35	0
79	8III・3916	諏訪星ヶ台群	分析番号 73-90	SWHD	SWHD	12.33	1	SBIY	136.67	0
80	7I・4006	神津島恩馳島群	分析番号 73-90	KZOB	KZOB	12.25	1	KZSN	50.54	0
81	8IV・39区画	神津島恩馳島群	分析番号 73-90	KZOB	KZOB	13.17	1	KZSN	54.13	0
82	9I・24001-2	諏訪星ヶ台群	分析番号 73-90	SWHD	SWHD	13.97	1	WDTN	75.14	0
83	9II・36003-1	神津島恩馳島群	分析番号 73-90	KZOB	KZOB	5.41	1	KZSN	47.64	0
84	8I17049	諏訪星ヶ台群	分析番号 73-90	SWHD	SWHD	4.79	1	WDTN	88.45	0
85	8III・31区画	諏訪星ヶ台群	分析番号 73-90	SWHD	SWHD	9.95	1	WDTN	130.69	0
86	8III・33103	諏訪星ヶ台群	分析番号 73-90	SWHD	SWHD	9.59	1	WDTN	76.37	0
87	9I・41001-2	諏訪星ヶ台群	分析番号 73-90	SWHD	SWHD	12.06	1	WDTN	84.08	0
88	9II・41区画	諏訪星ヶ台群	分析番号 73-90	SWHD	SWHD	2.08	1	SBIY	72.08	0
89	8III・17003	諏訪星ヶ台群	分析番号 73-90	SWHD	SWHD	5.34	1	SBIY	69.43	0
90	8III・24054	諏訪星ヶ台群	分析番号 73-90	SWHD	SWHD	7.64	1	SBIY	88.49	0
91	8III・24018	神津島恩馳島群	分析番号 91-94	KZOB	KZOB	12.78	1	KZSN	37.62	0
92	8III・24079	諏訪星ヶ台群	分析番号 91-94	SWHD	SWHD	4.55	1	WDTN	90.66	0
93	8III・36037	神津島恩馳島群	分析番号 91-94	KZOB	KZOB	5.23	1	KZSN	49.32	0
94	8III・34057	諏訪星ヶ台群	分析番号 91-94	SWHD	SWHD	11.45	1	SBIY	89.05	0

表３　産地推定結果（２）

2．産地判別図

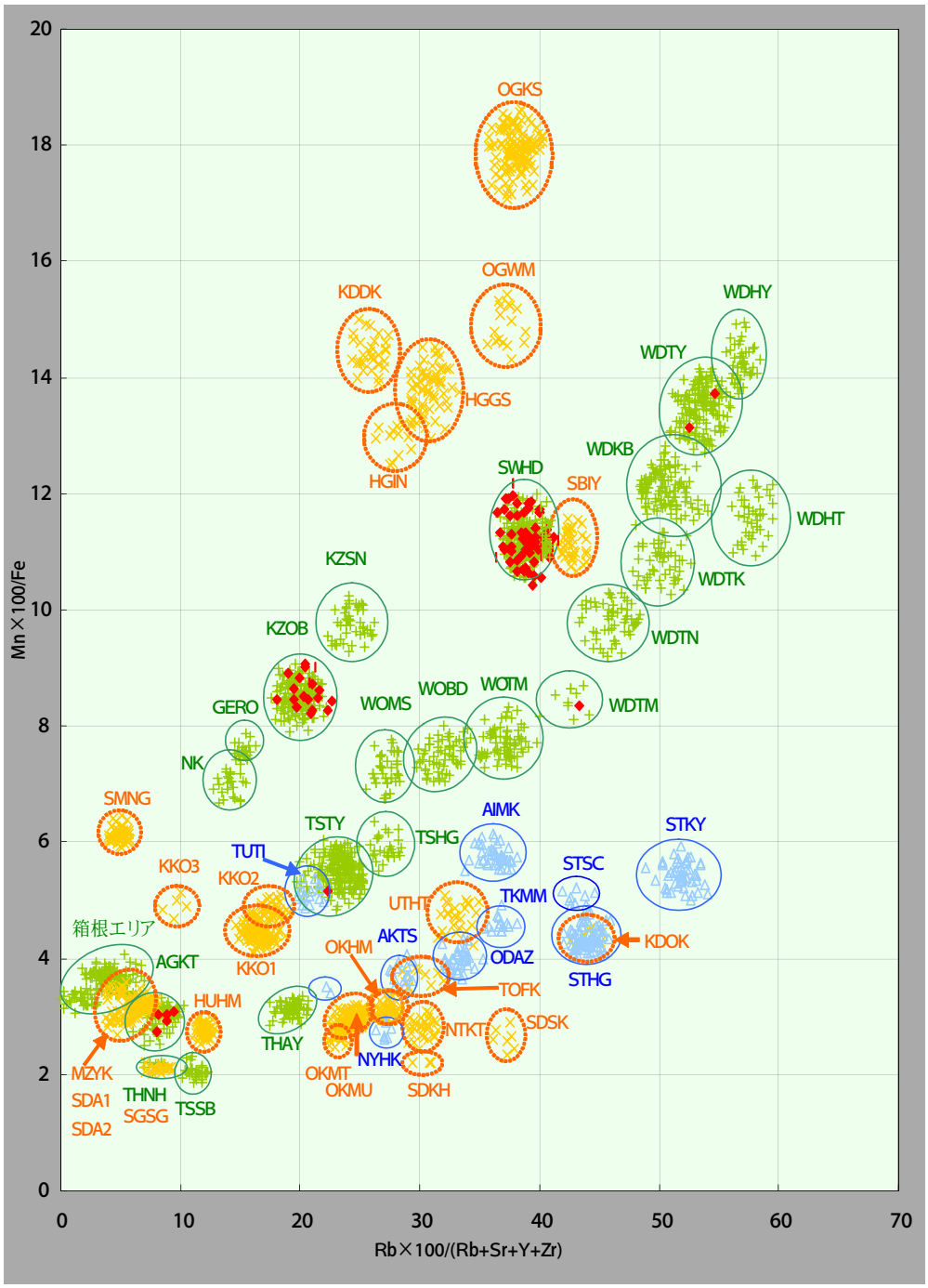
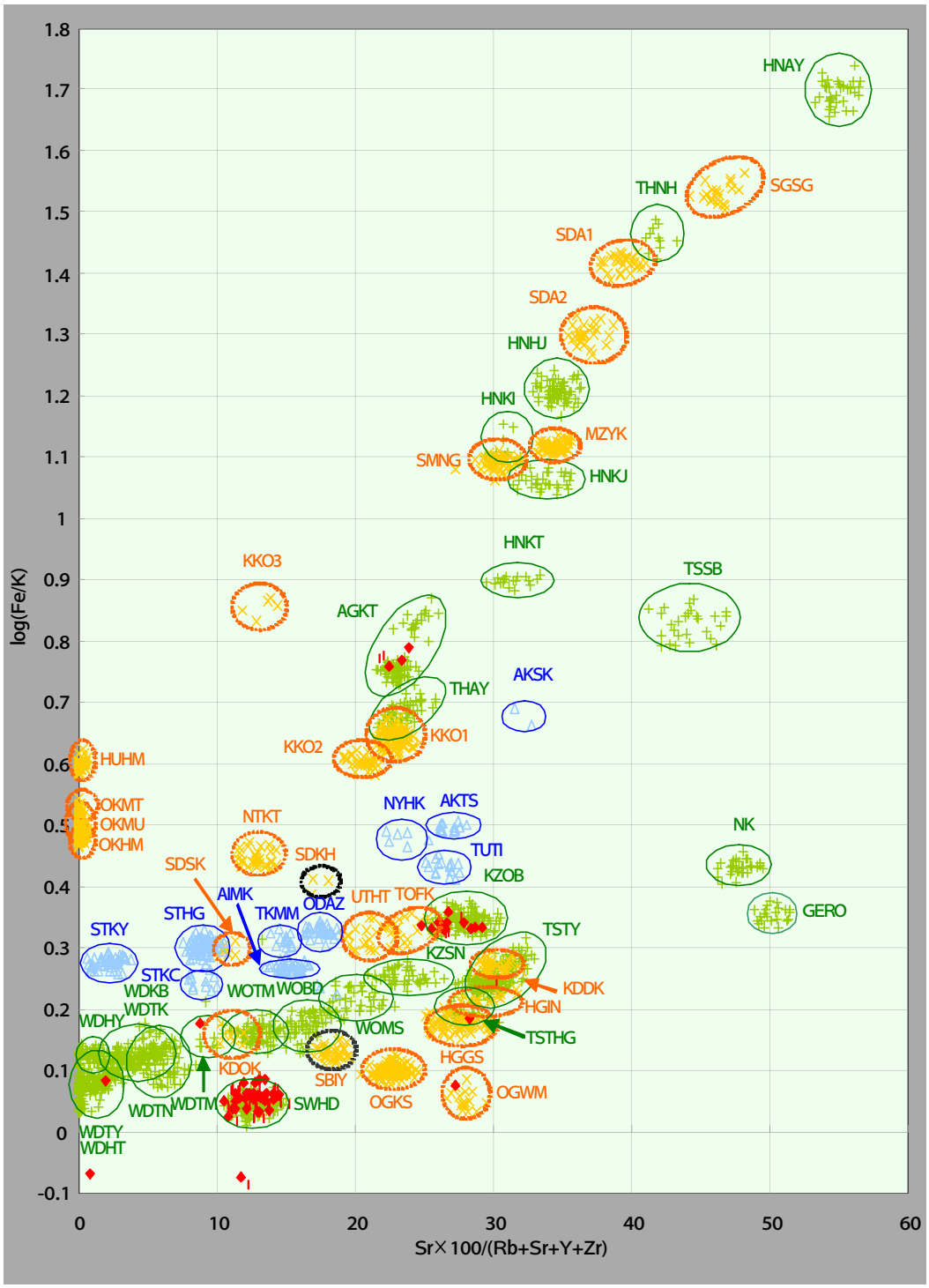


図２　産地判別図１



＋ 中部・関東の産地　× 東北北陸・隠岐の産地　△ 北海道の産地　◆ 遺跡出土試料　■ 再測定　○ 判別中の試料

図３　産地判別図２

３．産地データ

産地推定に用いられた産地のデータ

都道府県	地図No.	エリア	新判別群	旧判別群	新記号	旧記号	原石採取地(分析数)
北海道	1	白滝	八号沢群		STHG		赤石山山頂(19)、八号沢露頭(31)、八号沢(79)、黒曜の沢(6)、幌加林道(4)
			黒曜の沢群		STKY		
	2	上士幌	三股群		KSMM		十三ノ沢(16)
	3	置戸	安住群		ODAZ		安住(25)、清水ノ沢(9)
	4	旭川	高砂台群		AKTS		高砂台(6)、雨紛台(5)、春光台(5)
			春光台群		AKSK		
	5	名寄	布川群		NYHK		布川(10)
	6	新十津川	須田群		STSD		須田(6)
	7	赤井川	曲川群		AIMK		曲川(25)、土木川(15)
	8	豊浦	豊泉群		TUTI		豊泉(16)
青森	9	木造	出来島群		KDDK		出来島海岸(34)
	10	深浦	八森山群		HUHM		八森山公園(8)、六角沢(8)、岡崎浜(40)
秋田	11	男鹿	金ヶ崎群		OGKS		金ヶ崎温泉(37)、脇本海岸(98)
			脇本群		OGWM		脇本海岸(16)
山形	12	羽黒	月山群		HGGS		月山荘前(30)　朝日町田代沢(18)　櫛引町中沢(18)
			今野川群		HGIN		今野川(9)、大網川(5)
新潟	13	新津	金津群		NTKT		金津(29)
	14	新発田	板山群		SBIY		板山牧場(40)
栃木	15	高原山	甘湯沢群	高原山1群	THAY	TKH1	甘湯沢(50)、桜沢(20)
			七尋沢群	高原山2群	THNH	TKH2	七尋沢(9)、自然の家(9)
長野	16	和田 (WD)	鷹山群	和田峠1群	WDTY	WDT1	鷹山(53)、小深沢(54)、東餅屋(36)、芙蓉ライト(87)、古峠(50)、土屋橋北(83)、土屋橋西(29)、土屋橋南(68)、丁字御領(18)
			小深沢群	和田峠2群	WDKB	WDT2	
			土屋橋北群	和田峠3群	WDTK	WDT3	
			土屋橋西群	和田峠4群	WDTN	WDT4	
			土屋橋南群	和田峠5群	WDTM	WDT5	
			芙蓉ライト群		WDHY		
			古峠群		WDHT		
	17	和田 (WO)	ブドウ沢群	男女倉1群	WOBD	OMG1	ブドウ沢(36)、ブドウ沢右岸(18)、牧ヶ沢上(33)、牧ヶ沢下(36)、高松沢(40)
			牧ヶ沢群	男女倉2群	WOMS	OMG2	
			高松沢群	男女倉3群	WOTM	OMG3	
		諏訪	星ヶ台群	霧ヶ峰系	SWHD	KRM	星ヶ塔第1鉱区(36)、星ヶ塔第2鉱区(36)、星ヶ台A(36)、星ヶ台B(11)、水月霊園(36)、水月公園(13)、星ヶ塔のりこし(36)
	18	蓼科	冷山群	蓼科系	TSTY	TTS	冷山(33)、麦草峠(36)、麦草峠東(33)、渋ノ湯(29)、美し森(4)、八ヶ岳7(17)、八ヶ岳9(18)、双子池(34)
			双子山群		TSHG		双子池(26)
			擂鉢山群		TSSB		擂鉢山(31)、亀甲池(8)
神奈川	19	箱根	芦ノ湯群	芦ノ湯	HNAY	ASY	芦ノ湯(34)
	20		畑宿群	畑宿	HNHJ	HTJ	畑宿(71)
			黒岩橋群	箱根系A群	HNKI	HKNA	黒岩橋(9)
	21		鍛冶屋群	鍛冶屋	HNKJ	KJY	鍛冶屋(30)
静岡			上多賀群	上多賀	HNKT	KMT	上多賀(18)
	22	天城	柏峠群	柏峠	AGKT	KSW	柏峠(80)
東京	23	神津島	恩馳島群	神津島1群	KZOB	KOZ1	恩馳島(100)、長浜(43)、沢尻湾(8)
			砂糠崎群	神津島2群	KZSN	KOZ2	砂糠崎(40)、長浜(5)
島根	24	隠岐	久見群		OKHM		久見パーライト中(30)、久見採掘現場(18)
			箕浦群		OKMU		箕浦海岸(30)、加茂(19)、岸浜(35)
			岬群		OKMT		岬地区(16)
その他			NK群		NK		中ッ原1G、5G（遺跡試料）、原石産地は未発見

佐々木繁喜氏提供試料（まだ地図には入れていない）

青森	小泊	折腰内群	KDOK	小泊市折腰内(8)
岩手	北上川	北上折居1群	KKO1	水沢市折居(36),花巻日形田ノ沢(36),雫石小赤沢(22)
		北上折居2群	KKO2	水沢市折居(23),花巻日形田ノ沢(8),雫石小赤沢(2)
		北上折居3群	KKO3	水沢市折居(5)
宮城	宮崎	湯ノ倉群	MZYK	宮崎町湯ノ倉（54）
	色麻	根岸群	SMNG	色麻町根岸(48)
	仙台	秋保1群	SDA1	仙台市秋保土蔵（17）
		秋保2群	SDA2	仙台市秋保土蔵（35）
	塩竈	塩竈群	SGSG	塩竈市塩竈漁港(22)

表４　産地原石判別群（SEIKO SEA-2110L 蛍光Ｘ線分析装置による）

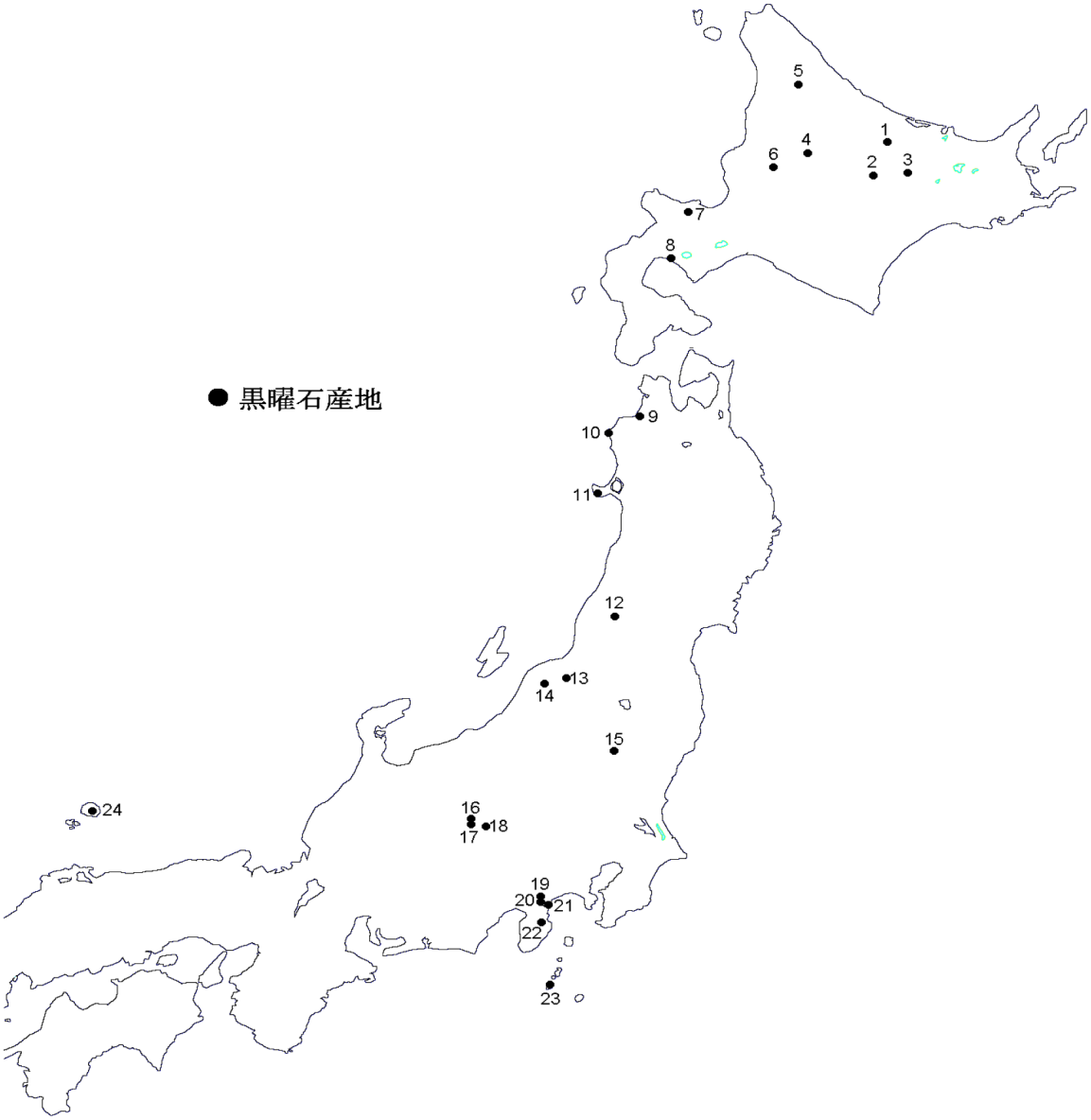


図４　黒曜石産地図

４．まとめ

遺跡出土試料の推定結果を産地ごとに集計したもの（産地推定可能な試料全体を100％として）

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WO)	ブドウ沢	WOBD	0	0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0
	高松沢	WOTM	0	0
和田(WD)	芙蓉ライト	WDHY	0	0
	鷹山	WDTY	2	2.2
	小深沢	WDKB	0	0
	土屋橋北	WDTK	0	0
	土屋橋西	WDTN	0	0
	土屋橋南	WDTM	1	1.1
	古峠	WDHT	0	0
諏訪	星ヶ台	SWHD	63	69.23
蓼科	冷山	TSTY	1	1.1
	双子山	TSHG	0	0
	擂鉢山	TSSB	0	0
天城	柏峠1	AGKT	5	5.49
箱根	畑宿	HNHJ	0	0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0
	黒岩橋	HNKI	0	0
	上多賀	HNKT	0	0
	芦ノ湯	HNAY	0	0
神津島	恩馳島	KZOB	19	20.88
	砂糠崎	KZSN	0	0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0
	七尋沢	THNH	0	0
新津	金津	NTKT	0	0
新発田	板山	SBIY	0	0
深浦	八森山	HUHM	0	0
木造	出来島	KDDK	0	0
男鹿	金ヶ崎	OGKS	0	0
	脇本	OGWM	0	0
羽黒	月山	HGGS	0	0
	今野川	HGIN	0	0
北上川	折居1群	KKO1	0	0
	折居2群	KKO2	0	0
	折居3群	KKO3	0	0
宮崎	湯ノ倉	MZYK	0	0
仙台	秋保1群	SDA1	0	0
	秋保2群	SDA2	0	0
色麻	根岸	SMNG	0	0
塩竈	塩竈港群	SGSG	0	0
小泊	折腰内	KDOK	0	0
魚津	草月上野	UTHT	0	0
高岡	二上山	TOFK	0	0
佐渡	真光寺	SDSK	0	0
	金井二ッ坂	SDKH	0	0
隠岐	久見	OKHM	0	0
	岬地区	OKMT	0	0
	箕浦	OKMU	0	0
白滝	8号沢	STHG	0	0
	黒曜の沢	STKY	0	0
	赤石山頂	STSC	0	0
赤井川	曲川	AIMK	0	0
豊浦	豊泉	TUTI	0	0
置戸	安住	ODAZ	0	0
十勝	三股	TKMM	0	0
名寄	布川	NYHA	0	0
旭川	高砂台	AKTS	0	0
	春光台	AKSK	0	0
不明産地1	NK	NK	0	0
下呂石		GERO	0	0
	合計		91	100

不可など	3	
総計	94	

表５　笹見原遺跡出土黒曜石産地組成

３．笹見原遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

山梨県忍野村笹見原遺跡では、縄文時代の遺構が検出されている。これらの遺構からは、住居構築材や燃料材などの一部と考えられる炭化材や、食糧などに利用されたと考えられる種実遺体などが多数出土している。また、出土した土器の中には、種実などに由来すると考えられる圧痕が認められるものもある。

今回の分析調査では、出土した種実遺体の放射性炭素年代測定を行い、年代資料を得る。また、炭化材や種実遺体の同定を行い、用材や植物利用に関する資料を得る。さらに、土器に見られた圧痕について、実態顕微鏡およびレプリカ法による観察を行い、どのようなものに由来するのか検討する。

１．種実遺体の年代

（１）試料

試料は、後述する種実遺体試料の中から、試料番号21（リンゴ属－ナシ属）を選択した。なお、試料は小片のため、少量でも測定可能な加速器質量分析法による測定を行う。

（２）方法

測定は、株式会社加速器分析研究所（ＩＡＡ）が行った。

（３）結果

年代測定結果を表６に示す。年代は、9240 ± 30BP であった。

番号	種別	遺構	年代値	δ13C	Δ14C	補正年代	Code No.
21	炭化物（果実）	No.J住2079	9270±30	-26.8±0.7	-683.5±2.6	9240±30	IAA-10069

1)年代は、1950年を基点とした年数。
2)放射性炭素の半減期は、5568年を使用した。
3)Δ13Cは、加速器による測定中に13C/12Cを測定し、標準試料の測定値との比較から算出した値。
4)補正年代は、同位体効果の補正を行った値。

表６　放射性炭素年代測定結果

（４）考察

種実遺体は、縄文時代の住居跡から出土しており、後述する種実同定でリンゴ属－ナシ属に同定されている。また、リンゴ属－ナシ属は、保存が困難であることから、晩夏～初秋の短期間に利用された可能性も指摘されている。この種実遺体の年代測定値（補正値）は、9240 ± 30BP であった。この年代は、関東地方や中部地方で行われた年代測定結果のうち、縄文時代早期の炭化材や貝の測定値（キーリ・武藤，1982）と一致する。このことから、種実遺体が出土した住居跡は、縄文時代早期に利用されていた可能性がある。今後、出土遺物との比較検討や周辺での調査事例との比較検討が望まれる。

２．種実遺体の種類

（１）試料

試料は、炭化した種実33点（試料番号１～33）である。また、後述する炭化材試料中にも種実遺体１点（試料番号59）が含まれており、種実同定試料に含めた。したがって、試料は34点である。

（２）方法

双眼実体顕微鏡で観察し、その形態的特長から種類を同定する。

（３）結果

同定結果を表７に記す。以下に検出された種類の形態的特徴を示す。

・オニグルミ（*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim) Kitamura）　クルミ科クルミ属

炭化した核の破片が検出された。大きなもので１㎝程度。表面は荒いしわ状となり、縦方向に溝が走っている。内部は子葉が入るくぼみがある。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zicc.）　ブナ科クリ属

子葉の破片が検出された。大きさは数㎜程度の破片が数個みられる。平らな面と曲面両方に、あらいしわ状の模様がある。

・リンゴ属―ナシ属（*Malus-Pyrus*）　バラ科ナシ亜科

炭化した果実片ならびに種実が検出された。破片から推定される大きさは1.5㎝程度。表面には薄い皮がある。果肉部分はスポンジ状となり、中心に５室あり、種子が２つずつ入っている。種子は、大きさが３㎜程度。楕円形で、偏平。表面は薄くて堅く、ざらつく。先端部が細くなってやや曲がり、「へそ」がある。種実の大きさからいえば、オオウラジロノキやミチノクナシなどにあたると思われる。

・キハダ（*Phellodendron amurense* Ruprecht）　ミカン科キハダ属

核ならびに果実が検出された。核は黒褐色で大きさは４㎜程度。半円形で、表面には細かい亀甲状の浅い網目模様がみられる。表面は薄くて堅く、やや光沢がある。果実は大きさが８㎜程度。球形と思われるが炭化により萎縮している。果皮は薄く萎縮している。内部に５室があり、核が入っている。

・ミズキ（*Cornus controversa* Hemsley）　ミズキ科ミズキ属

核が検出された。褐色で大きさは５mm程度。縦方向にややつぶれた球形。基部に大きな臍がある。縦方向に走る深い溝がみられる。

・不明炭化物

植物由来と思われるが、木材組織は認められない。大部分が前述した「リンゴ属―ナシ属」の果肉の部分の破片である可能性があるが、特定する事は難しい。

（４）考察

検出された種実は、いずれも山野に生育する種類であった（ただし、ミチノクナシについては渡来の可能性があるとする意見もある）。有用な種類については、山野での採取・利用が考えられる。

番号	試料名	種別	遺構	オニグルミ	クリ	リンゴ属－ナシ属（果実）	リンゴ属－ナシ属（種子）	キハダ（果実）	キハダ（種子）	ミズキ	不明炭化物	材
1	炭化物（殻）	胡桃 殻	No.9Ⅲ18028	1+	-	-	-	-	-	-	-	-
2	炭化物（殻）	胡桃 殻	No.9Ⅰ15006	1	-	-	-	-	-	-	-	-
3	炭化物（殻）	胡桃 殻	No.8Ⅱ09115	+	-	-	-	-	-	-	-	-
4	炭化物（種子）	種子	No.9Ⅲ09092	-	-	-	-	-	1+	-	+	+
5	炭化物（種子）	種子	No.9Ⅲ09111	-	-	-	-	-	1	-	+	-
6	炭化物（種子）	種子	No.9Ⅲ09095	-	-	-	-	1	5	-	-	-
7	炭化物（種子）	種子	No.9Ⅲ26037	-	-	-	-	-	-	-	+	-
8	炭化物（種子）	種子	No.J住2055	-	-	-	-	1	2+	-	+	+
9	炭化物（果実）	果実	No.J住2043	-	-	3+	2+	-	-	-	-	-
10	炭化物（果実）	果実	No.9Ⅳ25050	-	-	+	-	-	-	-	-	+
11	炭化物（果実）	果実	No.9Ⅲ09035	-	-	1+	4+	-	-	-	-	-
12	炭化物（果実）	果実	No.9Ⅲ18034	-	-	-	-	1+	3	-	-	-
13	炭化物（果実）	果実	No.9Ⅲ17132	-	-	-	-	-	-	1	-	-
14	炭化物（果実）	果実	No.9Ⅲ26063	-	1+	-	-	-	-	-	-	+
15	炭化物（果実）	果実	No.9Ⅲ17156	-	-	-	-	-	-	1	+	-
16	炭化物（果実）	果実	No.9Ⅲ17171	-	-	-	-	-	-	-	+	-
17	炭化物（果実）	果実	No.8Ⅱ09027	-	-	1+	-	-	-	-	-	-
18	炭化物（果実）	果実	No.J住2009	-	-	1+	-	-	-	-	+	-
19	炭化物（果実）	果実	No.J住2011	+	-	-	-	1	1	-	1+	-
20	炭化物（果実）	果実	No.J住2014	-	-	-	-	-	-	-	-	+
21	炭化物（果実）	果実	No.J住2079	-	-	1	-	-	-	-	-	-
22	炭化物（果実）	果実 果皮	No.9Ⅲ16068	-	-	1+	-	-	-	-	-	-
23	炭化物（殻）	殻	No.8Ⅳ15005	+	-	-	-	-	-	-	-	-
24	炭化物（殻）	殻	No.8Ⅱ33015	+	-	-	-	-	-	-	-	-
25	炭化物（殻）	殻	No.9Ⅲ17136	-	-	-	-	-	-	2+	-	-
26	炭化物（殻）	殻	No.9Ⅲ10011	-	-	-	-	-	-		+	-
27	炭化物（殻）	殻	No.9Ⅲ09093	-	-	-	-	-	-	1+	-	-
28	炭化物（殻）	殻	No.9Ⅲ09112	-	-	-	-	-	-	2	-	+
29	炭化物（殻）	殻	No.9Ⅳ35034	+	-	-	-	-	-	-	-	-
30	炭化物（殻）	殻	No.9Ⅳ34041　土器No.7内	1	-	-	-	-	-	-	-	-
31	炭化物（殻）	殻	No.J住2003	+	-	-	-	-	-	-	-	-
32	炭化物（殻）	殻	No.J住2004	-	-	-	-	-	-	1	-	-
33	炭化物（殻）	殻	No.J住2033	-	-	-	-	-	-	2	-	-
59	炭化物		No.9Ⅳ24008の直上	+	-	-	-	-	-	-	-	-

注）　+：砕片のため個体数推定が不可能であるもの。
　　数字+：数字以上の個体数が推定される。

表７　種実同定結果

クリやオニグルミは生食が可能で、長期の保存も可能であることから、古くから利用されてきた。皮が堅く残りやすいため、遺跡での出土例も多い。このうち、クリについては、縄文時代に栽培化された可能性も指摘されている。本地域でも栽培されていた可能性があるが、調査事例が少ないため詳細は不明である。一方、リンゴ属－ナシ属は、柔らかく化石として残りにくいことから、遺跡での出土例はほとんど知られていない。また、加工しない限り貯蔵することはできないため、結実した際に短期間で採集し、消費する必要がある。そのため、今回のリンゴ属－ナシ属についても、ある年の晩夏～初秋に採集され、それから短期間の間に何らかの理由により炭化したことが推定さ

れる。炭化の理由については、食べられない個体を残渣と共に火にくべた等の理由が考えられるが、詳細は不明である。キハダやミズキは、遺跡周辺の植生に由来すると考えられる。材や樹皮を利用するが、果実にはとくに用途がないことから、燃料材などに利用された木材や粗朶などに混じっていた可能性がある。

山梨県内の炭化種実同定は、弥生時代以降が中心である。フローテーション法などによって炭化種実を回収・同定し、様々な成果が得られている（櫛原，1999）。当社でも山梨県内の炭化種実同定を多数行っているが、その大部分が弥生時代以降である。当社で行った縄文時代以前の分析は、酒呑場遺跡など若干あるが、オニグルミ核の細片やコナラ属の子葉、ミズキなど堅くて残りやすいものが少量検出されているにすぎない。今回の結果は、これらの結果と基本的には一致している。また、リンゴ属－ナシ属の出土例は珍しいことから、縄文時代の植物利用を考える上で貴重な資料である。

３．炭化材の樹種

（１）試料

試料は、各遺構から出土した炭化材33点（試料番号34～66）である。このうち、試料番号59は種実遺体であり、前述の種実同定に含めた。各試料の詳細は、樹種同定結果ともに表７に記した。

（２）方法

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

（３）結果

樹種同定結果を表８に示す。試料番号35,36,44,54,63は、道管が認められることから広葉樹材であり、一部の試料については環孔材あるいは散孔材の組織配列を有することが推定された。しかし、全体的に保存状態が悪く、種類の同定には至らなかった。また、試料番号55は樹皮、59は種実遺体であった。その他の炭化材は、針葉樹１種類（モミ属）と広葉樹12種類（オニグルミ・カバノキ属・クマシデ属イヌシデ節・ブナ属・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・ケヤキ・サクラ属・チドリノキ・カエデ属・エゴノキ属・トネリコ属）に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を、以下に記す。

・モミ属（*Abies*）　マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部との境界は不明瞭。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で、１分野に１～４個。放射組織は単列、１～20細胞高。

・オニグルミ（*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura）クルミ科クルミ属

散孔材で、道管は比較的大径、単独または２～３個が複合して散在し、年輪界付近でやや急に管径を減少させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性～異性Ⅲ型、１～４細胞幅、１～40細胞高。

・カバノキ属（*Betula*）　カバノキ科

散孔材で、管孔は放射方向に２～４個が複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は同性、１～４細胞幅、１～30細胞高。

・クマシデ属イヌシデ節（*Carpinus* subgen. *Euarpinus*）　カバノキ科

散孔材で、管孔は放射方向に２～４個が複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は異性Ⅲ～Ⅱ型、１～３細胞幅、１～40細胞高のものと集合放射組織とがある。

・ブナ属（*Fagus*）　ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に２～３個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織は同性～異性」型、 単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

番号	遺　構	樹　種	備　考
34	No.9Ⅲ09047	ブナ属	年輪のわかる炭
35	No.8Ⅰ25038	広葉樹（散孔材）	
36	No.8Ⅰ25058	広葉樹（散孔材）	
37	No.8Ⅰ25069	チドリノキ	
38	No.8Ⅱ09116	エゴノキ属	
39	No.8Ⅱ25045	クリ	
40	No.8Ⅱ26066	サクラ属	
41	No.8Ⅱ26067	オニグルミ	
42	No.8Ⅱ27016	ブナ属	
43	No.8Ⅱ27038	カエデ属	
44	No.8Ⅱ42029	広葉樹（散孔材）	
45	No.8Ⅱ42009	ケヤキ	
46	No.8Ⅲ23036	クマシデ属イヌシデ節	
47	No.8Ⅲ24088	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
48	No.8Ⅲ31031	エゴノキ属	
49	No.8Ⅲ49040	ブナ属	
50	No.8Ⅲ49054	エゴノキ属	
51	No.9Ⅲ0114	カバノキ属	
52	No.9Ⅲ10022	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
53	No.9Ⅲ17166	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
54	No.9Ⅲ17172	広葉樹（環孔材）	
55	No.9Ⅲ17173	樹皮	
56	No.9Ⅲ34024	トネリコ属	
57	No.9Ⅲ層25区画	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
58	No.8Ⅳ26016	モミ属	
59	No.9Ⅳ24008の直上	種実	
60	No.9Ⅳ25021	ブナ属	
61	No.J住2090	オニグルミ	
62	No.J住2113	サクラ属	
63	1号住居柱穴内	広葉樹	
64	No.9Ⅲ09(2号住居)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
65	縄文2号住居内No.2	オニグルミ	
66	縄文2号住居内No.3	クマシデ属イヌシデ節	

表８　樹種同定結果

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*）　ブナ科

環孔材で、孔圏部は１列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

試料は保存状態が悪い。また、晩材部のみで早材部を欠く。道管径の変化から環孔材と判断した。小道管は漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高。

・ケヤキ（*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino）　　ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、１～10細胞幅、１～60細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・サクラ属（*Prunus*）　バラ科

散孔材で、管壁厚は中庸、横断面では角張った楕円形、単独または２～８個が複合、晩材部へ向

かって管径を漸減させながら散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、１～３細胞幅、１～30細胞高。

・チドリノキ（*Acer carpinifolium* Sieb. et Zucc.）　カエデ科カエデ属

散孔材で管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および２～３個が複合、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、１～10細胞幅、１～100細胞高を越える。細胞壁の厚さが異なる２種類の木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。年輪界はやや不明瞭。

・カエデ属（*Acer*）　カエデ科

散孔材で管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および２～３個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、１～８細胞幅、１～50細胞高。細胞壁の厚さが異なる２種類の木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

・エゴノキ属（*Styrax*）　エゴノキ科

散孔材で、横断面では楕円形、単独または２～４個が複合して散在し、年輪界付近で管径を減ずる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型、１～３細胞幅、１～20細胞高。

・トネリコ属（*Fraxinus*）　モクセイ科

試料は保存状態が悪い。環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独または２個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、１～３細胞幅、１～40細胞高。

（４）考察

炭化材は、住居跡などから出土したものであるが、出土遺構や出土状況の詳細は不明である。種類不明を除くと、針葉樹１種類、広葉樹12種類が認められ、多くの種類が利用されていたことがうかがえる。

確認された種類の多くは、冷温帯の落葉広葉樹林を構成する種類であり、とくにブナ属は極相林（ブナ林）を構成する。本地域は、標高900mを越えているが、こうした地域には現在でもブナを主とした森林が分布している。これらのことから、本地域の縄文時代には、ブナ属等を主とした落葉広葉樹林が分布していたことが推定される。詳細な検討は、各遺構の考古学的な時期判定を待ちたい。

確認された種類のうち、オニグルミ、カバノキ属、イヌシデ節、コナラ節、クリ、ケヤキ、エゴノキ属、トネリコ属は、比較的強度が高い材質を有しており、縄文時代では住居構築材や各種木製品などに利用されている（千野，1983；島地・伊東，1988；伊東，1991；高橋・植木，1994）。本遺跡においても、これらの種類が住居構築材などに利用されていたことが推定される。

今後、出土状況や時期等の詳細を明らかにした上で、用材に関する検討を行いたい。

４．土器中に見られた圧痕

（１）試料

試料は、３点の土器（試料番号 67 ～ 69）の破断面や表面に見られた、植物由来の可能性がある圧痕である。

（２）方法

土器の圧痕は、双眼実体顕微鏡にて表面観察を行ったあと、該当する部位を圧縮空気で清掃した。歯科用のシリコン印象材にて雄型を作成した後、双眼実体顕微鏡と電子顕微鏡で観察した。

（３）結果

以下に、各試料別に観察された特徴などについて記す。

・試料番号 67（No.8 I 17087-1 No.8 I17087-2 マイクロスコープ 6.7.8)

破断面の割口にみられるもので、-1 が雄型，-2 が雌型のように見える。大きさ７㎜程度の楕円形で、先端部が尖る。雌型の方は平滑で光沢があるが、雄型の方には縦方向に線状の模様がある。

・試料番号 68(No.8 I 17107 マイクロスコープ 1.2)

土器表面に見られるもので、楕円形。長さ９㎜、幅４㎜程度。

・試料番号 69(No.8 I 17085-1 マイクロスコープ 3.4)

土器内側に見られるもので、径２㎜で中空の円柱状の物質によって、斜めから押されたような形状に見える。

（４）考察

土器圧痕のうち、試料番号 67 では、線状の模様が認められ、植物の繊維等に由来する可能性がある。また、他の２点についても、痕跡の特徴から植物の可能性がある。しかし、いずれも表面が風化し、植物表面の微細な形状が印象として残っていない点や、全体の形状が不明であることなどから、種類や部位の特定には至らなかった。

引用文献

千野裕道　(1983)　縄文時代のクリと集落周辺植生－南関東地方を中心に－. 東京都埋蔵文化財センター研究論集，Ⅱ，p.25-42.

伊東隆夫　(1991)　日本の遺跡から出土した木材とその用途Ⅱ．木材研究・資料，26，p.91-189，京都大学木材研究所.

キーリ C.T.・武藤康弘　(1982)　縄文時代の年代．加藤晋平・小林達雄・藤本　強編「縄文文化の研究　1　縄文人とその環境」，p.246-275，雄山閣.

櫛原功一　(1999)　炭化種実から探る食生活－古代から中世を中心に－.「帝京大学山梨文化財研究所研究集会報告集２　食の復元　遺跡・遺物からなにを読みとるか」，櫛原功一編，p.81-98，岩田書院.

島地　謙・伊東隆夫編　(1988)　日本の遺跡出土木製品総覧．296p.，雄山閣.

高橋　敦・植木真吾　(1994)　樹種同定からみた住居構築材の用材選択. PALYNO，2，p.5-18，　パリノ・サーヴェイ株式会社.

４．忍野笹見原遺跡のテフラ層序

都留文科大学
上杉　陽

１．結論

1）本遺跡において、確認ないしは推定される遺物・遺構などのテフラ層位は以下の通りである。

a）図6の第１８層（Ｓ－２３層？）表層に切り込む遺構・遺物・焼土・富士系溶岩製焼石（平安時代後期）があった。それを覆う土層は腐植の黒みが薄い、いわゆる中世土（第２６：Ｓ－２４－９～１０）であった。その絶対年代は１１～１２世紀以降と思われる（上杉ほか、２０００）。

b）第１６層（Ｓ－１８～２１層？）表層に切り込む遺構があり、第１７層（湯船第二スコリアＳ－２２スコリア層/概略２２００年前）中に土器片や炭化木片が散在した。

c）第9層（縄文時代中期Ｓ-5層/５０００～４５００yr BP）に覆われる割れ目と黒曜石片などが西壁およびその直近内側で確認された。

d）第4層から第2層上半にかけてに、遺構、土器片（撚糸文～押型文）、黒曜石製ヤジリ、黒灰色緻密な細粒凝灰岩製のフレーク、局部磨製石斧、焼石、焼土が確認されたとのことであった。これを「縄文土器包含層」と称することとする。

そのテフラ層位は、遺跡の西壁・北壁・東壁で、１９９９年１１月時点で確認した限りでは、Ｓ-0-１～3層に対比される例が多かった。しかし、火山灰層序学的考察および放射性炭素年代の比較検討からは、従来の常識的な年代観で1万年前を越える遺構・遺物が古富士火山系テフラ（Ｙ-１４１-３～１３８層）中に伏在していた可能性を否定出来ない。

e）図6の－4層（Ｙ－１３１テフラ層：概略1.６８～1.６２万年前）の土層表層部に直径１５㎝前後の石英安山岩質（デイサイト質）凝灰岩の扁平円磨礫、径8㎝の球形礫、径１０～１５㎝の閉曲面で囲まれた長柱状の礫が挟在する（付編図版１０・１１）。これらは人為的に集められた石ではなかろうか？この層位は相模野ではＢ１暗色帯と称される部分に当たり、遺物・遺構が多数確認されている。直前のＹ－１２８期とＹ－１３０期には古富士火山から大規模な火砕流～泥流が発生し、北麓では、多数の堰止め湖が発生した。特に忍野では大規模な湖沼の存在が推定される。本遺跡は狩猟採集生活上、好位置にあったと考えられる。

２．これまでの経過と本報告書の主目的

１９９７年9月２５日段階

忍野笹見原遺跡発掘現場の特に西側の壁面に露出していた自然土層を筆者は１９９７年9月２５日に観察し、表層を第２７層として第1層までを区分し、挟在する降下火山砕屑物（以下テフラと略称）を鑑定し、これらの土層に推定標準テフラ番号をつけた。標準テフラ番号は、新富士火山系テフラが１７０７年の宝永スコリア層をＳ－２５番として、概略１.０５万年前のＳ－０－１番であり、古富士火山系が1.１２万年前のＹ－１４１－３番から、概略１０万年前のＹ－１番までが登録されている。

新富士火山系テフラと古富士火山系テフラは多くの地点では整合状に連続して累重するが、斜面地域では、しばしば、波長が長く、波高が短い不整合面（斜交関係）をもって、下位が切られることがある。しかしながら、波長が長いため、狭い露頭面では、識別しがたいことが多い。

また、新富士火山系テフラ内部にも、古富士系テフラ内部にも、中規模・小規模の斜交関係が認められるものであるが、この時点では、特に明確な斜交関係は発見出来なかった。

１９９７年時点では、現世土（第２７層）の下位の第２６層を室町～平安後期のＳ－２４－９～１０層（第２６層）、第2層を概略１.２４万年前のＹ－１４１－１層、第1層を概略１.２８万年前のＹ－１４０と推定した。１９９９年7月２７日に提出した報告書（以下、上杉、１９９９と称する）添付の柱状図は、この土層番号で記述されている。

遺物・遺構の可能性があるものとしては、弥生時代中期の第１８層（Ｓ－２３層？）に切り込む遺構・遺物・焼土・富士系溶岩製焼石（平安時代後期）、弥生時代最初期の第１６層（湯船第二スコリア・指標層Ｓ－２２スコリア概略２２００年前）に覆われる遺構・炭化木片、第9層（縄文時代中期Ｓ－5層）に覆われる地割れ跡と黒曜石片などを西壁およびその直近内側で確認した。この鑑定結果からは、この遺跡が平安時代になって、はじめて出現したものではなく、縄文時代から、人々はここで生活していた可能性が伺われる。

１９９８年１１月１６日段階

ほぼ1年後、１９９８年１１月１６日には、遺跡発掘現場はやや深く彫り込まれていた。特に南西壁部分が深く彫り込まれ、古富士系テフラの最上部がやや詳しく観察出来た。この時点での自然土層を、前述の第9層（Ｓ－5層）以下を再区分し、第0層まで記載した（図6参照）。

第0層が古富士火山期のＹ－１３７層であることはほぼ確実で、第1層がＹ－１３８層、第2層（前年度の旧第1層：Ｙ－１４１層）をＹ－１３９層に改訂した。この時点では、筆者は、第2層下半と上半に不整合（切り合いの関係）がなければという前提で、第2層上半部は下半部の続きでＹ－１４０層と判断した。そこで、その上位の第3層をＹ－１４１－１～3層、第4層をＳ－０－１層（１０３４０～９８００ yr BP）と推定した。

なお、この時点で、遺跡内で第5層上半部に切り込む遺構とその上方の覆土中に焼土・炭・石基（フレーク）を確認されていた。また、第5層下半部中に土器や石器、第5～4層を切る遺構・焼土・局部磨製石器・炭化木片、第3層上半部中に在地製の白色細粒凝灰岩製石片と土器片が確認されていた。これらの一連の「縄文遺物」のテフラ層位がどうであったのかを追求することが、後に本報告の主たる目的となっていった。

１９９９年7月２７日付けの報告書では、上記の縄文期の遺物・遺構は、テフラ層位で言えば、Ｙ－１３９～Ｓ－０－１期となるので、従来の常識的な年代観で言えば、１.３～０.９２万年前、つまり、縄文草創期のものと考えられると記載した。この時点で、道志川水系の青根馬渡遺跡ではＹ－１３９層上半部一帯から、隆起線文土器が確認されていた（上杉ほか、印刷中）。

しかしながら、この見解は、考古学的に推定出来る年代観と大きく食い違うものであった。これらの遺物は従来の関東地方の土器形式との対比では、縄文草創期最新期の撚糸文土器から早期中葉

の押型文土器までのものと考えられ、常識的な年代観としては、８０００年前前後以降６０００年前以前とするのが妥当とのことであった。年代観に最大で５０００年近いギャップを生じた。

この問題の火山灰層序学的な解決には、この遺跡でさらに下層の土層を掘り出すことと、さらに広い範囲で第2層を観察し、層内に切り合いの関係（斜交関係）があるのかどうかを確認することが必要であった。

１９９９年１１月１２日

この遺跡の発掘がほぼ終了し、埋め戻しが開始される直前の１９９９年１１月１２日に3度、この遺跡を訪れることとなった。既に遺跡面は以前にもまして広がり、かつ、特に西側は深く掘り下げられていた。特に北西側が深く掘り下げられ、標準テフラ番号でＹ－１２７番あたりまで露出していた。この時点で、新たにＹ－１３１期（概略１．６８～１．６２万年前）の土層上面（相模野ではＢ１暗色帯で、遺物が多数、出土する）から直経１５㎝前後の石英安山岩質（デイサイト質）凝灰岩の扁平礫、径8㎝の球形礫、径１０～１５㎝の閉曲面で囲まれた長柱状の礫が確認された。

急遽、お出まし願った山梨県埋蔵文化財センターの長沢宏昌・保坂康夫両氏の鑑定では、これらには加工痕がなく、石器とは言えないとのことであった。

本遺跡は、丹沢山地を背に古忍野湖～古忍野湿原を前面に擁する日当たりの良い緩斜面地域にある。この地域には長い川がないので、円磨礫が、土層中に挟在するわけがない。本来は遠方にあるはずの円磨された礫など、様々な形状のものを自然的に、ここに混在させるのは、至難の業であり、やはり、人為的運搬を推測するのが、妥当を思われる。この時期は、前述の如く、相模野第1暗色帯（Ｂ１層準）にあたり、神奈川県では石器が広く確認されている。本遺跡のこの層準には、加工痕がある「石器」はなかったが、人が運搬したと考えるのが妥当な「石」があったと言うことなのであろう。

さて、上記の遺跡壁面は、南面以外は、ほとんど完全に連続していた。非常に長い観察面が生じたために、Ｙ－１３８が下位を切って覆う例（付編図版１１）やＹ-１３７が下位を切って覆う例（付編図版１２）が確認された。また、前述の第2層の下半部と上半部の間にも、多くの地点で切り合いの関係があることがほぼ明らかとなった（付編図版１０・１１）。

全ての地点で切り合いの関係になっているのであれば、旧報告書の訂正は簡単であるが、そうはうまくいかなかった。それは、切り合いの関係にある地点と連続する地点が混在していたためである。整合状に連続している地点もあったのである（付編図版１１）。

こうなると、前述の「縄文遺物包含層」の全てが、切り合いの関係がある一帯だけに存在すると断言出来ないのである。

2年前に採集した壁面土層試料が、切り合いの関係がある部分だけで採集されたものであったのか、そうではなかったのかは、もはや、露頭が削剥されてしまっている以上、試料分析からは証明しようがない。

そこで、再度、試料を１９９９年１１月段階の壁面から採集しなおすとともに、古富士火山系テフラ最上部から新富士火山系テフラ中部までの模式地である篭坂峠南方の駿河小山町須走すぎな沢（静岡県駿河小山町すぎな沢：篭坂峠南方２．2㎞、山頂よりＮ８４-E・１１．２５㎞）で、新たに詳細

な標準柱状図を作成し、Ｙ－１３４～Ｓ－１０番テフラから試料を再採集し、分析し直した（図7）。また、本遺跡に多少近ずく富士山頂からＮ７８-E,１９.２㎞にある明神林道拡幅工事現場でも断面記載を行った。この地点の断面写真が付編図版８～９である。ここでは、Ｙ－１４１－３黒色帯の上に、Ｓ－０－１～Ｓ－０－６までの細粒小豆色火山灰に墨を書けたような層相を示す黒土層がある。これが新富士火山系富士黒土層（フジクロFB）である。これに対して、Ｙ－１４１－３の黒土層が古富士火山系富士黒土層である。締まって、光沢があり、削るとテカテカと光る。ところが、ここでは、Ｓ-０-２以下がやや締まり、古富士系テフラ群（Ｙ－１４１－１～３）と多少近い層相を示し、本遺跡断面の第４層と５層に類似する。

付編図版１０・１１・１２は、忍野笹見原遺跡の１９９９年１１月段階での断面である。切り合いの関係にある部分（付編図版１０）と、そうではなく連続的な関係にある部分（付編図版１１の中央部）がある。この時点では、切り合いの関係にある部分の方が長かったが、だからといって、それ以前の状態でも、切り合い関係にある部分がより長かったかどうかはわからない。

そこで、重要な試料については、模式地すぎな沢の主要土層試料と笹見原遺跡土層試料の両方を、同一の業者に送付し、β社加速器による14Ｃ年代測定を行った。結果は、後述するように深刻なものであった。

３．富士系標準テフラ柱状図・テフラカタログ

図５は、前述の駿河小山町須走すぎな沢の詳細柱状図用の凡例集である。図７は、駿河小山町須走すぎな沢の詳細柱状図である。但し、ここでは概略３２００年前のＳ－１０スコリア層から概略１.５８万年前のＹ-１３３テフラまでしか記載していない。今回の主目的のためにはこれで十分である。

表９～１９は、今回用いた降下火山砕屑物（テフラ）カタログ類である。

１．肉眼～実態顕微鏡７０倍観察

２．偏光顕微鏡１００倍で富士系テフラ（主としてスコリア質火山砂や火山礫）を砕いて、０.０６３～０.１２５㎜にしたものを観察

３．富士系ではあるが最初から０.１２５㎜以下のサイズであったもの、富士系テフラ以外の他火山起源細粒テフラ、周辺山地などから飛来した風成塵堆積物。植物珪酸体・動物珪酸体などの微化石を鑑定

表９～１９は、これらの分析項目により求められたテフラカタログ個票を整理し、図表化したものである。

図７はこうしたデータをもとに作成した静岡県駿河小山町須走すぎな沢の模式露頭の標準柱状図である。その最左欄には、最近まで、日本の14Ｃ年代測定の中心的な存在であった学習院大学理学部年代測定室（木越研究室）のこれまでに得られたデータを黒字で示してある。これに対して、最近になって、中心的な存在となりつつある加速器年代のうちのアメリカβ社の計測結果を青地で示してある。木越研年代で１万年前以前となるものが、ほとんど８０００年代となっている。この点が、忍野笹見原遺跡の「縄文遺物包含層」の時代推定に否定的な影響を与えている。

４．本遺跡自然土層の標準テフラ層位についての一部修正

図6は、１９９９年7月2日に提出した報告書「忍野村笹見原遺跡のテフラ層序」に添付した標準柱状図3枚の改訂版である。今回は1枚の図に圧縮してある。この忍野笹見原遺跡標準柱状図は、実は、切り合いの関係があった部分の柱状図で、Ｙ－１４０～１４１－3が抜けている。この部分が観察出来るのは付編図版１１の中央部であるが、残念ながら、１９９９年１１月１２日時点では、この部分の試料を採集しておらず、今回は分析ができなかった。前回のテフラ鑑定は連続しているとの前提で、進められたが、今回は、切り合いの関係がある部分についてしか、試料採集をしておらず、従って、Ｙ－１４０～１４１－3間については、テフラカタログを作成していない。

まず、最初の大規模な切り合いの関係（斜交関係）が認められるＹ－１４１－3とＳ－０－1との関係について述べる。

古富士火山最末期のＹ-１３７期にはいると、地球は急激に温暖化を開始し、Ｙ－１４１－3までの間が、やや温暖な晩氷期となる。この時期を通じて、本遺跡では前面の忍野低湿地を基準面として、高いところほどより削られる環境にあった。つまり、南側はさほど削剥されないが、北側ほど、多数の枚数のテフラが削られたのである。Ｓ－０－1テフラ降下直前には、あちこちで、Ｙ－１４０～１４１－3が削られてしまったが、削られずに、そのまま、順次、堆積が進行したところもあった。人々は、そうした多少の凸凹があるところで生活していた。その時期は概略1万 yrsBP（木越研年代）、あるいは８７００年前（β社加速器年代）であった。やがて、新富士火山の活動が本格化し、大量の溶岩が流出し、忍野には大きな湖ができていた。降ってきたものは、当たっても痛くない「火山砂・火山灰」で、植物も被害を受けなかった。肥料程度にしかならなかったものと思われる。これらが新富士系のＳ－０－1～6である。本遺跡では、長く見て、Ｓ－０－3まで、人々は生活していた。木越研年代で１０５００年前から７５００年前までである。β社年代で８１００～７７００年前である。

図6の柱状図で、一部訂正をした箇所が他にもある。それは、第１４層である。本層は、湯船第一スコリア（Ｓ－１０・１１層）と判定したが、その後、忍野村鷹丸尾溶岩突端西縁でハザードマップ作成用の穴が掘られ、そこでの観察から、本層については、湯船第一スコリア層に特徴的な斜長石の集状斑晶が少ないことなどから、むしろ、道志川長又に存在したＳ－１２－1～2なのではないのかとの意見が出てきた。そこで、この問題が決着するまで、第１４層をＳ－１１ or １２とする。

５．本遺跡主要土層および模式地すぎな沢の 14 Ｃ年代

今回求めた年代値はβ社の加速器年代である。従来の日本の14Ｃ年代値は圧倒的に学習院大学理学部年代測定室（木越研究室：GaK 番号）のものであった。しかしながら、木越邦彦教授の定年退官に伴い、学習院大学理学部年代測定室は閉鎖され、現在では、その他の多数の機関で、バラバラに年代測定がなされている。主流は、名古屋大学年代測定施設の加速器年代（NUTA 番号）であるが、ここは国立の施設であり、民間の依頼を自動的に受け入れるわけではない。民間機関では、アメリカβ社に加速器年代測定を様々な業者を通して依頼することが多くなった。測定費は1点が1

0万円であり、かっての木越研の年代測定費の3倍～数倍にもなる。

この両年代系列間に、どのような関係があるのか、方程式的な関係は与えられていない。そこで、かって、木越研に年代測定を依頼した静岡県駿河小山町須走スギナ沢にある新富士火山～古富士火山上部テフラの模式地（篭坂峠南方２．２㎞、山頂よりＮ８４-E・１１．２５㎞）の同一の試料群について、β社加速器年代をも求めてみた。また、本遺跡の「縄文土器包含層」のβ社加速器年代資料をも併せて求めた。以下に、これらの結果を示す。

1）β社の加速器は非常に若い年代を出す。

Ｙ－１４１－３－１層の14Ｃ年代は学習院大学木越研の測定値では１１７００±３１０yrBPであった。これに対して、β社の加速器14Ｃ年代は８６７０±３５yrBPで、３０４０年ほど若い値となった。同じく、Ｙ－１４１－３－３の年代は木越研の１１２１０±２１０yrBPに対して、８０５０±３５年で、３１６０年ほど若い値となった。同じく、Ｓ－０－３－３の年代は木越研の７７２０±１１０yrBP～７５２０±１１０yrBPに対して、６８３５±３０yrBPで、８８８～６８５年ほど若い値となった。また、すぎな沢のＳ－１表層部の木越研14Ｃ年代は６１２０±１５０yrBPであったが、本遺跡のＳ－１層のβ社加速器14Ｃ年代は６０５０±３０yrBPで７０年ほど若くなる。本遺跡のＳ－５層のβ社加速器14Ｃ年代は４６５０±３０yr BPであるのに対して、木越研の古い時期の年代は５０００～４５００yrBPでほとんど差がない。

以上のような状況であり、古い時期の学習院大学年代測定室（木越研）の年代系列とβ社の最近の加速器年代系列は、同じ放射性炭素年代とは言っても、実際には、別系統の年代値であり、同列には論じられないことがわかる。若い時期（縄文中期）の年代値は、相互にさほどの差がないが、1万年前を越えると、大きなギャップを生ずる。木越研の年代値の方が古く、β社の年代値は若い値を示す。

2）β社加速器年代で８０００年yr BPを越えていれば、木越研年代では１１０００yrBPを越える年代となる。

本遺跡のいわゆる「縄文土器包含層」のβ社加速器14Ｃ年代は、最下部から、８１５±２５yrBP、８７３０±３５yrBP、８１８０±３５yrBP、７９００±３５yrBP、７６９５±３５yrBPであった。これらの遺物包含層を覆う覆土層をさらに覆う部分（第１５層下半）で６０５０7３０yr BPであった。これは、模式地すぎな沢のテフラ層位でいえば、Ｙ－１４１－３－１～Ｓ－０－３－２に当たる年代である。つまり、従来の木越研年代値で１１０００yrBPを越える年代値はβ社加速器年代では８０００年yrBP代となるのである。

今回採集した最下層の炭化木片の年代は８１５±２５yrBPであった。本来ならば、８７３０±３５yr BPより、古い年代でなければならないが、１２世紀という極めて新しい年代を示した。

このことは、β社加速器14Ｃ年代はより高価格であり、より誤差が少ない表示にはなってはいるが、実際には、非常に大きな誤差を伴う危険をもはらんでいることを意味している。β社が用いる加速器では炭素試料が僅か数ミリグラムで足りるのに対して、木越研の場合は数グラムを要する。ということは、数グラム中では僅かの汚れであっても、局部的には大きな汚れとなることがあり、木越研のデータ値には大きな影響を与えないが、β社加速器14Ｃ年代 には致命的な誤差を与えることがあるのである。また、ちょっとした操作ミスが致命的な影響を与える危険も大きいのであろう。

14Ｃ年代をはじめとする物理化学的な様々な「絶対年代」というものは手法により、あるいは機

械により、系統的な癖を生ずる。その意味で、「絶対年代」は、絶対に、絶対年代ではない。相互の比較の際にもっとも重要なのは、どのテフラ層位から出土したのかということにならざるを得ない。

６．文献

泉　浩二・木越邦彦・上杉　陽・遠藤邦彦・原田昌一・小島泰江・菊原和子（１９７７）富士東麓の沖積世ローム層の年代．第四紀研究．１６（２），８７-９０．

町田　洋・新井房夫（１９７６）広域に分布する火山灰 - 姶良 Tn 火山灰の発見とその意義．科学．46，339-347.

町田　洋・新井房夫（１９８３）鬼界カルデラ起源の新広域テフラと九州における更新世後期大火砕流の噴出年代．火山，２８，２０６．

町田　洋・新井房夫（１９８３）広域テフラと考古学。第四紀研究，２２，１３４-１４８．

町田　洋・新井房夫（１９９２）火山灰アトラス -[日本列島とその周辺２７６頁]-。東大出版会。

宮地直道（１９８４）富士火山１７０７年火砕物の降下に及ぼした風の影響．火山，２９，１７-３０．

宮地直道・鈴木茂（１９８６）富士山東麓，大沼藍沢湖成層のテフラ層序と花粉分析．第四紀研究，25，225-233.

宮地直道（１９８８）新富士火山の活動史．地質学雑誌，９４，６，４３３-４５２．

宮地直道（１９９３）新富士火山の噴火史．科研費火山災害報告書．

宮地直道（１９９６）富士山東斜面に分布する新富士火山のテフラと熔岩。日本第四紀学会編「第四紀露頭集 - 日本のテフラ」２５２頁：２４２．

忍野村（２０００）笹見原遺跡土層の部、Ⅰ。忍野村教育委員会。

上杉　陽（１９８９）新期ローム層中に残された突発事変の跡．関東の四紀，（１５），１１-２４．

上杉　陽（１９９０）富士火山東方地域のテフラ標準柱状図 - その１：Ｓ－25～Ｙ－114.関東の四紀，(16)，３-28.

上杉　陽（１９９８）地史。富士吉田市史史料編第一巻，自然・考古。８０９頁，１４１-３９９頁，．富士吉田市

上杉　陽（１９９９）南側調査区Ｃトレンチ下柳沢層上部層のテフラ層位。２１～２７．下柳沢遺跡。早稲田大学。

上杉　陽（２０００）富士吉田市及び周辺地域の古地理の変遷。富士吉田市史。通史編第一巻，原始・古代・中世，６９４頁，１-７４頁。

上杉　陽・遠藤邦彦・原田昌一・小島泰江・泉　浩二（１９７９）富士山北・東麓完新世テフラ類層中の斜交関係．第四紀研究，１７（４），２０７-２１４．

上杉　陽・木越邦彦（１９８６）富士黒土層の１４Ｃ年代．火山，第2集，２，３１（1），２６５-２６８．

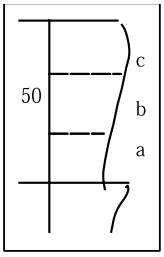
上杉　陽・堀内　真・宮地直道・古屋隆夫（１９８７）新富士火山最新期のテフラ－その細分と年代－．第四紀研究，２６（1），５９-６８．

上杉　陽・白石浩之・上本進二・砂田佳弘・米澤　宏・由井将雄（１９９６）神奈川県綾瀬市蟹ヶ谷，吉岡遺跡群のテフラ層位。日本第四紀学会編「第四紀露頭集 - 日本のテフラ」２５２頁：１９９。

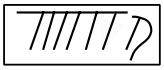
上杉　陽・米澤　宏・開原志寿江・中村仁子・岩井郁乃・重籐伸子（１９８０）富士山東麓 の古期テフラ累層．自然と文化（平塚市博物館研究報告），（３），３３-４６．

上杉　陽・米澤 宏・宮地直道・千葉達朗・肥田木 守・細田一仁・米澤まどか・由井将雄（１９９２）富士系火山泥流のテフラ層位．関東の四紀，（１７），１-１９．

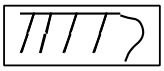
上杉　陽・米澤　宏・上本進二（印刷中）神奈川県道志川沿岸青根馬渡遺跡群のテフラ層位。かながわ考古学財団調査報告。財団法人 かながわ考古学財団。



各テフラ層の境界は実線
フォールユニット境界は破線
層厚の単位はcm。

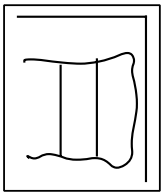


各テフラ層最上部の黒色土。
実線間隔が狭いほど黒みが強い。



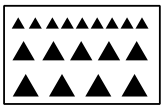
各テフラ層最上部黄褐色風化帯。
破線間隔が狭いほど風化度大。

各テフラ層最上部の粘土質風化帯。
乾燥状態でクラック帯。

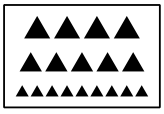


上部クリンカー
熔岩層　中部塊状部
下部クリンカー

スコリア礫（70，10±）とあれば，最大径70mm，平均径10mm前後。（10～5）とあれば，10～5 径が目立つ



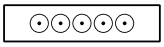
上方に細粒化。（70→5）とあれば最下部が直径70mm，最上部が5mm



下方に細粒化。（5→70）とあれば最下部が直径5mm，最上部が70

赤紫色～赤桃色スコリア

肉眼的無気孔～微細気孔スコリア



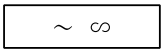
細気孔スコリア（気孔径1mm以下）

皮膜が厚く重いスコリア

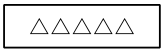
皮膜が薄く破砕しやすいスコリア

スコリア質火山砂（2ミリ以下）

スコリア質火山灰（63μ以下）



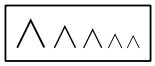
火山毛 ～火山涙



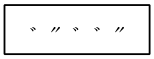
風化スコリア（本来の色調性状不明）

スコリア～軽石（スコパミ）

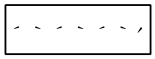
軽石礫（2mm≦）



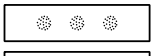
桃色軽石礫



軽石質火山砂

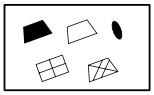


軽石質火山灰

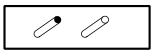


火山豆石

黒曜石～松脂石

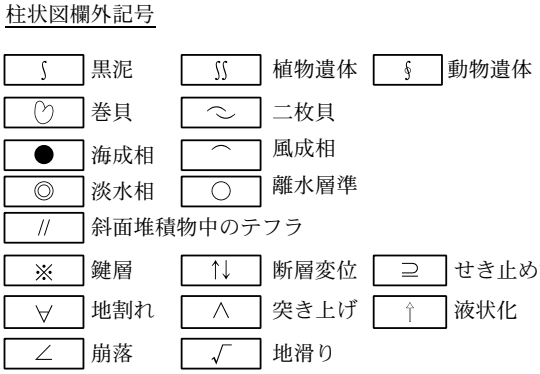


濃色岩片，淡色岩片，赤紫色岩片
熱水変質岩片，ひび割れ岩片



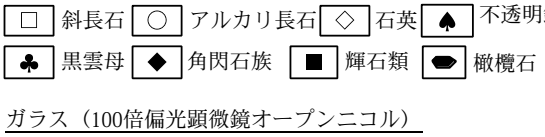
炭化木片　非炭化木片

柱状図欄外記号



Ha・d　調和下方浸食型　　Ha・u　調和上方浸食型
Ha・p　調和平行浸食型　　Hd・d 非調和下方浸食型
Hd・u　非調和上方浸食型　Hd・p 非調和平行浸食型

斑晶鉱物



ガラス（100倍偏光顕微鏡オープンニコル）

H 平板淡色ガラス　C 淡色で気孔率20～50％　T 淡色で気孔率50％以上　J 濃色で気孔率が50％以下　S 濃色気孔率50％以上
fl 剥片状～塊状　bw 泡壁状　Jp 火山毛　Jt 火山涙　c 柱状気孔
o 球形気孔　co 柱球状気孔　t ねじれたもの　m 微結晶多し
a 晶子～小粒ガラス多し　r 赤色系ガラス
pale 淡色　deep 濃色　light 明色　dark 暗色

ガラス（100倍反射光観察の場合）

i 氷状　pi 泡入り氷状　si 半透明氷状　wo 白色メノウ状
ps 粉雪状　sh シャーベット状　ms 泥雪状　c コークス状
r cr エビ煎餅状

土器

b 黒色　br 褐色　or 橙色　y 黄色　p 桃色　pl 紫色　gr 灰色
gre 緑色　bl 青色　w 白色　sl 銀色　r 赤色　dk 暗色
sco スコリア　pm 軽石　scopm スコパミ　vs 火山砂　va 火山灰
lf 石質岩片　np 微細気孔～無気孔　fp 細気孔　sp 大気孔

図５　テフラ柱状凡例図

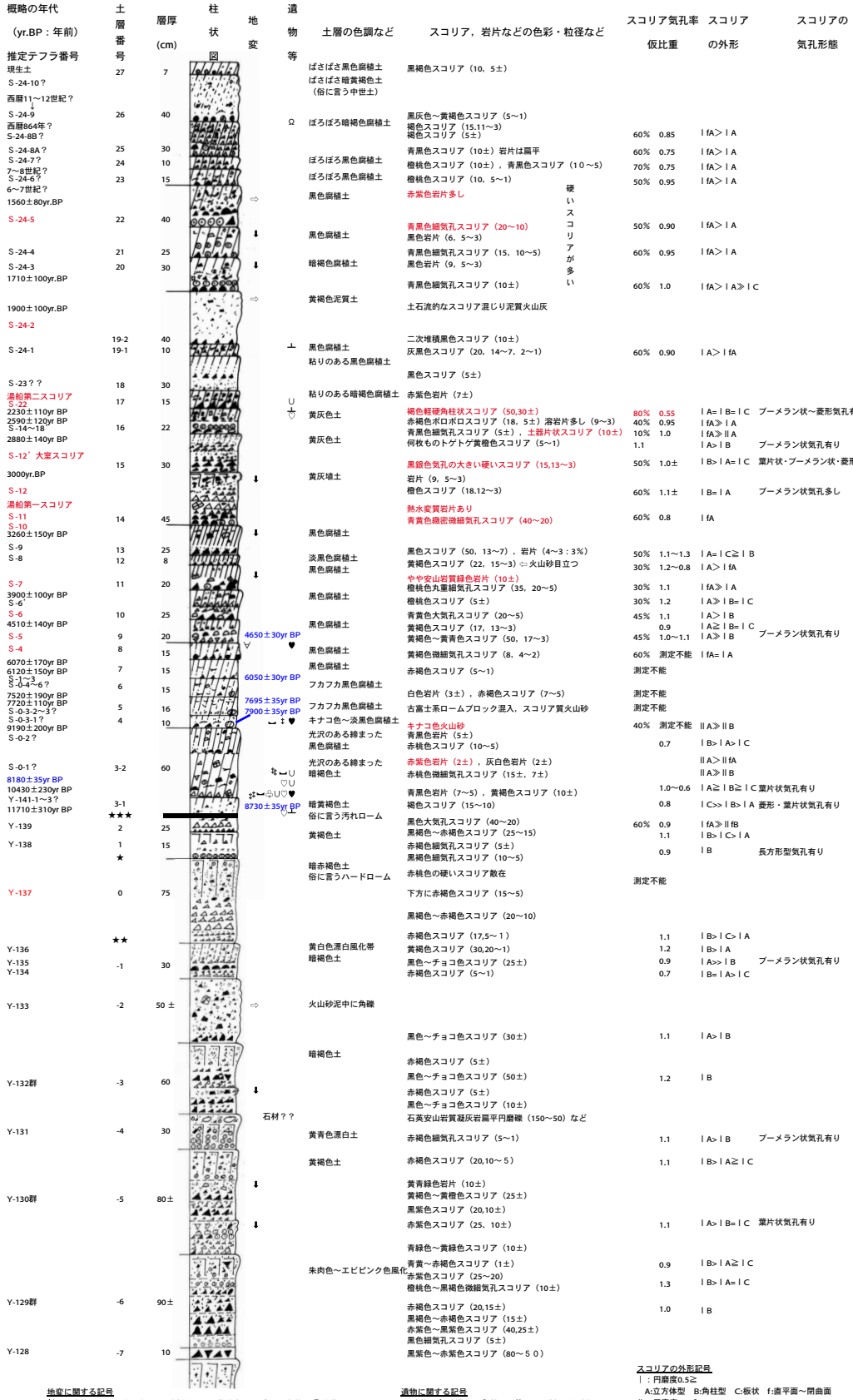
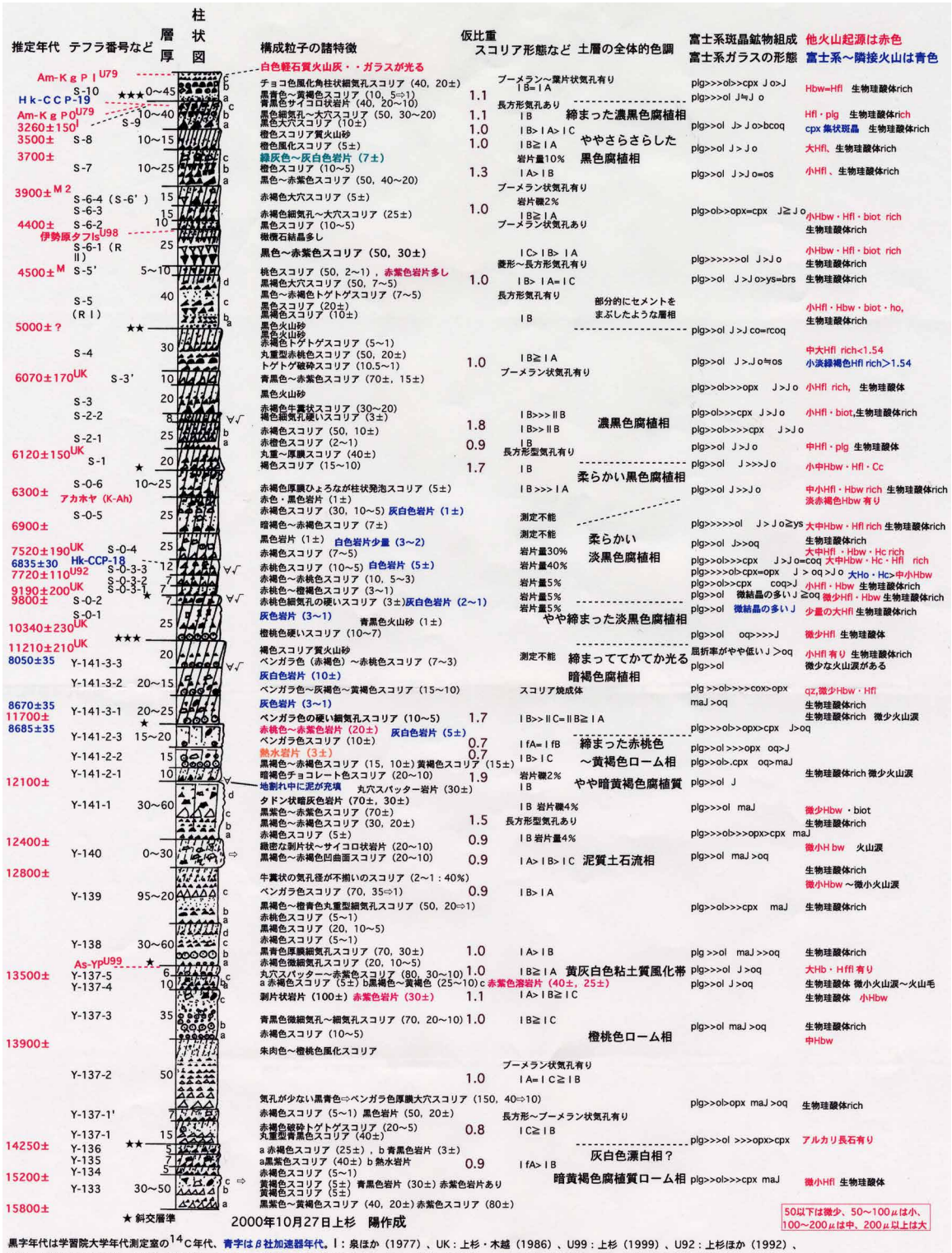


図６　笹見原遺跡自然土層の肉眼的諸特徴と推定テフラ年代



黒字年代は学習院大学年代測定室の^{14}C年代、青字はβ社加速器年代。I：泉ほか（1977）、UK：上杉・木越（1986）、U99：上杉（1999）、U92：上杉ほか（1992）、U79：上杉ほか（1979）、U98：上杉（1998）、U89：上杉（1989）,MA：町田・新井（1992）、M2：宮地（1993）、M：宮地（1988）などなど、多数を参考にした。

位置は静岡県駿東郡駿河小山町須走すぎな沢194.03YU。 2000年10月14日 上杉 陽・上杉典子・田中一憲記載、2000年10月27日 上杉 陽・福井智之・佐藤美沙紀・石山綾子・田中一憲記載 101.01YU，106.51YU，176.30YU，175.18YU，135.12YU，117.16YU，109.07YU，108.57YUなどを参考にした.

図７　新富士火山噴出物模式地すぎな沢のテフラ柱状図

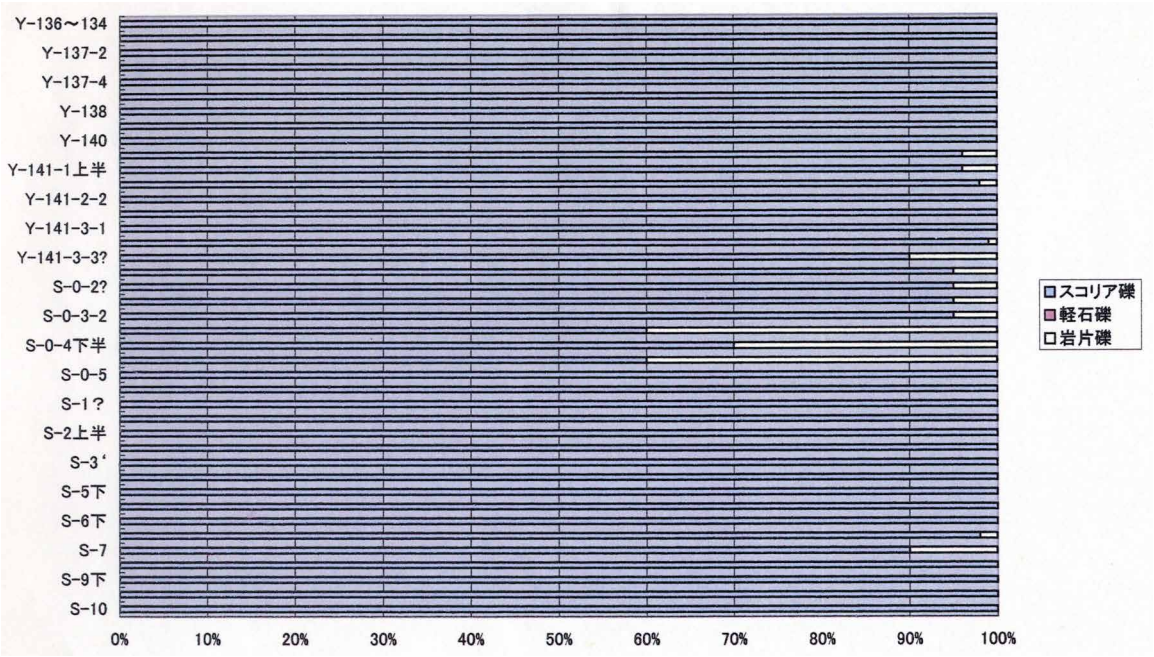


表９　１次テフラの内容

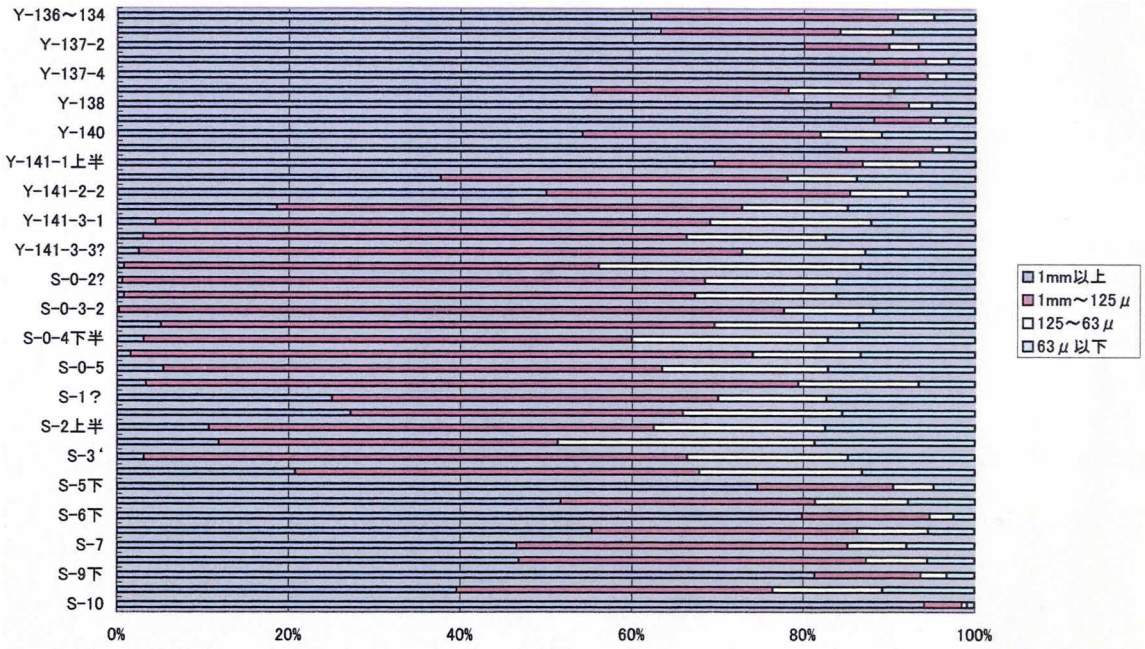


表 10　粒径別重量構成比

	原試料泥水色	1日後泥水色
S-10	7.5YR 4/4	2.5Y 7/4
S-9上	2.5Y 3/1	2.5Y 7/6
S-9下	2.5Y 4/3	10YR 6/8
S-8	7.5YR 3/2	10YR 3/3
S-7	5YR 2/3	2.5Y 8/4
S-6上	10YR 3/4	2.5Y 8/6
S-6下	2.5Y 3/2	2.5Y 7/4
S-5上	5Y 3/1	2.5Y 5/3
S-5下	10YR 2/3	2.5Y 7/3
S-4	7.5YR 2/1	2.5Y 7/4
S-3'	2.5Y 3/3	2.5Y 7/6
S-3	2.5Y 3/2	2.5Y 6/4
S-2上半	2.5Y 3/3	2.5Y 5/4
S-2下半	10YR 2/3	10YR 6/4
S-1？	10YR 1/2	10YR 5/4
S-0-6	10YR 7/1	10YR 5/2
S-0-5	10YR 2/3	10YR 5/3
S-0-4上半	10YR 2/1	10YR 5/6
S-0-4下半	5Y 2/1	2.5Y 7/4
W-If-S-0-3-3	2.5Y 3/2	2.5Y 3/2
S-0-3-2	10YR 2/2	2.5Y 7/4
S-0-3-1	7.5YR 3/1	2.5Y 7/6
S-0-2?	7.5YR 3/3	2.5Y 7/3
S-0-1	10YR 2/1	2.5Y 6/4
Y-141-3-3?	2.5Y 3/2	2.5Y 7/6
Y-141-3-2?	7.5YR 4/3	2.5Y 7/4
Y-141-3-1	7.5YR 2/2	2.5Y 7/6
Y-141-2-3	2.5Y 3/3	2.5Y 6/3
Y-141-2-2	10YR 4/4	2.5Y 8/6
Y-141-2-1	2.5Y 3/3	2.5Y 7/4
Y-141-1上半	5Y 3/2	5Y 8/4
Y-141-1下半	10YR 5/6	2.5Y 8/4
Y-140	10YR 4/4	10YR 7/8
Y-139	2.5Y 5/6	2.5Y 7/8
Y-138	2.5Y 7/8	7.5Y 7/8
Y-137-5	2.5Y 4/4	7.5YR 6/8
Y-137-4	2.5Y 4/4	10YR 7/8
Y-137-3	2.5Y 4/2	2.5Y 8/6
Y-137-2	2.5Y 5/6	10YR 7/8
Y-137-1	2.5Y 5/6	7.5YR 7/8
Y-136～134	2.5Y 4/4	7.5YR 6/8

表 11　泥水色の変化

	芯	表面
S-10	5Y 3/1	10YR 6/8
S-9上	5Y 2/1	2.5Y 5/4
S-9下	7.5YR 4/3	5Y 6/8
S-8	7.5Y 2/3	2.5Y 5/4
S-7	2.5Y 3/1	2.5Y 5/6
S-6上	10YR 2/2	2.5Y 4/4
S-6下	10YR 3/2	10YR 5/6
S-5上	2.5Y 4/1	2.5Y 5/3
S-5下	5Y 2/1	5Y 4/1
S-4	10YR 3/1	10YR 6/6
S-3'		2.5Y 4/4
S-3	5YR 3/3	2.5Y 4/2
S-2上半	2.5YR 2/2	2.5Y 5/3
S-2下半	5YR 2/1	5YR 4/8
S-1？	2.5YR 7/1	2.5YR 4/6
S-0-6	10YR 6/3	5Y 5/4
S-0-5		
S-0-4上半	2.5Y 4/1	2.5Y 6/6
S-0-4下半	10YR 2/1	2.5Y 5/4
W-If-S-0-3-3		10YR 6/8
S-0-3-2		10YR 5/6
S-0-3-1		10YR 6/8
S-0-2?		2.5Y 6/3
S-0-1		2.5Y 5/4
Y-141-3-3?	7.5YR 4/4	10YR 5/6
Y-141-3-2?	2.5YR 2/3	10YR 6/6
Y-141-3-1	5YR 2/2	10YR 6/6
Y-141-2-3	2.5YR 8/2	5Y 8/4
Y-141-2-2	2.5Y 3/1	2.5Y 6/3
Y-141-2-1	2.5Y 4/1	2.5Y 7/6
Y-141-1上半	10YR 5/1	5Y 5/1
Y-141-1下半	2.5YR 7/1	2.5YR 3/1
Y-140	2.5Y 4/1	2.5Y 8/4
Y-139	10YR 6/3	5Y 7/6
Y-138	5YR 4/1	5Y 7/4
Y-137-5	10YR 5/1	5Y 8/6
Y-137-4	2.5Y 5/1	5Y 7/4
Y-137-3	10YR 4/3	5YR 3/6
Y-137-2	10YR 6/8	5Y 8/6
Y-137-1	7.5YR 4/1	10YR 8/4
Y-136～134	2.5YR 5/1	5Y 8/6

表 12　色彩変化

	①	②	③	④	⑤
S-10		◎	○		
S-9上	○	◎			
S-9下		○	◎		
S-8		○	◎		
S-7		○	◎		
S-6上			◎	○	
S-6下		◎	○		
S-5上		○	◎		
S-5下		○	◎		
S-4			○	◎	
S-3‘				◎	○
S-3			○	◎	
S-2上半			○	◎	
S-2下半		○	◎		
S-1？		○	◎		
S-0-6				○	◎
S-0-5					◎
S-0-4上半				○	◎
S-0-4下半					◎
W-If-S-0-3-3				○	◎
S-0-3-2				○	◎
S-0-3-1				○	◎
S-0-2?				○	◎
S-0-1				○	◎
Y-141-3-3?				○	◎
Y-141-3-2?			○	○	◎
Y-141-3-1			○	◎	
Y-141-2-3			○	◎	
Y-141-2-2			◎		
Y-141-2-1			○	◎	
Y-141-1上半		○	○	◎	
Y-141-1下半		○	◎		
Y-140			◎	○	
Y-139		◎	○		
Y-138		◎	○		
Y-137-5		◎	○		
Y-137-4		◎	○		
Y-137-3		◎	○		
Y-137-2		◎	○		
Y-137-1		◎	○		
Y-136～134		◎	○		

① 外形明瞭、気孔壁に光沢、皮膜明瞭、
② 外形明瞭、皮膜や気孔の内壁は風化
③ 外形不明瞭、気孔があることは分かる
④ 外形不明瞭、気孔不明瞭、採集は可能
⑤ 軽石～スコリア礫の採集不可能
◎ 大半を占める
○ 少数存在する

表 13　低温酸化の程度

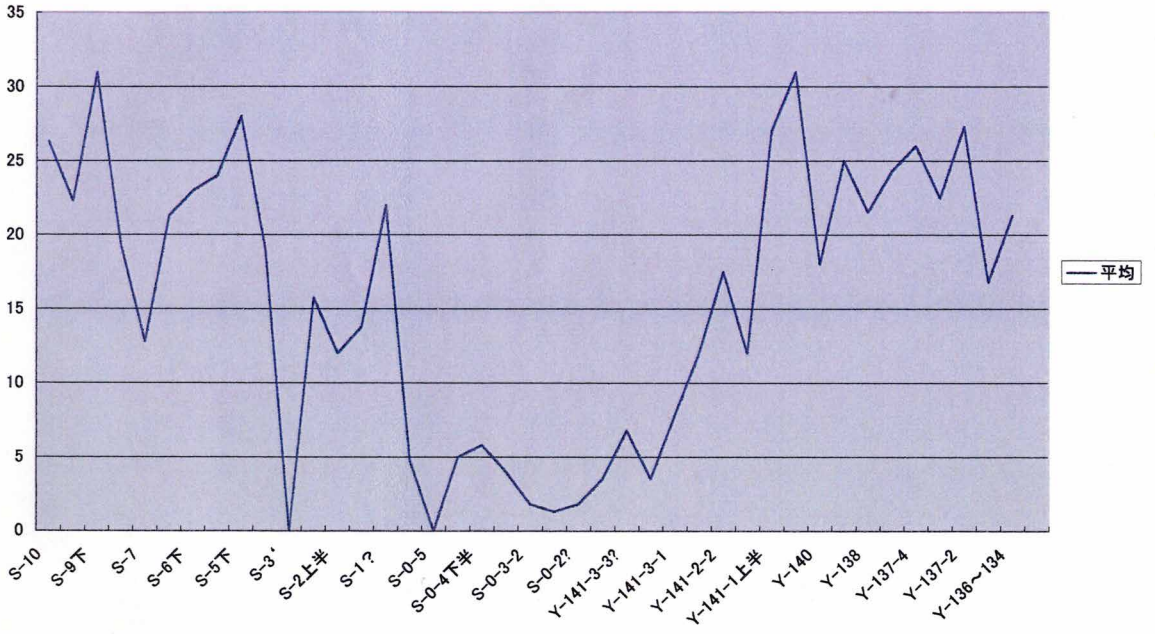


表 14　スコリア礫の平均粒径

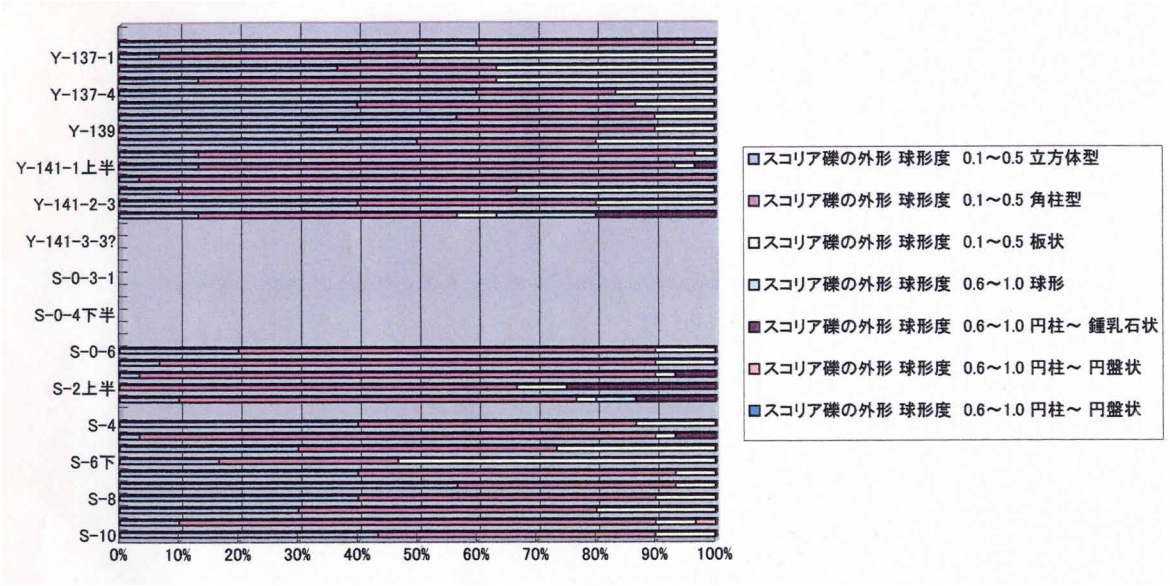


表 15　スコリア礫の外形

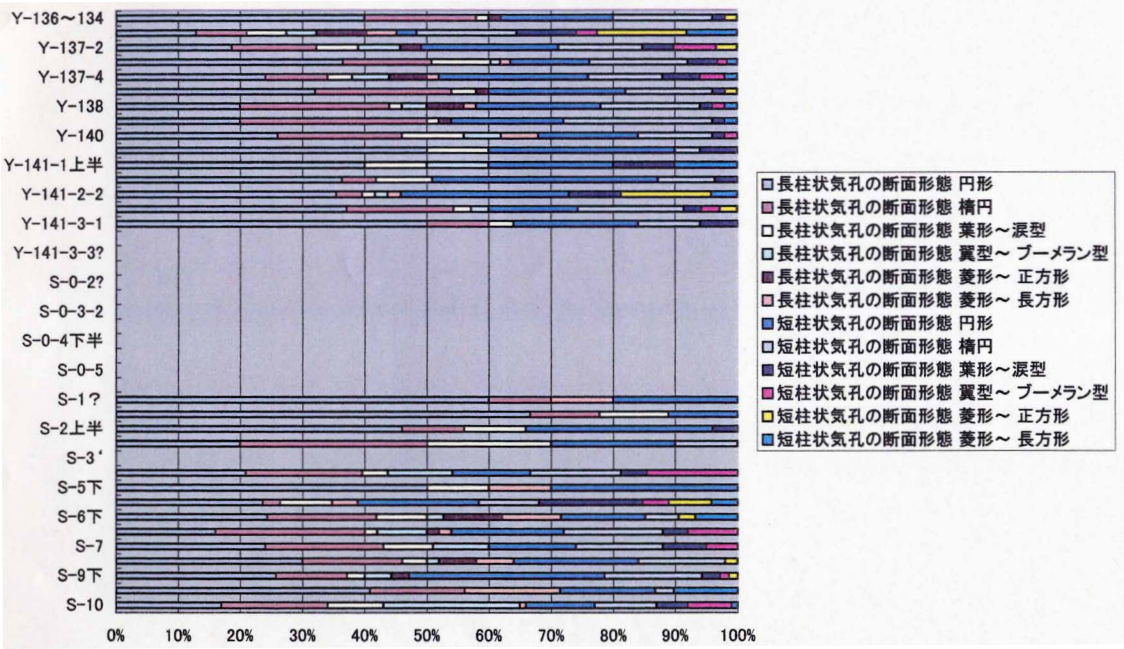


表 16　スコリア礫の気孔形態

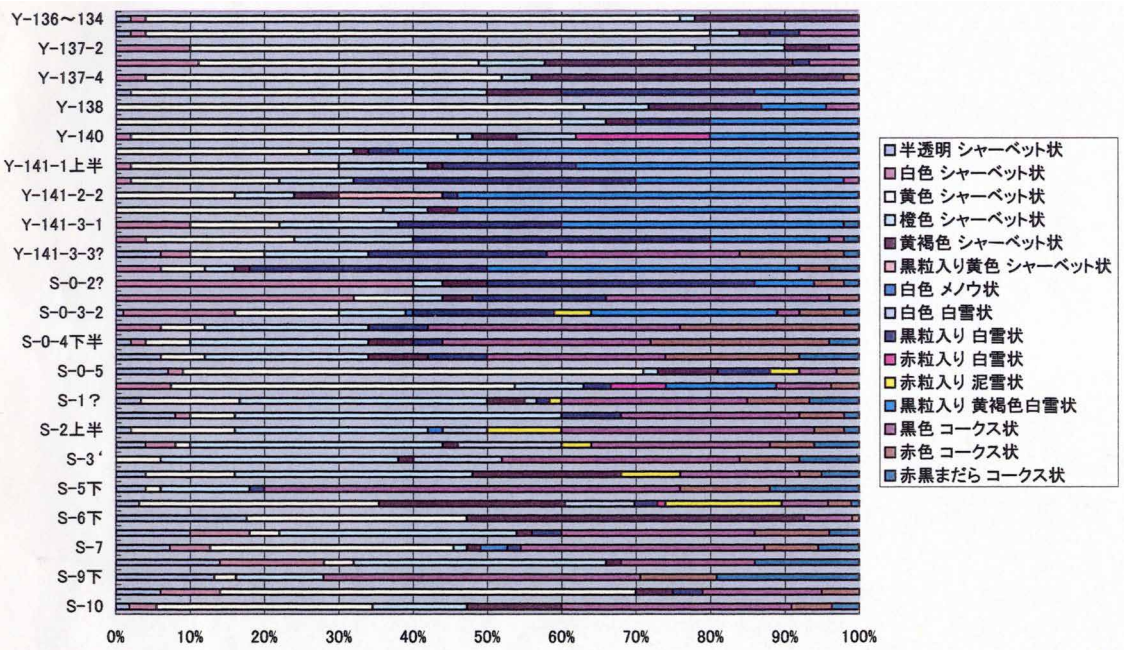


表 17　反射光下での諸特徴

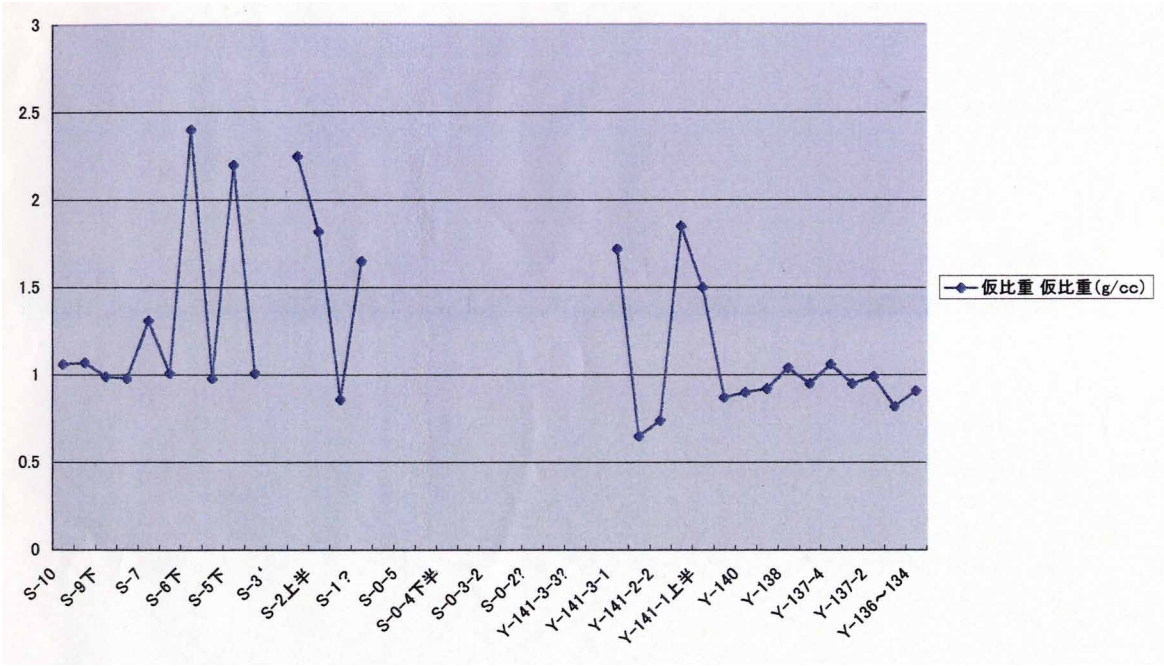


表 18　スコリア礫の仮比重(g/cc)

	透明ガラス								植物珪酸体	火山涙（毛）	角閃石	黒雲母	その他
	Hfl	Hbw	Ho	Hco	Hc	Cc	Co	Cco					
S-10	○	○							○		○	○	サーモンピンク色のガラス・tあり・Tcあり
S-9上	○	○							◎		○	○	透明ガラス付き斜長石
S-9下	○		○						○			○	brの鉱物
S-8	○	○							○				
S-7	○	○				○	○		○		○		チタン鉄鉱？
S-6上	◎	○				○			◎			○	サーモンピンク・ジルコン石英・ざくろ石・伊勢原タフ
S-6下	◎	○							○			○	穴の開いた橄欖石
S-5上	◎								◎			○	
S-5下	○	○							◎		○	○	アルカリ長石・透明ガラス付き長石
S-4	○								◎				正方形橄欖石・透明ガラス付き斜長石
S-3‘	○	○							◎				
S-3	○	○						○	○		○	○	brの鉱物
S-2上半	◎	○			○				○				透明ガラス付き長石
S-2下半	○	○							◎			○	
S-1？		○				○			○			○	アカホヤガラス
S-0-6	○	◎			○				◎			○	アカホヤガラス
S-0-5	○		○		○	○			◎			○	
S-0-4上半		○			◎	○			◎				
S-0-4下半	○	○	○		○	○			◎				
W-If-S-0-3-3	○	○	○		○				○			○	**箱根起源のガラス**
S-0-3-2	○	○	○						○			○	brの鉱物
S-0-3-1	○	○							○				
S-0-2?									◎				
S-0-1	○	○							○				
Y-141-3-3?	○								◎	○		○	
Y-141-3-2?	○	○							◎	○			
Y-141-3-1	○					○			◎	○			酸化橄欖石
Y-141-2-3									○	○		○	
Y-141-2-2		○							◎	○			
Y-141-2-1		○							○	○			
Y-141-1上半	○	○	○						○	○		○	透明ガラス付斜方輝石
Y-141-1下半		○	○						○	○	○		
Y-140	○	○	○						○	○			
Y-139		○							○	○			石英
Y-138		○							○	○			
Y-137-5									○	○			red・brownのガラス
Y-137-4		○							○				オレンジ色のaJガラス
Y-137-3	○	○							○				ざくろ色のガラス
Y-137-2	○								○	○			酸化橄欖石
Y-137-1	○								○	○			アルカリ長石・オレンジ色のaJガラス
Y-136～134	○	○	○						◎				オレンジ色のaJガラスが多い

◎…多く存在する
○…少しある
無印…ない

表 19　他火山ガラスの諸特徴

図　版

調査前風景

調査区全景

図 版 2　　笹見原遺跡　土層断面

土層断面（北壁）

土層断面（西壁）

土層断面（西壁）

下層（９Ⅳ層）　１・２号住居跡

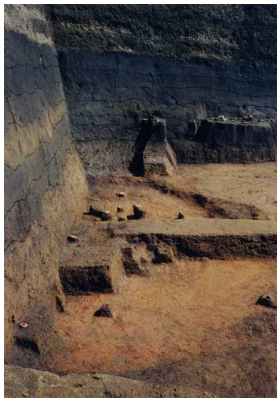
下層（９Ⅳ層）　１号住居跡遺物出土状況

下層（９Ⅳ層）　１号住居跡

下層（９Ⅳ層）　２号住居跡

下層（９Ⅳ層）　２号住居跡および北壁

下層（９Ⅳ層）　２号住居跡および北壁



下層（９Ⅳ層）　２号住居跡および東壁

下層（９Ⅳ層）　７号土坑遺物出土状況

図 版 4　　笹見原遺跡　縄文時代（土坑）

下層（９Ⅳ層）　７号土坑

下層（９Ⅳ層）　８号土坑石皿出土状況

下層（９Ⅳ層）　８号土坑遺物出土状況

上層（８Ⅳ層）　土坑分布

上層（８Ⅳ層）　１号土坑

上層（８Ⅳ層）　２号土坑

上層（８Ⅳ層）　３号土坑

上層（８Ⅳ層）　４号土坑

上層（８Ⅳ層）　５号土坑

上層（８Ⅳ層）　６号土坑

上層（８Ⅳ層）　７号土坑

上層（８Ⅳ層）　８・９号土坑

上層（８Ⅳ層）　10号土坑

上層（８Ⅳ層）　11号土坑

上層（８Ⅳ層）　12・13号土坑

上層（８Ⅳ層）　14号土坑

図 版 6　　笹見原遺跡　縄文時代（土坑）

上層（８Ⅳ層）　15号土坑

上層（８Ⅳ層）　16号土坑

上層（８Ⅳ層）　17号土坑

上層（８Ⅳ層）　18号土坑

上層（８Ⅳ層）　19・20号土坑

上層（８Ⅳ層）　21号土坑

上層（８Ⅳ層）　22号土坑

上層（８Ⅳ層）　23号土坑

上層（８Ⅳ層）　24号土坑

上層（８Ⅳ層）　25号土坑

上層（８Ⅳ層）　26号土坑

上層（８Ⅳ層）　27号土坑

上層（８Ⅳ層）　28号土坑

上層（８Ⅳ層）　29・30号土坑

上層（８Ⅳ層）　31号土坑

上層（８Ⅳ層）　32号土坑

図 版 8　　笹見原遺跡　縄文時代（土坑）

上層（8 Ⅳ層）　33号土坑

上層（8 Ⅳ層）　34号土坑

上層（8 Ⅳ層）　34・35号土坑

上層（8 Ⅳ層）　36号土坑

上層（8 Ⅳ層）　37号土坑

上層（8 Ⅳ層）　38・39号土坑

上層（8 Ⅳ層）　40号土坑

上層（8 Ⅳ層）　41号土坑

上層（８Ⅳ層）　42号土坑

上層（８Ⅳ層）　43号土坑

上層（８Ⅳ層）　44号土坑

上層（８Ⅳ層）　45号土坑

上層（８Ⅳ層）　46号土坑

上層（８Ⅳ層）　47号土坑

上層（８Ⅳ層）　48号土坑

上層（８Ⅳ層）　49号土坑

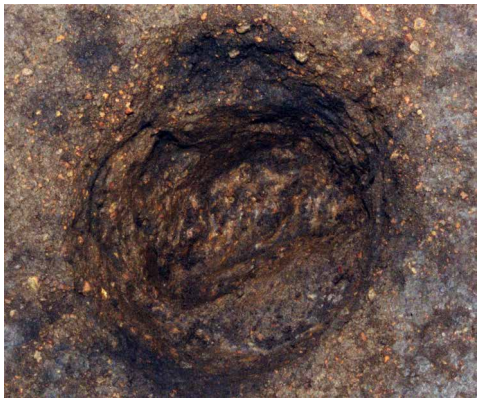
図 版 10　　笹見原遺跡　縄文時代（土坑）

上層（８Ⅳ層）　50号土坑

上層（８Ⅳ層）　51号土坑

上層（８Ⅳ層）　52号土坑

上層（８Ⅳ層）　53号土坑



上層（８Ⅳ層）　54号土坑

上層（８Ⅳ層）　55号土坑

上層（８Ⅳ層）　56号土坑

上層（８Ⅳ層）　57号土坑

上層（８Ⅳ層）　58号土坑

上層（８Ⅳ層）　59号土坑

上層（８Ⅳ層）　60号土坑

上層（８Ⅳ層）　61号土坑

上層（８Ⅳ層）　62号土坑

上層（８Ⅳ層）　63号土坑

上層（８Ⅳ層）　64号土坑

上層（８Ⅳ層）　64・65号土坑

図 版 12　　笹見原遺跡　縄文時代（土坑）

上層（８Ⅳ層）　66号土坑

上層（８Ⅳ層）　67号土坑

上層（８Ⅳ層）　68号土坑

上層（８Ⅳ層）　69号土坑

上層（８Ⅳ層）　70号土坑

上層（８Ⅳ層）　71号土坑

上層（８Ⅳ層）　72号土坑

上層（８Ⅳ層）　73号土坑

上層（８Ⅳ層）　74号土坑

上層（８Ⅳ層）　76号土坑

上層（８Ⅳ層）　77号土坑

上層（８Ⅳ層）　78号土坑

上層（８Ⅳ層）　79号土坑

上層（８Ⅳ層）　80号土坑

上層（８Ⅳ層）　81号土坑

上層（８Ⅳ層）　82号土坑

図 版 14　　笹見原遺跡　縄文時代（土坑）

上層（８Ⅳ層）　83号土坑

上層（８Ⅳ層）　84・85・86号土坑

上層（８Ⅳ層）　87号土坑

上層（８Ⅳ層）　88号土坑

上層（８Ⅳ層）　89号土坑

上層（８Ⅳ層）　90号土坑

上層（８Ⅳ層）　91号土坑

上層（８Ⅳ層）　92号土坑

上層（８Ⅳ層）　93号土坑

上層（８Ⅳ層）　94号土坑

上層（８Ⅳ層）　95号土坑

上層（８Ⅳ層）　96号土坑

上層（８Ⅳ層）　97号土坑

上層（８Ⅳ層）　98号土坑

上層（８Ⅳ層）　99号土坑

上層（８Ⅳ層）　100号土坑

図 版 16　　笹見原遺跡　縄文時代（土坑）

上層（８Ⅳ層）　101号土坑

上層（８Ⅳ層）　102号土坑

上層（８Ⅳ層）　103号土坑

上層（８Ⅳ層）　104号土坑

上層（８Ⅳ層）　105号土坑

上層（８Ⅳ層）　106号土坑

上層（８Ⅳ層）　107号土坑

上層（８Ⅳ層）　108号土坑

上層（８Ⅳ層）　109号土坑

上層（８Ⅳ層）　110号土坑

上層（８Ⅳ層）　111号土坑

上層（８Ⅳ層）　112号土坑

上層（８Ⅳ層）　113号土坑

上層（８Ⅳ層）　114号土坑

上層（８Ⅳ層）　115号土坑

上層（８Ⅳ層）　116号土坑

図 版 18　　笹見原遺跡　縄文時代（土坑・焼土・集石）

上層（８Ⅳ層）　117号土坑

中層（９Ⅰ層）　焼土

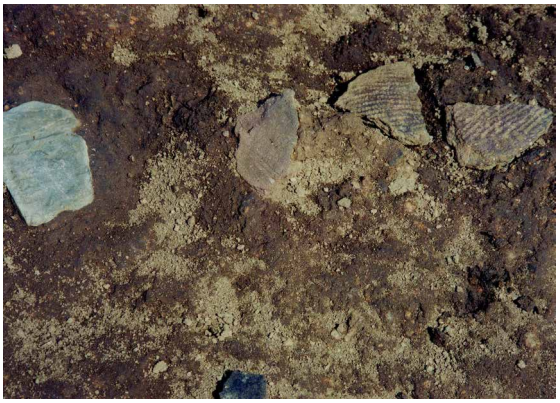
中層（９Ⅰ層）　焼土

中層（９Ⅱ層）　集石

上層（８Ⅲ層）　集石

上層（８Ⅱ層）　集石

下層　個体12，13出土状況



下層　個体12、13出土状況

下層　個体15出土状況

中層　土器出土状況

中層　個体45出土状況

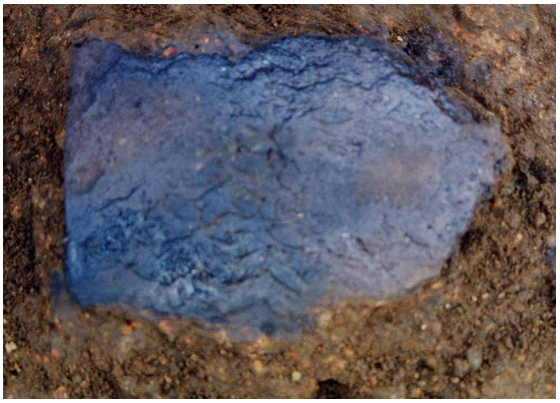
中層　個体38出土状況

中層　撚糸文土器出土状況

中層　アミ目撚糸文土器出土状況

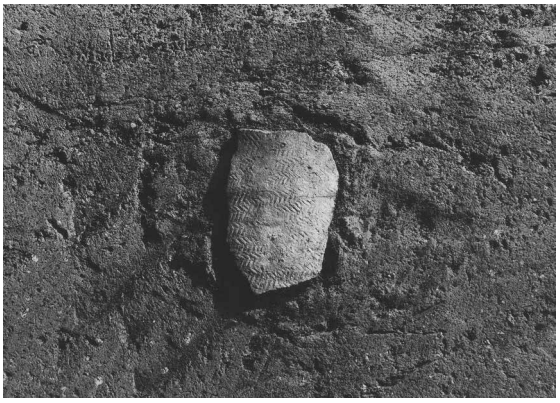
笹見原遺跡　縄文土器

中層　山形文土器　個体66出土状況



中層　山形文土器出土状況

中層　個体60出土状況



中層　個体66出土状況

上層　個体47出土状況

上層　個体 7 出土状況

上層　個体 9 出土状況

上層　個体11出土状況

上層　個体 2 出土状況

上層　個体 2 出土状況

上層　個体 4 出土状況

上層　個体 4 出土状況

上層　個体 3 出土状況

上層　個体40出土状況

上層　個体 5 出土状況

上層　個体 5 出土状況

笹見原遺跡　縄文土器

上層　個体９出土状況

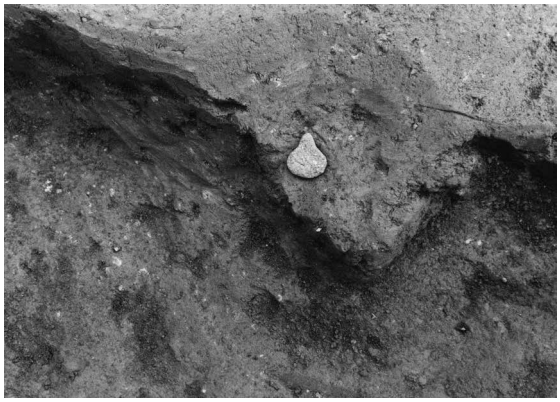
上層　東壁10Ｇ遺物集中地点

上層　個体１出土状況

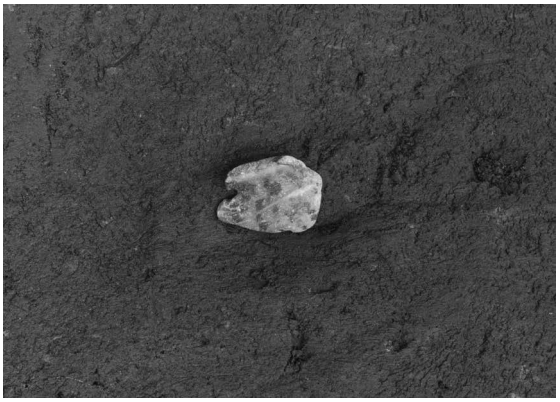
上層　個体４出土状況

上層　個体48出土状況

上層　土器出土状況



上層　土製品出土状況



上層　石製垂飾出土状況

上層　個体１＜430＞

上層　個体１＜430＞　拡大

上層　個体２＜372＞

上層　個体６＜428＞

上層　個体３＜400＞

上層　個体３＜400＞　拡大

上層　個体４＜399＞

上層　個体４＜399＞　拡大

上層　個体５＜408＞

上層　個体５＜408＞　拡大

上層　個体７＜333＞

上層　個体８＜313＞

上層　個体９＜343＞

上層　個体９＜343＞　拡大

上層　個体11＜371＞

上層　個体11＜371＞　拡大

下～中層　個体12，13＜1＞

上層　個体23，34＜311＞

下～中層　個体15＜2＞

下～中層　個体15＜2＞　拡大

上層　個体25，27＜173＞

上層　個体29＜315＞

下～中層　個体37＜180＞

下～中層　個体37＜180＞　拡大

図 版 26　　笹見原遺跡　縄文土器

下～中層　個体39＜297＞

上層　個体44＜318＞

上層　個体41，42＜305＞

下～中層　個体45＜129＞

上層　個体49～53＜369＞

上層　個体49～53＜369＞　拡大

下～中層　個体54，55＜272＞

下～中層　個体56＜286＞

下～中層　個体57＜3＞

下～中層　個体60＜263＞

上層　土製品・石製垂飾

縄文施文土器（下～中層）

図 版 28　　笹見原遺跡　縄文土器

撚糸文土器（下～中層）

山形押型文土器（中層）

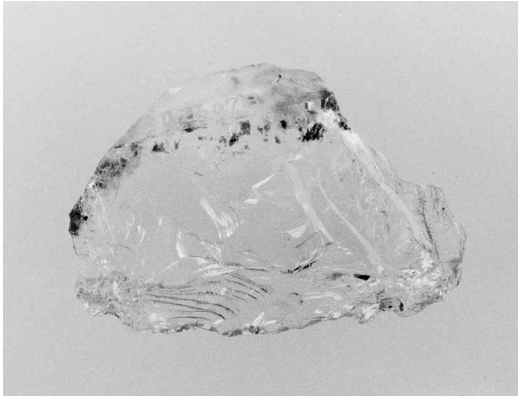
押型文土器（下～中層）

沈線文土器（上層）

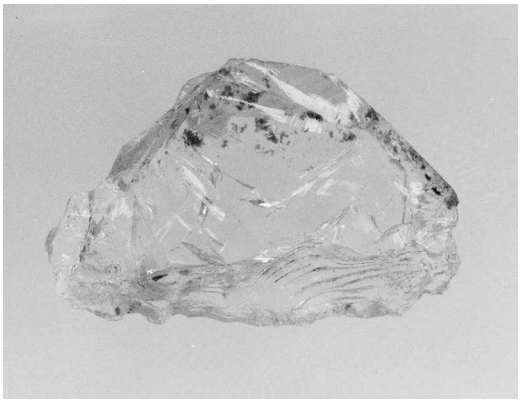
図 版 30　　笹見原遺跡　縄文土器

沈線文、刺突文土器（上層）

絡条体圧痕文土器（上層）



上層（８Ⅱ層）　73＜2607＞表

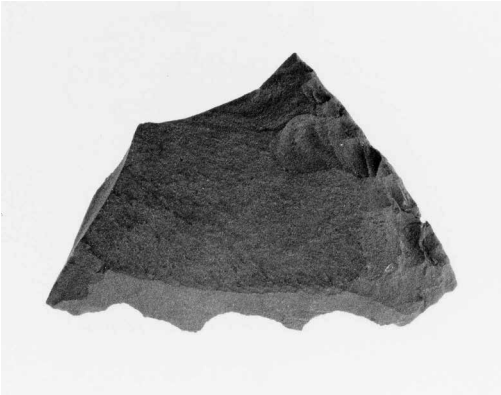


上層（８Ⅱ層）　73＜2607＞裏

上層（８Ⅱ層）　89＜4106＞表

上層（８Ⅱ層）　89＜4106＞裏

上層（８Ⅲ層）　90＜2300＞表

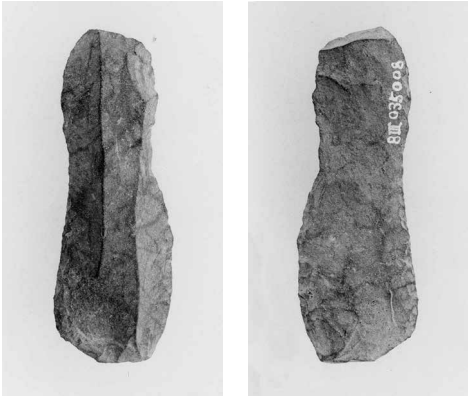


上層（８Ⅲ層）　90＜2300＞裏

上層（８Ⅲ層）　99＜4102＞表

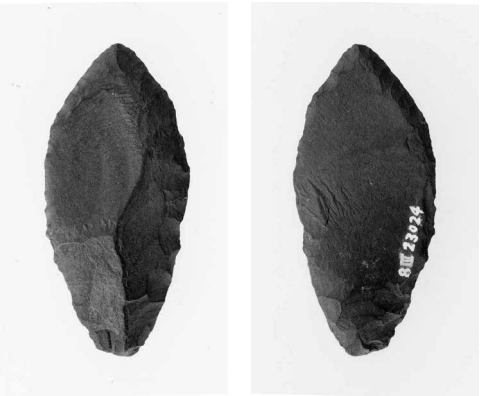
上層（８Ⅲ層）　99＜4102＞裏

上層（8 Ⅱ層）　143＜2504＞表・裏



上層（8 Ⅲ層）　145＜3500＞表・裏

上層（8 Ⅲ層）　144＜0800＞表・裏

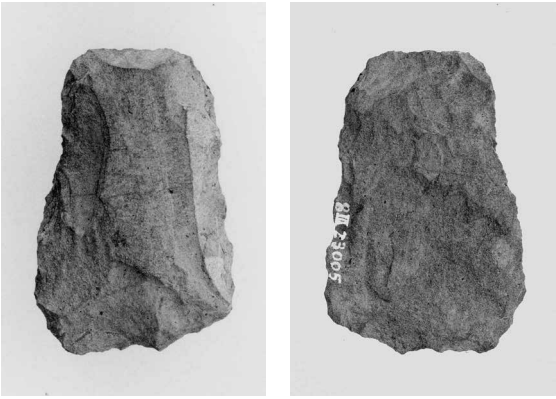


上層（8 Ⅲ）　148＜2302＞表・裏

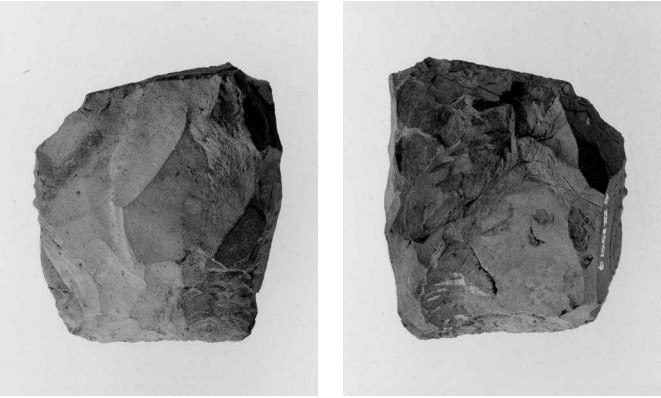
上層（8 Ⅱ層）　146＜2605＞表

上層（8 Ⅱ層）　146＜2605＞裏

上層（8 Ⅳ層）　152＜3503＞表・裏

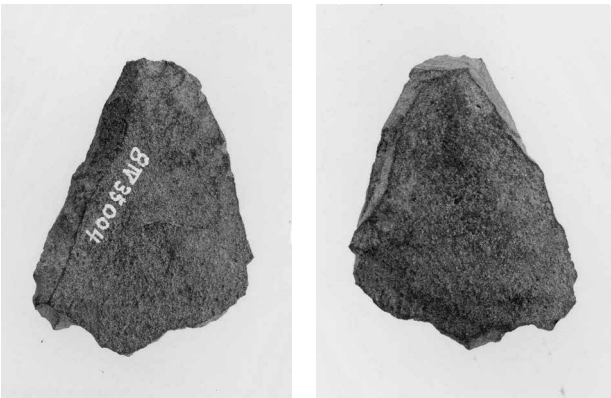


上層（8 Ⅲ層）　153＜2300＞表・裏



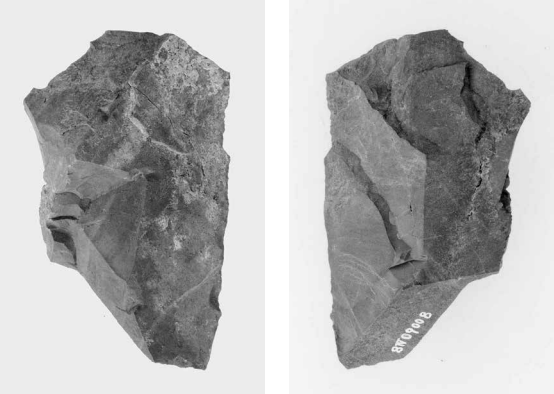
上層（８Ⅲ層）　161＜1501＞表・裏

上層（８Ⅱ層）　165＜4801＞表・裏



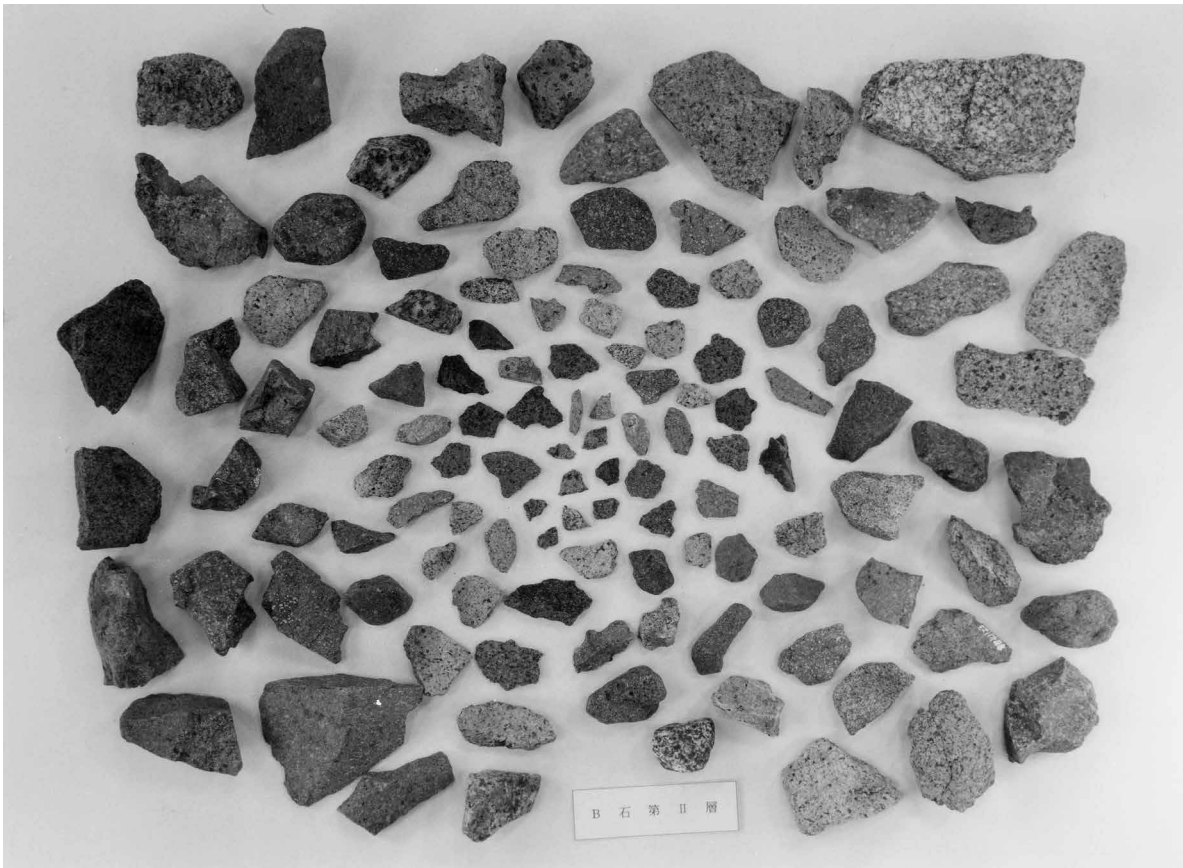
上層（８Ⅳ層）　167＜3500＞表・裏

上層（８Ⅲ層）15017表・裏

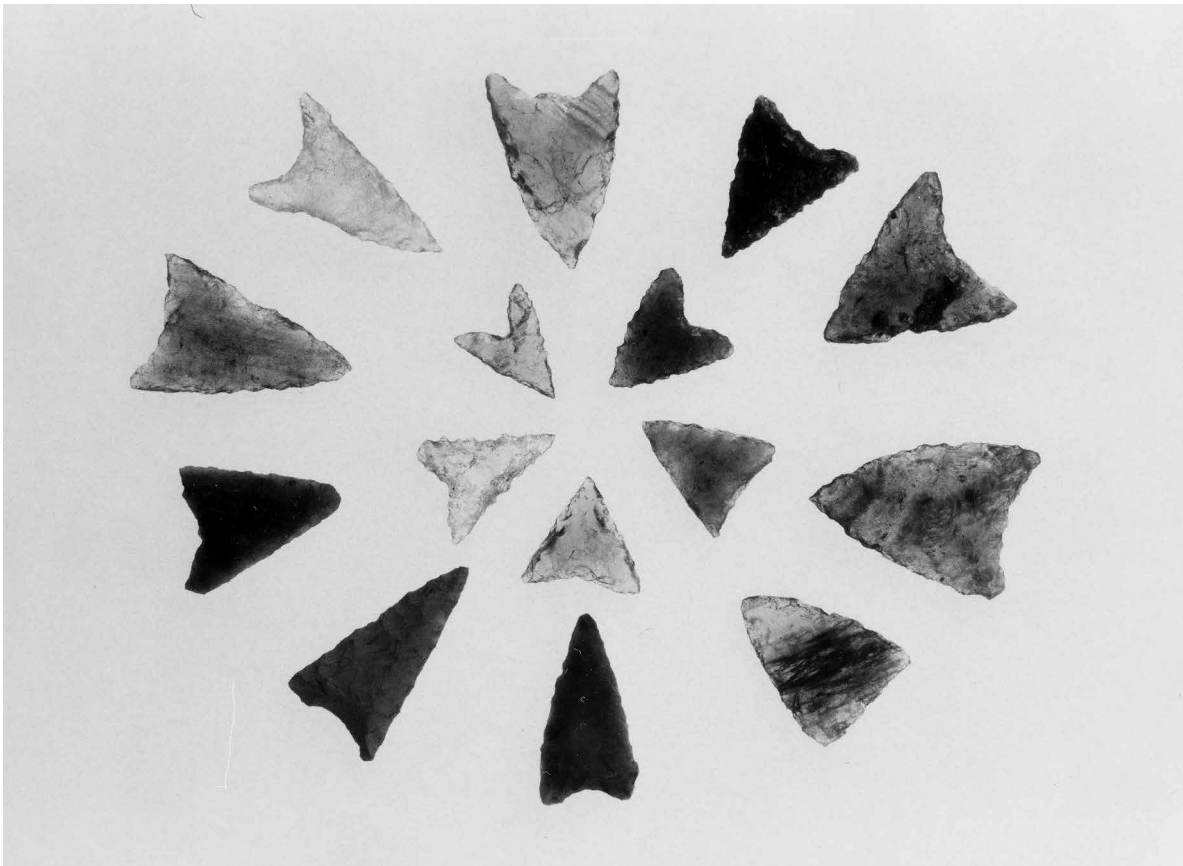


上層（８Ⅳ層）　09008表・裏

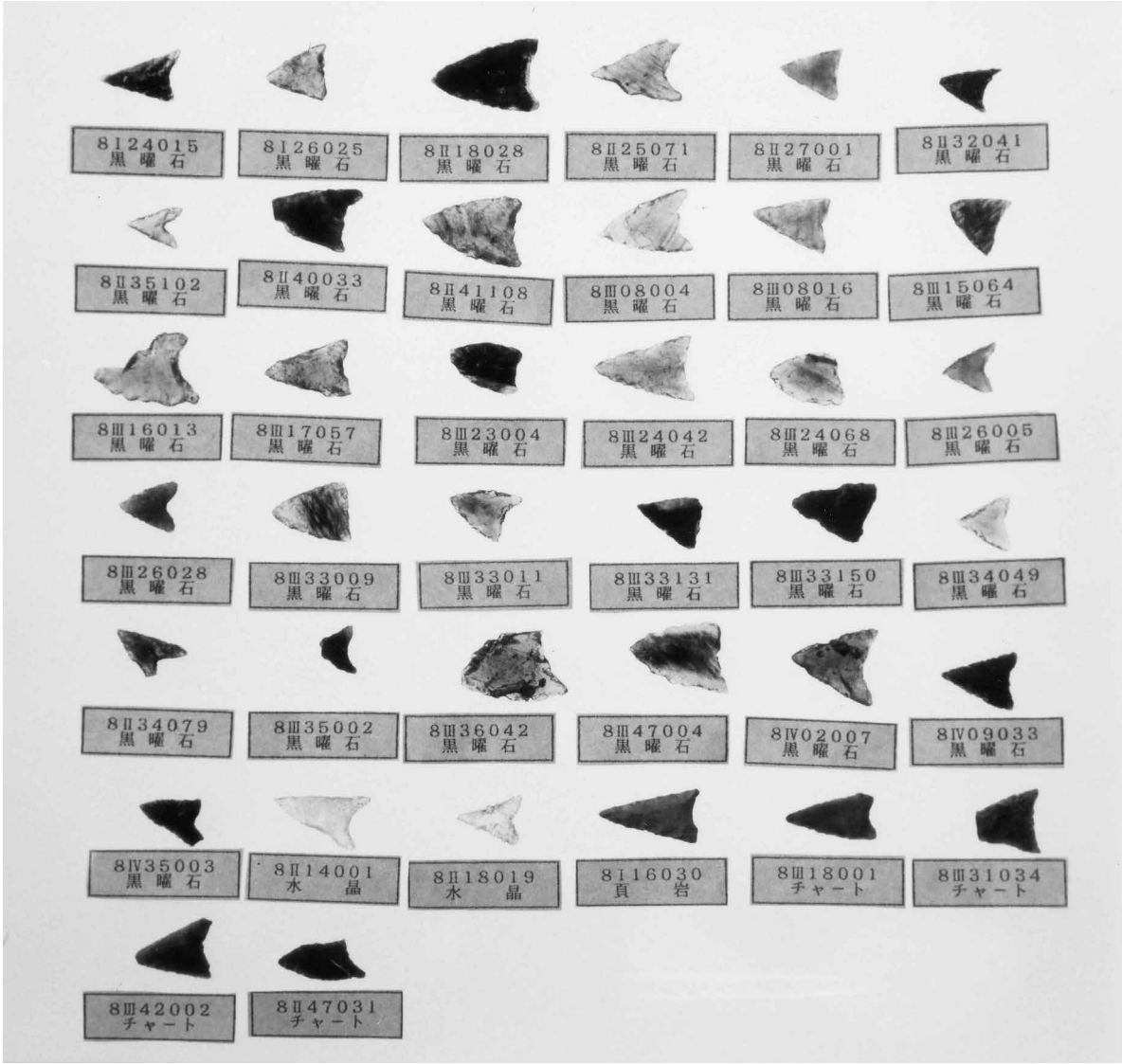
笹見原遺跡　縄文石器



第Ⅱ層出土石器



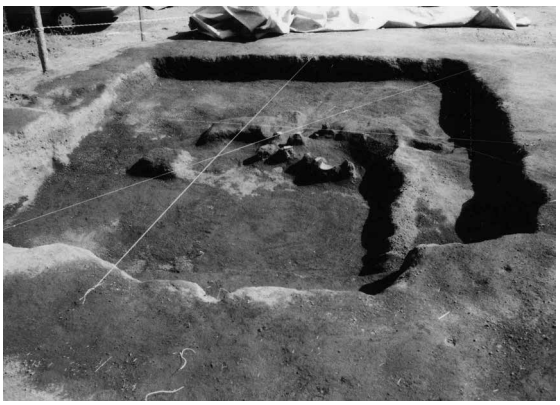
出土石器


8I24015 黒曜石
8I26025 黒曜石
8II18028 黒曜石
8II25071 黒曜石
8II27001 黒曜石
8II32041 黒曜石
8II35102 黒曜石
8II40033 黒曜石
8II41108 黒曜石
8III08004 黒曜石
8III08016 黒曜石
8III15064 黒曜石
8III16013 黒曜石
8III17057 黒曜石
8III23004 黒曜石
8III24042 黒曜石
8III24068 黒曜石
8III26005 黒曜石
8III26028 黒曜石
8III33009 黒曜石
8III33011 黒曜石
8III33131 黒曜石
8III33150 黒曜石
8III34049 黒曜石
8II34079 黒曜石
8III35002 黒曜石
8III36042 黒曜石
8III47004 黒曜石
8IV02007 黒曜石
8IV09033 黒曜石
8IV35003 黒曜石
8II14001 水晶
8II18019 水晶
8I16030 頁岩
8III18001 チャート
8III31034 チャート
8III42002 チャート
8II47031 チャート

出土石器

図 版 36　　笹見原遺跡　平安時代（住居跡）

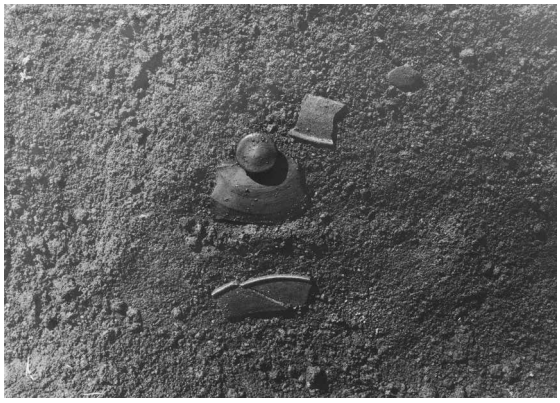
１号住居跡遺物出土状況（南西から）



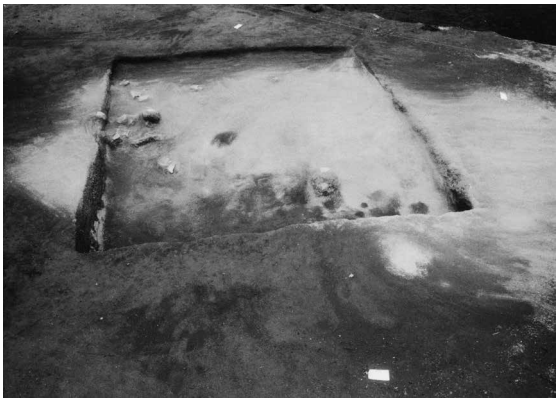
１号住居跡（北西から）

１号住居跡（北西から）

２号住居跡遺物出土状況（北から）



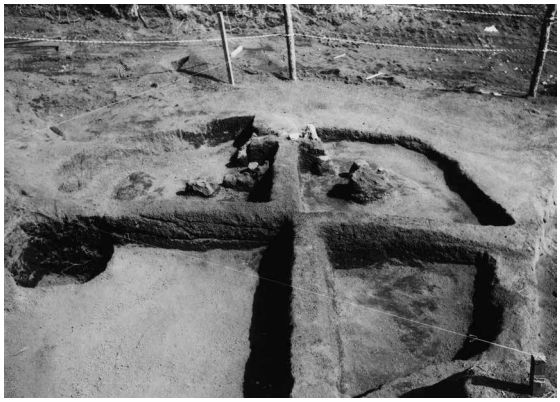
２号住居跡遺物出土状況



２号住居跡（北西から）

平安時代　２号住居跡（北から）

平安時代　３号住居跡遺物出土状況（東から）



平安時代　３号住居跡（南西から）

平安時代　３号住居跡（西から）

平安時代　４号住居跡遺物出土状況（北から）

平安時代　４号住居跡遺物出土状況

平安時代　４号住居跡（南東から）

平安時代　４号住居跡（北から）

１号住居跡出土遺物（No.56表）

１号住居跡出土遺物（No.56裏）

2 号住居跡出土遺物（No.19表）

2 号住居跡出土遺物（No.19裏）

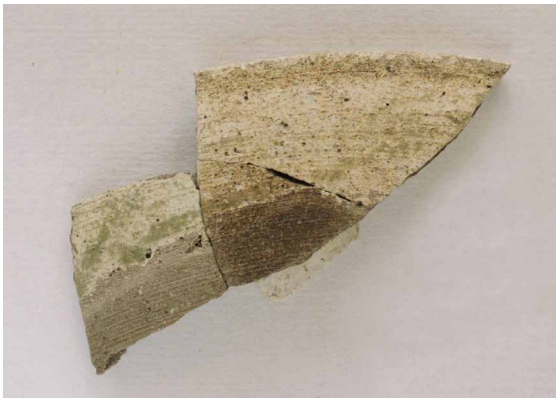
2 号住居跡出土遺物（No.18表）

2 号住居跡出土遺物（No.18裏）

4 号住居跡出土遺物（No.51表）

4 号住居跡出土遺物（No.51裏）

3 号住居跡出土遺物（No.37表）



4 号住居跡出土遺物（No.53表）

4 号住居跡出土遺物（No.52上）

4 号住居跡出土遺物（No.52）

4 号住居跡出土遺物（No.52底）

出土遺物

出土遺物

出土土器

図 版 40　　笹見原遺跡　調査風景

調査風景

調査説明会

調査説明会

調査説明会

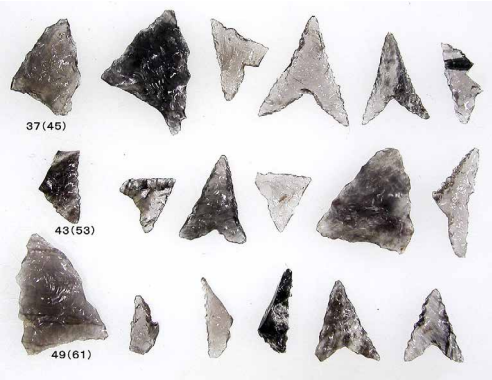
調査見学会

調査見学会

付編図版１　黒曜石写真

分析番号　01～18

分析番号　19～36



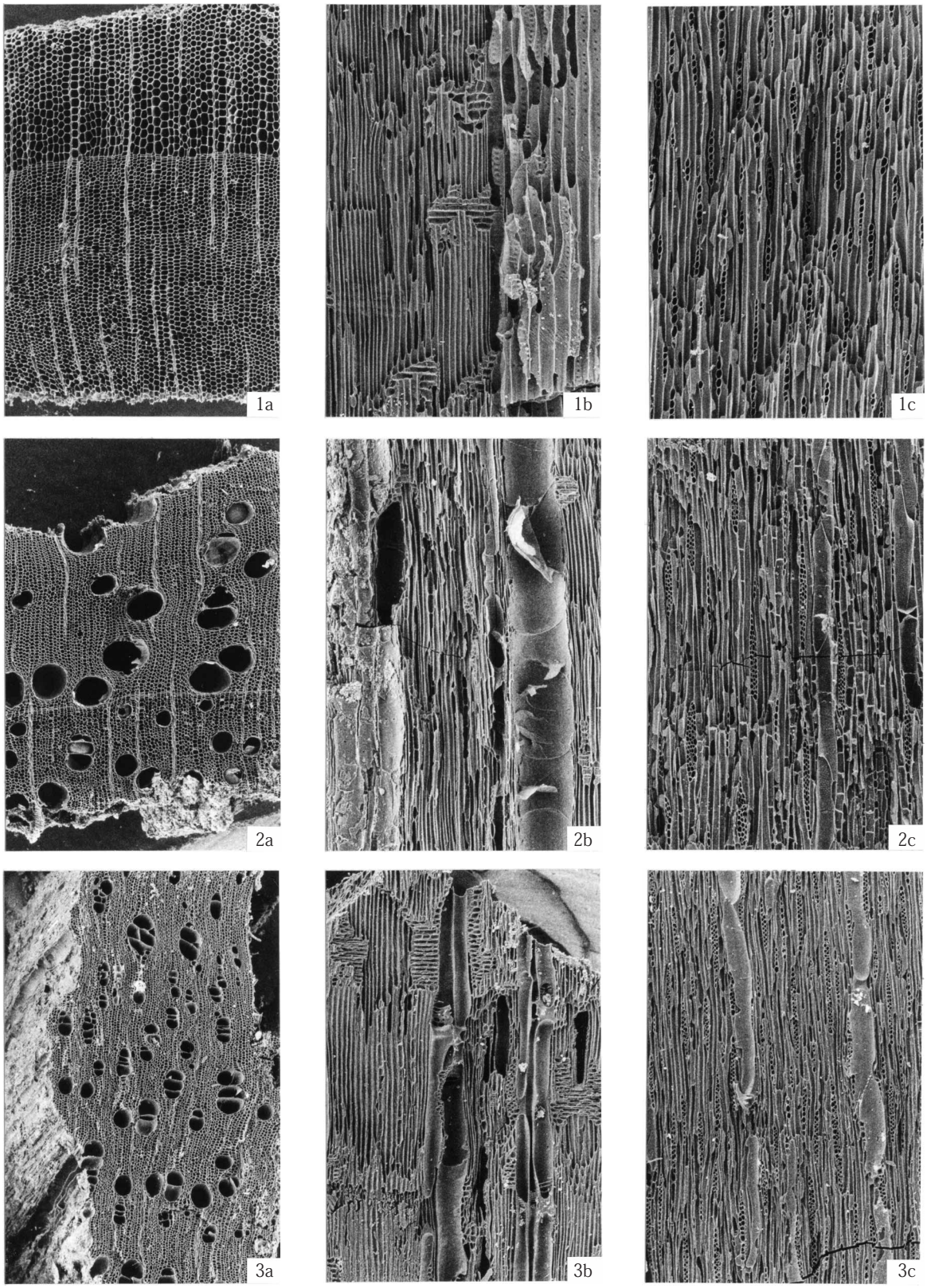
分析番号　37～54

分析番号　55～72

分析番号　73～90

分析番号　91～94

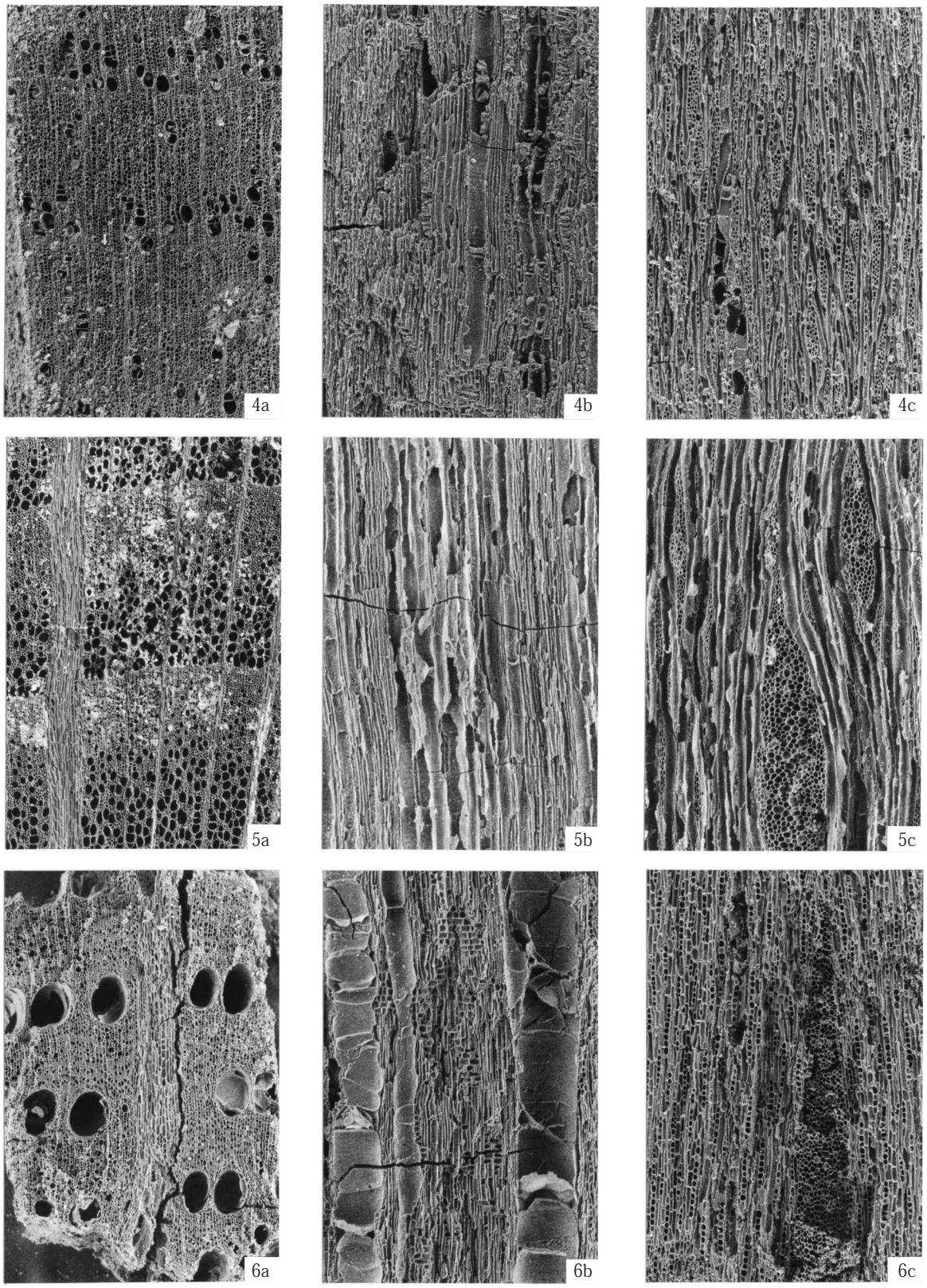
付編図版２　炭化材（１）



１．モミ属（試料番号58）
２．オニグルミ（試料番号41）
３．カバノキ属（試料番号51）
　ａ：木口，ｂ：柾目，ｃ：板目

200μｍ：ａ
200μｍ：ｂ，ｃ

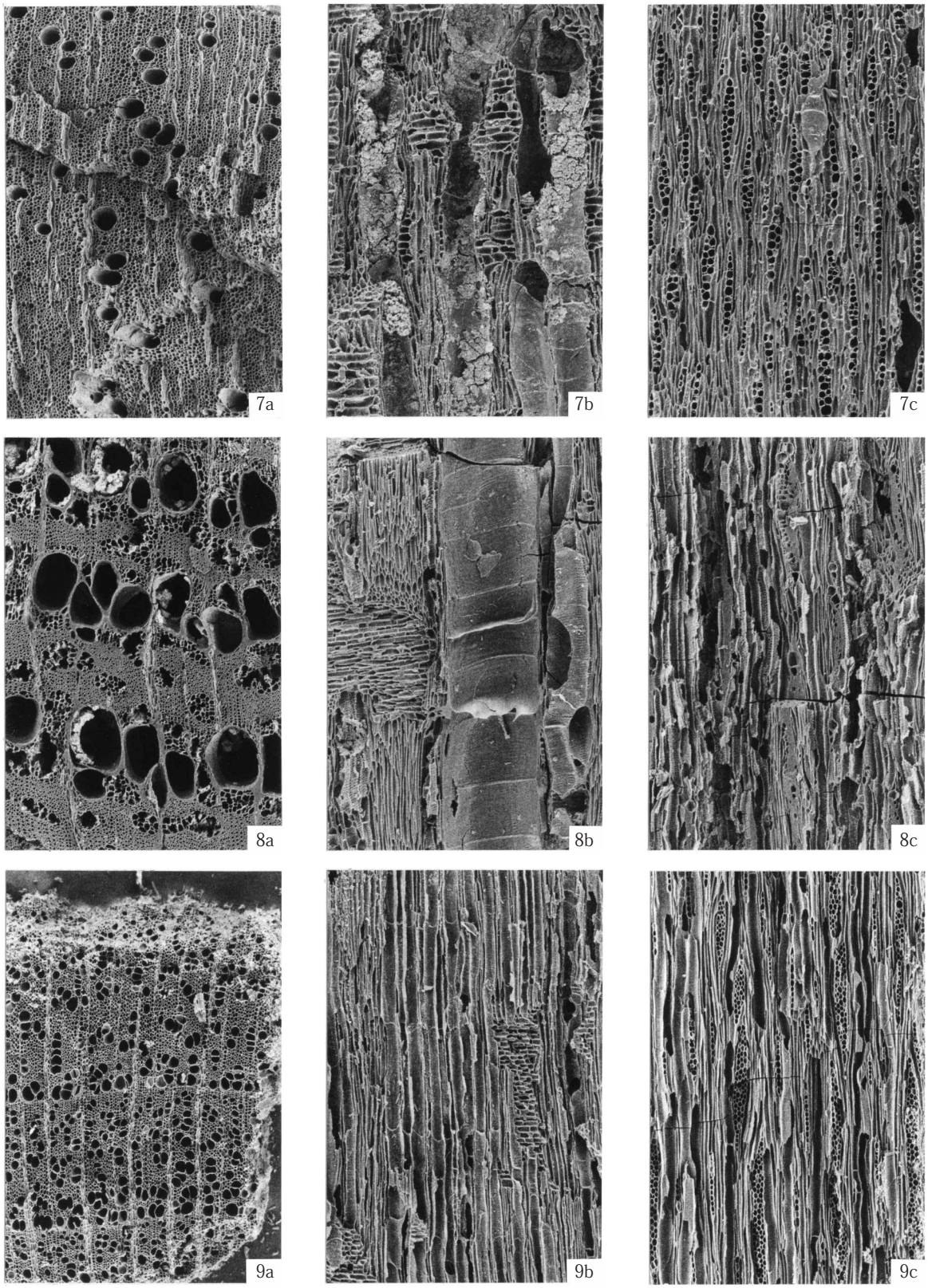
付編図版３　炭化材（２）



４．クマシデ属イヌシデ節（試料番号46）
５．ブナ属（試料番号34）
６．コナラ属コナラ亜属コナラ節（試料番号47）
　ａ：木口，ｂ：柾目，ｃ：板目

200μｍ：ａ
200μｍ：ｂ，ｃ

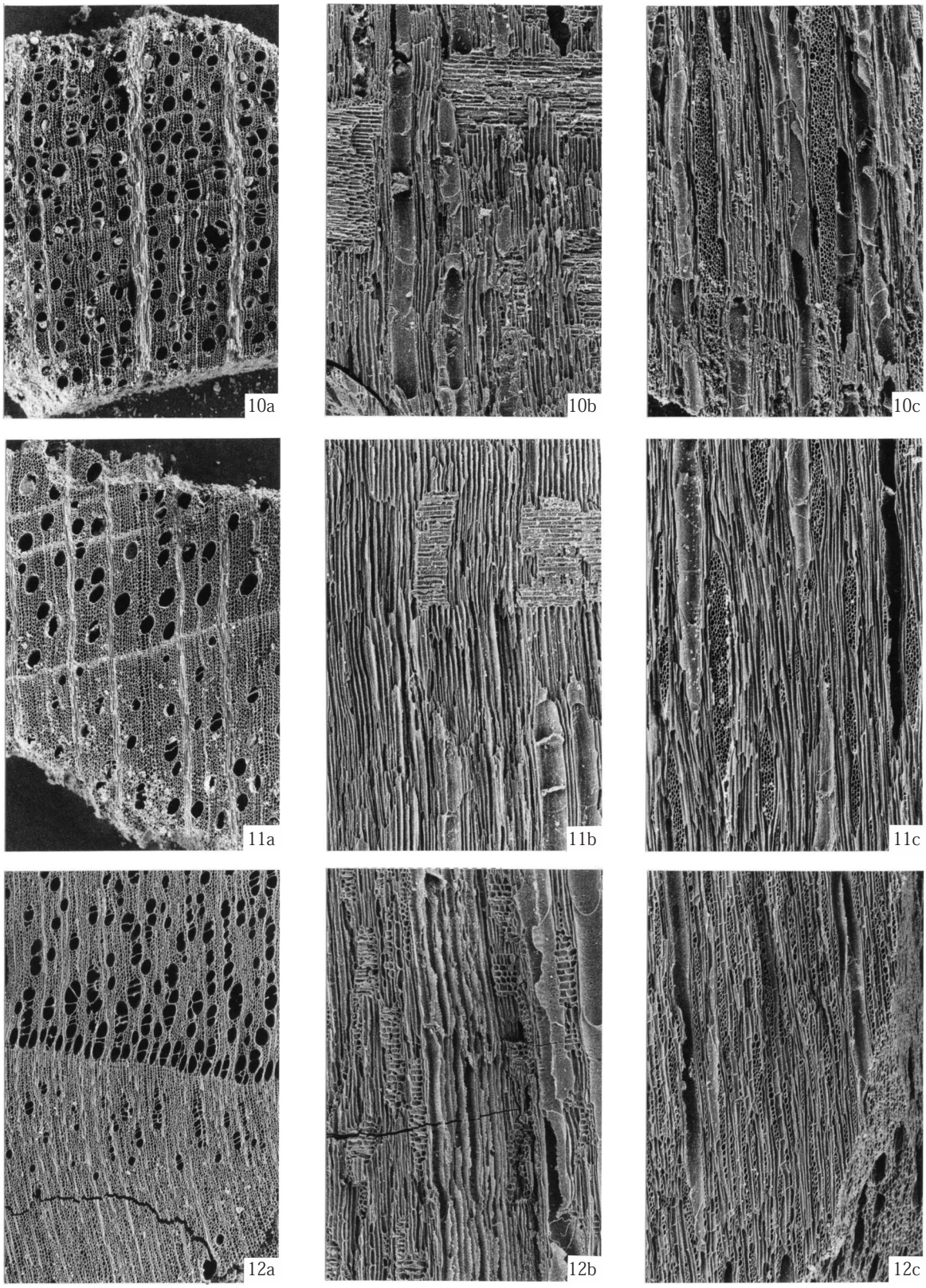
付編図版４　炭化材（３）



７．クリ（試料番号39）
８．ケヤキ（試料番号45）
９．サクラ属（試料番号40）
　ａ：木口，ｂ：柾目，ｃ：板目

200μｍ：ａ
200μｍ：ｂ，ｃ

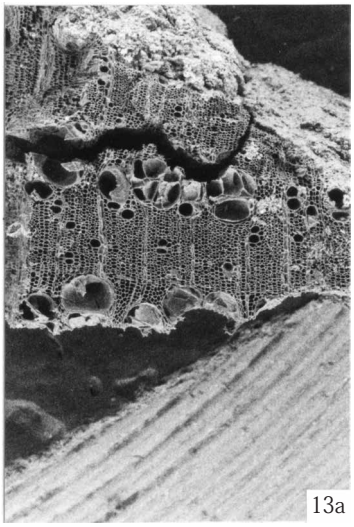
付編図版５　炭化材（４）



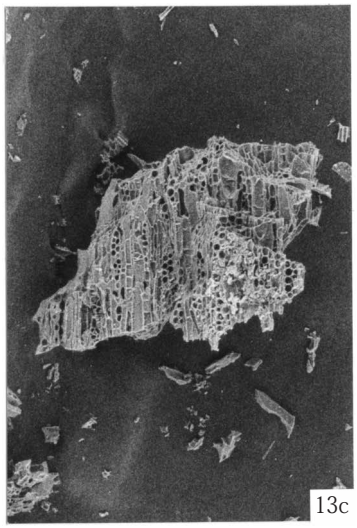
10. チドリノキ（試料番号37）
11. カエデ属（試料番号43）
12. エゴノキ属（試料番号48）
　ａ：木口，ｂ：柾目，ｃ：板目

200μｍ：ａ
200μｍ：ｂ，ｃ

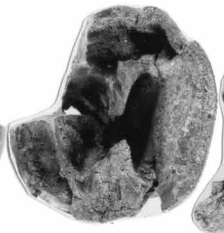
付編図版６　炭化材（５）・種実遺体

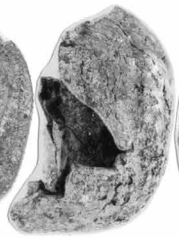

13a

13b

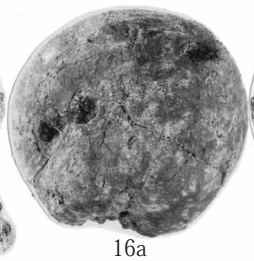

13c

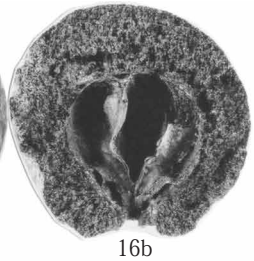
14a

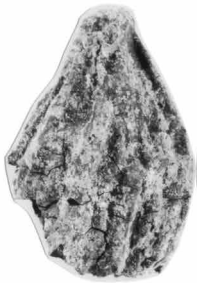

14b

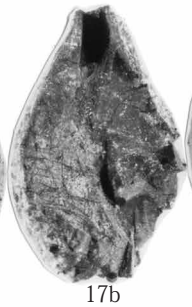

15a

15b

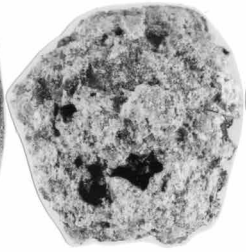

16a

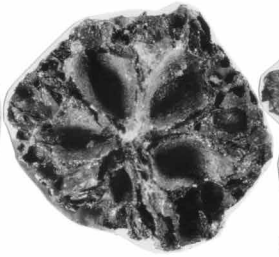

16b

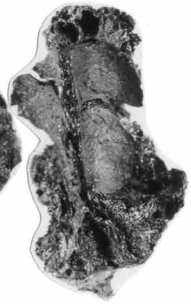

17a


17b

18

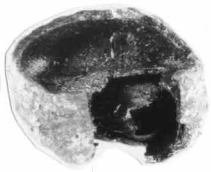

19a


19b


20

21

22a


22b

200μm (13a)　200μm (13b,c)

1cm (14－16)　5mm (17)　5mm (18－22)

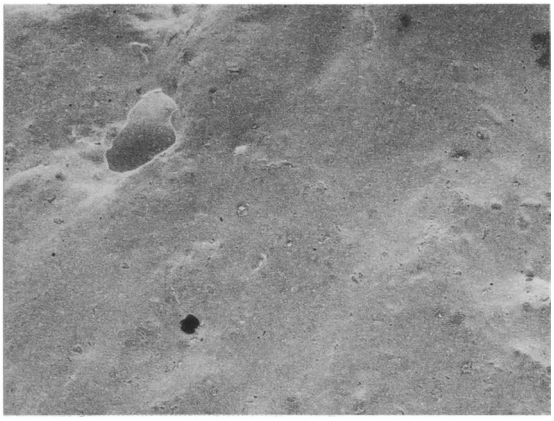
13. トネリコ属（試料番号56）　ａ：木口，ｂ：柾目，ｃ：板目
14. オニグルミ（試料番号１）
15. オニグルミ（試料番号２）
16. リンゴ属－ナシ属（果実）（試料番号11）
17. クリ（試料番号14）
18. リンゴ属－ナシ属（種子）（試料番号９）
19. キハダ（果実）（試料番号19）
20. キハダ（果実）（試料番号12）
21. キハダ（種子）（試料番号12）
22. ミズキ（試料番号15）

付編図版７　土器中の痕跡

1a.　試料番号67（マイクロスコープ６.７.８）

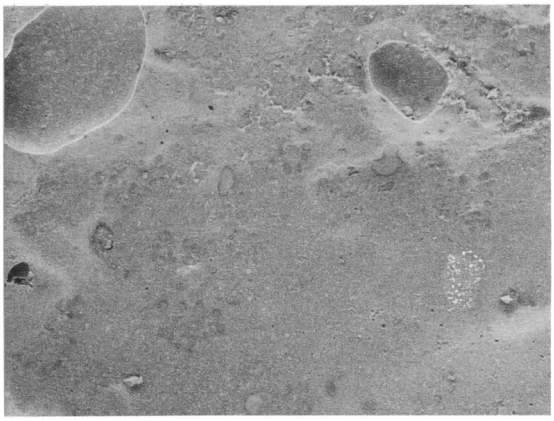
1b.　試料番号67（マイクロスコープ６.７.８）

2a.　試料番号68（マイクロスコープ１.２）



2b.　試料番号68（マイクロスコープ１.２）

3a.　試料番号67（マイクロスコープ３.４）

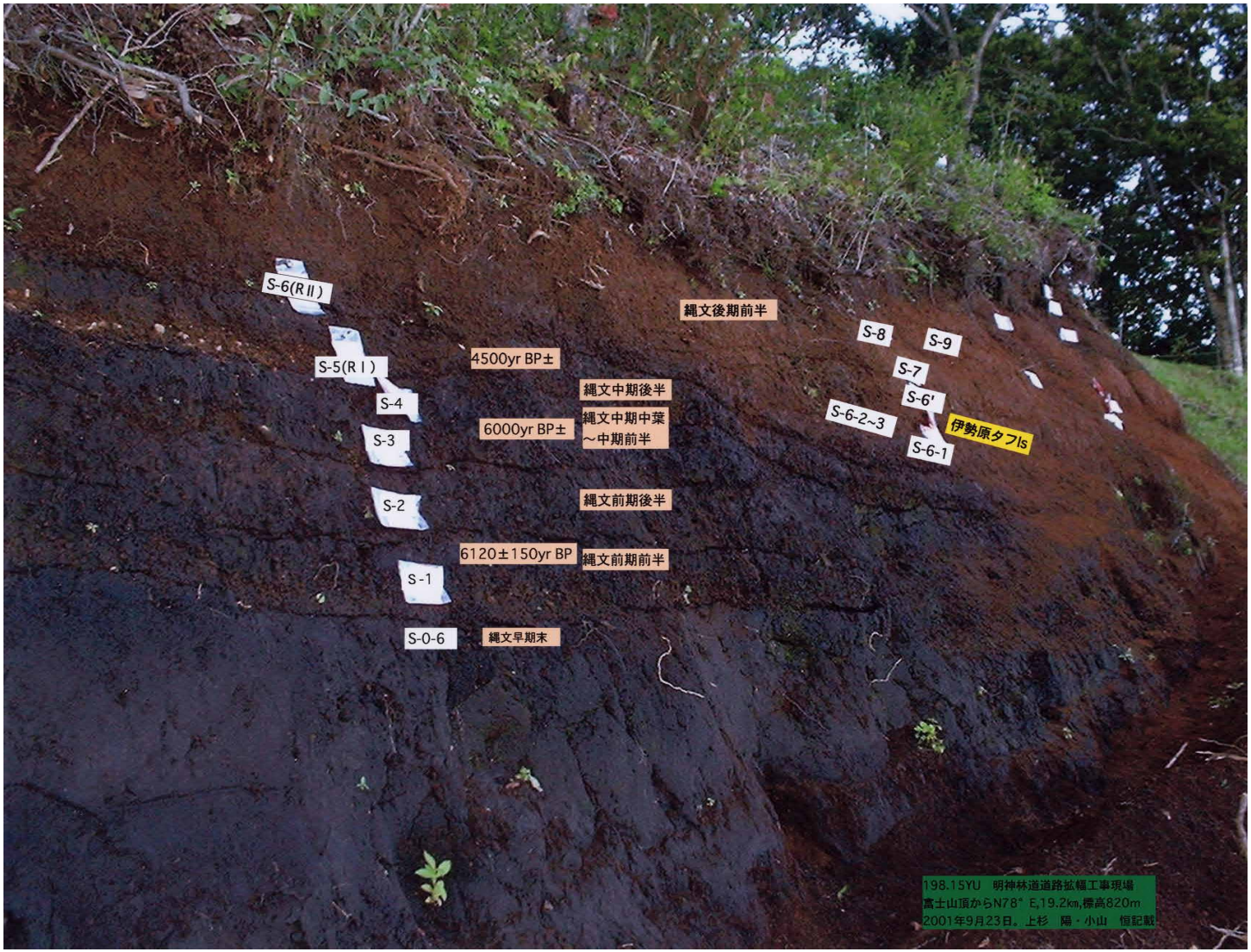


3b.　試料番号67（マイクロスコープ３.４）

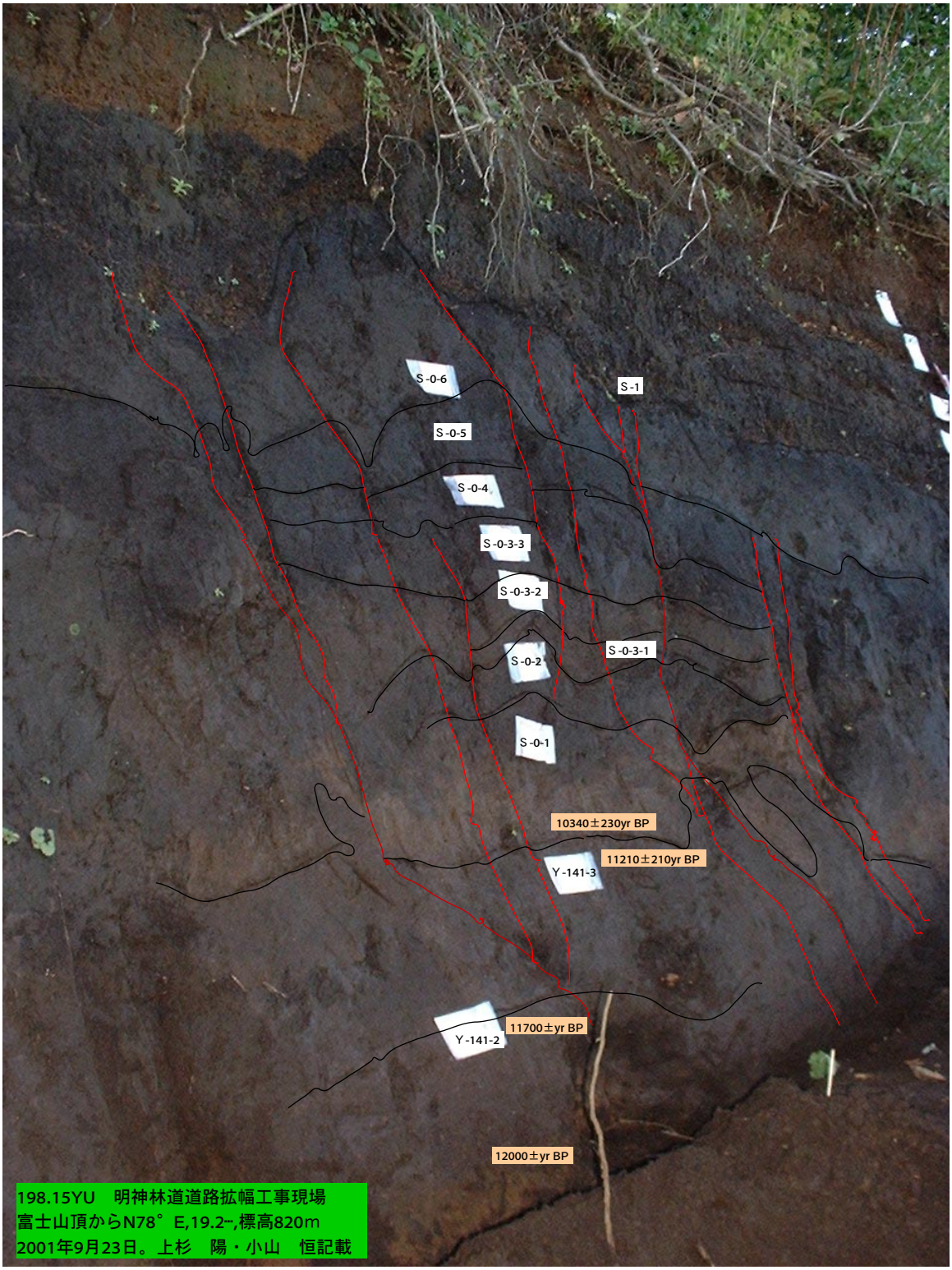
a：１mm

b：0.2mm

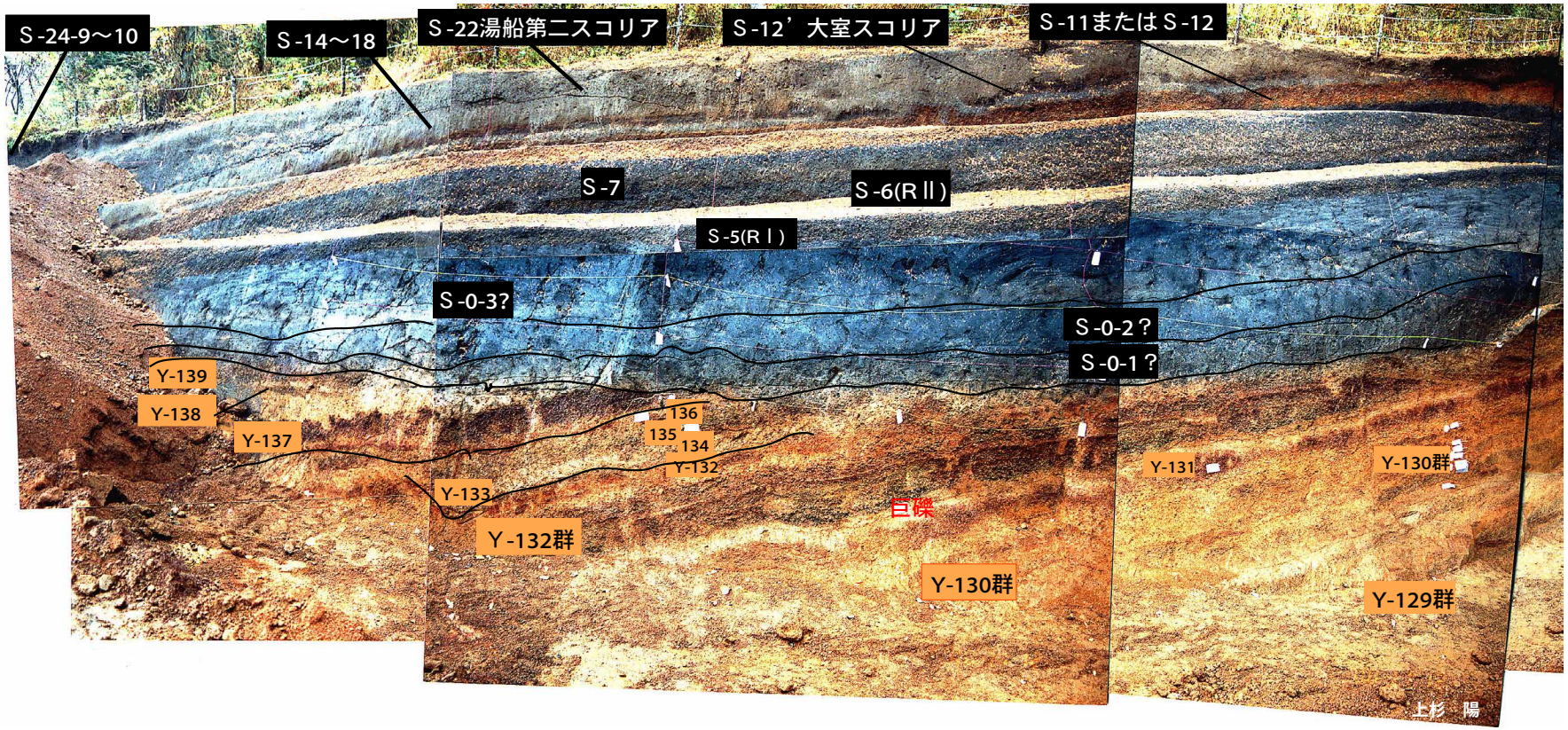
付編図版８　明神峠のテフラ断面（１）



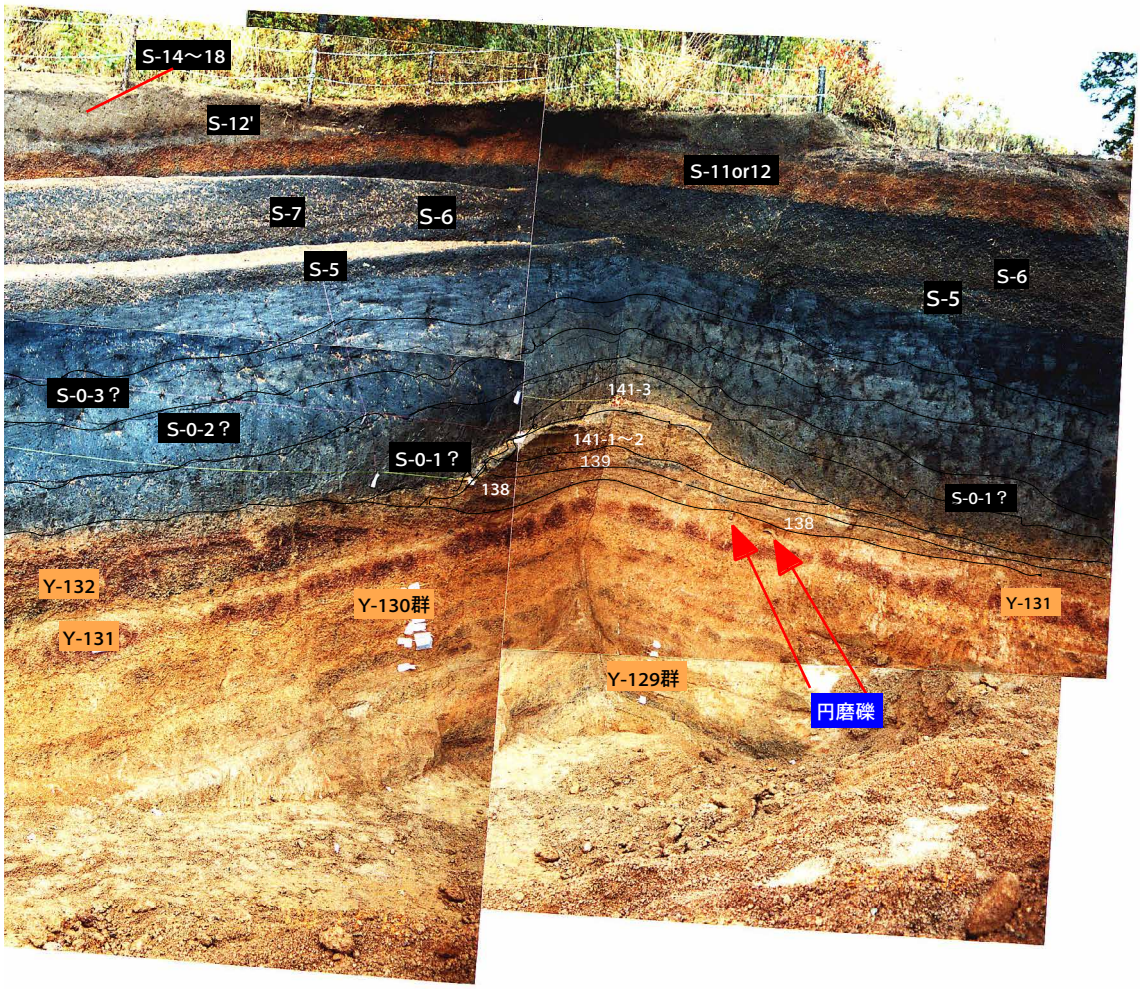
付編図版９　明神峠のテフラ断面(２)



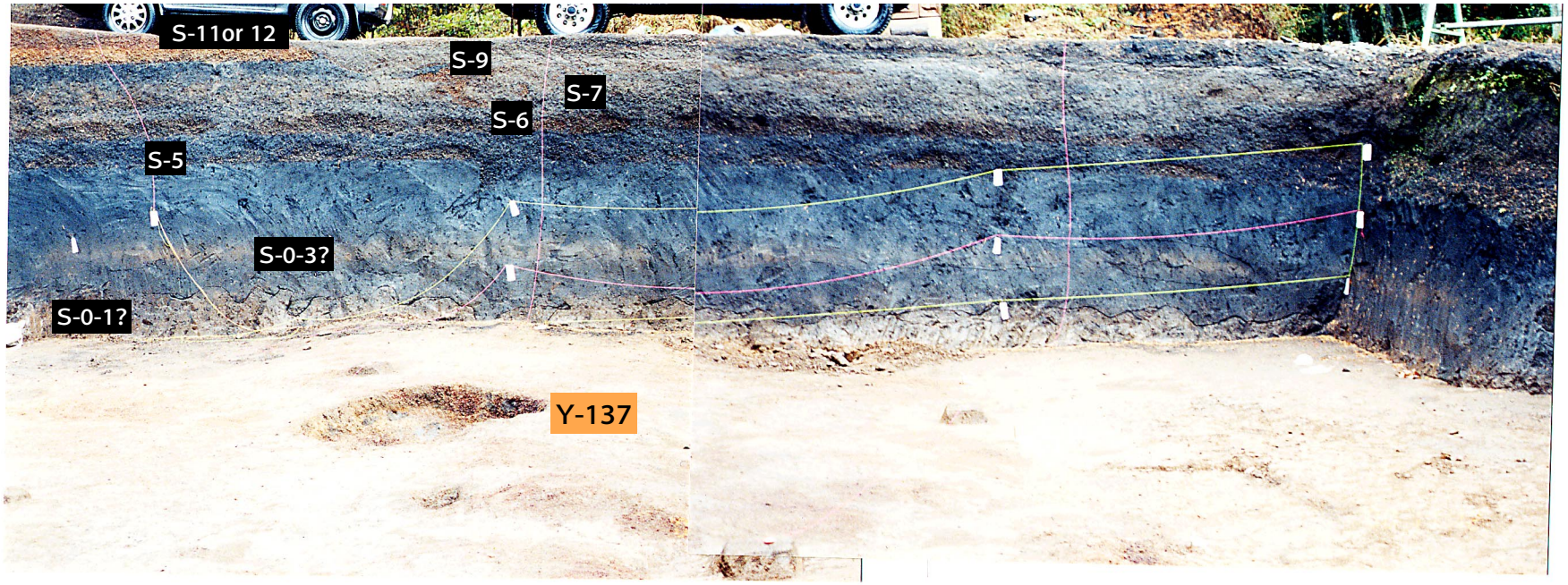
付編図版10　忍野笹見原遺跡1998年11月16日の西壁



付編図版11　忍野笹見原遺跡1999年11月12日の北西壁



付編図版12　忍野笹見原遺跡1999年11月12日の東壁



上杉　陽

報告書抄録

ふりがな	ささみはらいせきまいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書名	笹見原遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	田中悟道・天野智子・角張淳一・西本正憲・池谷勝典・三田村美彦・馬場伸一郎
編集機関	忍野村教育委員会
所在地	〒401-0592　山梨県南都留郡忍野村忍草1514
発行年月日	西暦2003年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ささみはら 笹見原	やまなしけんみなみつるぐん 山梨県南都留郡 おしのむらおおあざしぼくさ 忍野村大字忍草 1919番地２	13119	0013	35度 27分 24秒	138度 51分 ０秒	19970619 ～ 19991215	855.6m^2	道路（１市２村取り付け道路）建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
笹見原	集落	縄文時代早期	住居跡　２基 土坑　121基 焼土　８ 集石　５基	縄文土器・石器 土製品・石製品	縄文時代早期の住居、土坑等の検出
		平安時代	住居跡　４基	土師器・須恵器 古銭	平安時代の墨書土器「水神」の出土

笹見原遺跡発掘調査報告書

2003年３月31日発行

発　行　　忍野村教育委員会

ＣＤ製作　　有限会社アルケーリサーチ